財団法人　市原市文化財センター発掘調査報告書第87集

市原市片又木遺跡Ⅲ

2004

市　　原　　市
財団法人　市原市文化財センター

財団法人　市原市文化財センター発掘調査報告書第87集

市原市片又木遺跡Ⅲ

2004

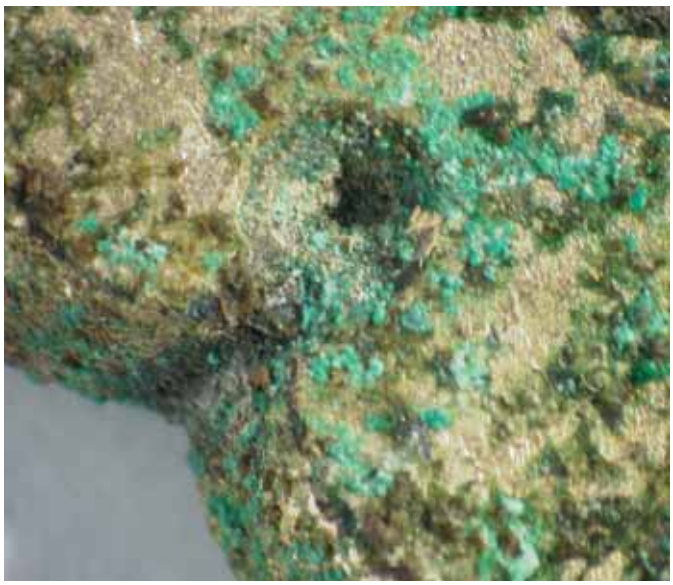
市　　原　　市
財団法人　市原市文化財センター



金銅製座金具No. 1　正面



No. 1　裏面



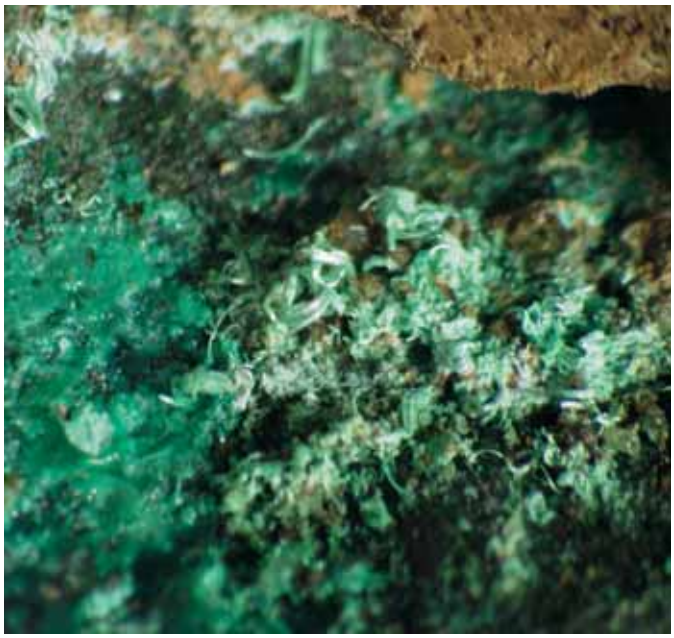
No. 1　正面　ポチタガネによる装飾



金銅製座金具No. 2　正面



No. 2　裏面



No. 2　裏面に付着した布状繊維の顕微鏡写真

序　　文

市原市は房総半島東京湾東岸の中央部に位置し、地勢的にも気候的にも恵まれ、永い歴史の足跡として文化財が数多く遺されております。また、近年においては、京葉工業地帯の一角として、また首都圏の一市として開発が急速化し、文化財保護との調和の必要性が高まっております。

ここに報告します片又木遺跡は、旧石器時代から中世にいたる複合遺跡であります。付近には上海上の首長墓群とされる姉崎古墳群や、平安後期の仏像を持つ不入斗薬王寺、南北朝期の石造宝篋印塔を遺す畑木医王寺、源頼朝の通過伝承がある道路などが知られ、古代から中世の雰囲気を今に伝える歴史的景勝地と言えましょう。

今回、市道改良事業にあたり、遺跡の一部が開発の対象となり、記録保存の措置がとられることとなりました。その結果、弥生時代終末期に方形周溝墓群が展開したこと、奈良・平安時代は小鍛冶工房が操業されたこと、平安末期になると大規模な土木工事を伴う建物が出現したこと、この建物は寺院関連施設の可能性があり、鎌倉幕府機構の整備に伴うように建物規模や遺物消費量が増大し、さらなる発展期を迎えたこと、などが明らかにされ、大きな成果を収めました。

本書は、この調査によって得られた貴重な成果をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財の保護と、一般市民の方々にも広く活用されることができれば、幸いと存じます。

本書の刊行にあたり、市原市土木部道路建設課、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会をはじめ、地元の方々にご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

財団法人　市原市文化財センター
理 事 長　藤 本 康 男

例　　言

1　本書は市道110号線建設工事に伴う片又木遺跡（不入斗遺跡群）の発掘調査報告書である。市原市の委託により、千葉県教育委員会、市原市教育委員会の指導のもと、財団法人市原市文化財センターが実施した。

2　発掘調査および整理作業の概要は、下記のとおりである（セ番号は財団法人市原市文化財センターの調査コード）。

所 在 地　市原市不入斗地先　　調査面積　7,420㎡

本 調 査　平成12年11月１日～平成12年12月19日　セ330　1,260㎡　　担当　北見一弘

平成12年12月18日～平成13年３月23日　セ332　2,510㎡

担当　北見一弘、小橋健司、櫻井敦史

平成13年７月８日～平成13年12月27日　セ345　3,650㎡　　担当　北見一弘

整理作業　平成14年７月８日～平成15年３月20日　　担当　北見一弘、櫻井敦史

平成15年４月18日～平成16年３月25日　　担当　櫻井敦史

3　本書は櫻井が編集し、第１・２・５章を執筆した。第4章は北見が執筆した。

4　第６章は、川鉄テクノリサーチ株式会社に業務委託したものである。

5　第３章は、国立歴史民俗博物館情報資料研究部永嶋正春氏のご好意により、執筆頂いた。また、第１章の旧石器および縄文土器群（９、13～15頁）の実測・図版作成、所見等は、安井健一氏の寄稿である。本書執筆にあたり、方形周溝墓と弥生～古墳前期の遺物群は小橋健司氏に、８～９世紀の土器群は高橋康男氏にご教示賜った。なお、発掘調査時に、泉台在住の秋山　肇氏から貴重な考古史料の寄贈を受けた。これらの方々のご協力に対し、深く謝意を表したい。

凡　　例

1　遺物実測図は１：３を基本とし、金属製品は１：２を基本とした。一部の重要遺物は１：１で掲載した。

2　実測図中のスクリーントーンの説明は、以下のとおりである。

遺構（平面図および断面図）

焼土

粘土・山砂

灰

炭

柱当り

遺物

灰釉

黒色

濃緑色滓

白色滓

含鉄

黒鉛化木炭

遺構図中の遺物ドット

● 土器類

■ 金属製品

▲ 石製品

○ 土製品

本　文　目　次

序文
例言・凡例
第１章　序　　説……2～4
第２章　調査成果……4～174
第３章　座金状金属製品の分析結果について ……175
第４章　金属器及び製鉄関連遺物出土遺構について……176～182
第５章　小　結……183～195
第６章　片又木遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査……196～209

挿　図　目　次

第１図　片又木遺跡位置図 ……1
第２図　遺跡周辺地形図・字切図 ……2
第３図　遺跡調査範囲・周辺地形図 ……5
第４図　A・B区遺構配置図……6
第５図　C区遺構配置図 ……7
第６図　D・E区遺構配置図……8
－旧石器時代－
第７図　旧石器時代遺物実測図 ……9
－縄文時代早期－
第８図　１～３号遺構実測図（土坑）……11
第９図　４～７号遺構（土坑・炉穴）・５・７・８号遺構出土遺物実測図……12
第10図　A区一括出土縄文土器実測図 ……13
第11図　B区一括出土縄文土器実測図 ……14
第12図　C～E区一括出土縄文土器実測図 ……15
－弥生時代後期－
第13図　９号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図……16
第14図　10号遺構（　〃　）・遺物実測図……17
第15図　11号遺構（　〃　）・遺物実測図……18
－弥生時代終末期～古墳時代前期－
第16図　12～14号遺構（　〃　）・遺物実測図……19
第17図　15号遺構（　〃　）・遺物実測図……20
第18図　16号遺構（方形周溝墓）実測図……21
第19図　16号遺構（　〃　）出土遺物実測図……22
第20図　17号遺構（　〃　）・遺物実測図……23
第21図　17号遺構（　〃　）出土遺物実測図……24

第22図　18号a・b・19号遺構（方形周溝墓）・18号a・b出土遺物実測図 ……25
第23図　19号遺構出土遺物・20号遺構（〃）・遺物実測図……26
第24図　21号a・b・57号遺構（　〃　）・遺物実測図 ……27
第25図　22号遺構（　〃　）・遺物実測図……28
第26図　23号遺構（　〃　）・遺物実測図……29
第27図　24号遺構（　〃　）・遺物実測図……30
第28図　25号遺構（　〃　）・遺物実測図……31
第29図　26号遺構（　〃　）・遺物実測図……32
－古墳時代後期－
第30図　27号遺構（竪穴建物跡）実測図……34
第31図　27号遺構出土遺物実測図……35
－奈良・平安時代－（９世紀小鍛冶工房跡含む）
第32図　28号遺構a・b（竪穴建物跡）・遺物実測図 ……36
第33図　29号遺構（　〃　）・遺物実測図……37
第34図　29号遺構出土遺物実測図……38
第35図　30号遺構（　〃　）・遺物実測図……39
第36図　31号遺構a（　〃　）・遺物実測図 ……41
第37～42図　31号遺構a出土遺物実測図 ……42～47
第43図　31号遺構b～d（　〃　）・a～d遺物実測図 ……48
第44図　31号遺構一括出土遺物実測図……50
第45図　32号遺構（　〃　）・遺物実測図……51
第46～48図　32号遺構出土遺物実測図……52～54
第49図　33号遺構（　〃　）・遺物実測図……56
第50～52図　33号遺構出土遺物実測図……57～59
第53図　31～33号遺構掘形・33号遺構出土遺物実測図……60
第54図　34号遺構（　〃　）・遺物実測図……61
第55図　34号遺構出土遺物実測図……62
第56図　35号遺構（掘立柱建物跡）・A炉・B炉（小鍛冶炉か）・遺物実測図 ……63
第57図　36号遺構（　〃　）・遺物実測図……64
第58図　37号遺構（　〃　）・A～D炉（小鍛冶炉か）・遺物実測図 ……65
第59・60図　37号遺構出土遺物実測図……66～67
第61図　38・39号遺構（　〃　）・遺物実測図……68
第62図　40号遺構（鍛冶炉か）・遺物実測図……69
第63図　41～44号遺構（掘立柱建物跡）・41号遺構出土遺物実測図……71
第64図　42～43号遺構出土遺物実測図……72
第65図　45号遺構（遺物溜まり）・遺物実測図……73
第66～70図　45号遺構出土遺物実測図……74～78

－古墳時代終末期－

第71図　46（方形周溝状遺構）・109号遺構（鎌倉時代土坑）・109号遺構出土遺物実測図……79
第72図　47～50号遺構（古墳時代終末期土壙・平安期土坑）・47・48号遺構出土遺物実測図……80

－性格不明遺構－

第73図　51・52号遺構（炉・平安期小鍛冶関連か）・51号遺構出土遺物実測図……81
第74図　51～56号遺構（平安期土坑）・54号遺構出土遺物実測図……81

－古代末～中・近世の溝状遺構－

第75図　57～61・63～67号遺構（溝状遺構）・58～60号遺構出土遺物実測図……82
第76図　62号遺構（中世前期道路跡）・遺物実測図……83・84
第77図　110号遺構（C区中世盛土地業直前の畝状遺構）……85

－平安末期～鎌倉後期の地業遺構・建物群－

第78図　C区中世遺構配置図 ……86
第79図　C区中世遺構配置図・ピット（今回建物を組めなかったもの）出土遺物実測図 ……87
第80図　C区中世ピット（今回建物を組めなかったもの）出土遺物実測図 ……88
第81図　73号遺構（C区切り土・盛土整地跡）実測図 ……89
第82図　73号遺構出土遺物実測図……90
第83図　73号遺構（C区切り土・盛土整地跡）断面図 ……91・92
第84図　73号遺構出土遺物実測図……93
第85図　75・76号遺構（C区掘立柱建物跡）・75号遺構出土遺物実測図 ……94
第86図　77号遺構a（　〃　）・b（付属土坑群）・77号遺構a出土遺物実測図 ……95
第87図　77号遺構b出土遺物実測図 ……96
第88図　78号遺構a（　〃　）・b（　〃　）・出土遺物実測図 ……97
第89図　79号遺構（　〃　）・遺物実測図……98
第90図　80号遺構（　〃　）・79・80号遺構出土遺物実測図……99
第91図　81号遺構（　〃　）・遺物実測図 ……100
第92図　81号遺構出土遺物・82号遺構（C区掘立柱建物跡）実測図 ……101
第93図　83～98号遺構（C区区画遺構群）実測図 ……103
第94図　88・99～102・111号遺（　〃　）実測図 ……104
第95図　93～96・83・87・88・99・102号遺構断面図・87・93・95号遺構出土遺物実測図……105
第96図　104～108号遺構（D区掘立柱建物跡等）・103・106～108号遺構出土遺物実測図 …107・108

－室町時代－

第97図　68号遺構（道路・区画溝）・ピット1出土遺物実測図 ……109・110
第98図　69号遺構（区画溝）・遺物実測図 ……111
第99図　70～72号遺構（　〃　）・71・72号遺構出土遺物実測図 ……112
第100図　A～C区一括出土遺物 ……114
第101～104図　C区一括出土遺物 ……115～118
第105図　C・E区一括出土遺物 ……119

表　目　次

表１　遺構一覧……120～121
表２　出土土器類一覧……121～160
表３　墨書・線刻土器一覧……161～167
表４　石製品一覧……167～168
表５　土製品一覧……168～170
表６　金属製品一覧……170～174
表７　製鉄関連遺物一覧（分析遺物）……174

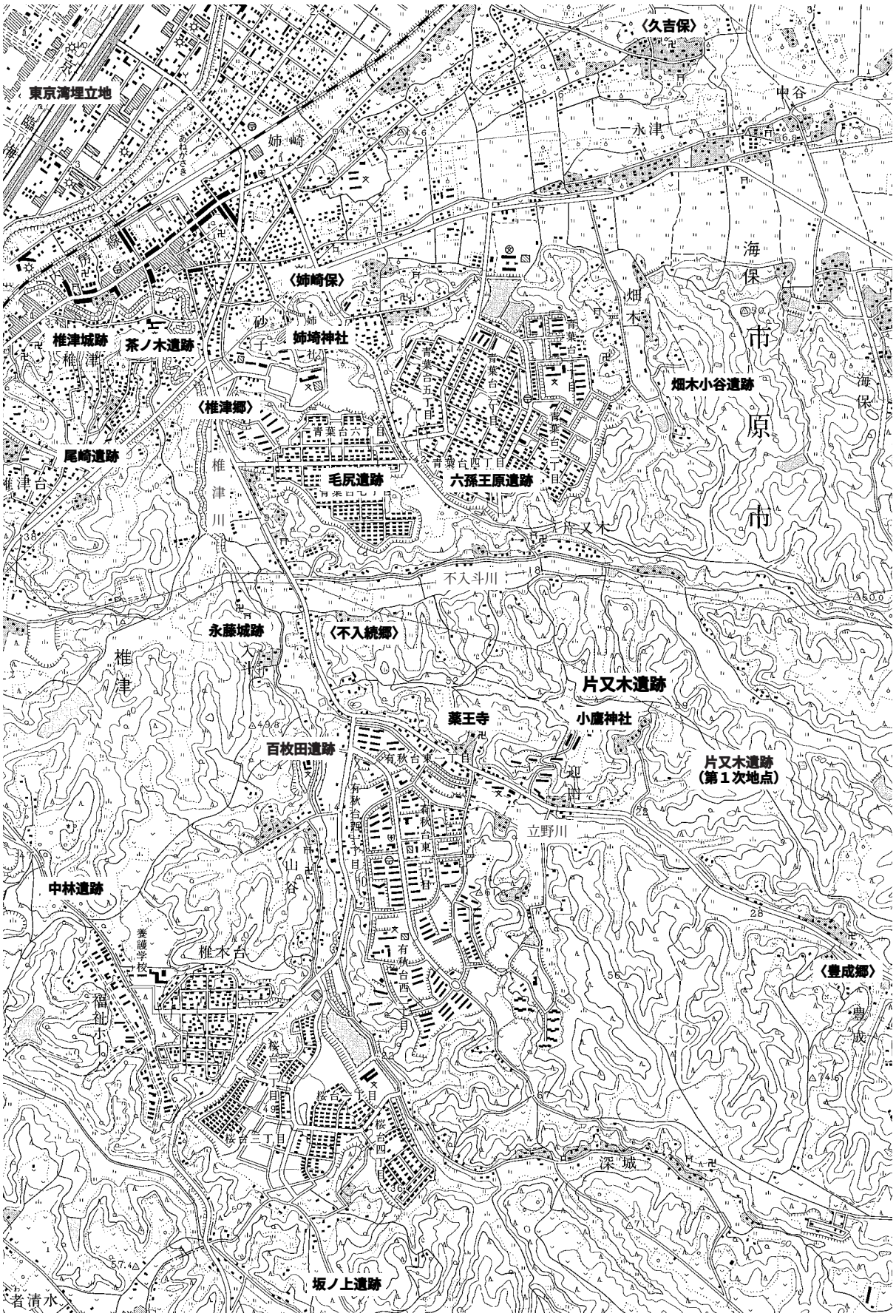
図　版　目　次

－遺構写真－

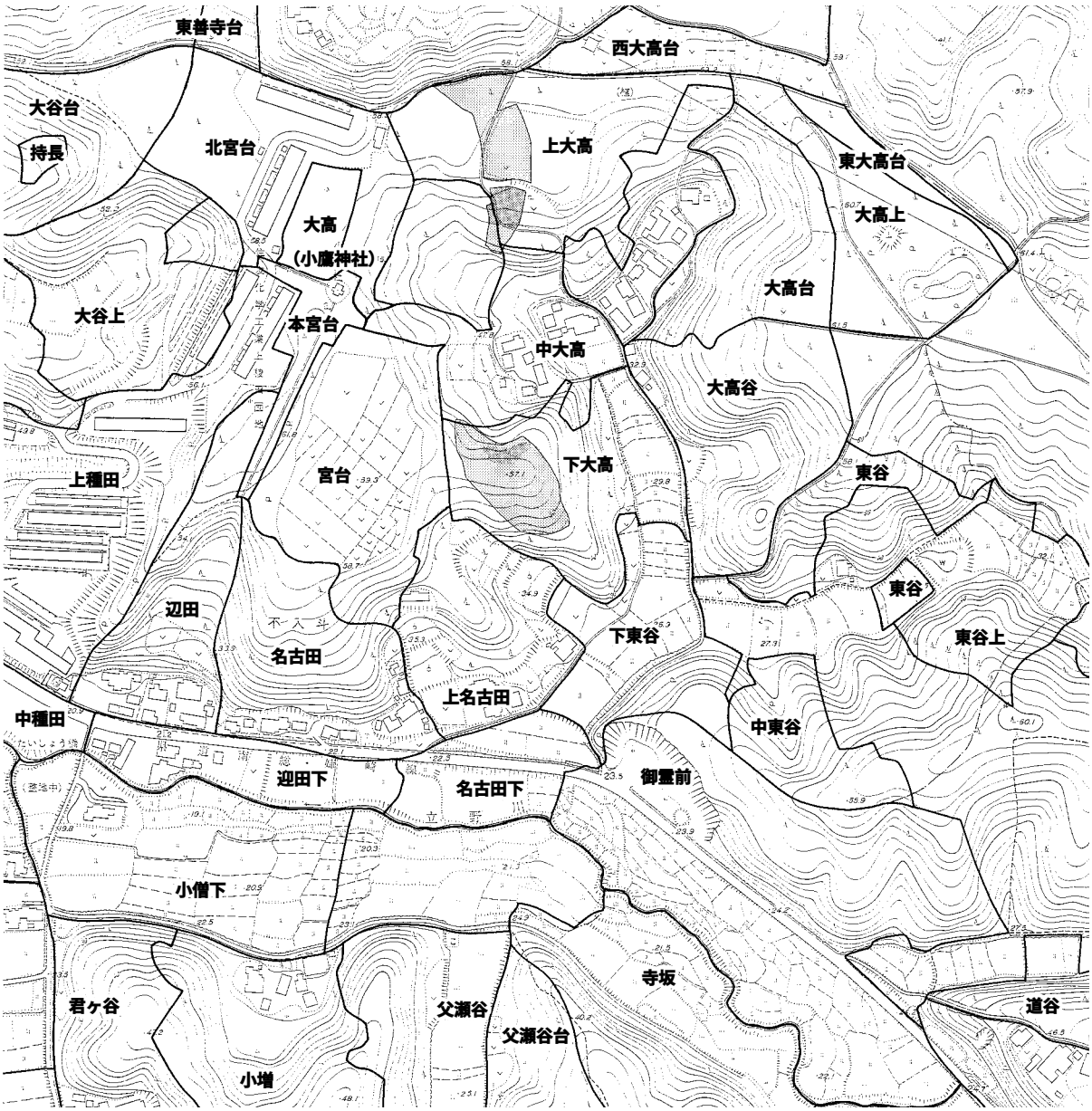
図版１　C区中世遺構群検出状況
図版２　１～９号遺構写真
図版３　11～13号遺構写真
図版４　14～17号遺構写真
図版５　17～24号遺構写真
図版６　24～27号遺構写真
図版７　27～29号遺構写真
図版８　29～31号遺構写真
図版９　31～33号遺構写真
図版10　33号遺構写真
図版11　33～35号遺構写真
図版12　37～41号遺構写真
図版13　43～48号遺構写真
図版14　50～68号遺構写真
図版15　68～110号遺構写真
図版16　C区中世遺構群写真
図版17　D区中世遺構群写真

－遺物写真－

図版18　５～15号遺構出土遺物写真
図版19　16～30号遺構出土遺物写真
図版20　17～31号遺構a出土遺物写真
図版21・22　31号遺構a出土遺物写真
図版23　31号a～32号遺構出土遺物写真
図版24　32号遺構出土遺物写真
図版25　32～33号遺構出土遺物写真
図版26　33～37号遺構出土遺物写真
図版27　37～45号遺構出土遺物写真
図版28・29　45号遺構出土遺物写真
図版30　54～73号遺構出土遺物写真
図版31　75～78号遺構出土遺物写真
図版32　78～87号遺構出土遺物写真
図版33　87～109号遺構出土遺物・寄贈品・
　　鉈尾・座金写真
図版34　石製品・金属製品写真
図版35　金属製品写真
図版36　土製品写真
図版37～40　製鉄関連遺物の金属学的調査写真



第１図　片又木遺跡位置図（1：25,000）※〈 〉内は中世前期～室町期の文献に見える地名



第２図　遺跡周辺地形図・字切図（1：5,000）※トーン部：調査範囲。濃い部分が中世整地検出面

第１章　序　　説

１　遺跡の立地と歴史的環境

片又木遺跡は、養老川下流域左岸、標高約56mの洪積台地上に立地する。この地域は、姉崎の広大な海岸平野と、南北方向に流れる椎津川の沖積地に臨む、上総丘陵の終末点である。この丘陵群は、椎津川の支流、不入斗川・立野川により、比較的大きな谷に奥深く浸食され、東西方向に三分割されている。最北の台地は通称「姉崎台地」と呼ばれ、上海上の首長墓群とされる姉崎古墳群が展開する。台地先端から東京湾を臨む姉埼神社は、古墳群との関連が指摘され著名であり、中世にも発展する。

二本目の台地は不入斗川・立野川に挟まれ、比較的急峻な山稜が懐深く続く。本遺跡はこの山稜上の、最も平坦面積が広い地点に位置する。遺跡はすでに二次にわたる発掘調査が実施され、縄文早期

の土坑群に始まり、古墳時代前期と奈良・平安時代の竪穴建物群などが検出されている。特に今回の調査区から約600m南東に位置する1次調査C区では、平安期の竪穴建物跡から鉄滓類が検出され、奈良・平安期における鍛冶集団の集落と位置づけられている(1)。同様の遺構・遺物の密度は今回の調査区の方が圧倒的に多いが、広範な範囲で小鍛冶業が営まれていたことになる。

平安末から鎌倉時代後期においては、今回の調査で寺院跡と推定される大規模遺構群が検出されたが、時期が時期だけに、直接関連する文献史料は皆無である。

ただし伝承は幾つか確認できる。調査区に近接する小鷹神社(祭神日本武尊)は、この一帯を開発した「鈴木太良大夫」が守護神として奉祀し、自ら祭主を務めたとされる(2)。寿永3年(1182)には改めて現在地に鎮祀し、村の鎮守産土神となったと云われている(2)。また、遺跡の南側に臨む立野川筋の道沿いには、源頼朝の通過伝承(3)があり、鎌倉街道推定ルート(4)に接続する。比較的整備されたルートとして、今回検出された大規模建物群と国衙を繋いでいた可能性が高い。さらにこの道沿い、遺跡から約500m西に位置する薬王寺(5)には、平安時代後期の木造薬師如来坐像(写真)があり、市の文化財に指定されている(6)。本遺跡の中世建物群(寺院推定)と時期的に近い仏像の存在は特筆に値しよう。さらにこの仏像は、遺跡に接した「大高谷」から移動したと伝えられている(6)。出土遺構群が出現した治承・寿永期の伝承が多いことは、大変興味深い。

字名としては中世遺構群と直接関わるものを確認することはできないが(第2図参照)、かえって遺跡が中世前期で終了することを裏付けよう。調査区西側の「本宮台・宮台」は小鷹神社に関連するものだが、興味深いのは「大高」字名で、小鷹神社の「小鷹」に通じるものである。立野川沖積平地から樹枝状に入り込んだ谷の頭部「中大高」を取り巻くように分布し、中世遺構群の分布域と整合する。“祭主を務めた開発者”に祀られたと云う小鷹神社の伝承、薬王寺仏像の移動伝承などを併せ考えると、この谷頭部を特別視する風習が垣間見えるようである。


薬王寺の木造薬師如来坐像(7)

本遺跡を含む椎津川流域一帯は、中世後期の「不入続郷」・「豊成郷」・「椎津郷」の比定地である。今回検出された中世遺構群に直接関連する開発地は、まさに遺構群を最奥とし、立野川が椎津川に合流する沖積地一帯に展開したものと思われ、「不入続郷」に含まれる可能性が高い。ちなみに北側に隣接する「椎津郷」は、建武2年(1335)の文献史料(8)が初見である。椎津郷については、その苗字から椎津氏の根本私領と考えてよいと思う。椎津氏は中世後期の史料に散見される有力国人領主で、関東足利氏の伝統的被官として活動している。一方、「不入続郷」・「豊成郷」の地頭領主は明かでない。

鎌倉覚園寺に伝わった応永期の年未詳「馬野郡惣勘文」(9)は、馬野郡内の公田数を書き上げたもので、「不入続郷」および西方に接する「豊成郷」の記載がある。注目すべきは末尾の割注で、「此外不入続郷云椎津知行云々、彼文書ニ文永十二正応年中カ年□御下知富［益不入］続両郷云計、」と見えるので、遺跡一帯の中世的郷村成立期は、少なくとも鎌倉時代後半の文永期以前に遡ると言えよう。

史料の「不入続郷云椎津知行云々」から、椎津氏が「不入続郷」の領主とされているが(10)、根拠と

して明確なものではない。ここで言う「椎津」は領主を指すとは限らず、「不入続郷と椎津に対する知行」と解釈する余地もあるからである。以下、この点について述べてみたい。

ここで問題にする「知行」は「文永十二正応年中カ年□御下知」によるものである。同じく覚園寺に伝来した「馬野郡郡本富益両郷公田数覚書」(11)には、郡本・富益郷の公田役に対し、「文永十二年之由不審在之、右役正応年中安堵」とある。これらの事項から、①文永12年に遺跡周辺を含めた馬野郡一帯で「不審」な事態があり、国役を含めた上級領主の得分権侵害に発展したこと、②この事態は正応年中の「安堵」により解決されたこと、の2点を指摘できる。つまり前者史料の「御下知」とは、正応年中(1288～1293)に発給された関東下知状の存在と、その内容を示すものと捉えられ、「不入続郷」の領知権を幕府から安堵された勢力の存在を暗示する。安堵の内容は国役の公使に関連した広域かつ得分的なもので、上級領主、具体的には史料の伝来した覚園寺が該当するものと考えられる。文永12年の「不審」とは、いかなる事態であったのだろうか。在地領主による横領か、あるいは宝治合戦以降、上総氏－上総千葉氏による伝統的支配に替わり入部した足利氏の守護権力によるものなのか、判然としないが、時期的には本遺跡中世遺構群の終末期と合致するものであり、遺跡の終焉に直接関連する可能性がある。

第２章　調査成果

１　遺跡の概要

調査区は南北に細長い形状で、東西に伸びる台地頂部から谷を超え、南向かいの台地まで続く。北側台地頂部をA・B区、南斜面部をC区、谷向かいの台地斜面をD区、頂部から南側斜面をE区に区分けした。C区は中世前期の大規模整地が現在も谷を取り巻くように生きており、畑地として利用されている。遺物も地表面には全く散布せず、確認調査が入るまで、近世以降の削平地帯と認識されていた。立地が立地なだけに、周知の遺跡範囲からも外れており、調査も急ピッチでの進捗を迫られたため、ここに展開する中世前期建物群と下層の古代工房跡については、緻密な調査をなし得なかった。向かい側に臨むE区の台地は細い尾根筋状で、平坦部が極めて狭く、南北両面は急勾配を呈するので、遺構分布・密度も地形的制約を受けている。以下、検出遺構の概略を述べたい。

旧石器時代の遺物は1点のみで、C区切り土整地の崖付近で表土採集されたものである。

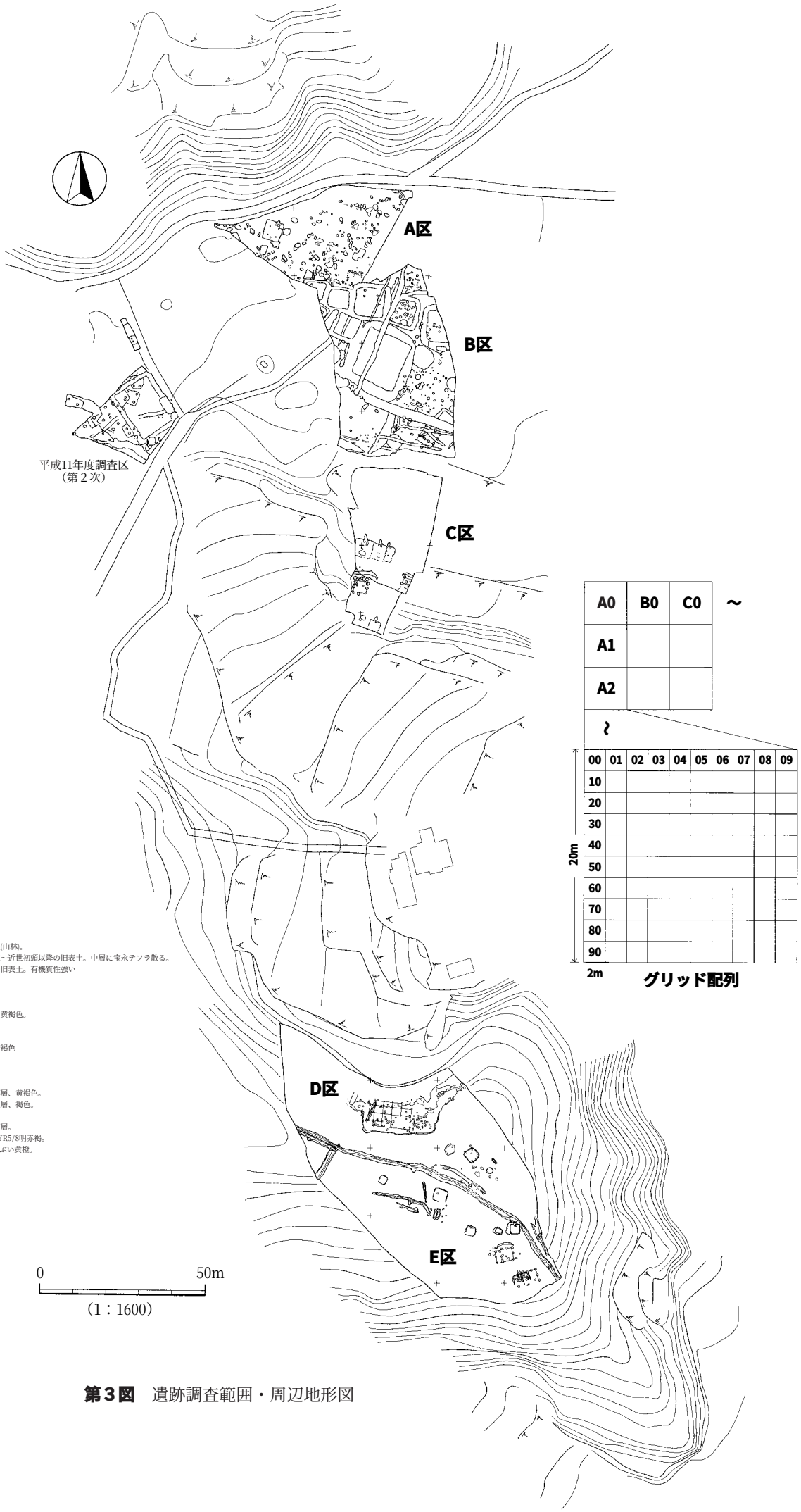
縄文時代早期はA・B区に遺構7基が確認されたに止まる。また、A区を中心に早期の遺物包含層が認められた。

弥生時代後期後半はB区に竪穴建物が3軒構築されたが続かず、古墳時代前期にかけて方形周溝墓12基が構築される。この時期の住居跡は、向かい側台地のE区で散見できる。

古墳時代中期から後期にかけてはA区に竪穴建物が2軒構築されたのみだが、終末期になると、E区において方形周溝状遺構・土壙墓からなる墓域が営まれている。

奈良時代はE区に竪穴建物3軒が建てられ、平安時代になると掘立柱建物に置き換えられている。小鍛冶業に関わった可能性があるが、明確ではない。

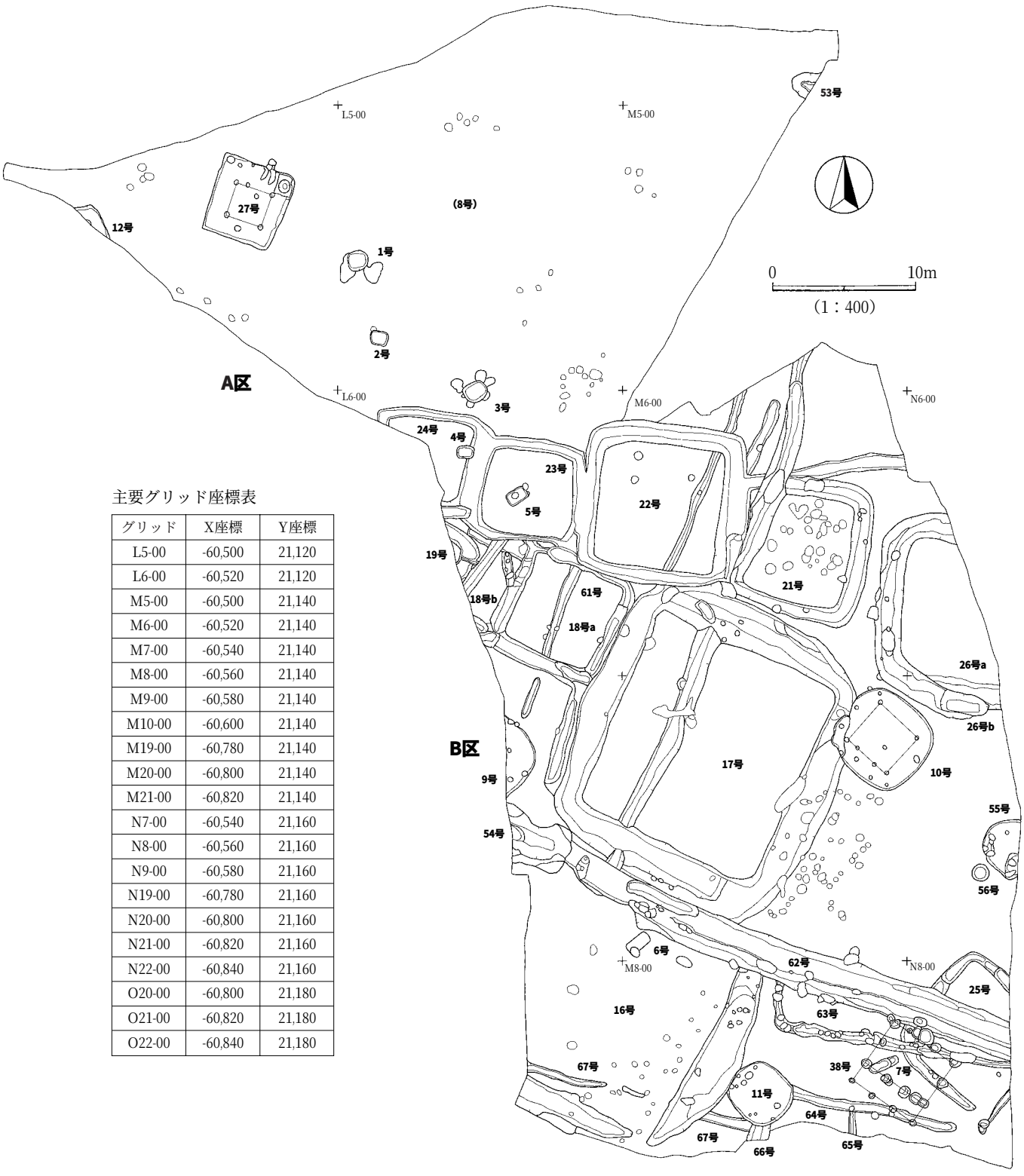
平安時代の中心遺構群はC区で、緩斜面に竪穴建物9軒・掘立柱建物5棟が構築されている。掘立柱建物跡には鍛冶炉を伴うものがあり、鉄滓や鉄製品も出土したことから、小鍛冶を含めた生産遺跡であることが伺える。また、「天」銘線刻・墨書土器が多量に検出されている。



基本層序

Ⅰa 暗褐色土。現表土(山林)。
Ⅰb 暗褐色土。中世末～近世初頭以降の旧表土。中層に宝永テフラ散る。
Ⅱa 黒褐色土。古代の旧表土。有機質性強い
Ⅱc 極暗褐色土。
Ⅱd ローム漸移層
Ⅲ ソフトローム層
Ⅳ ハードローム層、黄褐色。
Ⅴ 第一黒色帯
Ⅵ 黄褐色ローム層
Ⅵ`Ⅶ漸移層、淡い暗褐色
Ⅶa 第二黒色帯上部。
Ⅶb 間層帯。褐色。
Ⅶc 第二黒色帯下部。
Ⅷ 立川ローム最下部層、黄褐色。
Ⅸ 武蔵野ローム最上層、褐色。
Tp 東京パミス
Ⅹ 武蔵野ローム最下層。
Op 小原台パミス、5YR5/8明赤褐。
常総粘土 10YR7/2にぶい黄橙。

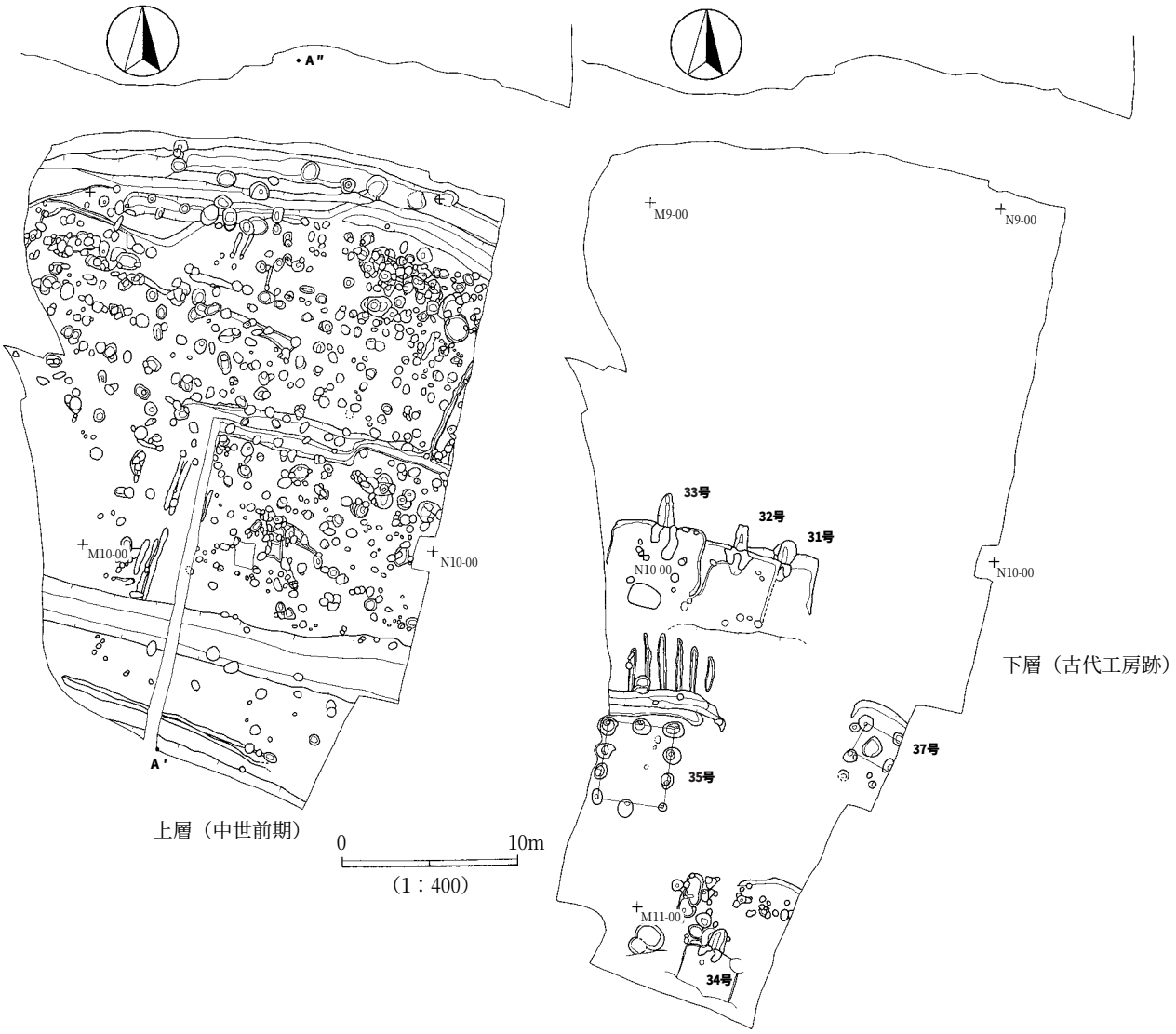
第３図 遺跡調査範囲・周辺地形図



主要グリッド座標表

グリッド	X座標	Y座標
L5-00	-60,500	21,120
L6-00	-60,520	21,120
M5-00	-60,500	21,140
M6-00	-60,520	21,140
M7-00	-60,540	21,140
M8-00	-60,560	21,140
M9-00	-60,580	21,140
M10-00	-60,600	21,140
M19-00	-60,780	21,140
M20-00	-60,800	21,140
M21-00	-60,820	21,140
N7-00	-60,540	21,160
N8-00	-60,560	21,160
N9-00	-60,580	21,160
N19-00	-60,780	21,160
N20-00	-60,800	21,160
N21-00	-60,820	21,160
N22-00	-60,840	21,160
O20-00	-60,800	21,180
O21-00	-60,820	21,180
O22-00	-60,840	21,180

第４図　A・B区遺構配置図



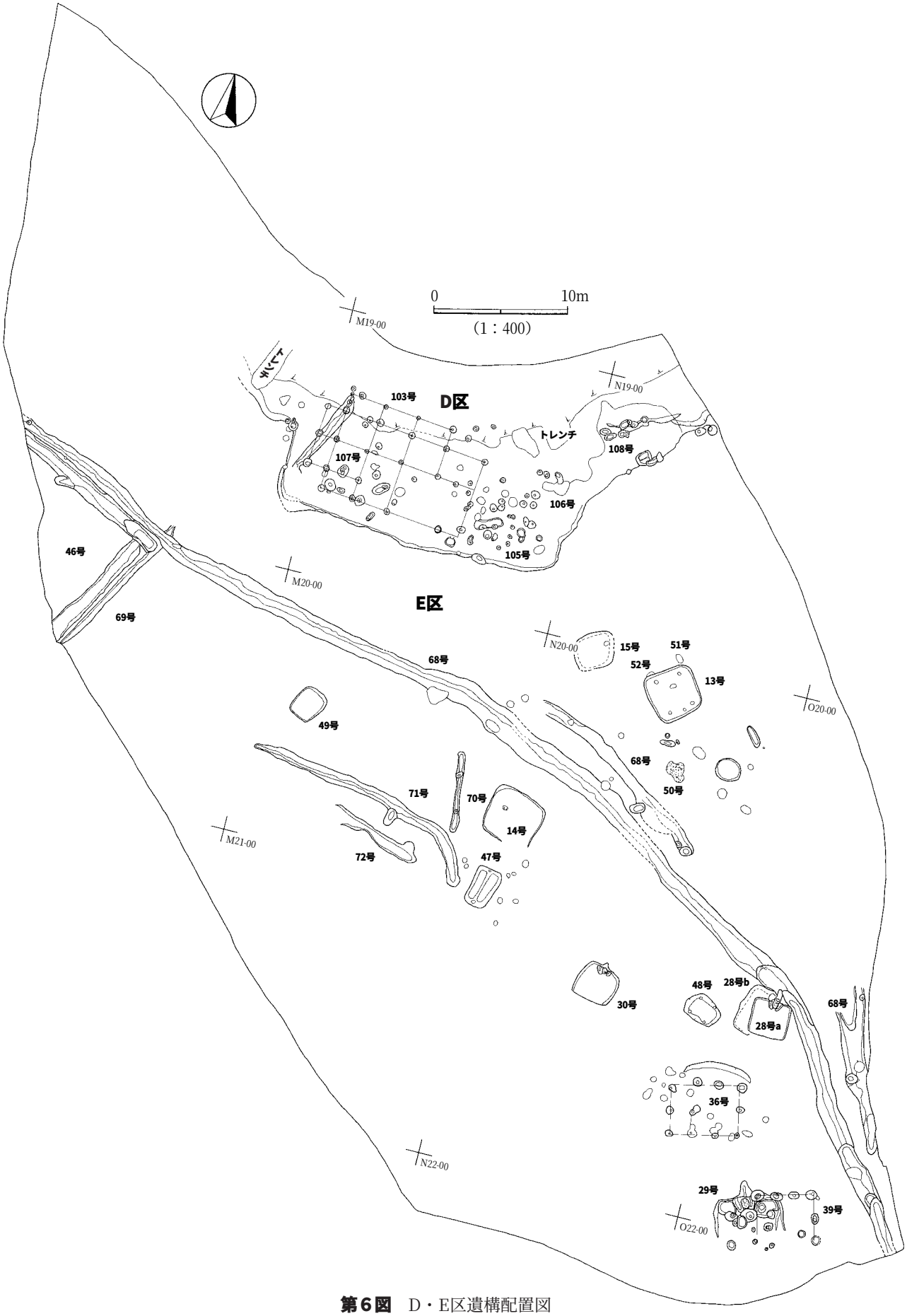
第5図　C区遺構配置図

平安末期から鎌倉時代にかけては、C区斜面を大規模に切り土し、さらに排土を盛土した大規模平坦面を造成、掘立柱建物を構築している。地業層観察でⅠからⅢ期にわたる時期区分を試みた。建物跡を確認したのはⅡ期以降で、Ⅱ期は土間併存の建物、Ⅲ期は総柱建物が展開する。Ⅱ期とⅢ期の間に治承・寿永の内乱期を想定し、画期を設けた。Ⅲ期は谷向かいのD区にも掘立柱建物1棟が建造されており、谷を取り巻く分布状況を暗示する。これらの中世遺構群は13世紀後葉には消滅したものと思われ、遺跡全体が山林・畑地として現在に至っている。

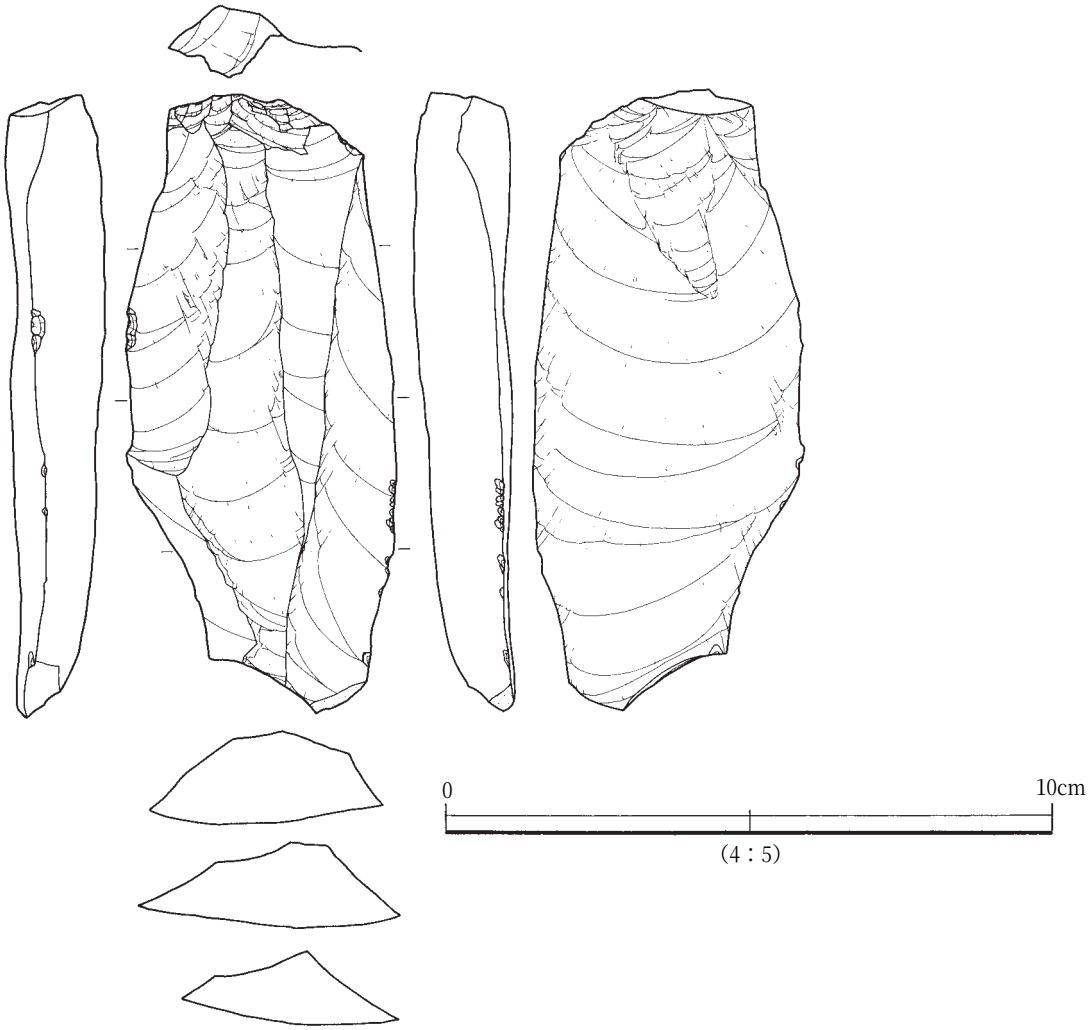


C区の中世盛土地業層。作業員の立面が地業前の旧表土層

なお、紙幅の都合上、出土遺物の観察記載は最小限に止めたので、詳細は観察表を参照頂きたい。



第６図　D・E区遺構配置図



第7図　C区一括旧石器時代遺物実測図

2　旧石器時代

片又木遺跡からは縦長剥片の石器が１点出土した。上層遺構中の出土であり、共伴する石器群が不明なため帰属層位の判断は難しいが、石器の特徴から推定したい。

上部から下部までほぼ等幅であり、背面にほぼ平行な稜線が３条観察されることから、器種は石刃と認定される。上端に平坦な打面を持つが、下端は自然面および節理面であることから、上端に設定された打面からのみ剥片剥離が行われたことを示している。背面に残された剥離痕が全て上端からの加撃であることも、そのことを裏付けている。石材はオリーブ灰を呈する凝灰岩である。

類例を近隣の遺跡に求めると、南側約２kmのヤジ山遺跡(24)の第１文化層からは、Ⅸ層下部を中心とするブロックが２カ所検出されている。黒曜石を素材とした石器製作跡で、流紋岩や珪質凝灰岩による石刃状の縦長剥片が共伴する。これらの縦長剥片の形状や技法の特徴などは、当遺跡出土の石器と共通点が認められる。二次加工や折断の有無などの違いはあるが、それらは主として製作行程の段階の違いによるものであると推定される。以上の点から、この石器の帰属層位はⅨ層下部の可能性が強いと判断される。下総台地北部においても、平坦な単設打面からの石刃剥離が行われるようになるのはⅨ層であることが確認されており、こうした状況から照らし合わせても、おおむね妥当なものであると考えられる。

3　縄文時代

(1)　土坑(1～6号遺構)

出土遺物はほとんどないが、若干量の撚糸文系土器が認められたので、早期の土坑と判断した。1～5号遺構は陥し穴状の土坑だが、用途は不明。覆土は自然埋没層で、基本的に有機質性が強く、長期にわたり遺構空間が開口していたことを思わせる。ただし多量のローム粒を含む流入層から、遺構造成時の排土が周囲に存在していたものと考えられるため、遺構を隠蔽するべき陥し穴とは考えがたい。なお、焼土層や炭化物層が底面付近から検出される遺構もあり、焚き火をした痕跡と思われる。

1号遺構(A区)　遺構掘込み時に周囲に排土を置いたものと思われ、ロームブロック主体層が中位に比較的まとまって見られることから、土盛りが長期間継続された上で流入したものと解釈できる。

2号遺構(A区)　遺構掘込み時に周囲に排土を置いたものと思われ、褐色土主体層が中位に比較的まとまって見られることから、土盛りが長期間継続(放置)された上で流入したものと解釈できる。底面に長径34cm、短径26cm規模の薄い炭化層が検出された。

3号遺構(A区)　周囲に浅い土坑群を伴うが、土坑群の方が新しい傾向がある。

4号遺構(A・B区境)　底面付近から長径14cm、短径12cm規模の薄い炭化物層が検出された。

5号遺構(A・B区境)　中央に長径46cm、短径40cmのピットを有するが、底面からの深度が8cmと浅く、逆茂木などの敷設痕とは考えがたい。

1は撚糸文系の深鉢で、覆土中層に流入したものである。

6号遺構(B区)　時期・性格とも不明の土坑である。他の縄文土坑群から離れ、B区南端の傾斜変換面付近に位置する。形状・深度も他の土坑群と異なるが、ここに掲載した。遺構規模は7号遺構に近いが、火を受けた痕跡がなく、構造的にも炉穴とは言い難い。弥生時代方形周溝墓主体部の可能性を残すが、棺痕跡が認められず、覆土も16号遺構(方形周溝墓)周溝部と異なり、色調的に縄文遺構のそれと酷似していることから、発掘調査時において縄文遺構と判断している。

(2)　炉穴(7号遺構)

7号遺構(B区)　B区南端の傾斜変換線付近に位地する。足場と炉部からなり、炉部が6cmほど深い。炉部の焼土範囲は長軸118cm、短軸59cm、厚さ6cmを測り、焼土上面に早期条痕文系土器群がまとまって出土した。調査区において検出された炉跡は本遺構のみだが、条痕文系土器はA・B区に広く散布しており(第10～12図参照)、同様の遺構が数基存在した可能性が強い。B区全域に広がる方形周溝墓群はマウンドを有したものと思われ、その造成時の土取りで湮滅した。

(3)　早期遺物包含層(8号遺構)

8号遺構(A区)　A区全域において田戸下層式土器を中心とする包含層が認められた。Ⅱd層とⅠ層に挟まれたⅡc層がこれで、有機質性強い。遺物的に1～5号土坑と同期のものと思われる。

土器群については第10・11図を参照されたい。石製品は有舌尖頭器・石斧・剥片が出土した。

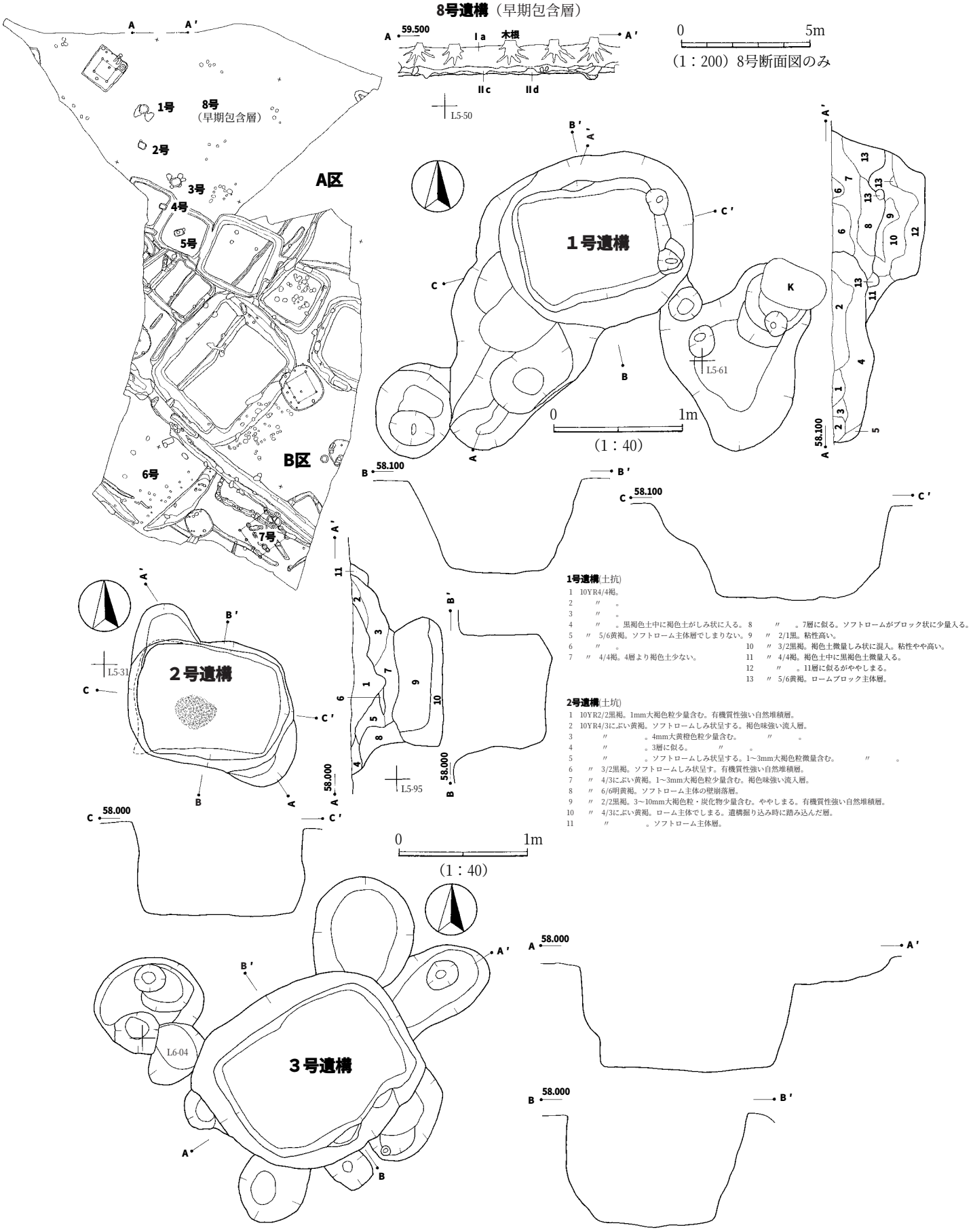
1は凝灰岩製の有舌尖頭器で、表面風化し加工痕が明確に出ない。

2は砂岩製の礫石斧で、上下両面を研磨する。片側に一部敲打痕が認められる。

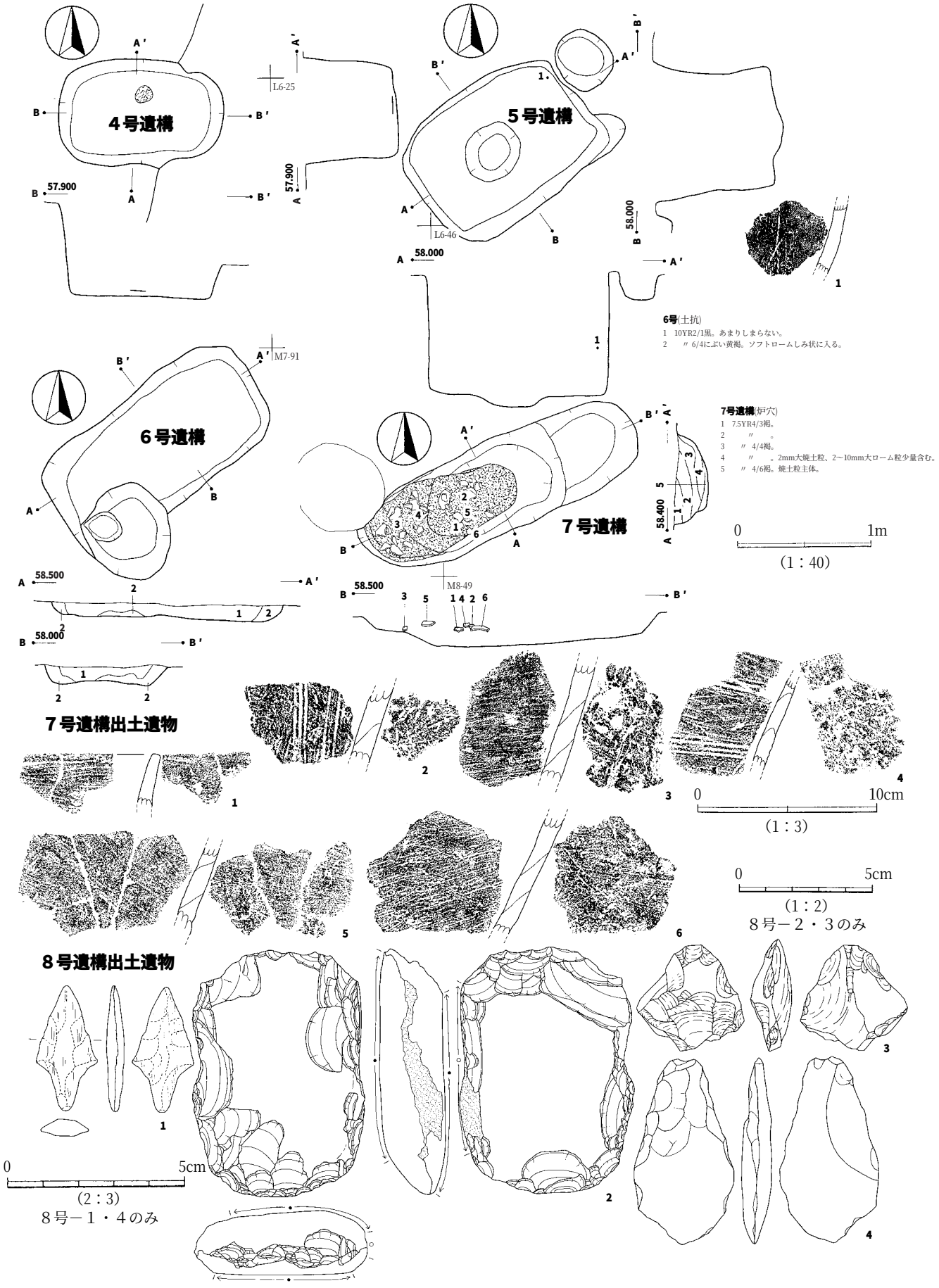
3は黒曜石の剥片で、端部に加工痕があるため、何らかの用途に使われたものと推測する。

4は砂岩製で、刃状に加工を施している。用途は不明だが、礫石斧の可能性がある。

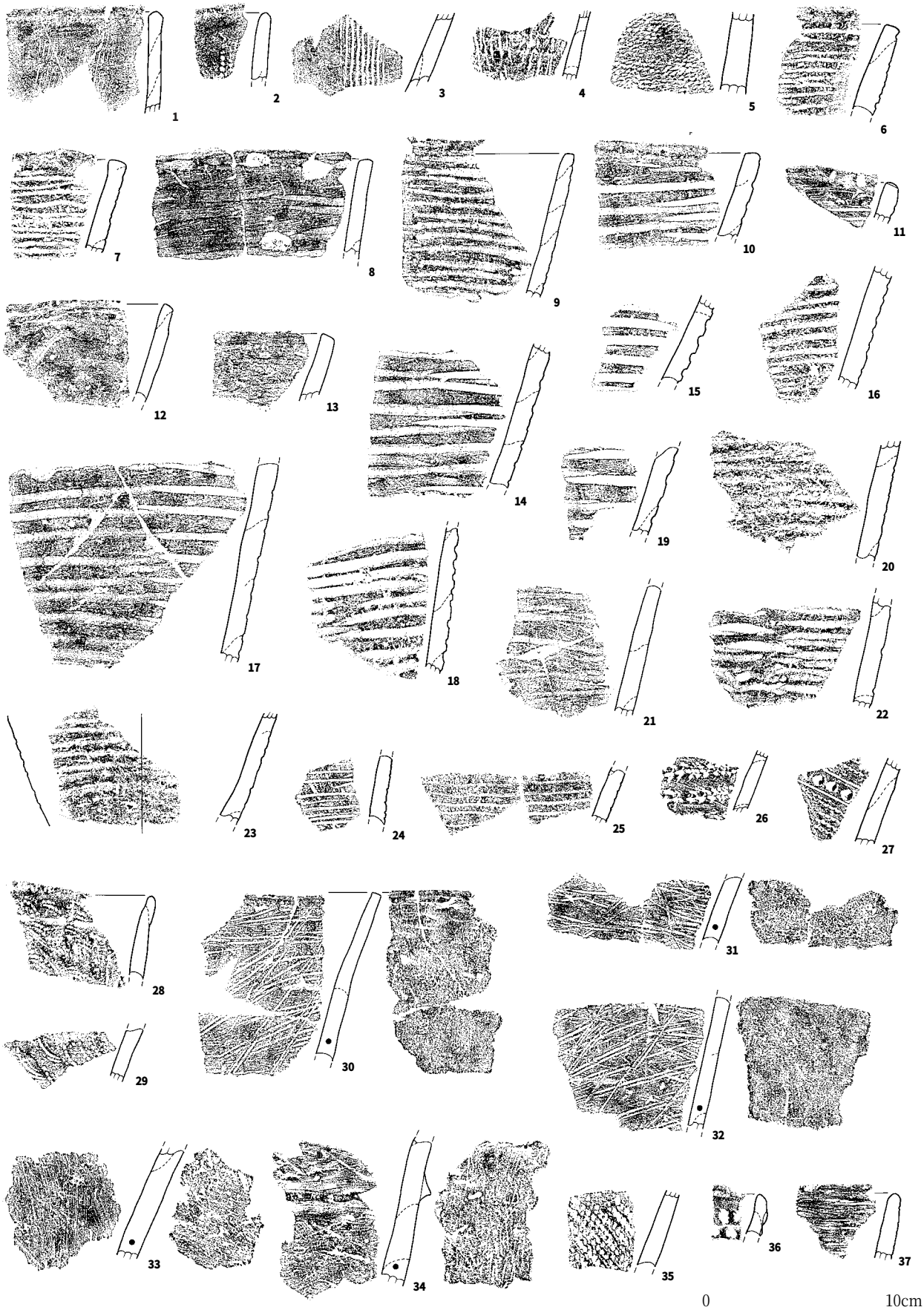
4　弥生時代後期後半～古墳時代前期



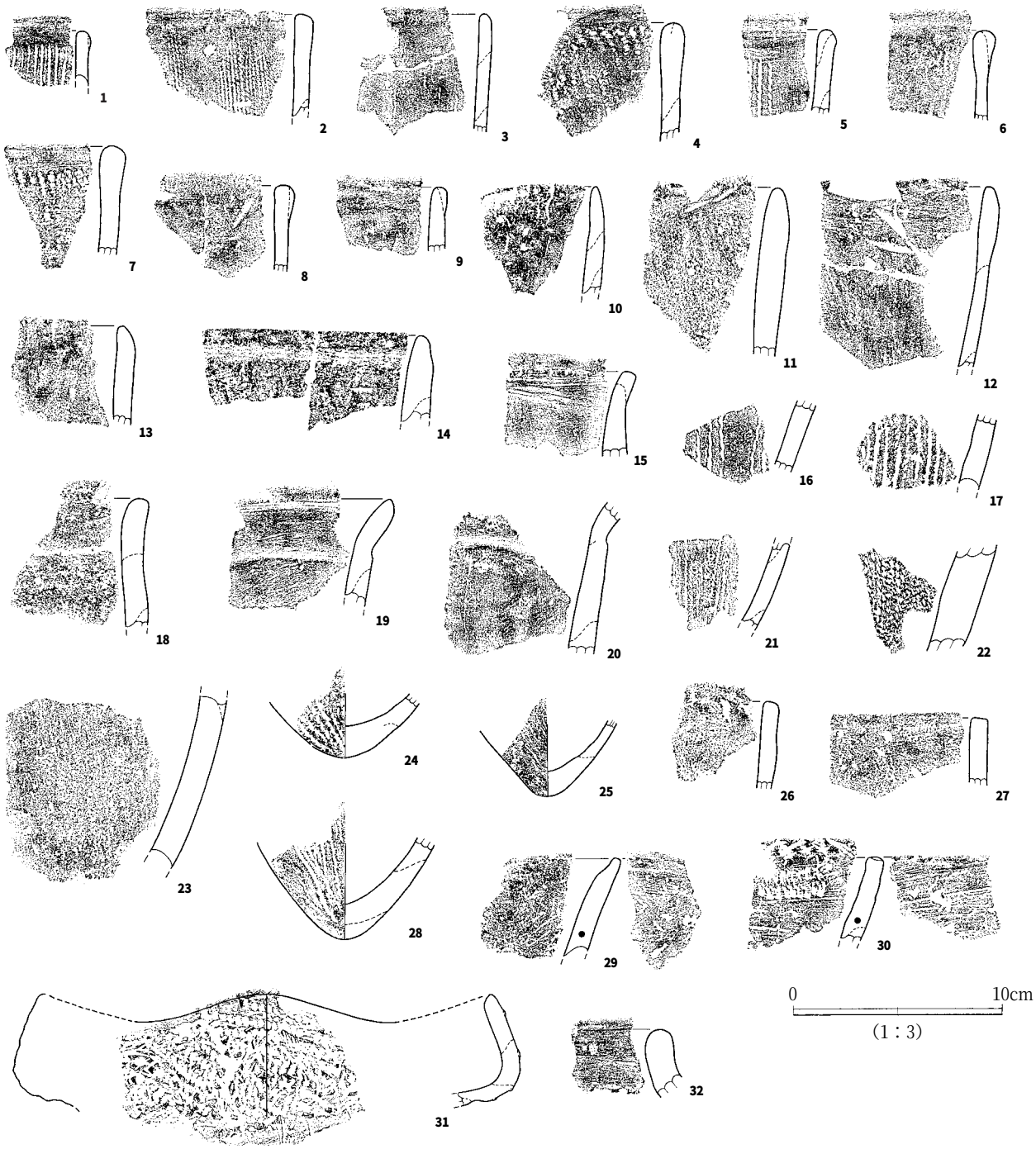
第８図　１～３号遺構実測図（土坑）



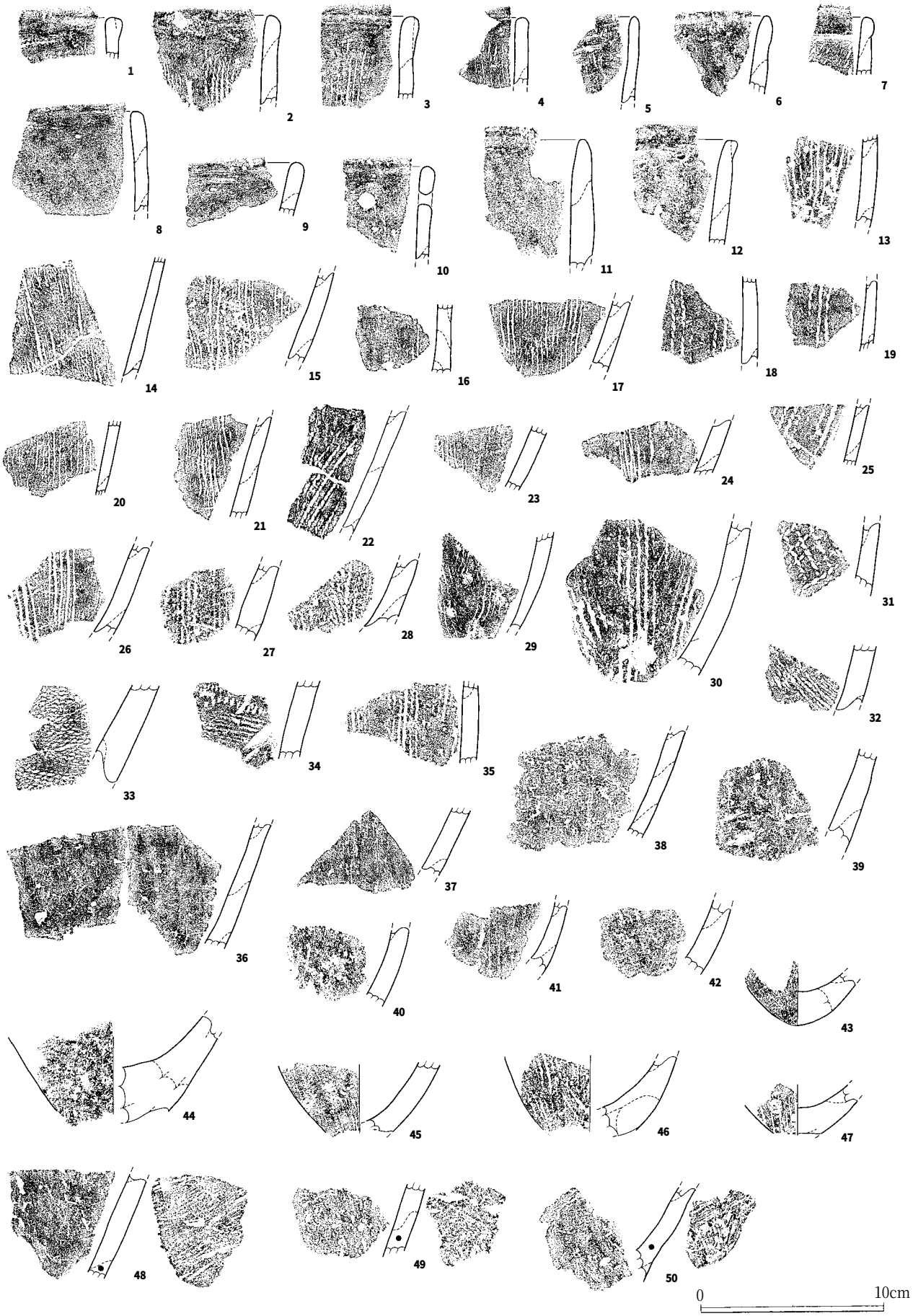
第9図　4～7号遺構（土坑・炉穴）・5・7・8号遺構出土遺物実測図



第10図　A区一括出土縄文土器実測図

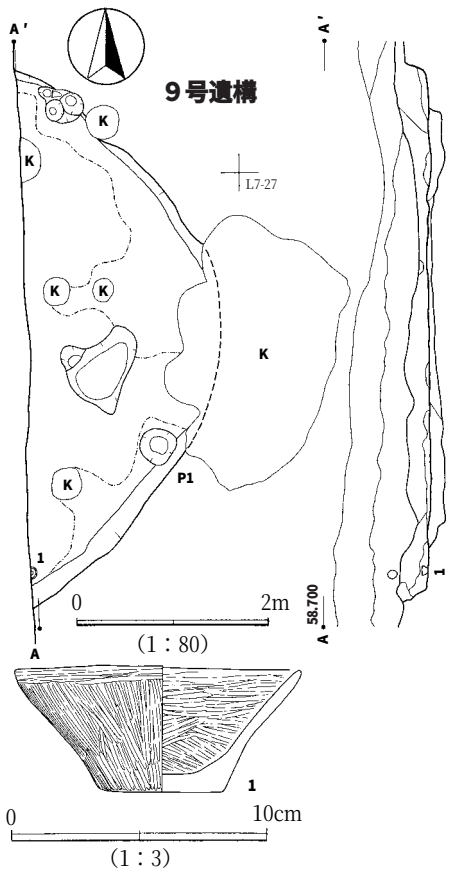


第11図　B区一括出土縄文土器実測図



(1：3)

第12図　C～E区一括出土縄文土器実測図



第13図　９号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図

(1)　竪穴建物跡(9～15号遺構)

9～11号遺構は弥生時代後期後半で、主軸方位も共通する。ほぼ同期の遺構と思われ、B区に散在する。方形周溝墓より古い。9号を除き焼失している。13～15号遺構は終末期(庄内式並行期)から古墳時代初頭にかけてで、E区に散在する。13・14号遺構が同時期で、15号遺構は若干新しい。主軸方位に共通性がないのは、細い尾根筋状の地形に制約されてのことと思われる。覆土は3軒とも短期間による自然流入層と思われ、有機質性が弱い。これは集落域の裸地化と、風の強い尾根筋上の風化作用が重なったためと思われる。

9号遺構(B区)　貼床上に硬化面を有するが、炉は調査区外である。P1は梯子ピットと思われ、垂直に掘り込まれる。径30.8cm、深度14.9cmを測る。主柱穴は確認できなかった。

1は完形の鉢で、床直上に置かれた状態で出土した。内外面とも丹念にヘラミガキを施す。

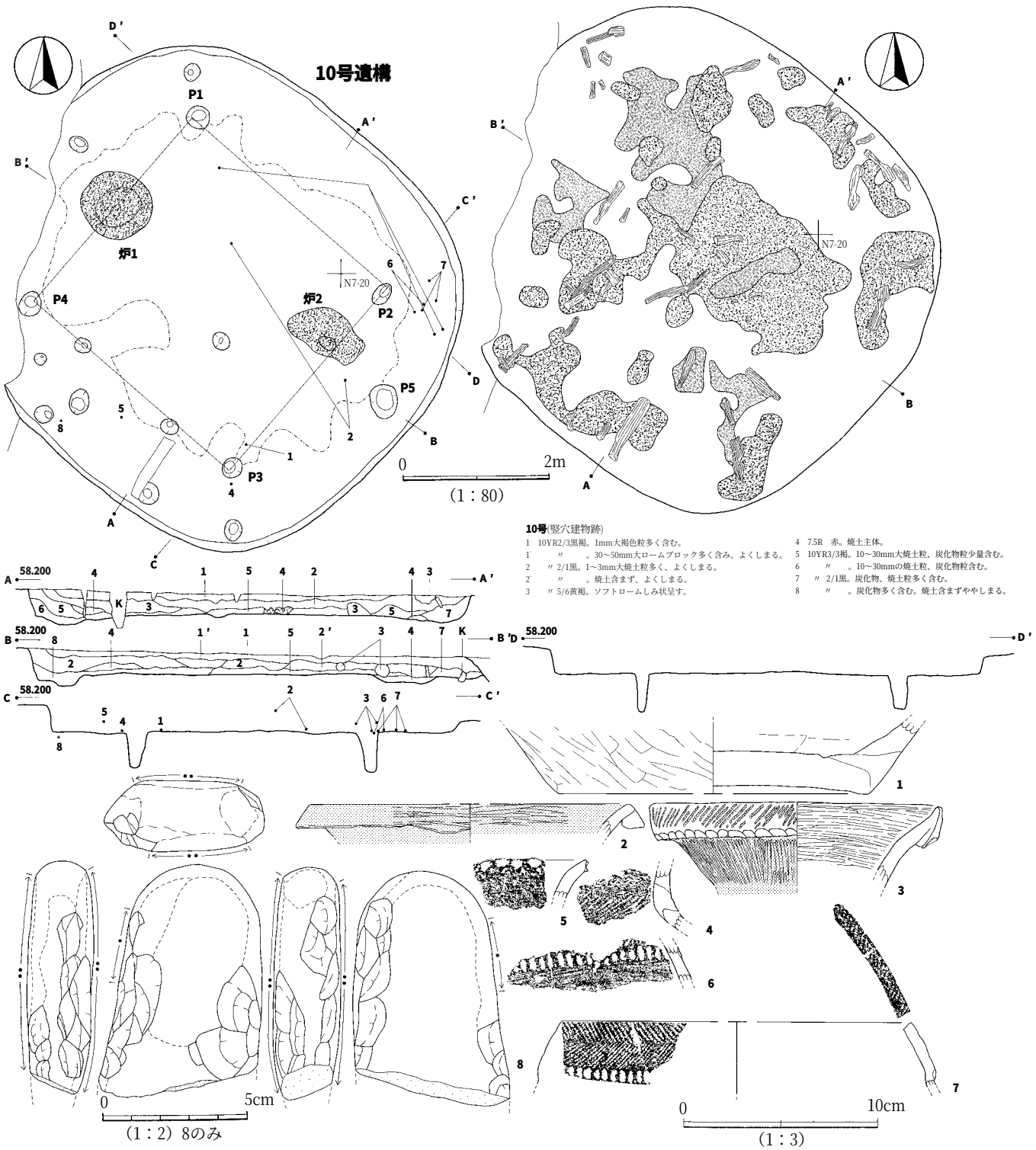
10号遺構(B区)　焼失住居である。構築材の一部が落下し、炭化して検出された。上屋の焼失は確実であるが、覆土は焼土粒が多く混入する程度であった。主柱穴は建て替え痕跡がないが、炉を2カ所有する。炉1は長径90.8cm、短径90.4cm、深度8cm、炉2は長径112cm、短径64cm、深度5cmを測る。主柱穴はP1～4で、それぞれ長径30.4cm・深度48cm、長径30.5cm・深度57cm、長径30.2cm・深度50cm、長径30.5cm・深度14.1cmを測る。梯子ピットは浅く垂直に掘り込む。17号遺構(方形周溝墓)に切られる。

1～4は壺である。1は大型個体で、底部付近のためかヘラナデ調整がやや粗い。2は無文の複合口縁を廻らし、やや新しい様相なので、方形周溝墓から混入した可能性が強い。全面赤彩。5は甕、6・7は鉢である。これらの遺物は11号遺構出土遺物と同時期のものである。

8は礫石斧で、縄文早期の遺物が混入したものと思われる。自然面を研磨する。

11号遺構(B区)　3軒の中で最も小規模で、炉も長径61cm、短径34cm、深度8cmと小さい。支柱穴もしっかりせず、3基しか確認できなかった。P1～3で、それぞれ長径31cm・深度46.0cm、長径16cm・深度20.5cm、長径28cm・深度53.4cmを測る。P4は梯子ピットで垂直に掘り込み、長径42cm、深度24cmを測る。焼失住居で、上屋構造物の一部が崩落し、炭化して検出されたが、10号同様に覆土中の焼土混入は顕著ではない。遺物は時期的に10号と同時期であり、10号と廃絶＝焼失時期も一致する可能性がある。16号遺構(方形周溝墓)に切られる。なお、貝層を乗せたピット5に切られるが(セクションC)、ピット5の時期は不明。長径50cm、確認面からの深度78cmを測る。

1・2が壺、3が甕である。1は肩部で、文様帯以外を赤彩する。2は小型の壺で、外面を丹念にヘラミガキする。図の内面に赤彩トーンを貼ったが、赤彩を施しているのではなく、単に赤色顔料(酸化

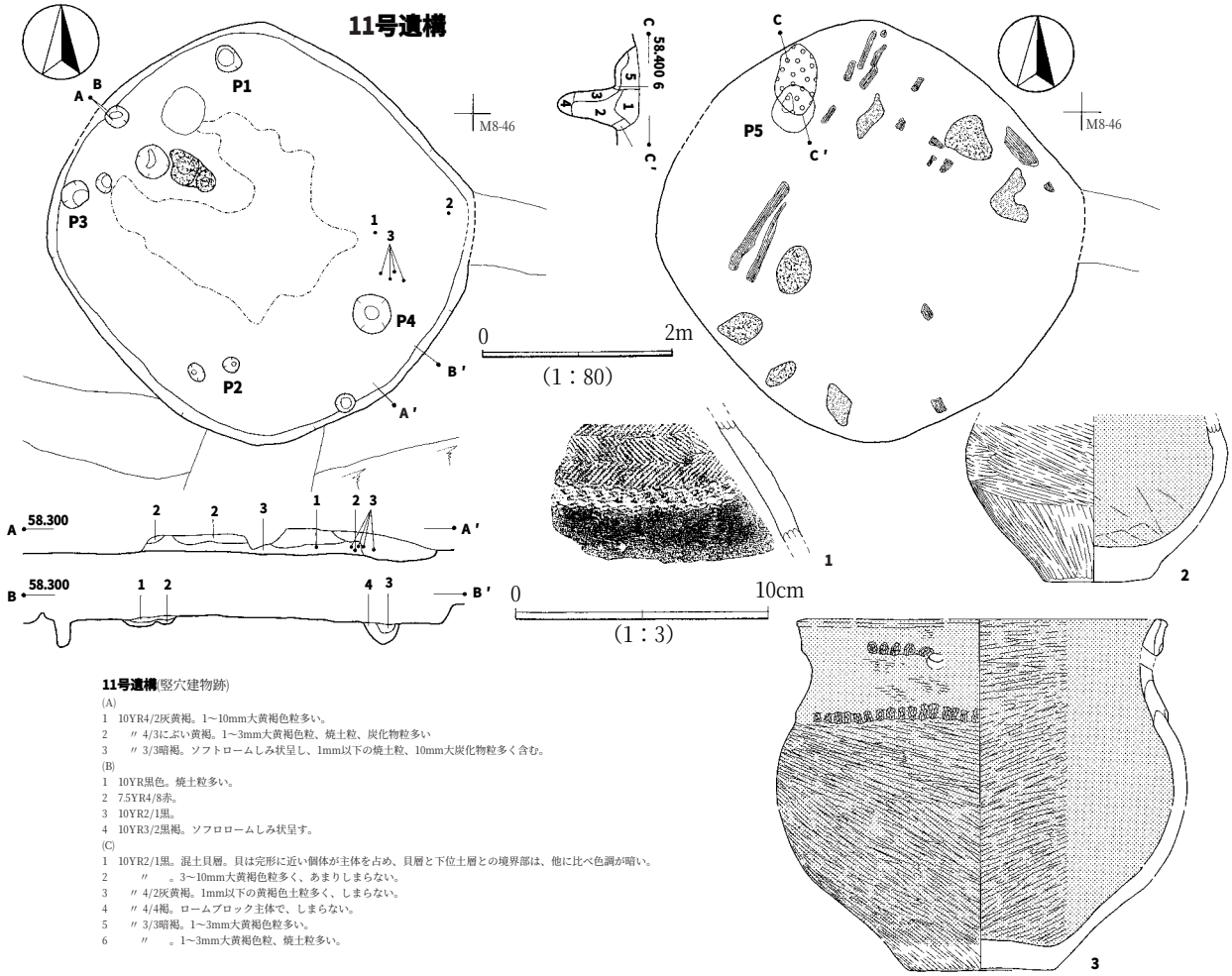


第14図　10号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図

第二鉄か)が付着しているものと判断している。多量に付着しているので、顔料専用の小壺であったものと思われる。

3は装飾された甕で、口縁部と段部に2条の結節押捺を施す。内外面全面ヘラミガキ後頸部ナデ調整、内面まで赤彩し、頸部に1カ所穿孔する。補修孔と思われる。

13号遺構(E区)　弥生時代終末期の住居跡で、遺物は14号遺構の例と同期である。支柱穴はP1～P4で、



11号遺構(竪穴建物跡)
(A)
1　10YR4/2灰黄褐。1～10mm大黄褐色粒多い。
2　〃 4/3にぶい黄褐。1～3mm大黄褐色粒、焼土粒、炭化物粒多い
3　〃 3/3暗褐。ソフトロームしみ状呈し、1mm以下の焼土粒、10mm大炭化物粒多く含む。
(B)
1　10YR黒色。焼土粒多い。
2　7.5YR4/8赤。
3　10YR2/1黒。
4　10YR3/2黒褐。ソフロロームしみ状呈す。
(C)
1　10YR2/1黒。混土貝層。貝は完形に近い個体が主体を占め、貝層と下位土層との境界部は、他に比べ色調が暗い。
2　〃　。3～10mm大黄褐色粒多く、あまりしまらない。
3　〃 4/2灰黄褐。1mm以下の黄褐色土粒多く、しまらない。
4　〃 4/4褐。ロームブロック主体で、しまらない。
5　〃 3/3暗褐。1～3mm大黄褐色粒多い。
6　〃　。1～3mm大黄褐色粒、焼土粒多い。

第15図　11号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図

それぞれ長径25cm・深度38cm、長径24cm・深度52cm、長径23cm・深度46cm、長径34cm・深度61cmを測る。炉は小さく、長径39cm、短径25cm、深度14cmを測る。P2・P4は柱抜き取り痕がある。

遺物は1～3が壺、4が鉢、5～7が高杯である。7は全面赤彩で、杯部外面下方に稜線を持つことから、東海地方の影響と思われるが、胎土は在地のものと判断した。炉付近の床直上から出土した。

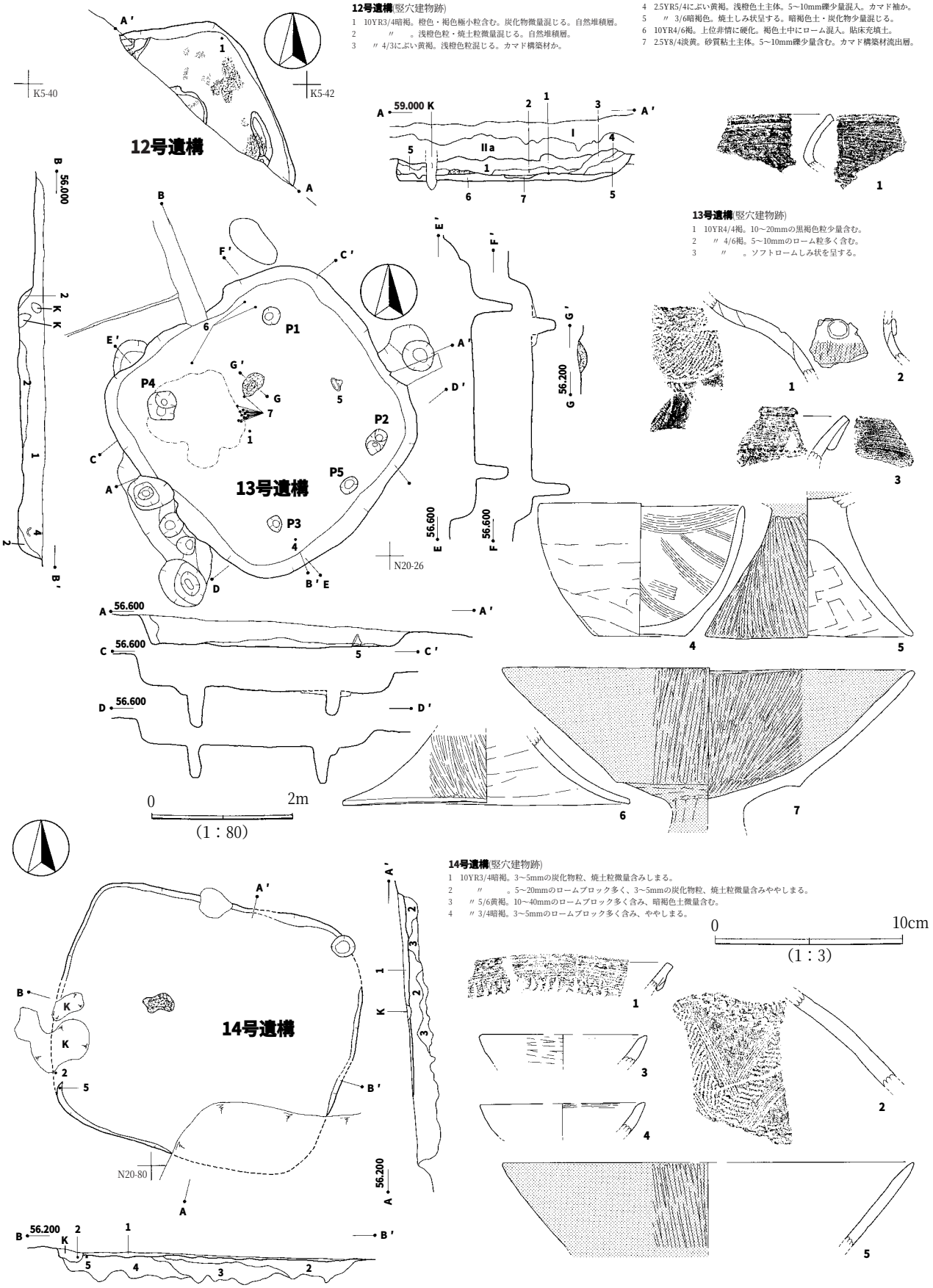
14号遺構(E区)　台地の尾根筋から南側斜面の傾斜変換線に位地し、覆土の殆どと南壁を流出している。遺物的に13号遺構と同時期である。貼床充填層は厚く、深度25～34cmを測る。遺構規模は13・15号遺構よりやや大きいが、主柱穴は確認できなかった。炉は長径46cm、短径25cm、深度2cmと小さく、はっきりしない。

遺物は1・2が壺、3・4が低脚高杯、5が高杯である。

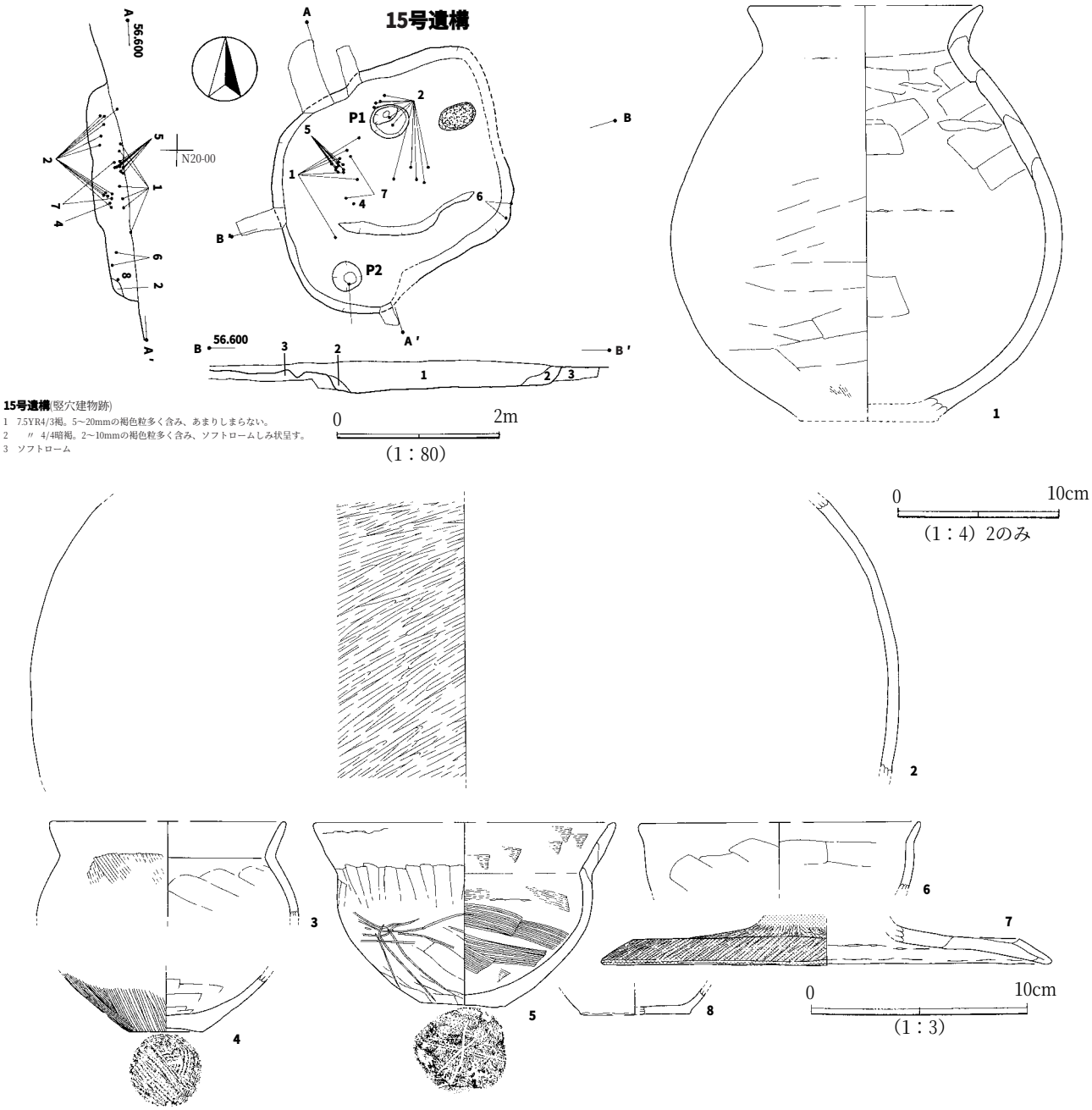
2は山形文の区画を、沈線ではなく櫛描文で施しており、非在地的な系譜の遺物と思われる。胎土も黒雲母・角閃石を多く含んだ黄色味強いもので、同時期の遺物群と異なるが、遠距離からの搬入土器とは考えがたい。

5は東海地方的な様相を示し、13号7に酷似する。

15号遺構(E区)　台地尾根筋から北側斜面の傾斜変換線に位地し、滑落のためか遺構形状が歪んでいる。炉の規模は他の2軒より比較的大きく、長径50cm、短径32cm、深度4.3cmを測る。主柱穴はP1・



第16図　12～14号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図



15号遺構(竪穴建物跡)
1　7.5YR4/3褐。5～20mmの褐色粒多く含み、あまりしまらない。
2　〃　4/4暗褐。2～10mmの褐色粒多く含み、ソフトロームしみ状呈す。
3　ソフトローム

第17図　15号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図

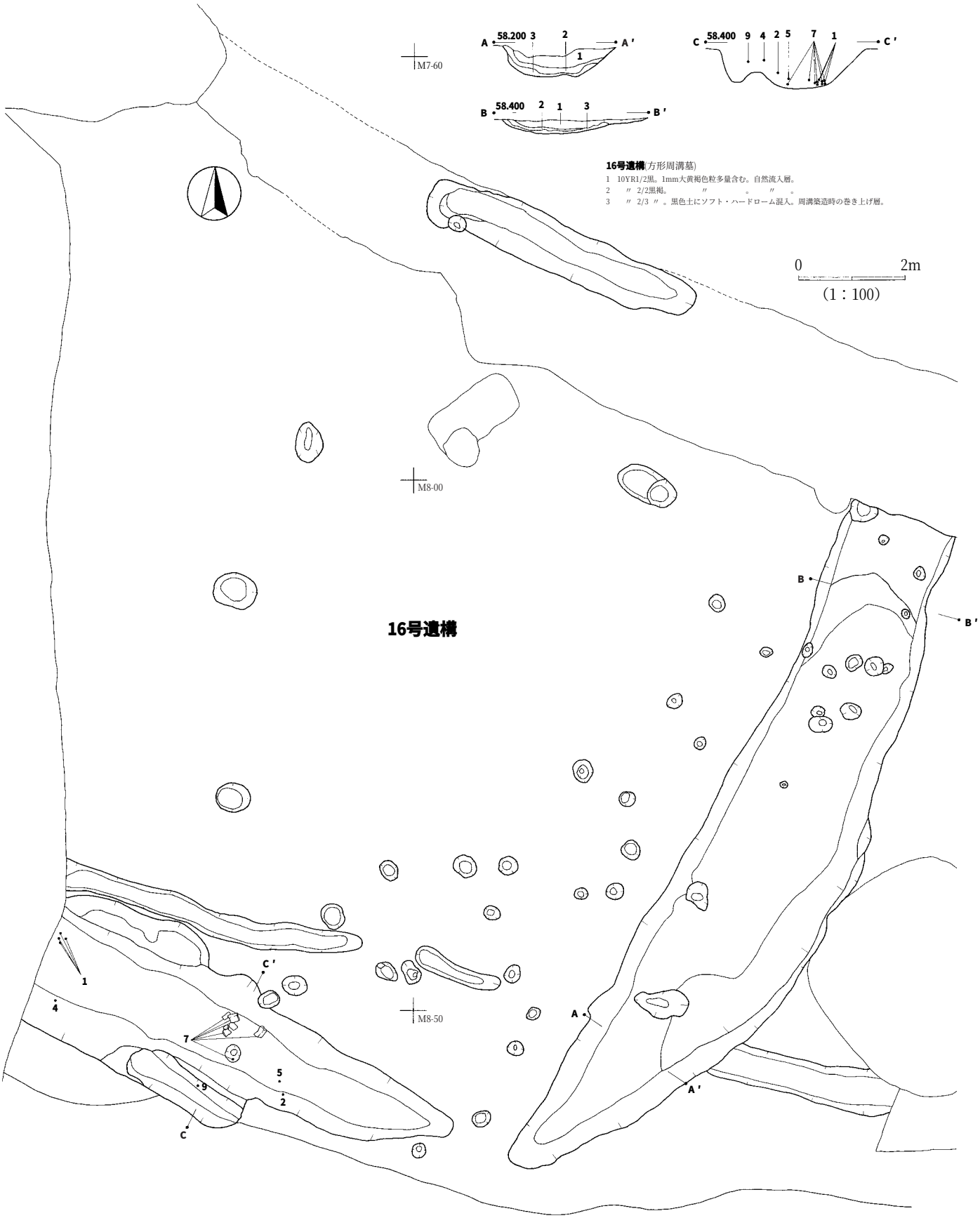
2が該当すると思われるが、2基しか確認できなかった。それぞれ長径50cm・深度13.9cm、長径37cm・深度22.2cmを測る。遺物的には14・15号遺構より若干新しい。

遺物は1・2が壺、3・4が甕、5・6が鉢、7が器台である。すべて床直上ではないが、2・4・6・7がほぼ床面に近い高度で検出されている。7は当初、壺の口縁と考えていたが、外面全面にヘラミガキ・赤彩を施し丁寧であるのに対し、内面は赤彩も施さず、調整もナデ程度で一部輪積み痕を残すほど粗く、露出させる部分とは考えがたいため、器台の脚部と判断した。

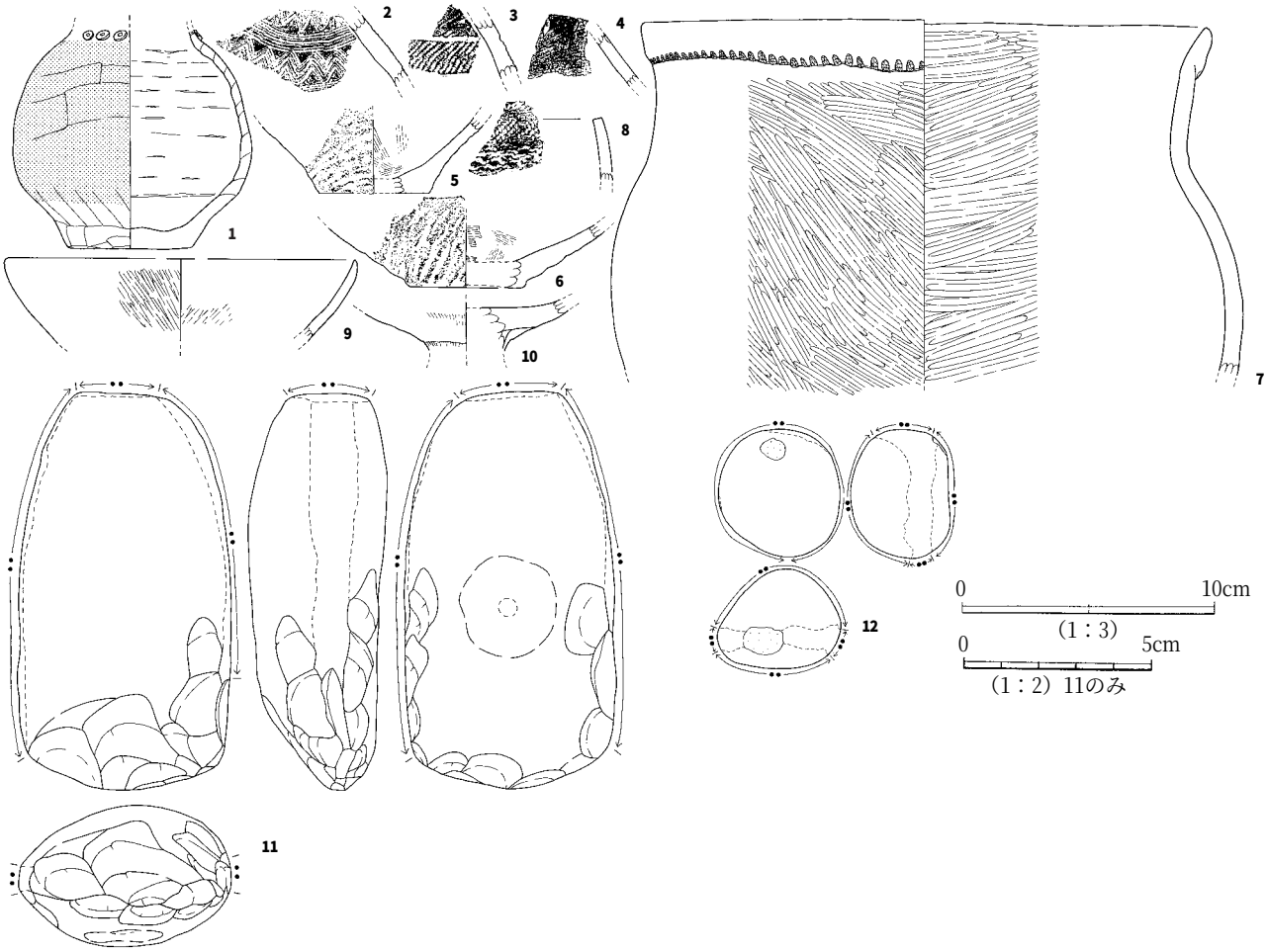
8はロクロ土師器で混ざり込みである。

(2)　方形周溝墓(16～26号遺構)

遺物から16～25号遺構が弥生時代終末期、26号遺構が終末期から古墳時代前期初頭の築造と思われ、



第18図　16号遺構（方形周溝墓）実測図



第19図　16号遺構（方形周溝墓）出土遺物実測図

東海地方以西の特徴を持った土器が散見される。17～20号遺構、21号～24号遺構はそれぞれ周溝を共有しながら東西方向に展開する。

16号遺構(B区)　B区南端の傾斜変換面に位置し、11号遺構(竪穴建物跡)を切る。北側周溝は17号遺構に接するが、62号遺構(道路跡)に壊され、最深部のみ遺存していた。周溝は中央部の幅が太い形状で、南東隅が切れているが、築造時のプランなのか、斜面のため流出したものなのかは不明である。この部分は緩やかに浅くなり途切れるので、後者の可能性が高いものと推測する。周溝内の遺物相から、弥生時代後期後半から終末期が築造期と捉えられる。

1～4が壺、5～7が甕、8が鉢、9・10が高杯である。

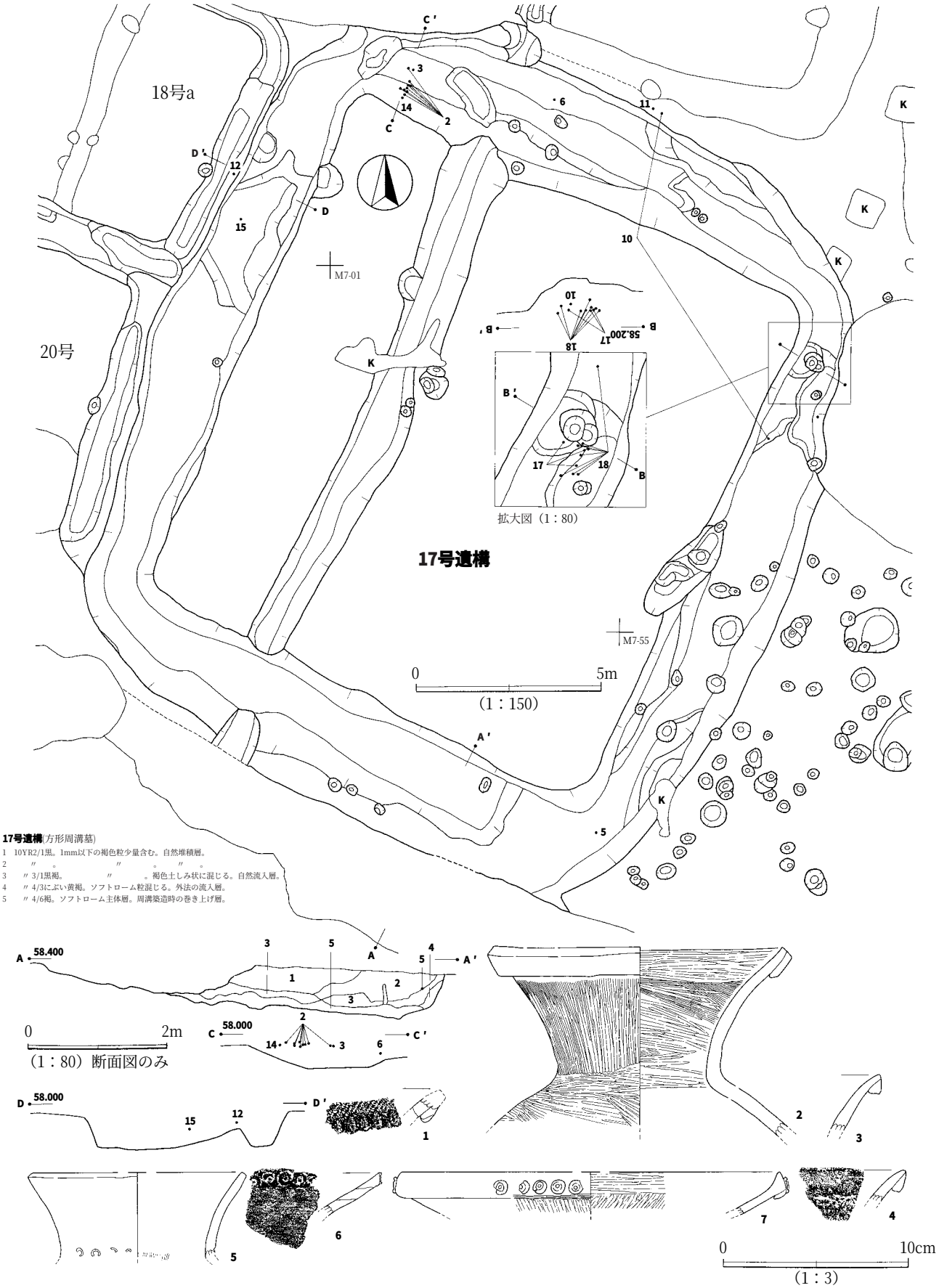
1は小型の壺で、底部付近から胴部下位に向かい急に開く。この部位は内面の輪積み痕を調整せず、これを境に上下に分断された状態で出土したので、土器を故意に分離した可能性がある。肩部に巡らす竹管で刺突した円形浮文は、東海地方以西の影響である。

2は波状文を櫛描きで表現する非在地的な技法の土器だが、胎土は在地のものと判断した。

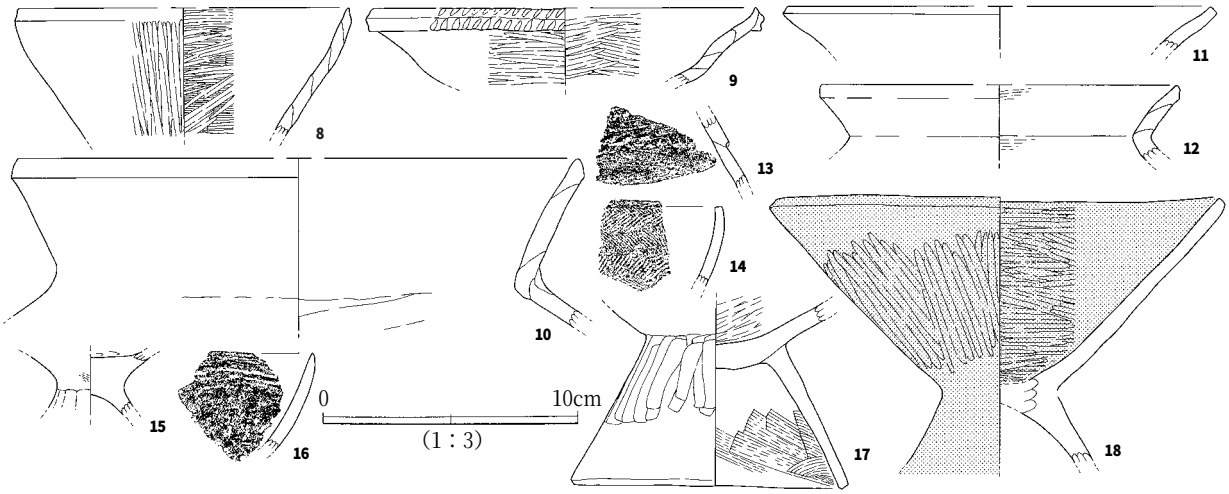
5・6はタタキ甕で、庄内式並行期の近畿風の土器である。2とともに周溝の底付近から出土した。

7は広口の壺と呼ぶべき甕形の土器で、周溝底部から出土した。

17号遺構(B区)　各周溝の中央部が幅広い。16号遺構の北隣りに位地するが、周溝は共有しない。10号遺構(竪穴建物跡)を切り、60・62号遺構(道路跡)・58号遺構(溝)に切られる。また、若干曖昧ではあ



第20図　17号遺構（方形周溝墓）・遺物実測図



第21図　17号遺構（方形周溝墓）出土遺物実測図

るが、21号を切っているように断面観察されている。遺物の時期は16号遺構と一致するが、概ね周溝覆土上層からの出土である。

出土遺物は1～9は壺、10～13が甕、14が鉢、17が台付甕、15・16・18が高杯である。

1は弥生時代後期後半の遺物なので、10号遺構(竪穴建物跡)からの流入と見られる。

2は無文で全面ヘラミガキを施し、五領式に近い様相を示す。

5は頸部付け根に竹管による円形刺突文を巡らし弥生時代終末期の特徴を示すが、無文に近く、新しめの様相が見える。胎土は黄色味強い橙色で、土師器に類似する。2と同時期のやや新しい遺物である。

6は壺としたが、器台の可能性を残す。7とともに竹管刺突の円形浮文を巡らすのは、東海地方以西の影響である。10～12の甕なども口縁部を面取りし、弥生時代終末期の特徴を示す。

18号遺構a(B区)　小型の方形周溝墓で、17号遺構の西側に所在するが、別個の周溝を持つ。南側周溝を20号遺構と共有する。60号遺構(道路跡)に切られる。西側に拡張部がある(18号ｂ)。

1が壺、2が甕、3が高杯で、弥生時代終末期である。

4・5は漆の皮膜である。木製品などに塗られたものと思われるが、本体の方は遺存しない。後世の流れ込みと思われるが、時期・性質ともに不明である。

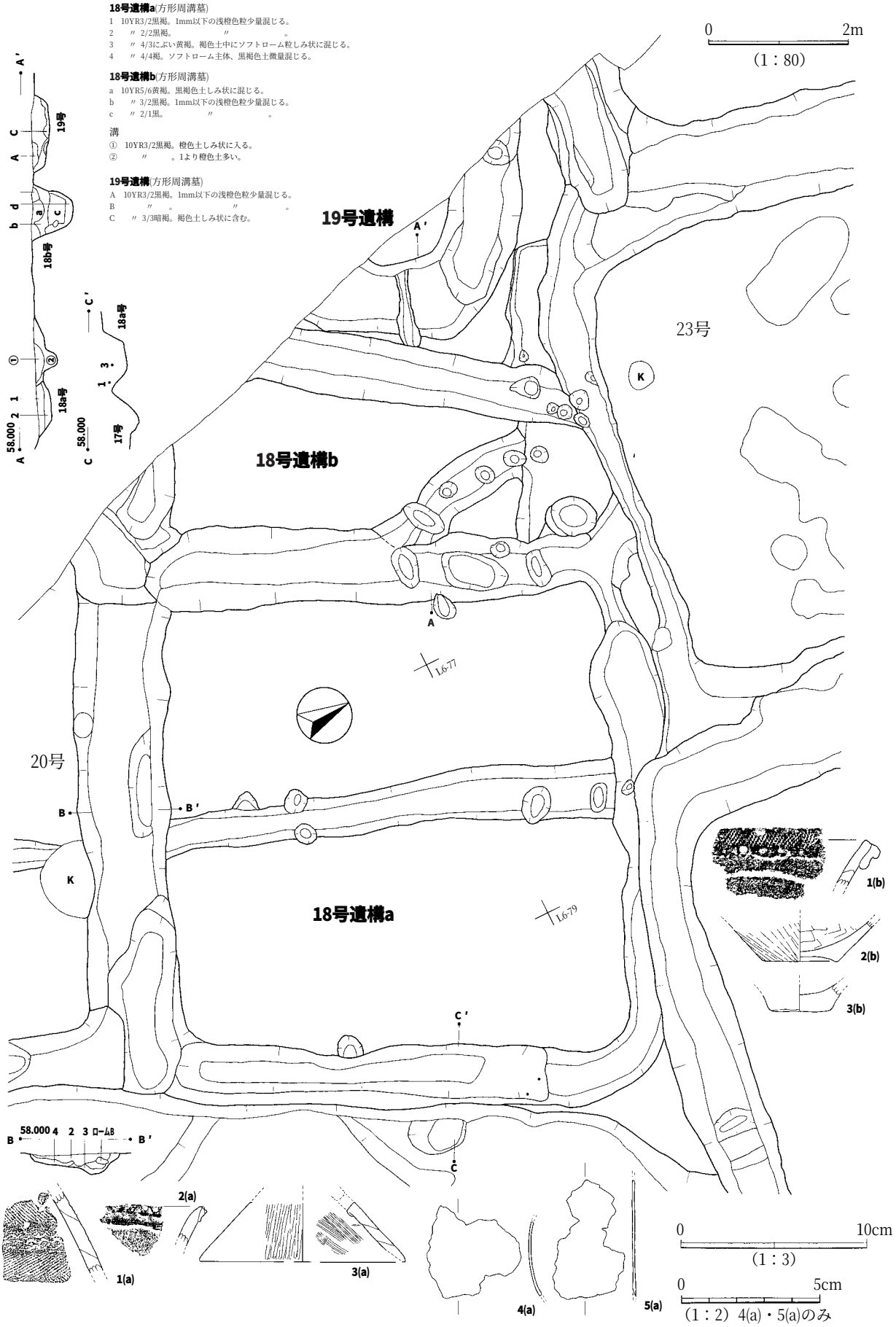
18号遺構b(B区)　18号a西側周溝の1.6m西に溝が1条ある。覆土は方形周溝墓のそれと同一であるので、18号aの拡張周溝と見なした。従って18号aより新しいと解釈している。

遺物はすべて壺で、弥生時代終末期にあたるが、2のみは五領式の様相が見え、混ざり込みと思われる。

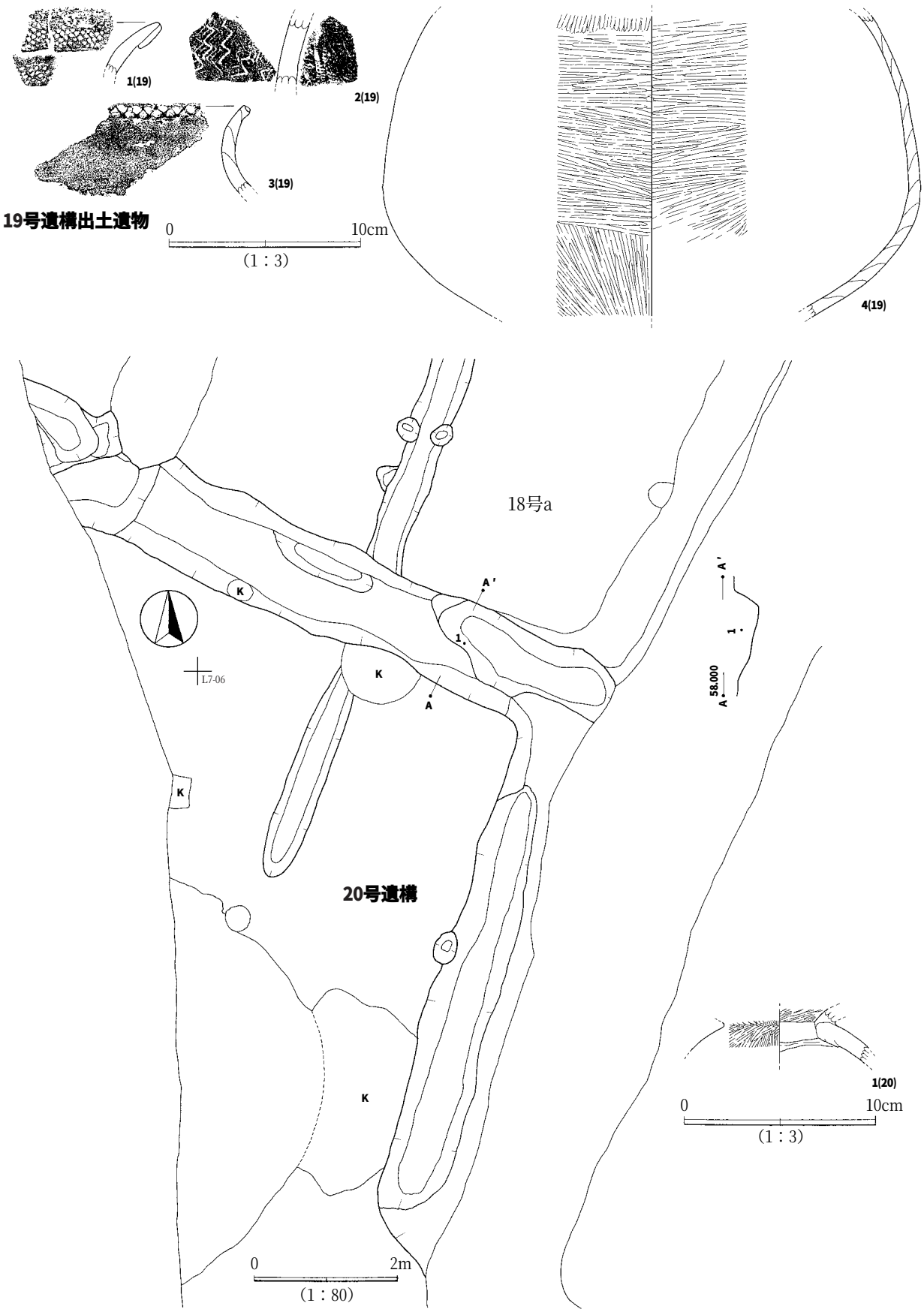
19号遺構(B区)　18号遺構bの西側に位置する。遺物は弥生時代終末期の壺(4)を除き、混ざり込みと判断する。

20号遺構(B区)　17号遺構の西側に所在するが、別個の周溝を持つ。北側周溝を18号遺構と共有する。南側周溝は確認できず、54号遺構によって削られた可能性が高い。

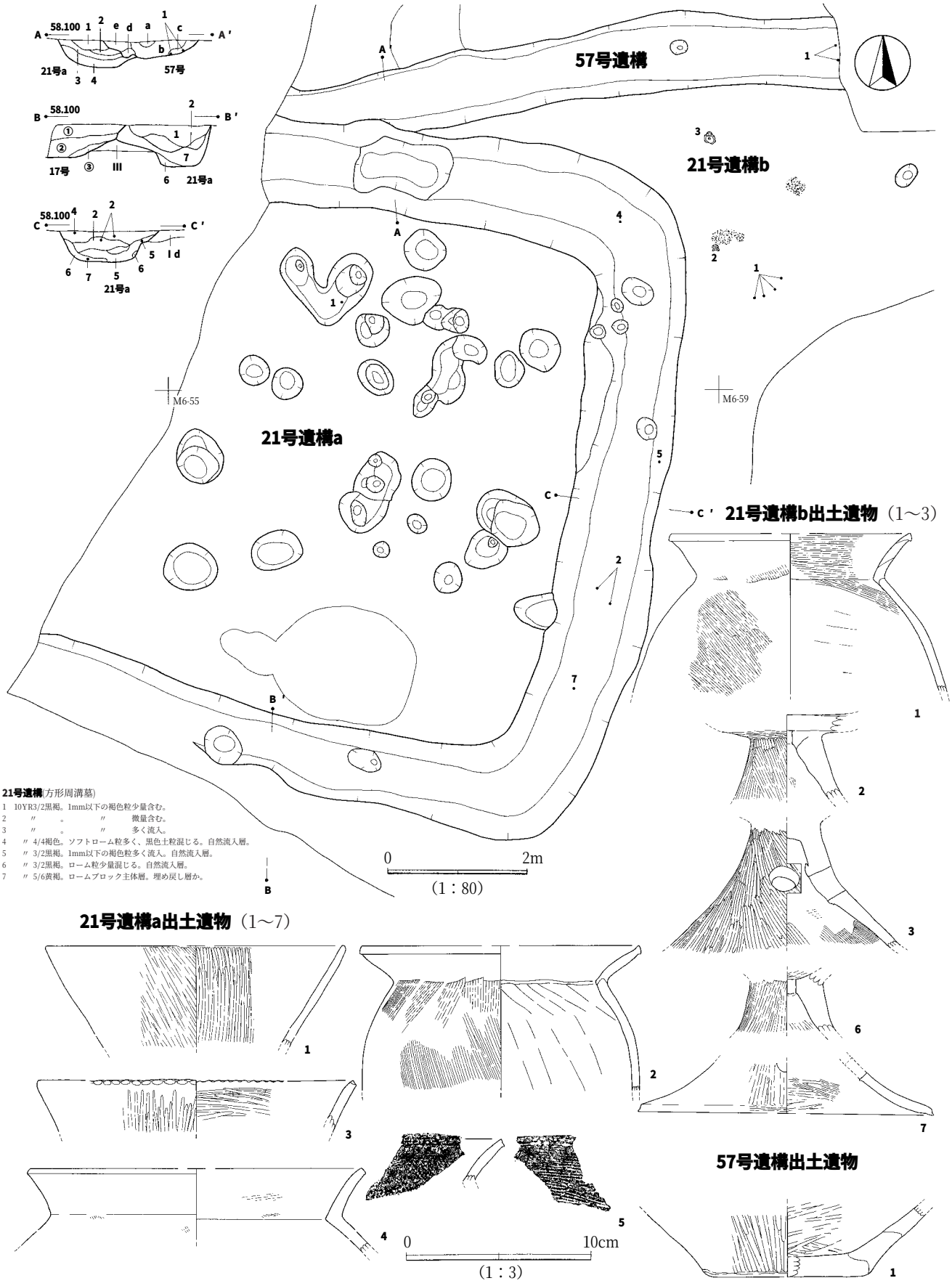
遺物1は炉器台で、23号№3と酷似し、同一個体の可能性がある。覆土上層からの出土であり、流れ込みの可能性が高い。



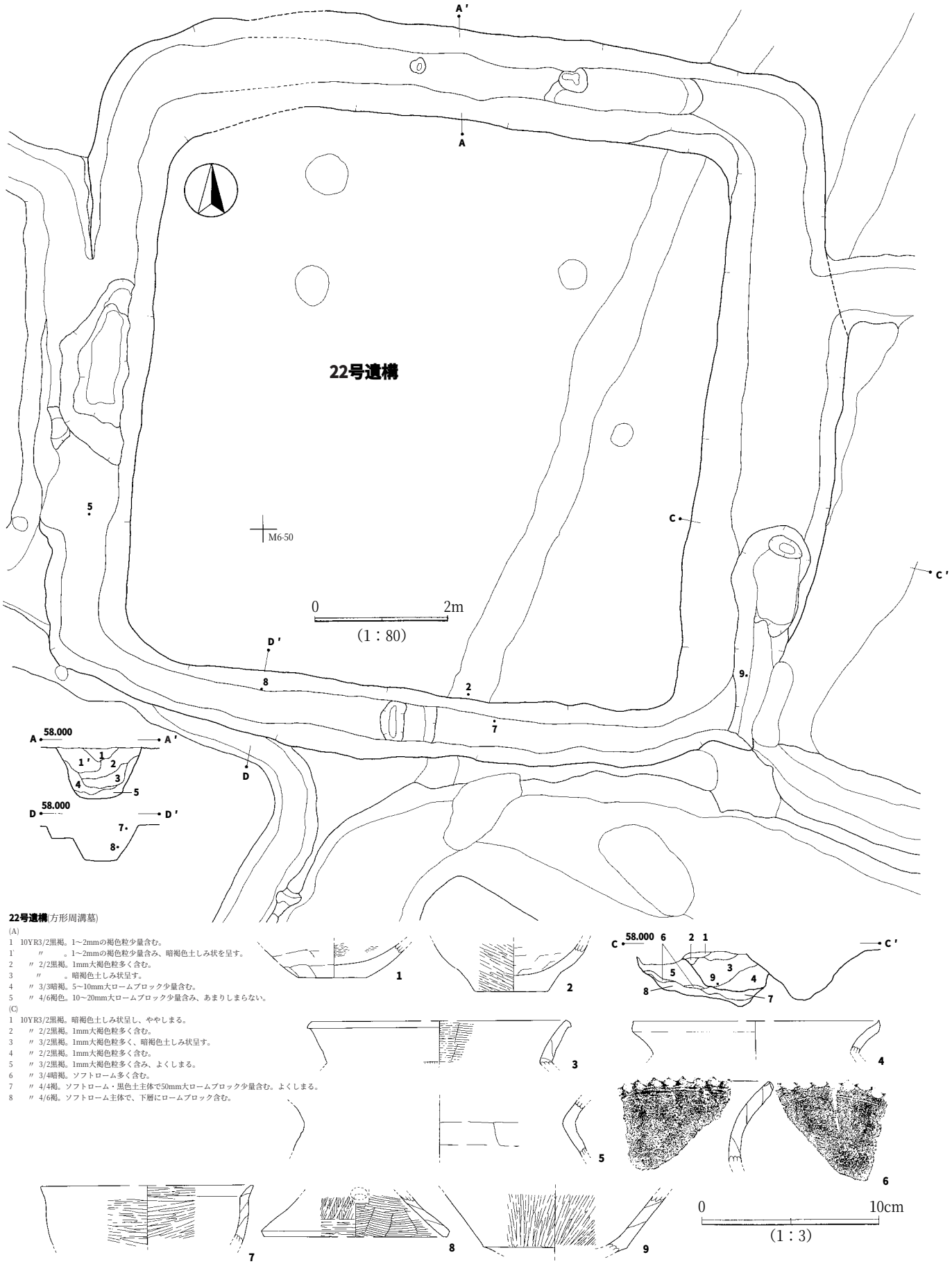
第22図　18号a・b・19号遺構（方形周溝墓）・18号a・b出土遺物実測図



第23図　19号遺構出土遺物・20号遺構（方形周溝墓）・遺物実測図



第24図　21号a・b・57号遺構（方形周溝墓）・遺物実測図

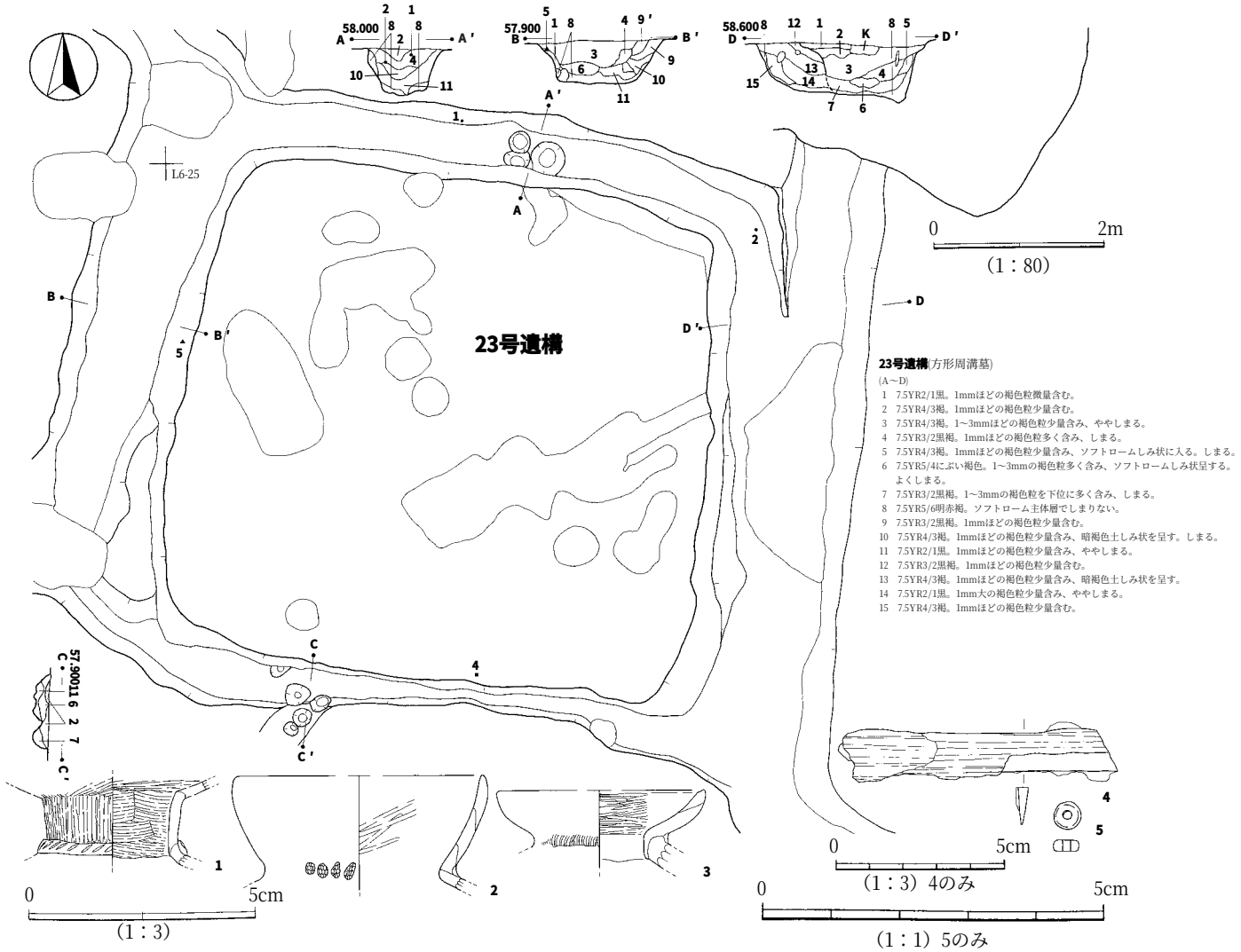


22号遺構(方形周溝墓)

(A)
1　10YR3/2黒褐。1～2mmの褐色粒少量含む。
1'　〃　。1～2mmの褐色粒少量含み、暗褐色土しみ状を呈す。
2　〃　2/2黒褐。1mm大褐色粒多く含む。
3　〃　。暗褐色土しみ状呈す。
4　〃　3/3暗褐。5～10mm大ロームブロック少量含む。
5　〃　4/6褐色。10～20mm大ロームブロック少量含み、あまりしまらない。

(C)
1　10YR3/2黒褐。暗褐色土しみ状呈し、ややしまる。
2　〃　2/2黒褐。1mm大褐色粒多く含む。
3　〃　3/2黒褐。1mm大褐色粒多く、暗褐色土しみ状呈す。
4　〃　2/2黒褐。1mm大褐色粒多く含む。
5　〃　3/2黒褐。1mm大褐色粒多く含み、よくしまる。
6　〃　3/4暗褐。ソフトローム多く含む。
7　〃　4/4褐。ソフトローム・黒色土主体で50mm大ロームブロック少量含む。よくしまる。
8　〃　4/6褐。ソフトローム主体で、下層にロームブロック含む。

第25図　22号遺構（方形周溝墓）・遺物実測図



第26図　23号遺構（方形周溝墓）・遺物実測図

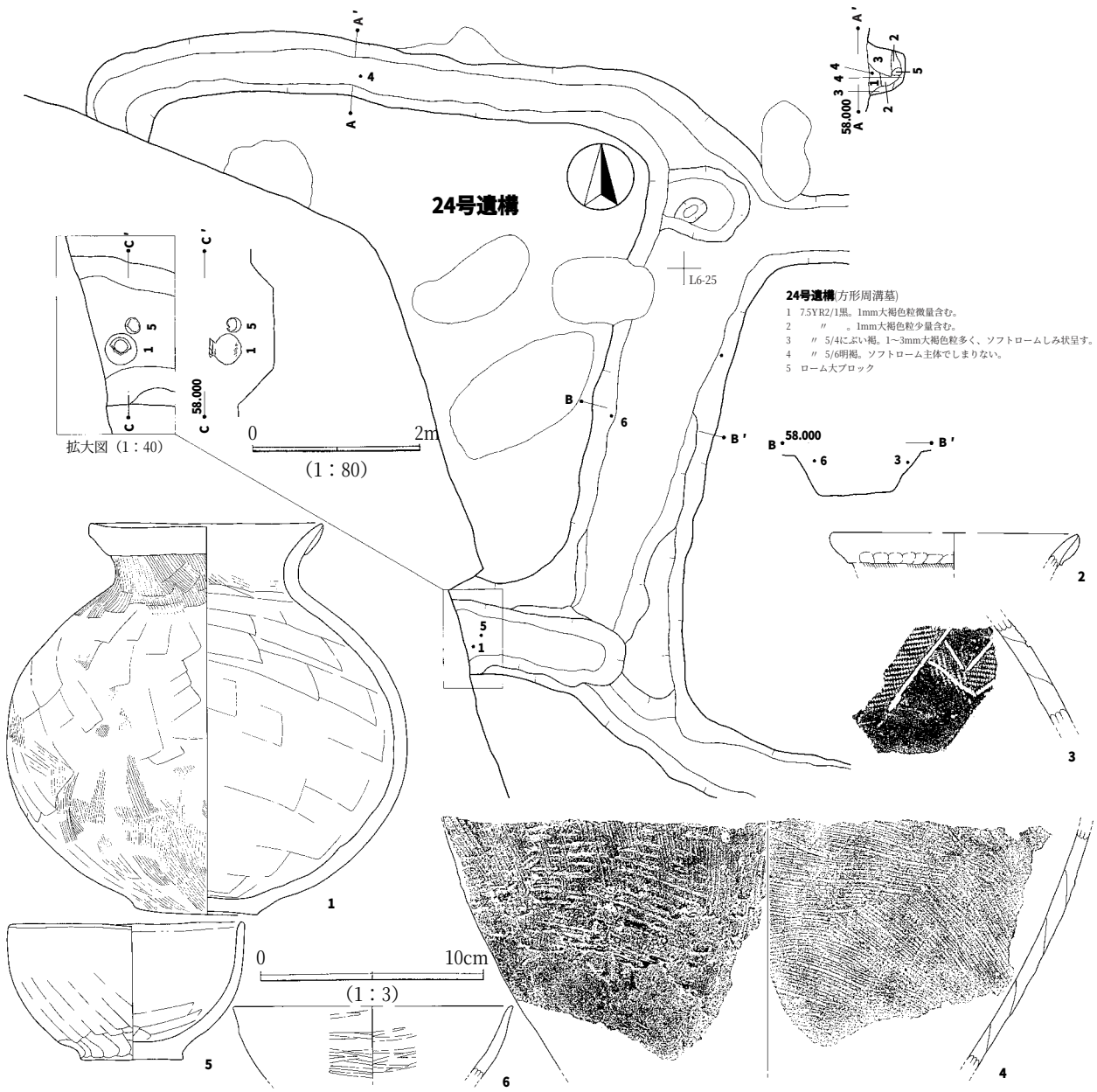
21号遺構a(B区)　16・17号遺構と南北方向に連続するが、17号遺構とは別個の周溝を持つ。確認面において両周溝は切り合っており、17号遺構が切る解釈でセクションを作成しているが(セクションB)、黒色土中で線引きしたこともあり、新旧は必ずしも明確ではなかった。22～24号遺構と東西方向の同一軸上にあり、22号遺構と周溝を共有する。58号遺構(溝)に切られる。

遺物は1が壺、2～5が甕、6が器台、7が高杯である。すべて弥生時代終末期である。ほとんどが周溝覆土上層にあり、周溝底部からは7のみが出土した。

1は高杯脚部の可能性がある。2・4は口縁部を面取りし、弥生時代終末期の特徴を持つ。6は受け部と脚部を通す穴を穿つ。

21号遺構b(B区)　21号a遺構外の北東部に、若干の焼土面と弥生時代終末期の遺物群が検出された。当初、竪穴建物跡が存在した可能性を検討したが、支柱穴がまったく確認できず、硬化面もない。このエリアに周溝墓群と同時期の住居跡が存在したとは考えがたいので、21号遺構aに伴う遺構と捉えている。

特に掘り込みらしきものは見あたらず、東西に2カ所の焼土面を残すのみである。それぞれ長径47cm・短径22cm、長径26cm・短径22cmを測る。何らかの祭祀行為が行われたと思われるが、詳細



第27図　24号遺構（方形周溝墓）・遺物実測図

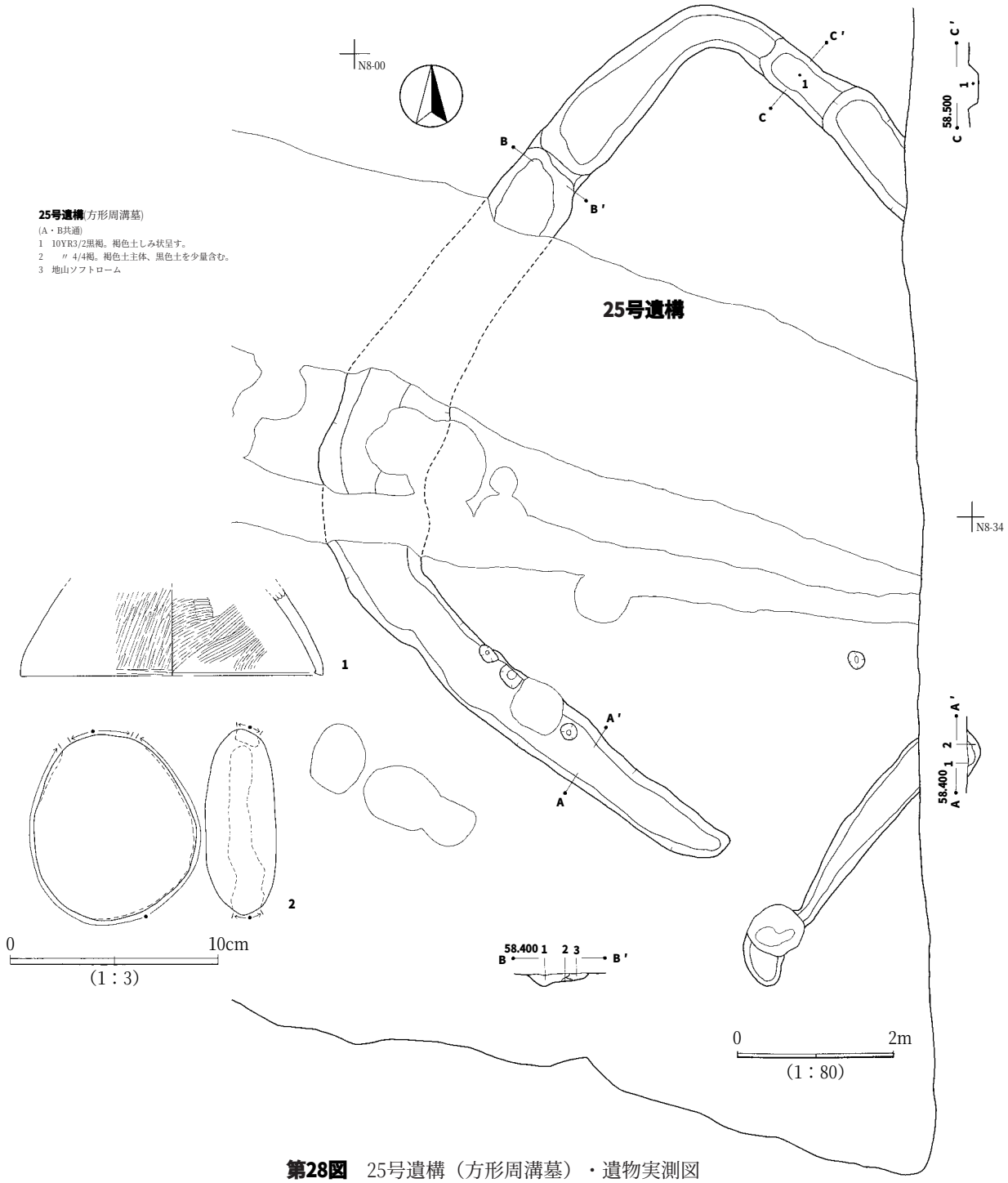
は不明と言わざるを得ない。

遺物は21号aと同時期で、弥生時代終末期の甕(1)と高杯(2・3)が出土している。

22号遺構(B区)　23号遺構と58号遺構(溝)に切られる。東西周溝内に、それぞれ長径228cm・短径104cm・深度(周溝底面から)32.6cm、長径174cm・短径104cm・深度(同)35.9cmを測る土坑が検出されたが、周構内土壙か否かは現場において判断できなかった。

遺物は弥生時代終末期で、ほとんど周溝覆土上面からの出土であった。1・2が壺、3～6が甕、7が鉢、8・9が高杯である。3は口縁部を面取りする特徴を持つ。6のみが弥生時代後期後半で、混ざり込みと思われる。9は杯部外面に稜線を持つ東海地方的な高杯である。

23号遺構(B区)　西側周溝を、21号遺構周溝とプラン上は共有するが、浚渫しなおした痕跡がある(23号セクションD)。また、東側周溝を24号遺構と共有する。



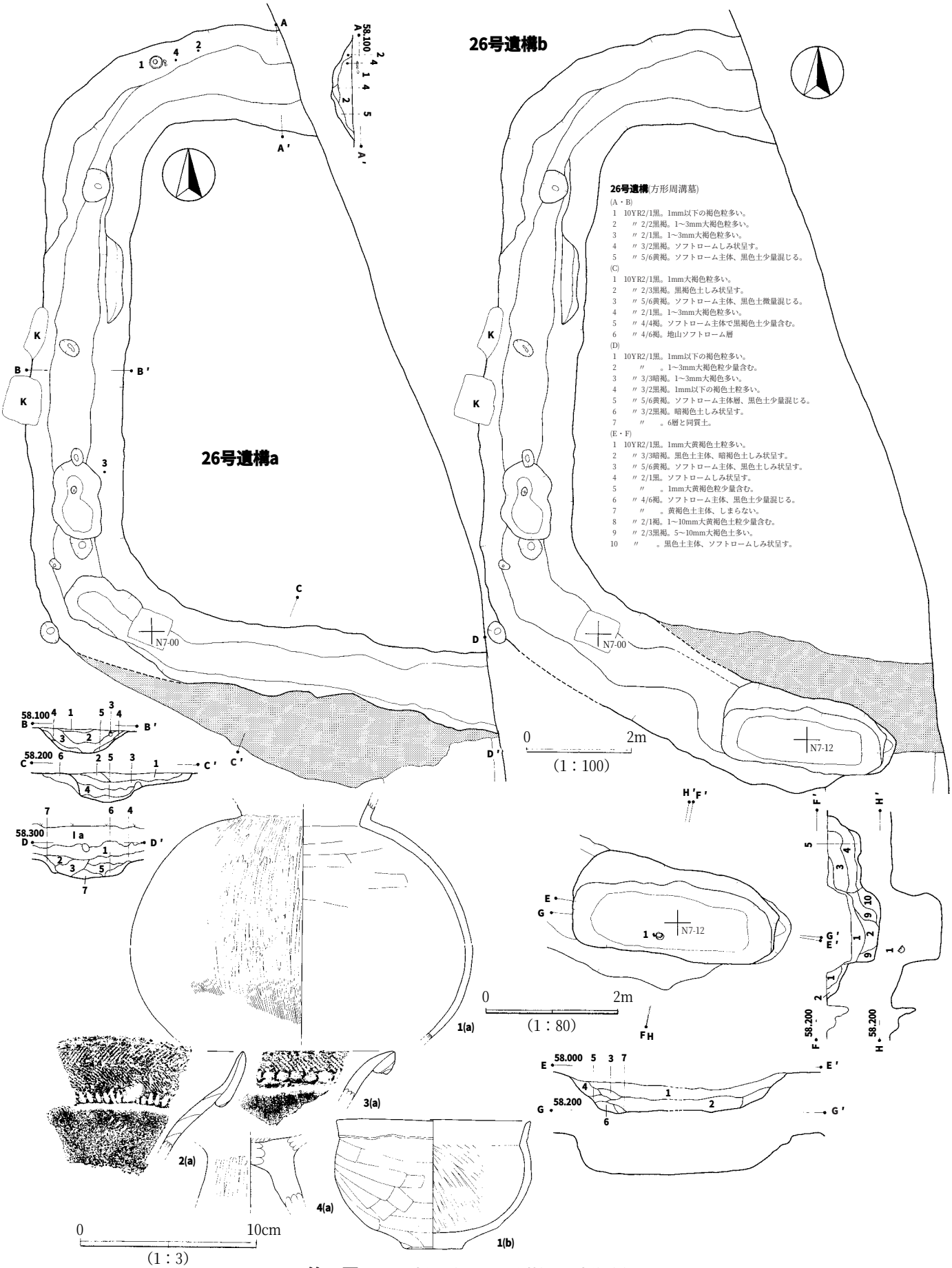
第28図　25号遺構（方形周溝墓）・遺物実測図

遺物は弥生時代終末期で、1・2が壺、3が炉器台である。ほとんど周溝覆土上面からの出土である。

1は近畿地方風の複合口縁壺(頸部)である。3は20号遺構№1と同一個体の可能性がある。

4は刀子で、平造りの刀身部に鞘の木質が付着する。刀身部は現状長7.9cm、厚さ3.2mmを測る。遺構に伴うものか否かは不明。

5はガラス小玉で、半透明のスカイブルー色、径4.1mm～4.0mm、外孔口径1.3mm～1.3mm、内孔口径1.3mm～1.25mm、高さ1.6mmを測る。周溝覆土からの一括出土なので、隣接周溝墓に伴う可能性もある。周溝覆土は篩っていないので、同様の遺物を見落とした恐れがある。



第29図　26号遺構（方形周溝墓）・遺物実測図

24号遺構(B区)　21～23号の東西軸に乗るが、若干北にずれる。19号遺構に接するが、周溝は共有しない。南側周溝は全容が明らかでないが、一段掘り下がる形状で、掘形の長さ280cm以上、幅88cm、周溝底面からの深度24cmを測り、周構内土壙の可能性がある。壺(1)と鉢(5)が覆土上面に置かれた状態で出土した。

1～3が壺、4が甕、5・6が鉢である。すべて覆土上層から出土した。

1は弥生時代終末期後半の壺で、体部調整がずさんであり、26号遺構aの壺(№1)より新しい。5の鉢と共に周構内土壙(か)の覆土上面に置かれていた。周構内埋葬に対する供献土器の可能性がある。

2・3は後期後半の土器で、集落に伴った遺物が流れ込んだものと考えられる。4は外面にタタキを施した近畿地方風の甕だが、1・5に比べると古相を呈する。流れ込みか。

5は弥生時代終末期後半の土器である。

25号遺構(B区)　いずれの遺構列にも属さず、谷よりの傾斜変換面付近に位置する。周溝の南隅を欠くが、この部分の掘形が浅くぬるいので、計画的な切り欠きではなく、覆土が斜面に滑落したものと判断している。北西周溝は中央からやや北よりに畝状の膨らみがある。北東側周溝は、中央に向け段状に深くなるが、周構内土壙の可能性を残す。

遺物は1が高杯で、五領式以前、弥生時代終末期後半の土器と思われる。北東周溝の底部付近から出土した。2は磨石で、縄文早期の流れ込みである。

26号遺構a(B区)　21号遺構の東側に位置し、21～24号遺構列を意識しているものと思われるが、周溝は共有しない。

遺物は周溝覆土上面からの出土であるが、26号bより古相である。1～3が壺、4が高杯である。

1と4は弥生時代終末期後半の遺物と思われるが、ヘラミガキによる外面調整の様子から、五領式に近い様相を呈する。2・3は弥生後期後半の土器で、混ざり込みと思われる。

26号遺構b(B区)　周溝内埋葬のため、26号遺構a南側周溝を一部作り直している。周構内土壙は長径335cm、短径140cm、周溝底面からの深度32cmを測り、断面観察で棺痕跡らしき窪みを捕捉している(セクションF)。

遺物は五領式の鉢が1点で、土壙覆土上面から出土した。埋葬に伴う供献土器の可能性は濃厚で、周溝墓に伴う最も新しい遺物である。

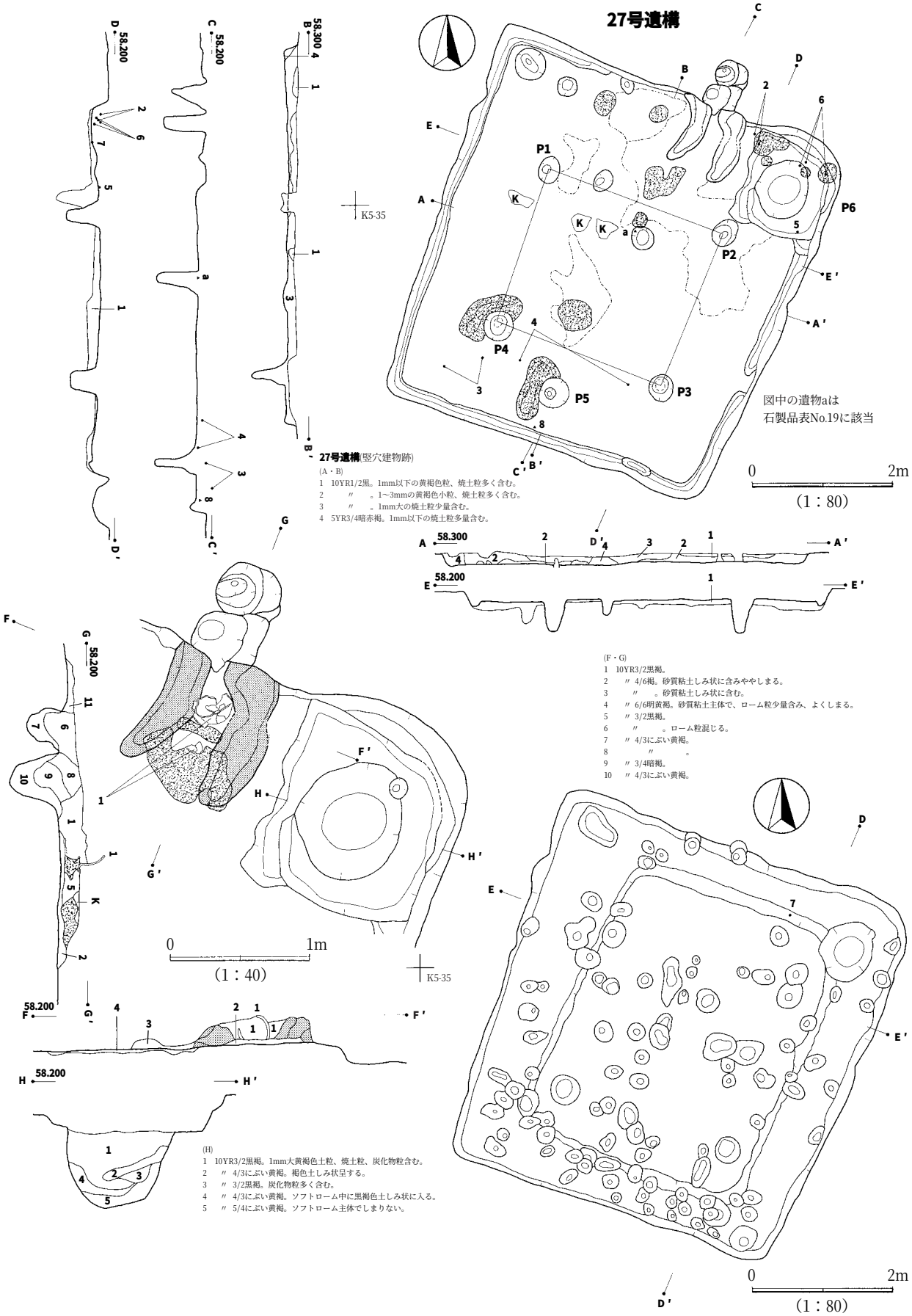
5　古墳時代中期～後期

(1)　竪穴建物跡(12・27号遺構)

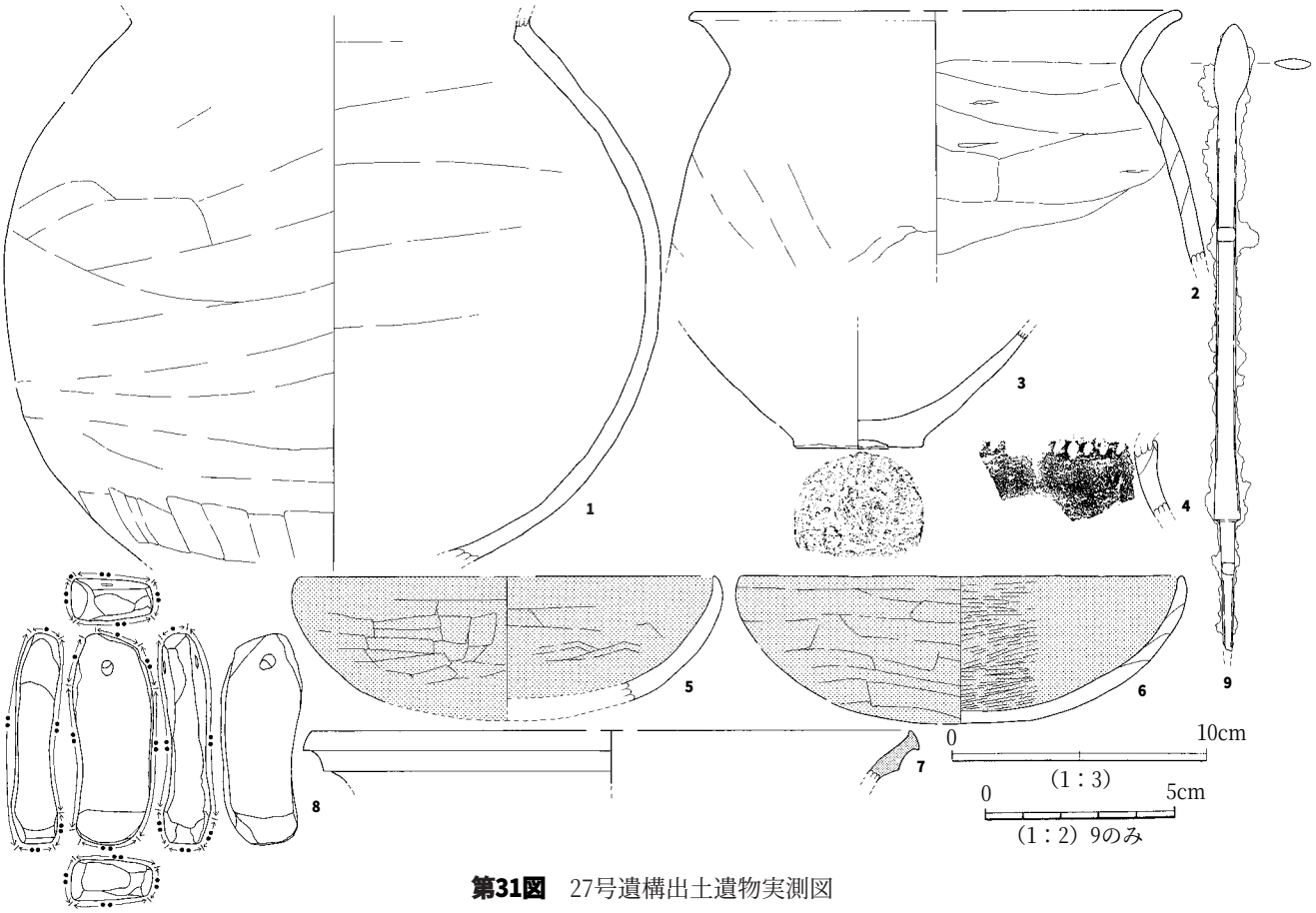
12号遺構(A区)　カマドの袖と思われる山砂ブロックが検出されている。27号遺構と隣接するが、主軸方位が大きく西に振れ、遺物量も少ないため、新旧は不明である。覆土中に焼土・炭化物が認められるので、家屋を焼失した可能性が高いが、焼失住居にしては穏やかな覆土と言える。貼床充填層の状況から、建て替えはないものと見られる。

遺物1は混ざり込みで、口縁部に面取りした弥生時代終末期の甕である。

27号遺構(A区)　主軸方位は東に振れる。覆土中に焼土粒を多く含み、焼失住居の可能性が強いが、あまり顕著ではない。主柱穴は建て替え痕跡がなく、北東壁際の中央からやや東寄りにカマドを1基持ち、中央に甕が崩落状態で出土した。カマドの隣り、東コーナーに貯蔵穴を備える。南北軸132cm×東西軸122cm×深度(床から)9cmの方形の掘形中央に、長径90cm×短径76cm×深度(方形掘形



第30図　27号遺構（竪穴建物跡）実測図



第31図　27号遺構出土遺物実測図

から)59cmの円形土坑を掘る。主柱穴はP1～4で、それぞれ長径38cm・深度43cm、長径43cm・深度49cm、長径38cm・深度38cm、長径44cm・深度65.9cmを測る。建て替えおよび抜き取り痕跡はないが、ピット2は一旦掘った穴を廃止し、隣りに掘り直したものである。梯子ピットは深く垂直に掘り込む。長径43.2cm、深度61.2cmを測る。住居の掘形は中央を方形の島状に突出させる形状で、下場全面が貼床である。カマド周囲と床中央に硬化面がある。

遺物は1・2が甕で、それぞれカマド内と貯蔵穴脇から出土した。胴が丸みを帯びる。5・6は杯で、貯蔵穴の覆土上面から出土した。全面赤彩。6は内面をヘラミガキする。7は須恵器の壺で、TK208型式の特徴を持ち、土師器甕、杯の年代観と合致する。

8は砥石で全面をよく利用している。上面に1カ所穿孔する。持ち運びのためか。

9は鉄鏃で、刃部は木の葉状を呈し、峰はない。軸は茎に向かって先太りし、茎は一回り細い。

3・4は弥生時代の甕で、混ざり込みである。3はドーナツ状の底を持ち、中央部に木葉痕を残す、近畿的な土器である。

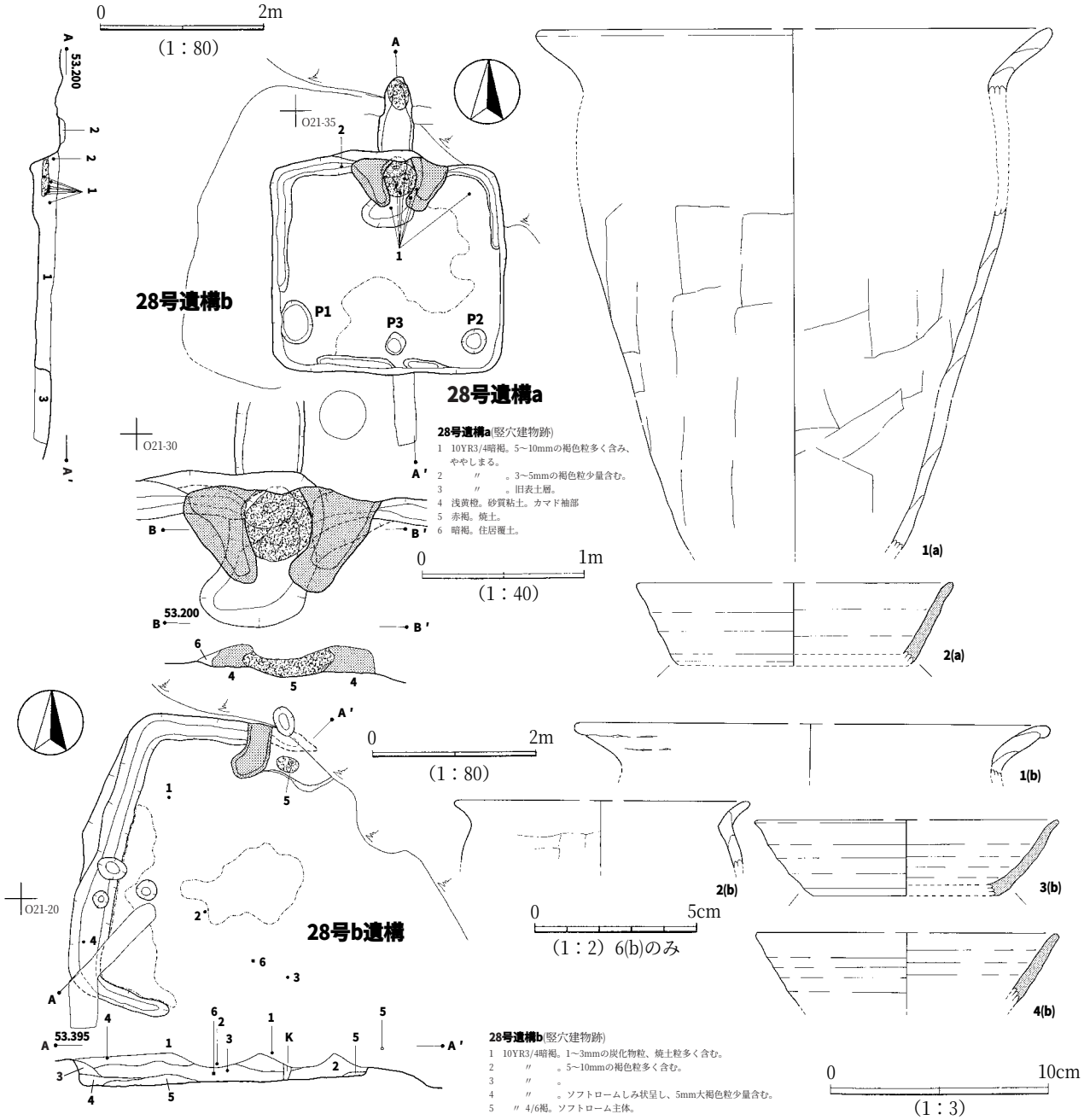
6　古墳時代終末期～平安時代　(58～72号遺構は中世以降)

(1)　竪穴建物跡(28～34号遺構)

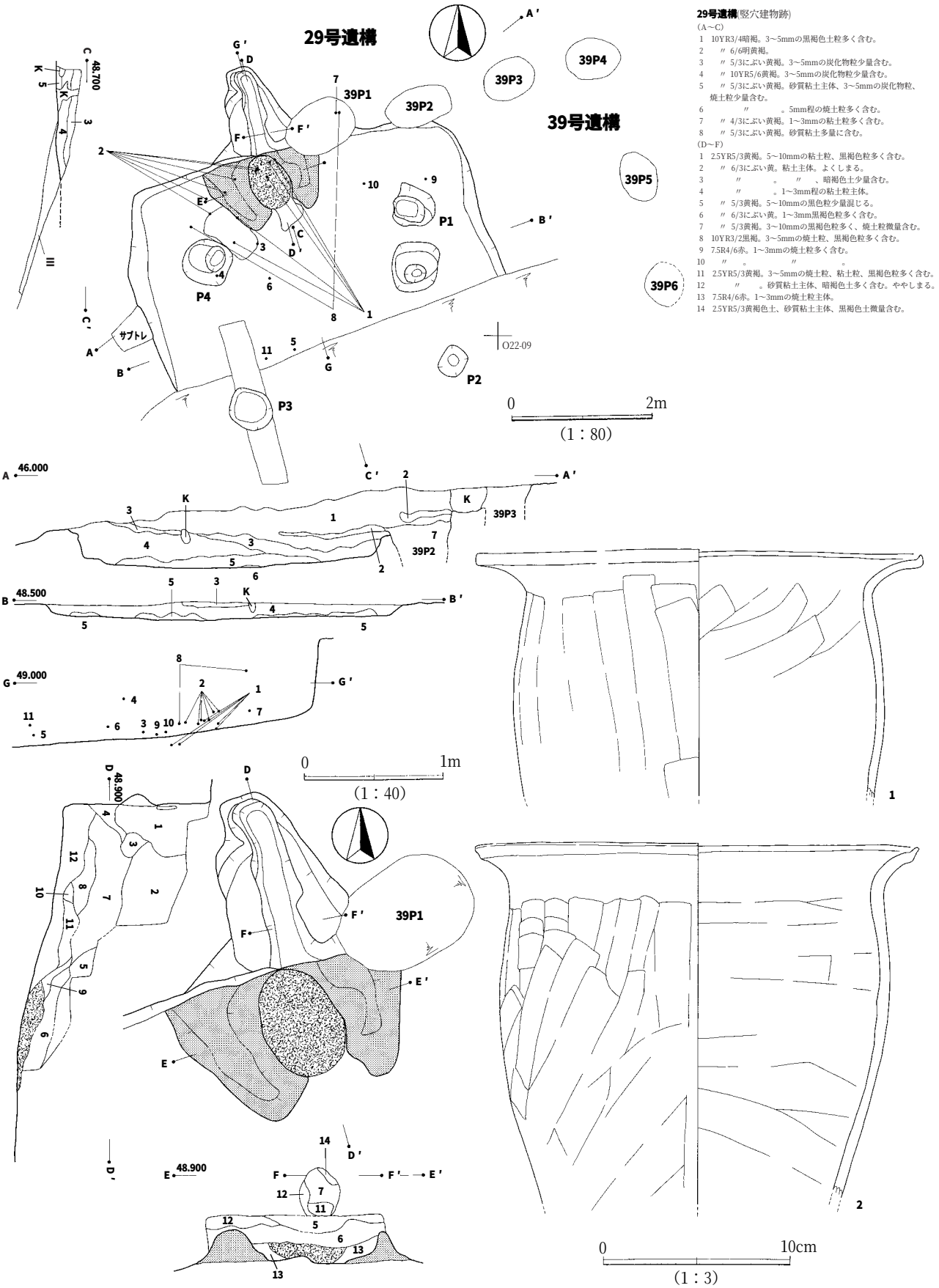
建て替えを含め、E区に9軒、C区に4軒確認された。E区の遺構群は台地突端の傾斜変換面に位置するため、遺構の遺存が悪い。出土遺物はC区より古い傾向がある。

28号遺構a(E区)

台地尾根筋に位置する小規模の竪穴建物跡で、柱穴は南側のP1・2が該当すると思われるが、2基



第32図　28号遺構a・b（竪穴建物跡）・遺物実測図



29号遺構(竪穴建物跡)

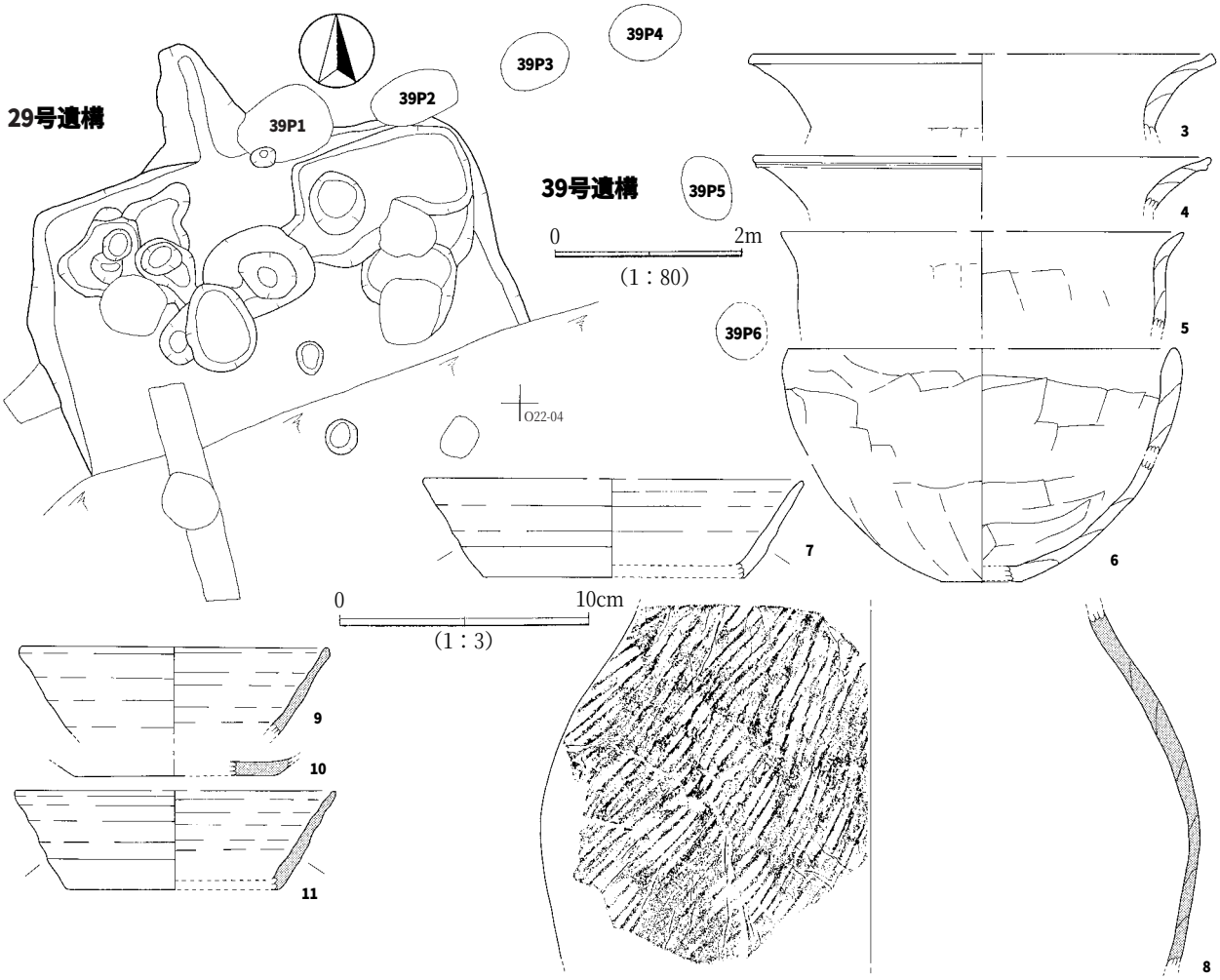
(A～C)

1 10YR3/4暗褐。3～5mmの黒褐色土粒多く含む。
2 〃 6/6明黄褐。
3 〃 5/3にぶい黄褐。3～5mmの炭化物粒少量含む。
4 〃 10YR5/6黄褐。3～5mmの炭化物粒少量含む。
5 〃 5/3にぶい黄褐。砂質粘土主体、3～5mmの炭化物粒、焼土粒少量含む。
6 〃 。5mm程の焼土粒多く含む。
7 〃 4/3にぶい黄褐。1～3mmの粘土粒多く含む。
8 〃 5/3にぶい黄褐。砂質粘土多量に含む。

(D～F)

1 2.5YR5/3黄褐。5～10mmの粘土粒、黒褐色粒多く含む。
2 〃 6/3にぶい黄。粘土主体。よくしまる。
3 〃 。 〃 、暗褐色土少量含む。
4 〃 。1～3mm程の粘土粒主体。
5 〃 5/3黄褐。5～10mmの黒色粒少量混じる。
6 〃 6/3にぶい黄。1～3mm黒褐色粒多く含む。
7 〃 5/3黄褐。3～10mmの黒褐色粒多く、焼土粒微量含む。
8 10YR3/2黒褐。3～5mmの焼土粒、黒褐色粒多く含む。
9 7.5R4/6赤。1～3mmの焼土粒多く含む。
10 〃 。 〃 。
11 2.5YR5/3黄褐。3～5mmの焼土粒、粘土粒、黒褐色粒多く含む。
12 〃 。砂質粘土主体、暗褐色土多く含む。ややしまる。
13 7.5R4/6赤。1～3mmの焼土粒主体。
14 2.5YR5/3黄褐色土、砂質粘土主体、黒褐色土微量含む。

第33図　29号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図



第34図　29号遺構出土遺物実測図

しか確認できなかった。それぞれ径55cm・深度8.4cm、径32cm・深度27.0cmを測る。梯子ピットは垂直に掘り込み、長径26cm、深度22.7cmを測る。出土遺物は29号遺構と同時期で、31号遺構a(C区竪穴建物跡)より古い可能性が高い。

遺物は微少で、甕(1)と須恵器の杯(2)が出土した。なお、製鉄関連遺物が一定量出土しているが、混入であろうか。遺構a・b一括で鉄塊系遺物35.0ｇ、含鉄鉄滓134.1ｇ、鉄滓148.8ｇを量る。

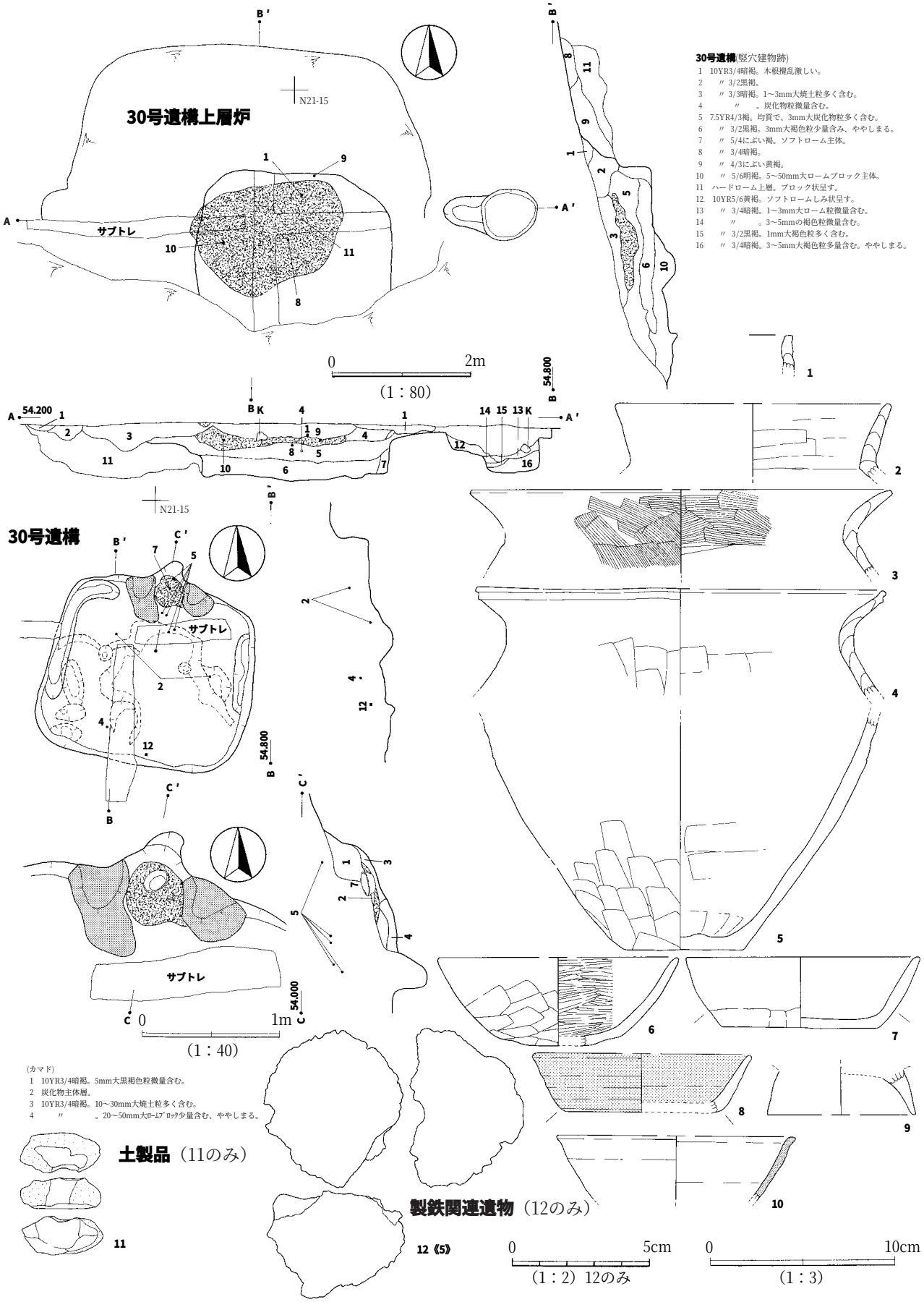
28号遺構b(E区)

28号遺構aの建て替えと思われ、規模は拡大している。カマドは脆弱で、西側に周溝を廻らす。主柱穴は認められない。

遺物1・2は土師器甕、3・4は須恵器杯である。

なお、土器以外の遺構a・b一括遺物として、土製品(1)と鉄製品(2)が出土したが、性質は不明である。1は多量の山砂を含む粘土魂で、イネ科植物の圧痕が付く。36号遺構(掘立柱建物跡)などの壁材の可能性がある。2は刀子状製品としたが、刃が付かず、未製品の可能性もある。

29号遺構(E区)　28号遺構と遺物は同時期だが、主軸方位は西に振れる。尾根筋から斜面への傾斜変換面に位置するため、遺構南側が流出している。39号遺構(掘立柱建物)に切られているように見受けられるが(セクションA)、切り合い部は明瞭でない。北壁際のほぼ中央にカマドを1基持つ。袖の遺存



30号遺構(竪穴建物跡)
1 10YR3/4暗褐。木根撹乱激しい。
2 〃 3/2黒褐。
3 〃 3/3暗褐。1～3mm大焼土粒多く含む。
4 〃 。炭化物粒微量含む。
5 7.5YR4/3褐。均質で、3mm大炭化物粒多く含む。
6 〃 3/2黒褐。3mm大褐色粒少量含み、ややしまる。
7 〃 5/4にぶい褐。ソフトローム主体。
8 〃 3/4暗褐。
9 〃 4/3にぶい黄褐。
10 〃 5/6明褐。5～50mm大ロームブロック主体。
11 ハードローム上層。ブロック状呈す。
12 10YR5/6黄褐。ソフトロームしみ状呈す。
13 〃 3/4暗褐。1～3mm大ローム粒微量含む。
14 〃 。3～5mmの褐色粒微量含む。
15 〃 3/2黒褐。1mm大褐色粒多く含む。
16 〃 3/4暗褐。3～5mm大褐色粒多量含む。ややしまる。

第35図 30号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図 《 》は分析No

度は悪く、構築材と思われるシルト質のブロックがカマド内に散っていた。ただし煙道はトンネル状に遺存していたので、正面をカマドセクションE上に投影し図示した(丸く出張ったように見える部分)。主柱穴はP1～4で、それぞれ長径63cm・深度31.3cm、長径44cm・深度39.4cm、長径63cm・深度25.4cm、長径68cm・深度51.0cmを測る。建て替えおよび抜き取り痕跡はない。遺構の掘形はピット1・4周辺がやや掘り下がった状態で、上に貼床している。

遺物はカマド周辺から甕(1・2)が、貼床下から甕(3～5・8)・鉢(6)・杯(7・9～11)が出土している。なお、図示しなかったが、製鉄関連遺物も一定量出土している。混入であろうか。鉄塊系遺物89.2ｇ、含鉄鉄滓20.9ｇ、鉄滓53.9ｇを量る。これらのうち88.9ｇは床下レベルから出土したものである。

30号遺構(E区)　出土遺物は28号遺構と同時期だが、主軸方位は若干東に振れる。29号遺構同様の立地のため、遺構南壁が流出している。主柱穴は認められず、北壁中央にカマドを1基持つ。遺構掘形は中央部以南が一段下がる形で、上に貼床する。

遺構がほぼ埋没した段階で、窪みを炉に転用している。製鉄関連の炉の可能性があり、遺物11・12が出土している。建物跡覆土からは製鉄関連遺物が一定量出土しているが、混入であろうか。総量は鉄塊系遺物12.4ｇ、含鉄鉄滓430.3ｇ、椀形鍛冶滓365.8ｇ、含鉄椀形鍛冶滓390.5ｇ、鉄滓565.1ｇを量る。これらのうち鉄塊系遺物3.1ｇ、含鉄鉄滓59.3ｇ、含鉄椀形鍛冶滓45.0ｇ、鉄滓114.8ｇは、覆土上層の炉から出土したものである。

遺物1～3は混ざり込みと思われる。8は土師器杯で、全面赤彩を施す。

11は羽口で、炉の下層から出土した。端部であるが、滓は付着せず、被熱痕もない。

12は含鉄椀形鍛冶滓で、分析の結果、製鉄工程の初期・中期を表すことが確認されている。詳細は第6章の資料№5を参照されたい。

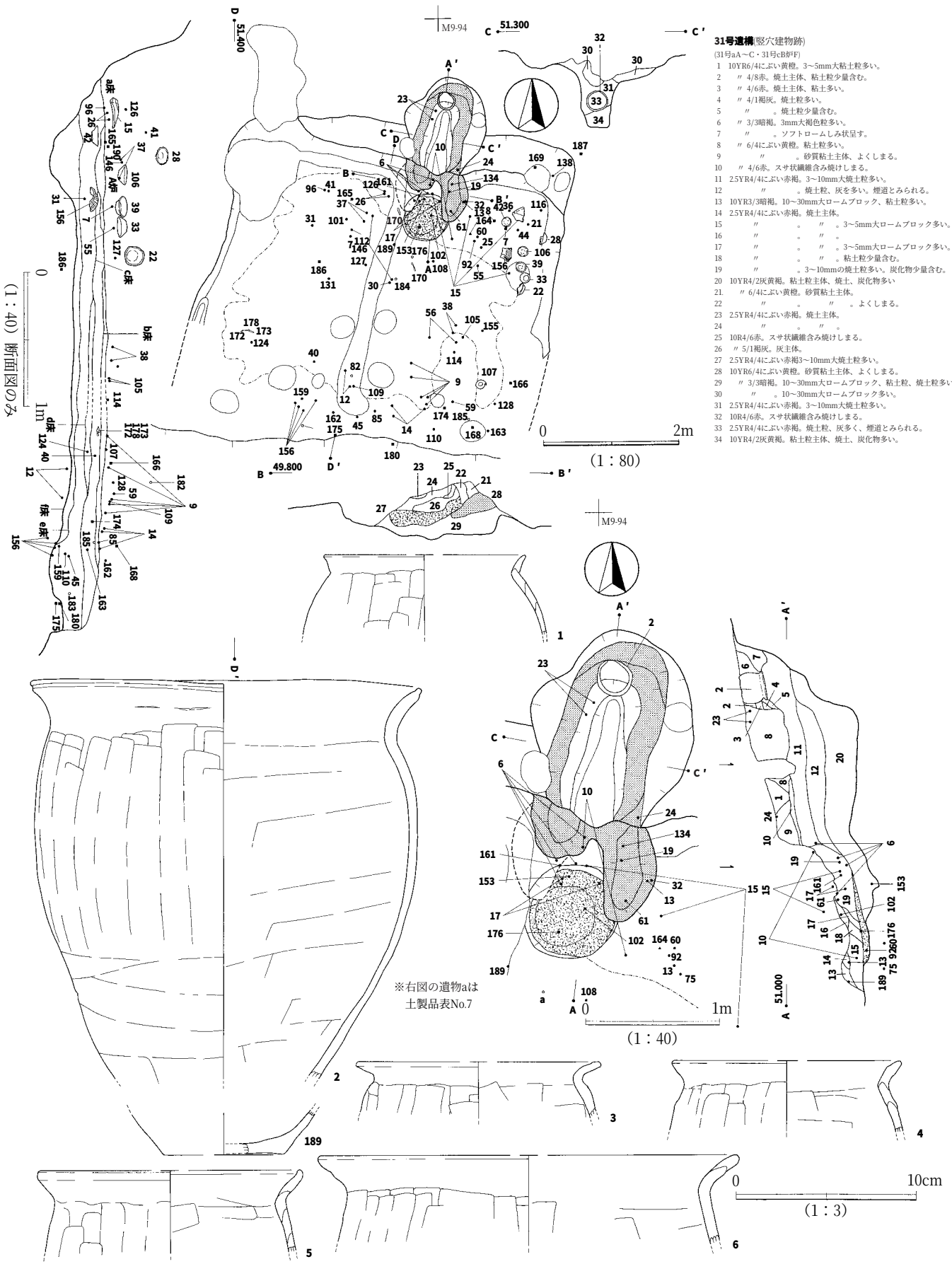
31号遺構(C区)　緩やかな斜面上に位置し、32号遺構に切られる。a～fまで6面の床を持つ。d～fは西側においてほぼ同位置での建て替えになる。遺物的には遺構aが断然豊富で、多量の線刻土器を伴う。鉄製品も多く出土するが、種の同定が困難な遺物が多く、未製品が多量に含まれるものと解釈している。なお、下記の遺物(第44図)はa～fの一括として扱うものである。

1～11は鉄製品である。1は角棒状の破片である。2は方形板状で、端部が両刃状に絞れる。3～4は十字状の角棒だが、交差部の成形方法は不明である。5は端部が絞れる角棒で、太さは3～4に一致するので、同種製品の可能性がある。6も角棒状だが、断面は長方形である。7・8は刀子で、7は柄に木質部を残すため、関の形状は不明。茎は比較的厚みがある。8は背が曲線的なタイプで、刃がぬるいことから、未製品の可能性を残す。9は釘で、カマド周辺から出土しており、遺構aに帰属する可能性が高い。10は板状の未製品か。11は鑿状の刃を持つが、未製品の可能性がある。

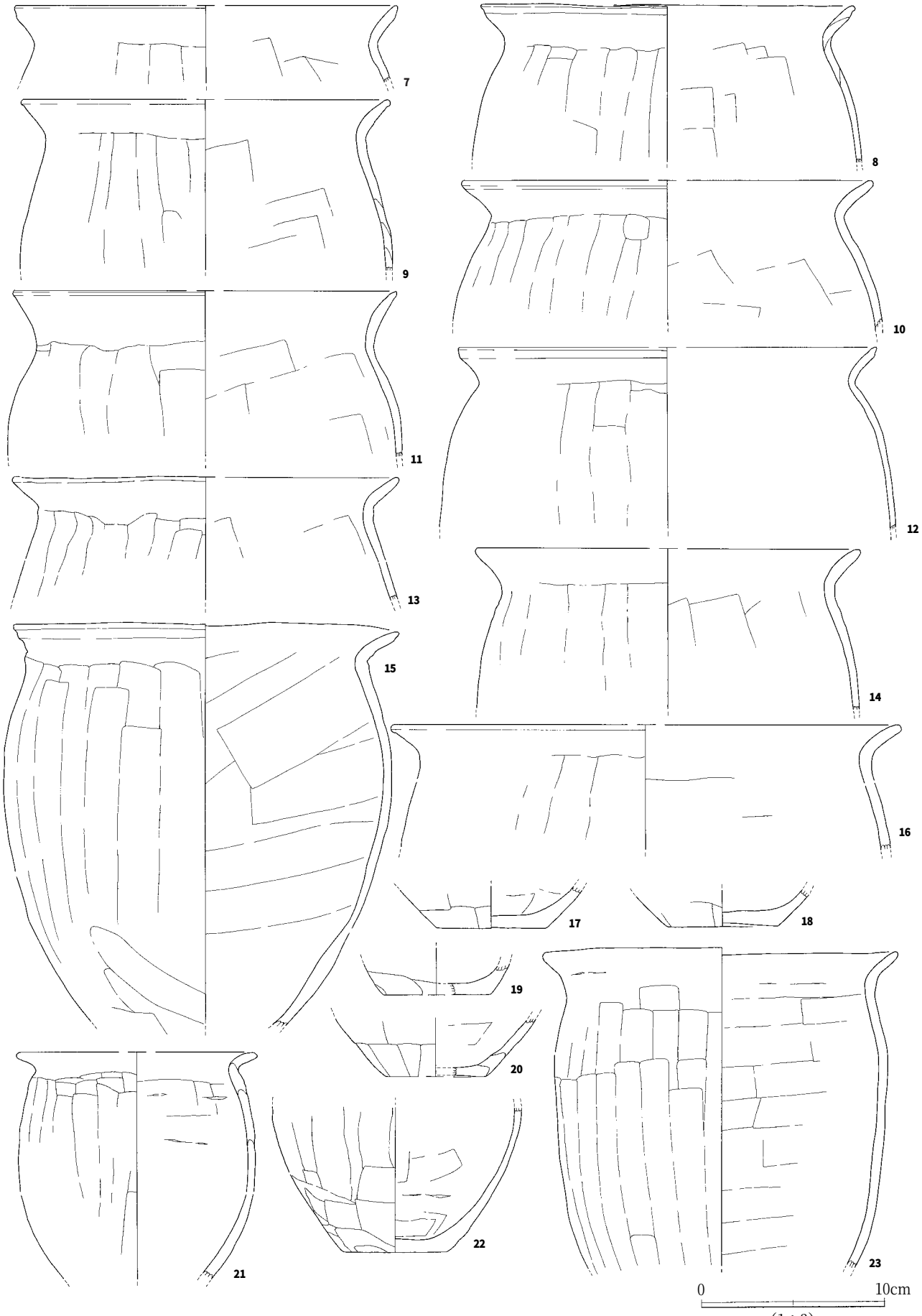
12は凝灰岩の砥石で、きめ細かく、仕上げ砥であろう。極めてよく使い込まれる。13は縄文時代の敲石と思われる。

製鉄関連遺物の総量は、鉄塊系遺物171.8ｇ、含鉄鉄滓140.3ｇ、椀形鍛冶滓44ｇ、含鉄椀形鍛冶滓2,849.1ｇ、鉄滓281.7ｇを量る。

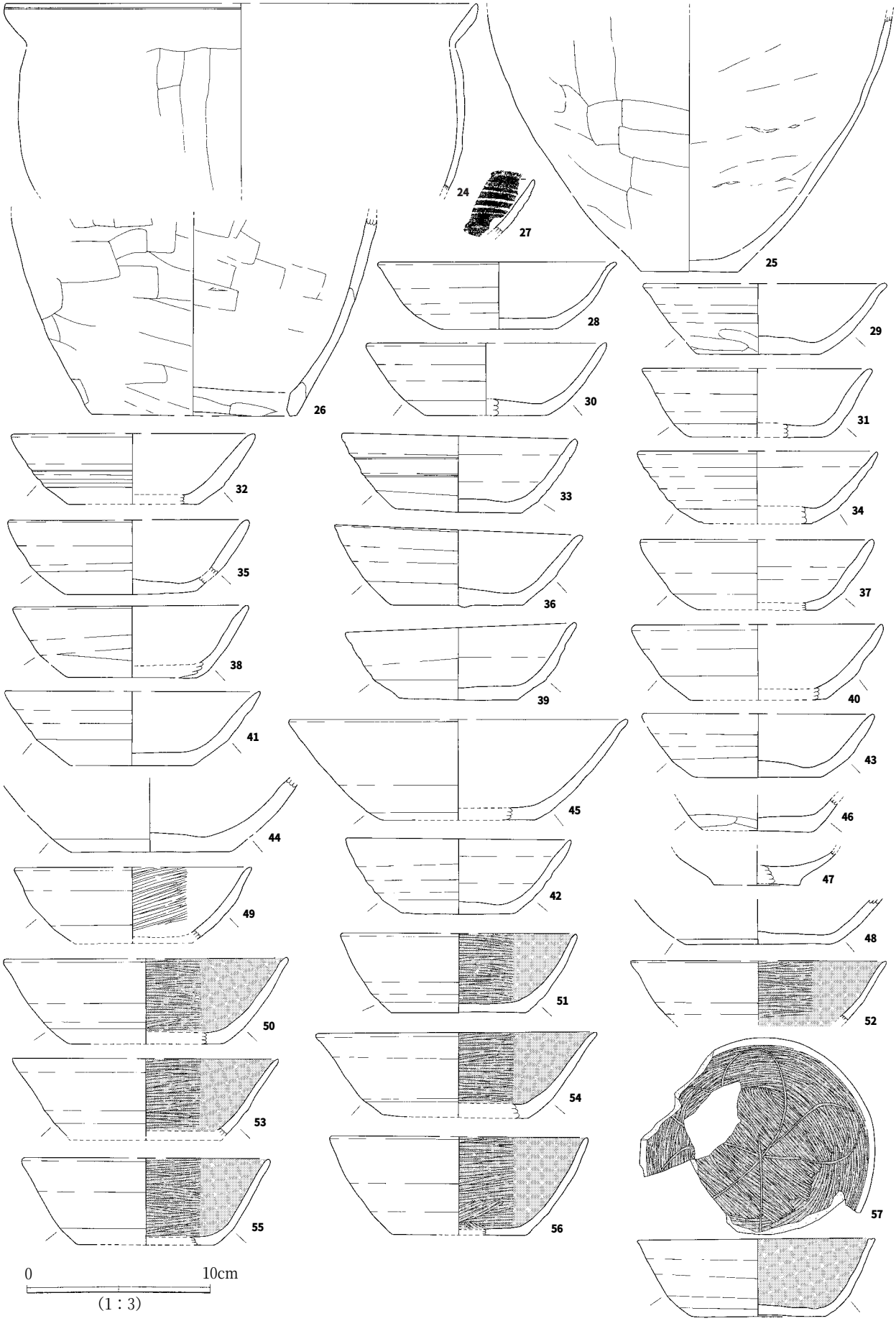
31号遺構a　最上層の床aを伴う。主柱穴は確認できず、北壁際の中央から若干東よりにカマドを1基持つ。煙道は溝状の掘形に地下式の煙出しを付けたものと思われ、端部に逆さにした甕(2)を埋め込んでいる。北東コーナー付近には杯がまとまっており、106・39・33・22は床から少し浮いた状態で並



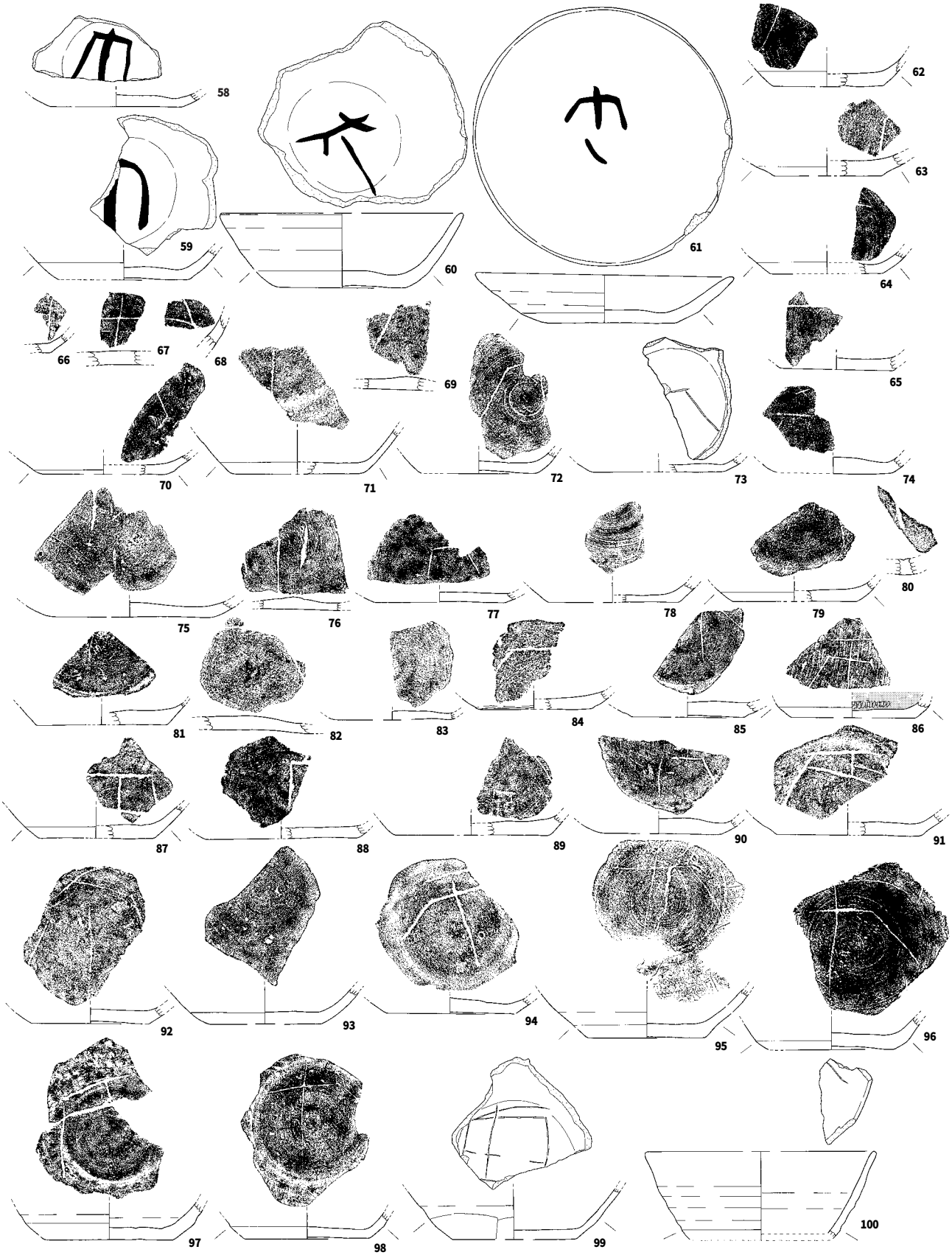
第36図　31号遺構a（竪穴建物跡）・遺物実測図



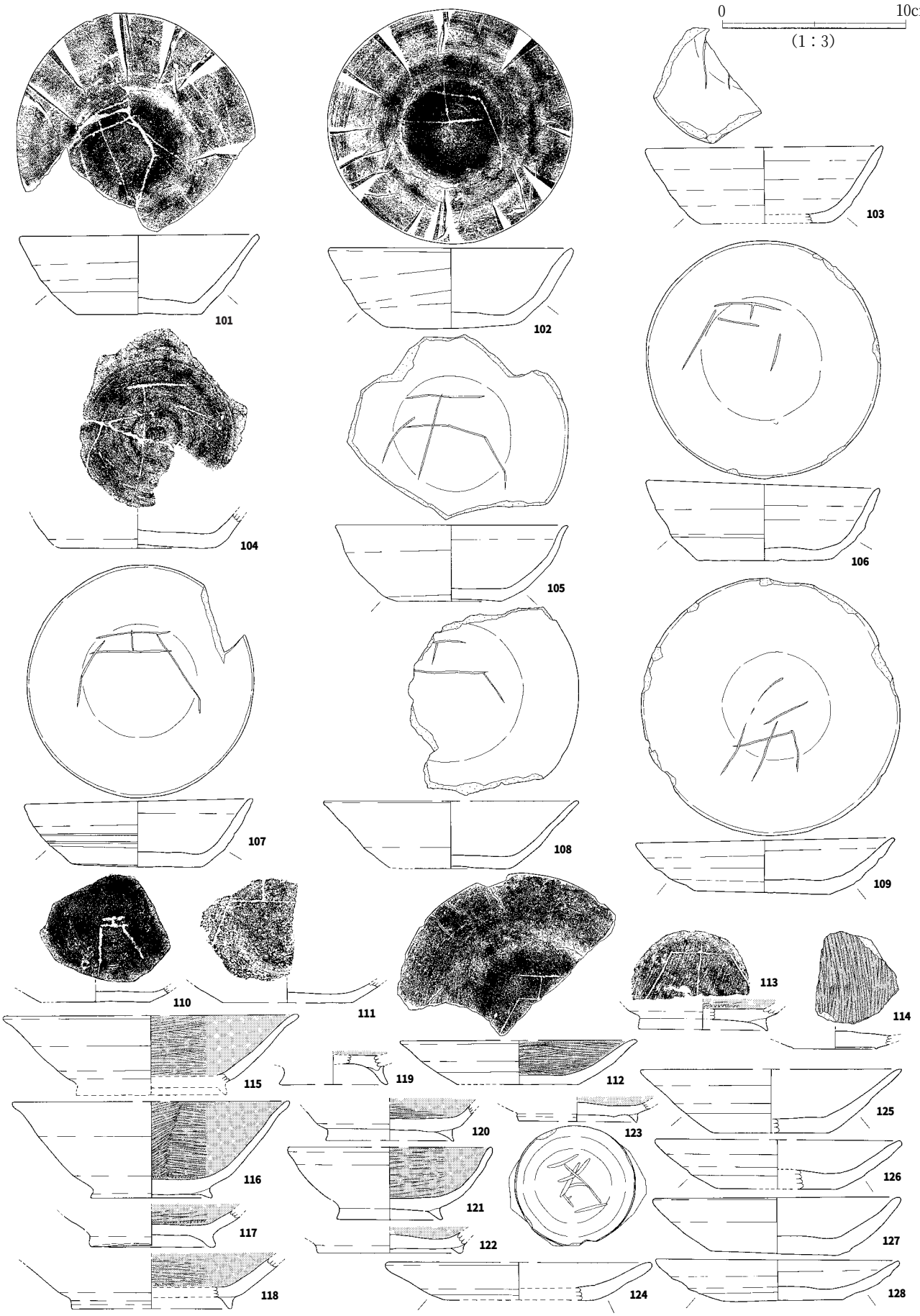
第37図　31号遺構a出土遺物実測図



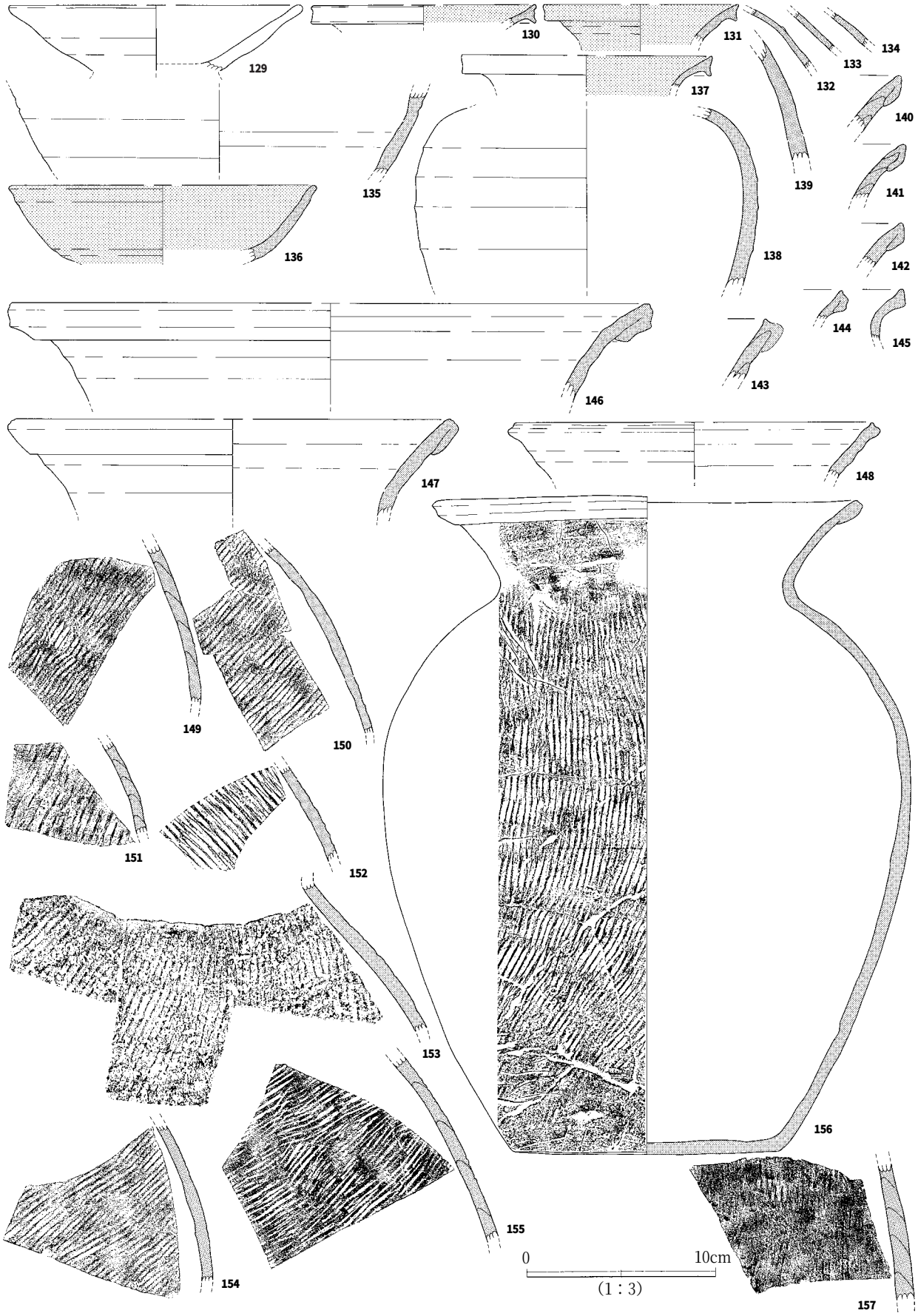
第38図　31号遺構a出土遺物実測図



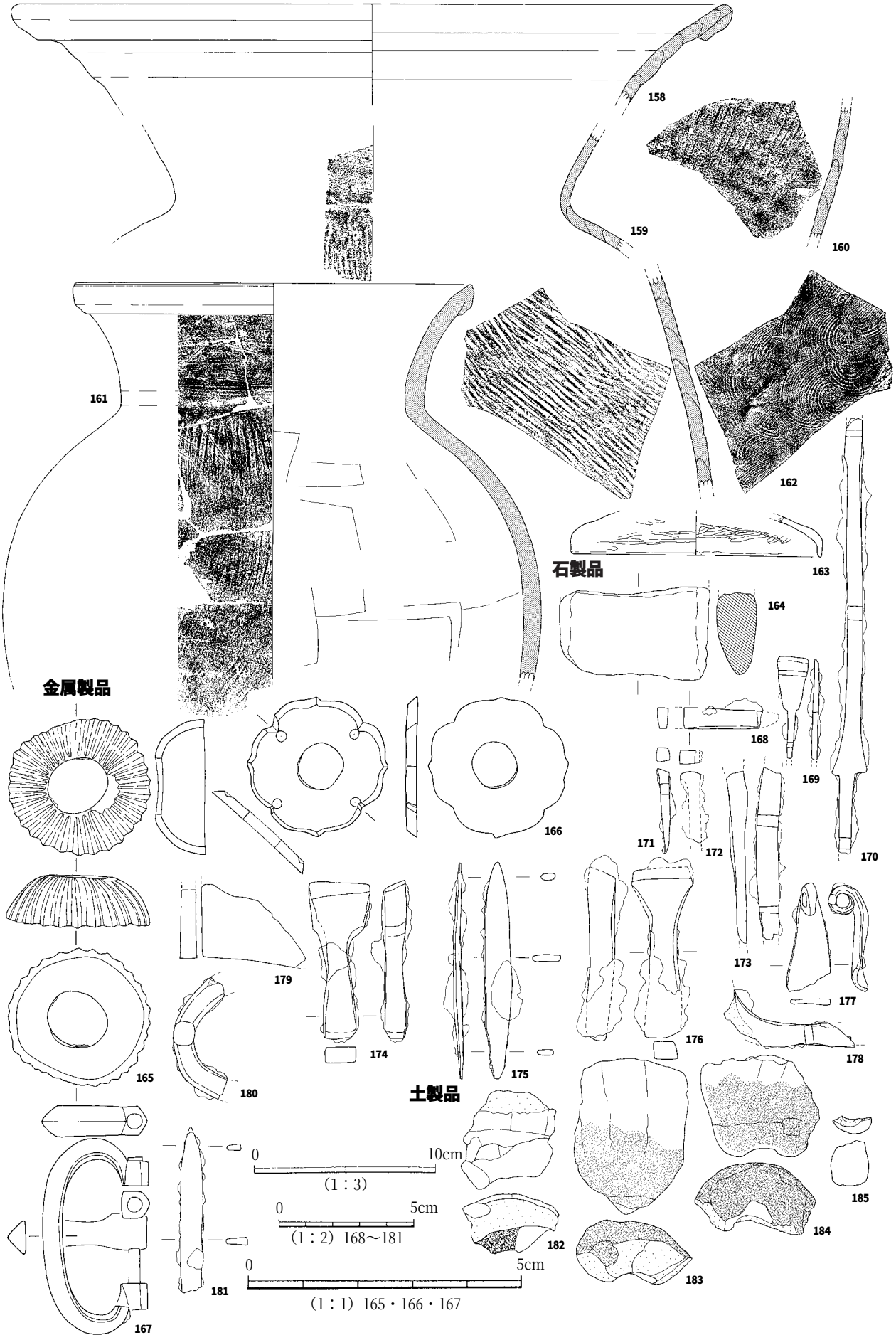
第39図　31号遺構a出土遺物実測図



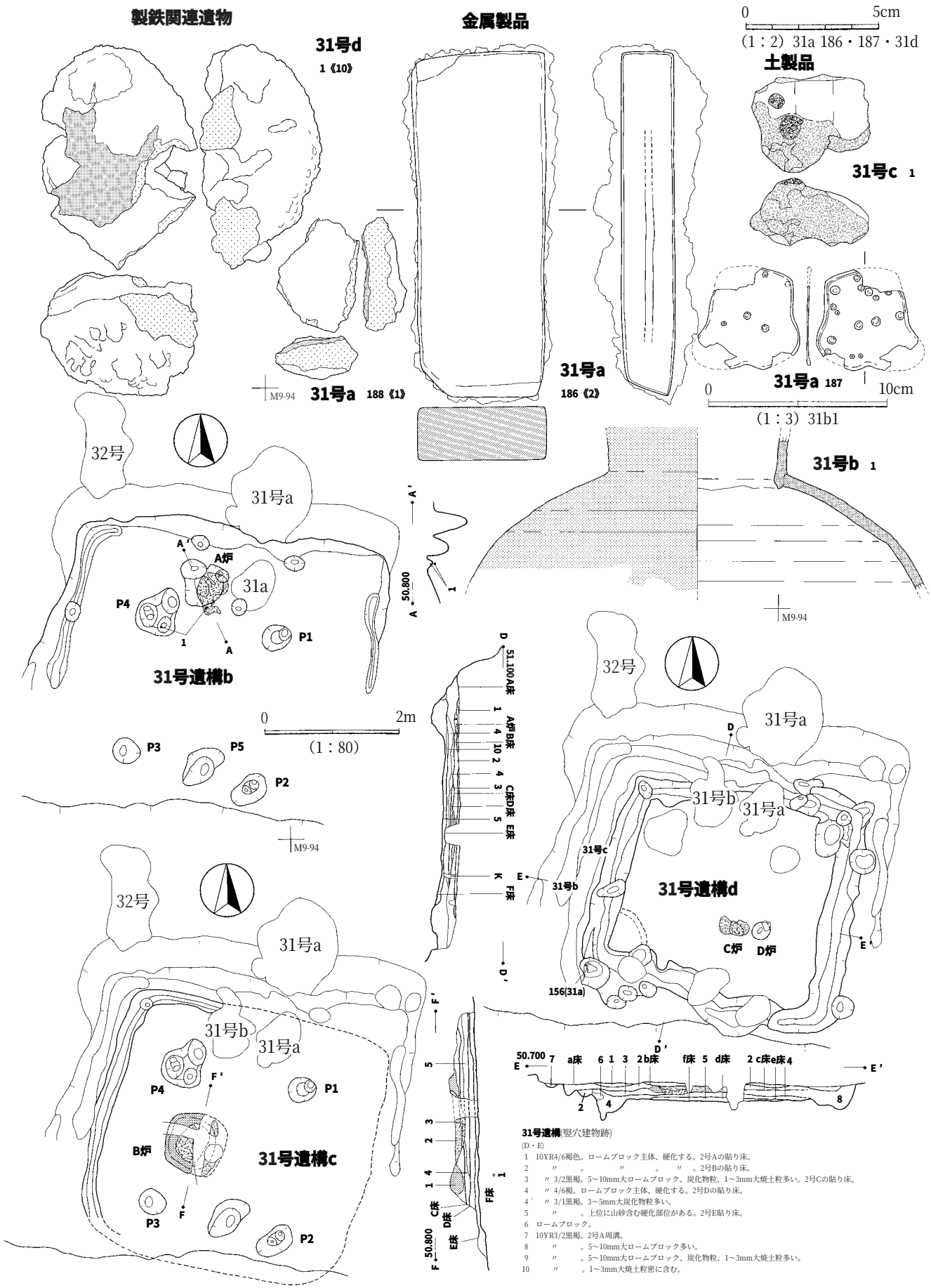
第40図　31号遺構a出土遺物実測図



第41図　31号遺構a出土遺物実測図



第42図　31号遺構a出土遺物実測図



第43図 31号遺構b～d（竪穴建物跡）・a～d遺物実測図 《 》は分析No

んで出土している。

1から25は甕、26は甑で、当然同一個体も含むと思われるが、量的に多いことが指摘できる。

28から129は椀・皿・杯類である。杯・皿の調整技法は外面底部で以下の4パターンが認められる。

①底部付近から底部を右回転ヘラ削り調整する。

②底部付近から底部を、手持ちで左方向ヘラ削り調整する。底部中央に回転糸切痕残す。

③底部右回転糸切痕無調整。体部も横ナデのみ。

④体部は横ナデのみだが、底部に右回転ヘラ削り調整を施す。

ほとんど①で、墨書土器は4点、線刻土器は52点である。詳細は表3を参照されたい。なお、№185はb床直上、40・174はb貼床下、124はd床直上、45・110・183はd貼床下、29はe貼床下、156はf床直上、12・120・175・180はf貼床下から出土している。図版作成段階で遺構aとして取り扱っているが、本来は各床に帰属する遺物である。

58～61は墨書土器で、見込みに則天文字「天」を描くが、60のみは「太」銘である。

62～113は線刻土器で、焼成後による。すべて則天文字の「天」銘と思われる。

金属製品は165～167・187が銅製品、168～181・186は鉄製品である。鉄製品に性質不明の個体が多いことが特徴に挙げられ、未製品の可能性がある。

165・166は金銅製辻金具で、それぞれカマド西脇の床直上、遺構東壁付近の床面上層から出土した。詳細は第3章を参照されたい。167は帯金具の鋲具で、銅製品である。C字形金具は両端に棒材を通すための張り出しが付く。棒材は鉄製の別材で、挿入後、飛び出し部を潰しているものと思われる。187は飾り金具と思われ、枠を貼り付けた薄板に疣状の突起をちりばめる。

168は刀子の茎と思われるが、定かでない。169は鏃としたが、他の個体にくらべ脆弱なので、検討を要する。170は鏃で、先端を損失するが、鑿状の刃を持ったものと思われる。173は鑿状の棒材で、未製品の可能性が高い。174・176は同様の形状を持つが、未製品か。177は鉄棒の端部を環状に曲げ、一方を叩き伸ばしている。181は刀子に似て、断面もハの字状を呈するが、刃はない。186(短冊状鉄製品、f床下出土)は、分析の結果、薄い鉄板7～8枚を重ね合わせ鍛造を施したことがわかった。折り返し鍛錬加工は1・2回に止まるもので、鍛錬途中の鋼材であった可能性が高い。詳細は第6章を参照されたい。

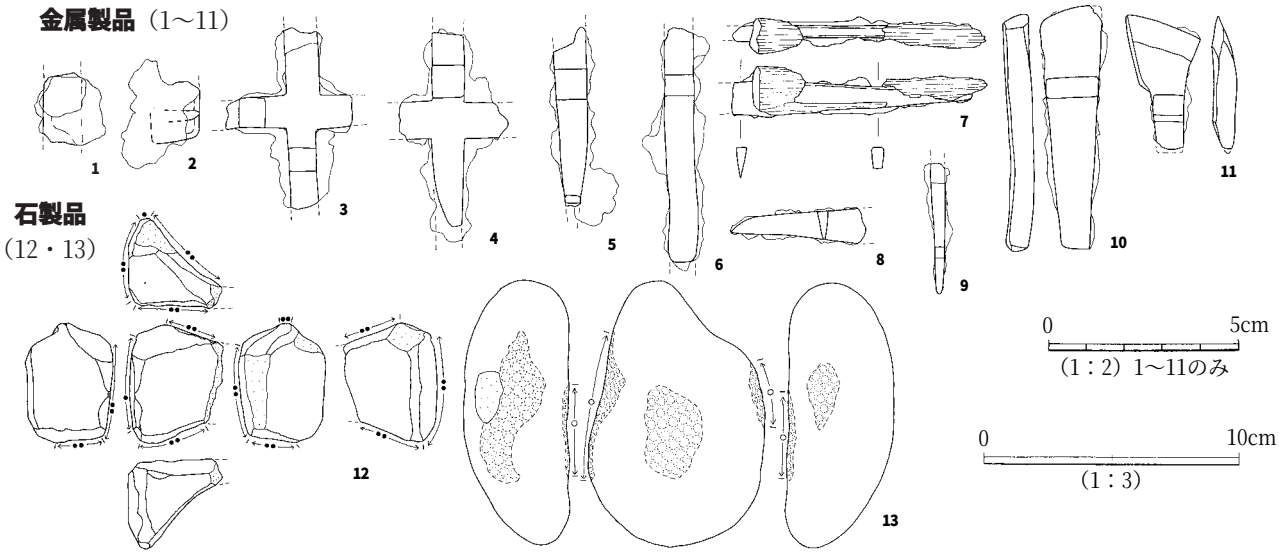
182～184は羽口先端部で、被熱発泡している。182は内面送風口に鉄分が付着する。183・184は濃緑色滓が外面に付着している。

185は土錘である。

31号遺構b　a下層の床bを伴う。カマドは改築時に作り直されたものと思われ、遺存しない。主柱穴はP1～4で、それぞれ径92cm・深度40.3cm、径118cm・深度47.1cm、径82cm・深度54.0cm、径72cm・深度41.3cmを測る。梯子ピットの掘形は長径140.8cmの楕円形で、深度25.3cmを測る。北壁中央付近にA炉を伴うが、カマドの残欠ではなく、何らかの生産遺構と捉えている。

遺物は灰釉陶器の長頸壺(1)がピット4とA炉中から出土、接合している。

31号遺構c　b下層の床cを伴う。主柱穴と梯子ピットはbと共有するので、ほとんど時期差はないものと思われる。ピット3・4間にB炉を伴う。床上に直接焼土が乗り、長径180cm、短径(180)cmの隅丸方形を呈する。羽口先端部(1)が出土した。外面は被熱発泡し、濃緑色滓と鉄分が付着する。



第44図　31号遺構一括出土遺物実測図

31号遺構d　c下層の床dを伴う。主柱穴は確認できなかったが、外法幅東西386cm、南北360cmの周溝に囲まれ、床面積としてはe～fを除き最小である。一部面的に硬化面を検出した。C炉を伴う可能性があるが、確定できない。炉の焼土部分は長径46cmを測る。一括遺物として含鉄椀形鍛冶滓(1)が出土した。分析の結果、精錬鍛冶滓で、鉄源に酸化チタン含有の砂鉄を利用していることが確認された(資料№10)。詳細は第6章を参照されたい。

31号遺構e　d下層の床eを伴うが、明瞭なプランを確定することはできなかった。C炉を伴う可能性があるが、不明確である。一部面的に硬化面を検出した。

31号遺構f　e下層の床fを伴い、一部面的に硬化面を検出したが、詳細は不明である。D炉を伴うが、窪み上に若干の焼土が乗る程度で、遺存状況が悪い。建て替え時に浚渫されたためであろうか。C炉と同程度の遺構であったと思われる。

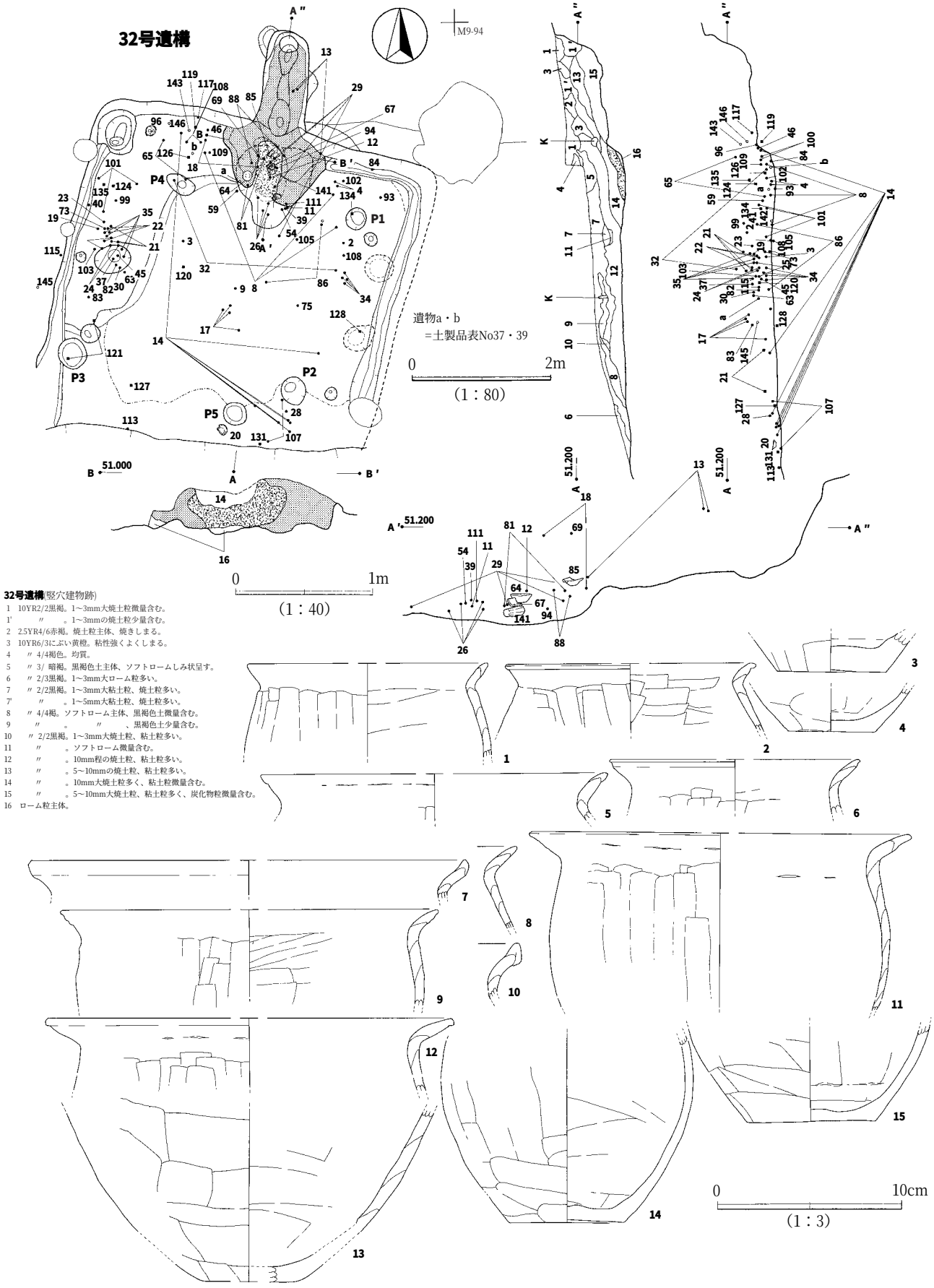
32号遺構(C区)　31号遺構を切る。建て替えであろうが、炉は伴わない。北壁際のほぼ中央にカマドを1基持つ。煙道は長さ156cmを測り、31号と同様の形態をとるものと思われる。廃絶後、カマド内に線刻杯を置いている(64・67・95)。主柱穴はP1～4だが、ピット3は位置的に検討の余地がある。それぞれ長径30cm・深度12.5cm、長径42cm・深度62.9cm、長径45cm・深度22.6cm、長径44cm・深度35.9cmを測る。梯子ピットは垂直で、径36cm、深度33.1cmを測る。建て替えおよび抜き取り痕跡はない。遺構の掘形はピット3・4～カマドライン以東を一段掘り下げる形で、上に貼床している。

遺物は床周辺に密で、墨書土器は6点、線刻土器は26点である。詳細は表3を参照されたい。

59～63・94は墨書土器で、見込みに則天文字「天」を描くが、62・94は字種不明である。62は見込み・底部両面に墨書が認められる。字種は34号№4と同一か。

64～80・94～102は線刻土器で、焼成後による。すべて則天文字の「天」銘と思われる。

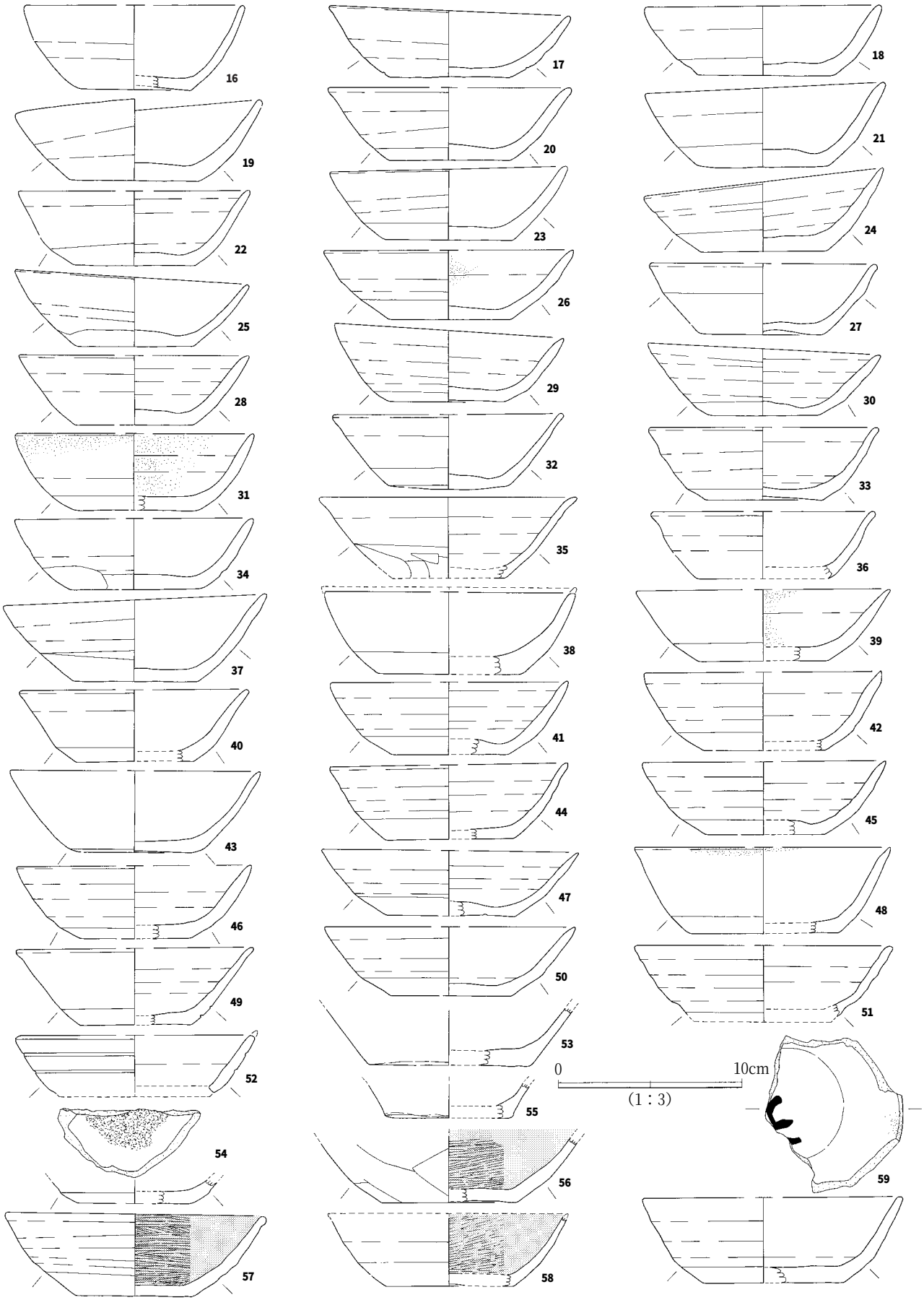
金属製品群は31号より製品的イメージが強い。119は鐘状の銅製品で、飾りの銅粒を付ける。下端の外面側がヒレ状に伸びるので、はめ込みを意識した造りであろうか。120・121は鏃だが、31・33号の個体に比べ小振りである。刃は刀子状のふくらがあるように観察された。122は刀子の責金具、123は刀子の切先で、先細である。124は穂摘鎌と思われるが、刃部はぬるい。125～133は釘だが、126・



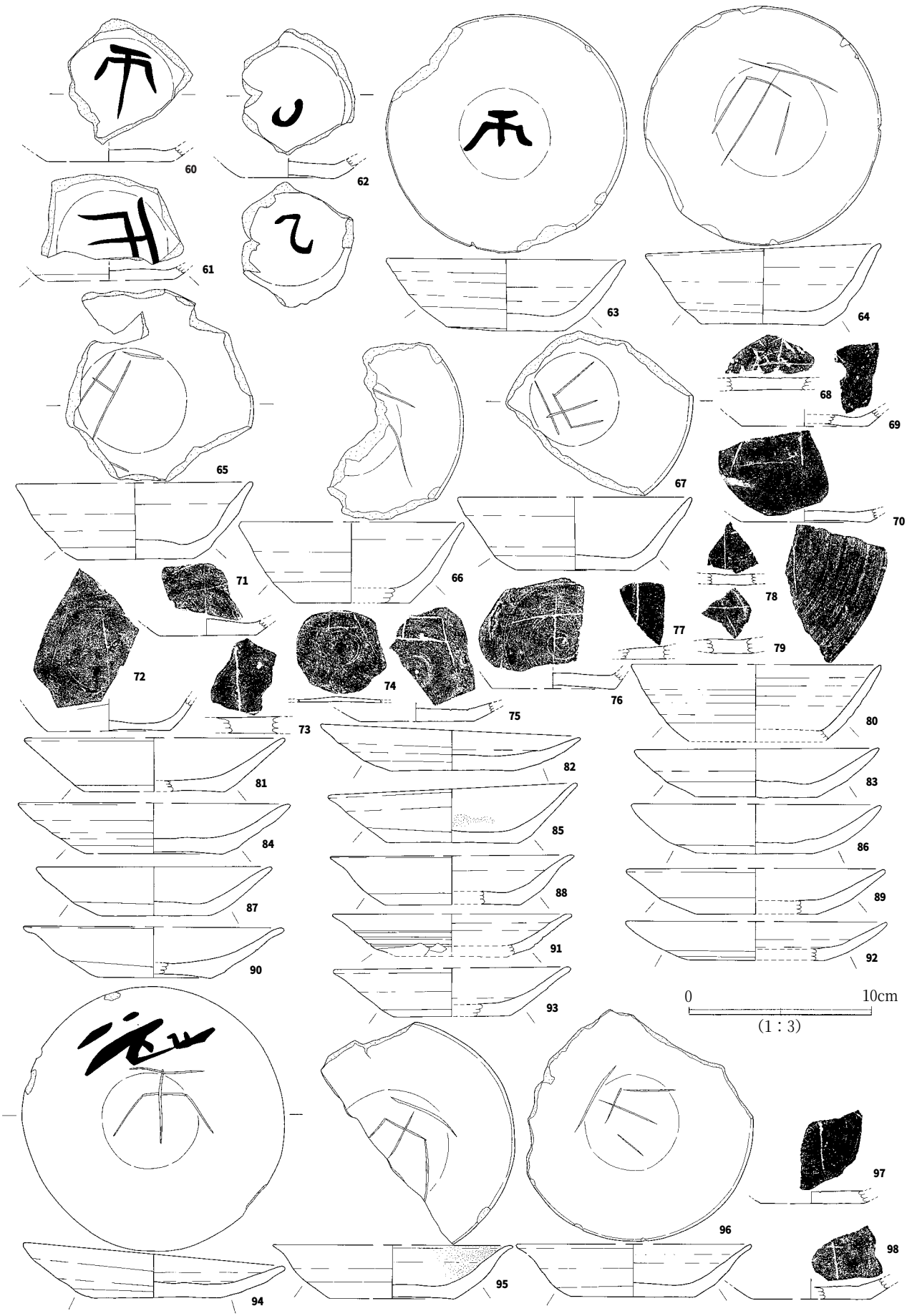
32号遺構(竪穴建物跡)

1　10YR2/2黒褐。1～3mm大焼土粒微量含む。
1'　〃　。1～3mmの焼土粒少量含む。
2　2.5YR4/6赤褐。焼土粒主体、焼きしまる。
3　10YR6/3にぶい黄橙。粘性強くよくしまる。
4　〃 4/4褐色。均質。
5　〃 3/ 暗褐。黒褐色土主体、ソフトロームしみ状呈す。
6　〃 2/3黒褐。1～3mm大ローム粒多い。
7　〃 2/2黒褐。1～3mm大粘土粒、焼土粒多い。
7'　〃　。1～5mm大粘土粒、焼土粒多い。
8　〃 4/4褐。ソフトローム主体、黒褐色土微量含む。
9　〃　。　〃　、黒褐色土少量含む。
10　〃 2/2黒褐。1～3mm大焼土粒、粘土粒多い。
11　〃　。ソフトローム微量含む。
12　〃　。10mm程の焼土粒、粘土粒多い。
13　〃　。5～10mmの焼土粒、粘土粒多い。
14　〃　。10mm大焼土粒多く、粘土粒微量含む。
15　〃　。5～10mm大焼土粒、粘土粒多く、炭化物粒微量含む。
16　ローム粒主体。

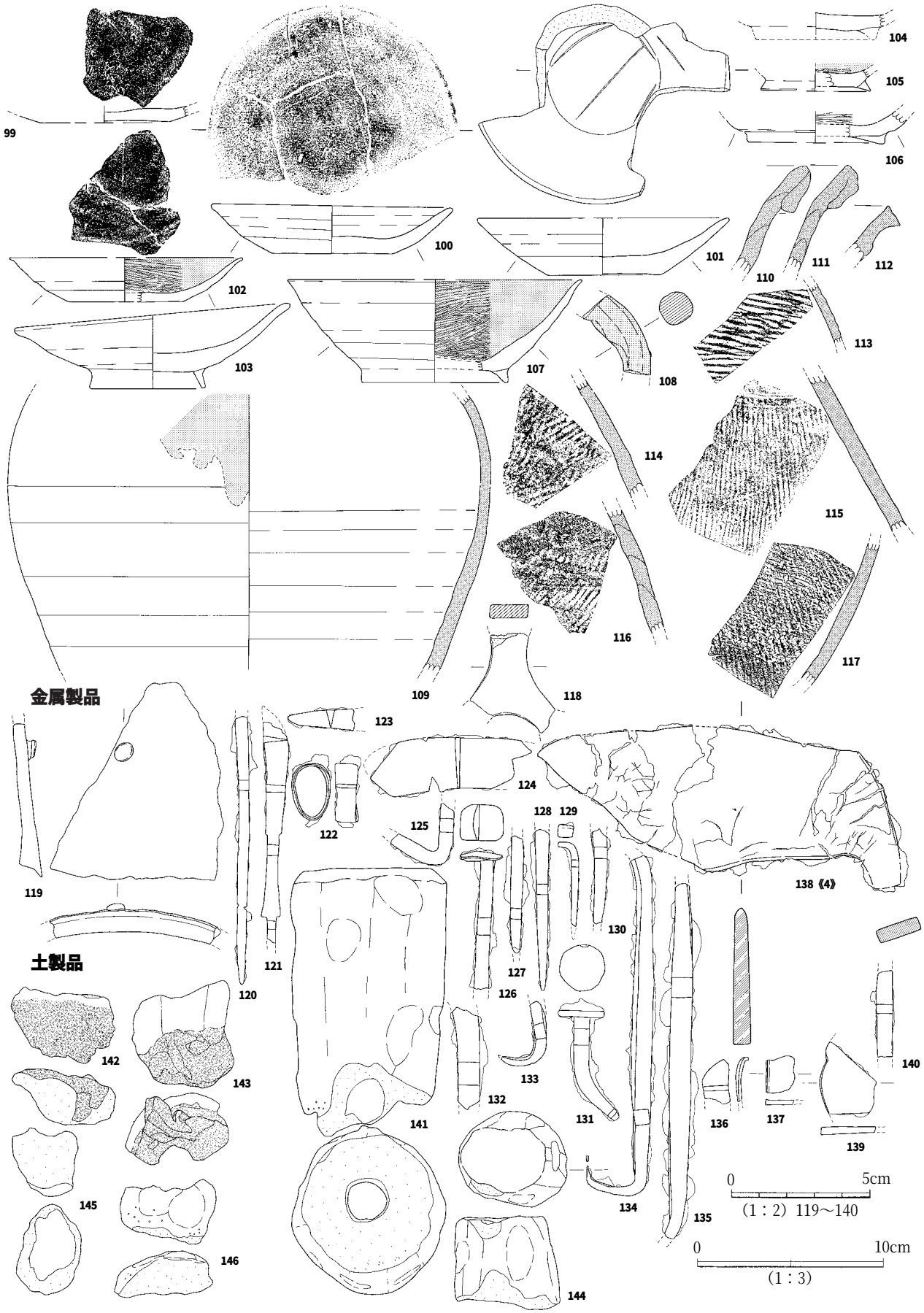
第45図　32号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図



第46図　32号遺構出土遺物実測図



第47図　32号遺構出土遺物実測図



第48図　32号遺構出土遺物実測図　　《　》は分析No

131の頭部は大型で、特殊な用途が想定される。134・135は鏃である。136・137・139・140は板状の鉄器だが、種類は判別できない。139は輪花形状である。138は板状鉄片で、分析の結果、板状鋳鉄片と推測されている。詳細は第6章(資料№4)を参照されたい。

141～143は羽口である。141はカマド中から検出され、支脚に転用されたか、カマド廃絶時の祭祀に用いられたかいずれかと思われる。142・143は先端部で、被熱発泡し、濃緑色滓が付着する。144～146は支脚である。143はカマド西側の壁付近から出土したが、他の個体は一括扱いである。

なお、製鉄関連遺物の総量は、鉄塊系遺物93.6ｇ、含鉄鉄滓63.7ｇ、椀形鍛冶滓94.8ｇ、含鉄椀形鍛冶滓1,881.7ｇ、鉄滓306.1ｇを量る。

33号遺構(C区)　32号遺構を切る。北壁際の中央から若干東寄りにカマドを1基持つ。煙道は長さ190cmを測り、31号と同様の形態をとるものと思われる。主柱穴はピット1～3・5と思われるが、ピット5のみ掘形が脆弱なので、検討を要する。それぞれ長径38cm・深度98cm、長径40cm・深度41.9cm、長径46cm・深度68.1cm、長径26cm・深度43.9cmを測る。ピット1・2に柱抜き取り痕跡がある。また、ピット1は覆土中に杯(22)を伴い、柱抜き取り後に置いた可能性がある。遺構の掘形は中央部を掘り残す形状で、貼床している。床面に焼土が2カ所認められ、炉の可能性がある。

ピット4は長径376cm・短径242cm・床からの深度190cmで、貼床を掘り込んでいるように観察された。竪穴建物に関連する可能性を残すが、建物推定プランより南側に突出する。出土遺物群は建物からの流入品と思われる。

なお、製鉄関連遺物の総量は、鉄塊系遺物1,176.0ｇ、含鉄鉄滓290.0ｇ、含鉄椀形鍛冶滓338.4ｇ、鉄滓243.2ｇを量る。

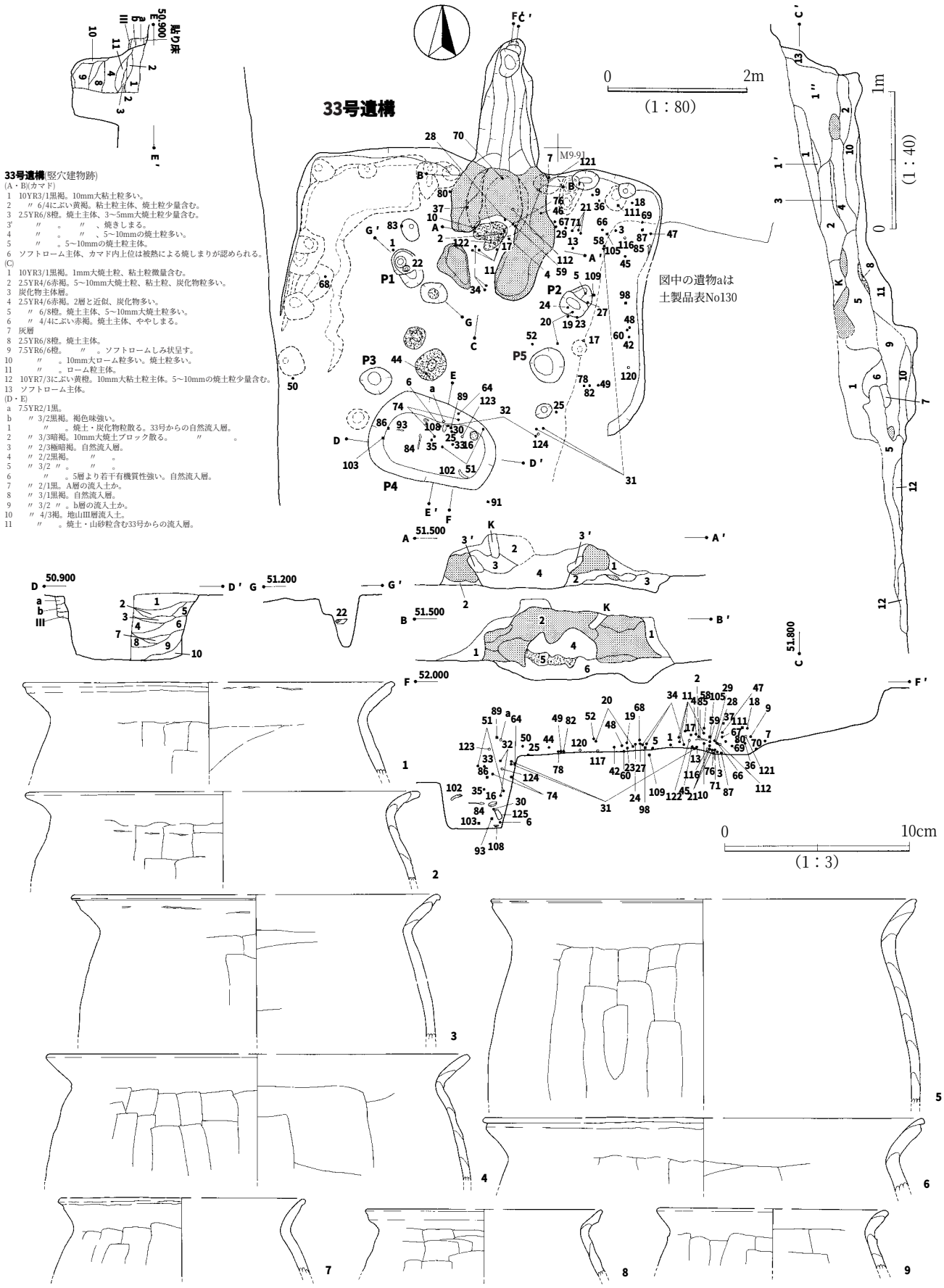
遺物の様相は31・32号と類似するが、杯の底径が小型化する傾向にある。墨書土器は3点、線刻土器は16点である。詳細は表3を参照されたい。

49～51は墨書土器で、見込みに則天文字「天」を描くが、49は字種不明である。

52～66・70は焼成後の線刻土器で、ほとんど則天文字の「天」銘と思われるが、58は未完刻か。

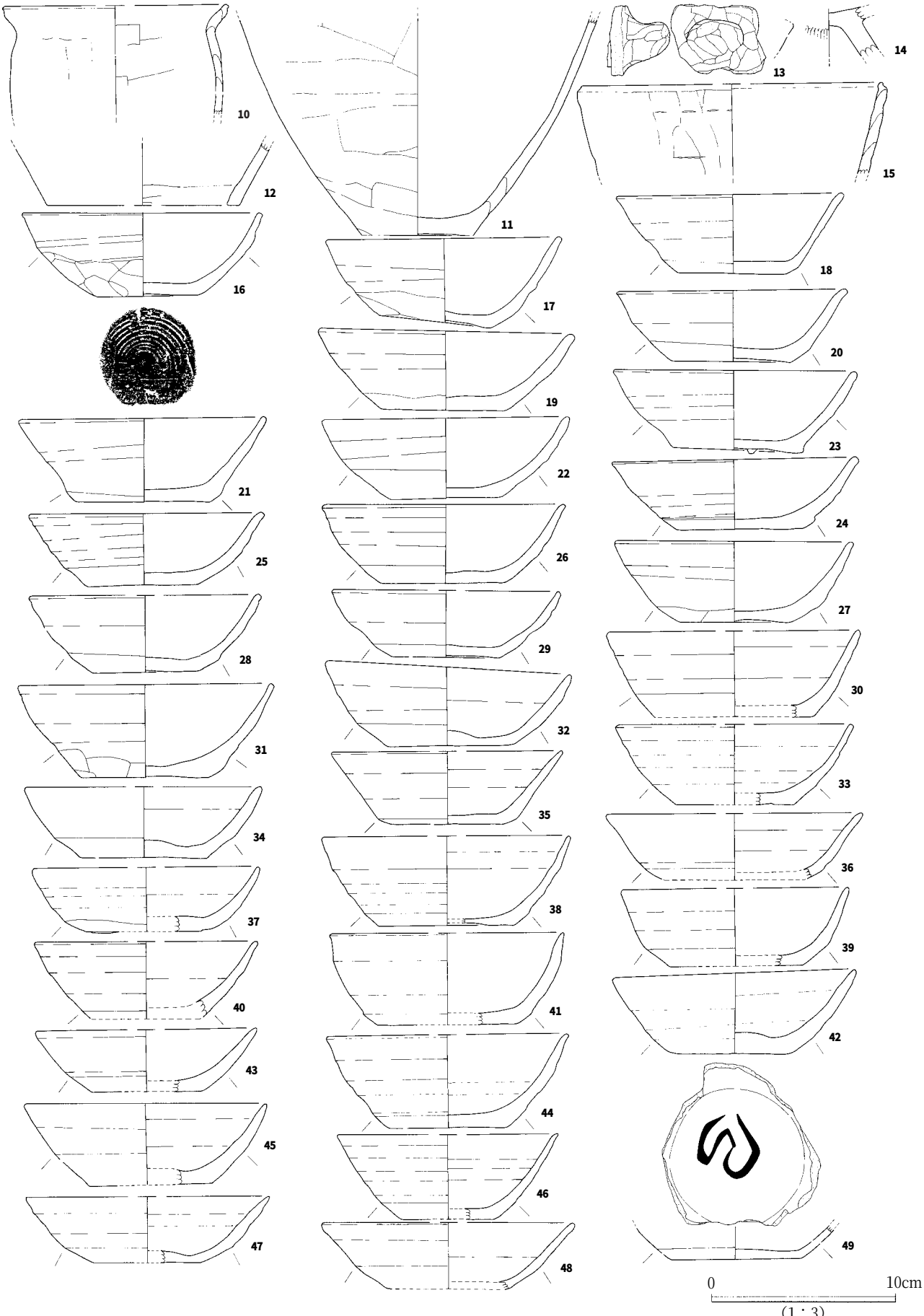
金属器はすべて鉄製で、未製品は少ないものと思われる。

83は錠前で、クランク状鉄板の上下折り曲げ部と中央部にそれぞれ円状・角状・角状の穴を穿ち、下部角孔に2本の鉄棒を差し込む。下側の棒は長く、凸状部を張り出し、鉄板中央の角状孔に差し込まれている。出土状況は不明である。84～86は鏃で、厚みある大型品である。84は鏑がなく中心は平らで、縁辺から角度をもち刃になる。茎は側面のみ関を持つ。85は巨大な返しを持つが、鏑がなく平らな印象である。茎は細く、側面のみ関を持つ。86は雁股で、内面にゆるく傾斜し刃となる。茎の関は四面に及ぶ。87は大刀の足金物で、帯取の革先を取り付けるため、環状の金具が付いていたと思われる。断面山形の鉄板を2条合わせたものと思われ、中央に窪みが廻る。88は刀子が折れたものだが、刃と背が合わさった状態で出土したため、それぞれ別個体の可能性もある。89は穂摘鎌で、目貫穴が一部遺存する。90～101は釘である。102は曲刃鎌で、柄との接合部を折り曲げている。103は鏨状製品で、用途は不明。104は板状銅製品の破片である。105は鉤状製品で、刀子を曲げたものである。106は棒状製品、107は板状製品で、端部を曲げている。108はU字状製品で、断面円形の鉄棒を曲げたものである。109は断面台形の鉄棒をS字状に曲げたもので、曲げ部はほぼ密着する。中央部の両端はヒレ状に伸びる。110は断面三角形の鉄柱で、器物の脚の可能性がある。

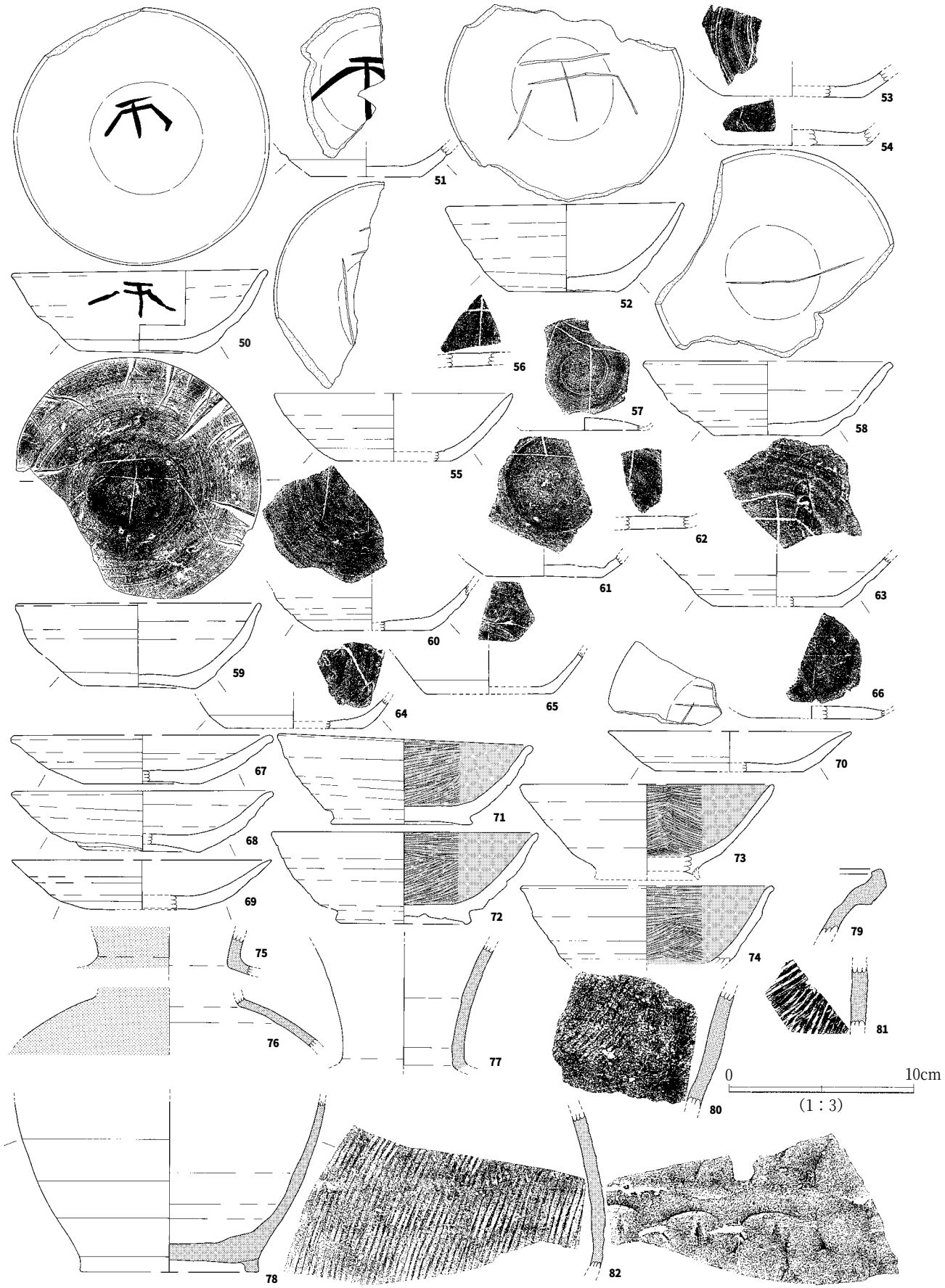


33号遺構(竪穴建物跡)
(A・B)(カマド)
1　10YR3/1黒褐。10mm大粘土粒多い。
2　〃 6/4にぶい黄褐。粘土粒主体、焼土粒少量含む。
3　2.5YR6/8橙。焼土主体、3～5mm大焼土粒少量含む。
3'　〃　。　〃　、焼きしまる。
4　〃　。　〃　、5～10mmの焼土粒多い。
5　〃　。5～10mmの焼土粒主体。
6　ソフトローム主体、カマド内上位は被熱による焼しまりが認められる。
(C)
1　10YR3/1黒褐。1mm大焼土粒、粘土粒微量含む。
2　2.5YR4/6赤褐。5～10mm大焼土粒、粘土粒、炭化物粒多い。
3　炭化物主体層。
4　2.5YR4/6赤褐。2層と近似、炭化物多い。
5　〃 6/8橙。焼土主体、5～10mm大焼土粒多い。
6　〃 4/4にぶい赤褐。焼土主体、ややしまる。
7　灰層
8　2.5YR6/8橙。焼土主体。
9　7.5YR6/6橙。　〃　。ソフトロームしみ状呈す。
10　〃　。10mm大ローム粒多い。焼土粒多い。
11　〃　。ローム粒主体。
12　10YR7/3にぶい黄橙。10mm大粘土粒主体。5～10mmの焼土粒少量含む。
13　ソフトローム主体。
(D・E)
a　7.5YR2/1黒。
b　〃 3/2黒褐。褐色味強い。
1　〃　。焼土・炭化物粒散る。33号からの自然流入層。
2　〃 3/3暗褐。10mm大焼土ブロック散る。　〃　。
3　〃 2/3極暗褐。自然流入層。
4　〃 2/2黒褐。　〃　。
5　〃 3/2 〃 。　〃　。
6　〃　。5層より若干有機質性強い。自然流入層。
7　〃 2/1黒。A層の流入土か。
8　〃 3/1黒褐。自然流入層。
9　〃 3/2 〃 。b層の流入土か。
10　〃 4/3褐。地山III層流入土。
11　〃　。焼土・山砂粒含む33号からの流入層。

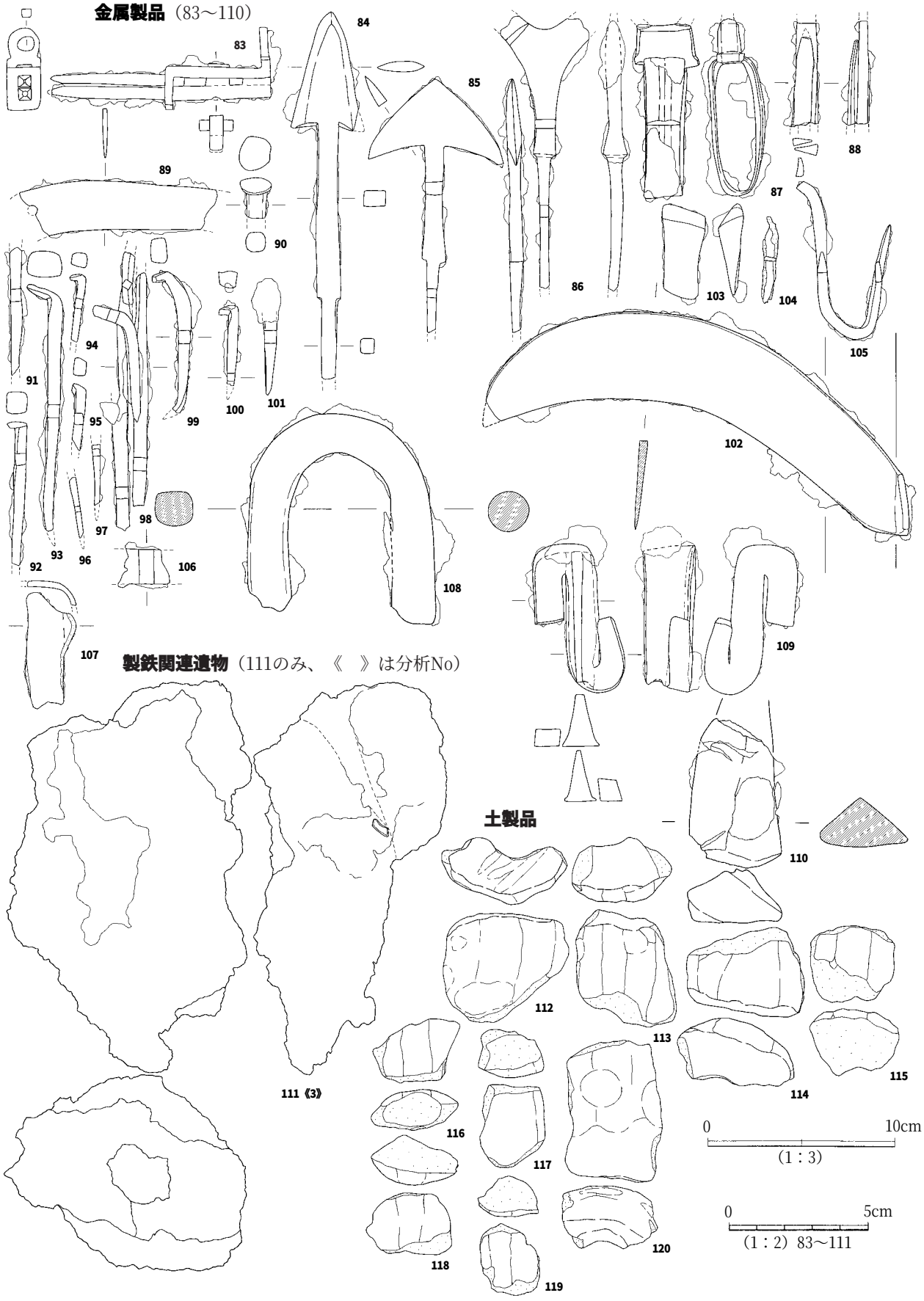
第49図　33号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図



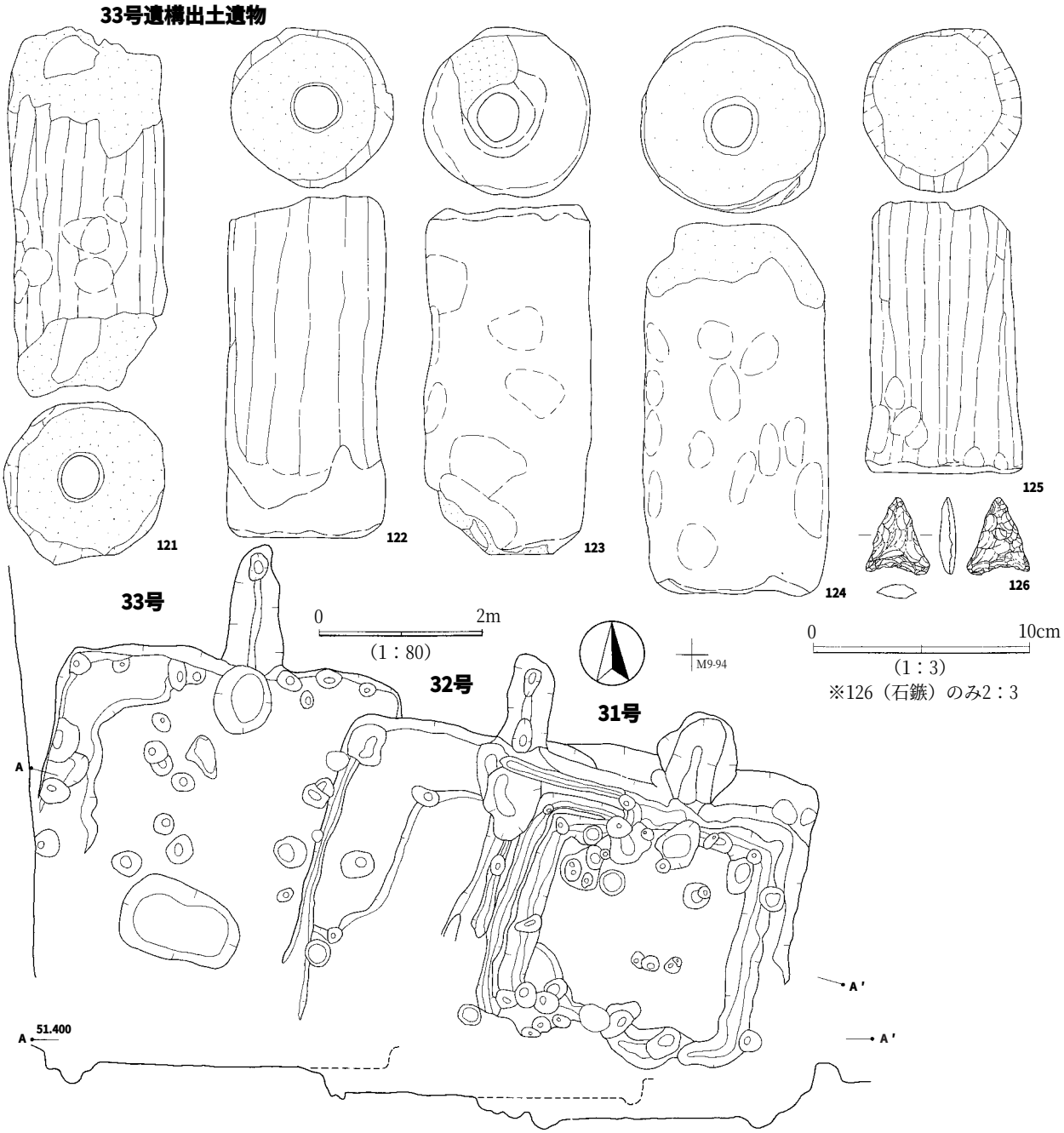
第50図　33号遺構出土遺物実測図



第51図　33号遺構出土遺物実測図



第52図　33号遺構出土遺物実測図

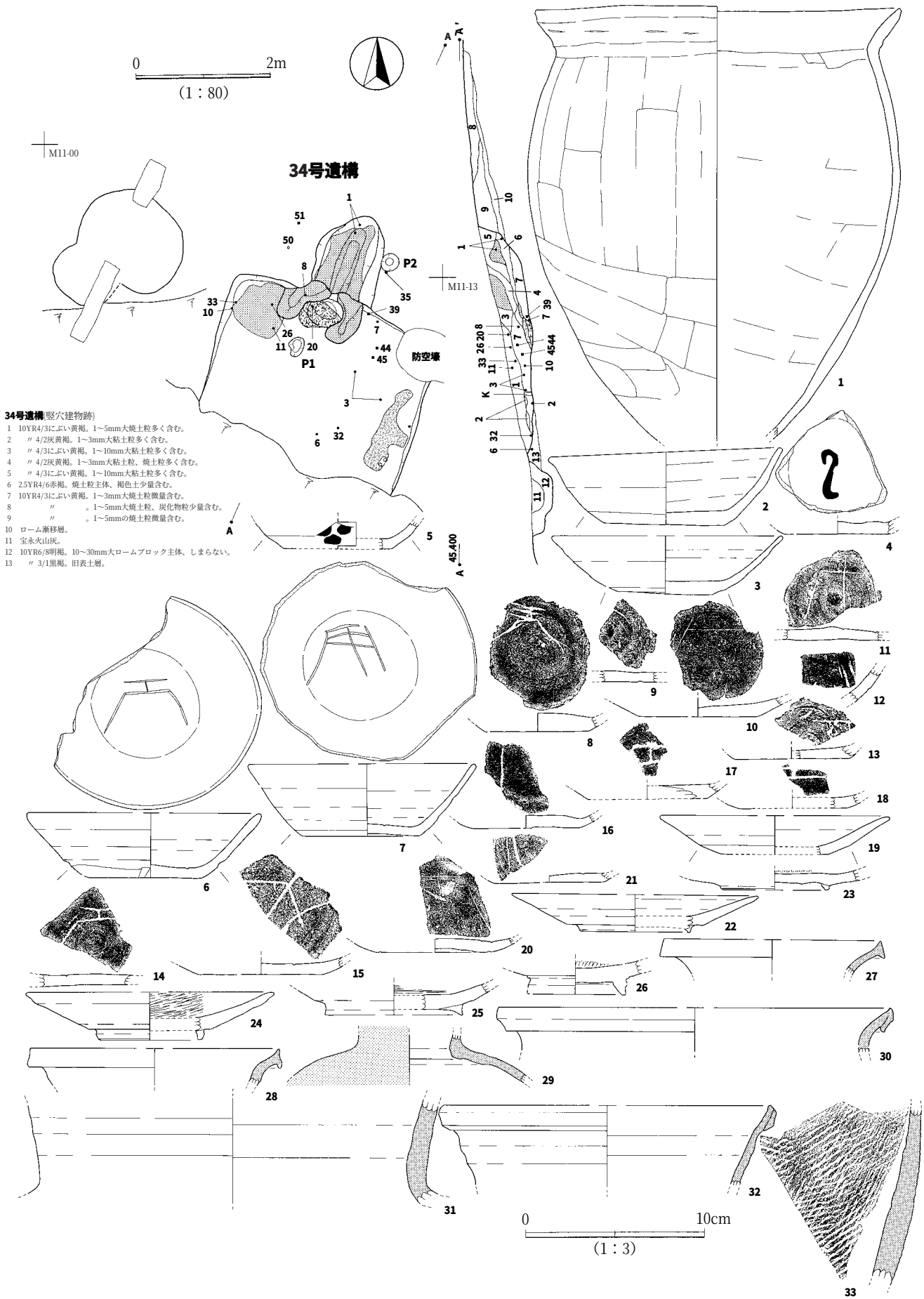


第53図　31～33号遺構掘形・33号遺構出土遺物実測図

111は鉄塊系遺物で、遺構北東コーナー付近の覆土中層から出土した。分析の結果、亜共晶鋳鉄と鉄滓が混在していることが解った。詳細は第6章(資料№3)を参照されたい。

112～124は羽口で、112・122はカマド内から、116は遺構北東コーナー付近の床上から、124はピット4内から出土した。125は支脚で、カマド廃絶時に取り外されたものと思われ、ピット4下層に流入していた。

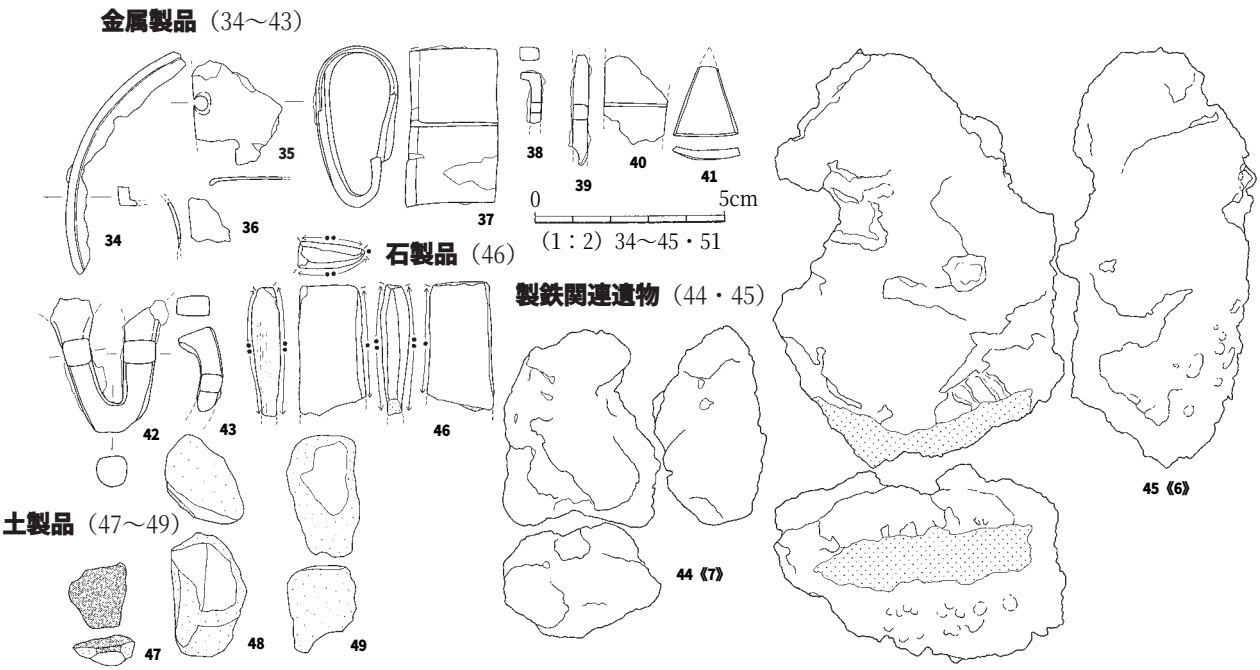
34号遺構(C区)　遺物的に32号と同期で、土器類の様相も類似するが、さほど多くない。41～44号遺構群と作業場ブロックを構成するものと思われる。谷に近接するため、遺構南側を流出している。北壁際のほぼ中央にカマドを1基持つ。煙道は溝状で、半地下式のように見受けられる。主柱穴は認められなかった。



34号遺構(竪穴建物跡)

1 10YR4/3にぶい黄褐。1～5mm大焼土粒多く含む。
2 〃 4/2灰黄褐。1～3mm大粘土粒多く含む。
3 〃 4/3にぶい黄褐。1～10mm大粘土粒多く含む。
4 〃 4/2灰黄褐。1～3mm大粘土粒、焼土粒多く含む。
5 〃 4/3にぶい黄褐。1～10mm大粘土粒多く含む。
6 2.5YR4/6赤褐。焼土粒主体、褐色土少量含む。
7 10YR4/3にぶい黄褐。1～3mm大焼土粒微量含む。
8 〃 。1～5mm大焼土粒、炭化物粒少量含む。
9 〃 。1～5mmの焼土粒微量含む。
10 ローム漸移層。
11 宝永火山灰。
12 10YR6/8明褐。10～30mm大ロームブロック主体、しまらない。
13 〃 3/1黒褐。旧表土層。

第54図　34号遺構（竪穴建物跡）・遺物実測図



第55図　34号遺構出土遺物実測図　　《　》は分析No

遺物は概ね遺構中層から出土している。なお、製鉄関連遺物の総量は、鉄塊系遺物104.2ｇ、含鉄鉄滓1,732.4ｇ、椀形鍛冶滓92.8ｇ、含鉄椀形鍛冶滓1,479.4ｇ、鉄滓583.3ｇ・錆片0.7ｇ、スサ0.4ｇを量る。

4・5は杯で、4は見込みに、5は外面に墨書するが字種は不明である。6～21・35は線刻土器で、いずれも見込みに則天文字「天」を線刻する。

金属製品は34～43である。34は和鏡で、縁の形状から12世紀中葉以降の中世遺構群に帰属するものと思われる。35・36は銅製品で、飾り金具と思われる。37は鉄製品で、大刀の責金具か石突である。40は薄い鉄板、41は三角形の鉄板で、やや若干弧を描くように曲がる。42・43はU字状の鉄製品で、用途は不明。

44・45は含鉄鉄滓と含鉄椀形鍛冶滓である。分析の結果、製鉄工程の中～後期に発生した鉄滓と推測されている。詳細は第6章(資料№7・6)を参照されたい。

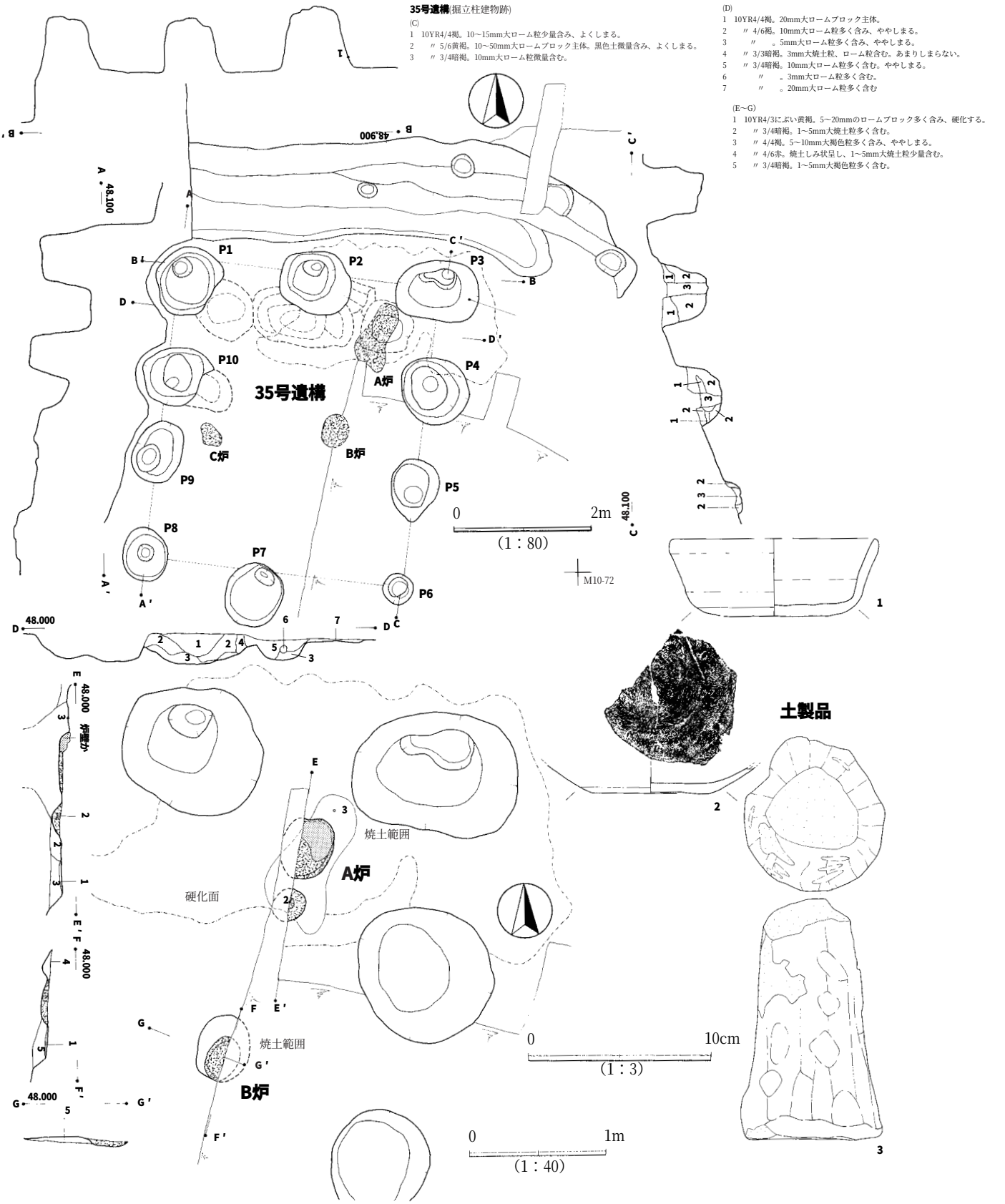
46は凝灰岩製の砥石で、きめ細かく、仕上砥と思われる。小型の鉄器用か。あまり使い込まない。

47～49は羽口片で、47は先端部のため被熱発泡し、外面に濃緑色滓が付着している。

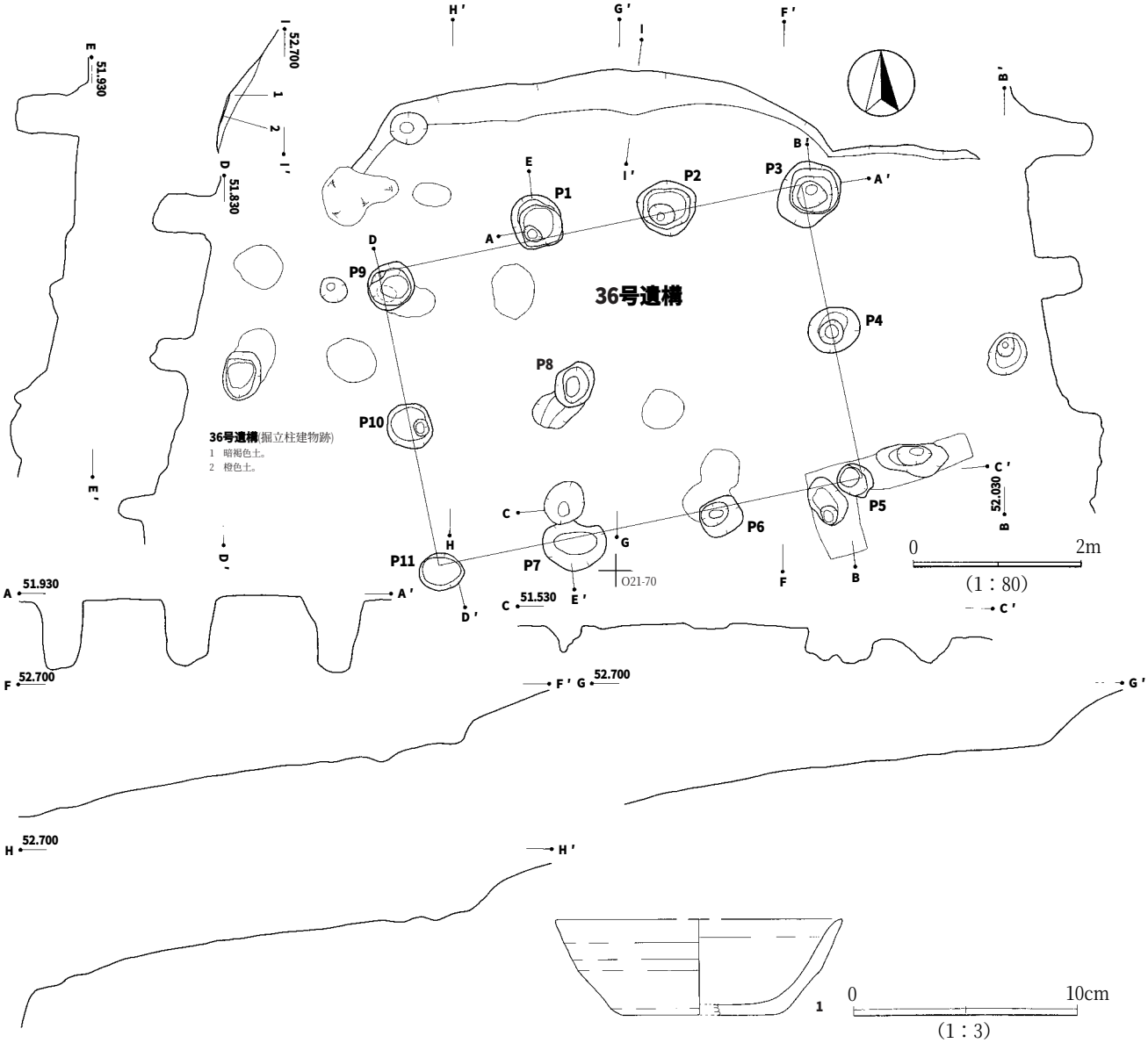
(2)　掘立柱建物跡(35～39号遺構)

E区に2棟、C区に2棟確認された。C区は竪穴建物と基本的に同時期で、工房遺構群を構成している。E区は竪穴建物群より新しいものと思われ、C区工房と時期的に並行する可能性が高い。それぞれの建物規模は69頁の一覧表を参照されたい。

35号遺構(C区)　45号遺構(遺物溜まり)より古い。切り土による小テラス上に建っていた側柱建物跡で、柱の抜き取りはせず、柱掘形の版築層が良好に遺存していた。建物内に炉を3基伴い、焼土範囲の長径は、A炉160cm・B炉51cm・C炉40cmを測る。A炉・ピット2・3周辺は貼床をし、硬化する。遺物は45号遺構と混在したため、柱穴・炉出土の3点のみ掲げる。なお、製鉄関連遺物の総量は、椀形鍛



第56図　35号遺構（掘立柱建物跡）・A炉・B炉（小鍛冶炉か）・遺物実測図



第57図　36号遺構（掘立柱建物跡）・遺物実測図

冶滓17.0ｇ、鉄滓46.7ｇを量る。

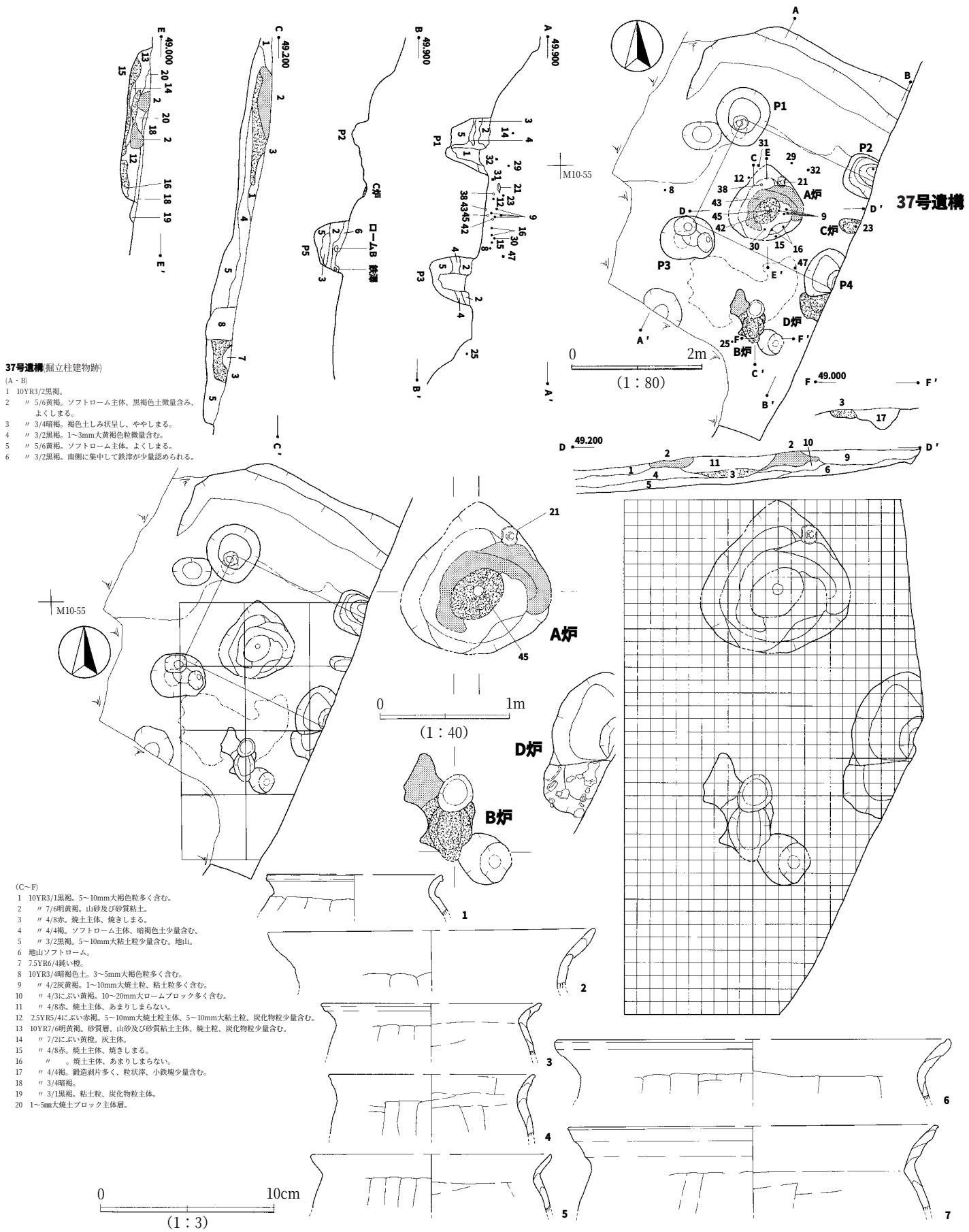
1はやや古相の杯で、ピット3の版築層から出土したものと思われ、混ざり込みの可能性が強い。

2はA炉中から出土した皿で、則天文字「天」を見込みに焼成後線刻する。

3は支脚で、A炉焼土範囲内から出土した。

36号遺構(E区)　切り土による小テラス上に建つ。39号遺構の建て替えか。屋内柱が1本省略されており、土間と1室に区分されていたものと思われる。柱の抜き取り痕はない。遺物は土師器の杯1点のみが出土した。時期的に31～33号遺構と同期である。なお、製鉄関連遺物の総量は、鉄塊系遺物16.0ｇ、含鉄鉄滓99.6ｇ、鉄滓174.6ｇを量る。

37号遺構(C区)　切り土による小テラス上に建つ小規模建物跡で、小鍛冶炉を4基伴うと思われる。作業場上屋の可能性があり、A炉の占地状況から、壁などを持たない簡単な構造と推定される。柱の抜き取り痕はない。出土遺物は31～33号遺構と同時期である。製鉄関連遺物の総量は、鉄塊系遺物11.3



37号遺構(掘立柱建物跡)

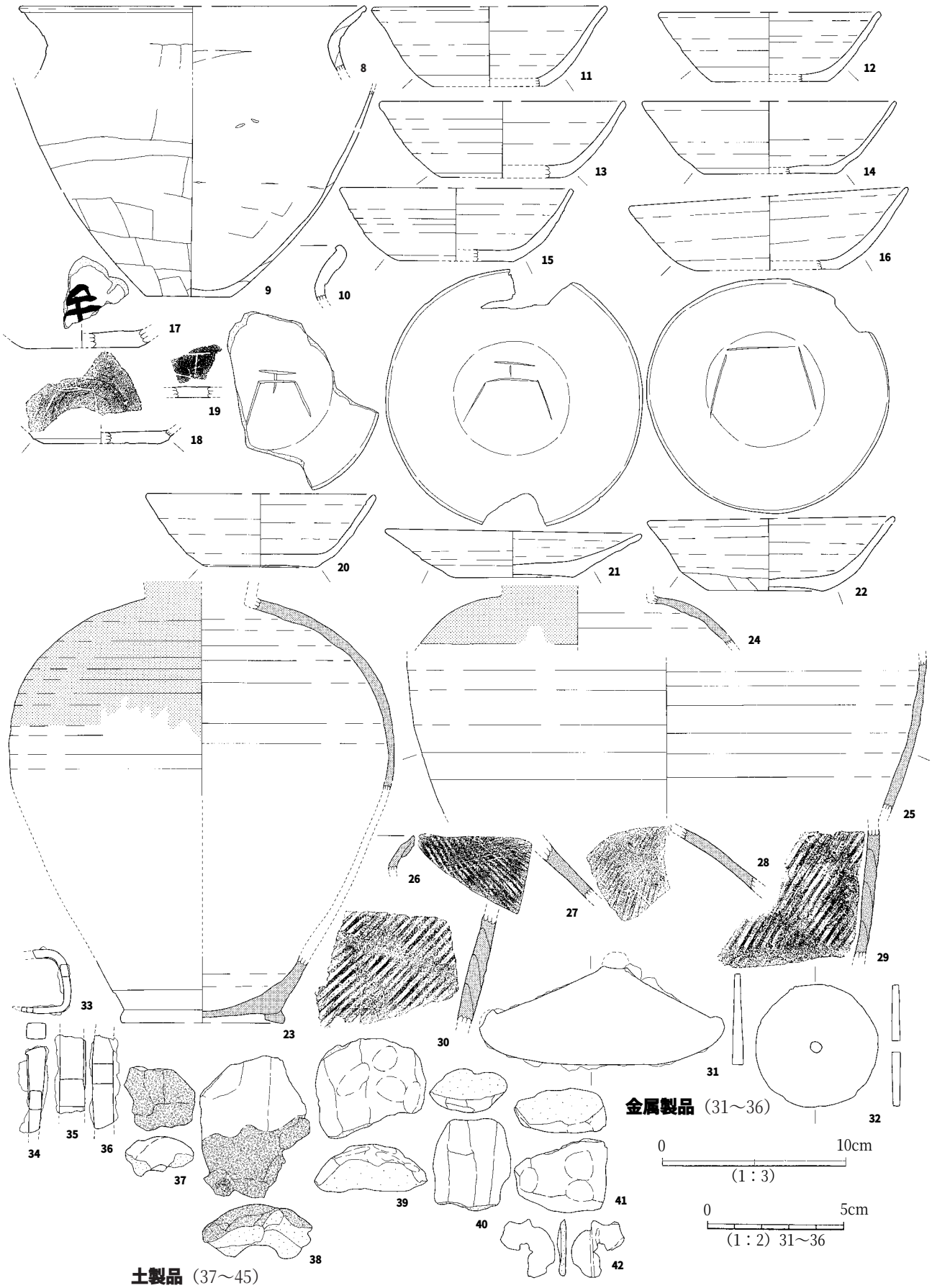
(A・B)

1 10YR3/2黒褐。
2 〃 5/6黄褐。ソフトローム主体、黒褐色土微量含み、よくしまる。
3 〃 3/4暗褐。褐色土しみ状呈し、ややしまる。
4 〃 3/2黒褐。1～3mm大黄褐色粒微量含む。
5 〃 5/6黄褐。ソフトローム主体。よくしまる。
6 〃 3/2黒褐。南側に集中して鉄滓が少量認められる。

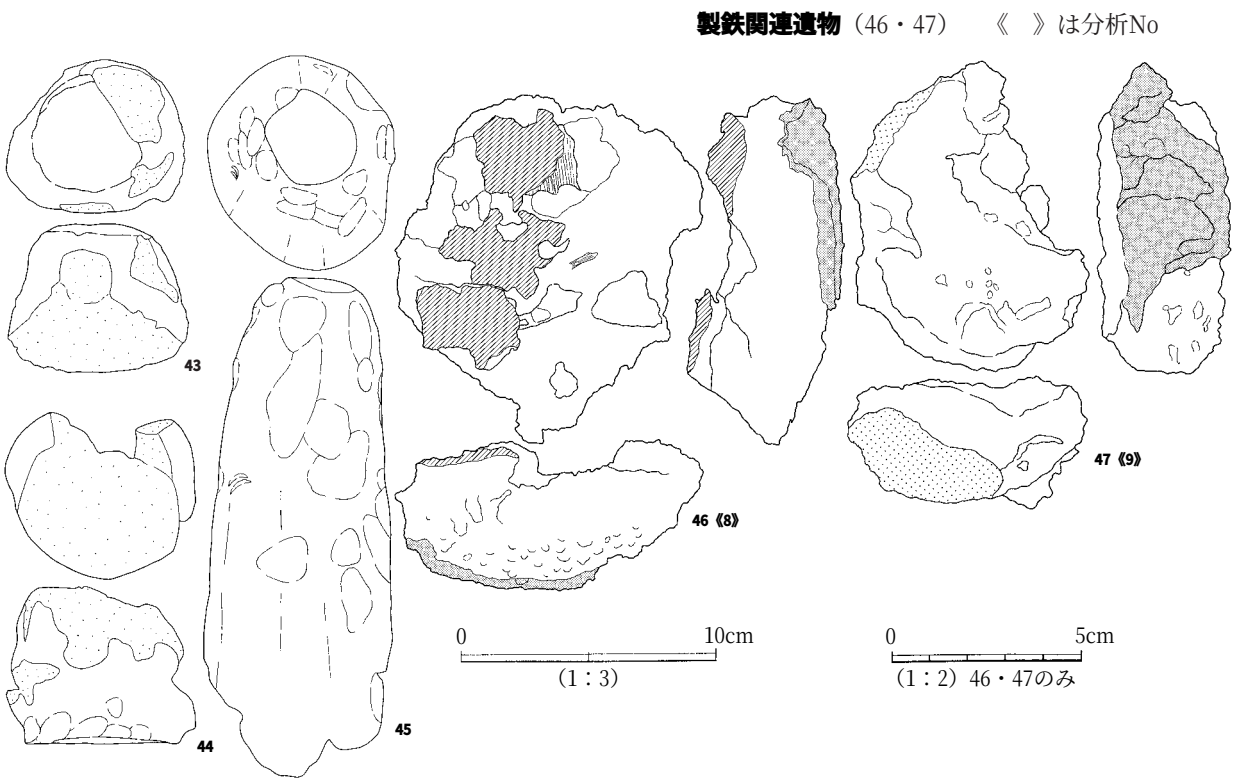
(C～F)

1 10YR3/1黒褐。5～10mm大褐色粒多く含む。
2 〃 7/6明黄褐。山砂及び砂質粘土。
3 〃 4/8赤。焼土主体、焼きしまる。
4 〃 4/4褐。ソフトローム主体、暗褐色土少量含む。
5 〃 3/2黒褐。5～10mm大粘土粒少量含む。地山。
6 地山ソフトローム。
7 7.5YR6/4鈍い橙。
8 10YR3/4暗褐色土。3～5mm大褐色粒多く含む。
9 〃 4/2灰黄褐。1～10mm大焼土粒、粘土粒多く含む。
10 〃 4/3にぶい黄褐。10～20mm大ロームブロック多く含む。
11 〃 4/8赤。焼土主体、あまりしまらない。
12 2.5YR5/4にぶい赤褐。5～10mm大焼土粒主体、5～10mm大粘土粒、炭化物粒少量含む。
13 10YR7/6明黄褐。砂質層、山砂及び砂質粘土主体、焼土粒、炭化物粒少量含む。
14 〃 7/2にぶい黄橙。灰主体。
15 〃 4/8赤。焼土主体、焼きしまる。
16 〃 。焼土主体、あまりしまらない。
17 〃 4/4褐。鍛造剥片多く、粒状滓、小鉄塊少量含む。
18 〃 3/4暗褐。
19 〃 3/1黒褐。粘土粒、炭化物粒主体。
20 1～5mm大焼土ブロック主体層。

第58図　37号遺構（掘立柱建物跡）・A～D炉（小鍛冶炉か）・遺物実測図



第59図　37号遺構出土遺物実測図



第60図　37号遺構出土遺物実測図

g、含鉄鉄滓40.8g、椀形鍛冶滓552.2g、含鉄椀形鍛冶滓731.6g、鉄滓415.5gを量る。このうちA炉は椀形鍛冶滓176.8g・鉄滓22.5g、D炉は含鉄椀形鍛冶滓256.4g・椀形鍛冶滓162.0gである。

17は墨書土器で、見込みに文字を書くが、字種不明である。

18～22は焼成後の線刻土器で、すべて則天文字の「天」銘と思われるが、22は未完刻か。

金属製品はすべて鉄製である。35・36は棒状で、未製品の可能性がある。

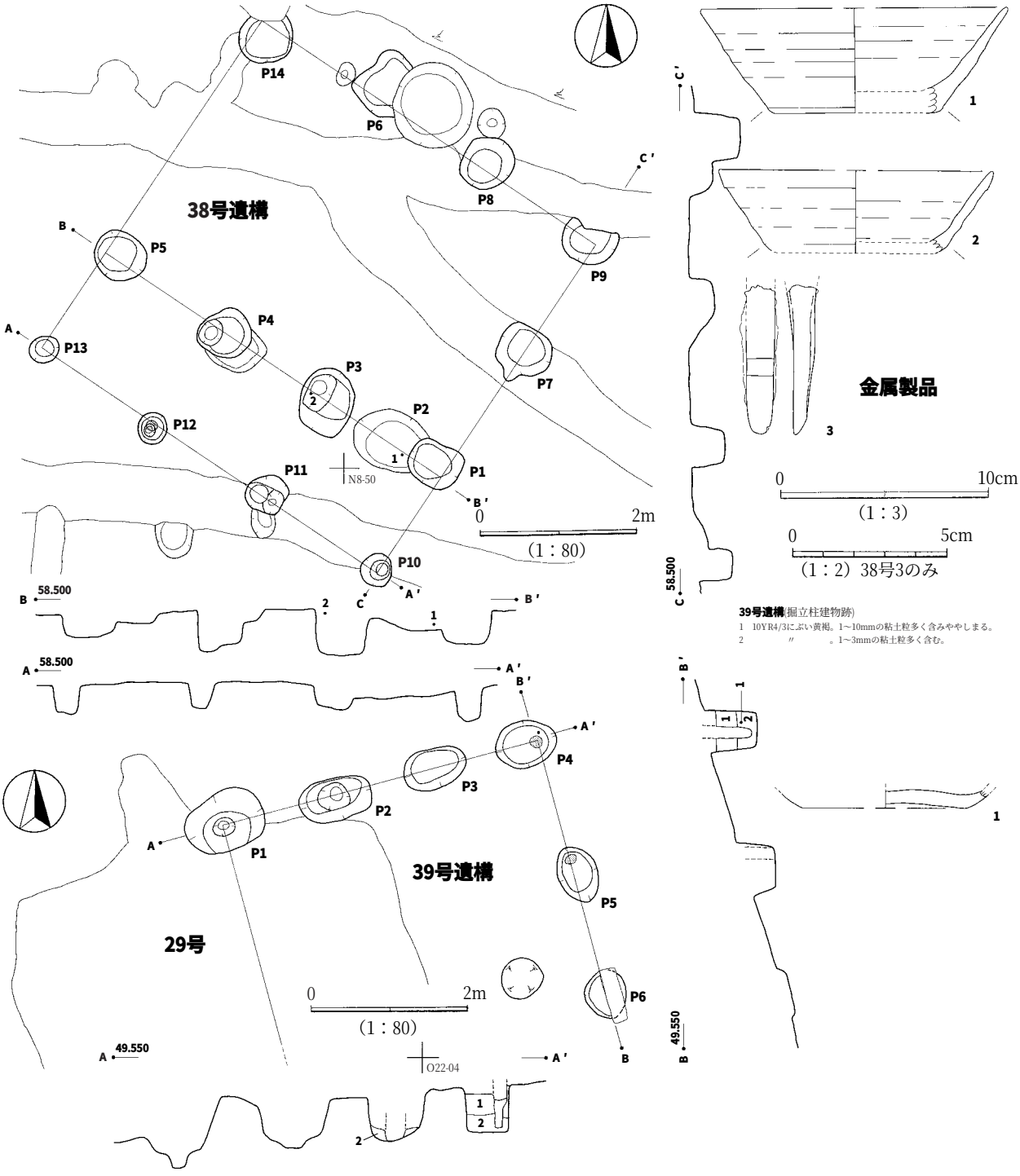
46・47は含鉄椀形鍛冶滓で、それぞれA炉・D炉から出土した。分析により炉内で金属鉄が生成する段階、製鉄工程の中・後期で発生した可能性が指摘されている。詳細は第6章(資料№8・9)参照。

4基の炉は小鍛冶炉と思われる。B・D・Aの順に切り合っているよう観察された。A炉が最も大規模で、土間に長径114cm、短径107cmの窪みを掘り、半円状に山砂・砂質粘土主体の炉壁を乗せる。中央部は焼土化し、中心に支脚(45)が立った状態で出土した。他に炉中から9・15・16・21・30・38・43・42・46が出土している。B炉は規模的にA炉に準じるものと思われるが、遺存度が良くないので、A炉に先行するものか。ピット3南にもう1基ピットがあるので、上屋を伴った可能性がある。この場合、B炉＋上屋からA炉＋上屋に建て替えた解釈となる。炉北側に硬化面を持つ。

38号遺構(B区)　この時期に南側の崖は存在せず、斜面下に工房群を見下ろす立地である。南西面に1面廂を付ける側柱建物で、柱の抜き取りを一部実施する(ピット1・4)。出土遺物は31～33号遺構(竪穴建物跡)と同期である。

1・2は土師器杯で、それぞれピット2(ピット1の抜き取り痕か)とピット3版築層中から出土した。3は鏨状製品で、ピット9から出土した。

39号遺構(E区)　出土遺物(1)の時期は不明であるが、29号遺構(竪穴建物跡)を切っているように見受け



第61図　38・39号遺構（掘立柱建物跡）・遺物実測図

られる。尾根筋突端に位地するため、遺構の南側を流出し、遺構規模は明確でないが、36号遺構と関連するものと捉えると、3間×2間の側柱建物の可能性が高い。柱の抜き取り痕は認められず、柱掘形の版築層が良好に遺存していた。

古代掘立柱建物跡一覧

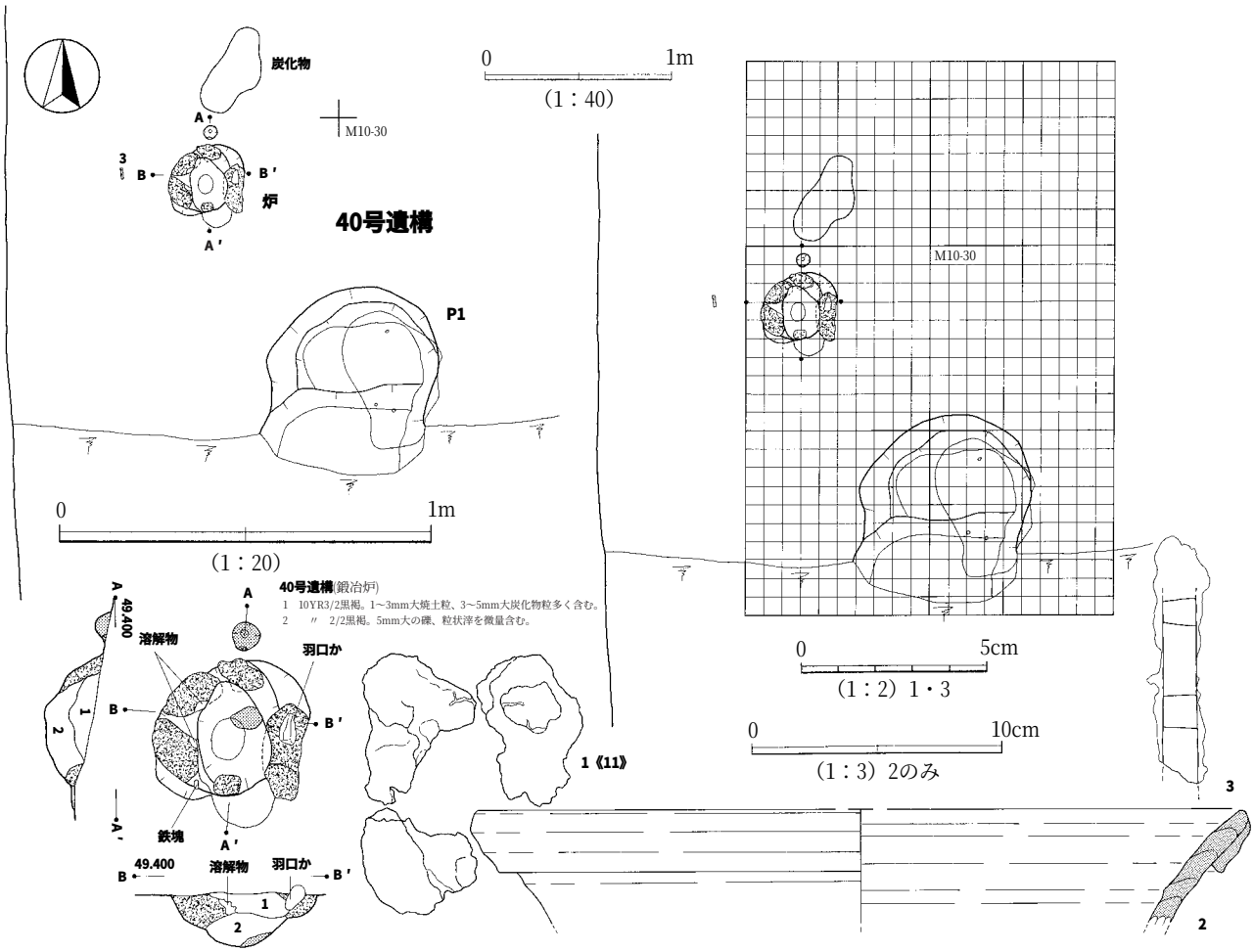
No	地区	棟方向	廂	規模cm（尺）		柱間寸法cm（尺）　1尺＝30cmで算出			建坪m²	備考
				企画	桁行×梁行	桁行	梁行	廂		
35	C区	南北	—	3×2	446×386 （15×13）	148＋160＋142 （5＋5.5＋4.5）	192＋190 （6.5）	—	17.3	炉を伴う
36	E区	東西	—	3×2	524×360 （17.5×12）	190＋156＋176 （6.5＋5＋6）	182＋180 （6）	—	18.8	
37	C区	東西	—	1×1か	228×180 （7.5×6）	228（7.5）	180（6）	—	—	炉を伴う
38	B区	東西	—	3×2	526×366 （17.5×12）	174＋168＋164 （6＋5.5＋5.5）	162＋270 （5.5＋9）	174＋168＋164 （6＋5.5＋5.5） 梁行148（5）	19.3	廂を含めた面積 27.1m²
39	E区	東西	—	3×2	424×342 （14×11.5）	154＋158＋132 （5＋5.5＋4.5）	162＋180 （5.5＋6）	—	—	

(3)　その他の生産関連遺構(40～45号遺構)

40号遺構(C区)　炉跡だが、小鍛冶炉か否かは不明である。掘形は長径46cmで、山砂・砂質粘土主体のブロックが混入する。ピット1からは鍛造剥片が出土している。なお、製鉄関連遺物の出土総量は、含鉄椀形鍛冶滓3.0ｇ、鉄滓19.1ｇ、炉壁9.8ｇを量る。

1は含鉄椀形鍛冶滓で、金属鉄と鉄滓が混在している。分析を実施したので、詳細は第6章(資料№11)を参照されたい。3は棒状の鉄製品で、未製品の可能性がある。

41号遺構(C区)　小テラスに焼土・炭化物・炉壁構築材が散っており、小鍛冶炉の存在が窺われる。



第62図　40号遺構（鍛冶炉か）・遺物実測図　　《　》は分析No

切り土壁面に並行するピット群を伴うので、簡素な上屋を伴った可能性がある。ピット群はハードローム層まで掘り込んでいる。覆土下面に中世遺物が出土したので、中世Ⅰ期盛土整地の直前までテラス状に遺存していたものと思われる。

杯(4)の形状は33号遺構(竪穴建物跡)と同時期か、やや新しいものと思われる。6は渥美産の甕、7は伊勢型鍋で、いずれも中世Ⅰ期整地直前の遺物が混ざり込んだものである。

42号遺構(C区)　南側の土坑が先行する。ソフトローム層まで掘り込んでいる。性格は不明。製鉄関連遺物が一定量出土している。総量は、含鉄鉄滓103.6ｇ、椀形鍛冶滓42.0ｇ、鉄滓160.4ｇを量る。

22は石斧で、縄文早期と思われ、流れ込みである。

23は環状の鉄製品である。24は断面台形の鉄製品で、下端部が鉤状に突出する。25は板状鉄製品で、直角に曲げられている。いずれも未製品の可能性がある。

43号遺構(C区)　小鍛冶炉と思われ、焼土の周りに山砂・砂質粘土主体の炉壁材が散っていた。比較的はっきりした掘形を持ち、下面に炭化物層が認められた。出土遺物には杯№10・12が、31号遺構(竪穴建物跡)出土杯群と比べ形の変化は少ないものの、底部付近を手持ちヘラ削り調整している点でより古相を呈するので、41～44号遺構群中最古の可能性がある。墨書土器は1点、線刻土器は6点で、線刻銘はいずれも「天」の則天文字と思われる。製鉄関連遺物の総量は、鉄塊系遺物12.1ｇ、含鉄鉄滓125.6ｇ、鉄滓48.2ｇを量る。

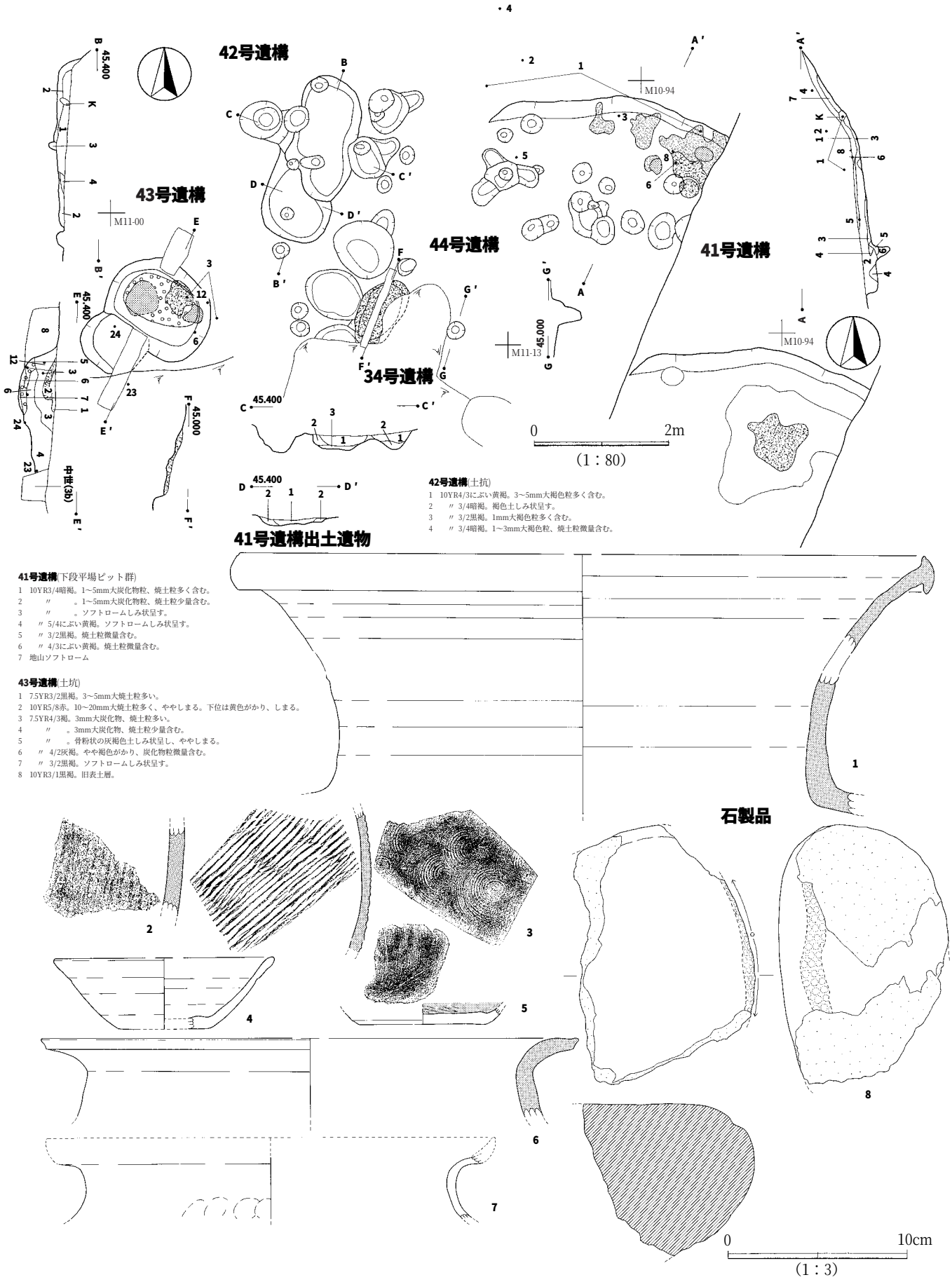
44号遺構(C区)　炉跡で、小鍛冶炉と思われるが定かでない。

45号遺構(C区)　35号遺構切り土整地部の遺物溜まりで、35号遺構より新しい。本遺構は31～33号遺構(竪穴建物跡)の廃棄場として機能したと思われ、35号遺構(掘立柱建物跡)は31～33号遺構のいずれかに先行することになる。なお、出土遺物は便宜的に柱穴以外のものをすべて本遺構のものとして取り扱ったが、切り土整地面自体は35号に伴うので、整地面直上の遺物は35号のものと解釈するのが正しいであろう。遺物は31～33号遺構と同時期である。製鉄関連遺物の総量は、鉄塊系遺物74.5ｇ、含鉄鉄滓145.1ｇ、椀形鍛冶滓296.6ｇ、含鉄椀形鍛冶滓710.1ｇ、鉄滓310.0ｇを量る。

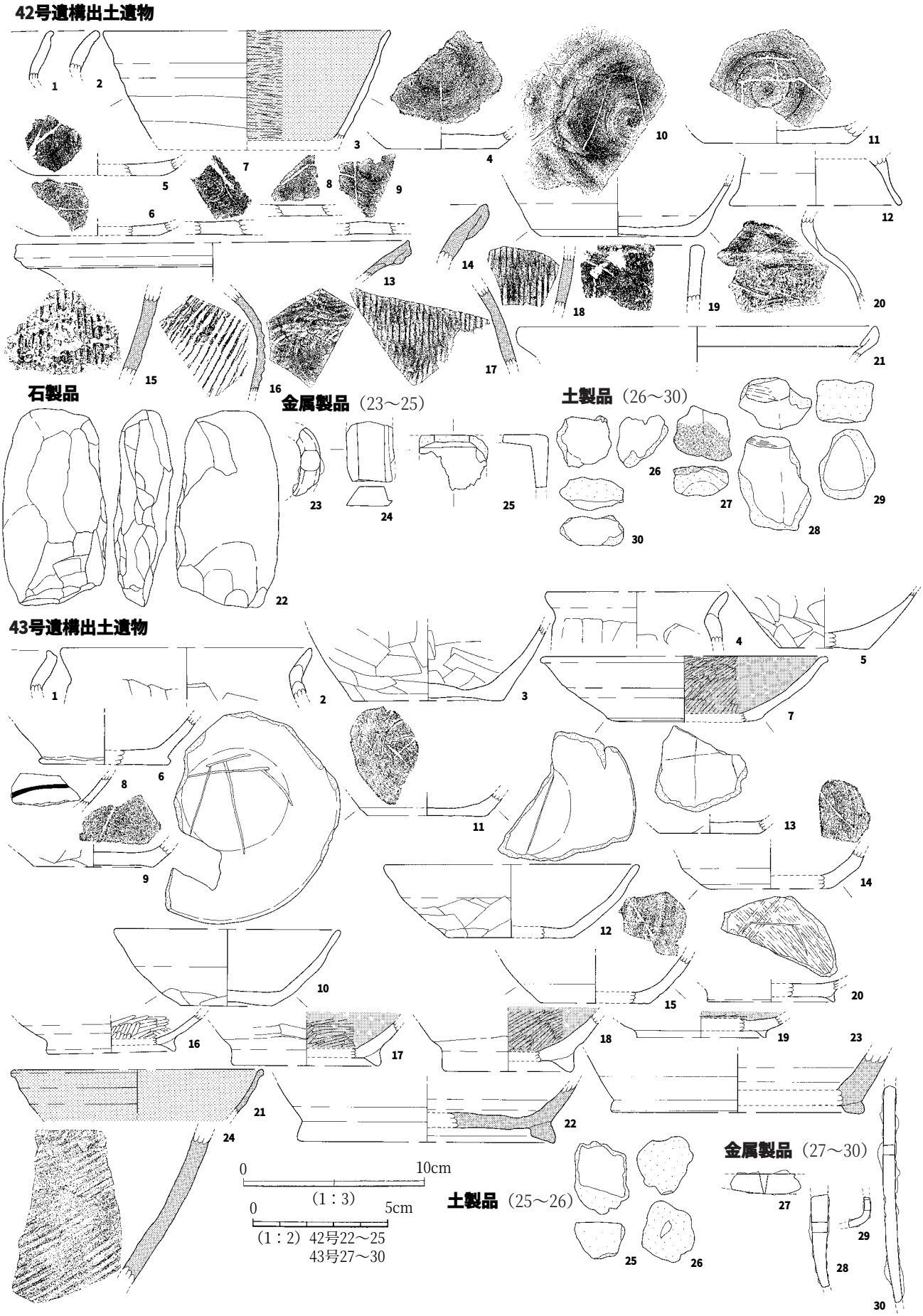
164は砂岩製の砥石で、中砥と思われる。165～195は金属製品で、165が銅製品、その他は鉄製品である。165は帯金具の鉈尾で、鋳造品と思われる。内面4カ所に鋲足を鋳出す。166・167は板状製品で、形状は不明。168は鏃の雁又で、平造りである。169は鏃で、刃に至る明瞭な峰はない。170は鏃で、断面は緩く弧を描くように刃に至り、峰がない。171は鏃の茎と思われる。173・174は穂摘鎌で、174は目貫を残すが刃部はぬるい。175～188は釘である。189は鏨状製品で、用途は不明。190は板状鉄塊で、鍛錬途中の可能性がある。191～193はU字状の製品で、丸棒を曲げ、端部を叩き断面方形にしている。195は断面方形の板の片端を台形状に潰し、U字状に曲げたもので、用途は不明である。未製品か。196～206は羽口である。196・197は先端部で被熱発泡し、濃緑色滓が付着する。207は内面に鉄分が付着する。

(4)　方形周溝状遺構(46号遺構)

46号遺構(E区)　1辺約13.2mの方形周溝状遺構で、墓域を構成するものと思われる。周溝はゆるいU字状で、断面形状はあまり整然としない。遺構群をなしたものと想定されるが、この地区は表土の流出もあり、浅い小型の同種遺構は湮滅している可能性が高い。ただし、周溝が室町期の道(68号遺構)と軸を共有していること、中世地業Ⅲ期並行の109号遺構(土坑)と周溝がセットのように見受けられる

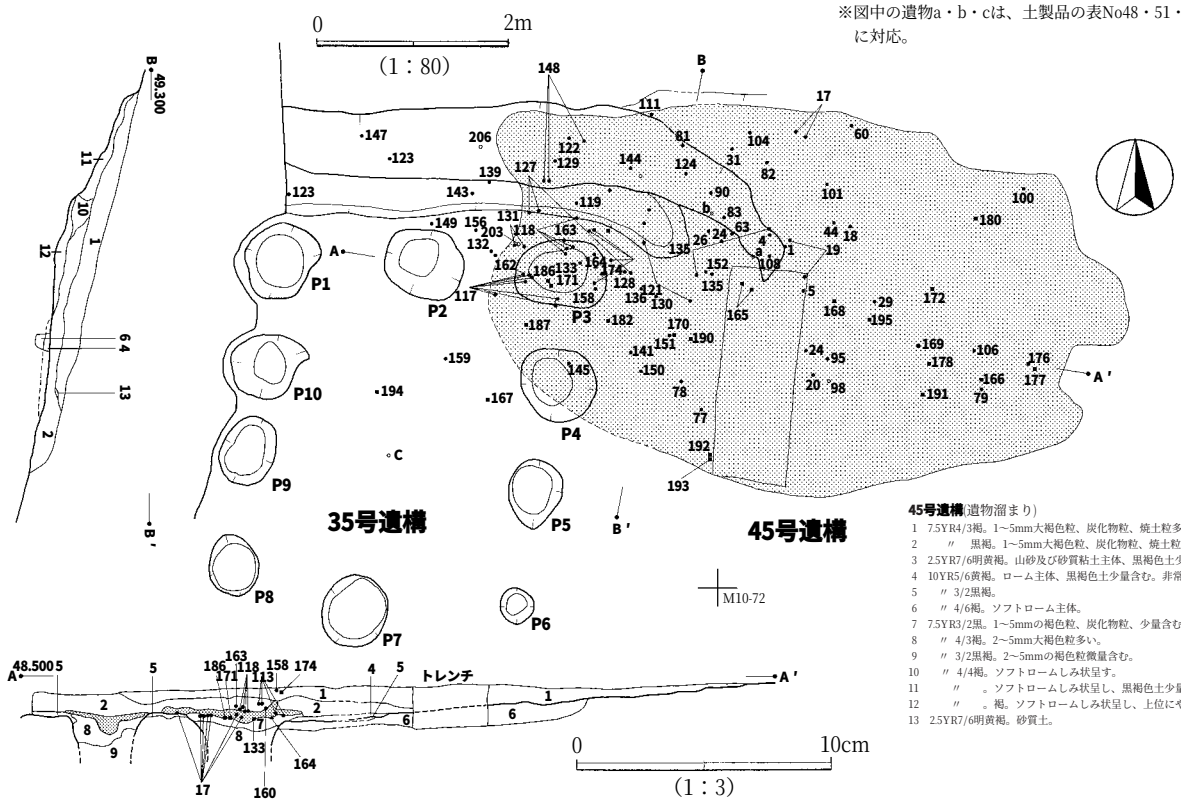


第63図　41～44号遺構（掘立柱建物跡）・41号遺構出土遺物実測図



第64図　42～43号遺構出土遺物実測図

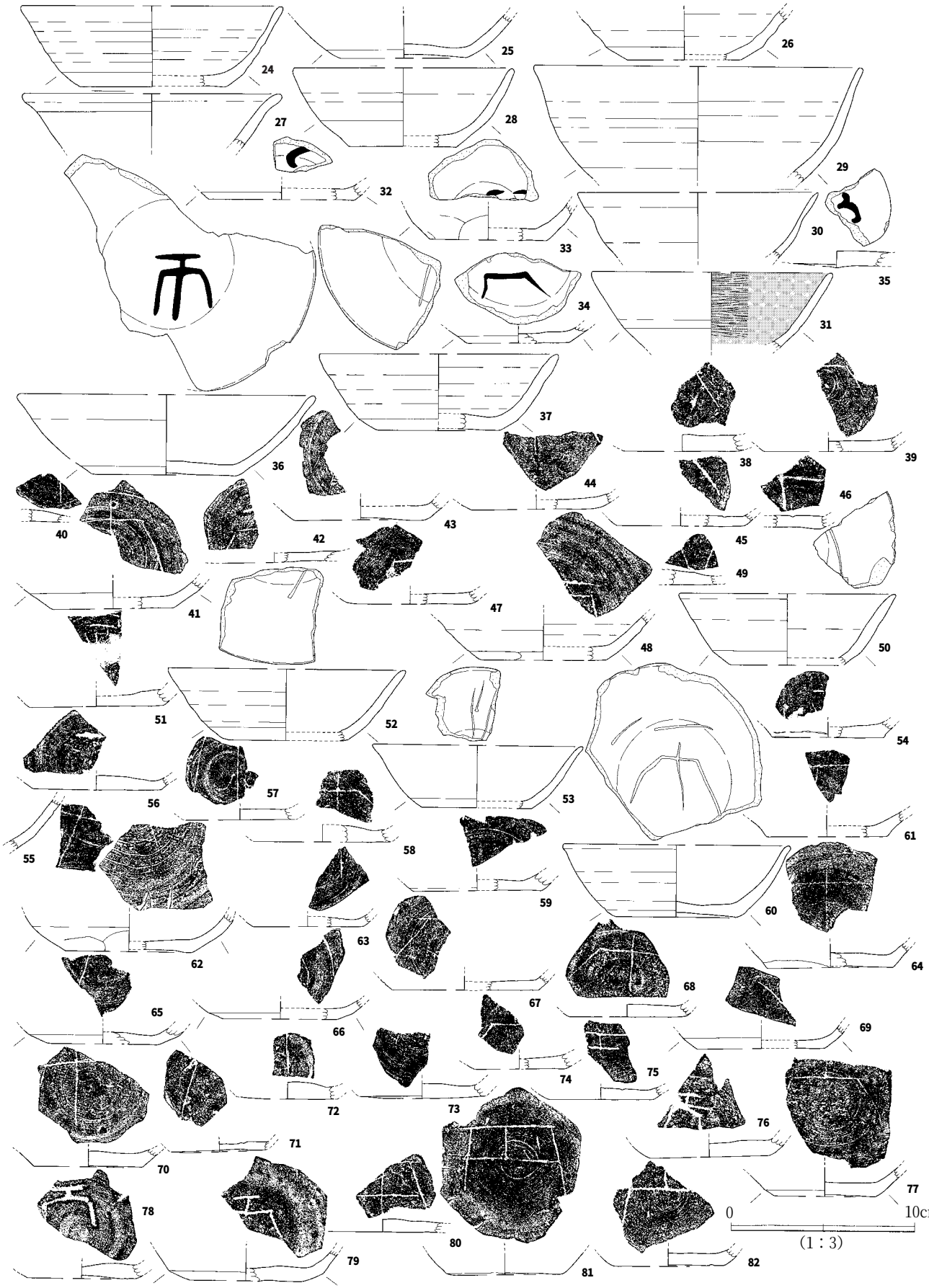
※図中の遺物a・b・cは、土製品の表No48・51・57に対応。



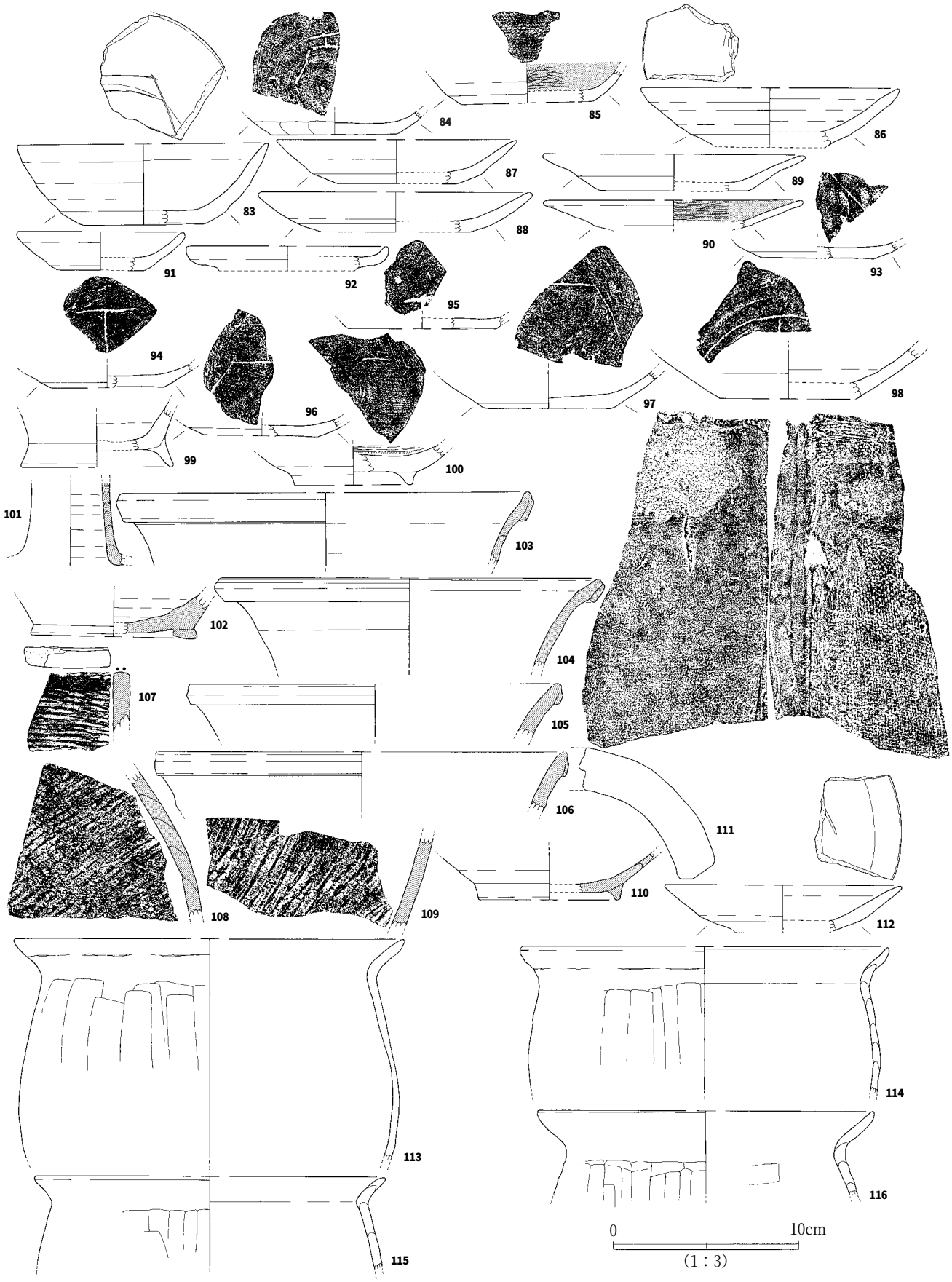
45号遺構（遺物溜まり）

1 7.5YR4/3褐。1～5mm大褐色粒、炭化物粒、焼土粒多い。
2 〃 黒褐。1～5mm大褐色粒、炭化物粒、焼土粒少量含む。
3 2.5YR7/6明黄褐。山砂及び砂質粘土主体、黒褐色土少量含み、ややしまる。
4 10YR5/6黄褐。ローム主体、黒褐色土少量含む。非常によく硬化する。
5 〃 3/2黒褐。
6 〃 4/6褐。ソフトローム主体。
7 7.5YR3/2黒。1～5mmの褐色粒、炭化物粒、少量含む。
8 〃 4/3褐。2～5mm大褐色粒多い。
9 〃 3/2黒褐。2～5mmの褐色粒微量含む。
10 〃 4/4褐。ソフトロームしみ状呈す。
11 〃 。ソフトロームしみ状呈し、黒褐色土少量含む。
12 〃 。褐。ソフトロームしみ状呈し、上位にやや硬化する部位あり。
13 2.5YR7/6明黄褐。砂質土。

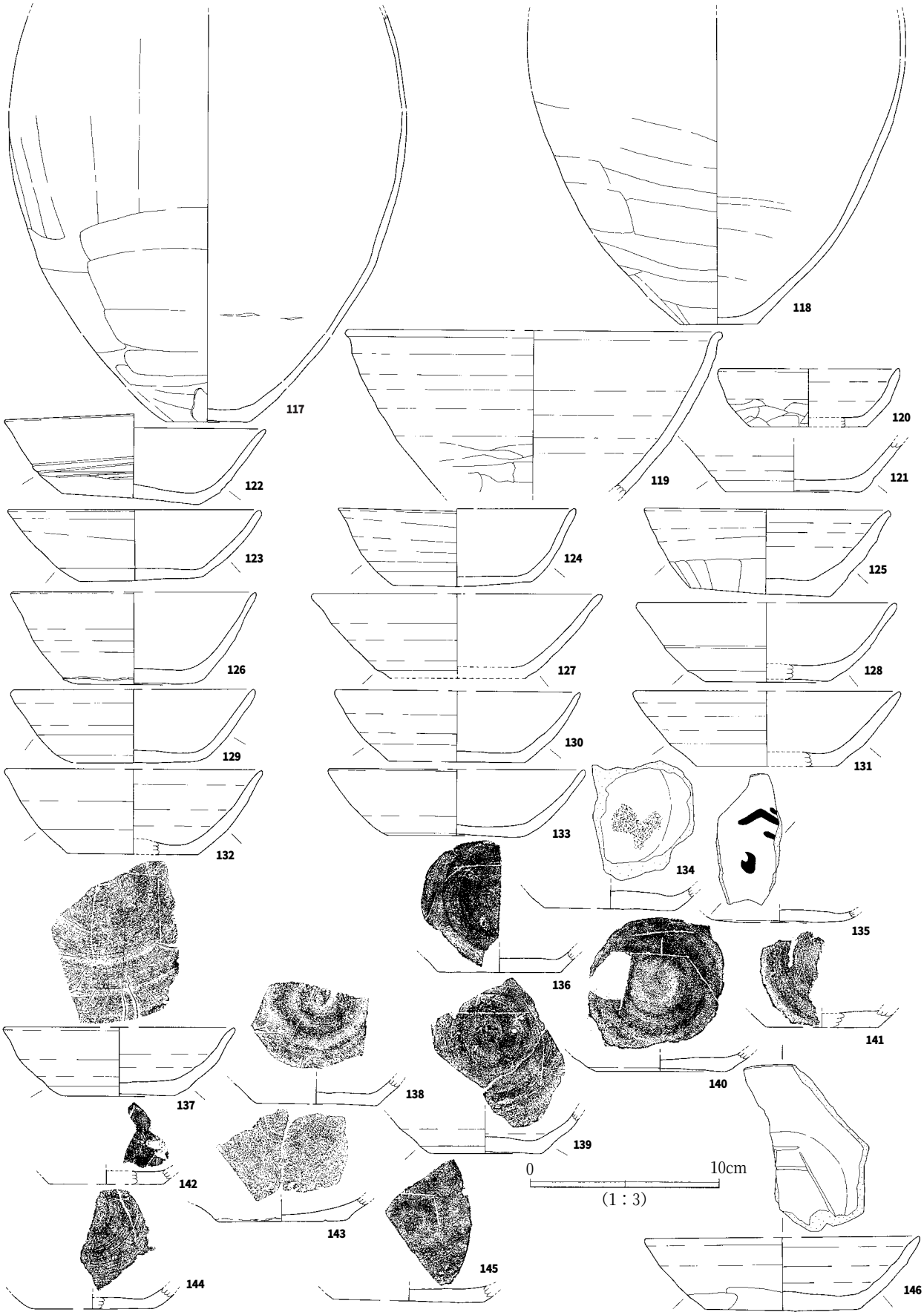
第65図　45号遺構（遺物溜まり）・遺物実測図



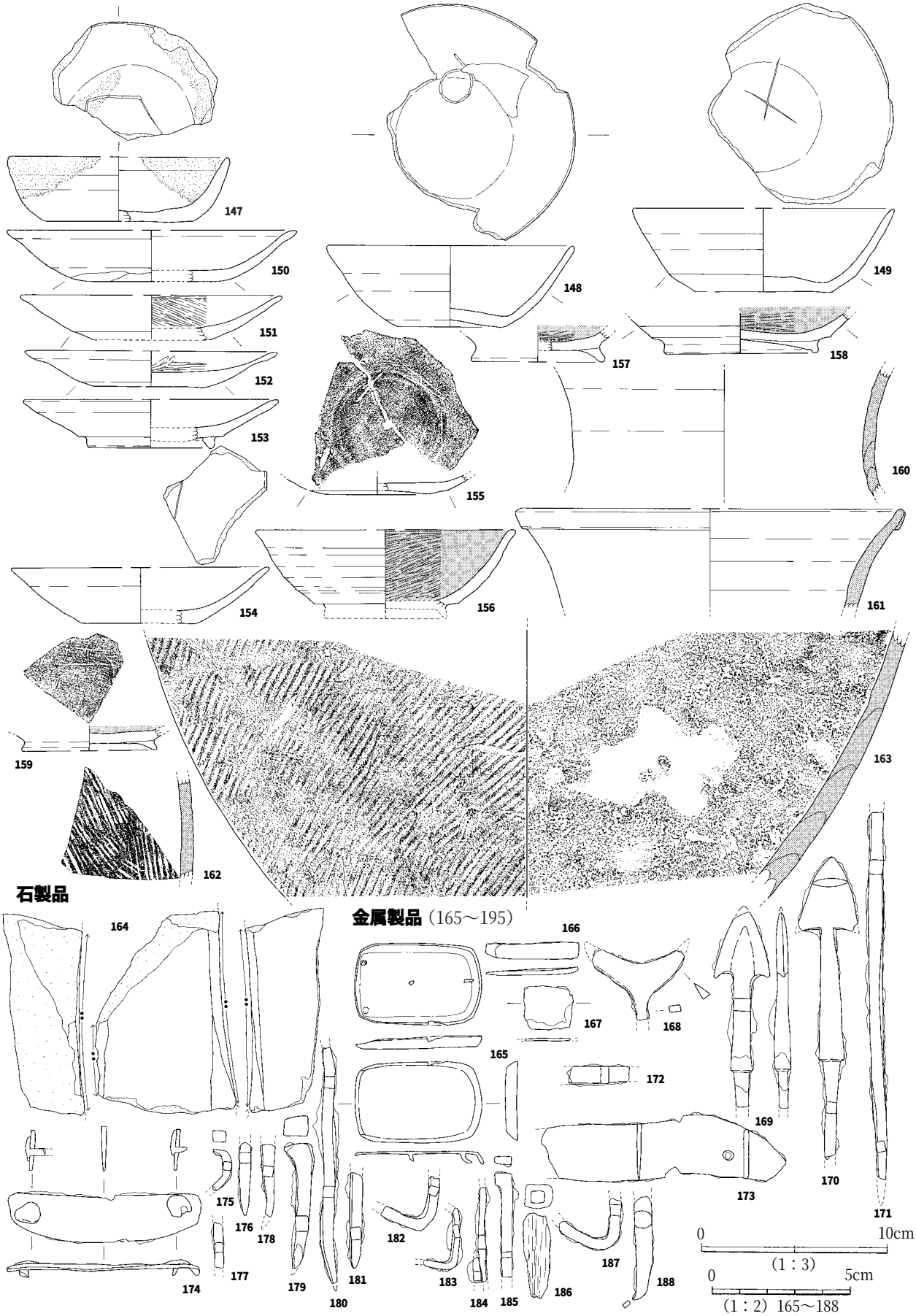
第66図　45号遺構出土遺物実測図



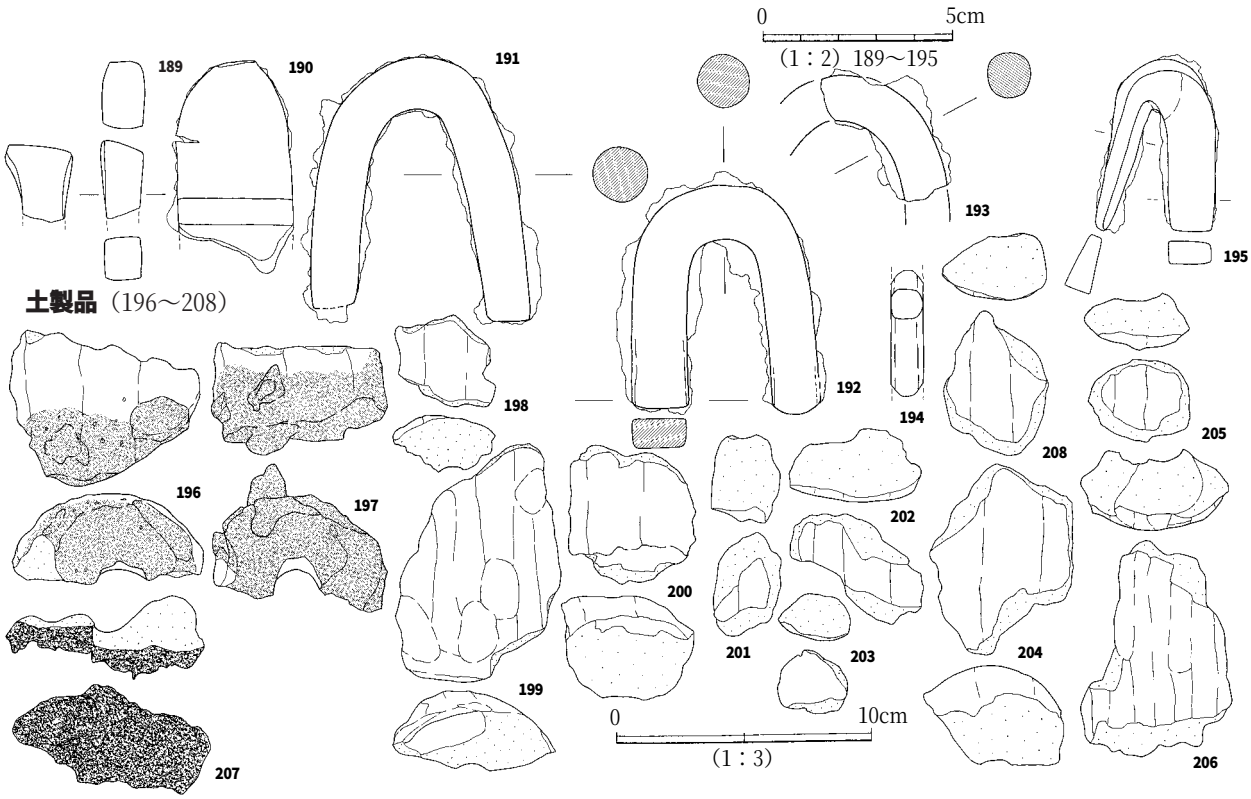
第67図　45号遺構出土遺物実測図



第68図　45号遺構出土遺物実測図



第69図　45号遺構出土遺物実測図



第70図　45号遺構出土遺物実測図

ことから、中世前期の方形区画墓の可能性もある。

(5)　土壙(47号遺構)

47号遺構(E区)　古墳時代終末期の木棺墓とされるタイプの土壙である(12)。棺痕跡は認められなかった。底面に周溝が巡り、中央を縦溝で区切る。縦溝両端に柱穴2基を持つ。須恵器杯(3)が入る点で、C区工房跡との時期的な差を示すものと思う。この杯は8世紀中葉から後葉と思われ、永田不入窯製品の可能性がある。製鉄関連遺物は、含鉄鉄滓44.0ｇ、鉄滓25.0ｇが出土しているが、混ざり込みであろう。

(6)　その他の遺構(48～56号遺構)

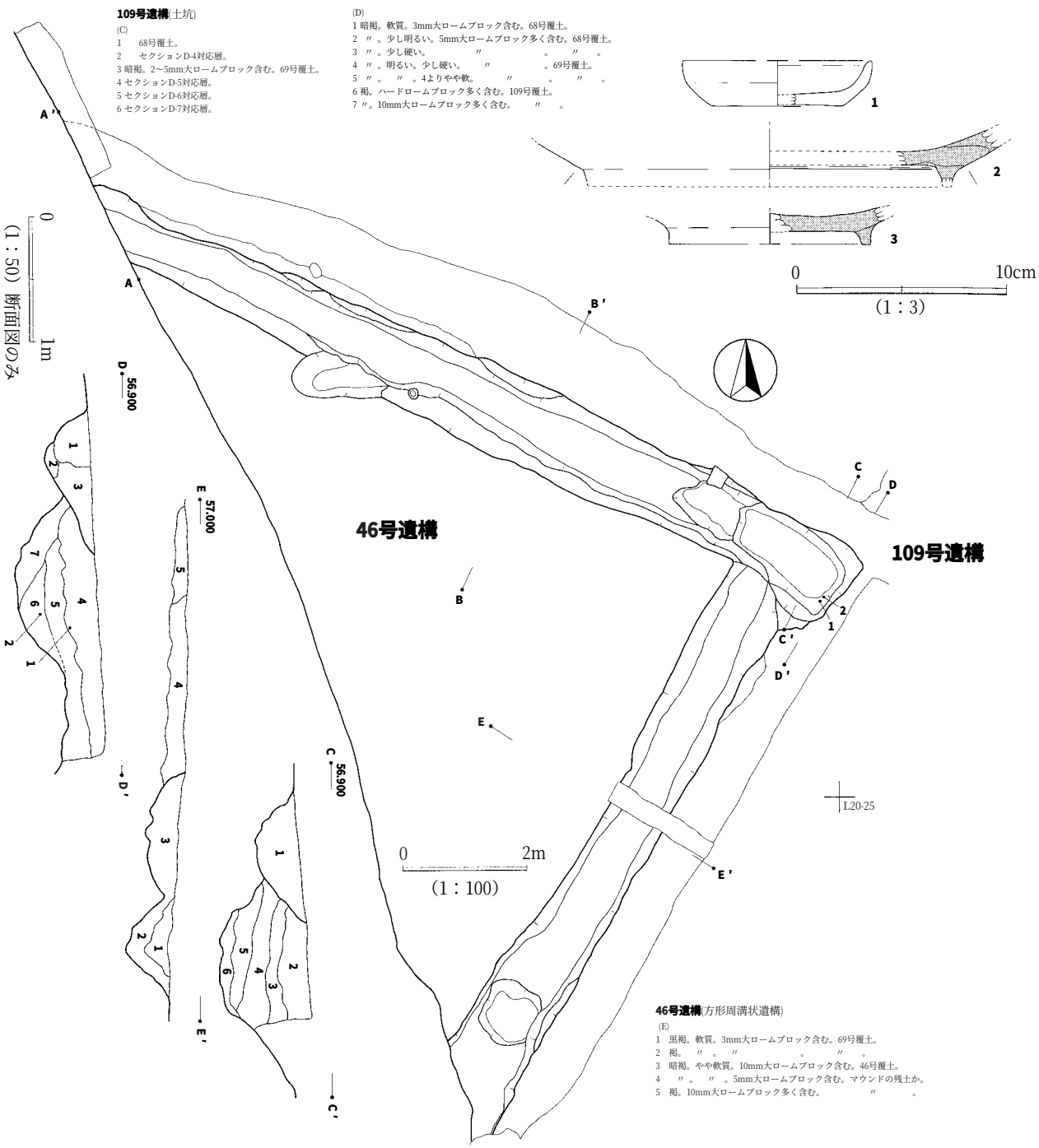
48号遺構(E区)　性格不明の小竪穴遺構で、底面四隅に支柱穴と思われるピット4基を持つ。遺物は製鉄関連遺物が中心で、含鉄鉄滓405.0ｇ、椀形鍛冶滓86.3ｇ、鉄塊系遺物36.3ｇ、鉄滓578.6ｇを量る。製鉄関連遺構か、遺構廃絶後に廃滓されたのかは不明である。3は含鉄鉄滓(炉内滓)で、分析の結果、製鉄工程初期から中期に発生したことが確認された。詳細は第6章(資料№12)を参照されたい。

49号遺構(E区)　性格不明の土坑。出土遺物も鉄滓が微量混入する程度で、土壙墓の可能性がある。

50号遺構(E区)　炉で、時期・性格ともに不明である。

51号遺構(E区)　炉で、掘形はT字状を呈する。製鉄関連遺物が一定量出土しているので、鍛冶炉の可能性がある。含鉄鉄滓77.6ｇ、含鉄椀形鍛冶滓26.1ｇ、鉄滓14.1ｇを量る。

52号遺構(E区)　51号遺構に隣接した炉で、性格不明である。鉄滓類は出土しなかった。



第71図　46（方形周溝状遺構）・109号遺構（鎌倉時代土坑）・109号遺構出土遺物実測図

53号遺構(F区)　時期・性格ともに不明であるが、形状・覆土ともに54号遺構に類似する。

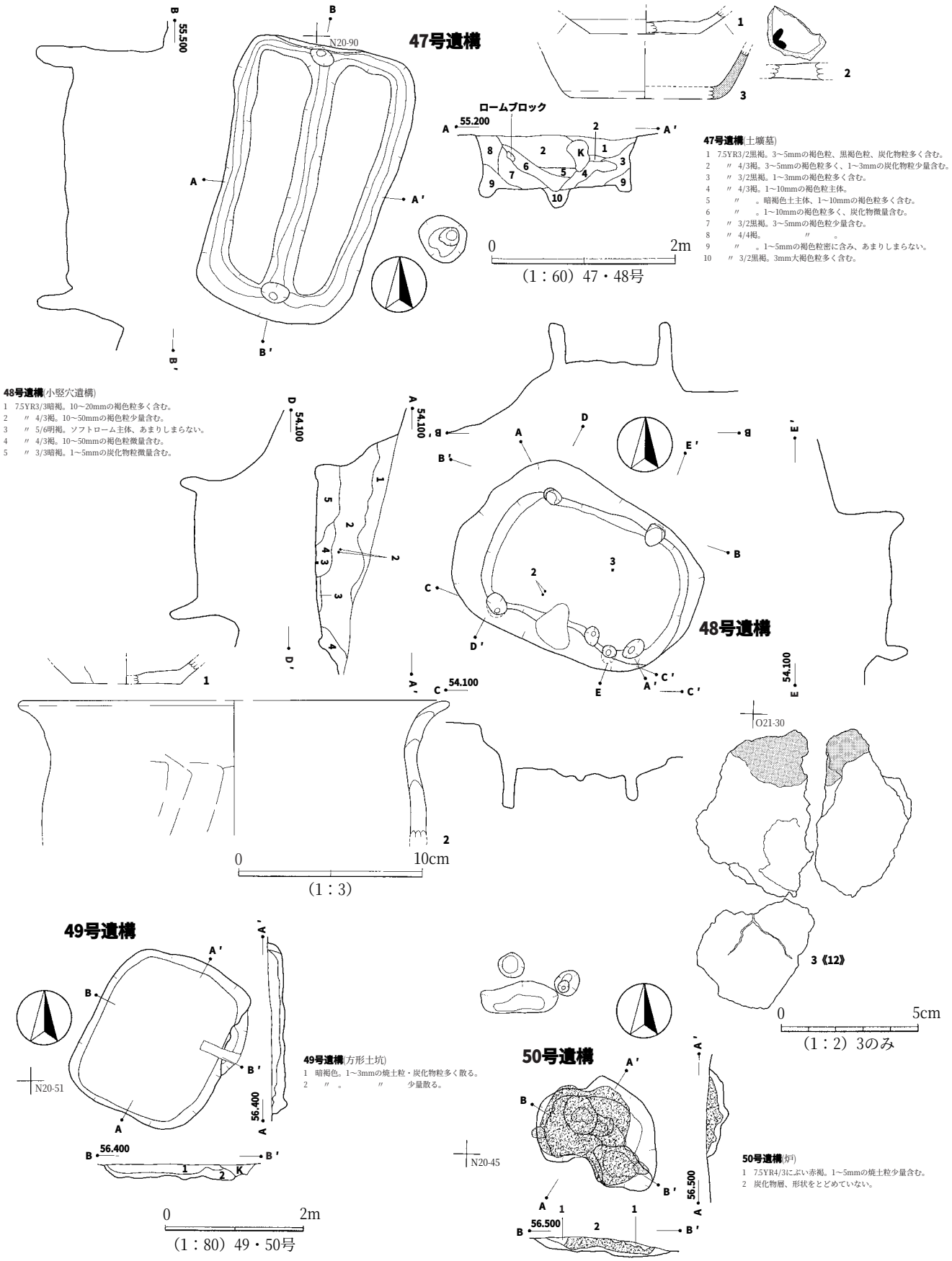
54号遺構(B区)　時期・性格ともに不明だが、62号遺構に切られている。長方形、断面逆台形の土坑と思われ、掘形は浅いピット状の窪みが多い。掘削時の道具痕と思われ、実際はこの上に薄い汚れた層が被り、フラットな遺構底面となる。

55号遺構(B区)　時期・性格不明の土坑。2カ所のピット群に切られる(セクションA参照)。覆土中に数点礫を含む。

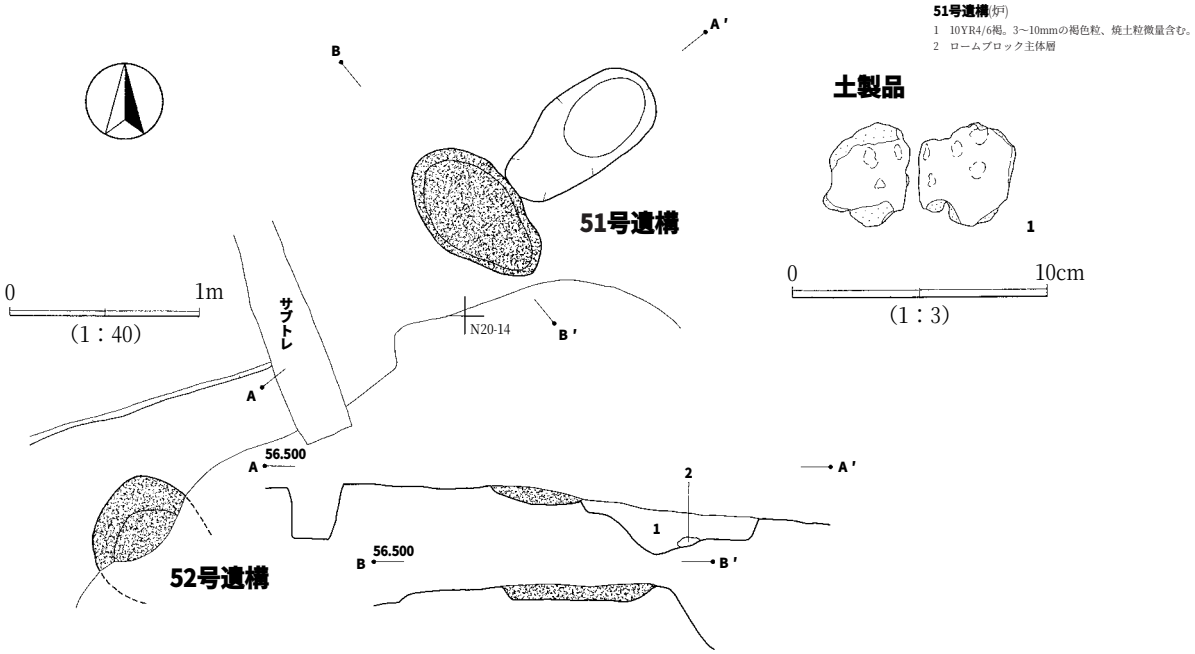
56号遺構(B区)　時期・性格不明の円形土坑で、55号遺構に隣接する。

(6)　溝状遺構

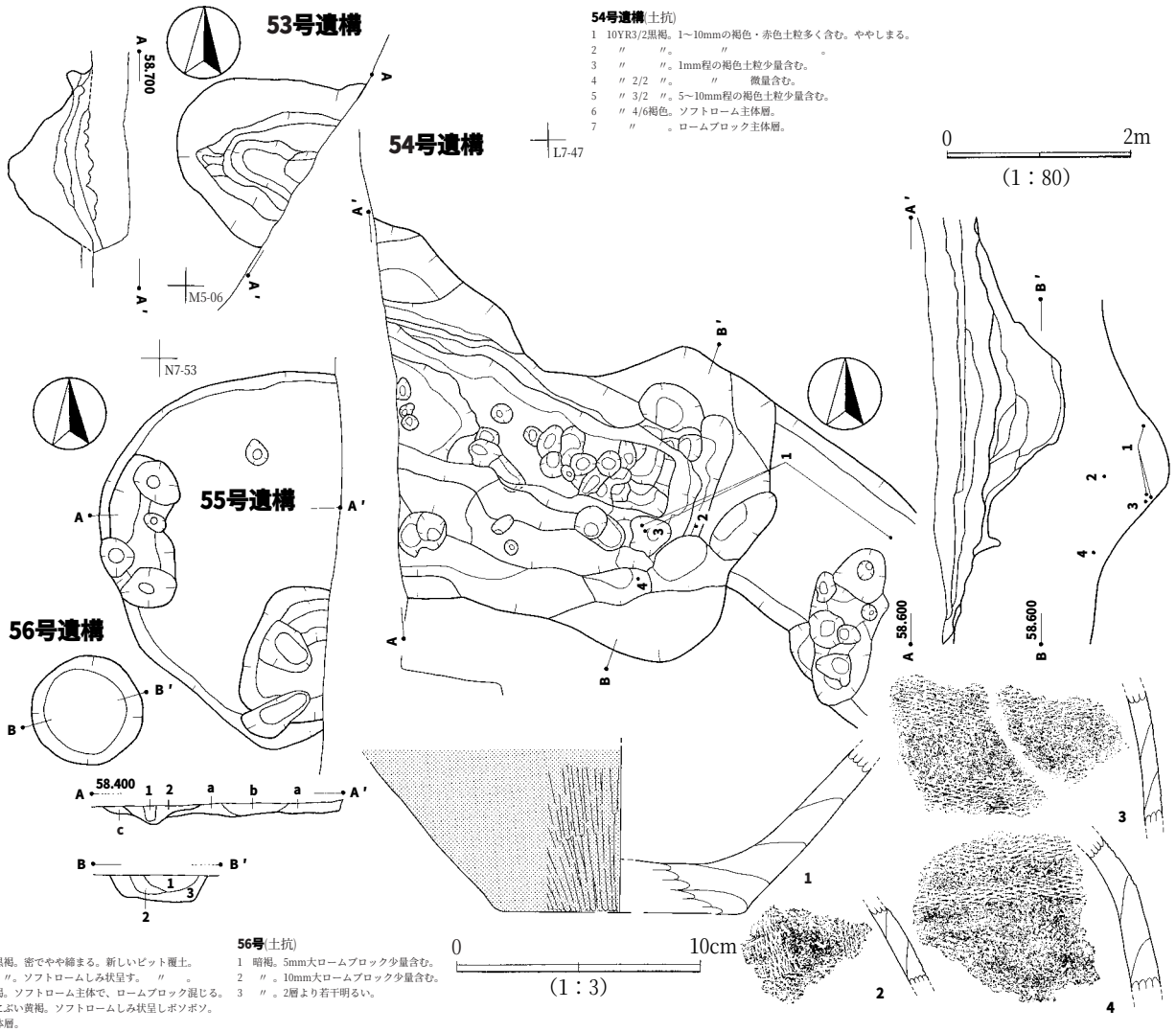
57号遺構(B区)　黒色の覆土色調から、発掘調査時に古代の溝と判断した。



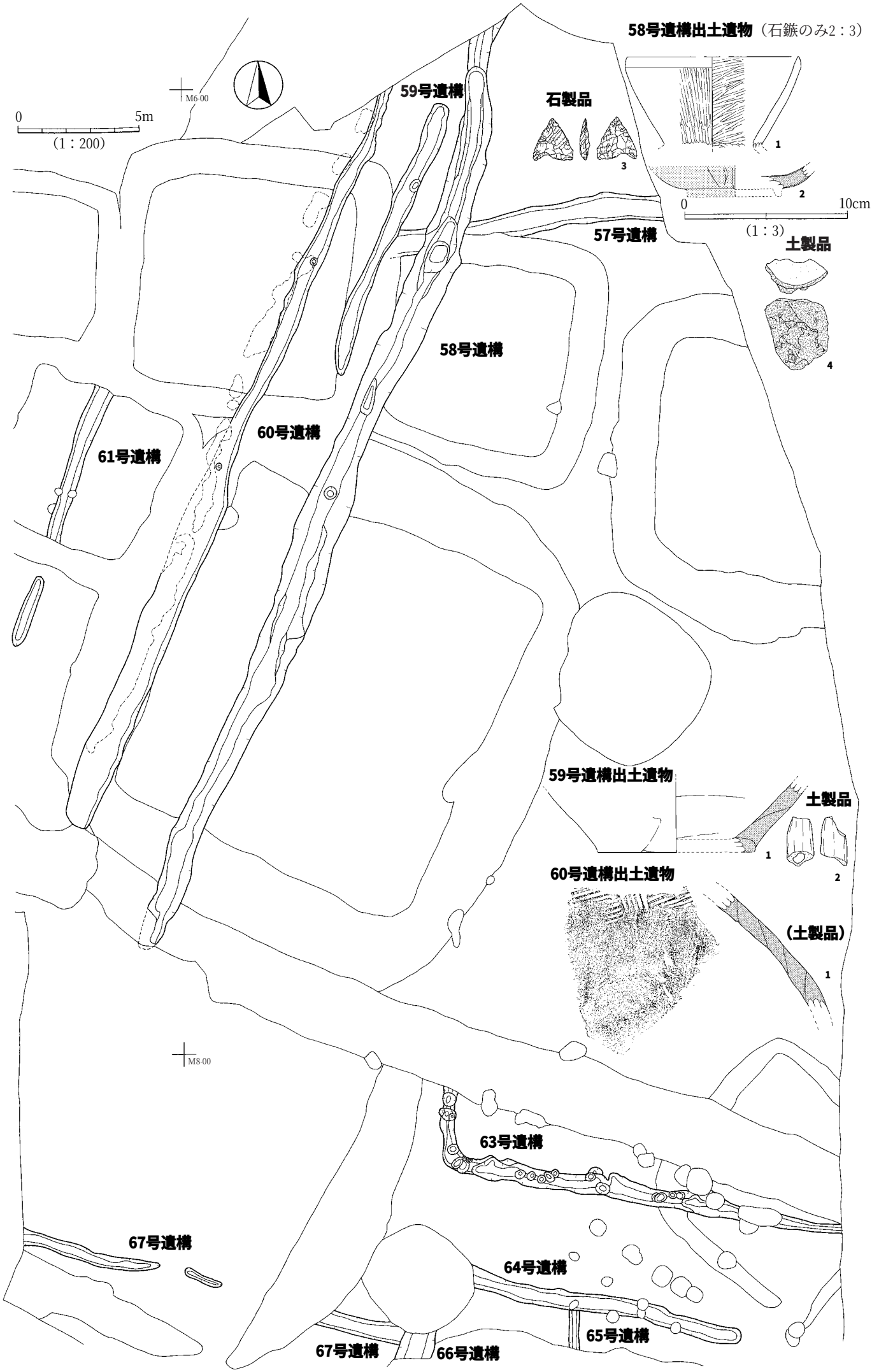
第72図　47～50号遺構（古墳時代終末期土壙・平安期土坑）・47・48号遺構出土遺物実測図



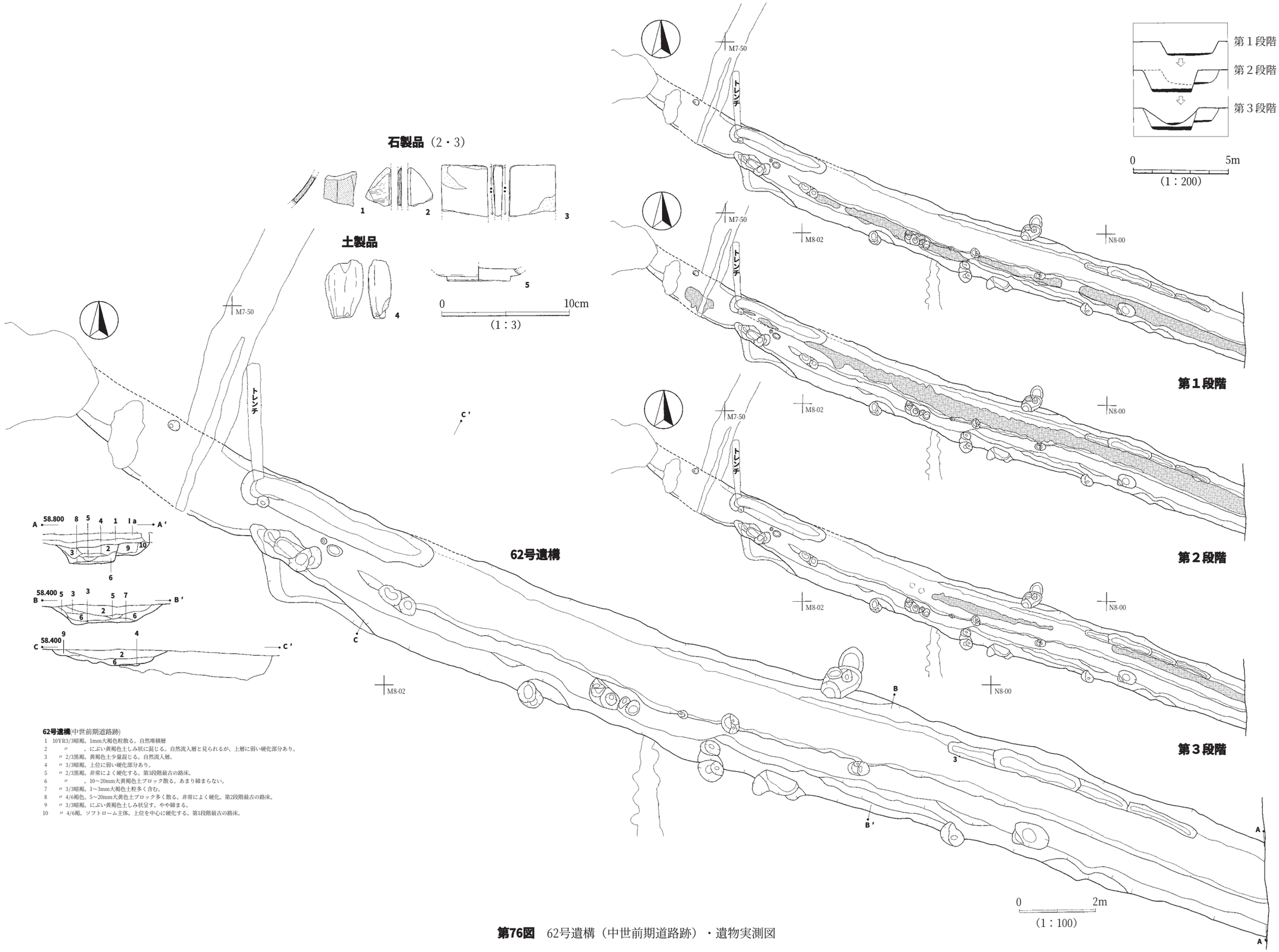
第73図　51・52号遺構（炉・平安期小鍛冶関連か）・51号遺構出土遺物実測図



第74図　53～56号遺構（平安期土坑）・54号遺構出土遺物実測図



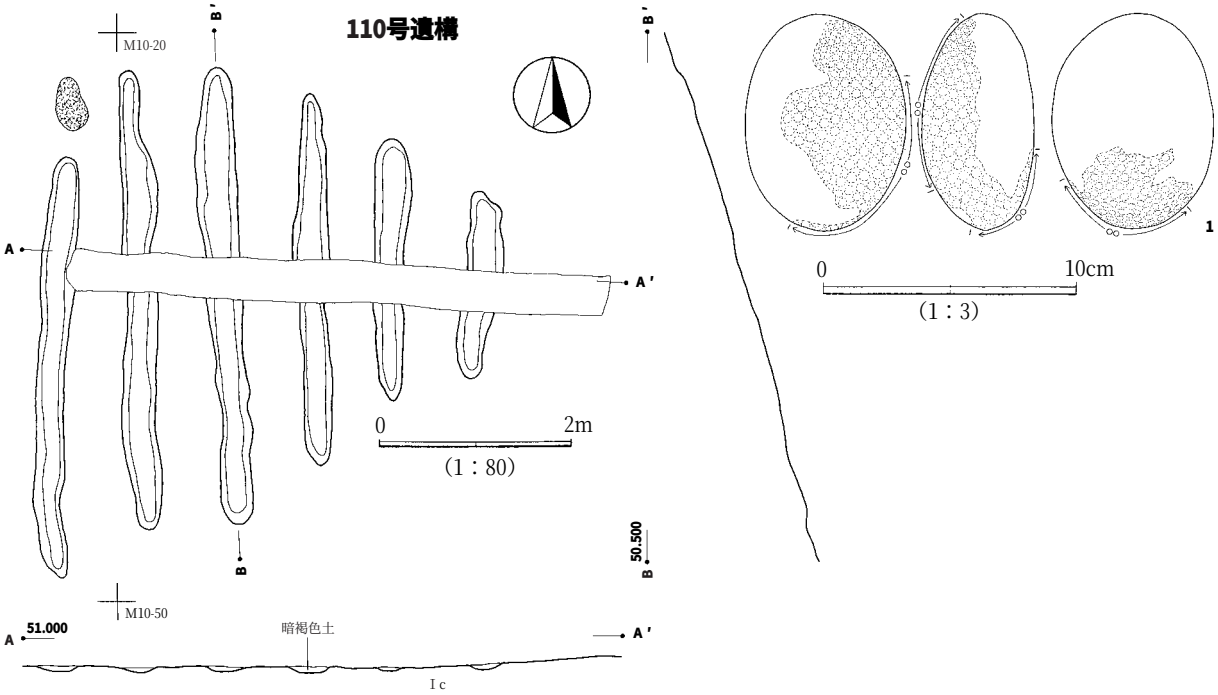
第75図　57～61・63～67号遺構（溝状遺構）・58～60号遺構出土遺物実測図



62号遺構(中世前期道路跡)

1　10YR3/3暗褐。1mm大褐色粒散る。自然堆積層
2　〃　。にぶい黄褐色土しみ状に混じる。自然流入層と見られるが、上層に弱い硬化部分あり。
3　〃 2/3黒褐。黄褐色土少量混じる。自然流入層。
4　〃 3/3暗褐。上位に弱い硬化部分あり。
5　〃 2/3黒褐。非常によく硬化する。第3段階最古の路床。
6　〃　。10～20mm大黄褐色土ブロック散る。あまり締まらない。
7　〃 3/3暗褐。1～3mm大褐色土粒多く含む。
8　〃 4/6褐色。5～20mm大黄色土ブロック多く散る。非常によく硬化。第2段階最古の路床。
9　〃 3/3暗褐。にぶい黄褐色土しみ状呈す。やや締まる。
10　〃 4/6褐。ソフトローム主体。上位を中心に硬化する。第1段階最古の路床。

第76図　62号遺構（中世前期道路跡）・遺物実測図



第77図　110号遺構（C区中世盛土地業直前の畝状遺構）

7　平安時代末期～鎌倉時代

B区遺構群(溝状遺構のみ)

58号遺構(B区)　区画溝と思われ、硬化面は検出されなかった。62号遺構を切るが、出土遺物は同時期で、C区中世地業Ⅲ期後半に並行すると思われる。59・60号遺構と併せ、17号遺構(方形周溝墓)南北軸線と合致するので、17号遺構に遺存した墳丘に規制された可能性がある。

1は弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての壺で、方形周溝墓群からの混ざり込みである。2は龍泉窯系青磁碗Ⅰ-5類で、C区中世地業Ⅲ期に並行する。3は石鏃で混ざり込みである。4は羽口で、表面が被熱のため発泡、濃緑色滓が付着する。古代の混ざり込みである。

59号遺構(B区)　常滑産片口鉢Ⅱ類(1)が出土している。型式は不明だが、本遺跡出土の片口鉢Ⅱ類は少なく、7～9型式に限られるので、この遺物も同様であろう。本遺構はC区中世Ⅲ期より新しいものと考えられる。58号遺構の切り直し溝であろう。

60号遺構(B区)　遺構の配列から、59号遺構より新しいと思われる。硬化面を有し、道路として機能していた。区画溝を道に併用する画期と、中世建物群の消滅に、何らかの関連があるのかもしれない。

61号遺構(B区)　58～60号遺構と同列に伸びるので、中世前期と思われる。

62号遺構(B区)　道路遺構で、遺物的にはC区中世地業Ⅲ期に該当する。58号遺構に切られるが、出土遺物は同時期である。硬化面は大別3期にわたるので、浚渫を繰り返しながら、一定期間機能したことが伺える。16号遺構(方形周溝墓)北側周溝の窪みに規制されているので、方形周溝墓群に、当時墳丘が遺存していた可能性が高い。

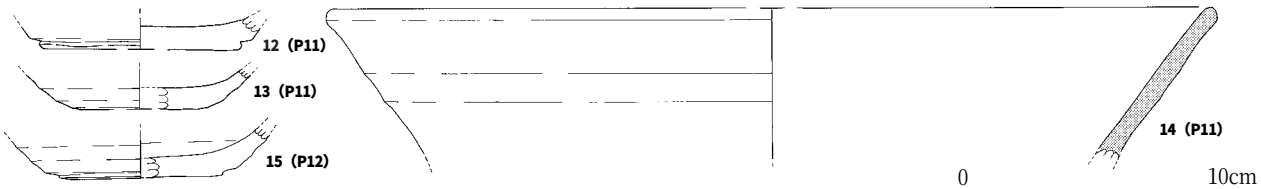
1は龍泉窯系青磁碗Ⅰ-5類である。2は古代の石製模造品で、混ざり込みである。3は砥石できめ細かく、仕上砥と思われる。4は土錘で、遺構に伴う時期か否かは不明。5はカワラケで、底部の突出が



第78図　C区中世遺構配置図



第79図　C区中世遺構配置図・ピット（今回建物を組めなかったもの）出土遺物実測図



第80図　C区中世ピット（今回建物を組めなかったもの）出土遺物実測図

顕著であり、底部糸切り痕をナデるが不徹底、見込みに軽く横方向ナデを施す。

C区遺構群

(1)　畝状遺構

110号遺構(畝状遺構)

畑の畝と思われる。35号遺構(掘立柱建物跡)を覆うⅠc層(中世盛土直前の旧表土)上面で確認した。本遺構が機能した段階のC区は緩斜面地で、中世整地直前は畑地化していたと言える。

(2)　整地遺構(73・74号遺構　※74号は近世遺構)

本来緩やかな斜面であったC区を切り土し、その南面に排土を盛土する。結果、C区には高さ約5mの崖が谷に沿って創出され、盛土によって拡張した平場と共に、現在でも容易に地表面観察できる。この平場は広く調査区外にも及び、総面積約2,000m²を測る。調査対象部分は788m²で、整地面全体の39.4%に止まるものである。なお、93号遺構(溝状遺構)から崖までの空間は、近世初頭以降の拡張部であるが、中世前期の整地期も景観的には同一のものである。断面(Ⅰ～Ⅲの3層)と平面(a～eの5面)の双方からの情報記録を試みたが、あまり緻密な調査はできなかった。

73号遺構(C区)　中世前期の切り土・盛土整地遺構で、大別三期の地業層が確認された。古い順(下層)からⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期とする。発掘調査時に各期上層でプラン確認を試みている。

Ⅰ期は、Ⅰc旧表土に3b盛土整地層を乗せる。土量的に中世盛土の大部分を占める巨大土木工事で、Ⅰ期段階ですでに相応の平場面積を確保していたものと言える。下層から上層に移行するに従い、汚れた黒色土からソフトローム主体土、ハードローム大ブロック主体土、小原台パミスブロック混入土、の順で堆積する。切り土整地部全般をフラットに掘削し、排土を盛土しているので、地業層は自然地層の逆転現象を起こしたものである。盛土がある程度進んだ段階で、全体を突き固めている。

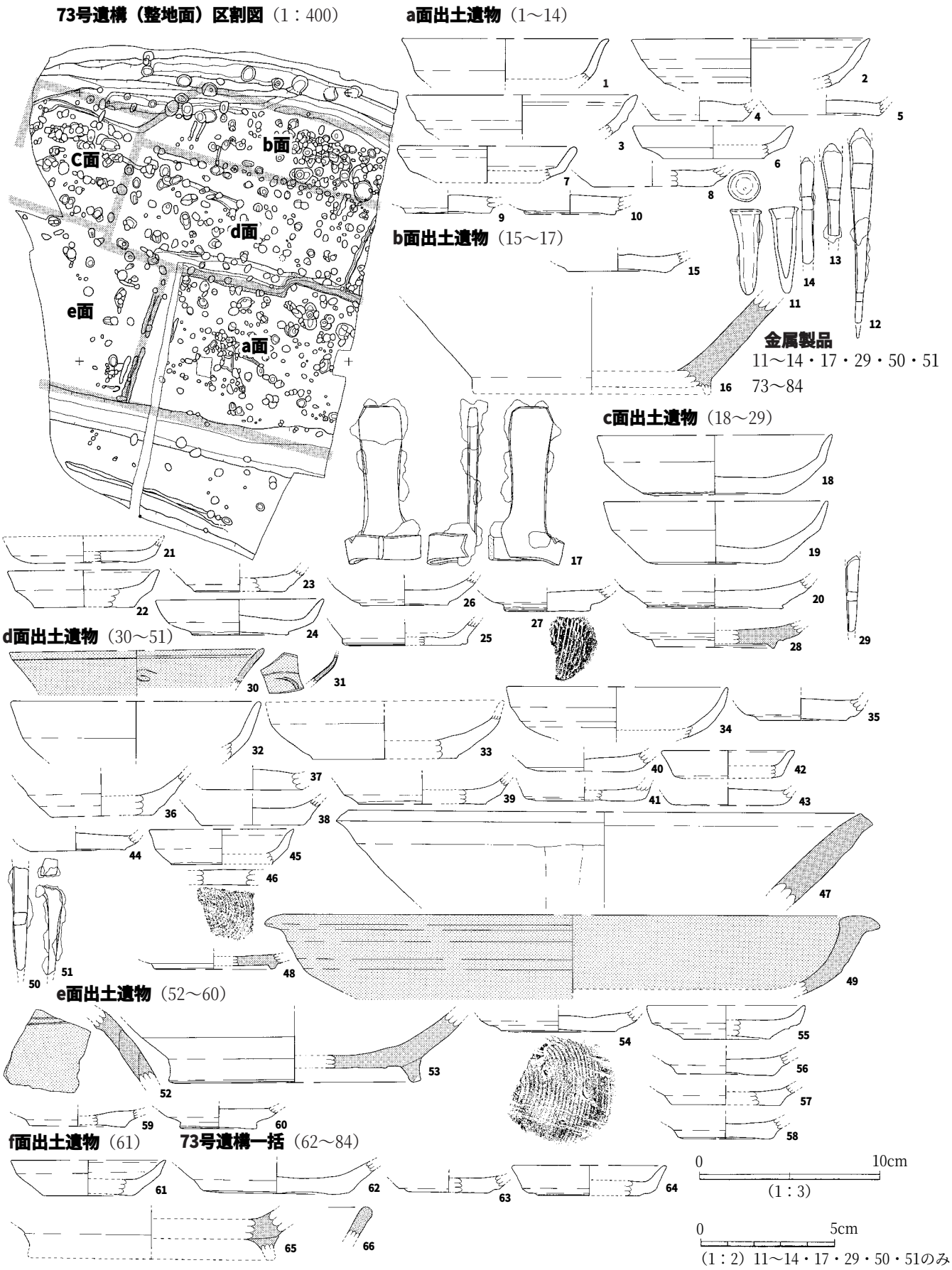
上面の3a層はあまり締まらず有機質性が強いため、文化層と解釈した。しかしローム粒が割と流入する傾向もあり、地業面がいまだ安定せず、ローム露出面が近接した環境を示すものと思われる。75号遺構(掘立柱建物跡) 下層のピット群がこの時期に相当するが、建物は復元できず、遺物も伴わなかったため、個別の図面は作成しなかった。ただし調査区外に整地に見合う規模の建物が存在する可能性は強いであろう。

Ⅱ期の2b盛土層の土量は少なく、ローム粒主体なので、背面崖の拡張地業を暗示する。また、文化層2aは有機質性が強く、Ⅱ期においては周辺が山林であった環境を示す。

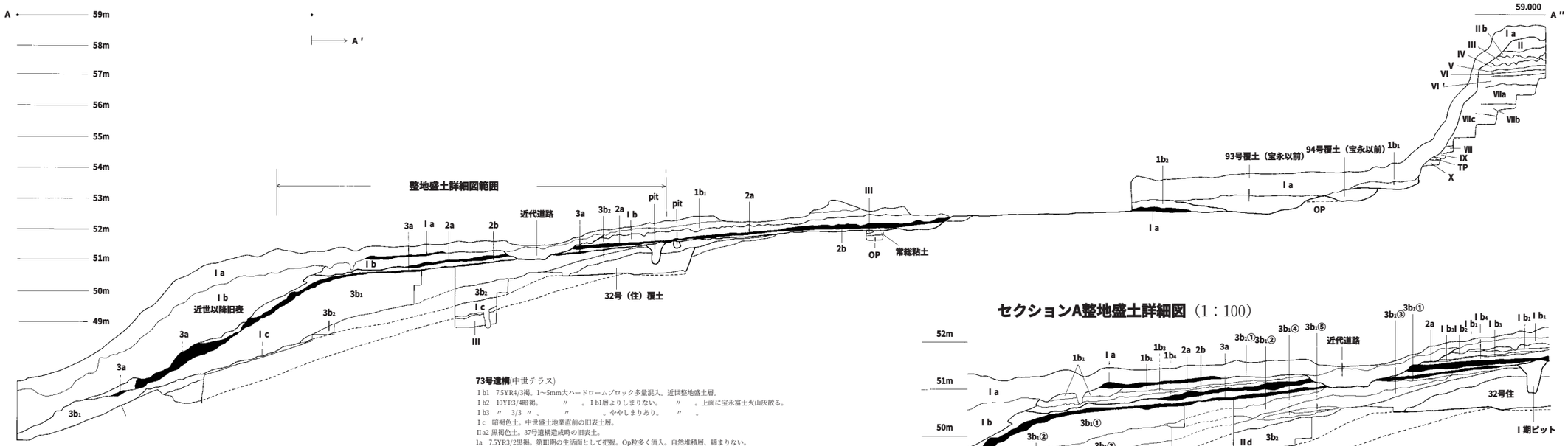
Ⅲ期の1b盛土層は土量が比較的多く、小原台パミス主体のローム混入土なので、北崖の削平と共にa・b両面の平坦化も実施したことが伺える。79号遺構以降の建物群は、プラン確認により、すべて本期に帰属する可能性が高いと言えるので、Ⅰ・Ⅱ期より長期間を占めるものであった。もっとも1b層中には、文化面と思われる締まりない有機質土層が複数存在したので、本期がさらに細分されることは確実である。しかし最終文化層の1a層は、盛土整地が顕著な南側にしか遺存せず、建物群の



第81図　73号遺構（C区切り土・盛土整地跡）実測図

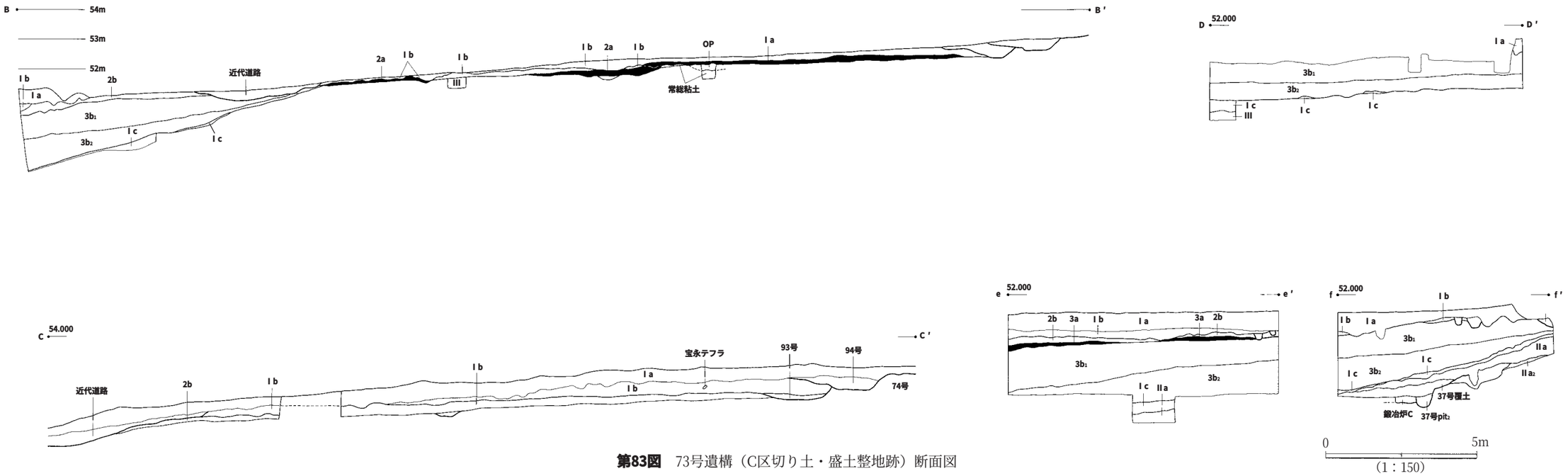


第82図　73号遺構出土遺物実測図

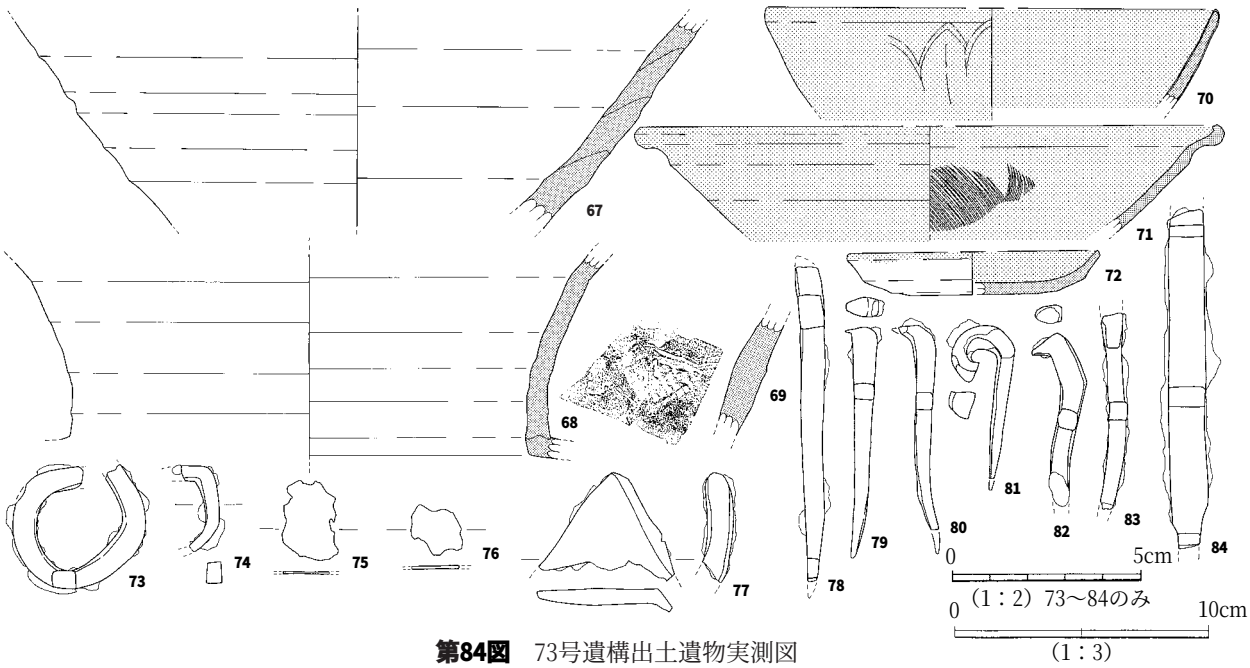


73号遺構(中世テラス)

Ⅰb1　7.5YR4/3褐。1～5mm大ハードロームブロック多量混入。近世整地盛土層。
Ⅰb2　10YR3/4暗褐。　〃　。Ⅰb1層よりしまりない。　〃　。上面に宝永富士火山灰散る。
Ⅰb3　〃　3/3　〃　。　〃　。ややしまりあり。　〃　。
Ⅰc　暗褐色土。中世盛土地業直前の旧表土層。
Ⅱa2 黒褐色土。37号遺構造成時の旧表土。
1a　7.5YR3/2黒褐。第Ⅲ期の生活面として把握。Op粒多く流入。自然堆積層、締まりない。
1b1　10YR5/4にぶい黄褐。ローム粒主体のⅢ期盛土整地層。よく締まる。
1b2　〃 6/4　〃　。ローム粒主体でOPブロック散る。Ⅲ期盛土整地層。よく締まる。
1b3　〃 3/2黒褐。有機質性強い。　〃　。　〃　。
1b4　〃 5/6黄褐。ローム粒主体層。　〃　。　〃　。
2a　7.5YR2/1黒。第Ⅱ期の文化面として把握。自然堆積層。締まりない。
2b　7.5YR4/3褐中心。ローム粒主体層で10～30mmロームB含む。全体に締まる。第Ⅱ期盛土整地層
3a　7.5YR3/2黒褐。第Ⅰ期の文化面として把握。ローム粒・5～10mm大ロームB流入。自然堆積層。締まりない。
3b1① 7.5YR4/3褐。ローム粒主体層で、30mm大ハードロームブロック混じる。第Ⅰ期の盛土層。
3b1②　〃　。50～100mm大ハードロームブロック主体層　〃　。
3b1③　〃　。30mm大　〃　。　〃　。
3b1④　〃 3/2黒褐。有機質性強い。　〃　。
3b1⑤　〃　。　〃　。20mm大ロームブロック散る。　〃　。
3b1⑥　〃 5/4にぶい黄褐。ローム大小ブロック主体層。　〃　。
3b2 7.5YR3/2黒褐。ローム粒混入し汚れた黒色土。Ⅰ期盛土の最下層と捉えているが、3b1層との間に、盛土整地を伴う初めての文化面が存在する可能性がある。



第83図　73号遺構（C区切り土・盛土整地跡）断面図



第84図　73号遺構出土遺物実測図

空間は近世以降に再削平を受けていたので、プラン確認によってこれに帰属する建物を確定することはできなかった。極めて限られた調査期間において、1a以外の複数文化面の精査は行えず、これに各個帰属したであろう建物群は、「Ⅲ期」として同時に捕捉せざるを得なかった。

73号遺構a面　83号遺構(区画溝)から南側で、Ⅰ期から平坦面として存在した。ただし83・88号遺構により整然と区画されたのはⅡ期になってからのことである。古代の工房跡が下層に存在することから、73号(整地遺構)全体において土師器が混ざり込んだのはほとんど本面であった。従って、本面出土の金属製品は古代工房跡から混ざり込んだ可能性がある。

73号遺構b面　Ⅱ期と思われ、この部分の崖面のみ奥に抉られていることから、77号遺構(掘立柱建物)建設のための整地面であることは確実であろう。

73号遺構c面　Ⅲ期。78号遺構(掘立柱建物)建設のための整地面で、87号遺構(区画溝)により区画される。

73号遺構d面　Ⅲ期。小原台パミスが露出する切り土面で、地盤がしっかりしているため、79号遺構以降の大型建物は本面に展開する。

73号遺構e面　谷底からの入り口に相当する場所で、建物遺構がない空間である。

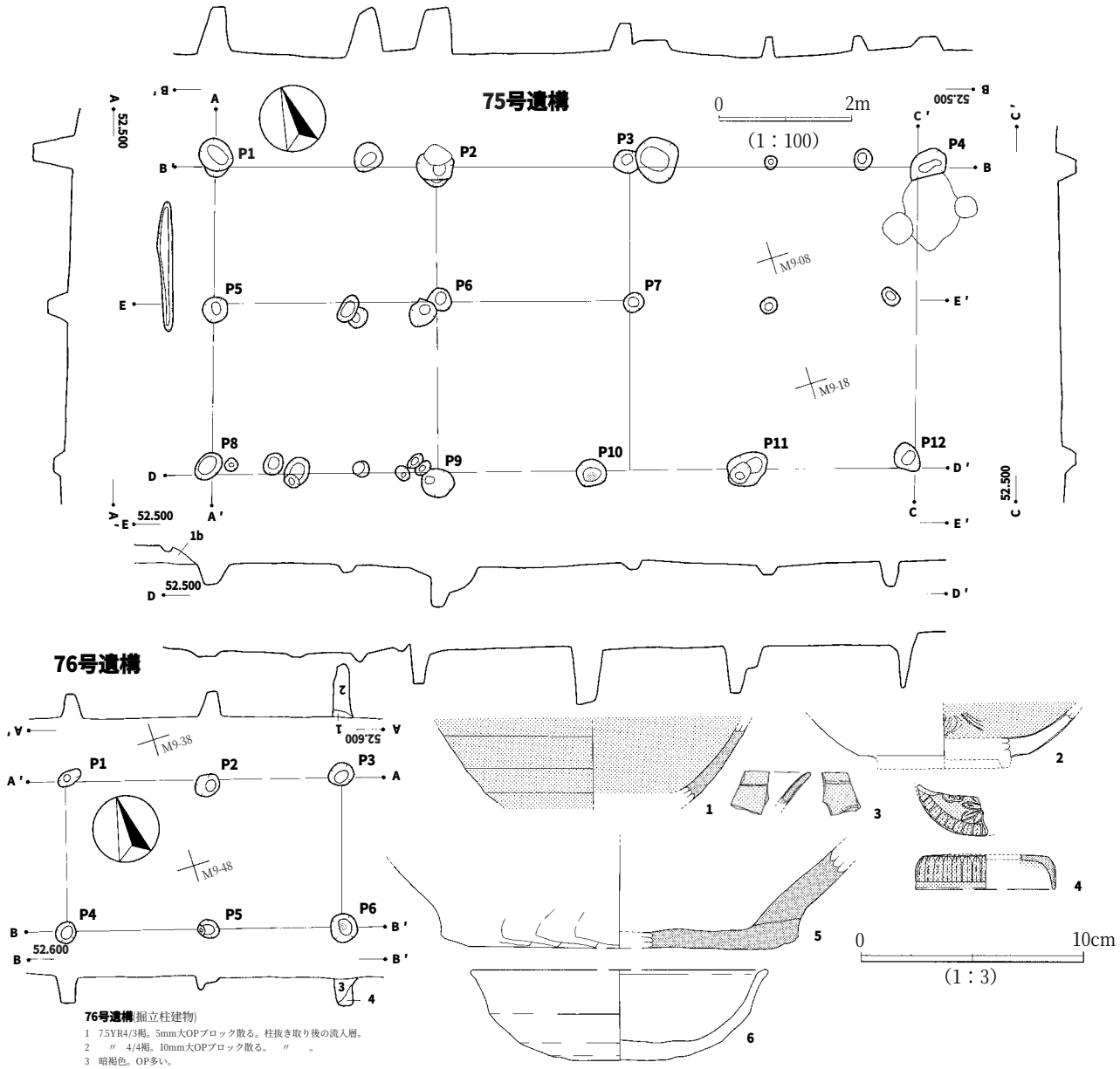
74号遺構　94号遺構を切る近世切り土整地面。

(3)　掘立柱建物跡(75～82号遺構)

8棟の建物跡を捕捉した。建物配置は発掘調査時に捕捉できず、整理段階で図面を基に捉えたものである。この8棟で捉えきれない柱穴が多く残っているため、さらに何棟か存在するものと見てよい。

75号遺構　73号遺構a面上に位置する。Ⅱ期地業層上面でプラン確認した。ピット4は81号遺構(掘立柱建物跡)ピット44に切られている。柱の一部を廃絶時に抜き取っているようだ(ピット2・11)。一見総柱建物に見えるが、ピット5～7軸上東側のピットは掘形が脆弱なので、仮に何らかの支えはあったにせよ、主柱穴とは捉えなかった。従って、土間床と張り板床の共存が推定される。

遺物はピットに伴わず、全体に古い様相を呈する。1～3は龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1類、Ⅰ-2a 類、Ⅰ-2

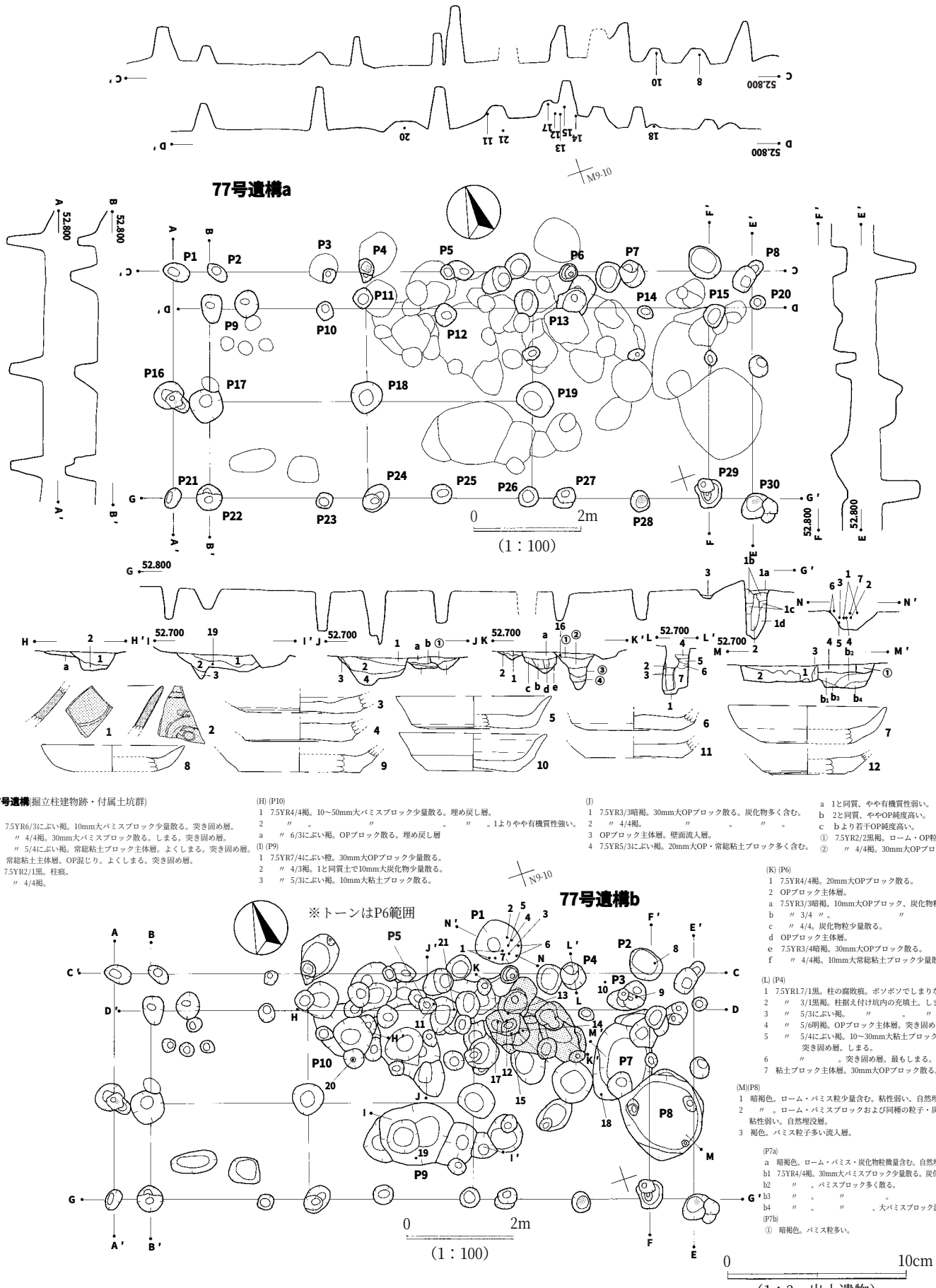


第85図　75・76号遺構（C区掘立柱建物跡）・75号遺構出土遺物実測図

類で、12世紀中葉から後葉の遺物である(19)。4は青白磁の合子で、青磁椀と同期の遺物と思われる。5は渥美産甕である。6はカワラケで、胎土は土師器と変わらない在地産と思われるが、口縁部をナデ、丸底にしている。手捏を模倣したものである。

76号遺構　75号遺構の北方に位置する。梁行の軸線が75号のそれに乗るので、基本的に同時期の建物と思われる。ピット3は断面観察で柱抜き取り痕が確認されている(セクションA)。部材は77号遺構建物に流用か。なお、伴う遺物は認められなかった。

77号遺構a　75号の移築と思われる。梁行の軸線が75号のそれに乗るので、75号遺構の上屋解体直前にプランの縄打ちを行った可能性が高い。主柱穴の配置は75号と同一であるが、柱穴の心々間が75号より若干狭くなるため、移築に際し同一部材を多用したと推測できる。遺物は1・2が青磁碗(Ⅰ-1・2類)、3～12がカワラケで、底部の突出が顕著なものから丸底を意識したものまで様々であり、遺構よ



77号遺構(掘立柱建物跡・付属土坑群)

(G)
1a 7.5YR6/3にぶい褐。10mm大パミスブロック少量散る。突き固め層。
1b 〃 4/4褐。30mm大パミスブロック散る。しまる。突き固め層。
1c 〃 5/4にぶい褐。常総粘土ブロック主体層。よくしまる。突き固め層。
1d 常総粘土主体層。OP混じり。よくしまる。突き固め層。
2 7.5YR2/1黒。柱痕。
3 〃 4/4褐。

(H) (P10)
1 7.5YR4/4褐。10～50mm大パミスブロック少量散る。埋め戻し層。
2 〃 。 〃 。 〃 。1よりやや有機質性強い。
a 〃 6/3にぶい褐。OPブロック散る。埋め戻し層

(I) (P9)
1 7.5YR7/4にぶい橙。30mm大OPブロック少量散る。
2 〃 4/3褐。1と同質土で10mm大炭化物少量散る。
3 〃 5/3にぶい褐。10mm大粘土ブロック散る。

(J)
1 7.5YR3/3暗褐。30mm大OPブロック散る。炭化物多く含む。
2 〃 4/4褐。 〃 。 〃 。
3 OPブロック主体層。壁面流入層。
4 7.5YR5/3にぶい褐。20mm大OP・常総粘土ブロック多く含む。
a 1と同質、やや有機質性弱い。
b 2と同質、ややOP純度高い。
c bより若干OP純度高い。
① 7.5YR2/2黒褐。ローム・OP粒混入。
② 〃 4/4褐。30mm大OPブロック多く含む。

(K) (P6)
1 7.5YR4/4褐。20mm大OPブロック散る。
2 OPブロック主体層。
a 7.5YR3/3暗褐。10mm大OPブロック、炭化物粒少量散る。
b 〃 3/4 〃 。 〃 。
c 〃 4/4。炭化物粒少量散る。
d OPブロック主体層。
e 7.5YR3/4暗褐。30mm大OPブロック散る。
f 〃 4/4褐。10mm大常総粘土ブロック少量散る。

(L) (P4)
1 7.5YR1.7/1黒。柱の腐敗痕。ボソボソでしまりない。
2 〃 3/1黒褐。柱据え付け坑内の充填土。しまりない。
3 〃 5/3にぶい褐。 〃 。 〃 。
4 〃 5/6明褐。OPブロック主体層。突き固め層。しまる。
5 〃 5/4にぶい褐。10～30mm大粘土ブロック多く散る。突き固め層。しまる。
6 〃 。突き固め層。最もしまる。
7 粘土ブロック主体層。30mm大OPブロック散る。突き固め層。

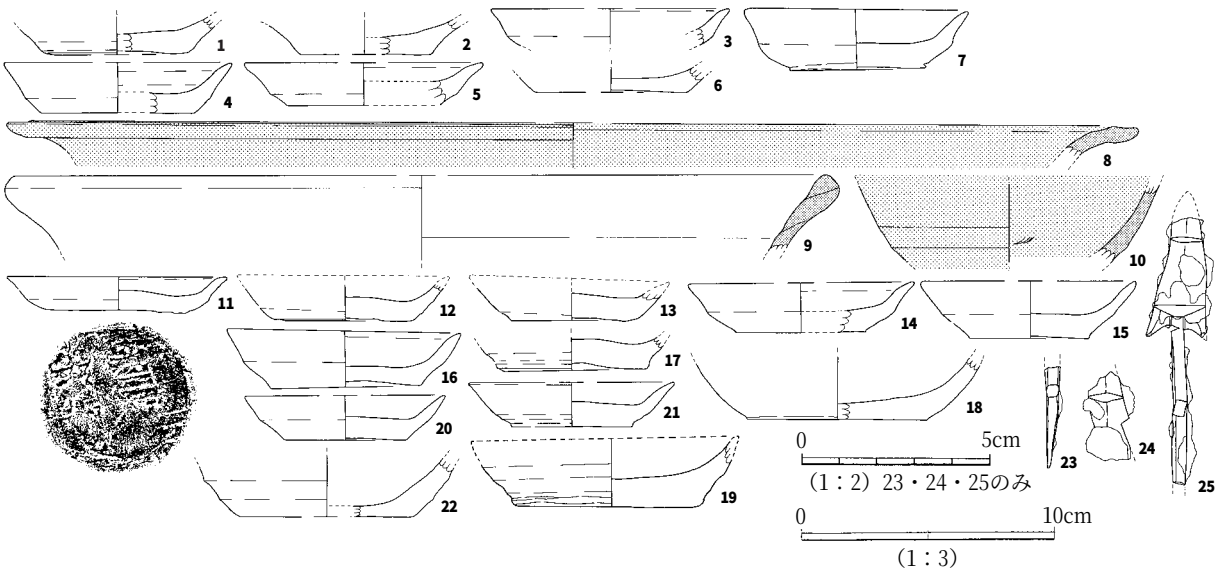
(M)(P8)
1 暗褐色。ローム・パミス粒少量含む。粘性弱い。自然埋没層。
2 〃 。ローム・パミスブロックおよび同種の粒子・炭化物少量含む。粘性弱い。自然埋没層。
3 褐色。パミス粒子多い流入層。

(P7a)
a 暗褐色。ローム・パミス・炭化物粒微量含む。自然埋没層。
b1 7.5YR4/4褐。30mm大パミスブロック少量散る。炭化物粒散る。貼り土層。
b2 〃 。パミスブロック多く散る。 〃 。 〃 。
b3 〃 。 〃 。 〃 。
b4 〃 。 〃 、大パミスブロック混じる。 〃 。

(P7b)
① 暗褐色。パミス粒多い。

第86図 77号遺構a（C区掘立柱建物跡）・b（付属土坑群）・77号遺構a出土遺物実測図

（1～7：P1、8：P2、9・10：P3、11：P5、12～17・23～25：P6、18：P7、19：P9、20：P10、21：P11）



第87図　77号遺構b出土遺物実測図

り新しい遺物群が混入した可能性がある。確実に建物に伴うピットからの出土はない。この整地面(73号遺構b面)からは鉄鏃が3点(77号b№24・25、79号№6)が出土しており、本遺構建物内に武具を持っていた可能性がある。

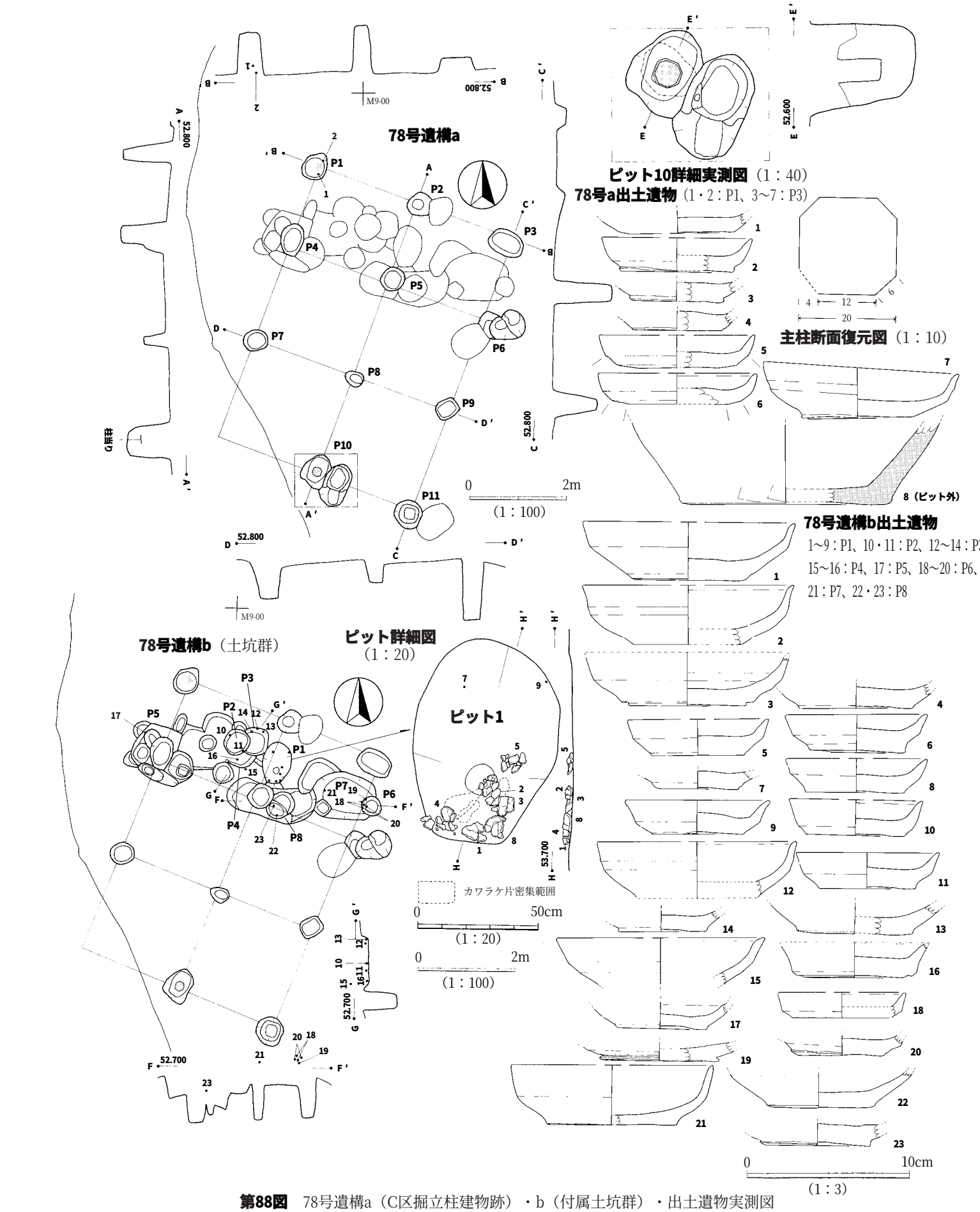
77号遺構b(付属土坑群)　付属土坑群内に貼り土し、その上から77号a主柱穴を掘っているように観察された。ピット群も同様に、土坑群より新しい傾向がある。

ピット7はピット8の自然埋没後に掘り込まれ、中位まで貼り土を施し、ピット7bを敷設する。ピット7の覆土は、自然埋没層後にピット7bを掘り込んだのか、7bの柱を設置する際の版築層なのか判断できなかった。現場の状況からは前者の可能性が強いと見る。7bはピット8と重なるため、平面図中に図示されない。ピット6はピット7・8同様の土坑としてプラン確認したが、掘形はピット群の状態になった。

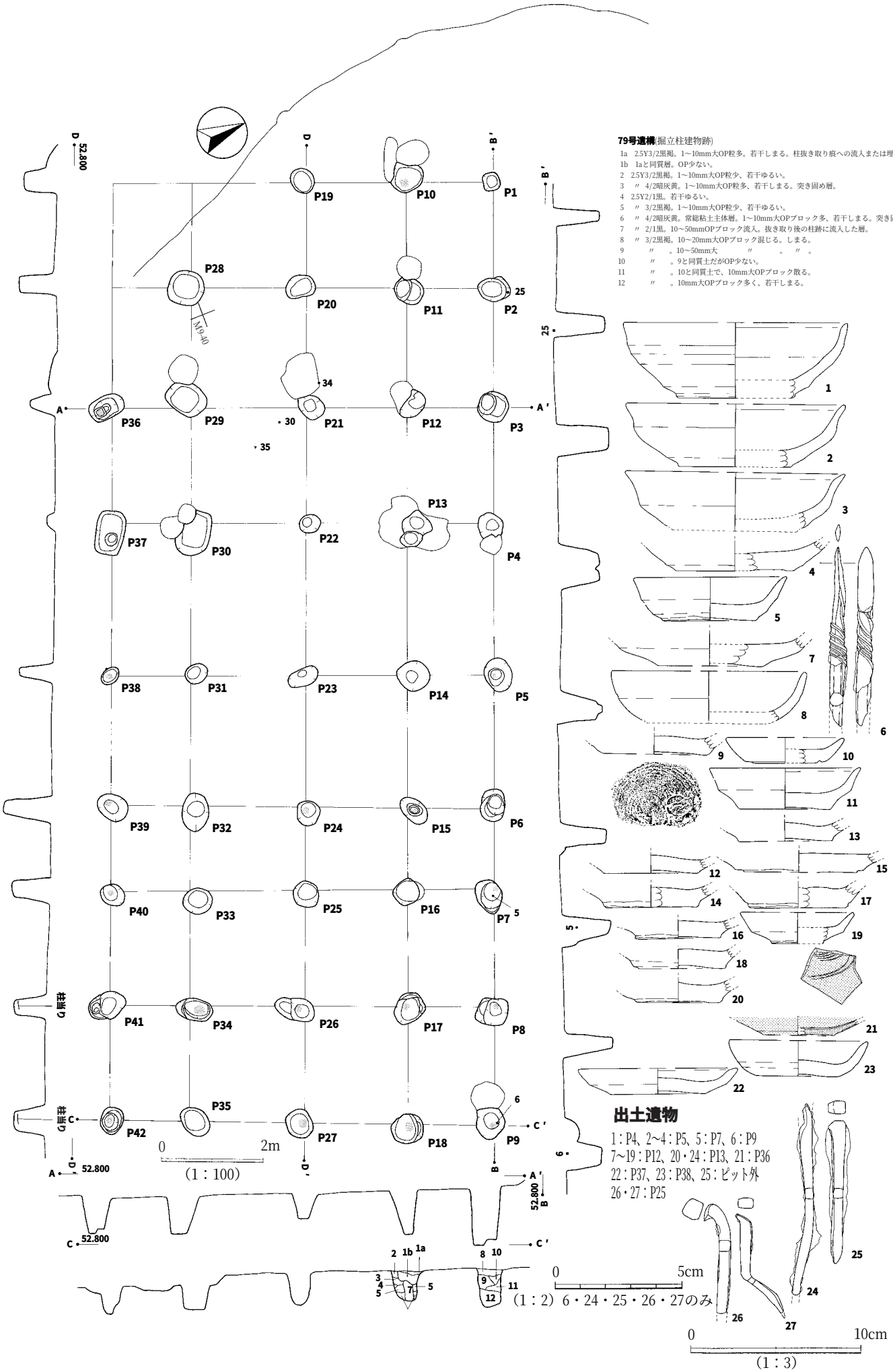
出土遺物は量的に多いが、ピット群の中には調査で捕捉しきれなかった新しい建物遺構が含まれる可能性があり、出土遺物群がすべて77号遺構共伴遺物とは言い難い状況である。特に9は常滑片口鉢Ⅱ類6a型式で、C区全体の遺物中でも最新段階のものであり、本遺構より新しいものであろう。

78号遺構a　付属土坑群を有する点で77号遺構に類似する。ピット9が一部79号遺構ピット21に切られている。89号遺構の遺物群は本遺構の消費遺物が主となろうか。なお、ピット10において版築層中に柱痕跡が明瞭に残っており、大面取柱を使用していたことがわかった。幅20cmの角柱の四隅を削り、断面8角形にしたもので、一見、南西隅部の面取のみ施していない印象を受けるが、面取りコーナー部の鋭角痕跡が認められたので、この部分のみ点線で図示した(第88図中、ピット10詳細実測図・主柱断面復原図)。復元柱断面の寸法は柱幅20cm・面内12cm・見付4cm・面幅6cmである。見付・柱幅比は1:5で、建築美術上の編年基準では平安後期(平安末期含む)に帰属する(13)。建て替え部材の流用を考慮すると、13世紀初頭の建物と考える上で矛盾はない。

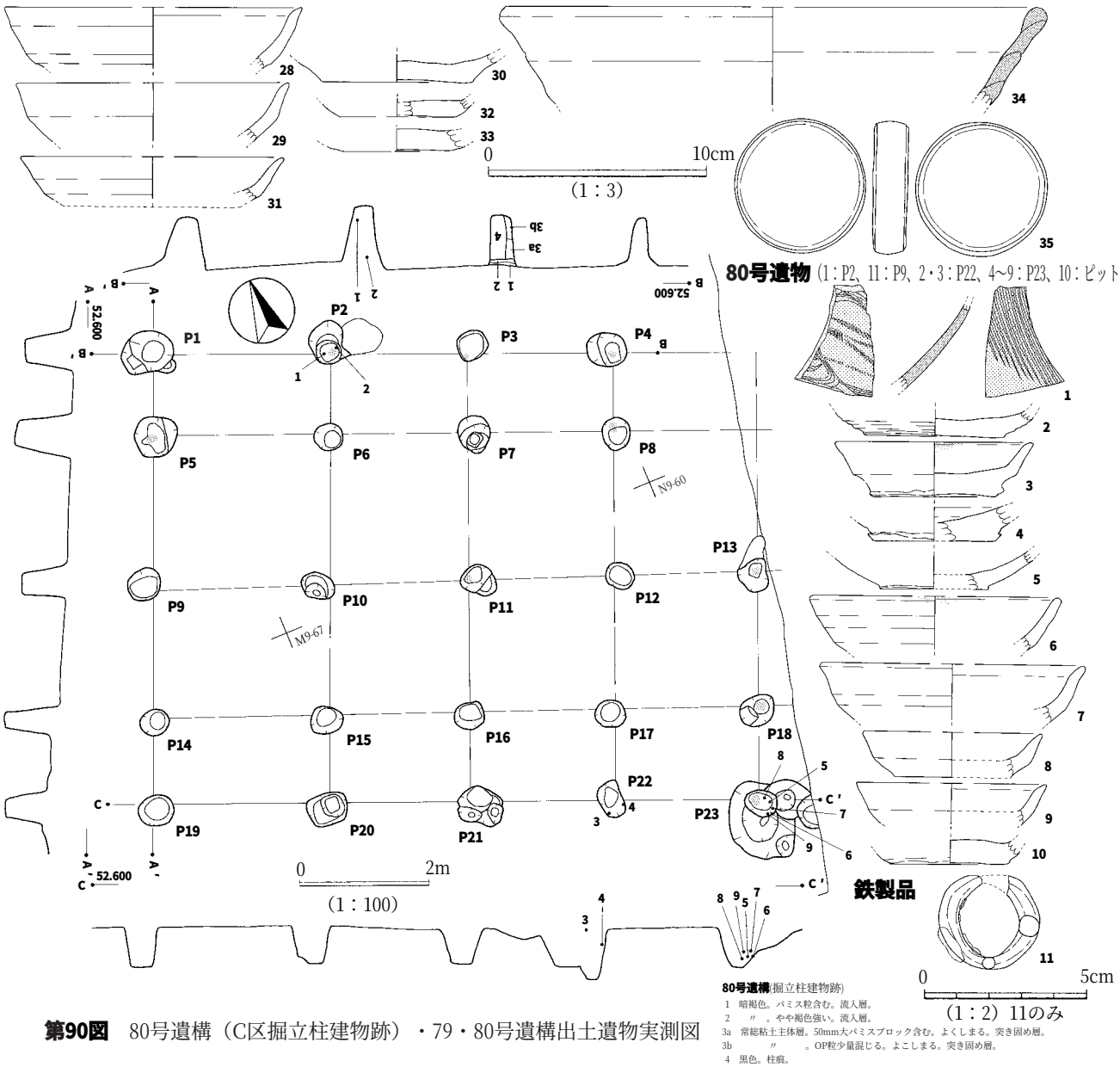
出土遺物はカワラケ(1～7)と渥美産壺(8)である。カワラケは丸底を意識したものが多い(1・5・6)。壺は断面を砥石に転用しているので、生産年代は遺構より遡るものと思われる。すべてピット内出土として取り扱ったが、2は上層との境なので微妙である。



第88図　78号遺構a（C区掘立柱建物跡）・b（付属土坑群）・出土遺物実測図



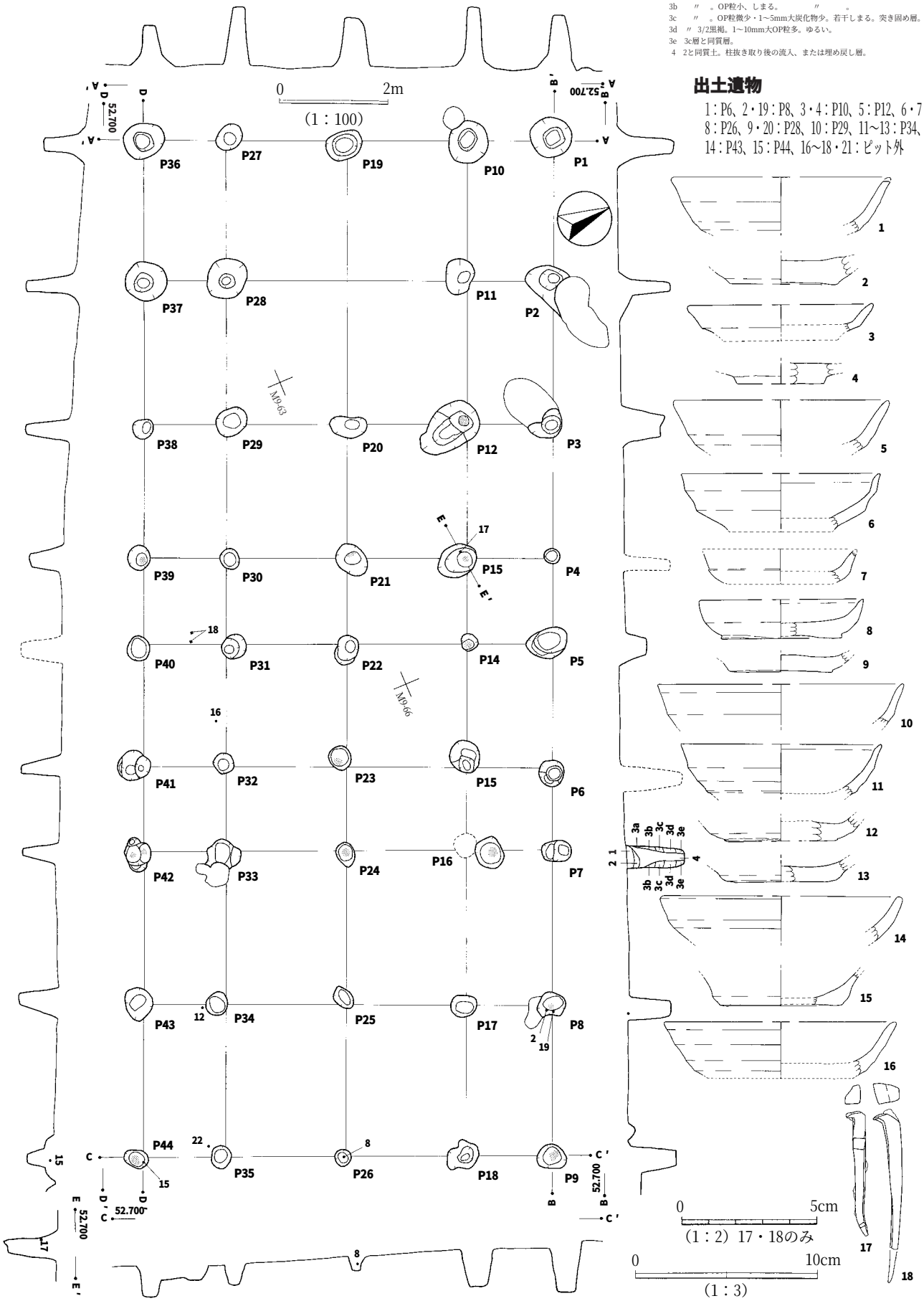
第89図　79号遺構（C区掘立柱建物跡）・遺物実測図



第90図　80号遺構（C区掘立柱建物跡）・79・80号遺構出土遺物実測図

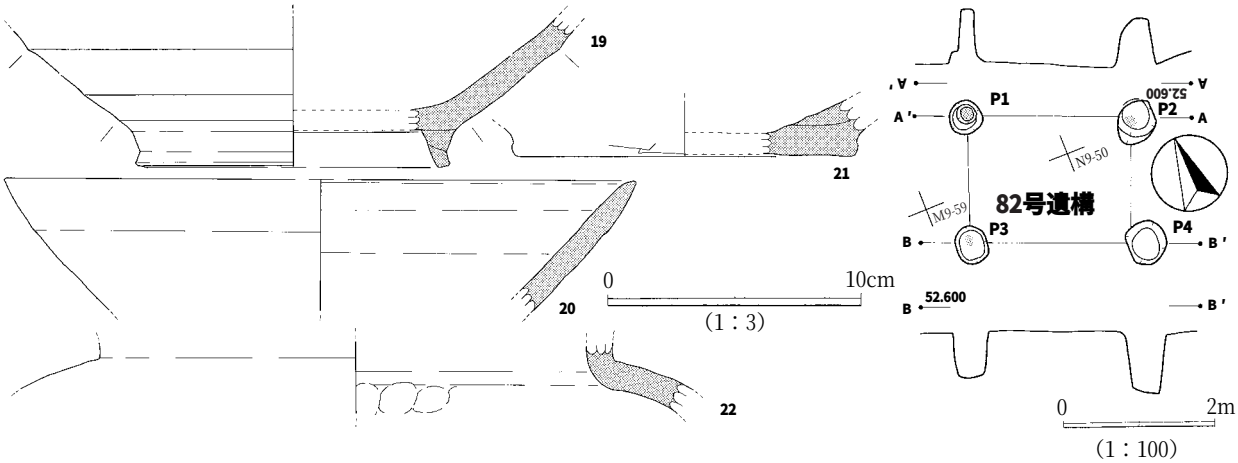
78号遺構b(付属土坑群)　ピット1はカワラケ溜りである。土坑群の上層に遺物が散布するように検出されたので、むしろ79号遺構に伴う可能性がある。便宜的にピットにしたが、若干の窪みを呈するのみで、明瞭な遺構ではない。調査時に地鎮の可能性も考慮されたが、確証はえられなかった。出土遺物はカワラケのみ(78号b№1～9)で、平面図中に描写した遺物はすべて口を上にした状態で出土しており、単なる投棄とは思えない。すべて壊れているが、平面図中の6点(1～5・8)については個体ごとに破片がまとまっており、遺構形成時には完形に近い形で置かれていたものと思われる。遺構が極めて浅いため、後の攪乱で破壊されたのだろうか。上面には攪乱により破砕したと思われるカワラケ片が散布していた。6点以外はここから一括出土したものなので、混入の可能性がある。

その他の土坑群は遺構aの主柱穴に切られる傾向がある。各土坑に貼り土を施した後に主柱穴を掘ったような状況で、77号遺構と同様に、建物建設に伴う土坑と思われるが、柱構築の前にわざわざ土坑群を掘った意味・必要性については全く不明である。もちろん出土遺物群は77号b同様に、新しい遺物の混入も考慮せねばならない。



第91図　81号遺構（C区掘立柱建物跡）・遺物実測図

81号遺構出土遺物（20以外はピット外）



第92図　81号遺構出土遺物・82号遺構（C区掘立柱建物跡）実測図

79号遺構　プラン確認時において、78号ピット6を切っているように観察された。柱配置は総柱の建物であるが、梁行2間の身舎を取り囲むように、柱間同寸法の広縁が付いている可能性もある。出土遺物はカワラケが主で、1・2・5～27がピット内出土である。常滑片口鉢(34)はM9-31一括出土で、ここに掲載しているが、むしろ81号遺構に伴う可能性があろう。

80号遺構　79号とほぼ同規模の建物と思われるが、建物南北両側の梁行が狭くなるので、梁行2間の身舎に付属する広縁の可能性が指摘できる。よって柱配列は81号遺構に近似する。ただし、表には梁行4軒の総柱建物として記載した。出土遺物は遺構に伴わない個体も多いと思われる。石製品として黒色の雙六駒(35)が出土した。頁岩製で、全面をよく研磨し、光沢がある。側面は中央が若干膨らむ。表・裏境の稜線を面取りしている。

81号遺構　梁行両端の間隔が狭く、80号同様に広縁の可能性がある。ピット16は発掘調査時に捕捉できず未掘であるが、整理作業の際、遺構の写真観察の結果、ピットのプランと思われる黒色部を目視したため、その範囲を平面図中に点線で示したものである。また、ピット28は掘方上面にロームを貼っており、きわめて捕捉しずらいものであった。このようなピットは73号遺構(整地遺構)d面西半分に数基存在した。したがって調査で捕捉できなかった同様の柱穴が、ピット19・20間に存在する可能性が高いと考えている。

82号遺構　柱当たりを有するしっかりした掘形なので建物を組んだ。今回捕捉できなかった大型建物の一部の可能性がある。

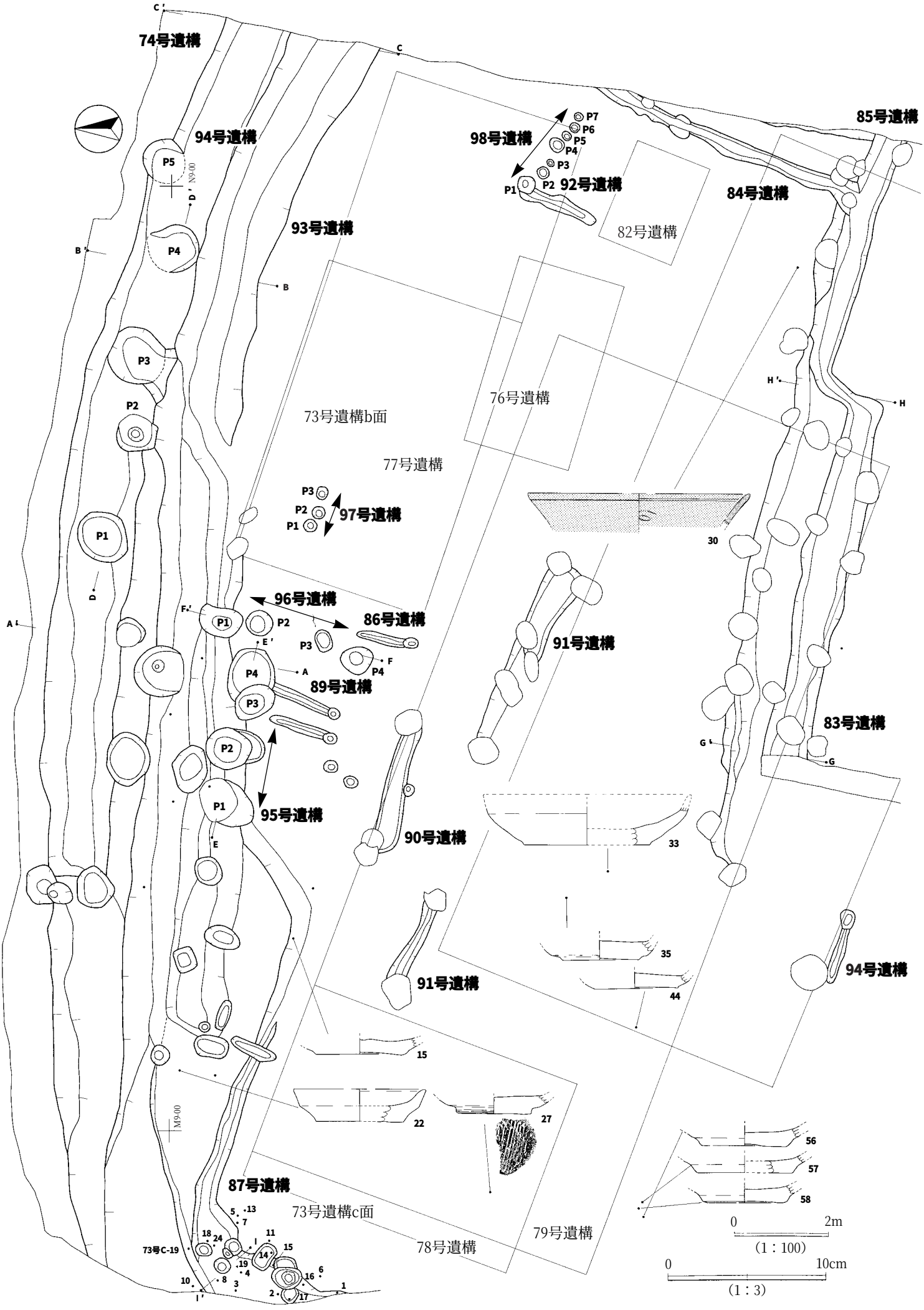
C区中世掘立柱建物跡一覧

No.	整地	地業	棟方向	廂	規模cm（尺）		柱間寸法cm(尺) 1尺＝30cmで算出			建坪㎡
					企画	桁行×梁行	桁行	梁行	廂	
75	a面	Ⅱ	東西	－	3×2	1,070×470 (35.5×15.5)	340＋290＋440 (11.5＋9.5+14.5)	210+260 (7＋8.5)	－	49.3
76	－	Ⅱ	東西	－	2×1	420×228 (14×7.5)	114 (4)	420 (6)	－	9.7
77	b面	Ⅱ～Ⅲ	東西	3	3×2	934×354 (31×12)	293＋313＋328 (10＋10.5＋11)	175＋180 (6)	桁行69＋82(2.5) 梁行244＋180 (8＋6)	46.0
78	c面	Ⅲ	南北	－	3×2	600＋430 (20＋14.5)	180＋205＋215 (6＋7＋7)	215 (7)	－	25.7
79	c・d面	Ⅲ	東西	－	8×4	1860×760 (62×25.5)	210＋235＋230＋300＋ 265＋160＋230＋230 (7＋8＋7.5＋10＋9＋5.5 ＋7.5＋7.5)	170＋205＋230＋160 (5.5＋7＋7.5＋5.5)	－	139.4
80	d面	Ⅲ	東西	－	(8)×4	－×690 (－×23)	270＋210＋220＋220＋ (9＋7＋7.5＋7.5＋)	130＋200＋235＋125 (4.5＋6.5＋8＋4)	－	－
81	d面	Ⅲ	東西	－	8×4	1880×750	260＋265＋250＋160＋ 230＋150＋285＋280 (8.5＋9＋8.5＋5.5＋7.5 ＋5＋9.5＋9.5)	150＋220＋220＋160 (5＋7.5＋7.5＋5.5)	－	141.8
82	d面	Ⅲ	東西	－	2×1	215×116 (7×4)	215 (7)	116 (4)	－	3.5

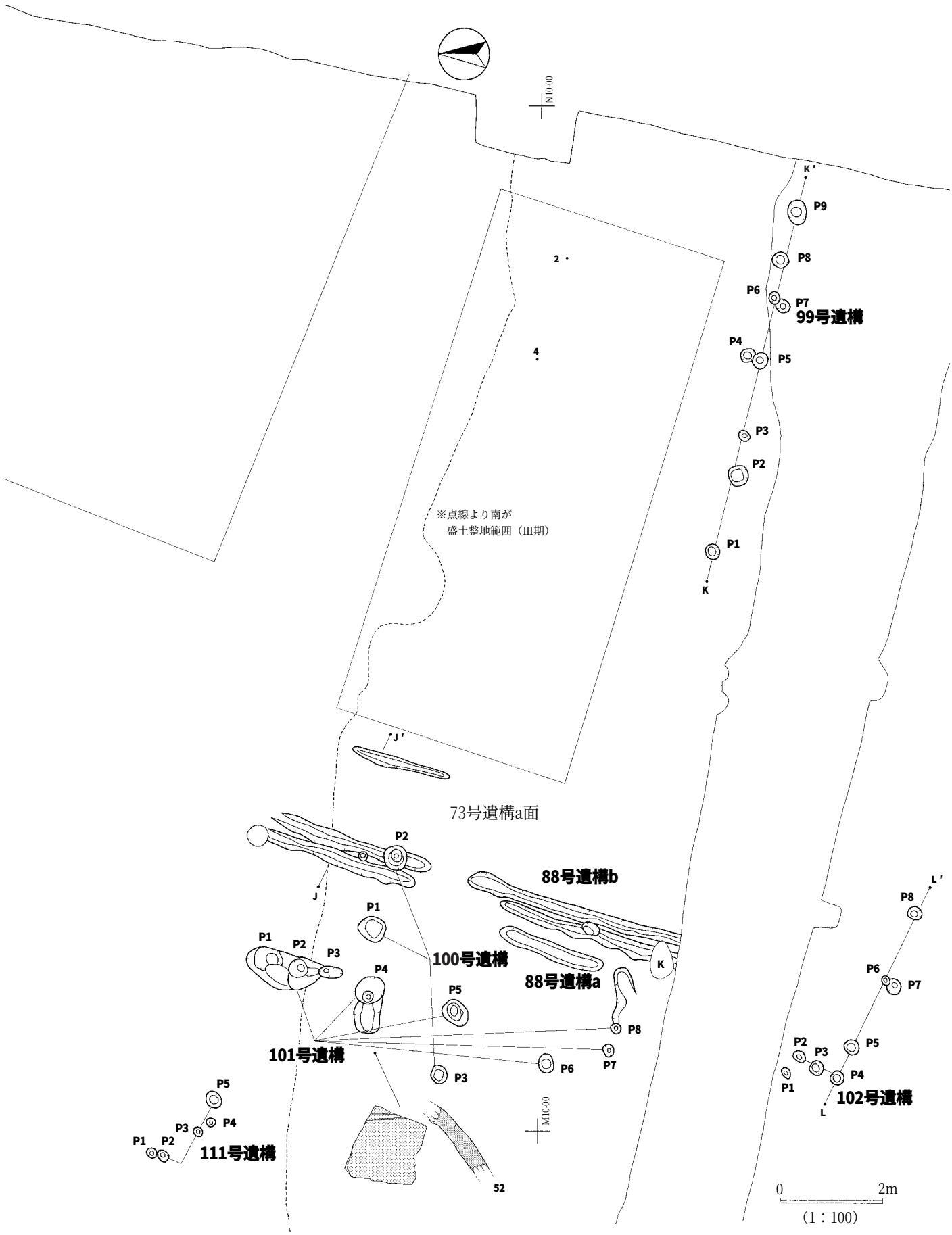
C区中世掘立柱建物跡ピット一覧

単位：cm

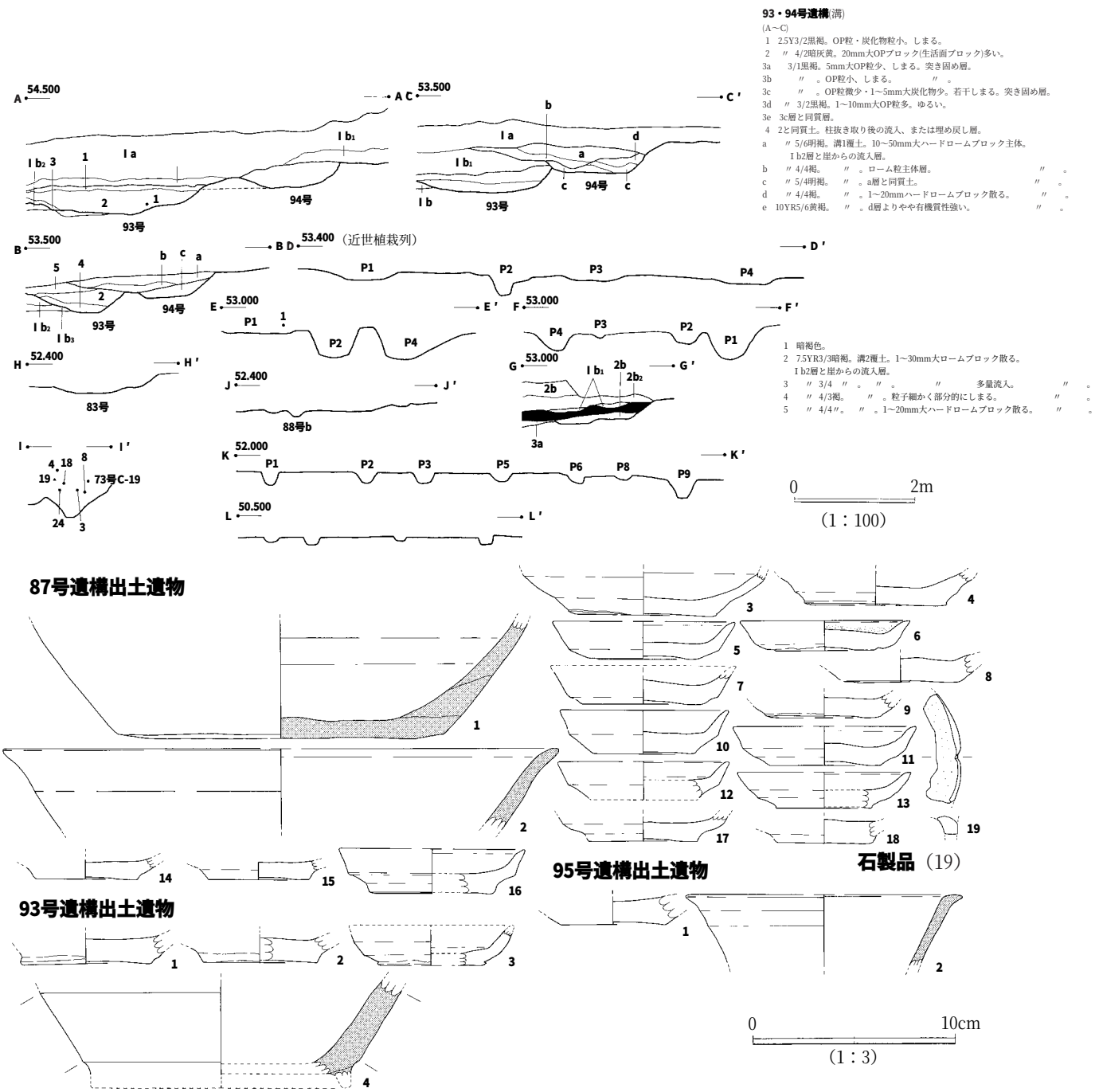
遺構	ピット	長径	短径	深度	ピット	長径	短径	深度	ピット	長径	短径	深度	ピット	長径	短径	深度	ピット	長径	短径	深度
75	1	58	50	70.0	2	63	54	58.2	3	38	38	30,0	4	34	38	19.0	5	38	37	28.0
	6	36	34	24.1	7	32	28	17.4	8	48	33	30.0	9	50	42	42.0	10	44	42	77.0
	11	68	50	10.6	12	46	38	38.0												
76	1	38	22	36.5	2	40	34	39.5	3	40	36	85.9	4	32	30	39.1	5	34	27	20.7
	6	46	38	45.9																
77	1	52	33	64.0	2	46	26	28.0	3	28	24	23.0	4	44	28	50.0	5	30	22	60.0
	6	37	33	58.0	7	50	46	70.0	8	68	38	72.0	9	52	36	47.0	10	32	30	78.0
	11	37	34	36.3	12	42	39	77.0	13	50	44	26.0	14	30	24	10.0	15	46	36	19.0
	16	72	53	60.2	17	62	62	45.0	18	60	58	13.0	19	68	58	16.0	20	24	20	49.0
	21	42	28	60.0	22	48	48	36.0	23	30	28	72.0	24	58	40	100.0	25	40	38	60.0
	26	40	35	不明	27	44	38	50.0	28	38	34	53.0	29	58	50	19.0	30	70	62	95.0
78	1	58	50	89.0	2	50	48	98.8	3	74	50	28.5	4	66	48	90.0	5	50	48	95.5
	6	60	40	19.8	7	50	44	77.9	8	40	30	47.6	9	48	40	117.8	10	58	56	48.0
	11	60	58	79.4																
79	1	35	34	92.6	2	63	45	95.5	3	59	58	112.1	4	50	46	84.6	5	65	53	89.7
	6	62	48	93.2	7	65	50	97.6	8	59	53	98.9	9	62	57	70.8	10	64	64	61.8
	11	56	60	74.1	12	60	37	91.4	13	72	62	99.6	14	66	60	73.3	15	62	40	102.5
	16	63	54	94.6	17	66	54	62.5	18	60	58	57.1	19	50	44	61.4	20	58	43	78.6
	21	53	44	48.9	22	42	36	13.6	23	62	35	66.5	24	48	44	96.5	25	50	50	76.0
	26	80	42	52.6	27	58	50	56.5	28	72	68	89.5	29	77	62	104.5	30	92	66	77.6
	31	45	38	2.1	32	73	53	88.8	33	58	52	65.9	34	71	44	114.3	35	64	50	46.2
	36	70	46	77.7	37	88	57	85.5	38	40	30	54.7	39	65	50	58.7	40	50	42	66.9
	41	76	52	66.8	42	54	44	51.1												
80	1	70	56	85.2	2	66	53	95.0	3	49	44	68.3	4	62	52	67.4	5	66	62	85.0
	6	44	42	89.2	7	51	49	74.8	8	51	43	84.8	9	57	49	95.4	10	52	40	29.4
	11	46	36	69.3	12	44	38	不明	13	50	48	62.2	14	46	40	84.8	15	50	43	54.2
	16	46	40	53.4	17	48	42	69.2	18	58	50	79.3	19	54	48	61.2	20	62	50	59.8
	21	70	58	50.4	22	46	36	83.8	23	50	41	63.5								
81	1	76	74	10.5	2	66	102	91.2	3	64	40	73.8	4	28	26	不明	5	74	54	40.5
	6	48	46	不明	7	54	39	108.8	8	54	52	78.8	9	54	50	89.4	10	76	73	114.3
	11	69	50	99.8	12	121	80	100.8	13	74	58	92.8	14	32	32	52.9	15	57	54	52.6
	16	不明	不明	不明	17	48	40	80.4	18	68	53	73.3	19	68	54	89.1	20	68	37	92.3
	21	66	53	94.5	22	52	40	72.1	23	44	42	114.3	24	45	34	46.0	25	43	30	19.9
	26	31	31	5.0	27	53	46	110.9	28	80	74	112.9	29	60	50	63.0	30	37	37	69.0
	31	46	45	87.2	32	44	39	13.4	33	47	44	61.2	34	47	40	52.5	35	42	34	39.2
	36	76	66	74.7	37	77	69	102.0	38	40	38	77.6	39	46	42	66.8	40	46	40	不明
	41	63	54	61.2	42	66	46	64.9	43	62	53	76.3	44	47	34	61.6				
82	1	44	44	74.1	2	75	50	73.8	3	50	40	63.8	4	57	50	77.6				



第93図　83～98号遺構（C区区画遺構群）実測図



第94図　88・99～102・111号遺構（C区区画遺構群）実測図



第95図　93～96・83・87・88・99・102号遺構断面図・87・93・95号遺構出土遺物実測図

(4)溝状遺構(83～94号遺構)

83号遺構(区画溝)　Ⅱ期の75号遺構に伴う。北側法面はⅠ期整地面の北側斜面であったと思われる。88号遺構と共に方形区画を形成する。覆土の堆積状況から、溝形態で存在したのはⅡ期前半(75号建物期)のみで、後半(77号建物期)には埋没している。しかし北法面が段差として露出し、区画としては生き続けたようである。Ⅲ期には完全に埋め立てられ、区画機能を喪失している。

84・85号遺構(区画溝)　83号遺構に直交し、軸線が75～77号遺構梁行と同一なので、Ⅱ期の遺構と思われる。

86号遺構(区画溝)　96号遺構(垣遺構)と対をなし、77号遺構(掘立柱建物跡)の西面を目隠しするものである。南端に小ピットが付く点が89号遺構と共通する。

87号遺構(区画溝)　73号遺構(整地遺構)c面北西コーナーにクランクする小溝で、78号遺構(掘立柱建物跡)に伴う可能性が高い。雨落ち溝か。覆土中から多量のカワラケが出土している。

88号遺構(区画溝)　Ⅱ期の小構で、75号遺構に伴うものと思われ、Ⅲ期には消滅する。中央の間隙部は75号への入り口か。ピット群(100号遺構)を伴うので、簡単な入り口施設があった可能性がある。

89号遺構(区画溝)　88号遺構の延長上に位地し、これとセットになる可能性を残す。この場合はⅡ期になるが、88号との間隙部の説明ができない。位置的に79号か81号遺構に規制された可能性も濃厚であり、時期的には不明と言わざるを得ない。

90号遺構　浅い溝で、位置的に79号遺構(掘立柱建物)に伴う遺構と思われる。

91・94号遺構　90号遺構に類似し、位置的に81号遺構(掘立柱建物跡)に伴う遺構と思われる。

92号遺構(区画溝か)　82号遺構(掘立柱建物跡)の梁行軸上を走る小溝である。

93号遺構(排水溝か)　中世末から近世前期。94号遺構の前身溝で、Ⅰb2層を切るが、覆土上面に宝永富士火山灰が降下する。

94号遺構(排水溝か)　宝永火山灰層を切る近世溝。半分以上埋まった段階でいったん切り直している。そこへ流入した覆土がa・b層である。埋まりきった後Ⅰb1層が盛土される。

(5)ピット列(95～102・111号遺構)

95号遺構(植栽列)　植木用の土坑列と思われ、配列位地から77号建物期に並行する可能性が高い。

96号遺構(柵列)　溝状遺構(86号)を伴うので、板塀の可能性がある。77号建物の西面を目隠しするものであろう。

97号遺構　77号遺構桁行と同軸なので、77号建物床柄の可能性がある。

98号遺構　ピットが並ぶので掲載したが、列遺構を構成するか否か不明である。

99号遺構(垣遺構か)　確認面から地業期を同定することはできなかったが、軸方向が75号遺構桁行方向と共通するので、75号建物に伴うものと判断できる。小柴垣状の構造物跡か。

100号遺構(ピット群)　Ⅱ期地業層上面で確認された。75号建物入り口施設の遺構か。

101号遺構(垣遺構か)　88号遺構(区画溝)に沿うが、Ⅲ期地業面上で確認された。従って、73号遺構(整地跡)a面の方形区画の西側については、Ⅲ期段階まで垣状の施設で踏襲されていたことになる。

102号遺構(垣遺構か)　整地面南西隅を区画する。小柴垣状の構造物跡か。

111号(垣遺構か)　81号遺構(掘立柱建物跡)に付随する小柴垣状の構造物跡と思われる。

D区遺構群

(1) 切り土整地遺構

103号遺構　C区整地遺構と谷底を挟み対面する。切り土のみで盛土は行わず、平坦面は104号遺構(掘立柱建物跡)建坪ぎりぎりの広さである。遺物は渥美産甕と土師器杯、土錘、礫が出土した。

(2) 掘立柱建物跡

104号遺構　内柱を1本省略しており、土間床と板張床の共存形態が推定される。表では5間×4間としたが、梁行南北両側の柱間は狭く、4間×2間の身舎に南・北・西面の広縁を付けた構造の可能性が高い。

104号遺構出土遺物

107号遺構出土遺物

0 10cm
(1：3)

103号遺構(切り土整地面)
1　斜面上からの自然流入層。比較的短期に埋没した単一層で、この段階における山稜上の裸地化（畑地か）が想定される。
2　1層と同質の埋没過程を経た層と思われるが、整地面の再利用のため、埋没後に切られている。畑地化したものと思われる。
4～6　104号建物期(文化期)の自然堆積層。
7　切り土整地地業時の踏み固め層。ローム主体でよく硬化する。

0 2m
(1：100)

108号遺構出土遺物

108号遺構

106号遺構出土遺物

0 10cm
(1：3)

106号遺構

105号遺構

104号遺構

107号遺構

103号遺構（切り土整地面）

第96図　104～108号遺構（D区掘立柱建物跡等）・103・106～108号遺構出土遺物実測図

0 5m
(1：200)

M20-00

L20-25

D D′ E E′ F F′ G G′ H H′ I I′ J J′ a

56.400 56.300 56.500 56.100 54.400 51.400

68号遺構

68号遺構全体出土遺物

土製品（6・7）

Pit1出土遺物（8～14）

P1 P2

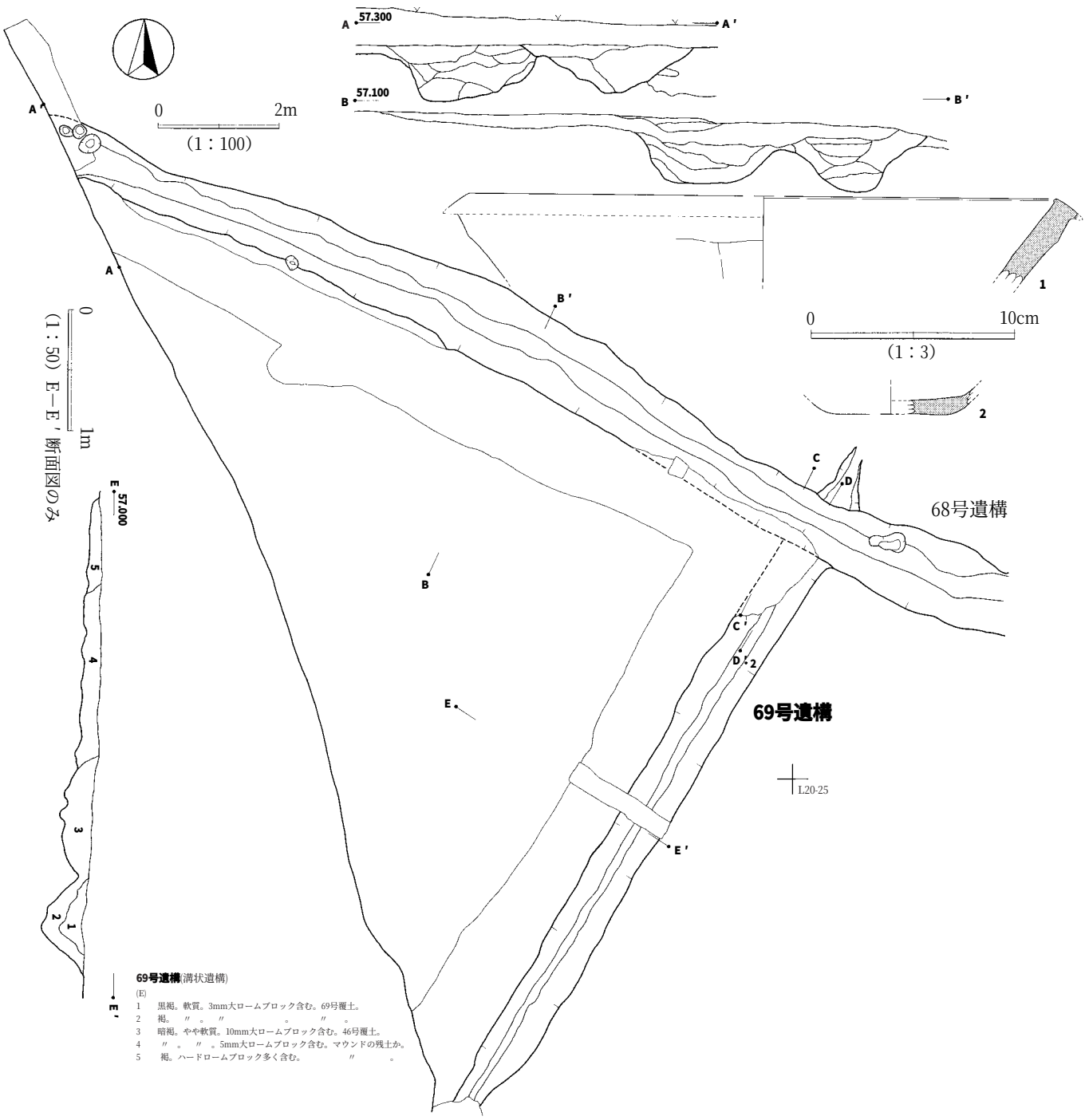
0 1m
(1：40)

O21-04 O21-30 O22-08

Pit1 Pit2

0 10cm
(1：3)

第97図　68号遺構（道路・区画溝）・ピット１出土遺物実測図



第98図　69号遺構（区画溝）・遺物実測図

D区中世掘立柱建物跡一覧

No.	棟方向	廂	規模cm(尺) 企画	柱間寸法cm(尺) 1尺＝30cmで算出 桁行×梁行	桁行	梁行	廂	建坪㎡
104	東西	—	5×4	1240×750 (41.5×25)	136＋266＋268＋270＋300 (4.5＋9＋9＋9＋10)	150＋234＋224＋142 (5＋8＋7.5＋4.5)	—	93.0

D区中世掘立柱建物跡ピット一覧　　単位:cm

遺構	ピット	長径	短径	深度	ピット	長径	短径	深度	ピット	長径	短径	深度	ピット	長径	短径	深度	ピット	長径	短径	深度	ピット	長径	短径	深度
104	1	24	18	不明	2	46	43	12.2	3	36	34	10.9	4	28	24	5.1	5	45	40	36.3				
	6	46	40	不明	7	58	57	13.1	8	52	48	44.2	9	50	50	31.5	10	41	40	37.1				
	11	42	38	46.9	12	57	45	7.0	13	48	41	56.0	14	32	28	17.3	15	42	38	46.4				
	16	42	38	43.1	17	43	39	69.1	18	58	56	65.0	19	44	38	83.3	20	93	62	38.6				
	21	46	40	82.6	22	130	61	60.6	23	50	50	79.6	24	50	42	88.3	25	80	68	15.0				
	26	50	39	92.3	27	52	42	67.5	28	88	40	56.5	29	64	48	33.4								

(3)その他の遺構(105～108号遺構)

105号遺構(ピット群)　104号遺構の東側に展開する。東側整地面を占地するので、整地計画に基づいた上屋遺構(104号付属建物)の可能性が高い。ただし建物配列は捕捉できなかった。

106号遺構(土坑)　性格不明である。カワラケ(1)と土師器杯(2)が出土した。杯は鬼高式期の土師器で、非ロクロカワラケではない。

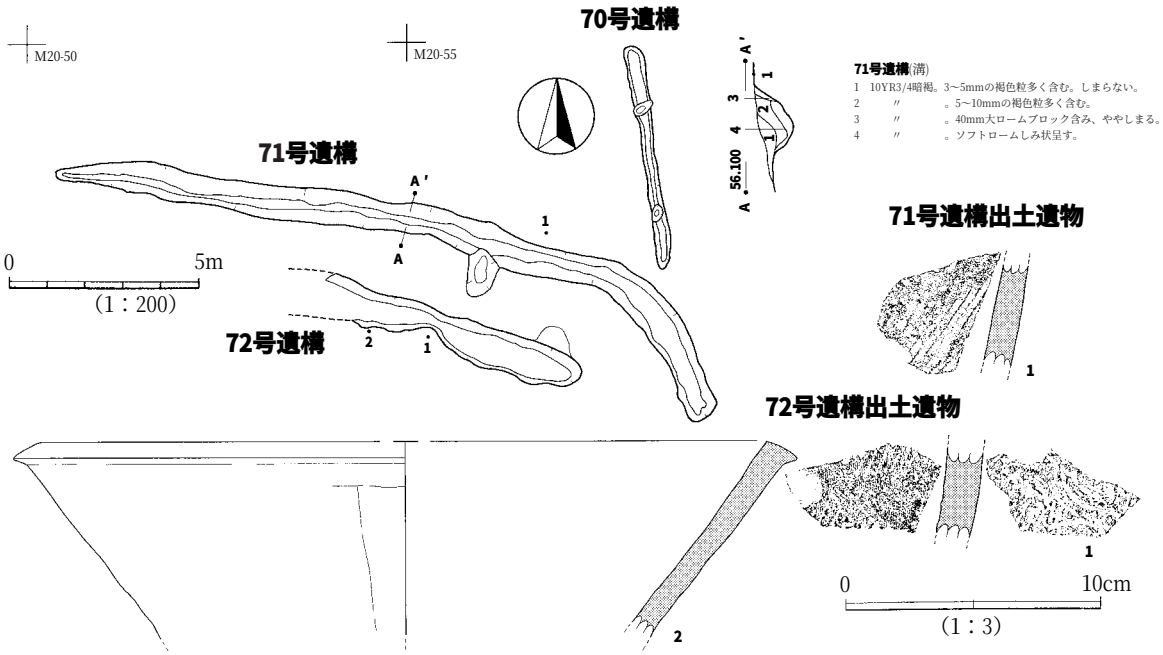
107号遺構(ピット)　104号付属遺構か。カワラケが2点出土した。

108号遺構(ピット)　103号遺構(整地面)北東の小規模整地付属ピットで、カワラケが1点出土した。

E区遺構群

(1)溝状遺構(68～72号遺構)

68号遺構(E区)　71号遺構に軸線が沿うので、これと同時期、室町時代の可能性が強いが、新しい遺物が検出されなかったので、一応ここに掲載した。69号遺構(溝)を切るので、少なくともC区中世地



第99図　70～72号遺構（区画溝）・71・72号遺構出土遺物実測図

業Ⅲ期以降の溝である。斜面から駆け上り、尾根筋を抜けるように走るため、村落領域的な大規模区画溝の可能性が強いが、現在の地筆とは無関係である。なお、南東の同軸小溝のピット1からは古代の土器がまとまって出土している。調査区際のため詳細を掴めなかったが、古代竪穴建物跡・掘立柱建物跡などの一部であった可能性がある。

遺物はE区において希少な線刻土器が認められる(2)。則天文字「天」を記号化した銘を線刻した杯で、E区における古代小鍛冶工房の存在を考える上で貴重な遺物と言える。

ピット1出土遺物群はC区工房跡の遺物群と基本的に同期と思われるが、手持ちヘラ削りで底部調整する個体(12)があり、若干遡る可能性がある。8は器種不明であるが、突帯が剥落した痕跡があり(拓本参照)、置き竈状の形状を呈する。

69号遺構(E区)　68号遺構より古い。9型式の常滑産片口鉢Ⅱ類が出土した(1)ので[18]、15世紀前葉頃の遺構と思われる。109号遺構(土坑)より新しいので、上限はC区中世地業Ⅱ期以降である。

(2)土坑

109号遺構(土坑、第71図参照)　69号遺構より古い。カワラケ(1)と常滑産片口鉢Ⅰ類(2・3)が出土した。2は3型式、3は2型式と思われる。カワラケは底部ナデ調整するが、丸底ではない。常滑はC区地業Ⅱ期、カワラケはⅢ期に並行するものと思われるので、遺構自体はⅢ期と判断する。遺物3は46号遺構(方形周溝状遺構)北側周溝中央の外法で検出されたが、本遺構から流出した可能性が高いので、ここに掲載した。なお、本遺構はあたかも46号遺構(方形周溝状遺構)の周構内土壙のような形状を呈し、68・69号遺構(区画溝)も46号遺構プランに規制された印象が強いため、46号は古墳時代終末期の遺構ではなく、中世前期の方形区画墓であった可能性を考慮すべきかもしれないが、とりあえず今回は可能性の一つに止めておく。

8 室町時代

70～72号遺構(E区)　72号遺構から9型式の常滑産片口鉢Ⅱ類(2)が出土しているので、15世紀前葉に機能した可能性がある。

9　江戸時代

63号遺構(B区)　近世の区画溝。16号遺構付近で直角に北上する。16号の墳丘を避けた地割りか。

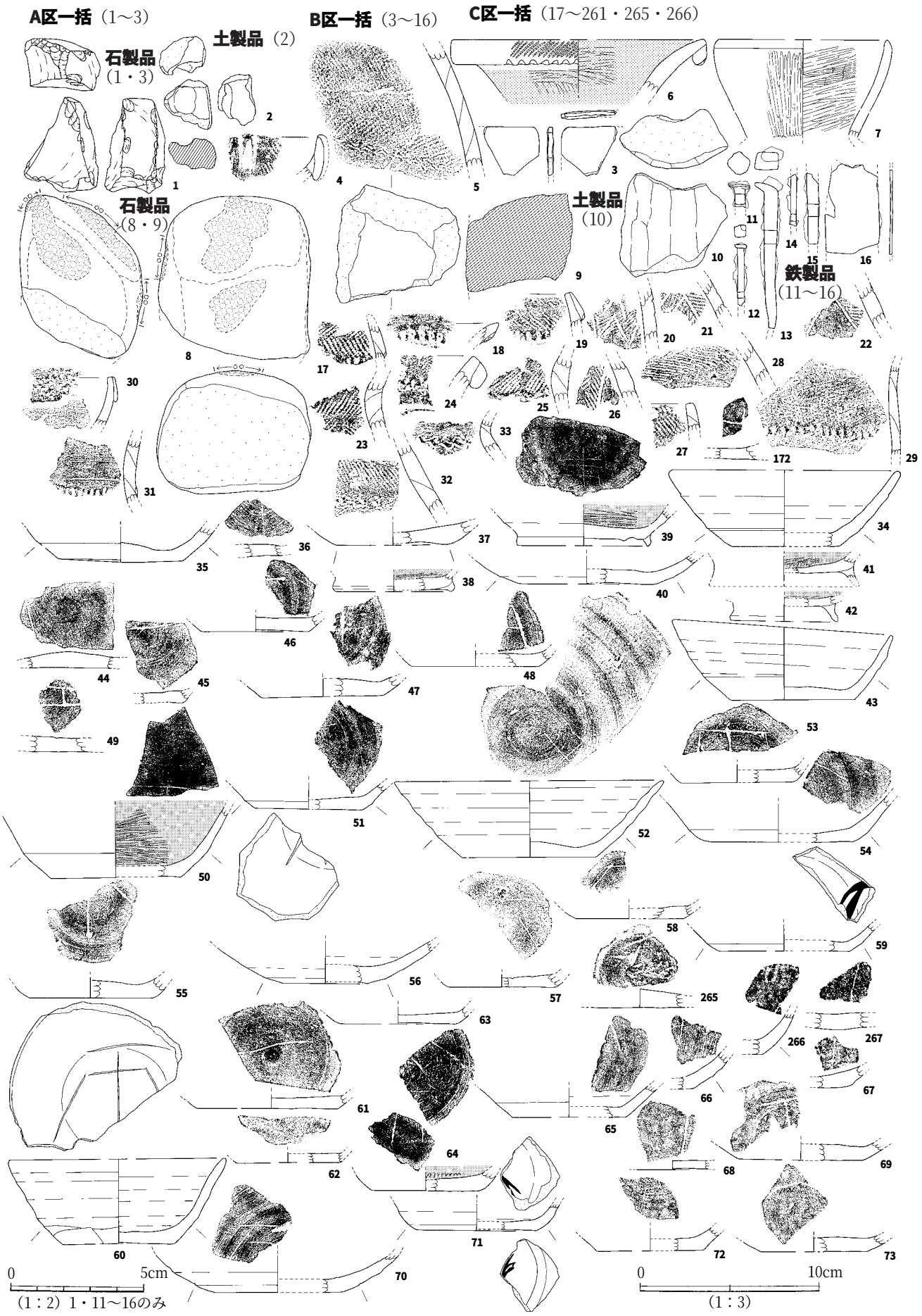
64号遺構(B区)　近世の区画溝。11号遺構(竪穴建物跡)・16号遺構(方形周溝墓)を切り、16号東側周溝の内法(上場)付近で南西に直角に曲がり、消滅する。16号の墳丘を避けた地割りか。

10　一括遺物

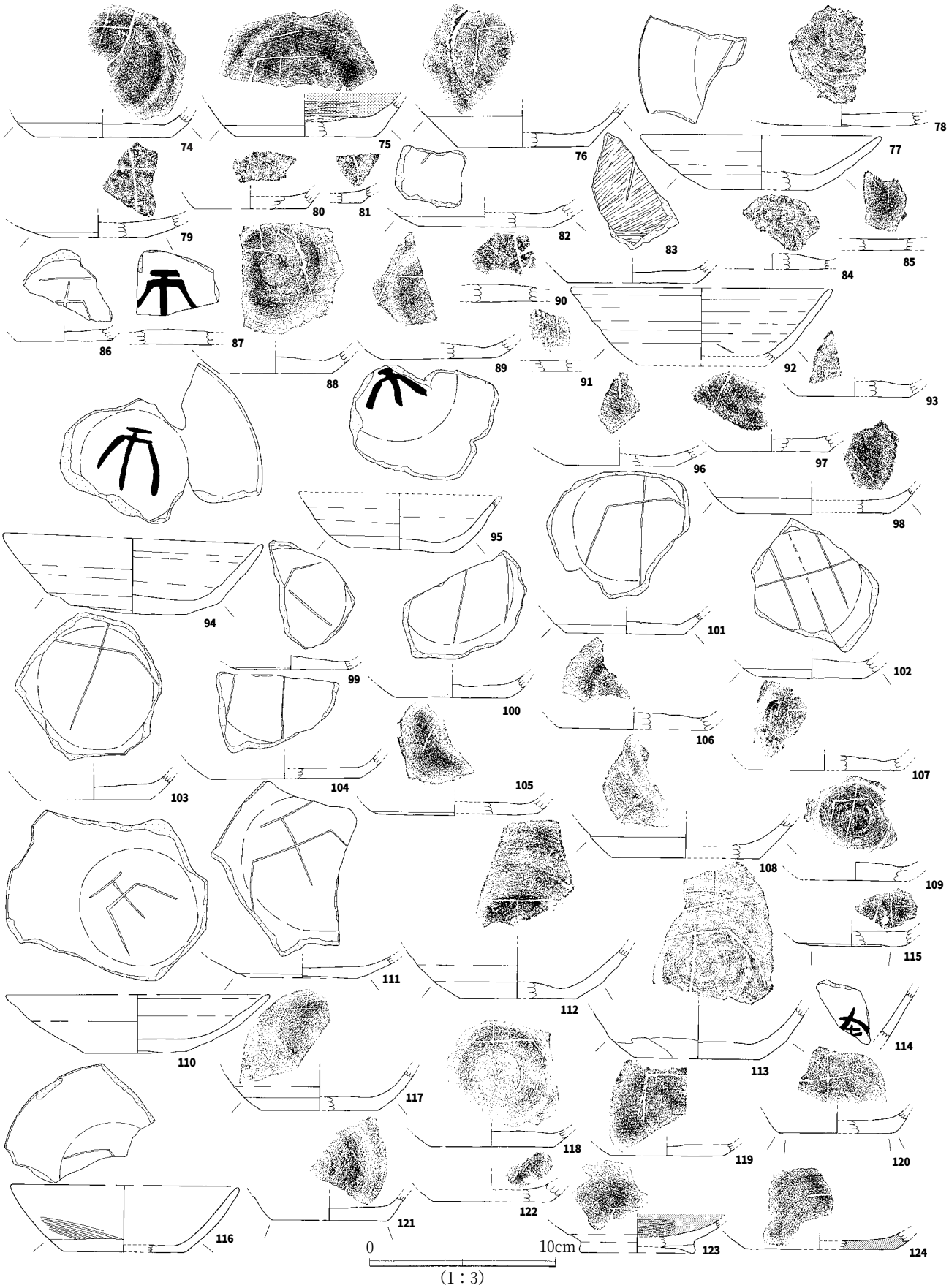
1　墨書・線刻土器　すべてC区から出土した。総数113点中ほとんどが線刻で、墨書は8点のみである。須恵器は杯が1点のみ(№124)混じる。杯97点、皿11点、椀4点、甑1点である。銘はほとんど則天文字の「天」を記号化したものだが、墨書に例外がある。71は底部・見込み両面に墨書を施す。見込み銘は「天」と思われるが、底部銘は不明である。記号であろうか。114は杯の外面に銘を持つ点が珍しい。「舎」の可能性があるが、断定できない。134は「東天」と読める。114の「舎カ」に比べ書き慣れた印象を受ける。

2　金属製品　小鍛冶工房のあったC区に集中するが、一部B区からも出土した。38号遺構(掘立柱建物跡)に関連する遺物であろうか。11～15は釘である。16は板状の鉄製品で、長方形を呈し、薄い。

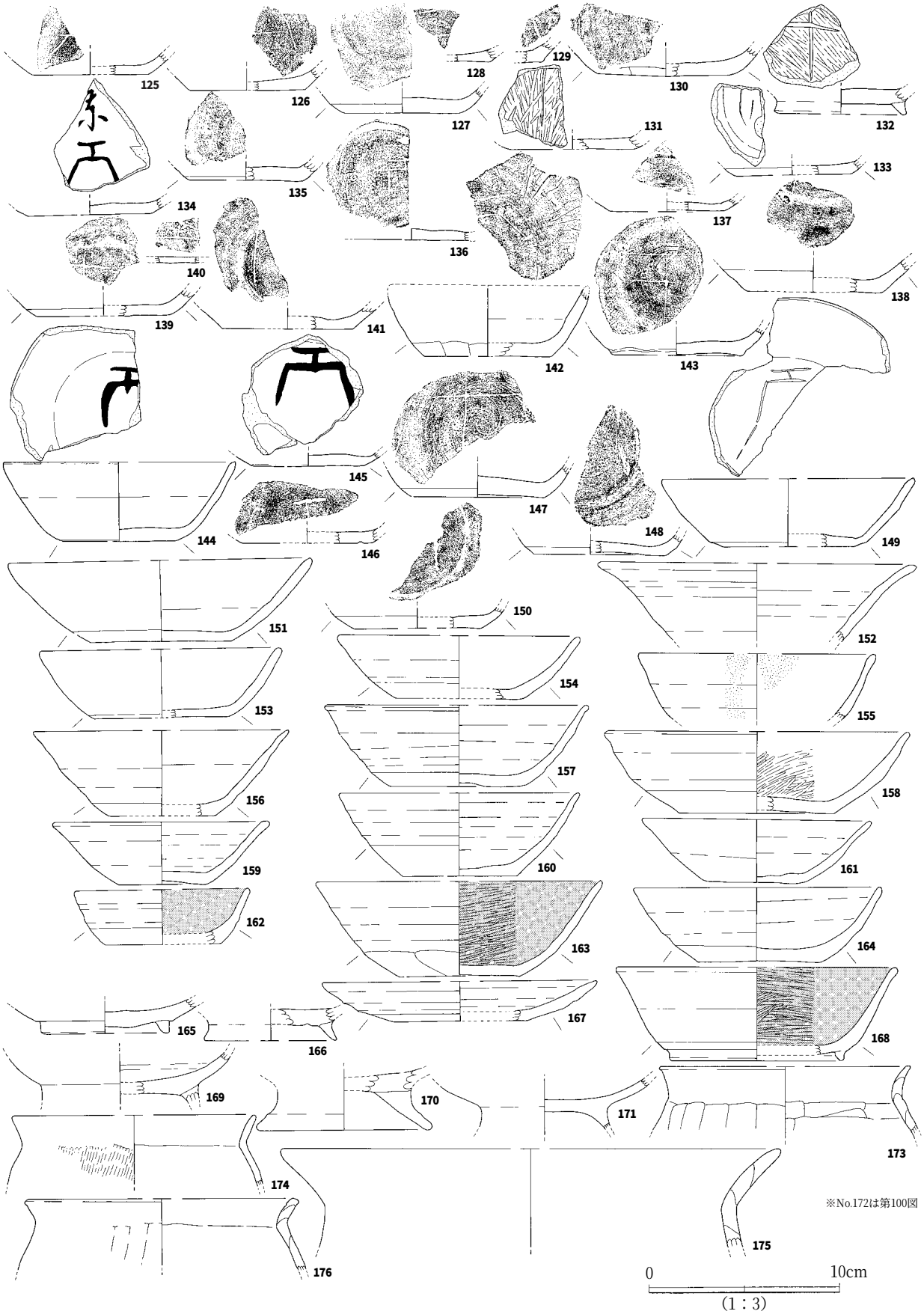
C区の金属製品は直接工房に関連した遺物群と思われ、種類も多岐にわたる。193は雁又状の鏃で



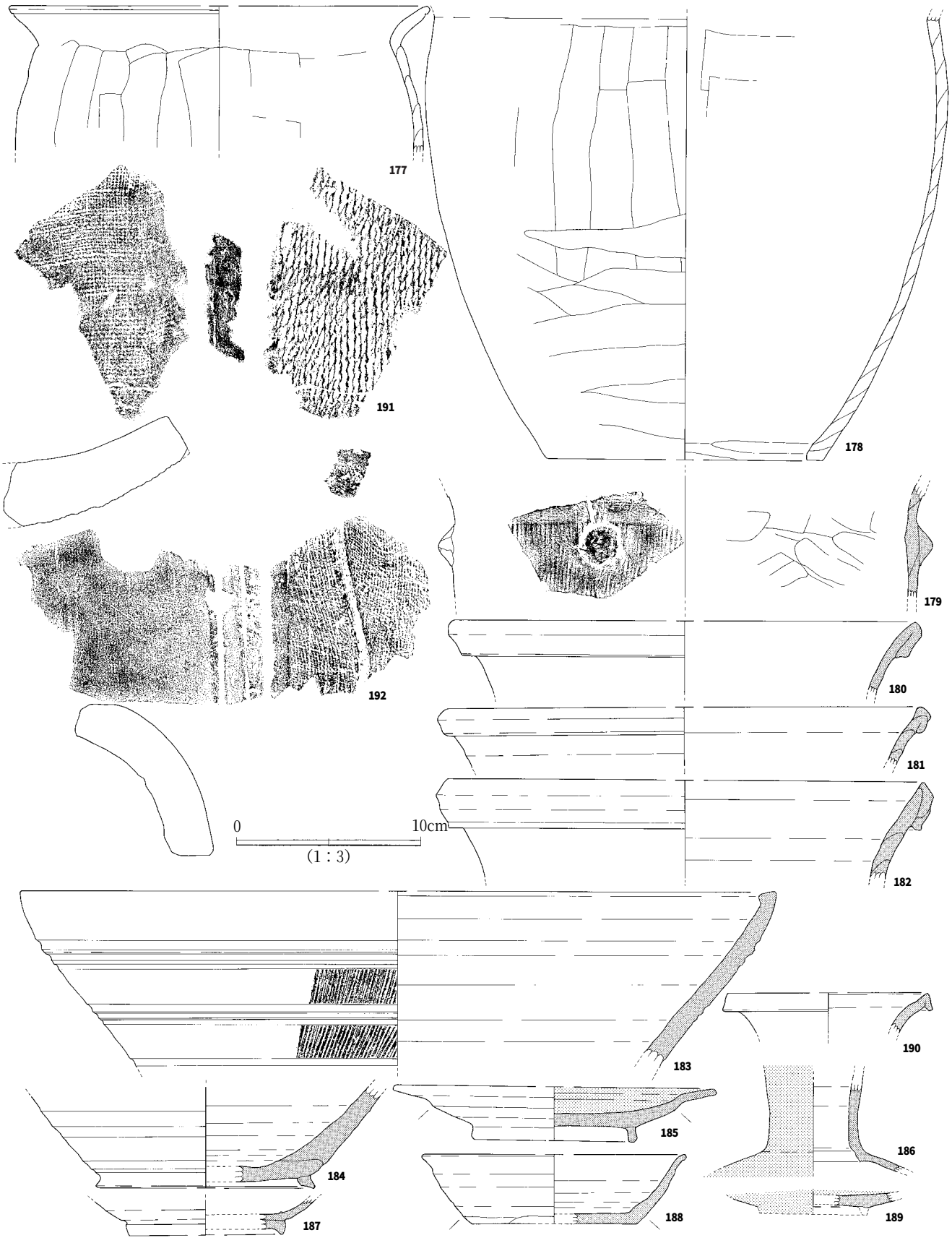
第100図　A～C区一括出土遺物



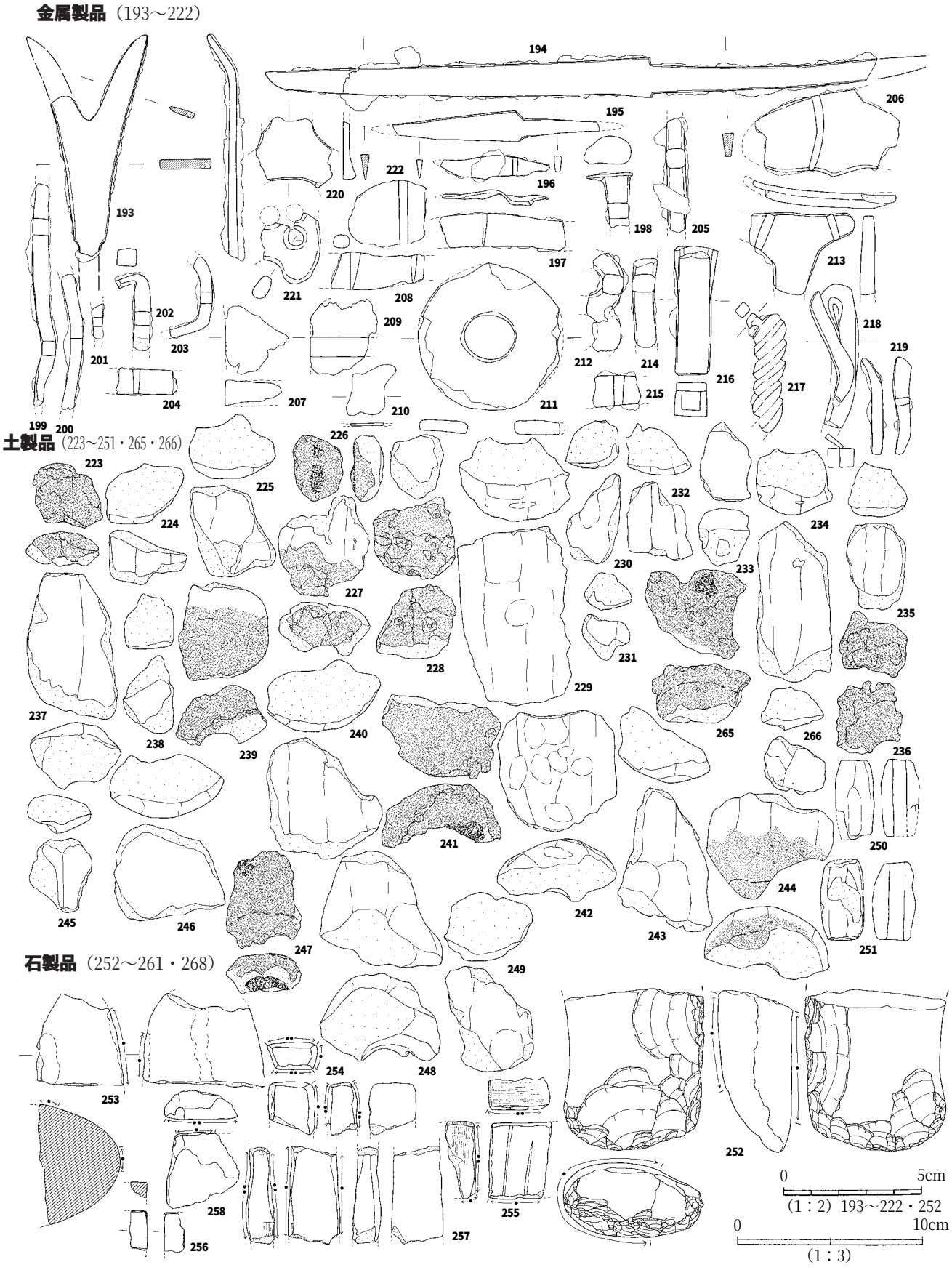
第101図　C区一括出土遺物



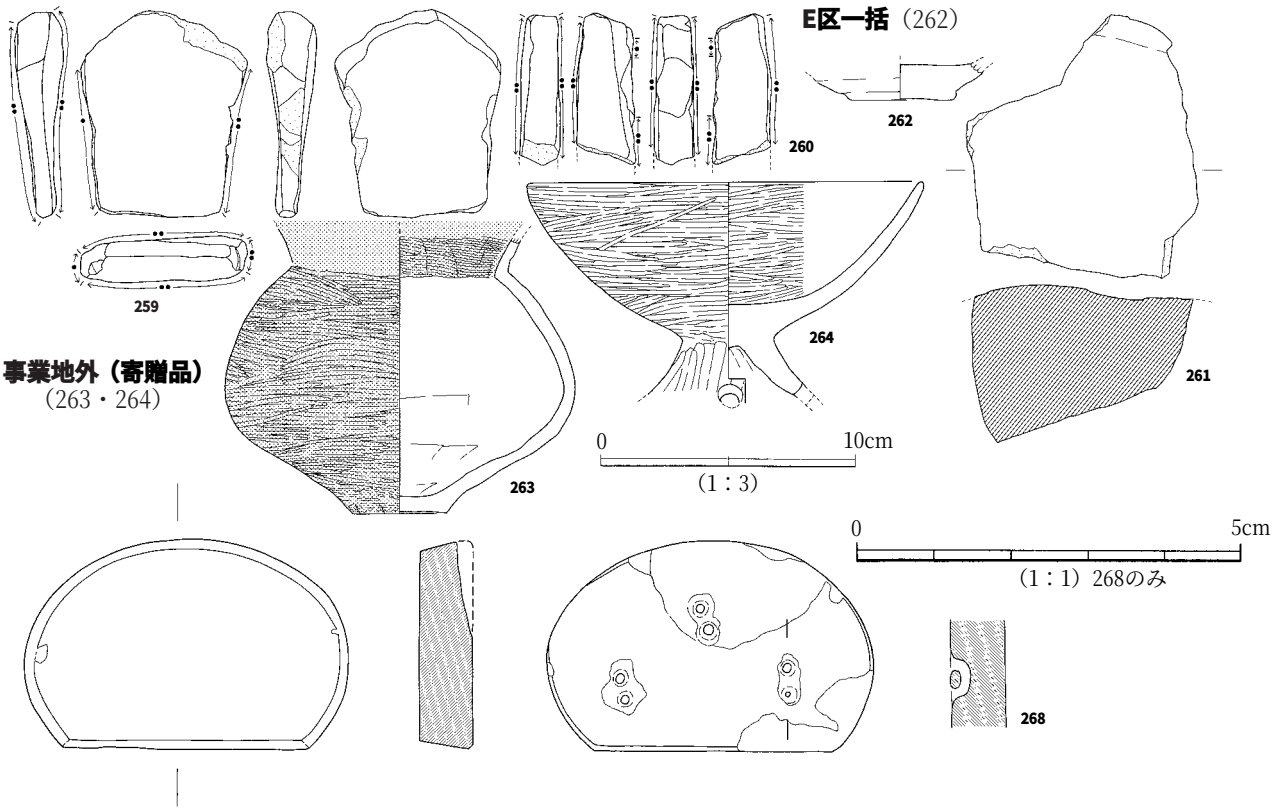
第102図　C区一括出土遺物



第103図　C区一括出土遺物



第104図　C区一括出土遺物



第105図　C・E区一括出土遺物

ある。194・195は刀子である。194は平造りで、切先は先細でややふくらがある。茎は若干腰反状に曲がる。195は刃部が小さい。研ぎ減りか。196は刀子状を呈するが、未製品の可能性もある。197は穂摘鎌である。198～203は釘である。204～215・218・219は用途不明で、未製品の可能性がある。204・215は茎状、205・214は断面隅丸方形の棒状を呈する。206は燧金に似る。207・209は厚い板状である。208は刃部を持つようにも見受けられる。210は薄い板状、211は円盤状を呈する。212は角のぬるい棒を3字状に曲げる。装飾具か。213はT字状を呈する。218は板状品を曲げている。216は断面コ字状に折り曲げた鉄板上に蓋をする。鍵の一部と思われる。217も海老錠など鍵の一部の可能性があるが、定かでない。221は銅製品で、荘厳具か。

3　石製品　268は石帯で、C区中世地業Ⅱ期面の88号遺構bから出土したが、中世地業の際、古代の工房遺構を切り土した結果、混入したものと思われる。ただし切り土面は73号遺構b・c面に止まるもので、極めて近距離間の移動と思われる。C区工房跡からは鋏具・鉈尾も出土しているので、工房跡の遺物であることは間違いないであろう。

黒色緻密安山岩製で、正面は極めてよく研磨され、真っ黒く光沢強い。側面は正面に比べ光沢が鈍く、正面ほど研磨されていない。裏面は軽く研磨した程度で、光沢もない。潜り穴を3カ所施す。

255～260は砥石で、すべて仕上砥と思われる。古代小鍛冶工房に関わる遺物群であろう。

252は礫石斧で、B区からの流入と思われる。縄文早期の遺物である。

4　寄贈品　市内泉台在住の秋山　肇氏からの寄贈(263・264)で、かつて調査区近辺から採集されたという。弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての土器で、方形周溝墓群に関わる遺物と思われる。

表1　遺構一覧

単位：m　（ ）＝推定値《 》＝現状値

No.	挿図	遺構種	位置	主軸×副軸	上場面積	下場面積	主軸方位	柱穴	時期	古い	新しい	備　　考	旧No.
1	8	土坑	L5-50	1.50×1.29	1.7	0.8	N-83°-E	−	縄文早期	−	7以降	撚糸文系土器型式期	94
2	8	土坑	L5-81	1.40×1.00	1.1	0.9	N-79°-W	−	縄文早期	−	7以降	撚糸文系土器型式期	79
3	8	土坑	L6-05	1.65×1.39	2.0	1.1	N-57°-E	−	縄文早期	−	7以降	撚糸文系土器型式期	48
4	9	土坑	L6-24	1.24×0.79	0.9	0.6	N-88°-W	−	縄文早期	−	7以降	撚糸文系土器型式期	31
5	9	土坑	L6-36	1.39×1.04	1.4	1.0	N-56°-E	−	縄文早期	−	7以降	撚糸文系土器型式期	3
6	9	土坑	M7-90	1.78×0.87	1.6	(1.0)	N-52°-E	−	縄文早期	−	−	一応縄文としたが、詳細不明	144
7	9	ｶｸ穴	M8-39	2.24×0.68	(1.4)	0.6	N-68°-E	−	縄文早期	1〜5･8	9以降	条痕文系土器型式期	151
8	8	包含層	A区	−	−	−	−	−	縄文早期	−	7･9以降	撚糸文系土器型式期	−
9	13	竪穴建物跡	L7-36	(5.90)×(5.42)	(27.6)	(24.6)	N-50°-W	−	弥生後期後半	1〜8	12以降		155
10	14	竪穴建物跡	M7-29	(6.62)×6.14	(35.5)	(33.3)	N-50°-W	4	弥生後期後半	1〜8	12以降	特に11と同期、17に切られる	125
11	15	竪穴建物跡	M8-55	4.36×3.98	14.7	13.5	N-45°-W	3	弥生後期後半	1〜8	12以降	特に10と同期、16に切られる	159
12	16	竪穴建物跡	K5-41	(3.28)×(3.04)	(9.2)	(8.2)	N-23°-W	−	古墳中〜後期	−	−		82
13	16	竪穴建物跡	N20-26	4.00×3.58	13.4	11.0	N-41°-W	4	弥生終末期	1〜11	12･15以降	特に14と同期、52号に切られる	35
14	16	竪穴建物跡	N20-80	4.37×3.58	(15.1)	(13.9)	N-81°-W	−	弥生終末期	1〜11	12･15以降	特に13と同期	45
15	17	竪穴建物跡	N20-01	2.94×2.60	7.3	6.0	N-86°-E	2	古墳前期	1〜11	−		36
16	18	方形周溝墓	M8-00	(18.90)×(18.10)	(269.3)	−	N-64°-W	−	弥生終末期	10･11	17･21		134
17	20	方形周溝墓	M7-01	21.00×19.05	351.5	−	N-65°-W	−	弥生終末期	16	21･18a･20		142
18a	22	方形周溝墓	L6-77	8.43×8.38	52.6	−	N-67°-W	−	弥生終末期	17	18b		114
18b	22	方形周溝墓	L6-75	11.08×8.05	(89.5)	−	N-45°-W	−	弥生終末期	18a	19		112
19	22	方形周溝墓	L6-54	《3.22》×《3.12》	《4.6》	−	N-55°-W	−	弥生終末期	18b･23	26a		111
20	23	方形周溝墓	L7-06	(9.28)×(8.36)	(81.5)	−	N-19°-E	−	弥生終末期	17	−		162
21	24	方形周溝墓	M6-56	(10.12)×9.55	(93.5)	−	N-81°-W	−	弥生終末期	17	22		145
22	25	方形周溝墓	N6-50	11.90×11.05	123.6	−	N-83°-W	−	弥生終末期	21	23		29
23	26	方形周溝墓	L6-36	(8.84)×7.14	(52.6)	−	N-67°-W	−	弥生終末期	22	24･26a	23号-22号重複部の遺物は23号で遺物上げしている	28
24	27	方形周溝墓	L6-23	(8.05)×(7.5)	(44.8)	−	N-85°-W	−	弥生終末期	26a	26b		30
25	28	方形周溝墓	N8-11	9.22×(9.18)	(81.3)	−	N-51°-W	−	弥生終末期	−	26b		148
26a	29	方形周溝墓	N6-91	(14.50)×13.30	184.8	−	N-86°-W	−	弥生終末期	19	26b		131
26b	29	方形周溝墓	N6-91	(14.50)×14.32	184.8	−	N-84°-W	−	弥生終末期	26a	−	26aの拡張	131
26b	29	周構内土壙	N7-01	3.32×1.32	4.3	1.8	N-75°-W	−	古墳前期	26a･24	−	26bの周構内土壙	131-1
27	30	竪穴建物跡	K5-36	6.20×5.12	28.6	24.8	N-18°-E	4	古墳前期	−	−	貼床下出土須恵器の年代による	100
28a	32	竪穴建物跡	O21-30	3.72×2.90	7.6	6.1	N-01°-W	2	8C末〜9C初頃	−	28b		37b
28b	32	竪穴建物跡	O21-30	(4.10)×(3.88)	(14.2)	(10.4)	N-16°-E	−	8C末〜9C初頃	28a	−		37a
29	33	竪穴建物跡	N21-99	(6.34)×5.13	(25.5)	(22.8)	N-20°-W	4	8C末〜9C初頃	−	39?		38
30	35	竪穴建物跡	N21-25	3.04×2.87	7.6	6.1	N-15°-W	−	8C末〜9C初頃	−	36･39？		31
30Aｶｸ	35	ｶｸ	N21-25	2.20×1.40	2.8	−	N-14°-E	−	9C前	−	−		−
31	36	竪穴建物跡	M9-04	(6.12)×5.00	(27.6)	(22.0)	N-19°-E	4	9C前〜中葉	30	32		2
32	45	竪穴建物跡	M10-03	(6.52×5.04)	(25.5)	(20.2)	N-14°-E	4	9C前〜中葉	31	33		12
33	49	竪穴建物跡	M9-90	(5.74)×5.20	(20.5)	(18.4)	N-06°-E	4	9C前〜中葉	32	−	ピット4は33号の貼床を掘り込んでいる	11
33P4	49	付属土坑	M10-10	1.88×1.12	1.9	1.0	N-71°-W	−	9C前〜中葉	−	−		P4
34	54	竪穴建物跡	M11-13	(4.58)×3.25	(10.4)	(9.6)	N-21°-E	−	9C前〜中葉	31	33		19
35Aｶｸ	56	鍛冶ｶｸか	M10-50	(0.81)×(0.38)	0.4	0.1	N-20°-E	−	9C前〜中葉	−	−		Aｶｸ
35Bｶｸ	56	鍛冶ｶｸか	M10-60	0.49×(0.38)	0.2	0.1	N-15°-E	−	9C前〜中葉	−	−		Bｶｸ
35	56	掘立柱建物跡	M10-60	4.46×3.86	17.3	−	N-10°-E	10	9C前〜中葉	−	−		15
36	57	掘立柱建物跡	O21-60	5.24×3.60	18.8	−	N-88°-E	11	9C前〜中葉	−	−		42
37Aｶｸ	58	鍛冶ｶｸ	M10-56	1.18×1.17	0.9	−	N-64°-W	−	9C前〜中葉	−	−		216
37	58	掘立柱建物跡	M10-56	《2.28》×1.80	《4.2》	−	N-64°-W	《4》	9C前〜中葉	−	−	A〜Dｶｸ existing	22
38	61	掘立柱建物跡	N8-50	5.26×5.12	27.1	−	N-54°-W	《13》	9C前〜中葉	−	−		152
39	61	掘立柱建物跡	O22-04	4.24×(3.42)	《16.1》	−	N-75°-E	《6》	9C前〜中葉	−	−		50
40	62	鍛冶ｶｸ	M10-29	0.44×0.40	0.1	−	N-06°-E	−	9C前〜中葉	−	−	P1から鍛造剥片出土	23
41	63	平場ピット群	M10-94	《3.86》×《2.60》	《8.8》	《8.3》	N-27°-E	−	9C前〜中葉	−	−	焼土範囲0.192㎡　ピットはハードロームまで掘り込む	21
42	63	土坑	M10-91	2.54×1.82	2.5	1.0	N-21°-E	−	9C前〜中葉	−	−	南側の土坑が先行する。ソフトローム層まで掘り込んでいる。	27
43	63	小鍛冶ｶｸか	M11-00	1.64×1.28	1.8	1.1	N-56°-W	−	9C前〜中葉	−	−	焼土範囲0.144㎡･0.048㎡	8
44	63	ｶｸ	M11-02	1.50×0.58	0.6	0.4	N-27°-E	−	9C前〜中葉	−	−		28
45	65	遺物溜まり	M10-52	−	−	−	N-02°-E	−	9C前〜中葉	−	−	斜面上方の31〜33号の廃棄場か	14
46	71	方形周溝状遺構	L20-22	《13.88》×1.08	《172.3》	−	N-28°-E	−	古墳終末期	−	68	中世墓の可能性あり	54
47	72	土壙墓	N21-00	3.10×1.76	5.5	3.4	N-11°-E	2	古墳終末期	−	−		32
48	72	小竪穴	N21-39	2.75×1.90	4.4	2.3	N-63°-W	4	9Cか	−	−	鉄塊多く出土。覆土及び床直上から	33
49	72	方形土坑	M20-51	2.50×2.07	4.9	3.9	N-29°-E	−	8C末〜9Cか	−	−	土壙墓の可能性あり	53
50	72	ｶｸ	N20-35	2.00×1.16	2.1	1.1	N-81°-W	−	8C末〜9C	−	−	焼土面積1,456㎡、焼土長軸1.7m	43
51	74	ｶｸ	N20-04	1.40×0.84	0.6	0.3	N-51°-E	−	8C末〜9C	−	−	小鍛冶ｶｸの可能性あり	39
52	74	ｶｸ	N20-13	0.78×0.60	(0.4)	(0.2)	N-43°-W	−	8C末〜9C	−	−	鍛造剥片？出土	40
53	74	土坑	M4-96	《1.90》×1.50	《2.3》	《0.2》	N-62°-W	−	8C末〜9C	−	−	性格不明、54号と同形態	27
54	74	土坑	L7-57	《5.28》×3.38	《13.1》	《2.8》	N-71°-W	−	8C末〜9C	−	62	性格不明、53号と同形態	143
55	74	土坑	N7-53	4.14×(4.02)	《7.0》	−	N-27°-W	−	−	−	−	性格不明　覆土中にまばらに礫を含む	126
56	74	土坑	N7-72	1.24×1.22	1.3	0.6	N-01°-E	−	−	−	−		127
57	24	溝状遺構	B区	−	−	−	N-81°-E	−	平安	−	−		163
58	75	溝状遺構	B区	−	−	−	N-22°-E	−	13世紀か	62	59	C区中世Ⅲ期並行	137
59	75	溝状遺構	B区	−	−	−	N-25°-E	−	14Cか	−	60		139
60	75	溝状遺構	B区	−	−	−	N-23°-E	−	14C以降	59	−		138
61	75	溝状遺構	B区	−			N-22°-E	−	14C以降	60	−		−
62	76	溝状遺構	B区	−	−	−	N-68°-W	−	12C末〜13C	54	−		136
63	75	溝状遺構	B区	−	−	−	N-75°-W	−	近世	−	−		135
64	75	溝状遺構	B区	−	−	−	N-77°-W	−	近世	−	−		140
65	75	溝状遺構	B区	−	−	−	N-01°-W	−	近世	−	−		−
66	75	溝状遺構	B区	−	−	−	N-18°-E	−	近世	−	−		−
67	75	溝状遺構	B区	−	−	−	N-83°-W	−	近世	−	−		133
68	97	溝状遺構	E区	−	−	−	N-61°-W	−	15C前葉か	69	−		30A
69	98	溝状遺構	L20-23	−	−	−	N-32°-E	−	15C前葉か	109	68		30B
70	99	溝状遺構	M20-68	6.00×0.30	2.3	−	N-07°-W	−	15C前葉か	−	−		55

71	99	溝状遺構	M20-75	19.70×0.7	15.9	—	N-79° -W	—	15C前葉か	—	—			46
72	99	溝状遺構	M20-85	7.20×0.50	(6.2)	—	N-70° -W	—	15C前葉か	—	—			47
73a	81	盛土整地跡	M10-05	—	—	—	—	—	12C末～13C	—	73b	Ⅰ～Ⅲ期		—
73b	81	切土整地跡	M9-17	—	—	—	—	—	12C末～13C	—	73c	Ⅱ～Ⅲ期		—
73c	81	切土整地跡	M9-30	—	—	—	—	—	13C	—	—	Ⅲ期		—
74	93	切土整地跡	M8-85	—	—	—	—	—	11C中期以降	94	—	最終削平面		—
75	85	掘立柱建物跡	M10-05	10.70×4.70	49.3	—	N-74° -W	12	12C末	—	77a	Ⅱ期		—
76	85	掘立柱建物跡	M9-48	4.20×2.28	9.7	—	N-73° -W	6	12C末	—	77a	Ⅱ期		—
77a	86	掘立柱建物跡	N9-30	9.34×3.54	46.0	—	N-72° -W	30	12C末～13C前	75・76	—	Ⅱ期～Ⅲ期		—
77b	86	付属土坑群	N9-30	—	—	—	—	—	12C末～13C前	—	77a	Ⅱ期～Ⅲ期		—
78	88	掘立柱建物跡	M9-30	6.00×4.30	25.7	—	N-20° -E	《11》	12C末～13C前	76	79	Ⅱ期～Ⅲ期 87号遺構(溝)とセット		—
79	89	掘立柱建物跡	M9-40	18.60×7.60	139.4	—	N-68° -W	《42》	13C中葉	75・78	80	Ⅲ1期 93号遺構(溝)とセット		—
80	90	掘立柱建物跡	M9-67	—×6.90	《64.8》	—	N-68° -W	《23》	13C中葉	79	81	Ⅲ2期		—
81	91	掘立柱建物跡	M9-66	18.80×7.50	141.8	—	N-67° -W	《44》	13C後葉	80	97	Ⅲ3期 94・95号(溝)		—
82	92	掘立柱建物跡	N9-50	2.15×1.16	3.5	—	N-68° -W	4	13C後葉	77	97	時期は必ずしも明かでないが、軸線からⅡ期以降、恐らくⅢ期と思われる		—
83	93	溝状遺構	M9-67	《15.78》×2.14	—	—	N-78° -W	—	12C末	—	78	Ⅱ期、75号遺構とセット88号a・bと方形区画をなす		—
84	93	溝状遺構	N9-60	《5.72》×0.42	—	—	N-25° -E	—	12C末	—	78	Ⅱ期		—
85	93	溝状遺構	N9-61	《2.40》×《0.12》	—	—	N-15° -E	—	12C末	—	78	Ⅱ期		—
86	93	溝状遺構	M9-25	1.32×0.20	—	—	N-10° -E	—	12C末	—	79	75・77号(掘立柱建物跡)付属の溝		—
87	93	溝状遺構	L9-90	5.38×0.48	—	—	N-71° -W	—	12C末	—	—	78・79号付属の溝		—
88a	94	溝状遺構	M10-01	—	—	—	N-17° -E	—	12C末	—	—	Ⅱ期、75号遺構とセットか		—
88b	94	溝状遺構	M10-01	—	—	—	N-17° -E	—	12C末	—	—	Ⅱ期か、75号遺構とセットか		—
89	93	溝状遺構	M9-14	(1.90)×0.22	—	—	N-23° -E	—	13C中～後葉か	—	—	Ⅲ期 88号bと対の可能性あり		—
90	93	溝状遺構	M9-23	(2.84)×0.54	—	—	N-73° -W	—	13C中葉	75・78	80	79号(掘立柱建物跡)付属の溝		—
91	93	溝状遺構	M9-21	(4.28)×0.84	—	—	N-68° -W	—	13C後葉	80	97	81号(掘立柱建物跡)付属の溝		—
92	93	溝状遺構	M9-49	1.86×0.36	—	—	N-23° -E	—	13C後葉	—	—	82号(掘立柱建物跡)付属か		—
93	93	溝状遺構	N9-10	—	—	—	N-78° -W	—	寛永以前	—	94			—
94	93	溝状遺構	N9-00	1.62×0.22	—	—	N-71° -W	—	寛永以降	93	74			—
95	93	植栽列	M9-03	—	—	—	N-77° -W	—	12C末か	—	—	Ⅱ～Ⅲ期、77号と同期か		—
96	93	ピット列	M9-05	—	—	—	N-15° -E	—	12C末か	—	—	Ⅱ～Ⅲ期、77号と同期か		—
97	93	ピット列	M9-61	—	—	—	N-71° -W	—	12C末か	—	—	77号関連遺構か		—
98	93	ピット列	N9-40	—	—	—	N-51° -W	—	12C末～13C	—	—	時期不明		—
99	94	ピット列	M10-15	—	—	—	N-75° -W	—	12C末	—	—	75号関連遺構か		—
100	94	ピット列	M9-82	—	—	—	N-72° -W	—	12C末	—	—	Ⅱ期		—
101	94	ピット列	M9-71	—	—	—	N-15° -E	—	13C前～後葉	—	—	Ⅲ期		—
102	94	ピット列	M10-30	—	—	—	N-69° -W	—	13C前～後葉	—	—	Ⅲ期		—
103	96	切土整地跡	D区	《31.95》×9.45	《260.7》	—	N-89° -W	—	13C前～後葉か	—	—	Ⅲ期か		56
104	96	掘立柱建物跡	D区	12.40×7.50	93.0	—	N-85° -W	29	13C前～後葉か	—	—			57
105	96	ピット群	D区	—	—	—	—	—	13C前～後葉か	—	—			—
106	96	土坑	D区	1.15×1.05	0.9	0.7	N-85° -W	—	13C前～後葉か	—	—			58
107	96	土坑	D区	0.85×0.75	0.6	0.1	N-85° -W	—	13C前～後葉か	—	—			62
108	96	土坑	D区	0.80×0.50	0.3	0.1	N-80° -E	—	13C前～後葉か	—	—			59
109	71	土坑	L20-04	2.18×0.83	2.2	1.1	N-54° -W	—	12C後葉	—	69			—
110	77	畝状遺構	M10-20	—	—	—	N-02° -W	—	12C後葉	—	—	Ⅰ期以前		—
111	94	ピット列	M9-60	—	—	—	N-62° -W	—	13C前～後葉か	—	—	Ⅲ期		—

表2　出土土器類一覧

横ナデ：轆轤使用　横方向ナデ：轆轤使用せず　海：海綿骨針　（ ）は復元値　単位：cm

遺構	No.	状況	種　別	器種	遺存	色　調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	海＝海綿骨針	口径	最大径	高さ	底径	備　考
5	1	覆土中	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	撚糸文(L)	ナデ	優	白色小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系土器
7	1	覆土中	縄文土器	深鉢	破片	5YR3/3暗赤褐	横方向擦痕	横方向擦痕	優	赤色中粒・白色小粒多、繊維入る、粗い	—	—	—	—	早期条痕文系
7	2	覆土中	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/6明褐	縦方向貝殻条痕	斜方向擦痕	良	石英微粒・赤色中粒少、白色小粒多、繊維入る	—	—	—	—	早期条痕文系
7	3	覆土中	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	横方向擦痕	斜方向擦痕	良	赤色大～小粒少、白色小粒多、繊維入る、やや粗	—	—	—	—	早期条痕文系
7	4	覆土中	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/6明褐	縦方向貝殻条痕	斜方向擦痕	良	赤色中粒少、白色小粒多、繊維入る	—	—	—	—	早期条痕文系
7	5	覆土中	縄文土器	深鉢	破片	5YR3/3暗赤褐	横方向擦痕	横方向擦痕	優	赤色中粒・白色小粒多、繊維入る、粗い	—	—	—	—	早期条痕文系
7	6	覆土中	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/6赤褐	横方向擦痕	斜方向擦痕	優	石英小粒少、白色小粒多、繊維入る、やや粗い	—	—	—	—	早期条痕文系
9	1	床直上	弥生土器	鉢	ほぼ完形	10YR6/4にぶい黄橙	胴部縦方向ヘラミガキ後口縁部付近横方向ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	赤色中粒・白色微粒	11.0	11.0	5.0	4.6	弥生後期後半
10	1	床直上	弥生土器	壺	1/4以下	5YR5/6明赤褐	胴部下面左上方向ヘラナデ、底部ヘラナデ	横方向ヘラナデ	優	角閃石微量、小礫少、白色中粒多	—	—	—	(16.0)	弥生後期後半
10	2	覆土中	弥生土器	壺	1/4以下	5YR5/6明赤褐	複合口縁貼付後頸部縦方向ヘラミガキ、口縁横方向ヘラミガキ、赤彩：10R4/6赤は複合口縁下面も	横方向ヘラミガキ、赤彩	優	石英粒微量、白色微粒少	(16.4)	—	—	—	弥生後期後半

10	3	覆土中	弥生土器	壺	1/4以下	5YR6/6橙	口縁部折り返し後粘土紐貼付け複合口縁にする 口縁下部押捺、斜縄文(LR)、頸部は縦方向ヘラミガキ、赤彩：10R4/8赤	横方向ヘラミガキ、赤彩	良	シャモット・白色微粒	15.0	—	—	—	弥生後期後半
10	4	床直上	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	肩部、一重結節文Z字状(R)3条の下に斜縄文(LR)	ナデ	良	赤色小粒少	—	—	—	—	弥生後期後半
10	5	覆土中	弥生土器	甕	破片	7.5YR6/6橙	口縁部押捺	ナデ	良	赤色中粒多	—	—	—	—	外面煮炊き痕　弥生後期後半
10	6	床直上	弥生土器	鉢	破片	5YR6/6橙	頸部結節押捺の下面横方向ヘラミガキ、赤彩：10R4/6赤	横方向ヘラミガキ、赤彩	良	白色小粒	—	—	—	—	弥生後期後半
10	7	床直上	弥生土器	鉢	破片	5YR6/6橙	結節押捺から口縁部にかけて羽状縄文、口唇部斜縄文(LR)	ヘラミガキ、赤彩：10R4/6赤	良	白色小粒少	(18.0)	—	—	—	弥生後期後半
11	1	覆土中	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	肩部、一重結節文S字状(R)3条の上に羽状縄文、文様帯以外はヘラミガキ、赤彩5YR4/6赤褐	斜方向ヘラナデ	良	海微量、白色小粒多	—	—	—	—	弥生後期後半
11	2	覆土中	弥生土器	壺	1/4	5YR6/6橙	胴部ヘラ削り後下部縦方向・中部横方向ヘラミガキ	ヘラナデ後ナデ	良	石英・赤色・白色小粒	—	(10.4)	—	4.2	内面に赤色顔料(10R4/6赤)付着、顔料容器か　弥生後期後半
11	3	覆土中	弥生土器	甕	1/3	5YR6/6橙	口縁部・頸部の輪積痕に結節押捺、横方向ハケ後ナデ、焼成後1カ所穿孔、胴部斜方向ヘラミガキ、胴下部以上に赤彩：10R4/6赤	斜方向ヘラミガキ、全面赤彩	良	角閃石微量、白色中～小粒多	(14.1)	(16.3)	(14.0)	5.9	弥生後期後半
12	1	覆土中	弥生土器	甕	破片	2.5YR4/6赤褐	胴部～頸部斜方向ハケ後頸部横方向ナデ、口唇部面取り	胴部～頸部斜方向ハケ後頸部横方向ナデ	良	白色微粒少	—	—	—	—	弥生終末期
13	1	覆土中	弥生土器	壺	破片	7.5YR6/6橙	肩部、一重結節文Z字状(R)2条とS字状(R)1条に挟まれた斜縄文単節LR、その下に斜縄文単節LRを沈線で囲った山形文、山形文の外側に赤彩：10R4/6赤	左方向ヘラナデ	良	長石小粒少、白色小粒	—	—	—	—	弥生終末期
13	2	覆土中	弥生土器	壺	破片	10YR7/4にぶい黄褐	頸部円形浮文貼付後縦方向ヘラミガキ、赤彩：10R4/6赤、円形浮文付近を帯状に塗り残す	ナデ	良	長石粒少	—	—	—	—	弥生終末期
13	3	覆土中	弥生土器	壺	破片	10YR6/4にぶい黄褐	口縁部粘土紐貼付、横ナデ頸部縦方ハケ、口縁突帯横方向ハケ後口唇部横方向ナデ	頸部～口縁部横方向ハケ後口縁部横方向ナデ	良	石英小粒少	—	—	—	—	弥生終末期
13	4	覆土中	弥生土器	鉢	3/4	7.5YR6/6橙	ヘラ削り後横方向ナデか	左上方向ハケ後ナデ	良	白色中粒	(11.0)	(11.0)	7.1	4.8	弥生終末期
13	5	床直上	弥生土器	高杯	1/2以下	5YR6/8橙	脚部縦ハケ後縦方向ヘラミガキ、赤彩：10R4/8赤	脚部右方向ヘラナデ、受け部ヘラミガキ後赤彩	良	角閃石微量、石英大～微粒少、白色微粒多	—	—	—	11.2	弥生終末期
13	6	覆土中	弥生土器	高杯	1/4以下	5YR6/8橙	脚部端部面取り後縦方向ヘラミガキ	横方向ヘラナデ	良	角閃石・石英小粒微量、白色小粒少	—	—	—	(15.4)	弥生終末期
13	7	覆土中	弥生土器	高杯	3/4	5YR5/8明赤褐	脚部縦方向ヘラ削り後ナデ、受け部下面横方向ヘラナデ、穿入り、受け部縦方向ヘラミガキ、全面赤彩：2.5YR4/6赤褐	受け部縦方向ヘラミガキ後全面赤彩	良	小礫・シャモット少	22.0	22.0	—	—	東海の影響あり　弥生終末期
14	1	覆土中	弥生土器	壺	破片	2.5YR4/8赤褐	口縁部粘土紐貼付突帯、下部にハケメ工具で刺突、横方向にハケ	ナデ	良	長石粒多	—	—	—	—	弥生終末期
14	2	覆土中	弥生土器	壺	破片	10YR6/4にぶい黄褐	肩部一重結節文S字状(R)3条巡らし、櫛描き区画内に単節縄文(RL)を充填した山形文を施す	ナデ	良	石英中粒・角閃石・小礫多　土質他の土器と異なる	—	—	—	—	弥生終末期
14	3	覆土中	弥生土器	低脚高杯	破片	5YR5/6明赤褐	横方向ヘラミガキ	ナデ	良	石英微粒、白色中粒	(9.0)	—	—	—	弥生終末期
14	4	覆土中	弥生土器	低脚高杯	破片	5YR4/6赤褐	ナデ	ナデ、口唇部ハケ目残す	良	石英微粒少、白色中粒多	(9.0)	—	—	—	弥生終末期
14	5	覆土中	弥生土器	高杯	破片	5YR5/8明赤褐色：赤彩3/4暗赤褐	縦方向ヘラミガキ、赤彩	縦方向ヘラミガキ	良	シャモット、小礫	(22.0)	(22.0)	—	—	東海の影響あり　弥生終末期
15	1	覆土中	土師器	壺	1/4以下	7.5YR6/8橙	体部縦方向ハケ後、下面横方向ヘラ削り後、横方向ナデ、上面縦方向ナデ、頸部横方向ナデ	横方向ヘラナデ	良	シャモット・石英中・小粒・白色小粒多	(10.9)	(18.1)	(19.4)	(6.4)	古墳時代前期

15	2	覆土中	土師器	壺	1/4以下	5YR6/6橙	斜上方向ヘラ削り後斜上方向ヘラナデ	ナデ	優	長石中粒、白色微粒	－	(54.0)	－	－	古墳時代前期
15	3	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR6/8橙	体部斜方向ハケ	斜方向ヘラナデ	良	長石中粒少、白色中粒多	(11.0)	(12.2)	－	－	古墳時代前期
15	4	覆土中	土師器	甕	1/4以下	7.5YR7/6橙	体部約2.5cm単位のハケメ単位毎に下方向放射状に入る　底部も同様	ヘラナデ	良	白色中・小粒多	－	－	－	(3.4)	3と同一個体か古墳時代前期
15	5	覆土中	土師器	鉢	3/4	7.5YR6/6橙	底部横方向ヘラ削り・焼成前線刻、体部下方斜方向ヘラ削り・上方縦方向ヘラ削り・焼成前線刻、頸部横方向ナデ	横方向ハケ認められるがヘラナデの可能性あり	良	長石中粒、石英微粒、角閃石微量	(14.0)	(14.0)	8.5	4.0	古墳時代前期
15	6	覆土中	土師器	鉢	破片	10R4/8赤	体部斜方向ヘラナデ	ヘラナデ	優	白色小粒少	(13.0)	－	－	－	古墳時代前期
15	7	覆土中	土師器	器台	1/4以下	5YR5/6明赤褐	放射状ヘラミガキ、赤彩：10R4/8赤	横方向ナデ	優	石英小粒少、赤色小粒	－	－	－	(21.0)	古墳時代前期
15	8	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	石英小粒・白色小粒	－	－	－	(5.0)	混ざり込み
16	1	周溝底	弥生土器	壺	2/3	7.5YR6/6橙	底部横方向ナデ、胴部下位縦方向ヘラナデ後、底部付近左方向ヘラナデ、胴部上位横方向ヘラナデ、頸部境に円形浮文、赤彩：10R4/8赤	横方向ナデ	良	石英小粒・白色微粒	－	9.4	－	4.9	弥生終末期 東海以西の影響
16	2	覆土中	弥生土器	壺	破片	2.5YR5/6明赤褐	櫛描波状文	ナデ	優	白色中～小粒	－	－	－	－	弥生終末期、非在地的技法
16	3	覆土中	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	山形文内に斜縄文（L R）、その他は赤彩：2.5YR4/6赤褐	ナデ	優	角閃石微量、白色小粒	－	－	－	－	弥生終末期
16	4	覆土中	弥生土器	壺	破片	7.5YR6/6橙	刺突文、縦方向ヘラミガキ、赤彩：2.5YR4/6赤褐	横方向ヘラミガキ	良	白色中～小粒	－	－	－	－	弥生終末期
16	5	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	タタキ	粗いハケ	優	長石中粒少、赤色中粒多	－	－	－	(4.4)	6と同一個体の可能性あり　庄内式並行期、近畿風
16	6	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	タタキ	ハケ後ナデ	優	石英・長石・白色小粒少	－	－	－	(4.6)	庄内式並行期、近畿風
16	7	覆土中	弥生土器	甕	1/2以上	7.5YR6/6橙	頸部輪積痕残し結節押捺巡らす　胴部は斜方向ヘラミガキ	横方向ヘラミガキ	良	石英小粒少、赤色中粒	22.4	22.4	25.1	－	弥生終末期
16	8	周溝底	弥生土器	鉢	破片	5YR6/6橙	口唇部面取り、斜縄文（L R）　頸部斜縄文（L R）の下一重結節文S字状（R）3段巡らす　その下は赤彩：10R5/8赤	横方向ヘラミガキ、赤彩	優	白色微粒	－	－	－	－	弥生終末期
16	9	覆土中	弥生土器	高杯	破片	7.5YR6/6橙	ハケ後斜方向ヘラミガキ	横方向ナデ、軽く斜方向ヘラミガキ	良	石英小粒少、赤色中～小粒	(14.2)	－	－	－	弥生終末期
16	10	覆土中	弥生土器	高杯	破片	5YR5/6明赤褐	受け部底面を粘土板で作り、脚部に接合後、さらに粘土を貼付け縦方向ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	優	石英中粒少、白色中粒多	－	－	－	－	弥生終末期
17	1	覆土中	弥生土器	壺	破片	7.5YR6/6橙	複合口縁に斜縄文（L R）、押捺部には布目痕残す　頸部12mm間隔で径3mmの孔並ぶ	ヘラミガキ、赤彩：10R4/8赤	良	白色小粒	－	－	－	－	弥生後期後半　10号遺構からの混入か
17	2	覆土上面	弥生土器	壺	1/4以下	10R4/6赤	胴部ヘラミガキ、頸部タテハケ後縦方向ヘラミガキ、複合口縁口唇部面取り	胴部横方向ナデ、頸部ヨコハケ後ヘラミガキ	優	白色大～中粒多	15.6	－	－	－	極めて赤み強いため、全面赤彩の可能性あり　弥生終末期～古墳前期初頭
17	3	覆土上面	弥生土器	壺	破片	5YR6/6橙	複合口縁	ナデ	優	石英小粒少	－	－	－	－	弥生終末期
17	4	覆土中	弥生土器	壺	破片	5YR6/6橙	頸部縦方向ハケ後複合口縁貼付、ナデ	斜方向ハケ後ナデ	優	石英小粒少、砂粒多、やや粗	－	－	－	－	器表面の遺存度悪い　弥生終末期
17	5	覆土中	弥生土器	壺	1/4以下	7.5YR6/6橙	胴部・頸部境に竹管文、全面ナデ	胴部縦方向ハケ、頸部横方向ナデ	良	小礫・シャモット・石英小粒少	(11.3)	－	－	－	器表面の遺存度悪い　弥生終末期
17	6	覆土上面	弥生土器	壺か	破片	5YR6/8橙	口唇部面取り、頸部横方向ヘラミガキ、口唇部に中央を竹管状工具で刺突した円形浮文貼付	横方向ナデ	優	石英小粒・白色微粒少	－	－	－	－	器台の可能性あり 弥生終末期、東海以西の影響
17	7	覆土中	弥生土器	壺	破片	2.5YR4/6赤褐	頸部下方向ハケ後縦方向ヘラミガキ、複合口縁横方向ハケ後横方向ナデ、竹管状工具で刺突した円形浮文貼付	口縁付近横方向ヘラミガキ、頸部斜方向ヘラミガキ	優	角閃石微量	(20.4)	－	－	－	弥生終末期、東海以西の影響
17	8	覆土中	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	口唇部付近面取り、頸部ハケ後上方向ヘラミガキ	左方向ハケ後ヘラミガキ	優	石英中～小粒	(13.0)	－	－	－	弥生終末期
17	9	覆土中	弥生土器	壺	破片	2.5YR5/6明赤褐	複合口縁に2段の刺突文、頸部斜方向ヘラミガキ	斜方向ヘラミガキ	優	角閃石微量	(15.0)	－	－	－	弥生終末期
17	10	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR3/3暗赤褐	胴部ナデ、頸部横方向ナデ	胴部左上方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	石英中～小粒、白色中～小粒多	(22.0)	－	－	－	弥生終末期

17	11	覆土中	弥生土器	甕	破片	7.5YR6/6橙	口頸部面取り、横方向ナデ	横方向ナデ	良	石英・白色中粒	(16.6)	－	－	－	弥生終末期
17	12	覆土中	弥生土器	甕	破片	7.5YR6/6橙	横ナデ、口頸部付近面取り	横方向ハケ後ナデ	良	赤色小粒	(14.0)	－	－	－	外面煮炊き痕　弥生終末期
17	13	周溝法面	弥生土器	甕	破片	7.5YR6/6橙	輪積痕残し縄文で押捺、ナデ、ヘラ先の刺突痕あり	ヘラミガキ	良	シャモット	－	－	－	－	弥生終末期
17	14	覆土上面	弥生土器	鉢	破片	5YR4/3にぶい赤褐	口頸部面取り、口縁部羽状縄文(斜縄文3段)、口頸部斜縄文(LR)	ヘラミガキ	優	赤色中粒	－	－	－	－	弥生終末期
17	15	覆土中	弥生土器	高杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	ハケ後ヘラナデ後ナデ	ヘラナデ	良	赤色中粒少、白色小粒	－	－	－	－	弥生終末期
17	16	覆土中	弥生土器	高杯	破片	5YR6/6橙	受け部ハケ後横方向ヘラミガキ	縦方向ヘラミガキ	優	石英小粒微量、白色小粒	－	－	－	－	弥生終末期
17	17	覆土中	弥生土器	台付甕	1/2以下	2.5YR5/8明赤褐	脚部横方向ヘラナデ後受け部接合面～脚部中位まで下方向ヘラナデ	受け部やや赤み強い(2.5YR4/6赤褐)ので赤彩の可能性あり　脚部右下方向に粗く明瞭でないハケ	優	小礫・シャモット・長石中粒・石英微粒多	－	－	－	10.7	弥生終末期
17	18	覆土中	弥生土器	高杯	1/2以上	5YR6/6橙	受け部口頸部面取り、縦方向ヘラミガキ、全面赤彩：10R4/8赤	脚部横方向ナデ、受け部横方向ヘラミガキ、受け部赤彩	優	石英中～微粒・白色微粒	17.2	17.2	－	－	弥生終末期
18a	1	覆土中	弥生土器	壺	破片	7.5YR5/4にぶい褐	斜縄文RLとLR間に一重結節文S字状(R)3条入る　文様帯外は赤彩：10R4/8赤	左方向ヘラナデ	良	赤色小粒・白色微粒	－	－	－	－	弥生終末期
18a	2	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	複合口縁口頸部波状に押捺	横方向ナデ	優	石英粒少	－	－	－	－	煮沸のため外面黒化　弥生終末期
18a	3	覆土中	弥生土器	高杯	破片	5YR5/6明赤褐	脚部穿孔、縦方向ヘラミガキ	左上方向ハケ	優	角閃石・石英微粒少	－	－	－	(11.0)	弥生終末期
18b	1	覆土中	弥生土器	壺	破片	2.5YR5/6明赤褐	口縁部粘土紐貼付突帯表現、口縁突帯上面単節LR、頸部赤彩	頸部ヘラナデ、赤彩	優	角閃石・白色小粒	－	－	－	－	弥生終末期
18b	2	覆土中	土師器	壺	破片	10YR5/4にぶい黄褐	胴部左上方工具ナデ、底部左方向工具ナデ	左上方ヘラナデ	良	石英小粒	－	－	－	(4.0)	五領式か　混ざり込み
18b	3	覆土中	弥生土器	壺	破片	7.5YR5/4にぶい褐	ナデ	ナデ	良	石英微粒・白色小粒多	－	－	－	3.2	弥生終末期
19	1	覆土中	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	粘土紐巡らし複合口縁にする　オオバコ花茎を用いたと思われる疑縄文　口頸部は無文で面取り	横方向ヘラミガキ	優	小礫・石英小粒	－	－	－	－	弥生後期後半　混ざり込み
19	2	覆土中	弥生土器	壺	破片	10YR6/2灰黄褐	頸部縦方向に櫛描波状文	頸部右方向ハケ	良	白色中粒多、軽い	－	－	－	－	弥生後期後半　混ざり込み
19	3	覆土中	弥生土器	甕	破片	7.5YR6/6橙	頸部横方向ナデ、口縁部押捺し波状にする	胴部～頸部中位ヘラミガキ	良	石英小粒・赤色中粒・白色微粒	－	－	－	－	弥生後期後半　混ざり込み
19	4	覆土中	弥生土器	甕	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	ハケ後ヘラミガキ	ヘラナデ後ヘラミガキ	良	赤色中粒・白色小粒	－	28.3	－	－	弥生終末期
20	1	覆土中	弥生土器	器台	破片	5YR3/2暗赤褐	裏返して成形、受け部ハケ後ヘラミガキ	脚部ハケ後ヘラミガキ、受け部横方向ナデのみ	優	石英小粒・角閃石・白色小粒	－	－	－	－	弥生終末期　23号-3と同一個体の可能性あり
21a	1	覆土中	弥生土器	壺か	破片	5YR5/6明赤褐	頸部縦方向ヘラミガキ	頸部縦方向ヘラミガキ	優	赤色中粒・白色微粒少	(16.0)	(16.0)	－	－	高杯の可能性あり　弥生終末期
21a	2	覆土上層	弥生土器	甕	1/4以下	2.5YR4/6赤褐	頸部～胴上部下方向ハケ後胴部上方向ハケ、頸部横方向ナデ	胴部斜方向ヘラナデ、頸部ハケ後横方向ナデ	優	石英大粒微量、白色中粒	(15.2)	(15.2)	－	－	弥生終末期
21a	3	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR4/4にぶい赤褐	頸部タテハケ後縦方向ヘラミガキ、口縁部押捺	頸部左方向ハケ後ヘラミガキ、口縁部押捺	優	赤色中粒・白色小粒	(15.0)	(15.0)	－	－	弥生終末期
21a	4	覆土上層	弥生土器	甕	破片	5YR6/8橙	胴部ハケ後ナデ、頸部横方向ナデ、口縁部面取り	胴部ナデ、頸部ハケ後横方向ナデ	優	石英微粒・白色小粒	(18.0)	－	－	－	弥生終末期
21a	5	周溝法面	弥生土器	甕	破片	7.5YR6/6橙	頸部ハケ後横方向ナデ、口縁部面取り	頸部左方向ハケ	良	石英中粒微量、白色小粒	－	－	－	－	弥生終末期
21a	6	覆土中	弥生土器	器台	1/4以下	5YR5/6明赤褐	脚部ハケ後ヘラミガキ	受け部ヘラミガキ、中央部に穿孔、脚部ハケ	優	石英微粒少	－	－	－	－	弥生終末期
21a	7	周溝底面	弥生土器	高杯	破片	5YR5/6明赤褐	脚部穿孔、斜上方ハケ後ヘラミガキ	斜上方ハケ後ナデ、粗くヘラミガキ	優	石英中粒微量、白色中粒多	－	－	－	(16.0)	弥生終末期
21b	1	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	胴部～頸部左上方ハケ後、胴部軽くナデ、頸部横方向ナデ	胴部～頸部左上方ハケ後ナデ	優	赤色中粒多、白色微粒少	(13.0)	－	－	－	弥生終末期
21b	2	覆土中	弥生土器	高杯	1/4	5YR4/4にぶい赤褐	受け部底面を円盤状粘土で作り、受け部上面と脚部を接合　全面ヘラミガキ	脚部一部ハケ後横方向ナデ、受け部ヘラミガキ	優	赤色大～中粒・白色中粒多	－	－	－	－	弥生終末期
21b	3	覆土中	弥生土器	高杯	1/3	2.5YR5/6明赤褐	脚部3カ所穿孔、ヘラミガキ	ハケ後ナデ	優	石英・白色小粒	－	－	－	－	弥生終末期
22	1	覆土中	弥生土器	壺	1/4以下	10YR7/4にぶい黄褐	胴部下位左方向ヘラナデ	ハケ後横方向ナデ	良	石英大～小粒、白色中粒多	－	－	－	4.0	弥生終末期
22	2	覆土中	弥生土器	壺	1/4以下	10YR7/4にぶい黄褐	斜方向ヘラミガキ	右方向ヘラナデ	良	石英中粒少、白色中粒多	－	－	－	3.8	弥生終末期

22	3	覆土中	弥生土器	甕	破片	2.5YR3/4暗赤褐	胴部縦方向ハケ、頸部横方向ナデ、口唇部面取り	右方向粗いハケ	優	小礫少、白色小粒	(14.4)	—	—	—	弥生終末期
22	4	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR4/4にぶい赤褐	胴部縦方向ハケ後頸部横方向ナデ、口縁ゆるく面取り	頸部横方向ナデ	優	赤色中粒・白色小粒	(13.8)	(13.8)	—	—	弥生終末期
22	5	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	胴部ナデ、頸部横方向ナデ	胴部右方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	石英小粒少、白色小粒多	—	—	—	—	弥生終末期
22	6	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR6/6橙	横方向ナデ、口縁部は押捺で波状にする	横方向ナデ、口縁は押捺で波状にする	優	石英小粒少、白色微粒	—	—	—	—	弥生後期後半　混ざり込みか
22	7	覆土上面	弥生土器	鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	口縁部外反、体部斜方向ヘラミガキ	頸部外反、横方向ヘラミガキ	良	白色小粒	(12.1)	(12.1)	—	—	弥生終末期
22	8	覆土中	弥生土器	高杯	破片	5YR4/6赤褐	脚部底面・側面下部面取り　縦方向ハケ後縦方向ヘラミガキ後脚下部横方向ヘラミガキ　穿孔部1カ所遺存	左方向ハケ	優	石英小粒少、白色小粒	—	—	—	(10.4)	弥生終末期
22	9	覆土中	弥生土器	高杯	破片	7.5YR6/6橙	受け部下位にヘラナデで稜線表し、その上位を縦方向ヘラミガキ	縦方向ヘラミガキ	良	赤色中粒多	—	—	—	—	弥生終末期、東海的
23	1	覆土上層	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	胴部～頸直立部接合面に隆帯巡らしヘラ状工具で刺突、頸開口部貼付後直立部縦方向・開口部斜方向ヘラミガキ	胴部無調整、頸直立部粗目のハケ、開口部横方向ヘラミガキ	優	赤色中粒・白色小粒多	—	—	—	—	弥生終末期の複合口縁壺、近畿風
23	2	覆土中	弥生土器	壺	破片	5YR5/8明赤褐	胴部横方向ハケ、頸部との接合面に結節押捺	横方向ナデ、頸部一部ヘラミガキ	優	長石中粒・白色小粒多	(10.8)	—	—	—	弥生終末期
23	3	覆土中	弥生土器	坏器台	破片	2.5YR4/6赤褐	受け部・脚部接合面に粘土貼付後ハケ	受け部～脚接合部横方向ハケ後ヘラミガキ、脚部無調整	優	石英小粒少、白色小粒	(10.8)	—	—	—	弥生終末期
24	1	覆土上層	弥生土器	壺	ほぼ完形	5YR6/6橙	タテハケ後複合口縁貼付、胴部左上方ヘラナデ	頸部粗いハケ後横方向ナデ、胴部左上方ヘラナデ	優	シャモット・石英微粒、白色小粒多	10.6	18.1	17.6	5.5	弥生終末期後半
24	2	覆土中	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	頸部タテハケ後複合口縁貼付、下部圧痕	横方向ナデ	優	石英小粒	(11.2)	—	—	—	弥生後期後半、混ざり込み
24	3	覆土上層	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	沈線区画内に斜縄文（R L）施し山形文。その他の部分を赤彩：10R4/8	左方向ヘラナデ	優	白色大～小粒多、石英粒少	—	—	—	—	弥生後期後半、混ざり込み
24	4	覆土中	弥生土器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	胴下部横方向にタタキ施した後縦方向ハケ	左上方ハケ	優	石英中粒・黒雲母粒	—	—	—	—	煮沸のため内面黒化　弥生終末期後半、近畿風
24	5	覆土上層	弥生土器	鉢	ほぼ完形	2.5YR5/6明赤褐	左上方向ヘラナデ、口唇部面取り	左方向ヘラナデ	優	白色中粒多	10.2	10.2	6.0	4.6	弥生終末期後半
24	6	覆土上層	弥生土器	鉢	破片	5YR5/6明赤褐	ヘラミガキ、口唇部面取り	ヘラミガキ	優	白色微粒	(12.6)	(12.6)	—	—	弥生終末期
25	1	覆土中	弥生土器	高杯	破片	5YR5/6明赤褐	頸部ハケ後縦方向ヘラミガキ	頸部左上方ハケ	優	角閃石少、白色微粒	(14.6)	—	—	—	弥生終末期後半
26a	1	覆土中	弥生土器	壺	1/2以下	2.5YR5/8明赤褐	頸部縦方向ハケ後横方向ナデ、体部上面左上方向ハケ、下面上方向ハケ後縦方向ヘラミガキ	左方向ヘラナデ後ナデ	優	石英粒・白色小粒	—	19.5	—	—	弥生終末期後半
26a	2	覆土中	弥生土器	壺	破片	7.5YR6/6橙	複合口縁押捺、羽状縄文1条、頸部縦方向ヘラミガキ後横方向ナデ、複合口縁除き赤彩：2.5YR5/8明赤褐	横方向ヘラナデ	良	長石・石英中粒多、角閃石微量	—	—	—	—	弥生後期後半、混ざり込み
26a	3	覆土上層	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	複合口縁押捺し、斜縄文（R L）、頸部縦方向ヘラミガキ	横方向ナデ	優	長石中粒少、白色微粒	—	—	—	—	弥生後期後半、混ざり込み
26a	4	覆土中	弥生土器	高杯	1/4以下	5YR6/6橙	脚部縦方向ヘラミガキ	受け部ヘラミガキ	優	赤色中粒・白色小粒	—	—	—	—	弥生終末期後半
26b	1	覆土上層	土師器	鉢	3/4	5YR5/6明赤褐	ハケ後左上方ヘラ削り後ナデ	ヘラナデ後ゆるく縦方向ヘラミガキ	優	小礫・石英大粒多	11.0	11.2	7.3	3.4	五領式
27	1	カマド内	土師器	甕	1/2以上	2.5YR5/6明赤褐	左方向ヘラ削ナデ	横方向ヘラナデ	優	石英小粒・白色中～小粒	—	22.0	—	—	鬼高式
27	2	覆土中	土師器	甕	1/4以下	2.5YR5/8明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後中位横方向ヘラナデ、肩部～口縁部横方向ナデ	右方向ヘラナデ	優	石英中～小粒・白色小粒	(19.0)	—	—	—	鬼高式
27	3	覆土中	弥生土器	甕か	1/4以下	2.5YR4/6赤褐	ドーナッツ底高台ヘラで削り出し後ナデ	ナデ	優	赤色・白色中粒	—	—	—	5.0	近畿風の弥生終末期土器　混ざり込み
27	4	覆土中	弥生土器	甕	破片	7.5YR6/6橙	頸部縦方向ヘラナデ、胴部境に輪積痕残し結節押捺	横方向ヘラナデ	良	赤色中粒	—	—	—	—	混ざり込み
27	5	貯蔵穴	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	裏返して反時計回りにヘラ削り、口縁部横方向ナデ、全面赤彩：10R4/8赤	ヘラミガキ、全面赤彩	優	シャモット・白色小粒	(17.4)	(17.4)	5.8	—	鬼高式
27	6	貯蔵穴	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/4にぶい橙	左方向ヘラ削り後軽くナデ、全面赤彩：10R5/8赤	ヘラナデ、全面赤彩	良	石英微粒・白色微粒	(16.5)	(16.5)	(4.3)	—	鬼高式

27	7	床下	須恵器	壺	破片	2.5Y6/1黄灰	横ナデ	横ナデ、頸部降灰：7.5Y3/2オリーブ黒	良	微黒粒	(23.6)	—	—	—	TK208
28a	1	カマド内	土師器	甕	3/4	2.5YR5/8明赤褐	胴部下方向ヘラ削り、頸部横方向ナデ	胴部左方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	小礫少、白色小粒多、粗い	(23.8)	(23.8)	—	—	
28a	2	カマド脇	須恵器	杯	1/4以下	10YR6/2灰黄褐	底部付近回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒少、白色小粒多、やや粗	(14.6)	(14.6)	(3.9)	(10.5)	
28b	1	覆土中	土師器	甕	破片	5YR4/3にぶい赤褐	頸部横方向ナデ	頸部横方向ナデ	優	長石粒・シャモット少	(22.0)	(22.0)	—	—	
28b	2	覆土中	土師器	甕	破片	10R4/8赤	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	横方向ナデ	優	角閃石微量、長石大～微粒少	(13.6)	(13.6)	—	—	
28b	3	覆土中	須恵器	杯	1/4以下	10YR6/2灰黄褐	底部付近～底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒少、白色小粒多、やや粗	(14.0)	(14.0)	3.5	(8.5)	
28b	4	覆土中	須恵器	杯	1/4以下	2.5Y4/1黄灰	横ナデ	横ナデ	良	長石大～小粒多	(14.0)	(14.0)	—	—	
29	1	カマド内	土師器	甕	1/4以下	5YR4/6赤褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	左下方向ヘラナデ	優	石英・白色小粒多	(23.8)	(23.8)	—	—	
29	2	カマド内	土師器	甕	1/2	5YR4/6赤褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	左下方向ヘラナデ	優	石英・白色小粒多	23.8	23.8	—	—	
29	3	貼床下	土師器	甕	破片	2.5YR4/8赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	頸部横方向ナデ	優	小礫・石英小粒・白色中～小粒多、粗い	(18.8)	—	—	—	
29	4	貼床下	土師器	甕	破片	2.5YR4/8赤褐	頸部横方向ナデ	頸部横方向ナデ	優	小礫・石英小粒・白色中～小粒多、粗い	(18.6)	—	—	—	
29	5	貼床下	土師器	甕	破片	2.5YR4/6赤褐	胴部タテ方向ヘラ削り後、胴部上半・頸部横方向ナデ	胴部上半横方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	小礫・石英小粒・白色中～小粒多、粗い	(16.4)	—	—	—	
29	6	貼床下	土師器	鉢	1/4以下	10R4/6赤	胴部下半縦方向ヘラ削り・上半横方向ヘラ削り後全面横方向ナデ	横方向ヘラナデ後横方向ナデ	優	小礫・石英小粒・白色中～小粒多、粗い	(16.4)	(17.0)	(9.4)	—	
29	7	貼床下	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒・白色小粒	(15.4)	(15.4)	4.0	(10.6)	
29	8	貼床下	須恵器	甕	1/4以下	5YR4/6赤褐	タタキ	横方向ナデ	良	長石粒少、白色小粒多、粗い	—	(26.7)	—	—	
29	9	覆土中	須恵器	杯	1/4以下	2.5Y5/1黄灰	重ね焼きのため口縁部の色調変化	横ナデ	良	長石中～小粒少、白色微粒多	(12.6)	(12.6)	—	—	
29	10	覆土中	須恵器	杯	破片	2.5Y5/1黄灰	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石大～小粒少、白色微粒多	—	—	—	(8.0)	
29	11	覆土中	須恵器	杯	破片	N5/灰	底部付近右回転ヘラ削り調整	横ナデ、火襷入る	優	長石大～中粒多、やや粗	(13.0)	(13.0)	4.1	(7.6)	
30	1	A坊上層	土師器	小壺	破片	7.5YR6/6橙	輪積後ナデ	ナデ	良	白色微粒少	—	—	—	—	
30	2	覆土中	土師器	壺	1/4以下	5YR6/6橙	頸部板状工具で横方向ナデ	頸部ヘラナデ	優	石英小粒少、角閃石微量	(14.6)	—	—	—	
30	3	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR6/4にぶい橙	全面ハケ	頸部ハケ、胴部ヘラナデ	良	石英粒少	(22.8)	—	—	—	
30	4	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR4/6褐	胴部縦方向ヘラ削り、頸部横方向ナデ、口縁部段状につまみ出す	胴部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	石英微粒・白色小粒多	(22.0)	—	—	—	
30	5	カマド内外	土師器	甕	1/4以下	5YR3/4暗赤褐	胴部下面縦方向ヘラ削り、底部横方向ヘラ削り	横方向ヘラナデ	優	長石粒少、白色中粒多、粗い	—	—	—	6.4	
30	6	覆土中	土師器	杯	1/4	5YR4/4にぶい赤褐	体部～底部左方向手持ちヘラ削り、口縁部横方向ナデ	ヘラミガキ	優	シャモット、白色小粒	(13.1)	(13.1)	4.8	—	灯明として使用
30	7	カマド内	土師器	杯	完形	7.5YR7/6橙	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	長石中粒・小礫多、粗い	12.8	12.8	3.9	8.5	
30	8	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙：赤彩10R4/6赤	体部横ナデ、底部付手持ちヘラ削り、全面赤彩	横ナデ、全面赤彩	良	白色小粒少	(11.6)	(11.6)	3.2	(9.0)	
30	9	A坊内	土師器	高台付杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	脚部横ナデ	脚部横ナデ	良	石英微粒、白色微粒	—	—	—	(6.8)	破面一部砥石に転用
30	10	B坊内	須恵器	杯	破片	2.5Y5/2暗灰黄	体部横ナデ	横ナデ	良	白色小粒・微粒多	(13.0)	(13.0)	—	—	
31a	1	覆土上層	土師器	甕	破片	5YR4/4にぶい赤褐	頸部横ナデ後胴部縦方向ヘラ削り	ナデ	優	石英粒小、白色微粒多	(11.2)	—	—	—	
31a	2	覆土中	土師器	甕	2/3	2.5YR5/6明赤褐	胴部上半下方向ヘラ削り後下方右方向ヘラ削り	横方向ヘラナデ	優	石英小粒・白色小粒	21.6	22.0	—	—	
31a	3	覆土中	土師器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	優	赤色中粒、白色微粒	(13.4)	—	—	—	
31a	4	覆土中	土師器	甕	破片	5YR4/4にぶい赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	優	白色微粒	(12.6)	(12.6)	—	—	
31a	5	覆土上層	土師器	甕	破片	2.5YR5/6明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	優	白色微粒多	(14.6)	(14.6)	—	—	覆土一括
31a	6	覆土中	土師器	甕	1/4以下	5YR5/6明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	優	石英粒少、白色微粒多	(23.2)	—	—	—	
31a	7	覆土下層	土師器	甕	破片	7.5YR6/6橙	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	良	石英小粒、赤色小粒、白色微粒	(20.8)	—	—	—	
31a	8	覆土中	土師器	甕	1/4	5YR5/6明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	優	赤色小粒・白色微粒多	20.4	(21.5)	—	—	
31a	9	床直上	土師器	甕	破片	7.5YR6/8橙	胴部上方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	良	金雲母微量、白色微粒多	(20.0)	(20.2)	—	—	
31a	10	覆土中	土師器	甕	1/4以下	5YR6/8橙	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	優	白色微粒多	(22.4)	—	—	—	
31a	11	覆土中	土師器	甕	1/4	5YR6/6橙	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	優	石英粒少、白色中・微粒多	(21.0)	(21.8)	—	—	

31a	12	f貼床下	土師器	甕	破片	7.5YR6/6橙	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	良	小礫、石英小粒、シャモット	(22.8)	—	—	—	
31a	13	覆土上層	土師器	甕	1/4以下	5YR5/6明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	普	石英粒少、赤色小粒、白色微粒	(21.0)	—	—	—	
31a	14	床直上	土師器	甕	1/4以下	5YR6/8橙	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	普	白色微粒	(21.0)	(21.0)	—	—	
31a	15	覆土上層	土師器	甕	2/3	5YR6/8橙	胴部上半下方向ヘラ削り後下方右方向ヘラ削り	胴部右上方ヘラナデ後頸部横方向ナデ	普	石英小粒・白色小粒	21.0	22.0	—	—	
31a	16	覆土上層	土師器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	普	石英粒・シャモット少、白色微粒	(27.6)	—	—	—	
31a	17	覆土中	土師器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	底部付近左方向ヘラ削り、底部ヘラ削り	ヘラナデ	普	小礫、白色微粒	—	—	—	6.0	
31a	18	覆土上層	土師器	甕	破片	2.5YR5/8明赤褐	底部付近左方向ヘラ削り、底部ヘラ削り	ヘラナデ	普	石英小粒、白色微粒	—	—	—	6.0	
31a	19	覆土中	土師器	甕	破片	5YR5/8明赤褐	底部付近横方向ヘラ削り、底部ヘラ削り	ナデ	普	赤色中粒多、白色微粒	—	—	—	(5.8)	
31a	20	覆土中	土師器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	底部付近横方向ヘラ削り、底部ヘラ削り	ヘラナデ	普	石英粒小、白色微粒多	—	—	—	(7.4)	
31a	21	東南隅	土師器	甕	1/3	5YR6/6橙	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	普	シャモット少、白色微粒多	(12.8)	(12.8)	—	—	
31a	22	覆土中	土師器	甕	1/3	2.5YR5/8明赤褐	胴部下方向ヘラ削り後底部付近右方向ヘラ削り、底部ヘラ削り	左方向ヘラナデ	普	石英粒少、白色微粒多	—	(13.6)	—	5.7	
31a	23	覆土中	土師器	甕	1/4	5YR5/6明赤褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	右方向ヘラナデ	普	白色小粒	19.3	19.3	—	—	
31a	24	覆土中	土師器	甕	破片	10YR6/4にぶい黄褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	良	石英粒小、赤色小粒	(25.8)	—	—	—	
31a	25	覆土中	土師器	甕	1/3	7.5YR5/8明褐	胴部下方向ヘラ削り後、底部付近左方向ヘラ削り	ヘラナデ	良	長石粒、白色微粒	—	—	—	5.4	
31a	26	覆土中	土師器	甑	1/4以下	5YR4/6赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後底部付近横方向ヘラ削り	ヘラナデ	普	シャモット、白色微粒多	—	—	—	(11.2)	
31a	27	覆土中	土師器	杯	破片	5YR5/4にぶい赤褐	横ナデ	横ナデ	普	長石微粒多	—	—	—	—	
31a	28	覆土中	土師器	杯	3/4以上	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	13.1	13.1	3.7	6.3	
31a	29	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石・石英小粒多	(13.4)	(13.4)	3.9	(6.8)	
31a	30	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石小粒微量	(13.2)	(13.2)	4.1	(6.6)	
31a	31	e貼床下	土師器	杯	1/3	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	赤色小粒	(12.6)	(12.6)	3.8	(7.4)	
31a	32	覆土中	土師器	杯	1/2以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	赤色小粒	(13.2)	(13.2)	3.9	(7.2)	
31a	33	覆土中	土師器	杯	完形	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英粒少、白色微粒多	12.9	12.9	4.4	7.0	
31a	34	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石小粒少	(13.2)	(13.2)	4.0	(5.8)	
31a	35	覆土中	土師器	杯	1/2以上	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	白色微粒多	(13.3)	(13.3)	4.0	(7.6)	
31a	36	覆土中	土師器	杯	3/4以上	7.5YR6/4橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石・石英小粒	13.5	13.5	4.4	7.3	
31a	37	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英・赤色小粒多	(12.8)	(12.8)	3.9	(6.6)	
31a	38	床直上	土師器	杯	3/4	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	長石・石英小粒多	12.9	12.9	4.0	7.2	
31a	39	覆土中	土師器	杯	完形	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英微粒少、白色小粒多、やや粗い	12.4	12.4	4.1	6.2	
31a	40	b貼床下	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英小粒多	(13.6)	(13.6)	4.1	(7.6)	
31a	41	覆土中	土師器	杯	1/3以上	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	赤色小粒	(14.0)	(14.0)	4.1	(6.6)	
31a	42	覆土中	土師器	杯	完形	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英小粒、白色小粒多	12.7	12.7	4.3	6.4	
31a	43	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石小粒少量	(12.8)	(12.8)	3.5	7.0	
31a	44	床直上	土師器	杯	1/3以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	長石・石英小粒多	—	—	—	(8.8)	
31a	45	d貼床下	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	長石・石英小粒少	(18.6)	(18.6)	5.5	(8.4)	
31a	46	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	赤色中粒、白色微粒	—	—	—	(6.0)	
31a	47	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部ロクロ右回転糸切無調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(4.6)	
31a	48	覆土中	土師器	杯	1/3以下	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石・石英小粒多	—	—	—	(8.0)	
31a	49	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近回転ヘラ削り	ヘラミガキ	普	赤色小粒少	(13.0)	(13.0)	(4.2)	(6.5)	
31a	50	覆土上層	土師器	杯	1/4以下	10YR6/6明黄褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	赤色大粒・白色微粒	(15.6)	(15.6)	4.7	(8.4)	
31a	51	覆土上層	土師器	杯	1/2	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	(13.0)	(13.0)	4.4	(7.4)	
31a	52	覆土上層	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	横ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	長石小粒、白色微粒	(14.0)	(14.0)	—	—	

31a	53	カマド付近	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近ヘラ削り	ヘラミガキ、黒色処理	良	長石・石英粒、赤色小粒	(14.6)	(14.6)	(4.5)	(8.4)	
31a	54	覆土上層	土師器	杯	1/3	10YR5/4にぶい黄褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	15.5	15.5	4.8	7.8	
31a	55	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英粒・赤色中粒	(13.6)	(13.6)	4.8	(7.6)	
31a	56	覆土上層	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部一部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	赤色中粒、白色微粒	(14.2)	(14.2)	5.4	(7.4)	
31a	57	覆土中層	土師器	杯	3/4	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	長石・赤色小粒	13.0	13.0	4.3	7.4	見込みミガキで模様
31a	58	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/8明赤褐	底部付近回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(7.0)	見込み墨書
31a	59	覆土上層	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色小粒、白色微粒	—	—	—	(7.0)	見込み墨書
31a	60	覆土中	土師器	杯	1/3	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	(12.8)	(13.2)	4.0	6.9	見込み「太」銘墨書
31a	61	覆土中	土師器	杯	完形	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	金雲母、白色微粒	13.8	13.8	2.6	7.0	見込み墨書
31a	62	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り、底部回転糸切痕無調整	横ナデ	良	石英・金雲母小粒少	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
31a	63	覆土上層	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	—	—	—	(5.6)	見込み焼成後線刻
31a	64	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
31a	65	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR5/4にぶい褐	底部回転ヘラ削り調整するが中央部に右回転糸切り痕残す	横ナデ	良	石英小粒少、赤色小粒多	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
31a	66	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
31a	67	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
31a	68	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR6/8橙	体部横ナデ	横ナデ	良	石英粒、赤色小粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
31a	69	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR5/8明赤褐	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	角閃石微量、白色小粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
31a	70	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット・白色微粒少	—	—	—	(6.6)	見込み焼成後線刻
31a	71	覆土上層	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	金雲母・石英微粒・白色微粒	—	—	—	(6.6)	見込み焼成後線刻
31a	72	覆土上層	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	—	—	—	(6.2)	見込み焼成後線刻
31a	73	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒少	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
31a	74	覆土上層	土師器	杯	破片	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	角閃石微量、石英・長石小粒少	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
31a	75	覆土中	土師器	杯か	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小・微粒	—	—	—	(8.0)	見込み焼成後線刻
31a	76	覆土上層	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	金雲母・石英小粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
31a	77	覆土中	土師器	杯か	1/4以下	5YR7/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒・白色小粒	—	—	—	(8.0)	見込み焼成後線刻
31a	78	覆土下層	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒少	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻、底部煤付着
31a	79	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/4にぶい橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒多	—	—	—	(6.6)	見込み焼成後線刻
31a	80	覆土下層	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
31a	81	覆土上層	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒・白色小粒	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
31a	82	覆土上層	土師器	杯か	1/4以下	5YR5/8明赤褐	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	白色小粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
31a	83	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒・白色小粒	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
31a	84	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	金雲母粒微量、シャモット、石英小粒多	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻覆土一括
31a	85	床直上	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒少	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
31a	86	覆土上層	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	—	—	—	(6.6)	見込み焼成後線刻
31a	87	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR5/3にぶい橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(6.2)	見込み焼成後線刻
31a	88	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石中粒少、石英中・微粒多	—	—	—	(8.0)	見込み焼成後線刻
31a	89	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	石英微粒・白色微粒	—	—	—	(8.0)	見込み焼成後線刻
31a	90	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(6.4)	見込み焼成後線刻
31a	91	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット・金雲母・白色微粒少	—	—	—	(7.6)	見込み焼成後線刻
31a	92	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り調整、底部右回転糸切無調整	横ナデ	良	石英小粒、白色小粒多	—	—	—	(6.2)	見込み焼成後線刻

31a	93	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒	－	－	－	(6.1)	見込み焼成後線刻
31a	94	覆土上層	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット・金雲母・石英小粒・白色小粒	－	－	－	(6.8)	見込み焼成後線刻
31a	95	覆土上層	土師器	杯	1/4	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	－	－	－	(6.3)	見込み焼成後線刻
31a	96	床直上	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	赤色中粒、白色微粒	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
31a	97	覆土上層	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒	－	－	－	(6.8)	見込み焼成後線刻
31a	98	覆土中	土師器	杯	1/4	10YR7/4にぶい黄橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	金雲母・石英微粒・白色微粒少	－	－	－	6.6	見込み焼成後線刻
31a	99	覆土中	土師器	杯	1/4	10YR7/4にぶい黄橙	底部付近～底部左方向手持ちヘラ削り調整、底部中央に回転糸切痕残す	横ナデ	良	石英微粒	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
31a	100	覆土上層	土師器	杯	破片	5YR6/8橙	底部付近回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	(12.3)	(12.3)	(4.8)	(7.5)	見込み焼成後線刻
31a	101	床直上	土師器	杯	3/4	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	13.1	13.1	4.4	6.8	見込み焼成後線刻
31a	102	覆土中	土師器	杯	完形	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒、白色微粒	13.4	13.4	4.4	7.3	見込み焼成後線刻
31a	103	覆土上層	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット・石英微粒・白色微粒	(13.0)	(13.0)	4.2	(7.0)	見込み焼成後線刻
31a	104	覆土上層	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部ロクロ右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	－	－	－	(8.4)	見込み焼成後線刻
31a	105	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒多	(12.8)	(12.8)	4.2	5.7	見込み焼成後線刻
31a	106	覆土中	土師器	杯	完形	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒	12.8	12.8	4.4	7.4	見込み焼成後線刻
31a	107	床直上	土師器	杯	ほぼ完形	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色小粒	12.5	12.5	3.8	7.0	見込み焼成後線刻
31a	108	覆土中	土師器	杯	1/4以上	5YR6/6橙	体部横ナデ、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	優	シャモット・石英微粒・白色小粒多	(14.0)	(14.0)	3.7	(6.6)	見込み焼成後線刻
31a	109	覆土中	土師器	皿	ほぼ完形	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英中・微粒・白色小粒多	14.2	14.2	3.2	7.3	見込み焼成後線刻
31a	110	d貼床下	土師器	皿	1/4以下	10YR7/4にぶい黄橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	小礫、白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
31a	111	覆土中	土師器	皿	1/4以下	2.5YR5/8明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	長石粒少、白色小粒多	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
31a	112	床直上	土師器	皿	1/3	10YR6/4にぶい黄褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒、白色微粒	(13.0)	(13.0)	2.4	(6.6)	見込み焼成後線刻
31a	113	覆土上層	土師器	椀	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部右回転ヘラ削り調整後付高台、周辺ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
31a	114	床直上	土師器	杯か	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	優	白色小粒多	－	－	－	(4.6)	
31a	115	覆土上層	土師器	椀	1/4以下	10YR5/4にぶい黄褐	体部横ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	(16.2)	(16.2)	(4.4)	(8.2)	
31a	116	覆土中	土師器	椀	1/4以下	10YR6/6明黄褐	体部横ナデ、付高台	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒、金雲母微量	(15.2)	(15.2)	5.3	(6.6)	
31a	117	覆土上層	土師器	椀	1/4以下	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部付高台付近横ナデするが右回転糸切痕無調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英微粒・白色微粒	－	－	－	(7.0)	
31a	118	覆土中	土師器	椀	破片	10YR6/4にぶい黄褐	体部横ナデ、付高台	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	－	－	－	(8.8)	
31a	119	覆土上層	土師器	椀	破片	7.5YR6/6橙	付高台	ヘラミガキ、黒色処理	良	赤色中粒、白色微粒	－	－	－	(7.0)	
31a	120	覆土上層	土師器	椀	1/4以下	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部回転ヘラ削り調整後付高台	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	－	－	－	(7.0)	
31a	121	覆土上層	土師器	椀	1/3	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部付高台後横ナデするが右回転糸切痕不明瞭だが残る	ヘラミガキ、黒色処理	良	赤色中粒、白色微粒	(11.2)	(11.2)	4.0	(5.6)	
31a	122	覆土上層	土師器	椀	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付高台、ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	長石粒	－	－	－	(8.0)	
31a	123	覆土中	土師器	椀	1/4以下	10YR7/4にぶい黄橙	付高台、底部ナデ整形	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	－	－	－	(6.5)	底部裏面ヘラナデ（記号か、焼成前）
31a	124	d床直上	土師器	皿	1/3以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英小粒多	(14.6)	(14.6)	2.1	(8.2)	
31a	125	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR5/6明褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒微量	(14.2)	(14.2)	3.5	(6.4)	
31a	126	覆土中	土師器	皿	1/4	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	赤色小粒少	(13.6)	(13.6)	2.7	(6.4)	
31a	127	覆土中	土師器	皿	3/4以上	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒多	13.6	13.6	3.2	7.0	
31a	128	覆土中	土師器	皿	完形	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	長石中粒少、石英微粒・白色小粒	13.4	13.4	2.5	6.6	
31a	129	覆土中	土師器	高台付杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	横ナデ	横ナデ	良	長石微粒少	(15.6)	(15.6)	－	－	
31a	130	カマド周辺	灰釉陶器	長頸壺	破片	5Y8/1灰白	横ナデ	横ナデ	良	微黒粒	(11.8)	－	－	－	猿投
31a	131	覆土中	灰釉陶器	長頸壺	破片	5Y8/1灰白	横ナデ、灰釉10Y5/2オリーブ刷毛塗り	横ナデ、灰釉刷毛塗り	良	微黒粒	(10.4)	－	－	－	猿投

31a	132	覆土中	灰釉陶器	壺	破片	5YR5/4にぶい赤褐	回転ヘラ削り、自然釉7.5Y4/3暗オリーブ垂下	横ナデ	良	微黒粒、白色中粒	－	－	－	－	猿投
31a	133	覆土中	灰釉陶器	壺	破片	5YR5/4にぶい赤褐	回転ヘラ削り	横ナデ	良	微黒粒、白色中粒	－	－	－	－	132と同一個体か
31a	134	覆土中	灰釉陶器	壺	破片	5YR5/4にぶい赤褐	回転ヘラ削り、自然釉7.5Y4/3暗オリーブ垂下	横ナデ	良	微黒粒、白色中粒	－	－	－	－	132と同一個体か
31a	135	覆土上層	灰釉陶器	瓶	破片	5Y8/1灰白	胴部右回転ヘラ削り、灰釉7.5Y5/3灰オリーブ刷毛塗り	横方向ナデ	良	微黒粒、長石粒	－	－	－	－	猿投
31a	136	覆土中	灰釉陶器	椀	破片	5Y8/1灰白	回転ヘラ削り後横ナデ、自然釉10Y5/2オリーブ灰	横ナデ、灰釉流しがけ	良	微黒粒多	(16.4)	(16.4)	－	－	9ｃ第3四半期
31a	137	覆土中	須恵器	長頸壺	破片	5Y6/1灰	横ナデ	横ナデ	良	微黒粒少	(13.4)	－	－	－	猿投
31a	138	覆土中	須恵器	長頸壺	破片	5Y3/1オリーブ黒	回転ヘラ削り後横ナデ、肩に一部降灰：5Y6/6オリーブ	横ナデ	良	微黒粒	－	(18.2)	－	－	猿投、9ｃ第1～第2四半期
31a	139	覆土上層	須恵器	長頸壺	破片	5Y3/1オリーブ黒	回転ヘラ削り後横ナデ、自然釉5Y6/6オリーブ	横ナデ	良	微黒粒	－	－	－	－	138と同一個体か
31a	140	覆土中	須恵器	甕	破片	7.5YR4/3褐	口縁折り返し横ナデ	横ナデ	良	石英粒小、白色微粒多	－	－	－	－	
31a	141	覆土中	須恵器	甕	破片	10R4/6赤	口縁折り返し横ナデ	横ナデ	良	石英粒小、白色微粒多	－	－	－	－	
31a	142	覆土下層	須恵器	甕	破片	7.5YR5/4にぶい褐	口縁折り返し横ナデ	横ナデ	良	石英粒・シャモット小、白色微粒多	－	－	－	－	
31a	143	覆土上層	須恵器	甕	破片	5YR4/6赤褐	口縁折り返し部分剥落、横ナデ	横ナデ	良	白色中粒多	－	－	－	－	
31a	144	覆土中	須恵器	甕	破片	7.5YR7/6橙	横ナデ	横ナデ	良	密　石英粒小	－	－	－	－	
31a	145	覆土中	須恵器	甕	破片	7.5YR5/6明褐	横方向ナデ	横方向ナデ	良	白色微粒	－	－	－	－	
31a	146	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y5/1黄灰	口縁部外側に折り曲げ凸帯にする。横ナデ	横ナデ	良	粗、白色中粒多	(34.0)	－	－	－	
31a	147	覆土上層	須恵器	甕	破片	5YR6/6橙	口縁部外側に折り曲げ凸帯にする。横ナデ	横ナデ	良	シャモット、白色微粒多	(23.2)	－	－	－	
31a	148	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y5/1黄灰	横ナデ	横ナデ	良	微黒粒小	(19.0)	－	－	－	
31a	149	覆土中	須恵器	甕	破片	5Y6/1灰	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色中粒	－	－	－	－	
31a	150	覆土中	須恵器	甕	破片	5Y6/1灰	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色中粒	－	－	－	－	
31a	151	覆土中	須恵器	甕	破片	5Y4/1灰	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色中粒	－	－	－	－	
31a	152	覆土上層	須恵器	甕	破片	5Y5/1灰	タタキ	当具痕ナデ消す	良	密	－	－	－	－	
31a	153	覆土中	須恵器	甕	破片	10YR5/2灰黄褐	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色中粒多	－	－	－	－	
31a	154	覆土中	須恵器	甕	破片	5Y6/1灰	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色中粒	－	－	－	－	
31a	155	覆土中	須恵器	甕	破片	10YR6/4にぶい黄褐	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色微粒少	－	－	－	－	
31a	156	床直上	須恵器	甕	3/4	5YR5/6明赤褐	胴部タタキ後底部付近左方向ヘラナデ、頸部横ナデ	横方向ナデ	良	石英中粒少、白色小粒多	22.0	28.1	34.0	14.2	
31a	157	覆土下層	須恵器	甕	破片	10Y4/1灰	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色中粒多	－	－	－	－	
31a	158	覆土上層	須恵器	甕	破片	7.5YR5/4にぶい褐	口縁部凸帯貼り付け、横ナデ	横ナデ	良	やや粗、白色中粒多	(39.0)	－	－	－	
31a	159	貼床下	須恵器	甕	破片	7.5YR5/4にぶい褐	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色中粒多	－	－	－	－	
31a	160	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y6/1黄灰	タタキ、胴下部横方向ナデ	輪積痕指頭で押さえ	良	粗、白色微粒多	－	－	－	－	
31a	161	覆土中	須恵器	甕	1/4以下	7.5YR6/6橙	胴部タタキ、頸部横ナデ、折り返し口縁	胴部左方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	赤色大粒少、白色小粒多	(21.8)	(29.8)	－	－	
31a	162	覆土中	須恵器	甕	破片	7.5YR5/2灰褐	タタキ	同心円状当具痕	良	白色中粒多	－	－	－	－	
31a	163	覆土中	土師器	杯蓋	破片	7.5YR6/6橙	口縁付近ナデ、体部ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	長石小粒多	(14.0)	2.3	－	－	
31a	189	覆土中	土師器	甕	破片	5YR6/8橙	底部付近横方向ナデ、底部右回転ヘラ削り	横ナデ	優	石英粒微量、白色微粒	－	－	－	(6.6)	第36図に掲載
31b	1	A5周辺	灰釉陶器	壺	1/4以下	5Y8/1灰白	横ナデ、灰釉施釉	横ナデ	良	微黒粒	－	－	－	－	猿投
32	1	覆土中	土師器	甕	1/4以下	7.5YR2/2黒褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横ナデ	横方向ヘラナデ	良	海微量、石英粒・白色微粒	(13.1)	(13.5)	－	－	
32	2	覆土中	土師器	甕	破片	2.5YR2/2極暗赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横ナデ	横方向ヘラナデ	優	石英中・微粒・白色小粒多	(13.6)	－	－	－	
32	3	覆土中	土師器	甕	破片	10YR5/3にぶい黄褐	底部横方向ヘラ削り、底部付近右方向ヘラ削り	横ナデ	良	海微量、シャモット・石英小粒	－	－	－	6.0	
32	4	覆土中	土師器	甕	1/4以下	10R4/8赤	底部付近横方向ヘラ削り、底部横方向ヘラ削り	横方向ヘラナデ	優	海少、白色微粒	－	－	－	(4.8)	
32	5	覆土中	土師器	甕	破片	2.5Y5/6明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横ナデ	頸部横方向ナデ	優	シャモット、白色小粒多	(19.0)	－	－	－	
32	6	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/4暗赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横ナデ	胴部横方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	石英小粒・白色小粒少	(13.6)	－	－	－	
32	7	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR2/1黒	頸部横方向ナデ	頸部横方向ナデ	良	シャモット、石英小粒、白色小粒	(24.0)	－	－	－	
32	8	覆土中	土師器	甕	破片	2.5YR4/4にぶい赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部横方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	海微量、シャモット少、白色小粒多	－	－	－	－	

32	9	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR6/6橙	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横ナデ	横方向ヘラナデ	良	海綿骨針、石英中・微粒	(20.6)	－	－	－	
32	10	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR6/6橙	口縁部折り返し突帯表現、横方向ナデ	横方向ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	－	
32	11	覆土中	土師器	甕	1/4以下	5YR5/6明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横ナデ	横方向ナデ	優	海綿骨針、シャモット・長石粒・白色小粒	(20.8)	(20.8)	－	－	
32	12	覆土中	土師器	甕	破片	5YR4/6赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横ナデ	横方向ナデ	優	海綿骨針、石英微粒少、白色小粒多	(22.3)	－	－	－	
32	13	覆土中	土師器	甕	1/4以下	5YR4/4にぶい赤褐	底部付近横方向ヘラ削り	体部横方向ヘラナデ	優	小礫・シャモット少、白色小粒多	－	－	－	－	
32	14	覆土中	土師器	甕	1/3	7.5YR3/3暗褐	胴部縦方向ヘラ削り後底部付近横方向ヘラ削り、底部横方向ヘラ削り	横方向ヘラナデ	良	石英粒・白色小粒	－	－	－	－	
32	15	覆土中	土師器	甕	1/2以下	5YR2/3極暗赤褐	底部付近横方向ヘラ削り、底部横方向ヘラ削り	底部指頭で横方向ナデ、体部横方向ヘラナデ	優	石英粒、白色小粒多	－	－	－	－	
32	16	覆土中	土師器	杯	3/4	7.5YR6/8橙	体部横ナデ、底部ロクロ右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	長石粒少	12.0	12.0	4.7	6.0	
32	17	覆土中	土師器	杯	3/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒少	13.2	13.2	4.0	6.5	
32	18	覆土中	土師器	杯	3/4	7.5YR5/6明褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒少	13.0	13.0	3.9	7.5	
32	19	覆土中	土師器	杯	1/2	7.5YR5/6明褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒少	13.5	13.5	4.5	7.0	
32	20	覆土中	土師器	杯	1/2以上	5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石・石英粒少	13.2	13.2	4.0	6.6	
32	21	覆土中	土師器	杯	3/4以上	7.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色小粒少	13.1	13.1	4.6	7.2	
32	22	覆土中	土師器	杯	3/4以上	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒、白色微粒多	12.6	12.6	4.1	6.6	
32	23	覆土中	土師器	杯	3/4以上	7.5YR6/4橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット少、白色微粒	13.0	13.0	4.1	7.0	
32	24	覆土中	土師器	杯	ほぼ完形	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、白色微粒	13.0	13.0	4.5	6.8	
32	25	覆土中	土師器	杯	3/4	7.5YR5/4にぶい褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色微粒多	12.8	12.8	4.3	6.5	
32	26	覆土中	土師器	杯	1/3	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	小礫、長石粒、シャモット	(13.6)	(13.6)	3.8	6.6	灯明皿に使用
32	27	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒多	(12.4)	(12.4)	3.9	7.0	
32	28	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	長石粒、白色微粒	(12.6)	(12.6)	3.8	(6.4)	
32	29	覆土中	土師器	杯	1/2以上	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	赤色中粒、白色微粒	12.5	12.5	4.3	6.3	
32	30	覆土中	土師器	杯	1/2	2.5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、白色微粒多	(12.6)	(12.6)	4.0	6.0	
32	31	覆土中	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	赤色中粒、白色微粒	(13.0)	(13.0)	4.2	(6.6)	
32	32	覆土中	土師器	杯	1/2以上	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒少、白色微粒多	(12.6)	(12.6)	4.0	(6.8)	
32	33	覆土中	土師器	杯	1/4以上	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	(12.6)	(12.6)	4.0	6.4	
32	34	覆土中	土師器	杯	1/4以上	2.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒少、白色微粒	(13.0)	(13.0)	3.9	(7.0)	
32	35	覆土中	土師器	杯	1/2	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、石英粒、白色微粒	14.0	14.0	4.5	(7.0)	
32	36	覆土中	土師器	杯	1/4	10YR6/4にぶい黄橙	体部横ナデ、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	(12.2)	(12.2)	3.7	(7.2)	
32	37	覆土中	土師器	杯	3/4以上	5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット多、白色微粒	14.4	14.4	4.8	6.8	
32	38	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	赤色中粒、白色微粒	(13.6)	(13.6)	4.5	(7.7)	口縁部破損後研磨。計測値は現状で
32	39	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	長石・石英粒	(13.8)	(13.8)	3.9	(7.0)	灯明皿に使用
32	40	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒微量、白色微粒	(12.5)	(12.5)	3.9	(6.4)	
32	41	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	(13.0)	(13.0)	4.0	(6.2)	
32	42	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	(13.0)	(13.0)	4.3	(6.6)	
32	43	覆土中	土師器	杯	1/4	7.5YR5/4にぶい褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒微量、白色微粒	(13.6)	(13.6)	4.5	5.9	
32	44	覆土中	土師器	杯	1/4	7.5YR5/6明褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英・長石粒	(13.0)	(13.0)	4.1	(7.0)	
32	45	覆土中	土師器	杯	1/4	2.5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒微量、白色微粒多	(13.4)	(13.4)	4.0	(6.4)	
32	46	覆土中	土師器	杯	1/4	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒微量、白色微粒多	(12.8)	(12.8)	4.0	(6.0)	
32	47	覆土中	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット微量、白色微粒	(14.0)	(14.0)	3.6	(7.0)	
32	48	覆土中	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒少、白色微粒多	(14.0)	(14.0)	4.7	(8.0)	灯明皿に使用

32	49	覆土中	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	(13.0)	(13.0)	4.2	(6.0)	
32	50	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒	(13.6)	(13.6)	3.8	(6.6)	
32	51	覆土中	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒少、白色微粒	(14.2)	(14.2)	(4.2)	(7.4)	
32	52	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	優	赤色小粒	(13.0)	(13.0)	(3.4)	(8.2)	口縁部破損後研磨。計測値は現状で
32	53	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	体部横ナデ、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	赤色小粒、白色微粒	—	—	—	(8.8)	
32	54	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	長石粒少、白色微粒	—	—	—	(6.0)	二次被熱で見込み及び底裏に鉄分付着
32	55	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	体部横ナデ、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	—	—	—	(7.1)	
32	56	覆土中	土師器	杯	1/4以下	10YR6/6明黄褐	底部付近から底部、手持ちヘラ削り	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英粒少、白色微粒	—	—	—	(7.4)	
32	57	覆土中	土師器	杯	3/4以上	10YR6/4にぶい黄橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英粒少、白色微粒	14.2	14.2	4.6	6.4	
32	58	覆土中	土師器	杯	1/4	10YR6/4にぶい黄橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒多	(13.1)	(13.1)	(4.0)	(6.8)	
32	59	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色微粒多	(13.2)	(13.2)	4.7	(6.6)	見込み墨書、灯明皿に使用
32	60	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒多	—	—	—	(7.0)	見込み墨書
32	61	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/8明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海・白色少・微粒	—	—	—	(6.8)	見込み墨書
32	62	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒少、白色微粒多	—	—	—	(5.1)	見込み・底裏に墨書、灯明皿に使用
32	63	覆土中	土師器	杯	ほぼ完形	10R5/6赤	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、白色微粒多、角閃石微量	13.2	13.2	4.0	6.4	見込み墨書
32	64	カマド内	土師器	杯	ほぼ完形	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海微量、長石粒少、白色小粒	13.0	13.0	4.5	7.0	見込み焼成後線刻
32	65	覆土中	土師器	杯	1/3	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、白色微粒多	(13.0)	(13.0)	4.7	6.4	見込み焼成後線刻、外面煤付着
32	66	覆土中	土師器	杯	1/4	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海微量、石英中粒少、白色小・微粒多	(13.4)	(13.4)	4.5	(6.4)	見込み焼成後線刻
32	67	カマド内	土師器	杯	1/4	2.5YR4/8赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、石英粒、白色微粒	(13.0)	(13.0)	4.1	6.5	見込み焼成後線刻
32	68	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR5/4にぶい褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色中粒多	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
32	69	覆土中	土師器	杯	破片	2.5Y5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒多	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
32	70	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒少、白色微粒多	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
32	71	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色中粒	—	—	—	(5.3)	見込み焼成後線刻
32	72	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒多	—	—	—	(6.8)	見込み焼成後線刻
32	73	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
32	74	覆土中	土師器	杯か	破片	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒少、白色微粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
32	75	覆土中	土師器	皿	破片	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海微量	—	—	—	(6.3)	見込み焼成後線刻
32	76	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海微量、石英小粒・白色小粒少	—	—	—	(6.8)	見込み焼成後線刻
32	77	覆土中	土師器	杯か	破片	7.5YR6/4にぶい橙	底部右回ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
32	78	覆土中	土師器	杯か	破片	5YR5/6明赤褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒少	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
32	79	覆土中	土師器	杯か	破片	2.5YR4/6赤褐	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒多	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
32	80	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/6橙	体部横ナデ	横ナデ	良	石英小粒少、白色微粒	(13.8)	(13.8)	4.2	(7.5)	見込み焼成後線刻
32	81	覆土中	土師器	皿	1/4以上	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒	(14.4)	(14.4)	3.0	(7.6)	
32	82	覆土中	土師器	皿	完形	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	赤色中粒、白色微粒	14.3	14.3	3.0	6.8	
32	83	覆土中	土師器	皿	3/4	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、金雲母粒、白色微粒	13.5	13.5	2.8	6.6	
32	84	覆土中	土師器	皿	1/2以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	(15.0)	(15.0)	2.8	(7.4)	
32	85	覆土中	土師器	皿	1/2	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色中粒	13.7	13.7	3.4	7.2	
32	86	覆土中	土師器	皿	1/3以上	2.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	小礫、白色微粒	(13.8)	(13.8)	2.6	(6.4)	
32	87	覆土中	土師器	皿	1/2以上	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット少、白色微粒	13.0	13.0	2.7	6.2	
32	88	覆土中	土師器	皿	1/2以下	5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	長石粒、白色微粒	(13.4)	(13.4)	2.6	(7.4)	
32	89	覆土中	土師器	皿	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色中粒多	(14.2)	(14.2)	2.5	(6.6)	

32	90	覆土中	土師器	皿	1/2以下	5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	シャモット少、白色微粒多	(14.4)	(14.4)	2.8	(6.2)	
32	91	覆土中	土師器	皿	破片	5YR6/6橙	底部付近手持ちヘラ削り	横ナデ	普	白色微粒	(13.2)	(13.2)	(2.4)	(6.1)	
32	92	覆土中	土師器	皿	破片	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット少、白色微粒	(13.4)	(13.4)	2.1	(7.2)	
32	93	床直上	土師器	皿	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	(13.2)	(13.2)	2.2	(6.4)	
32	94	覆土中	土師器	皿	完形	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒少、白色微粒多	14.3	14.3	3.1	6.8	見込み焼成後線刻、墨書
32	95	カマド内	土師器	杯	1/2以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英小粒少、角閃石微量、白色小粒	(13.2)	(13.2)	3.0	(7.0)	見込み焼成後線刻、灯明皿に使用
32	96	覆土中	土師器	杯	3/4以上	2.5YR5/8明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	海・礫微量、白色小・微粒	(13.0)	(13.0)	2.9	6.8	見込み焼成後線刻
32	97	覆土中	土師器	皿か	破片	10YR6/4にぶい黄橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒少	－	－	－	(5.6)	見込み焼成後線刻
32	98	覆土中	土師器	皿か	破片	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	白色微粒	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
32	99	覆土中	土師器	皿	破片	2.5YR5/8明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	白色中粒多	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
32	100	覆土中	土師器	皿	1/2以上	2.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英粒少、白色微粒多	13.0	13.0	2.7	6.6	見込み焼成後線刻
32	101	覆土中	土師器	皿	1/3	2.5Y5/8明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英粒少、白色微粒	(13.6)	(13.6)	3.1	6.2	見込み焼成後線刻
32	102	覆土中	土師器	皿	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒多	(12.6)	(12.6)	2.4	(6.1)	見込み焼成後線刻
32	103	覆土中	土師器	高台付皿	3/4以上	5YR6/6橙	体部横ナデ、底部付高台、底面ナデ	横ナデ	普	シャモット、長石粒	14.8	14.8	4.6	6.0	
32	104	覆土中	土師器	椀	破片	7.5YR7/6橙	付高台、底裏ナデ	横ナデ	良	白色微粒多	－	－	－	(6.4)	
32	105	貼床下	土師器	椀	破片	5YR6/8橙	付高台、底裏ナデ	ヘラミガキ	普	白色微粒	－	－	－	(5.9)	
32	106	覆土中	土師器	椀	破片	7.5YR7/6橙	底部付近回転ヘラ削り、蛇の目状の付高台	ヘラミガキ	良	赤色中粒、白色微粒	－	－	－	(7.0)	
32	107	覆土中	土師器	椀	1/2以上	10YR6/6明黄褐	底部付近右回転ヘラ削り、付高台、底裏ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	シャモット少、白色微粒多	(16.0)	(16.0)	5.6	8.0	
32	108	覆土中	灰釉陶器	壺	破片	5Y7/1灰白	ヘラナデ、把手部内側に指当て用窪み、灰釉7.5Y6/3オリーブ黄施釉	－	良	微黒粒	－	－	－	－	把手部
32	109	覆土中	灰釉陶器	壺	破片	5Y7/1灰白	体部左回転ヘラ削り、灰釉10Y5/2オリーブ灰刷毛塗り	横ナデ	良	微黒粒	－	(26.0)	－	－	
32	110	覆土中	須恵器	甕	破片	7.5YR5/6明褐	口縁部粘土紐貼付突帯表現、横ナデ	横ナデ	良	石英微粒、白色微粒	－	－	－	－	
32	111	覆土中	須恵器	甕	破片	7.5YR5/3にぶい褐	口縁部折り返し突帯表現、横ナデ	横ナデ	良	海微量、長石小粒、白色微粒多	－	－	－	－	
32	112	覆土中	須恵器	甕	破片	N6/灰	横ナデ	横ナデ	良	白色中粒	－	－	－	－	
32	113	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y5/2暗灰黄	タタキ	ナデ	良	白色中粒	－	－	－	－	
32	114	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	タタキ	ナデ	良	石英少、白色中粒多	－	－	－	－	
32	115	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y6/2灰黄	タタキ	ナデ	良	石英少、白色中粒多	－	－	－	－	
32	116	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	タタキ	ナデ	良	石英少、白色中粒多	－	－	－	－	
32	117	覆土中	須恵器	甕	破片	7.5Y6/1灰	タタキ	ナデ	良	白色中粒	－	－	－	－	
32	118	覆土中	須恵器	甑	破片	10YR5/2灰黄褐	ヘラナデ	横ナデ	良	白色微粒	－	－	－	－	底部
33	1	覆土中	土師器	甕	破片	2.5YR5/8明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ後頸部横方向ナデ	普	白色中粒	(19.9)	－	－	－	
33	2	覆土中	土師器	甕	1/4以下	5YR4/4にぶい赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	横方向ナデ	普	白色中粒	(20.6)	－	－	－	
33	3	覆土中	土師器	甕	1/4以下	7.5YR2/1黒	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ後頸部横方向ナデ	良	白色微粒	(19.6)	－	－	－	
33	4	覆土中	土師器	甕	1/4以下	5YR5/6明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ後頸部横方向ナデ	普	白色中・微粒多	(22.6)	(23.0)	－	－	
33	5	覆土中	土師器	甕	1/4以下	5YR4/2灰褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	横方向ナデ	普	白色中粒多	(22.9)	(23.4)	－	－	
33	6	P4下層	土師器	甕	破片	5YR3/3暗赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ後頸部横方向ナデ	普	長石粒少、白色微粒	(23.7)	－	－	－	
33	7	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/6暗赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	横方向ナデ	普	白色微粒多	(13.4)	－	－	－	
33	8	床直上	土師器	甕	破片	2.5YR4/8赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	横方向ナデ	普	長石粒少、白色微粒多	(12.6)	－	－	－	
33	9	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/3暗赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	普	長石小粒少、白色微粒多	(12.2)	－	－	－	
33	10	覆土中	土師器	甕	破片	2.5YR4/8赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ後頸部横方向ナデ	普	長石粒少、白色微粒多	(12.0)	(12.0)	－	－	
33	11	覆土中	土師器	甕	1/4以下	2.5YR4/6赤褐	胴部下方横方向ヘラ削り、底部ヘラ削り	横方向ナデ	普	長石粒、シャモット、白色微粒	－	－	－	(6.0)	
33	12	P4内	土師器	甑	破片	5YR6/6橙	横方向ヘラ削り後横方向ナデ、底部ヘラ削り	底部付近横方向ヘラ削り、体部横方向ナデ	普	長石小粒少	－	－	－	(10.4)	
33	13	覆土中	土師器	甑	破片	2.5YR5/6明赤褐	把手部ヘラ削り調整	横方向ナデ	普	石英粒、白色微粒	－	－	－	－	
33	14	覆土中	土師器	高杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	脚部ヘラナデ	ナデ	良	白色微粒	－	－	－	－	五領式

33	58	覆土中	土師器	杯	1/3	10YR6/6明黄褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット少、白色微粒	(13.5)	(13.5)	4.1	5.9	見込み焼成後線刻
33	59	覆土中	土師器	杯	3/4	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒	(13.3)	(13.3)	4.7	6.1	見込み焼成後線刻
33	60	床直上	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	横ナデ	良	長石粒少	—	—	—	(6.4)	見込み焼成後線刻
33	61	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色中粒	—	—	—	(6.2)	見込み焼成後線刻
33	62	覆土中	土師器	杯か	破片	7.5YR7/6橙	底部回転糸切り痕無調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
33	63	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整、中央部に糸切り痕残す	横ナデ	良	シャモット、白色微粒	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
33	64	P4内	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒少	—	—	—	(7.4)	見込み焼成後線刻
33	65	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(6.9)	見込み焼成後線刻
33	66	覆土中	土師器	杯か	1/4以下	2.5YR6/8橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒少	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
33	67	覆土中	土師器	皿	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石・石英粒、赤色小粒	(14.2)	(14.2)	2.7	(6.2)	
33	68	覆土中	土師器	皿	1/2以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒少	14.2	14.2	3.3	6.1	
33	69	覆土中	土師器	皿	1/3	7.5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	(14.1)	(14.1)	2.8	(5.8)	
33	70	覆土中	土師器	皿	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、白色微粒	(13.2)	(13.2)	2.3	8.0	見込み焼成後線刻
33	71	覆土中	土師器	椀	ほぼ完形	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部高台貼付け後回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	小礫、長石粒、白色微粒	13.9	13.9	5.0	7.6	
33	72	覆土中	土師器	椀	1/2以下	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部高台貼付け後ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	14.5	14.5	5.0	6.8	
33	73	覆土中	土師器	椀	1/3	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部高台貼付け	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	(13.8)	(13.8)	4.7	(5.6)	
33	74	覆土中・P4	土師器	椀	1/4以下	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部高台貼付け	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	(13.8)	(13.8)	4.2	—	
33	75	P4	灰釉陶器	長頸壺	破片	5Y7/1灰白	頸部別成形、灰釉10Y6/2オリーブ灰施釉	横ナデ	良	微黒粒	—	—	—	—	猿投
33	76	覆土中	灰釉陶器	壺	破片	5Y7/1灰白	灰釉10Y6/2オリーブ灰施釉	横ナデ	良	微黒粒多	—	—	—	—	猿投
33	77	覆土中	灰釉陶器	長頸壺	破片	5Y7/1灰白	横ナデ、頸部別成形、灰釉刷毛塗り	横ナデ	良	微黒粒	—	—	—	—	猿投
33	78	覆土中	灰釉陶器	壺	1/4以下	5Y7/1灰白	胴部下面左回転ヘラ削り、底部付高台	横ナデ	良	白色中粒、微黒粒	—	—	—	(16.6)	猿投の長頸壺と思われる
33	79	覆土中	須恵器	甕	破片	10YR5/3にぶい黄褐	横ナデ	横ナデ	良	白色中粒多	—	—	—	—	
33	80	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5YR4/8赤褐	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色中粒多	—	—	—	—	
33	81	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y5/1黄灰	タタキ	横ナデ	良	白色微粒微量	—	—	—	—	
33	82	覆土中	須恵器	甕	破片	10YR5/6黄褐	タタキ	無文当具痕	良	白色中粒	—	—	—	—	
34	1	覆土中	土師器	甕	1/4	5YR5/6明赤褐	胴部下方向ヘラ削り後下位左上方向ヘラ削り、頸部横方向ナデ	右方向ヘラナデ	優	石英中粒・白色中～小粒	20.5	20.9	—	—	
34	2	床直上	土師器	杯	ほぼ完形	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、白色中粒	13.1	13.1	4.6	6.8	
34	3	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/4にぶい橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、長石粒	(12.9)	(12.9)	3.4	5.4	
34	4	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/4にぶい橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒・赤色中粒少、白色微粒	—	—	—	(6.0)	見込み墨書
34	5	覆土中	土師器	杯	破片	5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒少	—	—	—	(6.0)	外面墨書
34	6	覆土中	土師器	杯	2/3	5YR5/4にぶい赤褐	底部付近・底部手持ちヘラ削り	横ナデ	良	シャモット、白色中粒	(13.1)	(13.1)	3.7	6.4	見込み焼成後線刻
34	7	カマド脇床直	土師器	杯	3/4	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、石英粒	(12.8)	(12.8)	4.1	6.5	見込み焼成後線刻
34	8	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒	—	—	—	(5.8)	見込み焼成後線刻
34	9	覆土中	土師器	杯か	破片	2.5YR6/8橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英小粒、白色微粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
34	10	覆土中	土師器	皿	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラナデ	良	石英粒少、白色微粒	—	—	—	(6.6)	見込み焼成後線刻
34	11	覆土中	土師器	杯か	破片	5YR6/6橙	底部手持ちヘラ削り調整	横ナデ	優	石英微粒、白色微粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
34	12	覆土中	土師器	杯	破片	10YR6/4にぶい黄褐	体部横ナデ	横ナデ	良	石英微粒、白色微粒	—	—	—	—	体部外面焼成後線刻
34	13	覆土中	土師器	杯	破片	5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒少、白色微粒	—	—	—	(6.4)	見込み焼成後線刻
34	14	覆土中	土師器	杯か	破片	10YR6/3にぶい黄褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
34	15	覆土中	土師器	皿	破片	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英小粒、白色微粒	—	—	—	(8.0)	見込み焼成後線刻
34	16	覆土中	土師器	杯	破片	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒多	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
34	17	覆土中	土師器	杯か	破片	10YR7/4にぶい橙	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(6.6)	見込み焼成後線刻
34	18	覆土中	土師器	杯か	破片	5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒少、白色微粒	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻

34	19	覆土中	土師器	皿	破片	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	(12.9)	(12.9)	2.2	(6.0)	内面使用のため摩耗
34	20	カマド内	土師器	皿	1/4以下	7.5YR7/4にぶい橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整、中心部回転糸切痕残る	横ナデ	良	石英粒、白色微粒	—	—	—	(6.4)	見込み焼成後線刻
34	21	覆土中	土師器	皿か	破片	5YR7/4にぶい橙	底部付近・底部外周回転ヘラ削り、中心部ロクロ右回転糸切痕残す	横ナデ	良	石英小粒少、白色微粒	—	—	—	(6.2)	見込み焼成後線刻
34	22	覆土中	土師器	皿	破片	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部付け高台	横ナデ	良	石英小粒、白色微粒	(13.8)	(13.8)	2.1	(6.0)	内面使用のため摩耗
34	23	覆土中	土師器	皿	1/4以下	5YR7/8橙	体部横ナデ、底部回転ヘラ削り、付け高台	ヘラナデ	良	白色微粒	—	—	—	(5.8)	内面使用のため摩耗
34	24	覆土中	土師器	皿	1/4以下	5YR6/6橙	体部横ナデ、底部付け高台	ヘラナデ	良	石英粒、白色微粒	(13.9)	(13.9)	2.7	(5.6)	
34	25	覆土中	土師器	椀	破片	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部付け高台	ヘラナデ	良	白色微粒	—	—	—	(7.6)	内面使用のため摩耗
34	26	覆土中	土師器	椀	1/4以下	5YR7/6橙	全面横ナデ、底部付け高台	ヘラナデ	良	白色微粒	—	—	—	(5.9)	
34	27	覆土中	灰釉陶器	長頸壺	破片	5Y8/1灰白	横ナデ	横ナデ	良	微黒粒	(12.1)	—	—	—	猿投
34	28	覆土中	灰釉陶器	長頸壺	破片	2.5Y6/1黄灰	横ナデ	横ナデ	良	微黒粒	(13.9)	—	—	—	猿投
34	29	覆土中	灰釉陶器	長頸壺	破片	2.5Y7/1灰白	頸部別成形、灰釉施釉10Y6/2オリーブ灰	横ナデ	良	微黒粒	—	—	—	—	猿投
34	30	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5YR3/1暗赤灰	口縁部折り返し後横ナデ	頸部横ナデ	良	シャモット、白色小粒多	(21.8)	—	—	—	
34	31	覆土中	須恵器	甕	破片	N5/灰	横ナデ	横ナデ	良	白色小粒	—	—	—	—	
34	32	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR3/2暗赤褐	横ナデ、口縁粘土紐貼付け	横ナデ	良	白色中粒多	(18.3)	—	—	—	
34	33	覆土中	須恵器	甕	破片	10Y5/1灰	胴部タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色小粒、微黒粒	—	—	—	—	猿投
35	1	P3中	土師器	杯	1/4	7.5YR5/4にぶい褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒少	(10.8)	(10.8)	4.3	(7.0)	
35	2	A坊中	土師器	皿	1/4	7.5YR7/4にぶい橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	—	—	—	6.4	見込み焼成後線刻
36	1	覆土中	土師器	杯	1/4	5YR4/6赤褐	底部付近回転ヘラ削り、底部回転糸切無調整	横ナデ	良	石英中粒・砂粒多量に含み粗い	(12.8)	(12.8)	4.3	(7.0)	
37	1	覆土中	土師器	甕	破片	10R3/1暗赤灰	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	石英中粒・長石粒少、白色小粒	(10.1)	—	—	—	
37	2	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/3暗赤褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	石英粒、白色小粒多	(18.7)	—	—	—	
37	3	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR3/2黒褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部横方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	シャモット・石英微粒少、白色微粒多	(12.5)	—	—	—	
37	4	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/1黒褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部～頸部横方向ヘラナデ	良	長石中粒・石英小粒少、白色小粒多	(11.8)	—	—	—	
37	5	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR3/1黒褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	小礫少、石英小粒・白色小粒多	(13.8)	—	—	—	
37	6	覆土中	土師器	甕	1/4以下	10YR7/3にぶい黄橙	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	金雲・赤色小粒少、白色小粒多	(22.6)	—	—	—	
37	7	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR6/6橙	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	石英中粒・白色小粒	(20.2)	—	—	—	
37	8	覆土中	土師器	甕	破片	2.5YR5/8明赤褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	石英・白色小粒多	(18.7)	—	—	—	
37	9	A坊中	土師器	甕	1/3	5YR6/8橙	胴部左横方向ヘラ削り、底部横方向ヘラ削り	横方向ヘラナデ	良	石英中粒、白色小粒多	—	—	—	4.7	
37	10	覆土中	土師器	甕	破片	5YR4/3にぶい赤褐	頸部横方向ナデ	胴部横方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ、口縁部突出	良	石英中粒・白色小粒多	—	—	—	—	
37	11	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒	(12.9)	(12.9)	4.4	(6.0)	
37	12	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、石英微粒、白色微粒	(12.2)	(12.2)	3.8	(6.4)	
37	13	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒多	(13.5)	(13.5)	4.2	(6.2)	
37	14	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小・微粒	(13.9)	(13.9)	4.0	(7.2)	
37	15	A坊中	土師器	杯	1/4以下	10YR6/4にぶい黄褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット・金雲母少、石英粒・白色小粒	(12.8)	(12.8)	4.0	(6.2)	
37	16	A坊中	土師器	杯	3/4	5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石・石英微粒	15.3	15.3	4.5	7.3	
37	17	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	金雲母微量、長石粒・石英中粒多	—	—	—	(6.2)	見込み墨書
37	18	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	石英中粒、白色小粒	—	—	—	(6.2)	見込み焼成後線刻
37	19	覆土中	土師器	杯か	破片	7.5YR5/4にぶい褐	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
37	20	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット多、石英小粒、白色微粒	(12.6)	(12.6)	4.0	(6.0)	見込み焼成後線刻

33	15	覆土中	土師器	鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	横方向ナデ	良	石英粒、白色微粒	(16.2)	(16.2)	—	—	
33	16	P4内	土師器	杯	ほぼ完形	7.5YR6/6橙	底部付近右方向ヘラ削り、底部静止糸切痕無調整	横ナデ	良	やや密、金雲母粒少	13.1	13.1	4.6	5.5	
33	17	覆土中	土師器	杯	完形	2.5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒・赤色小粒	12.4	12.4	4.9	6.0	
33	18	覆土中	土師器	杯	3/4	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	小礫・白色微粒	12.4	12.4	4.5	5.8	
33	19	覆土中	土師器	杯	3/4	10YR6/6明黄褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒・赤色小粒微量	13.9	13.9	4.5	6.6	
33	20	覆土中	土師器	杯	ほぼ完形	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	小礫・白色微粒	12.5	12.5	4.0	6.5	
33	21	覆土中	土師器	杯	2/3	10YR7/6明黄褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	密　赤色粒微量	13.3	13.3	4.6	6.6	
33	22	P1内	土師器	杯	3/4	7.5YR6/4にぶい橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒微量	13.5	13.5	4.5	6.0	
33	23	覆土中	土師器	杯	3/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	パミス粒	(13.2)	(13.2)	—	—	
33	24	覆土中	土師器	杯	2/3	10YR6/4にぶい黄褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色小粒・白色微粒少量	13.4	13.4	3.9	6.7	
33	25	床直上	土師器	杯	3/4	7.5YR5/6明褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	12.8	12.8	4.0	6.0	
33	26	覆土中	土師器	杯	3/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色小粒・金雲母粒微量	13.2	13.2	4.4	6.7	
33	27	覆土中	土師器	杯	2/3	10YR6/6明黄褐	底部付近手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中・小粒少量	13.0	13.0	4.5	6.0	
33	28	覆土中	土師器	杯	1/2	7.5YR8/8黄橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色大粒・白色微粒	12.6	12.6	4.3	5.8	
33	29	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR6/4にぶい橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色小粒・白色微粒	12.4	12.4	4.7	5.8	
33	30	覆土中・P4	土師器	杯	1/2以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	13.8	13.8	4.7	(8.6)	
33	31	覆土中	土師器	杯	ほぼ完形	7.5YR6/6橙	底部付近手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒・白色微粒	13.9	13.9	5.1	6.9	
33	32	P4内	土師器	杯	3/4	5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	13.4	13.4	4.8	6.3	
33	33	P4内	土師器	杯	1/4	7.5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石・石英粒、赤色小粒	(13.0)	(13.0)	4.4	(6.4)	
33	34	覆土中	土師器	杯	1/2	2.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色粒・白色微粒多	(12.9)	(12.9)	4.9	(7.0)	
33	35	P4内	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	金雲母・白色微粒	(12.6)	(12.6)	4.0	(6.0)	
33	36	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/4にぶい橙	底部付近回転ヘラ削り	横ナデ	良	赤色小粒、白色微粒	(13.9)	(13.9)	(3.6)	(7.6)	
33	37	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR5/6明褐	底部付近手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	やや粗、砂・長石・石英粒	(12.4)	(12.4)	4.5	(7.0)	
33	38	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り調整、中央部にロクロ右回転糸切痕残す	横ナデ	良	赤色小粒・白色微粒	(13.5)	(13.5)	4.9	(7.4)	
33	39	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石・石英粒、赤色小粒	(12.4)	(12.4)	4.3	(7.2)	
33	40	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り	横ナデ	良	赤色中粒	(12.1)	(12.1)	(4.2)	(5.9)	
33	41	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/8明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	(12.8)	(12.8)	5.0	(7.6)	
33	42	覆土中	土師器	杯	完形	5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色微粒	13.3	13.3	4.7	6.5	
33	43	P4内	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	(12.0)	(12.0)	3.4	(6.0)	
33	44	覆土中	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒少	(13.2)	(13.2)	5.2	6.4	
33	45	覆土中	土師器	杯	1/2以下	2.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色微粒	13.2	13.2	4.7	(6.7)	
33	46	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	(12.0)	(12.0)	4.7	(5.9)	
33	47	覆土中	土師器	杯	1/2以下	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石小粒、白色微粒多	(13.2)	(13.2)	3.6	(5.8)	
33	48	覆土中	土師器	杯	1/2	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	(13.8)	(13.8)	3.6	(6.6)	
33	49	覆土中	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	7.1	見込み墨書
33	50	覆土中	土師器	杯	ほぼ完形	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	13.8	13.8	4.6	6.3	見込み・体部外面に墨書
33	51	P4内	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(6.3)	見込み墨書
33	52	覆土中	土師器	杯	3/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒少	13.0	13.0	4.9	6.2	見込み焼成後線刻
33	53	P4内	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(7.6)	見込み焼成後線刻
33	54	P4内	土師器	杯	破片	2.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	—	—	—	(8.0)	見込み焼成後線刻
33	55	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	(13.0)	(13.0)	3.7	(6.2)	見込み焼成後線刻
33	56	覆土中	土師器	杯か	破片	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒、白色微粒	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
33	57	P4内	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒、白色微粒	—	—	—	(6.9)	見込み焼成後線刻

37	21	A坊中	土師器	皿	ほぼ完形	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	長石・石英小粒、白色小粒	14.1	14.1	2.7	6.5	見込み焼成後線刻
37	22	覆土中	土師器	杯	ほぼ完形	5YR6/8橙	底部付近～底部右方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	優	石英・長石小粒多	13.6	13.6	5.1	6.3	見込み焼成後線刻
37	23	C坊焼土	灰釉陶器	壺	1/4以下	10YR8/1灰白：灰釉 5Y4/4暗オリーブ	横ナデ、灰釉施釉	横ナデ、気泡できる	良	微黒粒多、長石粒少	－	(24.6)	－	－	
37	24	覆土中	灰釉陶器	壺	破片	2.5Y8/1灰白：灰釉 10Y7/1灰白	横ナデ、灰釉施釉	横ナデ	良	微黒粒・白色小粒少	－	－	－	－	
37	25	B坊付近	灰釉陶器	壺	破片	2.5Y4/1黄灰	横ナデ、胴部下方回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	微黒粒・長石中粒多	－	(28.4)	－	－	
37	26	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	口縁部折り返し横ナデ	横ナデ	良	石英・長石小粒多	－	－	－	－	
37	27	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y6/1黄灰	タタキ	同心円状当具痕ナデ消す	良	微黒粒少、白色小粒	－	－	－	－	
37	28	覆土中	須恵器	甕	破片	N5/灰	タタキ	同心円状当具痕ナデ消す	優	長石大～小粒多、白色小粒多	－	－	－	－	
37	29	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR4/2灰褐	タタキ	横方向ナデ	良	シャモット少、石英・長石中粒多	－	－	－	－	30と同一個体か
37	30	A坊中	須恵器	甕	破片	5YR4/2灰褐	タタキ	横方向ナデ	良	シャモット少、石英・長石中粒多	－	－	－	－	29と同一個体か
38	1	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/6橙	体部横ナデ、底部調整不明	横ナデ	良	海・金雲母微量	(14.8)	(14.8)	5.1	(7.6)	
38	2	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/8明赤褐	底部付近回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	長石・石英小粒・白色微粒	(13.2)	(13.2)	(4.0)	(7.8)	
39	1	覆土中	土師器	杯	1/4	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット・石英中粒少	－	－	－	(7.8)	
40	2	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR3/3暗赤褐	横ナデ、口縁突帯粘土紐貼付	横ナデ	良	シャモット、白色中粒	(30.4)	－	－	－	
41	1	覆土中	須恵器	甕	破片	N5/灰	口縁部折り返し、横ナデ	胴部同心円状当具痕、頸部横ナデ	優	長石大粒、白色小粒多	(38.5)	－	－	－	
41	2	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR2/2黒褐	タタキ	ナデ	良	白色小粒	－	－	－	－	
41	3	覆土中	須恵器	甕	破片	N4/灰	タタキ	同心円状当具痕上をナデ	優	白色小粒多	－	－	－	－	
41	4	覆土中	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	石英微粒、白色微粒	(12.4)	(12.4)	4.0	(5.2)	
41	5	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色小・微粒少	－	－	－	(7.2)	見込み焼成後線刻
41	6	覆土中	渥美産陶器	甕	破片	7.5YR7/2明褐灰	横ナデ、口唇部若干つまみ上げる	横ナデ	良	黒色中粒・白色小粒	(30.2)	－	－	－	常滑3型式並行期か
41	7	覆土中	伊勢型	鍋	破片	7.5YR6/3にぶい褐	横ナデ	胴部ヘラ状工具で横方向ナデ、頸部横ナデ	良	長石大～小粒多	(25.0)	－	－	－	12世紀
42	1	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR4/3褐	頸部横方向ナデ	頸部横方向ナデ	良	石英微粒・白色小粒少	－	－	－	－	
42	2	覆土中	土師器	甕	破片	10YR5/3にぶい黄褐	頸部横方向ナデ	頸部横方向ナデ	良	石英微粒・白色小粒少	－	－	－	－	
42	3	覆土中	土師器	鉢	破片	5YR5/6明赤褐	体部横ナデ、底部付近右方向手持ちヘラ削り	ヘラミガキ、赤彩	優	シャモット、石英微粒、白色微粒	(16.0)	(16.0)	－	－	
42	4	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英微粒・白色微粒	－	－	－	(6.2)	見込み焼成後線刻
42	5	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
42	6	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR5/8明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色小粒多	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
42	7	覆土中	土師器	杯か	破片	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	白色微粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
42	8	覆土中	土師器	杯か	破片	7.5YR5/4にぶい褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒微量	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
42	9	覆土中	土師器	杯か	破片	5YR6/8橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色小粒微量	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
42	10	覆土中	土師器	杯	1/3	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	小礫、石英中粒、白色小粒	－	－	－	(8.6)	見込み焼成後線刻
42	11	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/8明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英微粒、白色小粒多	－	－	－	(8.0)	見込み焼成後線刻
42	12	覆土中	土師器	高足高台杯	破片	10YR3/1黒褐	高台部横ナデ	高台部横ナデ	良	石英・白色微粒多	－	－	－	(9.3)	
42	13	覆土中	須恵器	甕	破片	5Y4/1灰	口縁部折り返し後横ナデ	横ナデ	良	石英粒・白色小粒多くやや粗い	(21.6)	－	－	－	
42	14	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR4/3にぶい赤褐	口縁部折り返し後横ナデ	横ナデ	良	石英小粒・白色小粒多	－	－	－	－	
42	15	覆土中	須恵器	甕	破片	10YR5/2灰黄褐	タタキ	横方向ナデ	良	白色小粒、やや粗い	－	－	－	－	
42	16	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y4/1黄灰	タタキ	同心円状当具痕	優	長石粒少	－	－	－	－	
42	17	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y5/1黄灰	タタキ	一部横方向ナデ	良	白色小粒・微黒粒少	－	－	－	－	
42	18	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y6/1黄灰	タタキ	横方向ナデ	良	白色小粒	－	－	－	－	
42	19	覆土中	縄文土器	甕	破片	2.5YR4/6赤褐	撚糸文	横方向ナデ	優	シャモット多、長石粒少	－	－	－	－	縄文早期撚糸文系
42	20	覆土中	伊勢型	鍋	破片	10YR7/3にぶい黄橙	胴部板状工具で横方向ナデ、頸部横方向ナデ	横方向ナデ	良	長石大～小粒多	－	－	－	－	12世紀
42	21	覆土中	伊勢型	鍋	破片	7.5YR7/4にぶい橙	口縁部横ナデ	折り返し口縁板状工具で横ナデ	良	長石大～小粒多	(19.6)	－	－	－	12世紀

43	1	覆土中	土師器	甕	破片	2.5YR4/6赤褐	頸部横ナデ	口唇部帯状に突出、頸部横方向ナデ	優	石英粒	－	－	－	－	
43	2	覆土中	土師器	甕	破片	5YR4/4にぶい赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	石英微粒・白色微粒	(14.0)	－	－	－	
43	3	覆土中	土師器	甕	1/4以下	7.5YR4/6褐	体部下方横方向ヘラ削り	斜方向ヘラナデ	良	石英微粒、白色微粒	－	－	－	(8.6)	
43	4	覆土中	土師器	甕	破片	5YR4/4にぶい赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	シャモット、石英微粒	(10.0)	－	－	－	
43	5	覆土中	土師器	甕	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	体部斜方向ヘラ削り、底部横方向ヘラ削り	横方向ナデ	優	石英微粒・白色小粒少	－	－	－	(5.0)	
43	6	覆土中	土師器	把鉢	1/4以下	10R4/6赤	体部横ナデ、底部右回転糸切り痕無調整	横ナデ	優	シャモット、長石粒	－	－	－	(7.0)	内面使用による摩耗
43	7	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英小粒、白色微粒	(15.6)	(15.6)	3.5	(8.0)	
43	8	覆土中	土師器	杯	破片	10YR5/3にぶい黄褐	横ナデ	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	－	体部外面墨書
43	9	覆土中	土師器	杯	破片	10YR7/4にぶい黄橙	底部付近から底部左方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	石英・白色微粒	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
43	10	覆土中	土師器	杯	1/2以下	5YR5/6明赤褐	底部付近右方向手持ちヘラ削り、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	優	シャモット、白色微粒	(12.6)	(12.6)	4.3	(5.0)	見込み焼成後線刻
43	11	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒少	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
43	12	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近から底部左方向ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、石英粒	(14.0)	(14.0)	4.0	(7.0)	見込み焼成後線刻
43	13	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR4/6赤褐	底部付近麦方向手持ちヘラ削り、底部手持ちヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、白色微粒	－	－	－	(5.6)	見込み焼成後線刻
43	14	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り、底部回転糸切痕無調整	横ナデ	良	シャモット、白色微粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
43	15	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
43	16	覆土中	土師器	椀	1/4以下	10YR7/4にぶい黄橙	横ナデ、付高台	ヘラミガキ	良	石英微粒	－	－	－	(7.0)	
43	17	覆土中	土師器	椀	1/4以下	7.5YR6/6橙	体部右方向手持ちヘラ削り調整後高台貼付、境目ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英小粒、白色微粒	－	－	－	(8.0)	
43	18	覆土中	土師器	椀	1/4以下	7.5YR6/6橙	体部右方向手持ちヘラ削り調整後高台貼付、境目ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英小粒、白色微粒	－	－	－	(7.0)	
43	19	覆土中	土師器	椀	破片	7.5YR6/6橙	付高台、ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英小粒、白色微粒	－	－	－	(7.0)	
43	20	覆土中	土師器	椀	1/4以下	5YR6/6橙	横ナデ、付高台	ヘラミガキ	優	白色微粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
43	21	覆土中	灰釉陶器	椀	破片	5Y8/1灰白：灰釉7.5Y5/3灰オリーブ	横ナデ、口唇部玉縁状に突出、灰釉刷毛塗り	横ナデ、灰釉刷毛塗り	良	微黒粒少、白色小粒	(13.8)	(13.8)	－	－	猿投
43	22	覆土中	灰釉陶器	壺か	1/4以下	2.5Y8/1灰白：灰釉7.5Y4/3暗オリーブ	体部から底部回転ヘラ削り、付高台、灰釉刷毛塗り	横ナデ、底部中央に降灰	良	微黒粒、白色中粒	－	－	－	(14.0)	猿投
43	23	覆土中	須恵器	壺か	破片	5Y7/1灰白	体部回転ヘラ削り、底部付高台	横ナデ	良	長石粒、微黒粒	－	－	－	(14.0)	猿投
43	24	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/1黒褐	タタキ	ナデ	良	石英・長石・白色小粒多	－	－	－	－	
45	1	覆土中	土師器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	横方向ナデ	優	石英微粒、白色微粒	(25.6)	－	－	－	
45	2	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/3暗赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	石英微粒	(11.0)	－	－	－	
45	3	覆土中	土師器	甕	破片	5YR4/6赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	石英粒小、白色微粒多	(17.0)	－	－	－	
45	4	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/2暗赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	石英小粒、白色微粒	(12.1)	－	－	－	
45	5	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR4/2灰褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	シャモット、石英小粒	(19.0)	－	－	－	
45	6	覆土中	土師器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	石英粒、白色中・微粒	(16.6)	－	－	－	
45	7	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR4/3褐	頸部横方向ナデ	頸部横方向ナデ	良	石英粒、白色中粒	(21.4)	－	－	－	
45	8	覆土中	土師器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	長石中粒	(11.8)	－	－	－	
45	9	覆土中	土師器	甕	破片	2.5YR4/8赤褐	頸部横方向ナデ	頸部横方向ナデ	優	長石粒、角閃石微量	(17.0)	－	－	－	
45	10	覆土中	土師器	甕	破片	5YR4/3にぶい赤褐	頸部横方向ナデ	頸部横方向ナデ	優	石英微粒、白色微粒	(10.0)	－	－	－	
45	11	覆土中	土師器	甕	破片	7.5YR4/2灰褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	長石粒、白色微粒	(11.0)	－	－	－	
45	12	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/2暗赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	体部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	優	石英粒、白色中・微粒	(11.0)	－	－	－	
45	13	覆土中	土師器	甕	破片	5YR3/2暗赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ヘラナデ	優	石英粒、白色中・微粒	(13.0)	－	－	－	166と同一個体の可能性大
45	14	覆土中	土師器	甕	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部付近横方向ヘラ削り、底部ヘラ削り	横方向ナデ	優	石英粒、白色中粒	－	－	－	(7.0)	
45	15	覆土中	土師器	杯	1/3	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色中粒・石英微粒少	(14.5)	(14.5)	4.2	(7.0)	
45	16	覆土中	土師器	杯	1/2以上	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット少、石英微粒多	(13.3)	(13.3)	4.0	7.0	

45	17	覆土中	土師器	杯	1/2以上	2.5YR6/8橙	底部付近及び底部右方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	普	シャモット多、石英微粒少	13.8	13.8	3.9	6.6	
45	18	覆土中	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英微粒少、白色微粒	(13.0)	(13.0)	3.5	(7.0)	
45	19	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR7/6橙	底部付近回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒・白色微粒少	(13.2)	(13.2)	—	—	口縁内面に1カ所鉄分付着
45	20	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	シャモット少、石英微粒	(12.8)	(12.8)	3.9	(6.6)	
45	21	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/8橙	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデか	普	石英粒・白色微粒少	—	—	—	(6.0)	内面被熱発泡、坩堝か
45	22	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	シャモット多、石英微粒多	(12.6)	(12.6)	4.3	(7.0)	
45	23	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英微粒・白色微粒	(13.8)	(13.8)	4.7	(7.0)	
45	24	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	シャモット、白色中・微粒	(14.0)	(14.0)	4.5	(8.0)	
45	25	覆土中	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	長石粒少	—	—	—	(6.9)	
45	26	覆土中	土師器	杯	破片	10YR7/4にぶい黄褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒・白色微粒	—	—	—	(6.2)	
45	27	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、口縁端反	横ナデ	良	長石粒・白色微粒少	(14.0)	(14.0)	—	—	
45	28	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英微粒少、白色微粒多	(12.0)	(12.0)	4.3	(6.0)	
45	29	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR5/8明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	小礫・石英中粒	(18.0)	(18.0)	—	—	
45	30	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	横ナデ	横ナデ	普	石英微粒、白色小粒	(13.2)	(13.2)	—	—	
45	31	覆土中	土師器	椀	破片	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英微粒・白色微粒少	(13.0)	(13.0)	—	—	
45	32	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	赤色中粒少、白色微粒	—	—	—	(8.0)	見込み墨書
45	33	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近及び底部左方向手持ちヘラ削り	横ナデ	普	白色微粒多	—	—	—	(6.4)	見込み墨書
45	34	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR5/4にぶい褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒少、白色微粒多	—	—	—	(5.6)	見込み墨書
45	35	覆土中	土師器	杯か	破片	7.5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒少	—	—	—	—	見込み墨書
45	36	覆土中	土師器	杯	1/4以上	2.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り調整、中央部にロクロ右回転糸切痕残す	横ナデ	普	シャモット、白色微粒少	(16.0)	(16.0)	4.4	(7.7)	見込み墨書
45	37	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	白色微粒	(13.0)	(13.0)	4.2	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	38	覆土中	土師器	杯か	破片	5YR5/6明赤褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英微粒少、白色微粒多	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	39	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	金雲母・石英粒少、白色微粒	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
45	40	覆土中	土師器	杯か	破片	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	白色微粒少	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
45	41	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	シャモット、白色微粒	—	—	—	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	42	覆土中	土師器	杯か	破片	5YR5/6明赤褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英粒少	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
45	43	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英小粒少	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻51と接合
45	44	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒・白色中粒	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
45	45	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
45	46	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/4にぶい橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒微量	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
45	47	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英中・微粒多	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	48	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近及び底部手持ち右左方向ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英・長石微粒少	—	—	—	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	49	覆土中	土師器	杯か	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	白色微粒少	—	—	—	—	見込み焼成後線刻
45	50	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	普	金雲母粒微量、シャモット	(11.8)	(11.8)	3.9	(6.2)	見込み焼成後線刻
45	51	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR5/8明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	普	長石・石英微粒少	—	—	—	(8.2)	見込み焼成後「西」線刻、43と接合
45	52	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	普	白色微粒多	(13.0)	(13.0)	3.9	(6.2)	見込み焼成後線刻
45	53	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英微粒・白色中粒少	(11.4)	(11.4)	3.4	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	54	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	体部横ナデ、底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	石英粒少	—	—	—	(6.2)	見込み焼成後線刻
45	55	覆土中	土師器	椀	破片	5YR6/6橙	横ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	普	石英微粒少	—	—	—	—	体部外面に焼成後線刻
45	56	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	金雲母微粒少	—	—	—	(7.0)	見込み焼成後線刻
45	57	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	普	白色微粒多	—	—	—	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	58	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/8橙	底部回転ヘラ削り調整か	横ナデ	普	白色微粒	—	—	—	(7.4)	見込み焼成後線刻

45	59	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
45	60	覆土中	土師器	杯	1/2	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石小粒、白色微粒多	(12.4)	(12.4)	4.0	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	61	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	体部横ナデ、底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色中粒少	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	62	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/8橙	底部付近及び底部左方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒少	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
45	63	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色中粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	64	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR7/6橙	底部付近一部ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
45	65	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR5/8明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	66	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	67	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒・白色微粒	－	－	－	(8.0)	見込み焼成後線刻
45	68	覆土中	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒・白色微粒	－	－	－	(6.4)	見込み焼成後線刻
45	69	覆土中	土師器	杯	破片	10YR7/4にぶい黄褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒・白色微粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
45	70	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒少、白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	71	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR5/8明赤褐	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	(5.4)	見込み焼成後線刻
45	72	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR6/8橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒、白色微粒	－	－	－	(5.6)	見込み焼成後線刻
45	73	覆土中	土師器	杯	破片	2.5YR4/8赤褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色微粒	－	－	－	(6.9)	見込み焼成後線刻
45	74	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色小粒・白色微粒少	－	－	－	(5.0)	見込み焼成後線刻
45	75	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒微量	－	－	－	(5.6)	見込み焼成後線刻
45	76	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒、シャモット	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	77	覆土中	土師器	杯	1/3	2.5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒少、白色中粒多	－	－	－	(5.4)	見込み焼成後線刻
45	78	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	小礫・長石小粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	79	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR5/8明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	80	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
45	81	覆土中	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、体部横ナデ	横ナデ	良	長石・石英小粒多、白色微粒	－	－	－	(6.4)	見込み焼成後線刻
45	82	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り調整、中央部に右回転糸切痕残す	横ナデ	良	石英小粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	83	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒多、白色微粒	(13.5)	(13.5)	4.4	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	84	覆土中	土師器	皿	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近及び底部手持ち右左方向ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	85	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	長石粒・白色微粒少	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
45	86	覆土中	土師器	皿	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	良	石英微粒・白色微粒少	(14.0)	(14.0)	(3.2)	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	87	覆土中	土師器	皿	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石小粒、白色微粒多	(13.0)	(13.0)	2.4	(6.4)	
45	88	覆土中	土師器	皿	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石・石英粒・白色微粒少	(12.8)	(12.8)	2.2	(8.0)	
45	89	覆土中	土師器	皿	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒・白色微粒少	(14.0)	(14.0)	2.0	(8.0)	
45	90	覆土中	土師器	皿	破片	7.5YR5/2灰褐	底部付近回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒多	(13.0)	(13.0)	－	－	
45	91	覆土中	土師器	小皿	1/4以下	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部回転糸切痕無調整	横ナデ	良	白色中・微粒多	(9.0)	(9.0)	2.1	(4.6)	
45	92	覆土中	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR7/4にぶい橙	口縁段ナデし直立する	見込み不明	良	砂粒多	(11.0)	(11.0)	(2.3)	(6.9)	土居からの混入か
45	93	覆土中	土師器	皿	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	94	覆土中	土師器	皿	1/4以下	5YR7/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、石英粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	95	覆土中	土師器	杯か	破片	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒少	－	－	－	(8.0)	見込み焼成後線刻
45	96	覆土中	土師器	皿	破片	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒小、白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	97	覆土中	土師器	皿	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石小粒・白色微粒	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	98	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	体部下方右回転ヘラ削り	横ナデ	良	シャモット、石英微粒	－	－	－	(7.3)	見込み焼成後線刻
45	99	覆土中	土師器	椀	破片	7.5YR4/2灰褐	体部横方向ナデ、付高台	横ナデ	良	長石・石英微粒	－	－	－	(8.2)	
45	100	覆土中	土師器	椀	1/4以下	5YR6/8橙	体部横ナデ、付高台	ヘラミガキ	良	白色微粒多	－	－	－	(6.4)	見込み焼成後線刻
45	101	覆土中	灰釉陶器	長頸壺	破片	5YR5/4にぶい赤褐	横ナデ	横ナデ	良	白色中粒、微黒粒	－	－	－	－	猿投

45	102	覆土中	須恵器	長頸壺	破片	10YR5/1褐灰	体部下面・底部左回転ヘラ削り、付高台	横ナデ	良	白色小粒、微黒粒	－	－	－	(9.0)	猿投
45	103	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y5/2暗灰黄	頸部横ナデ、口縁部折り返し突帯にする	横ナデ	良	石英粒、白色中粒少	(22.8)	－	－	－	
45	104	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	頸部横ナデ、口縁部突帯粘土紐貼付	横ナデ	良	石英微粒、白色中・微粒多	(20.4)	－	－	－	
45	105	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y5/1黄灰	口縁部突帯貼付、横ナデ	横ナデ	良	白色中粒多	(19.6)	－	－	－	
45	106	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y6/1黄灰	口縁部突帯貼付、横ナデ	横ナデ	良	白色中粒多	(22.4)	－	－	－	
45	107	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y6/2灰黄	タタキ	当具痕ナデ消す	良	白色微粒多	－	－	－	－	破面1面を砥石に転用、中砥
45	108	覆土中	須恵器	甕	破片	5YR3/3暗赤褐	タタキ	当具痕ナデ消す	良	長石粒、白色中粒多	－	－	－	－	
45	109	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5YR5/6明赤褐	タタキ	横方向ナデ	良	石英微粒、白色微粒	－	－	－	－	
45	110	覆土中	須恵器	皿	破片	2.5Y6/1黄灰	横ナデ、付高台	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	(7.6)	
45	111	覆土中	瓦	男瓦	1/4以下	10YR6/3にぶい黄橙	タタラ板2枚貼り合わせ、凹面布目痕、凸面ナデ	－	良	白色中・微粒多	－	－	－	－	
45	112	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	優	シャモット、白色微粒多	(12.6)	(12.6)	(2.6)	(5.1)	見込み焼成後線刻
45	113	覆土中	土師器	甕	1/4	7.5YR5/4にぶい褐	縦方向ヘラ削り、頸部横方向ナデ	ナデ	良	長石・石英粒、赤色中粒	(21.0)	(21.0)	－	－	
45	114	覆土中	土師器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	縦方向ヘラ削り、頸部横方向ナデ	ナデ	優	長石・石英小粒	(19.8)	(19.8)	－	－	
45	115	35号直上	土師器	甕	破片	2.5YR5/6明赤褐	縦方向ヘラ削り、頸部横方向ナデ	ナデ	優	長石・石英小粒	(19.0)	－	－	－	
45	116	35号直上	土師器	甕	破片	7.5YR4/2灰褐	縦方向ヘラ削り、頸部横方向ナデ	横方向ヘラ削り後ナデ	良	長石粒、白色微粒	(18.0)	(18.0)	－	－	
45	117	覆土中	土師器	甕	1/3	5YR6/6橙	縦方向ヘラ削り後下部横方向ヘラ削り	ナデ	優	石英・長石小粒多	－	(21.0)	－	(4.2)	
45	118	35号直上	土師器	甕	1/3	7.5YR6/6橙	下部横方向ヘラ削り	横方向ヘラ削り後ナデ	良	長石・石英小粒	－	(20.0)	－	4.0	
45	119	35号直上	土師器	鉢	1/4以下	5YR5/6明赤褐	体部横ナデ、底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	優	石英小粒多	(20.0)	(20.0)	－	－	
45	120	35号直上	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒、白色微粒	(9.5)	(9.5)	3.1	(6.0)	
45	121	35号直上	土師器	杯	1/2	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色大粒・白色微粒	－	－	－	7.2	
45	122	35号直上	土師器	杯	完形	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒、白色微粒	13.3	13.3	4.5	7.4	
45	123	35号直上	土師器	杯	1/2	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色小粒微量	13.4	13.4	3.8	6.5	
45	124	35号直上	土師器	杯	1/2	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	12.6	12.6	4.2	7.4	
45	125	35号直上	土師器	杯	3/4	5YR5/8明赤褐色	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	赤色大粒・白色微粒	13.0	13.0	4.5	7.4	
45	126	35号直上	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部ロクロ右回転糸切り痕無調整	横ナデ	良	長石粒、白色微粒	(13.0)	(13.0)	4.9	(6.6)	
45	127	35号直上	土師器	杯	1/4	5YR5/4にぶい赤褐	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	優	小礫、シャモット	15.0	15.0	4.5	7.2	
45	128	35号直上	土師器	杯	1/3	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	(13.4)	(13.4)	4.2	(6.5)	
45	129	35号直上	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/4にぶい橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒、白色微粒	(12.6)	(12.6)	3.9	(6.6)	
45	130	35号直上	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	胎土密、白色微粒	(12.8)	(12.8)	3.8	(7.2)	
45	131	35号直上	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	(14.2)	(14.2)	4.0	(7.5)	
45	132	35号直上	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット、白色微粒	(13.8)	(13.8)	4.6	(7.0)	
45	133	35号直上	土師器	杯	1/4	7.5YR6/4にぶい橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部右回転糸切り痕無調整	横ナデ	良	白色微粒	(13.4)	(13.4)	3.5	(7.0)	
45	134	35号直上	土師器	杯	1/4以下	5YR7/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英小粒微量	－	－	－	(7.0)	見込み酸化鉄付着
45	135	35号直上	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近・底部縁辺回転ヘラ削り調整、中心部右回転糸切り痕残す	横ナデ	優	石英小粒	－	－	－	(7.0)	見込み墨書
45	136	35号直上	土師器	杯	破片	7.5YR7/4にぶい橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
45	137	35号直上	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	小礫、長石・石英粒少	(12.2)	(12.2)	3.7	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	138	35号直上	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒、白色微粒	－	－	－	(6.4)	見込み焼成後線刻
45	139	35号直上	土師器	杯	1/4	7.5YR5/4にぶい褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	140	35号直上	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石粒、赤色中粒	－	－	－	6.8	見込み焼成後線刻
45	141	35号直上	土師器	杯	破片	10YR7/4にぶい橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒、白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	142	35号直上	土師器	杯	破片	10YR7/4にぶい橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
45	143	35号直上	土師器	皿	1/4以下	7.5YR6/4にぶい橙	体部横ナデ、底部右回転糸切り痕無調整	横ナデ	良	赤色中粒少、白色粒多	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻

45	144	35号直上	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒	－	－	－	(6.4)	見込み焼成後線刻
45	145	35号直上	土師器	皿か	破片	7.5YR7/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	微細砂粒、金雲母微量	－	－	－	(8.0)	見込み焼成後線刻
45	146	35号直上	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	(14.4)	(14.4)	3.9	(8.2)	見込み焼成後線刻
45	147	35号直上	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部一部回転ヘラ削り、中央部右回転糸切痕残る	横ナデ	良	長石粒、赤色中粒少	(14.0)	(14.0)	3.5	(8.0)	見込み焼成後線刻、灯明皿として使用
45	148	35号直上	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	体部横ナデ、底部回転ヘラ削り実施するが不完全で右回転糸切り痕見える	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	(13.0)	(13.0)	4.4	5.6	見込み焼成後線刻
45	149	35号直上	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	金雲母粒、白色微粒	(14.0)	(14.0)	4.5	(7.3)	見込み焼成後線刻
45	150	35号直上	土師器	皿	1/4以下	10YR6/6明黄褐	体部付近手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色微粒	(15.7)	(15.7)	2.8	(7.0)	
45	151	35号直上	土師器	皿	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ	良	石英小粒少	(14.0)	(14.0)	2.4	6.4	
45	152	35号直上	土師器	皿	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ、一部ヘラナデ	良	石英小粒少	(13.6)	(13.6)	2.0	(6.0)	
45	153	35号直上	土師器	皿	1/4以下	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部付高台	横ナデ	良	赤色小粒、白色微粒	(13.6)	(13.6)	2.7	(6.8)	
45	154	35号直上	土師器	皿	1/4以下	7.5YR6/6橙	体部横ナデ	横ナデ	良	長石粒、白色微粒	(13.8)	(13.8)	3.1	(3.2)	見込み焼成後線刻
45	155	35号直上	土師器	皿	1/4	7.5YR7/4にぶい橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り、中央部右回転糸切り痕無調整	横ナデ	良	赤色中粒、白色微粒	－	－	－	5.5	見込み焼成後線刻
45	156	35号直上	土師器	椀	1/4以下	10YR6/3にぶい黄褐	体部横ナデ、底部付高台	ヘラミガキ、黒色処理	良	シャモット、白色微粒	(14.0)	(14.0)	(4.8)	(6.6)	
45	157	35号直上	土師器	椀	破片	10YR5/4にぶい黄褐	底部付高台、一部右回転糸切り痕無調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	白色微粒	－	－	－	(7.0)	
45	158	35号直上	土師器	椀	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部付高台、ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	長石粒、白色微粒	－	－	－	(8.0)	
45	159	35号直上	土師器	椀	1/4以下	2.5YR6/8橙	体部横ナデ、底部付高台、右回転糸切り痕無調整	ヘラミガキ、黒色処理	優	長石粒、白色微粒	－	－	－	(7.2)	見込み焼成後線刻
45	160	35号直上	須恵器	甕	破片	2.5Y4/1黄灰	頸部横ナデ	横ナデ	良	長石中・小粒多、粗い	－	－	－	－	
45	161	35号直上	須恵器	甕	破片	10YR4/2灰黄褐	横ナデ、口縁粘土紐貼付け	横ナデ	良	長石小粒多	(20.5)	－	－	－	
45	162	35号直上	須恵器	甕	破片	2.5Y7/1灰白	全面タタキ	当具痕ナデ消す	良	黒色小粒	－	－	－	－	
45	163	35号直上	須恵器	甕	1/4以下	10YR3/1黒褐	全面タタキ	当具痕ナデ消す	良	長石・石英粒、白色微粒	－	－	－	－	
47	1	覆土中	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	白色微粒少	－	－	－	(6.0)	
47	2	覆土中	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット・白色微粒少	－	－	－	－	
47	3	覆土中	須恵器	杯	破片	2.5Y7/3浅黄	横ナデ、底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	(8.0)	黒色の火襷入る
48	1	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近右方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整	ナデ	良	石英粒少	－	－	－	(6.0)	
48	2	覆土中	土師器	甕	破片	5YR5/6明赤褐	体部縦方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	ナデ	優	石英粒・小礫・砂粒多	(23.0)	(23.0)	－	－	
54	1	覆土中	弥生土器	壷	破片	5YR5/6明赤褐	胴下部縦方向ヘラミガキ、赤彩：2.5YR4/6	ナデ	優	石英粒少、赤色・白色中粒多	－	－	－	(9.4)	
54	2	覆土中	弥生土器	壷	破片	5YR5/6明赤褐	網目状撚糸文・Z字状(R)結節文による横帯・網目状撚糸文による山形文部以外を赤彩：2.5YR4/6	ナデ	優	白色大粒・赤色中粒多	－	－	－	－	1と同一個体か
54	3	覆土中	弥生土器	壷	破片	5YR5/6明赤褐	胴部左上方ハケ後ナデ、網目状撚糸文による横帯部以外を赤彩：2.5YR4/6	横方向ヘラナデ	優	白色大粒・赤色中粒多	－	－	－	－	1と同一個体か
54	4	覆土中	弥生土器	壷	破片	5YR5/6明赤褐	網目状撚糸文による横帯部以外を赤彩：2.5YR4/6	ヘラナデ	優	白色大粒・赤色中粒多	－	－	－	－	1と同一個体か
57	1	覆土中	弥生土器	壷	破片	5YR5/6明赤褐	胴下部縦方向ヘラミガキ	ヘラミガキ	優	赤色中粒多、白色微粒少	－	－	－	(7.6)	弥生終末期
58	1	覆土中	弥生土器	壷	破片	5YR5/6明赤褐	頸部タテハケ後縦方向ヘラミガキ	頸部左方向ハケ後ヘラミガキ	優	石英・白色小粒	(10.6)	－	－	－	弥生終末期
58	2	覆土中	竜泉窯系青磁	碗	破片	5Y7/1灰白	鎬連弁文刻出、施釉 5Y5/4オリーブ、貫入	施釉	良	白色小粒少	－	－	－	(5.9)	Ⅰ-5b類
59	1	覆土中	常滑産陶器	片口鉢Ⅱ	破片	5YR5/4にぶい赤褐	底部付近左上方向ヘラ削り後横ナデ	横方向ヘラナデ	優	白色大～小粒・石英小粒	－	－	－	(9.7)	
62	1	覆土中	竜泉窯系青磁	碗	破片	5Y4/1灰	鎬連弁文刻出、施釉 7.5Y5/1灰、貫入・少気泡入る	施釉	良	白色小粒少	－	－	－	－	Ⅰ-5b類
62	5	X8-00	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕をナデるが不完全、突出部側面は無調整	見込み軽く横方向ナデ	優	海微量、石英中～小粒・白色中～小粒	－	－	－	4.9	
68	1	覆土中	土師器	羽釜か	破片	7.5YR6/6橙	鍔と思われる断面三角形の粘土帯貼付、横ナデ	－	良	長石粒・砂粒	－	(36.2)	－	－	

68	2	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ	良	石英粒、角閃石少、白色微粒少	－	－	－	(5.0)	見込み焼成後線刻
68	3	覆土中	灰釉陶器	壺	1/4以下	2.5Y7/2灰黄：降灰 7.5Y5/3灰オリーブ	底部付高台、横ナデ	横ナデ、中央部に降灰	良	微黒粒・白色中粒少	－	－	－	(8.0)	猿投、底部焼成後線刻
68	4	覆土中	土師器	椀	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	付高台、横ナデ	横ナデ	優	石英中粒・白色微粒少、微砂粒多く粗い	－	－	－	(5.0)	
68	5	覆土中	須恵器	甕	破片	7.5Y4/1灰	タタキ	同心円状当具痕	良	小礫、白色中・小粒	－	－	－	－	
68	8	覆土中	土師器	置竈か	破片	5YR6/6橙	縦方向ヘラ削り	横方向ヘラナデ	優	長石大粒少、石英微粒・白色小・微粒・砂粒多	－	－	－	－	1と同一個体の可能性あり
68	9	覆土中	土師器	置竈か	破片	5YR6/6橙	タテ方向ヘラ削り後粘土紐で突帯貼付	横方向ヘラナデ	優	石英微粒・白色小・微粒・砂粒多	－	－	－	－	8と酷似、同一個体か
68	10	覆土中	土師器	杯	3/4	5YR5/6明赤褐	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	優	長石中粒少、白色小粒・砂粒多く粗い	12.6	12.6	4.5	6.0	
68	11	覆土中	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット・長石中粒・石英中粒・白色小粒少	(14.0)	(14.0)	4.1	(7.6)	
68	12	覆土中	土師器	杯	ほぼ完形	5YR5/6明赤褐	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	優	白色小粒・砂粒多く粗い	14.2	14.2	4.9	5.7	
68	13	覆土中	須恵器	長頸壺	破片	2.5Y7/1灰白	横ナデ	横ナデ	良	長石中粒少	(15.2)	－	－	－	
68	14	覆土中	須恵器	甕	破片	7.5YR4/2灰褐	タタキ	ナデ	良	白色小粒多	－	－	－	－	
69	1	L20-25	常滑産陶器	片口鉢Ⅱ	破片	7.5YR5/4にぶい褐	口縁上方に若干、下方に大きく突出　体部縦方向ヘラ削り後ナデ調整、頸部横ナデ	横ナデ	良	白色大～中粒多	(28.8)	(31.6)	－	－	9型式
69	2	覆土中	須恵器	杯	1/4以下	2.5Y5/1黄灰	底部右回転糸切痕無調整、体部横ナデ、火襷入る	横ナデ	良	長石中粒少、白色微粒	－	－	－	(6.4)	
71	1	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y7/1灰白：自然釉 5Y4/2灰オリーブ	タタキ	ナデ	良	石英中粒	－	－	－	－	
72	1	覆土中	須恵器	甕	破片	2.5Y5/2暗灰黄	タタキ	同心円状当具痕	良	長石粒少	－	－	－	－	内・外面及び剝れ面は面を砥石に転用、仕上砥
72	2	覆土中	常滑産陶器	片口鉢Ⅱ	破片	10R4/4赤褐	胴部縦方向ヘラ削り後ナデ、頸部～口縁横ナデ、頸部に重ね焼きによるテリ	横方向ナデ	良	長石大粒多	(28.4)	(30.7)	－	－	9型式
73a	1	M10-13 3a層	土師質土器	カワラケ	破片	2.5YR6/8橙	体部中位屈曲、口縁部外反	見込みナデない	優	海微量、白色小粒少	(11.3)	(11.3)	－	－	
73a	2	M10-28	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR6/6橙	体部内弯しつつ立ち上がる	見込み不明	良	金雲母微量、白色小粒	(13.2)	(13.2)	－	－	口縁部は非ロクロ2段ナデの影響か
73a	3	ⅡP32-2	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR6/6橙	口縁部ナデを意識的に施すが段ナデまで発展しない	見込み不明　口縁部ナデ、やや薄くなる	良	海少、石英小粒・赤色小粒	(12.8)	(12.8)	－	－	
73a	4	M10-15	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、突出部側面は横ナデ整形	見込みナデない	優	石英中～小粒・白色小粒	－	－	－	(4.8)	
73a	5	M10-28	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR8/4浅黄橙	底部右回転糸切痕無調整、突出部側面は横ナデ整形	見込みナデない	優	白色大粒・赤色中粒	－	－	－	(6.0)	口味強い
73a	6	ⅡP32	土師質土器	カワラケ	破片	2.5YR6/8橙	体部中位に屈曲顕著　底部突出側面をナデ調整	見込み不明	優	白色小粒・海	(8.9)	(8.9)	1.8	(5.7)	
73a	7	－	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR7/6橙	体部段ナデ顕著で口縁厚い	見込み不明	良	白色微粒	(10.0)	(10.0)	(2.0)	(5.8)	
73a	8	M10-28	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、突出部側面は横ナデ整形するが若干段を残す	見込みナデない	優	角閃石微量、石英中～小粒少	－	－	－	(6.6)	
73a	9	M10-28	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部回転糸切痕ナデ消すが、突出部側面は無調整	見込み軽く横方向ナデ	優	石英小粒・白色小粒	－	－	－	4.7	
73a	10	M10-28	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR7/6橙	底部回転糸切痕ナデ消すが、突出部側面は無調整	見込み中央を軽く横方向ナデ	優	石英小粒・白色小粒	－	－	－	(5.0)	
73b	15	M9-12 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕一部ナデるが不徹底、外周ナデ調整	見込み軽く横方向ナデ	優	海微量、石英小粒少	－	－	－	5.4	
73b	16	M9-12 1b層	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	破片	2.5Y7/1灰白	付高台低く、体部直線的に開く　底部付近右回転ヘラ削り調整幅広	横ナデ	良	白色大粒多く粗い	－	－	－	(13.2)	6a型式か　内面使用のため摩耗する
73c	18	1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以上	5YR6/6橙	底部ナデ調整するが右回転糸切痕若干残る　外周軽くナデ調整　口縁段ナデ	見込みナデず、口縁薄手	優	海・金雲母少、石英小粒・赤色小粒	(13.1)	(13.1)	3.3	(8.1)	

73c	19	1b層	土師質土器	カワラケ	1/3以上	5YR5/6明赤褐	底部ナデ調整するが若干右回転糸切痕残る　外周ナデ調整、口縁段ナデ顕著	見込みナデず、薄手	良	海・赤色小粒・石英小粒・白色小粒	(12.5)	(12.5)	3.5	7.4	
73c	20	M9-30	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周も無調整で底部若干突出	見込みナデない	良	海微量、石英小粒少	—	—	—	(7.5)	
73c	21	12トレ4	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕ナデ消す　底部外周ナデ調整し丸底に似せる　体部段ナデ	見込みナデない	良	海少、石英・長石小粒	(9.0)	(9.0)	(1.5)	(5.7)	
73c	22	M9-00	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整で外周ナデ調整するが底部突出顕著、体部段ナデ顕著	見込み不明	良	海少	(8.4)	(8.4)	2.1	5.5	
73c	23	1.9-29	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整で外周ナデ調整するが、底部若干突出気味	見込み不明	良	石英小粒・白色小粒	—	—	—	(5.2)	
73c	24	1b層	土師質土器	カワラケ	2/3	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部突出する　体部中位に横ナデによる屈曲顕著	見込みナデない	良	海微量、長石中粒・白色小粒	(9.4)	(9.4)	2.0	5.2	
73c	25	12トレ19	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部外周のみ右回転糸切痕ナデ消す	見込み不明だが横方向ナデ施さないものと思われる	良	石英微粒・白色小粒少	—	—	—	(7.0)	
73c	26	M9-40 Ⅲ期	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周も無調整で若干突出　体部内弯しつつ立ち上がる	見込みナデない	良	海微量、金雲母少	—	—	—	4.8	
73c	27	1.9-39-60　1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部糸切痕ナデ消し、網代状押捺痕残る　底部外周無調整で突出顕著	見込み横方向ナデ	良	海・金雲母微量	—	—	—	(4.6)	
73c	28	12トレ26	瀬戸産陶器	志野皿	破片	2.5Y8/2灰白	削り出し高台、全面施釉2.5Y8/1灰白、貫入　畳付釉拭き取り、底部目痕あり	全面施釉	良	微黒粒少	—	—	—	(6.6)	近世
73d	30	14トレ31	竜泉窯系青磁	碗	破片	10YR8/3浅黄橙	口縁帯状に浮き彫りするが鎬蓮弁は認められない　施釉5GY6/4オリーブ黄、釉層薄く貫入	劃花文、施釉	良	白色小粒少	(14.1)	(14.1)	—	—	Ⅰ-2類か
73d	31	M9-41	青白磁	皿	破片	白	施釉5GY8/1灰白	劃花文、施釉	緻	密で硬質	—	—	—	—	Ⅷ-1類
73d	32	M9-66	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	体部中位段ナデ	見込み不明	良	石英微粒・白色微粒	(13.7)	(13.7)	—	—	
73d	33	M9-42 1b層	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR6/6橙	底部回転糸切痕ナデ消し、外周ナデ調整　体部段ナデ施すが顕著ではない	見込み不明	良	海微量、石英微粒少	(13.1)	(13.1)	(3.2)	(8.0)	
73d	34	M9-43 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/8橙	内弯気味に立ち上がる横ナデによる体部中位の屈曲無いが、口縁部の横ナデは強調	見込み不明	良	金雲母少、石英中粒・赤色中粒・白色小粒	(5.1)	(5.1)	—	—	口縁部は非ロクロ2段ナデの影響か
73d	35	M9-42 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕ナデるが不徹底、外周無調整で底部突出顕著	見込み軽く横方向ナデ	良	海微量、石英小粒少	—	—	—	4.8	
73d	36	11トレ	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	底部ナデ調整	見込み不明	良	海・赤色小粒・石英小粒・長石小粒少	—	—	—	(5.7)	
73d	37	11トレ	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部ナデ調整	見込みナデない	良	海・石英小粒少	—	—	—	(5.6)	
73d	38	11トレ	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR5/6明赤褐	底部ナデ調整	見込みナデない	良	海・赤色小粒・石英小粒・長石小粒少	—	—	—	(5.6)	
73d	39	M9-51 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部ナデ調整するが回転糸切痕若干遺存、体部内弯しつつ立ち上がる	見込み不明	良	海・石英小粒	—	—	—	(7.0)	
73d	40	11トレ	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部糸切痕ナデ消し、外周ナデ調整	見込みナデない	良	海・角閃石微量、石英小粒少	—	—	—	(6.4)	
73d	41	M9-51 1b層	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	底部ナデ調整するが糸切痕若干遺存、底部外周ナデ調整し、立ち上がり部境を滑らかにする	見込みナデない	良	海・角閃石微量、石英小粒・白色小粒	—	—	—	(6.4)	
73d	42	M9-45	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	体部中位屈曲顕著	見込み不明、口縁部ナデるが薄手ではない	良	石英・長石中粒・白色小粒	(7.4)	(7.4)	2.1	(4.7)	
73d	43	M9-45	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	底部ナデ調整するが右回転糸切痕若干遺存　底部外周をナデ調整し立ち上がり部からの流れを滑らかにする	見込みナデない	良	海少、石英小粒・白色小粒	—	—	—	(6.2)	
73d	44	M9-41 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周ナデ調整し底部突出しない	見込み横方向ナデ	良	石英小粒	—	—	—	5.2	

73d	45	M9-66	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	体部中位段ナデ	見込み不明、口縁部ナデ、薄手にする	優	石英大～小粒・赤色中粒・白色小粒	(8.0)	(8.0)	1.9	(5.6)	
73d	46	M9-49 Ⅰb層	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕無調整	見込みナデない	優	海微量、石英中粒・白色小粒	－	－	－	－	
73d	47	M9-68	常滑産陶器	片口鉢Ⅱ	破片	2.5YR3/4暗赤褐	体部縦方向ヘラ削り後ナデ、口縁下強く横ナデ、口縁角形	口縁下やや強く横ナデ	良	長石大～中粒多く粗い	(28.4)	(29.7)	－	－	7型式
73d	48	11トレ	瀬戸産陶器	志野皿	1/4以下	10YR8/2灰白	削り出し高台、全面施釉10YR8/1灰白、貫入畳付釉拭き取り、底部目痕あり	全面施釉	良	長石小粒・微黒粒少	－	－	－	(6.6)	
73d	49	M9-52	瀬戸産陶器	石皿	破片	2.5Y8/1灰白	灰釉2.5Y6/3にぶい黄施釉、貫入	灰釉施釉、貫入	良	白色小粒	(34.0)	(34.0)	－	－	
73e	52	2b層12	常滑産陶器	壺	破片	2.5Y7/1灰白	2条の沈線巡らす　自然釉7.5Y5/3灰オリーブ	指頭で輪積部粗くナデ	優	長石中粒・黒色小粒少	－	－	－	－	三筋文壺か
73e	53	M9-90	渥美産陶器	片口鉢	1/4以下	10YR7/2にぶい黄橙	底部付近右回転ヘラ削り1段丁寧に施す　付高台の畳付に籾殻圧痕	横ナデ	良	白色大粒少	－	－	－	(14.0)	内面使用で摩耗する　12C後葉
73e	54	1b2層	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、突出外面ナデ調整、底部網代痕付着	見込み軽く横方向ナデ	優	金雲母・石英小粒微量、白色小粒	－	－	－	(6.4)	
73e	55	1b2層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消す　突出顕著だが側面ナデ調整、口縁下の段ナデ顕著	見込み横方向ナデ	優	海・金雲母・石英微粒・白色小粒少	(8.8)	(8.8)	1.9	(4.9)	
73e	56	1b2層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、突出顕著だが側面ナデ調整	見込みナデない	優	海微量、石英小粒少	－	－	－	(5.2)	
73e	57	1b2層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部回転糸切痕無調整、突出やや顕著だが側面ナデ調整	見込み横方向ナデ	優	石英・長石小粒	－	－	－	(6.0)	
73e	58	1b2層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、突出やや顕著だが側面ナデ調整	見込みナデない	優	石英・長石小粒	－	－	－	(5.3)	
73e	59	1b2層	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR8/2灰白	底部右回転糸切痕無調整、底部突出やや顕著だが側面ナデ調整	見込み不明	優	海微量、金雲母・赤色小粒少	－	－	－	(5.3)	
73e	60	1b2層	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕一部ナデ、高台柱状に突出	見込み軽く横方向ナデ	優	海少、白色小粒多	－	－	－	(4.3)	
73f	61	3b1下層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整で外周ナデ調整する体部の段ナデ顕著	見込み不明	優	海・石英小粒微量	(8.6)	(8.6)	2.0	(5.0)	
73f	62	136・137	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部外周のみ右回転糸切痕ナデ消し丸底意識	見込み横方向ナデ	優	角閃石微量、金雲母・石英小粒・赤色小粒・小礫少	－	－	－	(8.1)	
73f	63	137-12	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部糸切痕をナデ消す　底部外周ナデ調整	見込み軽く横方向ナデ	優	海・石英小粒・白色小粒少	－	－	－	(4.4)	
73f	64	16トレ-6	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部回転糸切痕ナデ消すが不徹底　底部外周ナデ調整　体部段ナデ	口縁部若干ナデ押さえるが薄手には至らない　見込み軽く横方向ナデ	優	海・金雲母微量、石英小粒少	(8.4)	(8.6)	1.7	(5.8)	
73f	65	テラス	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	破片	10YR7/1灰白	粗雑な付高台	横ナデ	良	長石大～中粒多く粗い	－	－	－	(13.6)	内面使用で摩耗する　6a型式
73f	66	古包層	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	破片	5Y7/1灰白	口縁下若干強く横ナデ	横ナデ、降灰7.5Y5/3灰オリーブ	良	長石大～中粒	－	－	－	－	
73f	67	29-18	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	破片	10YR7/2にぶい黄橙	底部付近回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石大～中粒多く粗い	－	－	－	－	6a型式か　内面使用のため摩耗する　破面を一部砥石に転用
73f	68	M10-90	渥美産陶器	壺	破片	2.5YR3/1暗赤灰	頸部別成形、横ナデ	横ナデ	良	白色中粒少	－	－	－	－	
73f	69	345 一括	渥美産陶器	甕	破片	2.5Y6/2灰黄	格子状タタキ	横方向ナデ	優	白色小粒、微黒粒少、硬質	－	－	－	－	
73f	70	345 一括	竜泉窯系青磁	碗	破片	7.5Y6/1灰	鎬連弁文刻出、施釉2.5GY6/1オリーブ灰、釉厚ややく気泡入る	施釉	優	白色微粒少、硬質	(17.7)	(17.9)	－	－	Ⅰ-5類
73f	71	16トレ2	瀬戸産陶器	擂鉢	破片	2.5Y8/3淡黄	鬼板刷毛塗り5YR4/6赤褐	櫛描きで擂目施す21本/2cm	良	白色大粒少	(22.8)	(23.2)	－	－	近世
73f	72		美濃産陶器	灯明皿	1/4以下	10YR5/1褐灰	体部横ナデ、底部右回転ヘラ削り調整	鬼板10R4/4赤褐施釉	良	白色小粒少	(9.8)	(10.0)	1.7	(5.0)	近世
C区	1	P1	竜泉窯系青磁	碗	破片	7.5Y7/1灰白	施釉5Y5/3灰オリーブ　貫入・気泡入る	劃花文　施釉	良	密で硬質	－	－	－	－	Ⅰ-2a類
C区	2	P2	渥美産陶器	壺	破片	2.5Y5/1黄灰	口縁部ナデ押し外反、鋭い　頸部自然釉5Y4/4暗オリーブ	降灰	優	白色大～中粒少	(18.8)	(20.1)	－	－	12C中～後葉
C区	3	P3	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕軽くナデるが不徹底、外周無調整で底部突出顕著	見込みナデない	優	長石小粒多	－	－	－	5.7	
C区	4	P4　1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部突出顕著、右回転糸切痕無調整	見込み軽く横方向ナデ	優	海少、石英小粒	－	－	－	(6.1)	
C区	5	M9-21 P5　1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕軽くナデるが不徹底、外周無調整で底部突出顕著	見込みナデない	優	石英中粒少	－	－	－	4.4	

C区	6	P6	土師質土器	カワラケ	1/4以下	2.5YR4/6赤褐	底部糸切痕ナデ消す 底部突出外面ナデ調整、体部中位に段状ナデ	見込み不明、口縁部ナデるが薄手には至らない	良	石英中粒・白色小粒	(7.6)	(7.6)	2.1	(5.1)	
C区	7	P7	土師質土器	カワラケ	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	口縁下の段ナデ顕著	見込み不明	良	砂粒多く粗い	(7.9)	(7.9)	(1.7)	(4.9)	
C区	8	P8	土師質土器	カワラケ	1/2	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕の外周部を不完全にナデ 底部突出の立ち上がり部を横ナデし滑らかにする 胴部中位に横ナデで屈曲表現	口縁部外側に折れる 横ナデ後、軽く見込み横方向ナデ	良	海綿骨、石英小粒・長石中粒・小礫	(12.6)	(12.6)	3.1	(6.2)	
C区	9	P9	灰釉陶器	皿	破片	2.5Y8/1灰白	底部右回転ヘラ削り調整後付け高台	横ナデ、見込み外周に灰釉5Y5/4刷毛塗り	良	微黒粒少	—	—	—	6.9	猿投産、10世紀中葉
C区	10	P10	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕軽くナデるが不徹底、底部突出顕著	見込み軽く横方向ナデ	良	海・金雲母・石英小粒少	—	—	—	5.5	
C区	11	P10	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周も無調整で底部突出顕著 段ナデ口縁下に施すものと思われる	見込みナデない	良	海・金雲母微量	—	—	—	(7.0)	
C区	12	P11 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	2.5YR6/8橙	底部右回転糸切痕軽くナデ、突出部側面無整形	見込みナデない	良	海・角閃石微量、石英中粒・白色小粒	—	—	—	(7.8)	
C区	13	P11 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消す 突出部整形のため底部外周を強く横ナデ	見込みナデない	良	海綿骨・石英小粒・白色小粒	—	—	—	(4.5)	
C区	14	P11	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	破片	2.5Y7/1灰白	口縁下若干強く横ナデ	降灰7.5Y5/3灰オリーブ	良	長石粒多	(34.7)	(35.0)	—	—	5型式でも古手か
C区	15	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	2.5YR4/6赤褐	底部ゆるくナデ調整するが右回転糸切痕遺存、突出外周無調整	見込みナデない	良	海綿骨、長石中～小粒	—	—	—	(6.4)	
75	1	ⅡP72-2	竜泉窯系青磁	碗	破片	5Y5/1灰	体部中転ヘラ削り調整 施釉2.5Y4/4オリーブ褐、釉層薄く小気泡入る	施釉	良	密で硬質	—	—	—	—	Ⅰ-1類
75	2	M10-08	竜泉窯系青磁	碗	破片	5Y7/1灰白	施釉5GY6/1オリーブ灰、小気泡	劃花文 施釉	良	密で硬質	—	—	—	(6.0)	Ⅰ-2a類
75	3	M10-03	竜泉窯系青磁	碗	破片	2.5GY8/1灰白	口縁帯状に浮き彫りするが鎬連弁は認められない 施釉5GY7/1明オリーブ灰、少気泡、質入	劃花文 施釉	良	密、硬く焼き締まる	—	—	—	—	Ⅰ-2類か
75	4	M10-07	青白磁	合子 蓋	1/4以下	若干青みかかった白	型押しで連弁と梅花陽刻する 全面施釉後、口縁部の釉拭き取り 釉10GY8/1明緑灰、細質入・少気泡	横ナデ 施釉後釉拭き取り	良	密で硬質	(6.2)	(6.3)	1.6	(5.7)	
75	5	—	渥美産陶器	甕	破片	10YR7/1灰白	体部斜上方向ヘラ削り後横方向ナデ	横方向ナデ	良	長石中粒少、黒色中粒多	—	—	—	(15.8)	
75	6	M9-93	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部～胴部ナデ調整で丸底に似せる 口縁段ナデ	見込みナデず、口縁部ナデ調整し若干端反る	良	海少、赤色中粒・白色微粒	(13.3)	(13.5)	4.1	4.6	
77a	1	M9-15	竜泉窯系青磁	碗	破片	10YR7/4にぶい黄橙	回転ヘラ削り調整 施釉2.5Y6/4にぶい黄、釉層薄く質入	劃花文 施釉	良	白色小粒少	—	—	—	—	Ⅰ-2類
77a	2	N9-40 2P2-2	竜泉窯系青磁	碗	破片	5Y8/1灰白	施釉5GY6/1オリーブ灰、小気泡	劃花文、施釉	良	白色小粒少	—	—	—	—	Ⅰ-4類
77a	3	M9-27	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整で外周部軽くナデる	見込み強く横方向ナデ1条	良	海・金雲母微量、石英小粒・赤色小粒少	—	—	—	(6.9)	
77a	4	ピット外 M9-25	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR7/3にぶい橙	底部右回転糸切痕無調整で外周ナデるが、丸底には似ない	見込み軽く横方向ナデ	良	石英中粒少、赤色小粒多	—	—	—	6.0	
77a	5	ピット外 M9-25	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR5/6明赤褐	胴部1段ナデで立ち上がる 底部ナデ調整するが糸切り痕遺存、外周ナデ調整で丸底意識	1条横方向ナデ	良	石英中～小粒・赤色小粒・白色小粒	(9.7)	(9.7)	1.8	6.4	
77a	6	ピット外 M9-36	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/8橙	底部糸切痕ナデ消す 突出部を横ナデ整形し丸底に近くする	見込みナデない	良	海少、石英大～小粒・白色小粒	—	—	—	5.0	
77a	7	M9-25	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	体部中位に段ナデ施す	見込み不明	良	海綿骨、石英小粒	(8.9)	(8.9)	(2.1)	(4.5)	
77a	8	M9-27	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	口縁部ナデるが屈曲つかない	見込み不明、口縁薄手	良	海綿骨、石英小粒少	(8.0)	(8.0)	1.5	(4.2)	
77a	9	M9-27	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	底部ナデ調整するが右回転糸切痕若干遺存 底部外周をナデ調整し立ち上がり部からの流れを滑らかにする	見込み不明	良	海綿骨、石英中粒少	—	—	—	(6.8)	
77a	10	ⅠP68	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、底部突出側面ナデ調整、体部段ナデ顕著	口縁薄くナデ調整、見込み軽く横方向ナデ	良	海綿骨、長石・白色中粒少	(8.3)	(8.3)	2.1	(5.0)	
77a	11	M9-27	土師質土器	カワラケ	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整で突出外周ナデ	見込み極めて軽く横方向ナデ	良	海・石英小粒	—	—	—	(5.4)	

77a	12	ピット外 M9-25	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR7/6橙	底部右回転糸切痕無調整で外周ナデるが、丸底には仮ない	見込みナデない	良	海綿骨針・金雲母微量	－	－	－	(4.4)	
77b	1	P1	土師質土器	カワラケ	1/4以上	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整　底部外周ナデ調整するが若干突出	見込み横方向ナデ	優	海少、白色小粒多	－	－	－	(5.8)	
77b	2	P1	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、底部外周ナデ調整するがやや突出	見込み軽く横方向ナデ	優	角閃石微量、赤色・白色小粒少	－	－	－	(5.2)	
77b	3	M9-19 P1	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	口縁下段ナデ、口縁若干端反気味	見込み不明、口縁押さえ薄口にする	優	海微量、長石小粒少	(9.4)	(9.4)	－	－	
77b	4	M9-19 P1	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周ナデ調整し底部突出しない	見込み不明　口縁押さえ薄口にする	優	海・石英微粒少	(8.9)	(8.9)	2.0	(6.0)	
77b	5	P1	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	口縁下段ナデ顕著	見込み不明　口縁付近強く横ナデし薄手にする	優	石英小粒・白色小粒	(9.4)	(9.4)	1.7	(6.0)	
77b	6	P1	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕極めて軽くナデ、底部外周ナデ調整	見込み軽く横方向ナデ	優	角閃石微量、石英中粒・白色小粒少	－	－	－	(5.9)	
77b	7	M9-19 P1	土師質土器	カワラケ	4/3以上	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕　一部不完全にナデ消す　底部突出外面は無整形	軽く見込み横方向ナデ	優	海少、石英小粒・白色小粒	8.8	8.8	2.5	5.2	
77b	8	M9-20 P2	渥美産陶器	甕	破片	10YR8/2灰白	自然釉10Y2/1黒	自然釉7.5Y5/3灰オリーブ	優	白色大粒少	(57.2)	(58.8)	－	－	常滑2型式並行
77b	9	N9-20 P3	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	破片	2.5Y7/1灰白	口縁下強く横ナデし下縁状にする	横ナデ	良	長石大～中粒多く粗い	(31.5)	(32.9)	－	－	6a型式
77b	10	N9-20 P3	竜泉窯系青磁	碗	破片	5Y8/1灰白	体部回転ヘラ削り調整　施釉5Y5/4オリーブ　釉垂わりと薄く小気泡入る	劃花文　施釉	良	密で硬質	－	－	－	－	Ⅰ-2a類
77b	11	M9-28 P5	土師質土器	カワラケ	3/4	10YR7/4にぶい黄橙　他のカワラケより白味強い	体部中位から底部にかけてナデ整形し糸切痕と底部突出を留す　網代状押捺痕残る	見込みナデない	優	海・金雲母少、白色小～微粒	(8.7)	(8.7)	1.3	5.7	
77b	12	M9-29 P6	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消すが不徹底、外周ナデ調整、体部下位に段ナデ顕著でない	見込みナデない	良	石英小粒	(8.3)	(8.3)	(1.8)	5.4	
77b	13	M9-29 P6	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消すが不徹底、外周ナデ調整、体部下位に段ナデ顕著でない	見込みナデない	良	白色微粒少	(7.9)	(7.9)	(1.8)	4.4	
77b	14	M9-29 P6	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部突出無調整だが顕著でない　糸切り痕無調整　体部段ナデ顕著	見込み不明、口縁押さえ薄口にする	優	海微量	(8.9)	(8.9)	2.0	(5.1)	
77b	15	M9-29 P6	土師質土器	カワラケ	2/3	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕軽くナデるが不徹底で外周は無調整だが殆ど突出しない　体部段ナデするが顕著でない	見込み軽く横方向ナデ	良	石英小粒少	(8.3)	(8.4)	2.3	4.7	
77b	16	M9-29 P6	土師質土器	カワラケ	3/4	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、段ナデ顕著	見込み極めて軽く横方向ナデ	優	海微量、石英小粒少	9.2	9.2	2.4	5.9	
77b	17	M9-29 P6	土師質土器	カワラケ	1/2	7.5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消し、外周ナデ調整するが若干底部突出する　胴部下位に段ナデ	見込み軽く横方向ナデ	良	海微量、石英小粒少	－	－	－	5.9	丸底から突出底部への過渡期か　丸底のイメージを若干引く
77b	18	N9-30 P7	土師質土器	カワラケ	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整で外周も無調整だが突出顕著でない　体部内弯気味に立ち上がる	見込み軽く横方向ナデ	優	海微量、石英小粒少	－	－	－	(7.1)	
77b	19	M9-38 P9	土師質土器	カワラケ	2/3	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部突出する　体部内弯気味に立ち上がる	見込みナデない	優	海微量、石英中～小粒・赤色中～小粒・白色小粒・砂粒	(10.6)	(10.6)	(2.7)	7.3	
77b	20	M9-27 P10	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、底部外周ナデ調整、段ナデきわめてゆるい	見込みナデない	良	海・石英微粒少	(7.9)	(7.9)	1.7	(4.8)	
77b	21	M9-28 P11	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消し外周ナデ調整するが底部若干突出　体部段ナデするが顕著でない	見込みナデない	良	白色中粒少	(8.0)	(8.1)	1.7	(4.7)	
77b	22	一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR6/4にぶい橙	底部右回転糸切痕無調整、体部横ナデ	見込み不明	良	海少、石英小粒・赤色中粒	－	－	－	(6.8)	
78a	1	P1	土師質土器	カワラケ	1/4以上	5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消し、外縁ナデ調整、丸底意識	見込みナデない	優	海少、石英小粒多	－	－	－	6.4	
78a	2	P1	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消すが外周無調整、体部段ナデ施すが顕著でない	見込み不明	良	海・金雲母微量	(9.1)	(9.1)	2.1	(6.8)	
78a	3	P3 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部回転糸切痕ナデ消すが、立ち上がり部無調整で底部若干突出する	見込みナデない	優	海少、金雲母・石英小粒・長石中粒少	－	－	－	(5.2)	

78a	4	P3 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部若干突出する	見込みナデない	良	海微量、金雲母・石英小粒・長石中粒少	—	—	—	(5.4)	
78a	5	P3 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近に浅く1段ヘラ削り施し丸底に似せる　その上位から胴部中位に1段ヘラ削し、屈曲を強調　底部の回転糸切痕はナデ消されている	見込みナデない	良	海少、金雲母・石英小粒・砂粒	(9.6)	(9.6)	2.1	(4.8)	
78a	6	P3 一括	土師質土器	カワラケ	1/2以下	5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消し、外周部ヘラ削り調整　体部中位に横ナデによる屈曲表現顕著	見込みナデない	良	海少、金雲母微量、石英中粒少、白色小粒	(9.8)	(9.8)	1.9	(6.0)	
78a	7	P3 一括	土師質土器	カワラケ	1/2	5YR6/6橙	底部ナデ調整するが若干右回転糸切痕残る　突出側面ナデ、口縁2段ナデ	軽く見込み横方向ナデ	良	金雲母微量、海・赤色小粒・白色小粒	12.0	12.0	3.6	7.5	
78a	8	1.9-28	渥美産陶器	壺	破片	2.5Y8/1灰白	斜上方ヘラ削り後横方向ナデ	底部～胴部下位まで降灰	良	白色中粒少	—	—	—	(12.8)	砥石に転用、仕上砥
78b	1	P1	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、底部外周ナデ調整、口縁下段ナデ、底部やや突出	見込み軽く横方向ナデ	良	海微量、金雲母少	(12.8)	(13.0)	3.6	(7.0)	
78b	2	P1	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部外周ナデ調整、体部段ナデ2段意識か	見込み不明	良	海微量、金雲母少	(13.0)	(13.0)	3.7	(6.7)	
78b	3	P1	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周も無調整で底部やや突出、口縁下に段ナデ	見込み軽く横方向ナデ	良	海・金雲母少	(12.5)	(12.5)	(3.3)	(7.1)	
78b	4	P1	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周も無調整で若干突出	見込み軽く横方向ナデ	良	海微量、白色小粒少	—	—	—	6.9	
78b	5	P1	土師質土器	カワラケ	1/3	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切無調整、外周も無調整で突出やや顕著　体部段ナデ顕著	見込み軽く横方向ナデ	良	海・金雲母微量	(8.6)	(8.6)	2.2	(5.7)	
78b	6	P1	土師質土器	カワラケ	2/3	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周も無調整で底部突出顕著、体段ナデ顕著	見込み横方向ナデ	良	海微量、金雲母少	8.5	8.7	2.4	5.9	
78b	7	P1	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整で外周ナデ調整するが底部突出やや顕著	見込み横方向ナデ	良	石英中～小粒少	—	—	—	5.0	
78b	8	P1	土師質土器	カワラケ	2/3	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周ナデ調整、体部段ナデ顕著	見込み軽く横方向ナデ	良	海・金雲母微量・石英小粒少	(8.6)	(8.6)	2.1	6.0	
78b	9	P1	土師質土器	カワラケ	2/3	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部若干突出する　体部中位に横ナデによる屈曲顕著	とろけて不明瞭だが口縁部外側に折れるものと思われる　軽く見込み横方向ナデ	良	海少、石英小粒・白色微粒・砂粒	(8.8)	(8.8)	2.1	5.2	
78b	10	P2	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消す　底部縁辺ナデ調整、丸底意識か　体部段ナデ施すが顕著でない	見込み軽く横方向ナデ　口縁押さえ薄口にするが徹底しない	良	金雲母微量、海・石英小粒少	(8.1)	(8.1)	2.2	(6.0)	
78b	11	P2	土師質土器	カワラケ	3/4	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕無調整、底部突出の立ち上がり部を横ナデし滑らかにする	見込みナデない	良	海少、金雲母・石英小粒・白色小粒	(8.8)	(8.8)	2.3	6.0	
78b	12	P3	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部外周ナデ調整、口縁下の段ナデ2段意識	見込み不明	良	海・金雲母微量、石英小粒少	(12.2)	(12.2)	3.5	(7.4)	
78b	13	P3	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整で外周ナデ調整	見込み不明	良	海微量、石英小粒少	—	—	—	(7.0)	
78b	14	P3	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周も無調整で底部突出やや顕著	見込み横方向ナデ	良	石英微粒少	—	—	—	5.5	
78b	15	P4	土師質土器	カワラケ	破片	2.5YR5/6明赤褐	体部内湾しつつ立ち上がる	見込み不明、口縁押さえ薄口にする	良	石英小粒少	(12.7)	(12.7)	—	—	
78b	16	P4	土師質土器	カワラケ	2/3	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整で外周も無調整だが突出しない　体部下位に段ナデ　厚底	見込み軽く横方向ナデ	良	海・金雲母少	(9.1)	(9.1)	(2.2)	(6.2)	
78b	17	P5 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周軽くナデるが不徹底で底部若干突出	見込みナデない	良	石英中～小粒	—	—	—	5.5	
78b	18	P6	土師質土器	カワラケ	1/3	5YR5/6明赤褐	口縁下段ナデ顕著	見込み不明　口縁ナデ調整し薄手にするが不徹底	良	海・角閃石少、白色小粒	(7.9)	(7.9)	1.6	(6.2)	
78b	19	P6	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、突出顕著	見込みナデない	良	海・石英小粒・白色小粒少白色小粒少	—	—	—	(7.3)	
78b	20	P6	土師質土器	カワラケ	1/2	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、底部やや突出、体部段ナデ顕著	見込み軽く横方向ナデ	良	海・角閃石微量、石英中粒少	—	—	—	(5.3)	

78b	21	P7	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕無調整、底部突出の立ち上がり部を横ナデし消らかにする	横ナデ後軽く見込み横方向ナデ	良	海微量、金雲母粒・長石中粒	(12.4)	(12.4)	3.7	(8.0)	
78b	22	P8	土師質土器	カワラケ	1/4以上	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕軽くナデるが不徹底、外周ナデ調整	見込みナデない	良	海・金雲母少	—	—	—	6.6	
78b	23	P8	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整で外周も無調整、突出顕著	見込み軽く横方向ナデ	良	海微量、石英小粒少	—	—	—	(6.7)	
79	1	P4 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部外周無調整で若干突出、体部内弯しながら立ち上がる　口縁部やや強く横ナデ　段ナデの名残か手捏意識か	見込み不明	良	金雲母少、白色小粒	(13.1)	(13.1)	4.4	(6.7)	段ナデ退化段階か手捏意識
79	2	P5	土師質土器	カワラケ	1/2以下	5YR6/6橙	底部ナデ調整、口縁段ナデ、若干端反る	見込み不明、口縁ナデ調整し薄手にする	良	海少、長石中～小粒・石英小粒	(12.9)	(12.9)	3.7	(6.5)	
79	3	P5	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	口縁段ナデ顕著、若干端反る	口縁薄くナデ調整、見込み不明	良	海少、石英・白色小粒	(13.9)	(13.9)	(3.4)	(7.2)	
79	4	P5	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部糸切痕無調整で外周ナデ調整	見込み軽く1条横方向ナデ	良	海・石英中粒	—	—	—	(6.9)	
79	5	P7	土師質土器	カワラケ	2/3	5YR5/8明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部若干突出する　体部中位に横ナデによる屈曲	横ナデ後軽く見込み横方向ナデ	良	角閃石微量、海・石英小粒少、白色中～小粒	(9.0)	(9.0)	2.6	(5.2)	
79	7	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部回転糸切り痕軽くナデ消す　突出側面横ナデ	見込み1条横方向ナデ	良	金雲母・石英小粒少、砂粒	—	—	—	(6.2)	
79	8	P12 一括	土師質土器	カワラケ	破片	2.5YR6/8橙	内弯気味に立ち上がる横ナデによる体部中位の屈曲あるが殆ど目立たない	見込みナデない	良	海・金雲母少、石英中～小粒・白色小粒	(11.4)	(11.4)	(3.1)	(7.3)	
79	9	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/2	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部若干突出する	見込み軽く横方向ナデ	良	海微量、金雲母・石英微粒・白色小粒少、砂粒多	—	—	—	(6.0)	
79	10	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕軽くナデ　底部突出を浅くナデ消す　体部中位の屈曲はほとんど目立たない	見込みナデない	良	角閃石微量、石英中～小粒・白色小粒	(6.9)	(6.9)	1.5	(3.4)	
79	11	P12	土師質土器	カワラケ	3/4	5YR6/6橙	底部軽くナデ調整するが右回転糸切痕残る　突出側面ナデ調整、段ナデ顕著	見込みナデず、口縁部ナデ調整しやや薄手にする	良	海・角閃石微量、石英小粒少	(8.9)	(8.9)	2.4	5.3	
79	12	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/3	5YR5/6明赤褐	底部回転糸切り痕軽くナデ消す　体部横ナデ	見込み軽く横方向ナデ	良	海少、赤色中粒・石英中粒・白色小粒	—	—	—	5.4	
79	13	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕軽くナデ　底部突出の外面は無整形	見込みナデない	良	海・金雲母少、赤色中粒・白色小粒、微砂粒多くやや粗い	—	—	—	(5.5)	
79	14	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、突出側面も無調整	見込み軽く横方向ナデ	良	海少、石英中粒・白色中粒	—	—	—	(5.4)	
79	15	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕一部ナデ消す　底部突出の外面は無整形	見込みナデない	良	海微量、金雲母・小礫少、石英微粒	—	—	—	(6.6)	
79	16	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/3	5YR5/8明赤褐	底部右回転糸切痕一部ナデ消す　底部突出の外面は無整形	見込み軽く横方向ナデ	良	海・金雲母少、石英小粒・白色中～小粒	—	—	—	4.7	
79	17	P12 一括	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕一部ナデ消す　底部突出の外面は無整形	見込みナデない	良	金雲母微量、海・石英微粒・白色小粒少	—	—	—	(5.4)	
79	18	P12 一括	土師質土器	カワラケ	1/2	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部若干突出する	見込み軽く横方向ナデ	良	海少、金雲母・石英小粒・長石中粒少	—	—	—	(4.8)	
79	19	P12 一括	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/8橙	底部突出の外面無調整、横ナデによる体部中位の屈曲顕著	見込みナデない	良	海・金雲母微量、海綿骨針少、石英微粒・白色小粒	(6.7)	(6.7)	1.8	(3.1)	
79	20	P13 一括	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周ナデ調整するが突出顕著	見込み軽く横方向ナデ	良	海・金雲母微量、石英中～小粒	—	—	—	5.3	
79	21	P36	青白磁	皿	破片	白	底部～体部回転ヘラ削り調整　全面施釉後底部釉削り取る　釉10GY8/1明緑灰、小気泡	劃花文　施釉	良	密で硬質	—	—	—	(4.2)	Ⅳ類
79	22	P37	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR6/6橙	底部糸切痕ナデ消し、外周ナデ調整、体部段ナデやや顕著	見込み軽く横方向ナデ	良	海・金雲母微量	(9.3)	(9.3)	1.5	(5.6)	
79	23	P38	土師質土器	カワラケ	2/3	5YR6/8橙	底部回転糸切痕ナデ消すが、立ち上がり部無調整で底部若干突出する	見込みナデない	良	海・金雲母少、石英微粒・白色小粒	(8.2)	(8.2)	2.1	(4.6)	

79	28	W9-22 Ⅰb層	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	体部内弯しつつ立ち上がる	口縁部ナデ、若干薄くする	良	石英小粒・赤色大粒・白色小粒	(13.5)	(13.5)	—	—	
79	29	W9-21	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	体部中位屈曲顕著	見込み不明	良	海・石英小粒少、白色小粒	(12.4)	(12.4)	—	—	
79	30	W9-31 Ⅰb層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転系切り痕軽くナデるが不徹底、外周ナデ調整	横ナデ	良	海・金雲母・石英小粒少	—	—	—	(6.9)	
79	31	W9-41 Ⅰb層	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/8橙	体部中位屈曲明瞭でないが横ナデで強調している	見込み不明	良	金雲母徴量、石英中粒少	(12.0)	(12.0)	(2.3)	(8.0)	
79	32	W9-22 Ⅰb層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR6/4にぶい橙	底部ナデ調整するが回転系切痕若干遺存、底部外面をナデ調整	見込み軽く横方向ナデ	良	海少、石英小粒・赤色中粒・白色小粒	—	—	—	(5.2)	
79	33	W9-22 Ⅰb層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転系切痕を一部ナデ調整、底部外周をナデ調整し立ち上がり部境を滑らかにする	横ナデ	良	海徴量、石英小粒・赤色中粒・白色小粒少	—	—	—	(5.2)	
79	34	W9-31	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	破片	10YR6/1褐灰	口縁下強く横ナデ、下縁状にする	口縁下強く横ナデ	良	長石大～中粒多く粗い	(24.2)	(25.1)	—	—	
80	1	W9-48 P2	同安窯系青磁	碗	破片	5Y8/1灰白	櫛描き文　施釉5Y7/2灰白、貫入	調花文　施釉	良	密で硬質	—	—	—	—	Ⅰ-1b類
80	2	P22	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部糸切痕無調整で外周も無調整だが突出は顕著でない　体部内弯しつつ立ち上がる	見込みナデない	良	石英小粒少	—	—	—	(6.3)	
80	3	P22	土師質土器	カワラケ	2/3	5YR6/8橙	底部右回転系切痕無調整　底部突出外面も無整形、横ナデで体部中位に屈曲顕著	見込みナデない	良	海徴量、石英中～小粒・白色中粒	(9.2)	(9.2)	2.6	6.2	灯明皿に使用
80	4	P23	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/8橙	底部右回転系切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部突出する	見込みナデない	良	海徴量、石英中粒・赤色中粒・白色小粒	—	—	—	(5.6)	
80	5	P23	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR6/6橙	底部回転系切痕及び突出側面無調整、内弯しつつ立ち上がる	見込み不明	良	石英中粒・白色小粒	—	—	—	—	
80	6	P23	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	口縁部若干意識的にナデ　口唇部厚手	見込み不明	良	海徴量、石英中粒少	(11.1)	(11.5)	—	—	灯明皿に使用
80	7	P23	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	口縁部2段ナデ、下段は弱い	見込み不明　口縁部ナデ、やや薄くなる	良	海徴量、石英小粒・白色小粒	(12.1)	(12.1)	—	—	
80	8	P23	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	体部中位段ナデ	見込み不明、口縁部ナデ、やや薄手になる	良	石英大～小粒・白色小粒	(8.1)	(8.1)	2.1	(5.3)	
80	9	P23	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	体部中位段ナデ	見込み不明、口縁部ナデ、やや薄手になる	良	石英小粒・白色小粒	(8.7)	(8.7)	—	—	
80	10	W9-22	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転系切痕無調整、底部外周無調整	見込み軽く横方向ナデ	良	海小、長石小粒	—	—	—	5.4	
81	1	P6	土師質土器	カワラケ	1/4以下	10YR7/4にぶい黄橙	口縁部若干意識的にナデ	見込み不明	良	赤色中粒少	(11.9)	(12.0)	—	—	口縁の一部を焼成後研磨する　砥石転用か
81	2	P8	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/8橙	底部右回転系切痕ナデ消すが不徹底、底部突出外周をナデ調整	見込み軽く横方向ナデ	良	海・石英小粒・白色小粒少	—	—	—	(5.8)	
81	3	P10	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR6/6橙	横ナデによる体部中位屈曲顕著	見込み不明	良	金雲母少、白色小粒	(10.2)	(10.2)	—	—	
81	4	P10	土師質土器	カワラケ	破片	2.5YR5/8明赤褐	底部糸切痕ナデ消すが、突出部側面は無整形	見込みナデない	良	海少、石英中粒・白色小粒、微砂粒多	—	—	—	(4.8)	
81	5	P12	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	口縁部のナデ強調	見込み不明	良	海徴量、白色小粒	(11.7)	(11.8)	—	—	
81	6	P21	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/8橙	体部中位に2段の屈曲、底部突出の側面ナデ調整	見込み不明	良	海・金雲母徴量、白色徴粒少	(10.9)	(10.9)	(3.2)	(5.7)	
81	7	P21	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/8明赤褐	口縁部段ナデ顕著、丸底意識	見込み不明	良	海少	(8.4)	(8.5)	(1.9)	(5.6)	
81	8	P26	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR7/6橙	底部右回転系切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部若干突出する　体部中位に横ナデによる屈曲あるが顕著でない	見込み軽く横方向ナデ	良	海徴量、石英小粒・長石中粒・白色大粒	(9.0)	(9.0)	2.2	6.6	
81	9	P28	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR5/6明赤褐	底部右回転系切り痕及び突出外周無調整	見込みゆるく横方向ナデ	良	海・角閃石徴量、石英中粒・白色小粒	—	—	—	(5.6)	
81	10	P29	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	口縁段ナデ、2段意識すると思われるが、下段は顕著でない	見込み不明	良	海・金雲母・石英小粒少	(13.5)	(13.5)	—	—	
81	11	P34	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR6/6橙	内弯しつつ立ち上がる	口縁部外側に折れる	良	石英小粒・白色徴粒	(11.0)	(11.0)	—	—	
81	12	P34	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	底部糸切り痕ナデ消し、外周ナデ押さえる	見込みナデない	良	海徴量、石英小粒少	—	—	—	6.2	
81	13	P34	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR6/6橙	底部回転糸切痕軽くナデ、外周をナデ整形	見込みナデない	良	石英徴粒・白色徴粒	—	—	—	(6.0)	
81	14	P43	土師質土器	カワラケ	破片	10YR7/4にぶい黄橙	口縁部2段ナデ、下段は目立たない　口唇部厚手	見込み不明	良	金雲母徴量、白色小粒少	(13.0)	(13.3)	—	—	

81	15	P44	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR8/6浅黄橙	底部糸切痕ナデるが不徹底、静止糸切の可能性あり　外周ナデ調整	見込み横方向ナデ	良	石英微粒	－	－	－	(6.7)	
81	16	ピット外	土師質土器	カワラケ	破片	7.5YR6/6橙	横ナデ	見込み不明	良	白色小粒少	(12.8)	(12.8)	(3.1)	(8.0)	
81	19	P8	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	1/4以下	2.5Y7/1灰白	底部付近粗く二段の右回転ヘラ削り、付高台は高い	横ナデ	良	白色中粒多く粗い	－	－	－	(12.2)	内面使用で摩耗5型式
81	20	P28	渥美産陶器	片口鉢	破片	10YR7/2にぶい黄橙	口縁部若干強く横ナデ	口唇部横ナデし尖らす	良	白色小粒少	(24.9)	(24.9)	－	－	砥石に転用、仕上砥　常滑3型式並行期
81	21	W9-60	渥美産陶器	甕	破片	2.5Y7/2灰黄	体部斜上方向ヘラ削り後横方向ナデ	降灰5Y3/2オリーブ黒	良	白色小粒少	－	－	－	(13.4)	
81	22	W9-99	渥美産陶器	甕	破片	10YR8/2灰白	肩部降灰2.5Y6/4にぶい黄	頸部接合面指状に指頭圧痕	良	白色中粒少	－	－	－	－	12C中～後葉
87	1	I.9-18	渥美産陶器	片口鉢	1/4以下	2.5Y7/1灰白	体部横ナデ、底部ナデ調整	横ナデ	良	白色大粒少	－	－	－	(16.0)	内面使用で摩耗
87	2	I.9-18	渥美産陶器	片口鉢	破片	5Y6/1灰	口縁部横ナデしやや端反りに尖らす	横ナデ	良	白色中粒少	(27.5)	(27.5)	－	－	常滑2型式並行
87	3	I.9-08 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	2.5YR5/8明赤褐	底部糸切り痕軽くナデるが不徹底、外周無調整だがあまり突出しない　体部下位を横ナデでくびれさせ、底部突出と同様の形状を作る体部段ナデ施す	見込み横方向ナデ	優	海・金雲母少、石英小粒	－	－	－	(7.2)	
87	4	I.9-08	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整で外周も無調整だがほとんど突出しない　体部横ナデによるロクロ目顕著	見込みナデない	優	石英小粒・白色小粒	－	－	－	(7.2)	
87	5	I.9-09	土師質土器	カワラケ	1/2	2.5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕を一部だけナデ、底部外周部を幅約5.5mmナデ調整する　胴部中位に屈曲顕著	口縁部外側に折れる　見込み横方向ナデ	優	海微量、石英微粒・長石中粒、砂粒多	(9.0)	(9.0)	1.8	4.4	
87	6	I.9-18	土師質土器	カワラケ	3/4	2.5YR5/8明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部若干突出する　体部中位に横ナデによる屈曲	口縁部外側に折れる　軽く見込み横方向ナデ	優	海少、石英小粒・白色小粒	(8.4)	(8.4)	1.5	4.9	灯明皿
87	7	I.9-08 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕ナデるが不徹底、外周ナデ調整、段ナデ顕著になりつつある	見込み軽く横方向ナデ	優	角閃石・海微量	(9.2)	(9.2)	(1.9)	(6.0)	
87	8	I.9-18 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕を一部のみナデ、外周ナデ調整	見込み軽く横方向ナデ	優	角閃石・海微量	－	－	－	(5.7)	
87	9	I.9-18	土師質土器	カワラケ	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整だが縁辺ナデ調整、丸底意識か	見込みナデない	良	海・金雲母微量	－	－	－	(6.7)	
87	10	I.9-08	土師質土器	カワラケ	1/2	5YR6/8橙	底部右回転糸切痕無調整、底部突出の立ち上がり部を横ナデし滑らかにする	見込みナデない	優	海少、金雲母・角閃石微量、石英小粒・白色小粒	(8.3)	(8.3)	2.2	5.0	
87	11	I.9-18 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整で外周ナデ調整する　体部の段ナデ顕著　段ナデドのナデ線は2段ナデ形骸化か	見込みナデず、口縁押さえ薄口にするが、ややぬるい	優	石英小粒	(9.0)	(9.0)	1.9	5.5	
87	12	W9-00 1b層	土師質土器	カワラケ	破片	5YR6/6橙	口縁下の段ナデ顕著	見込み横方向ナデ、口縁押さえ薄口にする	優	海・金雲母少	(8.5)	(8.5)	－	－	
87	13	I.9-09 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部突出顕著、回転糸切痕無調整、体部段ナデ若干意識しつつも立ち上がり丸みを帯びる	見込み横方向ナデ	優	角閃石微量、石英小粒	(8.6)	(8.6)	1.8	(4.7)	
87	14	I.9-18 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、外周ナデ調整するが底部若干突出	見込み横方向ナデ	優	石英中～小粒多	－	－	－	5.0	
87	15	I.9-08 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、外周も無調整で底部突出顕著	見込みナデない	優	石英中粒少	－	－	－	(5.0)	
87	16	I.9-18 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR6/6橙	底部糸切痕無調整で突出顕著、体部段ナデ顕著	見込み横方向ナデ口縁押さえ薄口にする	優	海少、石英小粒	(9.1)	(9.1)	2.2	(6.1)	
87	17	I.9-18 1b層	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整で突出顕著、体部段ナデ顕著	見込み軽く横方向ナデ	優	海微量、石英小粒少	－	－	－	(5.3)	
87	18	I.9-08 1b層	土師質土器	カワラケ	破片	10YR6/4にぶい黄褐	底部右回転糸切痕無調整、外周も無調整で底部突出顕著	見込み横方向ナデ	良	海・金雲母少	－	－	－	4.7	
93	1	覆土中	土師質土器	カワラケ	1/2	2.5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整で底部若干突出する	見込み全面横方向ナデ	優	白色小粒	－	－	－	6.5	

93	2	覆土中	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整するが外周部無調整でやや突出する	見込みナデない	優	海綿骨針、石英中～小粒・白色小粒	－	－	－	(5.6)	
93	3	覆土中	土師質土器	カワラケ	破片	5YR5/6明赤褐	底部回転糸切痕ナデ消すが、立ち上がり部無調整で底部若干突出する	見込みナデない	優	角閃石微量、石英中～小粒多	(8.2)	(8.2)	2.1	(5.3)	
93	4	覆土中	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	破片	2.5Y7/2灰黄	底部付近一段の幅広ヘラ削り、付高台は低め	底部降灰7.5Y5/3灰オリーブ	良	長石大～中粒多く粗い	－	－	－	(12.8)	6a型式
95	1	P1	土師質土器	カワラケ	1/4	7.5YR7/6橙	底部右回転糸切痕無調整、立ち上がり部も無調整だが底部の突出は顕著でない	見込み軽く横方向ナデ	優	海綿骨針、金雲母・石英微粒	－	－	－	(5.0)	
95	2	P4	渥美産陶器	壺	破片	10YR6/2灰黄褐	横ナデし口縁鋭く外反させる　頸部中位以下に降灰5Y5/3灰オリーブ	横ナデ、口縁～頸部降灰	良	白色大～中粒	(13.7)	－	－	－	12C中～後葉
103	1	－	渥美	甕	破片	10YR5/2灰黄褐	胴部斜上方ヘラ削り、タタキの押印帯	ナデ、輪積痕残す降灰2.5Y8/2灰白（かせる）	良	小礫含む、白色粒子多	－	－	－	(11.0)	12C後葉～13世紀前葉
103	2	－	土師器	杯	3/4	5YR6/8橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット・石英微粒少、白色微粒	(12.7)	(12.7)	3.8	6.4	内面使用のため摩耗
106	1	覆土中	土師質土器	カワラケ	1/2以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、底部突出側面も無調整で突出顕著、体部段ナデ顕著	やや厚手、見込み軽く横方向ナデ	優	海・角閃石微粒、石英・長石中粒・白色小粒多	(9.0)	(9.0)	2.0	5.1	
106	2	覆土中	土師器	杯	破片	7.5YR5/6明褐	下部横方向ヘラ削り、頸部横方向ナデ	横方向ナデ	優	石英粒・長石粒・小礫・砂粒多	(14.4)	(14.4)	－	－	鬼高式
107	1	覆土中	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR5/6明赤褐	底部糸切痕ナデ消し、突出側面ナデ調整	見込みナデない	優	海綿骨針、金雲母・石英小粒少、白色小粒多	－	－	－	4.9	
107	2	覆土中	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整、突出側面も無調整	見込み軽く横方向ナデ	優	海・金雲母少、石英小粒・白色小粒	－	－	－	(6.2)	
108	1	覆土中	土師質土器	カワラケ	完形	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、底部突出外周ナデ調整、体部段ナデ施すが顕著でない	厚手、見込み軽く横方向ナデ	優	海・角閃石微粒、石英小粒・赤色小粒・白色小粒多	8.4	8.4	2.0	5.9	
109	1	54-014	土師質土器	カワラケ	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部糸切り痕ナデ消し、側面ナデ調整、段ナデ施すが顕著でない	見込み軽く横方向ナデ	優	海・角閃石微粒、石英小粒・赤色中粒・白色小粒	(9.0)	(9.0)	2.2	(6.2)	
109	2	54-005	常滑産陶器	片口鉢Ⅰ	破片	2.5YR7/1灰白	底部付近左回転ヘラ削り調整、体部やや丸み帯びる　付け高台	横ナデ	良	長石大～中粒多く粗い	－	－	－	(17.4)	3型式　内面使用のため摩耗
109	3	30-4・7	常滑	片口鉢Ⅰ	1/4以下	2.5Y6/2灰黄	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整、付高台	横ナデ	良	長石粒多、やや粗い	－	－	－	(10.0)	2型式(12ｃ後葉)か　内面使用のため摩耗
B区	4	一括	弥生土器	壺	破片	7.5YR6/6橙	複合口縁に棒状浮文貼付後、斜縄文（RL）	ナデ後赤彩2.5YR5/6明赤彩	良	石英小粒	－	－	－	－	
B区	5	一括	弥生土器	壺	破片	7.5YR7/6橙	肩部一重結節文2状の下を斜縄文5条以上（上からLR・RL・LR・RL・LR）、施文帯以外はヘラミガキ・赤彩10R4/6赤	横方向ナデ	良	角閃石・石英小粒	－	－	－	－	
B区	6	一括	弥生土器	壺	破片	5YR6/6橙	複合口縁斜縄文（LR）、下部押捺、頸部ヘラミガキ・赤彩2.5YR3/4暗赤褐施すが、複合部直下は工具が廻らずナデ調整程度	横方向ヘラミガキ、赤彩	優	白色中～小粒多	(14.0)	－	－	－	
B区	7	一括	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	頸部タテハケ後縦方向ヘラミガキ	頸部左方向ハケ後ヘラミガキ	優	石英・白色小粒	(9.6)	－	－	－	弥生終末期
C区	17	一括	弥生土器	鉢	破片	5YR6/6橙	口縁部輪積痕に結節押捺、斜縄文2段（下からRL・LR）	横方向ヘラミガキ・赤彩：10R4/8赤	優	石英小粒・白色小粒少	－	－	－	－	
C区	18	一括	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	複合口縁下部に竹管で押捺	横方向ナデ	優	石英微粒・白色小粒	－	－	－	－	
C区	19	一括	弥生土器	鉢	破片	7.5YR6/6橙	口縁部輪積痕に結節押捺、斜縄文（RL）、口唇部面取り斜縄文（LR）	横方向ヘラミガキ	良	石英微粒	－	－	－	－	
C区	20	一括	弥生土器	壺	破片	7.5YR6/6橙	肩部沈線による山形文の外部を赤彩：10R4/8赤　山形文上に斜縄文（LR）	横方向ナデ	良	石英中粒・赤色中粒・白色中粒	－	－	－	－	
C区	21	一括	弥生土器	壺	破片	7.5YR6/6橙	肩部沈線による山形文内を斜縄文（LR）、外部赤彩：10R4/8赤	横方向ナデ	良	白色中粒	－	－	－	－	
C区	22	一括	弥生土器	壺	破片	7.5YR6/6橙	肩部沈線による山形文内を斜縄文（LR）、外部赤彩：10R4/8赤	横方向ナデ	良	白色中粒・赤色中粒	－	－	－	－	
C区	23	一括	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	頸部斜縄文2段（下からRL・LR）	横方向ナデ	優	長石粒微量、白色小粒少	－	－	－	－	

C区	24	一括	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	複合口縁上面に斜縄文（LR）	横方向ナデ	良	金雲母少、石英微粒・赤色大粒	－	－	－	－	
C区	25	一括	弥生土器	壺	破片	5YR5/6明赤褐	頸部斜縄文（LR）	横方向ナデ	良	石英微粒・白色小粒	－	－	－	－	
C区	26	一括	弥生土器	壺	破片	2.5YR5/6明赤褐	肩部沈線による山形文内を斜縄文2条、下からLR・RL、外部赤彩：10R3/6赤	横方向ナデ	良	石英微粒・白色微粒	－	－	－	－	
C区	27	一括	弥生土器	鉢	破片	5YR6/6橙	口縁部斜縄文（RL）、口唇部面取り斜縄文（LR）	横方向ナデ	良	白色中粒・赤色中粒	－	－	－	－	
C区	28	一括	弥生土器	壺	破片	2.5YR5/6明赤褐	肩部無節R	横方向ナデ	良	白色大粒・赤色大粒	－	－	－	－	
C区	29	一括	弥生土器	甕	破片	7.5YR6/6橙	頸部に1段輪積痕残し結節押捺	横方向ナデ	良	石英小粒	－	－	－	－	外面 二次焼成で煤付着
C区	30	一括	弥生土器	鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	複合口縁部に斜縄文（LR）、口唇部面取り	横方向ヘラミガキ	良	石英小粒・白色小粒・赤色中粒	－	－	－	－	
C区	31	一括	弥生土器	甕	破片	7.5YR5/4にぶい褐	頸部に1段輪積痕残し結節押捺	横方向ヘラナデ	良	石英中粒・白色小粒	－	－	－	－	
C区	32	一括	弥生土器	壺	破片	10R7/4にぶい黄褐	頸部 一重結節文S字状（R）上2条・下3条間に斜縄文RL	横方向ヘラナデ、赤彩：2.5YR4/6赤褐	良	石英中～小粒少、白色小粒多	－	－	－	－	
C区	33	一括	弥生土器	壺	破片	5YR6/6橙	肩部 一重結節文Z字状（R）2条	横方向ナデ	良	石英小粒・白色中粒	－	－	－	－	
C区	34	一括	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒少	(12.6)	(12.6)	4.3	(6.0)	
C区	35	一括	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	金雲母、白色微粒	－	－	－	(7.0)	
C区	36	一括	土師器	杯か	破片	2.5YR6/8橙	底部右回転糸切り無調整	横ナデ	良	白色微粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	37	一括	土師器	杯	破片	2.5YR5/8明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整 中央部に右回転糸切痕残す	横ナデ	良	海・角閃石微量、石英小粒・白色中～小粒	－	－	－	(6.2)	
C区	38	一括	土師器	椀	破片	7.5YR6/6橙	高台貼付後横ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	海微量、石英・長石小粒少、白色小粒	－	－	－	(6.4)	
C区	39	M10-37	土師器	椀	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付高台後ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英粒・白色小粒少	－	－	－	(7.4)	見込み焼成後線刻
C区	40	M9-94	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、石英微粒・白色中～小粒	－	－	－	7.6	
C区	41	M10-04	土師器	椀	破片	7.5YR4/3褐	付高台後ナデ	ヘラミガキ・黒色処理	良	石英小粒・白色小粒	－	－	－	(8.3)	
C区	42	M9-45	土師器	椀	破片	5YR5/6明赤褐	底部付高台、ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	海微量、石英小粒・白色小粒	－	－	－	(6.0)	
C区	43	M10-03	土師器	杯	3/4	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海、白色小粒多	12.3	12.3	4.5	6.9	
C区	44	L9-08 Ib層	土師器	杯か椀	破片	10YR6/4にぶい黄橙	底部右回転ヘラ削り調整	見込み横方向ヘラミガキ、黒色処理	良	石英微粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	45	L9-08 Ib層	土師器	杯	破片	10YR6/4にぶい黄橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英中～小粒少	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	46	L9-08 Ib層	土師器	杯	破片	10YR5/4にぶい黄橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海少	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	47	M9-41 Ib層	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、石英小粒少、白色小粒多	－	－	－	(6.8)	見込み焼成後線刻
C区	48	73a	土師器	杯	破片	7.5YR5/4にぶい褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒	－	－	－	(7.1)	見込み焼成後線刻
C区	49	73a	土師器	杯か	破片	7.5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、石英小粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	50	M10-13 Ic層	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ・黒色処理	良	石英小粒	－	－	－	(7.3)	見込み焼成後線刻
C区	51	73a	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	角閃石微量、石英小粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	52	M10-06 3b2層	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・白色小粒多	(15.0)	(15.0)	4.3	(7.4)	見込み焼成後線刻
C区	53	M10-06 3b2層	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・金雲母微量	－	－	－	(6.3)	見込み焼成後線刻
C区	54	一括	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、石英小粒	－	－	－	(8.1)	見込み焼成後線刻
C区	55	N10	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・赤色中粒・白色小粒少	－	－	－	(6.8)	見込み焼成後線刻
C区	56	一括	土師器	皿	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・金雲母少	－	－	－	(4.8)	見込み焼成後線刻
C区	57	N10	土師器	杯	破片	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒少、白色小粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	58	N10	土師器	杯	破片	10YR6/4にぶい黄褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、赤色中粒・白色小粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	59	Ic層	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒・白色小粒少	－	－	－	(7.2)	見込み墨書
C区	60	Ic層	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整、中央の窪みヘラ当たらず右回転糸切痕残る	横ナデ	良	金雲母微量、石英大～小粒・白色小粒少	(12.2)	(12.2)	4.8	(6.4)	見込み焼成後線刻

C区	61	Ⅰc層	土師器	皿か杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英大～小粒少	－	－	－	(7.4)	見込み焼成後線刻、内面使用のため摩耗、底裏に煤付着
C区	62	Ⅰc層	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	白色微粒	－	－	－	(5.8)	見込み焼成後線刻
C区	63	Ⅰc層	土師器	皿か杯	破片	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒少、白色小粒	－	－	－	(6.6)	底裏焼成後線刻
C区	64	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	石英小粒・角閃石微量、白色小粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	65	Ⅰc層	土師器	杯	破片	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	－	－	－	(6.4)	見込み焼成後線刻
C区	66	Ⅰc層	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒少、白色小粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	67	Ⅰc層	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部回転糸切痕無調整	横ナデ	良	石英中～微粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	68	Ⅰc層	土師器	杯か	破片	7.5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒多	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	69	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒、白色微粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
C区	70	Ⅰc層	土師器	皿	1/4以下	2.5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英中粒・白色微粒少	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
C区	71	Ⅰc層	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	(6.6)	見込み・底部裏面墨書
C区	72	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英粒少、白色微粒多	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	73	Ⅰc層	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、石英粒、白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	74	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色微粒	－	－	－	(7.4)	見込み焼成後線刻
C区	75	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	古礫、シャモット、白色微粒	－	－	－	(7.4)	見込み焼成後線刻
C区	76	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒、白色小粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
C区	77	Ⅰc層	土師器	皿	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	(12.8)	(12.8)	3.4	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	78	Ⅰc層	土師器	杯か	破片	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒	－	－	－	(8.8)	見込み焼成後線刻
C区	79	Ⅰc層	土師器	皿	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石中粒・白色小粒少	－	－	－	(5.0)	見込み焼成後線刻
C区	80	Ⅰc層	土師器	杯	破片	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英中粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	81	Ⅰc層	土師器	杯	破片	2.5YR4/6赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒多	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	82	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
C区	83	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ	良	石英微粒、白色微粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
C区	84	Ⅰc層	土師器	杯か	破片	5YR5/6明赤褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	85	3b2層2	土師器	杯か	破片	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、石英微粒・白色微粒少	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	86	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、石英小粒	－	－	－	(5.0)	見込み焼成後線刻
C区	87	3b2層1	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、石英微粒・白色微粒少	－	－	－	－	見込み墨書
C区	88	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英大粒微量、白色小粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	89	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	7.5YR5/4にぶい褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・白色微粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	90	Ⅰc層	土師器	杯か	破片	7.5YR7/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・金雲母・赤色小粒微量	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	91	Ⅰc層	土師器	杯か	破片	10YR7/4にぶい黄橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色小粒・白色小粒微量	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	92	3b2層1	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近左方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	海・石英小粒少、白色小粒多	(14.0)	(14.0)	(4.2)	(6.9)	見込み焼成後線刻
C区	93	3b2層1	土師器	杯	破片	5YR6/8橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、白色微粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	94	3b2層2	土師器	杯	1/3	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・金雲母微量、白色小粒少	(13.9)	(13.9)	4.4	6.2	見込み墨書
C区	95	3b2層1	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り調整するが底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	長石中～小粒、赤色小粒多	(10.9)	(10.9)	3.0	(5.7)	見込み墨書
C区	96	3b2層2	土師器	皿	破片	7.5YR7/4にぶい橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	赤色小粒・白色小粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	97	3b2層1	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・角閃石微量、白色微粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	98	3b2層1	土師器	杯	破片	2.5YR4/6赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、白色微粒少	－	－	－	(8.1)	見込み焼成後線刻
C区	99	－	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・金雲母少	－	－	－	(6.2)	見込み焼成後線刻
C区	100	3b2層1	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部横方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	海・金雲母・白色小粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	101	3b2層2	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・金雲母微量、白色小粒少	－	－	－	(6.3)	見込み焼成後線刻
C区	102	3b2層2	土師器	杯か	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒・白色小粒多	－	－	－	(5.9)	見込み焼成後線刻

C区	103	3b2層1	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・金雲母・シャモット	－	－	－	6.0	見込み焼成後線刻
C区	104	3b2層2	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整後底部ナデ調整	横ナデ	良	白色小粒多	－	－	－	(8.0)	見込み焼成後線刻
C区	105	3b2層1	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部外周右回転ヘラ削り調整、中央に右回転糸切痕残る	横ナデ	優	石英小粒・白色小粒	－	－	－	(9.0)	見込み焼成後線刻
C区	106	3b2層2	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英小粒少、白色小粒	－	－	－	(8.0)	見込み焼成後線刻
C区	107	3b2層1	土師器	杯か	破片	2.5YR6/8橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英小粒・白色微粒少	－	－	－	(8.2)	見込み焼成後線刻
C区	108	一括	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海少、白色小粒	－	－	－	(7.9)	見込み焼成後線刻
C区	109	3b2層1	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海・赤色小粒・白色微粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	110	3b2層1	土師器	皿	1/4	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	優	海・金雲母・石英中粒	(14.3)	(14.3)	3.1	5.5	見込み焼成後線刻
C区	111	3b2層2	土師器	皿	1/4	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海微量、石英中粒少	－	－	－	(5.9)	見込み焼成後線刻
C区	112	一括	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海・シャモット	－	－	－	(6.2)	見込み焼成後線刻
C区	113	一括	土師器	杯	1/4	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒、白色小粒	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
C区	114	一括	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	体部横ナデ	ヘラミガキ、黒色処理	良	海・白色小粒少	－	－	－	－	体部に墨書「舎」か
C区	115	一括	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部外周ヘラ削り調整、底部中央回転糸切痕無調整	横ナデ	良	海・白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	116	M10-46	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、一部ハケメ入る底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	長石小粒・白色微粒少	(12.2)	(12.2)	3.6	(6.4)	見込み焼成後線刻
C区	117	一括	土師器	杯	1/4以下	10YR6/4にぶい黄褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・白色微粒	－	－	－	(6.2)	見込み焼成後線刻
C区	118	一括	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・白色中粒少	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
C区	119	一括	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海・白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	120	一括	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部外周のみヘラ削り調整するが輪薄い　底部回転糸切痕無調整	横ナデ	良	白色中粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	121	一括	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部のみ右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英微粒・白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	122	一括	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	(6.2)	見込み焼成後線刻
C区	123	一括	土師器	椀	破片	7.5YR6/6橙	付高台横ナデ調整	ヘラミガキ、黒色処理	良	海少	－	－	－	(6.1)	見込み焼成後線刻
C区	124	一括	須恵器	杯	1/4以下	5Y6/1灰	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	石英粒少、白色微粒	－	－	－	(8.0)	見込み焼成後線刻
C区	125	一括	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海・白色小粒少	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	126	一括	土師器	杯	破片	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海少、白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	127	一括	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海少、白色中～小粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	128	Ⅰc層	土師器	皿か	破片	7.5YR6/6橙	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	129	Ⅰc層	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	体部横ナデ、底部回転糸切痕無調整	横ナデ	良	白色小粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	130	Ⅰc層	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近及び底部右方向手持ちヘラ削り、底部中央回転糸切痕残す	横ナデ	優	長石粒・白色微粒少	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
C区	131	1トレ	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ	良	白色小粒多	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
C区	132	1トレ	土師器	椀	1/4以下	5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り、付高台	ヘラミガキ	優	石英小粒、白色微粒	－	－	－	(6.4)	見込み焼成前線刻
C区	133	1トレ	土師器	杯か	破片	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英小粒、砂粒、白色微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	134	1トレ	土師器	皿	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	シャモット、白色小粒	－	－	－	(6.6)	見込み墨書
C区	135	1トレ	土師器	杯	1/4以下	5YR7/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英小粒・白色小粒多	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	136	1トレ	土師器	杯か	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒少、白色小粒多	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	137	2トレー2	土師器	甑	破片	7.5YR5/6明褐	底部付近横方向ヘラナデ、底部面取り	横方向ヘラナデ	良	シャモット、白色小粒	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	138	2トレー2	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英粒・白色微粒	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
C区	139	2トレー2	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒	－	－	－	(6.0)	見込み焼成後線刻
C区	140	2トレー2	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	剥落不明	横ナデ	優	金雲母粒微量	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	141	2トレー2	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒・白色小粒	－	－	－	(6.8)	見込み焼成後線刻
C区	142	1トレ	土師器	杯	1/4	10YR7/4にぶい橙	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	石英微粒・白色小粒多	(10.7)	(10.7)	(3.7)	(6.6)	見込み焼成後線刻

C区	143	2トレ－2	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	体部横ナデ、底部・底部付近右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	白色小粒	－	－	－	(6.8)	見込み焼成後線刻
C区	144	102トレ－1	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	良	角閃石・石英微粒微量	(12.2)	(12.2)	4.2	(6.0)	見込み墨書
C区	145	102トレ－1	土師器	杯	1/4以下	7.5YR7/6橙	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	良	石英小粒少、白色微粒	－	－	－	(5.6)	見込み墨書
C区	146	102トレ－1	土師器	杯	破片	10YR7/4にぶい橙	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	良	石英中～小粒・白色微粒	－	－	－	(6.8)	見込み焼成後線刻
C区	147	2トレ－2	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	石英小粒・シャモット	－	－	－	(7.0)	見込み焼成後線刻
C区	148	102トレ－1	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	優	石英中～小粒多	－	－	－	(8.0)	見込み焼成後線刻
C区	149	102トレ－1	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	優	小礫、白色小粒	(13.4)	(13.4)	3.6	(6.8)	見込み焼成後線刻
C区	150	102トレ－1	土師器	杯	破片	10YR7/4にぶい橙	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	良	長石小粒・石英微粒	－	－	－	(6.6)	見込み焼成後線刻
C区	151	102トレ－1	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット少、石英・白色小粒多	(16.0)	(16.0)	4.3	(7.4)	
C区	152	102トレ－1	土師器	高足高台杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	横ナデ	横ナデ	優	石英大～小粒・白色微粒	(17.8)	(17.8)	－	－	
C区	153	102トレ－1	土師器	杯	1/4以下	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英微粒少、白色小粒	(12.6)	(12.6)	3.6	(7.0)	
C区	154	2トレ－2	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部回転ヘラ削り調整するが大部分回転糸切痕残る	横ナデ	優	角閃石微量、石英粒少、白色小粒多	(12.8)	(12.8)	3.3	(6.8)	
C区	155	2トレ－2	土師器	杯	破片	5YR6/6橙	体部横ナデ	横ナデ	優	小礫・石英小粒・白色微粒少	(12.5)	(12.5)	－	－	
C区	156	2トレ－2	土師器	杯	1/4以下	5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	シャモット・石英微粒少	(13.4)	(13.4)	4.5	(5.6)	
C区	157	2b-13	土師器	杯	2/3	5YR6/6橙	底部付近～底部外周右回転ヘラ削り調整、中央に右回転糸切痕残る	横ナデ	優	海・白色小粒	(13.7)	(13.7)	4.3	7.1	
C区	158	一括	土師器	杯	1/4	2.5YR5/6明赤褐	口縁下強く横ナデし若干端反り気味　底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ	優	海・金雲母・白色小粒	(16.0)	(16.0)	4.3	(8.0)	
C区	159	Ⅰc層	土師器	杯	3/4以下	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	良	長石・石英小粒・白色中粒	11.4	11.4	3.3	4.6	
C区	160	3b2層	土師器	杯	1/4	5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	石英小粒・白色小粒少	(12.6)	(12.6)	4.4	(6.0)	
C区	161	3b2層	土師器	杯	1/2以下	7.5YR6/6橙	底部右回転糸切痕無調整、体部横ナデ	横ナデ	良	海微量、金雲母少	12.0	12.0	3.7	5.0	
C区	162	3b2層	土師器	杯	1/4以下	7.5YR6/4にぶい橙	底部ナデ調整	横ナデ、黒色処理	良	金雲母・赤色中粒	(9.2)	(9.2)	2.9	(6.0)	
C区	163	Ⅰc層	土師器	杯	1/4	10YR7/3にぶい黄橙	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整	全面ヘラミガキ、黒色処理	良	石英大～小粒・白色小粒	(15.0)	(15.0)	5.0	(6.3)	
C区	164	3b2層	土師器	杯	2/3	7.5YR6/6橙	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	海微量、金雲母	12.9	12.9	5.0	6.4	
C区	165	Ⅰc層	土師器	椀	1/4以下	7.5YR6/6橙	横ナデ、付高台	横ナデ	良	石英粒、白色微粒	－	－	－	(7.0)	
C区	166	2トレ－2	土師器	椀	破片	7.5YR6/6橙	底部付高台後横ナデ	横ナデ	良	石英小粒・シャモット・白色小粒	－	－	－	(7.0)	
C区	167	3b2層	土師器	皿	1/4以下	2.5YR5/6明赤褐	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	海微量、石英小粒・白色小粒	(14.4)	(14.4)	2.1	(7.0)	
C区	168	Ⅰc層	土師器	椀	1/4以下	7.5YR6/6橙	全面横ナデ、付高台	ヘラミガキ、黒色処理	良	シャモット・石英微粒・白色微粒少	(14.0)	(14.0)	5.0	(9.0)	
C区	169	3b2層	土師器	椀	1/4以下	5YR5/6明赤褐	付高台、横ナデ	横ナデ	優	海微量、シャモット少、石英微粒	－	－	－	－	
C区	170	一括	土師器	高足高台杯	1/4以下	5YR6/6橙	付高台横ナデ調整	横ナデ	優	海少	－	－	－	(9.3)	
C区	171	一括	土師器	高足高台杯	1/4	7.5YR7/6橙	付高台横ナデ調整	横ナデ	良	白色微粒多	－	－	－	－	
C区	172	M10-45	土師器	杯	破片	7.5YR7/6橙	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒微量	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	173	2トレ－2	土師器	甕	1/4以下	10YR3/3暗褐	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	石英粒・白色小粒	(13.2)	－	－	－	
C区	174	11トレ1	土師器	甕	破片	2.5YR5/8明赤褐	斜下方向ハケ	横方向ナデ	優	長石粒、白色中・小粒多く粗い	(12.5)	－	－	－	
C区	175	22-163	弥生土器	甕	破片	7.5YR6/4にぶい橙	横方向ナデ	横方向ナデ	良	石英小粒・白色小粒・赤色中粒多	(26.0)	－	－	－	
C区	176	5トレ4	土師器	甕	破片	2.5YR4/8赤褐	胴部縦方向ヘラ削り	ナデ	優	シャモット、石英大粒、白色小粒	(13.8)	(13.8)	－	－	
C区	177	Ⅰc層	土師器	甕	1/4以下	10YR7/4にぶい橙	胴部下方向ヘラ削り後頸部横方向ナデ	胴部横方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ	良	長石粒、石英微粒	(22.6)	(22.6)	－	－	

C区	178	一括	土師器	甕	1/4以下	7.5YR6/6橙	胴部上方向ヘラ削り後下位左方向ヘラ削り後右方向ヘラ削り調整、頸部付近横方向ナデ、底部横方向ヘラ削り調整	右方向ヘラナデ後横方向ナデ	良	小礫・石英小粒・白色小粒	－	(28.4)	－	－	
C区	179	一括	須恵器	甕	破片	5YR6/6橙	タタキ	斜方向ヘラナデ	良	海・石英小粒少、白色小粒多	－	－	－	－	
C区	180	Ⅰc層	須恵器	甕	破片	10YR5/1褐灰	口縁部折り返し後横ナデ	横ナデ	良	白色小粒多	(14.2)	－	－	－	
C区	181	Ⅰc層	須恵器	甕	破片	2.5Y7/1灰白	横ナデ、口縁折り返し	横ナデ	良	白色小粒多	(25.6)	－	－	－	
C区	182	Ⅰc層	須恵器	甕	破片	5YR3/3暗赤褐	頸部横ナデ、口縁部折り返し	頸部横ナデ	良	シャモット、石英小粒、白色小粒多	(26.0)	－	－	－	
C区	183	一括	須恵器	甕	破片	10YR4/1褐灰	3条 一組の平行沈線間に縦方向ハケメ	横ナデ、口縁内弯しつつ口縁部ゆるく面取り	優	白色大～中粒多、断面7.5YR5/2灰褐	(40.8)	－	－	－	
C区	184	Ⅰc層	須恵器	長頸壺	1/4以下	10YR6/1褐灰	同下部～底部回転ヘラ削り後横ナデ、付高台	横ナデ	良	白色小粒、微黒粒少	－	－	－	(12.0)	
C区	185	4トレ4	灰釉陶器	皿	1/4以下	10YR8/1灰白：灰釉2.5Y7/4浅黄	腰～底部右回転ヘラ削り調整後高台貼付	横ナデ、灰釉施釉	良	長石粒・微黒粒少	(17.3)	(17.3)	3.0	(8.6)	
C区	186	一括	灰釉陶器	長頸壺	破片	2.5Y8/1灰白	頸部別成形、灰釉刷毛塗り・降灰7.5Y5/3灰オリーブ	横ナデ	優	微黒粒	－	－	－	－	
C区	187	Ⅰc層	灰釉陶器	皿	1/4以下	10YR7/1灰白	付高台、底部 二重に貼付け、横ナデ	横ナデ、見込みに重ね焼きの高台痕あり	良	白色小粒、微黒粒少	－	－	－	(8.6)	
C区	188	5トレ6	須恵器	杯	1/4以下	10YR7/2にぶい黄橙	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	白色小粒多、微黒粒少	(14.4)	(14.4)	3.8	(9.0)	見込み使用のため摩耗
C区	189	Ⅰc層	緑釉陶器	皿	1/4以下	胎土7.5YR7/6橙：釉5Y7/2灰白	体部～底部回転ヘラ削り調整、高台貼付痕あり、全面緑釉施釉	全面緑釉施釉	良	微黒粒少	－	－	－	(5.9)	
C区	190	Ⅰc層	須恵器	長頸壺	破片	2.5Y3/1黒褐	頸部横ナデ、口縁部折り返す	横ナデ、降灰	良	白色小粒	(11.0)	－	－	－	
C区	191	73 3b2層	瓦	女瓦	1/4以下	5YR6/8橙	凹面は布目痕	凸面は縄目タタキ	良	シャモット大・赤色中粒・白色小粒	－	－	－	－	
C区	192	一括	瓦	男瓦	破片	10YR6/3にぶい黄橙	凸面ナデ調整	凹面布目痕、表面2.5YR5/8明赤褐に発色しているため、建物の赤彩が付着した可能性あり	良	白色中～小粒	－	－	－	－	
E区	262	一括	土師質土器	カワラケ	1/4	5YR5/6明赤褐	底部右回転糸切痕軽くナデ、柱状に突出し、外面無調整	見込み軽く横方向ナデ	優	海・石英小粒少	－	－	－	(4.1)	
外地	263	事業地外	弥生土器	小型甕	3/4	5YR5/6明赤褐	左方向ハケ後横方向ヘラミガキ、頸部横方向ナデ、全面赤彩：2.5YR4/6赤褐	胴部ヘラナデ、頸部左方向ハケ、赤彩	優	石英中粒少、白色中～小粒多	－	13.8	－	3.8	弥生終末～古墳前期
外地	264	事業地外	弥生土器	高杯	3/4	5YR5/6明赤褐	脚部3カ所透穴遺存、本来4カ所と思われる縦方向ヘラミガキ 受け部横方向ヘラミガキ	脚部ヘラナデ、受け部横方向ヘラミガキ	優	角閃石微量、石英中粒	15.7	15.7	－	－	弥生終末～古墳前期
C区	265	Ⅰc層	土師器	杯	破片	2.5YR5/6明赤褐	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	優	金雲母粒・石英小粒少	－	－	－	－	見込み焼成後線刻
C区	266	Ⅰc層	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部付近～底部左方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	良	金雲母・白色小粒少	－	－	－	－	内面焼成後線刻
C区	267	Ⅰc層	土師器	杯	破片	7.5YR6/6橙	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	良	白色微粒少	－	－	－	－	見込み焼成後線刻

縄文土器

A区	1	L6-27	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文(R)	タテ方向ナデ	優	石英中粒・赤色中粒、白色小粒多	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
A区	2	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR4/3褐	撚糸文(R)	横方向ナデ	良	白色小粒多	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
A区	3	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文(R)	タテ方向ナデ	優	石英小粒・長石中粒・白色小粒	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
A区	4	一括	縄文土器	深鉢	破片	10YR5/3にぶい黄褐	撚糸文(L)	斜方向に丹念なナデ	良	石英小粒・白色小粒多	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
A区	5	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤彩	撚糸文(R)	横方向ナデ	優	石英小粒・赤色中粒・白色中粒多	－	－	－	－	早期撚糸文系（花輪台か）
A区	6	P33-2	縄文土器	深鉢	破片	10YR3/1黒褐	平行沈線文（やや細）	横方向ナデ	良	長石大粒少、白色中～小粒多	－	－	－	－	早期沈線文系(田戸下層)
A区	7	L5-67	縄文土器	深鉢	破片	10YR4/2灰黄褐	平行沈線文（やや細）	横方向ナデ	良	海少、白色中～小粒多	－	－	－	－	早期沈線文系(田戸下層)
A区	8	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/4にぶい橙	浅い並行沈線文	横方向に丹念なナデ	良	石英小粒、白色小粒多	－	－	－	－	早期沈線文系(田戸下層)
A区	9	包含層	縄文土器	深鉢	破片	10YR3/2黒褐	平行沈線文、口縁部面取り	横方向に丹念なナデ	良	長石小粒・白色大～小粒多く粗い	－	－	－	－	早期沈線文系(田戸下層)
A区	10	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	平行沈線文(太)	体部斜方向、口縁部横方向ナデ	良	角閃石微量、石英小粒少、白色小粒多	－	－	－	－	早期沈線文系(田戸下層)

A区	11	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	平行沈線文(細)、口唇上にキザミ	横方向ナデ	良	白色小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸上層か)
A区	12	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR6/6橙	横方向ナデ、口唇部面取り	横方向に丹念なナデ	良	石英小粒・長石小粒・赤色小粒多	—	—	—	—	早期無文土器(沈線文並行)
A区	13	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤彩	浅い平行沈線文(ややや太)、口唇部面取り	横方向に軽くナデ	良	石英中粒・長石中粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	14	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/6明褐	平行沈線文(太)	斜方向ナデ	良	角閃石少、石英小粒・長石小粒・白色小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	15	K5-42	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	平行沈線文(太)	縦方向にナデ	良	石英中粒少、白色小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	16	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤彩	平行沈線文(太)	横方向ナデ	良	角閃石微量、白色中粒多く粗い	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	17	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/4にぶい橙	平行沈線文(太)	縦方向に丹念なナデ	良	白色中～小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	18	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	平行沈線文(太)	横方向に丹念なナデ	良	赤色中粒少、石英小粒・長石小粒	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	19	K5 一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	平行沈線文(太)	縦方向にナデ	良	石英中粒少、白色小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	20	包含層	縄文土器	深鉢	破片	10YR5/4にぶい黄褐	平行沈線文(太)	軽く横方向ナデ	良	金雲母少、長石中粒多く粗い	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	21	包含層	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤彩	浅い平行沈線文	軽く横方向ナデ	良	石英中粒・白色中粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	22	包含層	縄文土器	深鉢	破片	10YR7/4にぶい黄褐	平行沈線文(太)	工具で縦方向ナデ	良	赤色大粒・白色中粒少	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	23	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	平行沈線文(やや細)	斜方向ナデ	良	小礫少、長石大～中粒・白色小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸下層)
A区	24	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤彩	平行沈線文	横方向ナデ	良	石英小粒、白色小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系
A区	25	K5-23	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤彩	2本1対の平行沈線文	タテ方向ナデ	良	角閃石微量、石英小粒少、白色小粒	—	—	—	—	早期沈線文系
A区	26	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/2灰褐	2条のキャタピラ文	横方向に丹念なナデ	良	白色小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸上層)
A区	27	包含層	縄文土器	深鉢	破片	10YR7/3にぶい黄橙	貝殻腹縁圧痕を平行に施文し、平行沈線の間を竹管で斜めに刺突	縦方向に丹念なナデ	良	石英小粒少、白色小粒	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸上層)
A区	28	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤彩	口縁部輪積痕残す　貝殻腹縁圧痕文	丹念なナデ	良	石英小粒少、白色小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸上層)　29と同一個体
A区	29	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	貝殻腹縁圧痕文	丹念なナデ	良	石英小粒、白色小粒多	—	—	—	—	早期沈線文系(田戸上層)
A区	30	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR3/1黒褐	条痕文、口唇部面取りし丹念にナデ	横方向に丹念なナデ	良	白色中～小粒多、繊維微量	—	—	—	—	早期条痕文系　31・32と同一
A区	31	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR2/1黒	ヘラ状工具による条痕文	横方向ナデ	良	白色小粒多、繊維微量	—	—	—	—	早期条痕文系
A区	32	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	条痕文、ヘラ状工具による(幅3cm程度)	斜方向に丹念なナデ	良	白色小粒多、繊維微量	—	—	—	—	早期条痕文系
A区	33	包含層	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤彩	一部擦痕	横方向ナデ	良	赤色中粒・白色小粒　繊維多	—	—	—	—	早期条痕文系
A区	34	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	横方向に貼付隆起線、横方向擦痕	縦方向に工具で粗くナデ	良	石英小粒、繊維多量	—	—	—	—	早期条痕文系
A区	35	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	単節縄文RL	斜方向に丹念なナデ	良	金雲母微量	—	—	—	—	前期後半以降
A区	36	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	輪積痕残し爪で押圧	横方向ナデ	良	角閃石微量、石英小粒少、白色小粒	—	—	—	—	前期浮島
A区	37	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/2灰褐	平行沈線施文後横方向に丹念なナデ	丹念なナデ	良	石英小粒・白色小粒多	—	—	—	—	後期か
B区	1	125-127	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	口縁部粘土紐巡らし、極めてゆるい突起つく る　胴部撚糸文	工具で横方向に丹念なナデ	良	白色中～小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島)
B区	2	M7-33	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文(R)	横方向ナデ	良	石英中粒、白色小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
B区	3	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文 (R)	横方向ナデ	良	赤色中粒少、白色中～小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
B区	4	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文 (R)	板状工具で横方向ナデ	良	白色中粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(稲荷台)
B区	5	29-19	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	撚糸文(R)	口縁下やや強く横ナデし口唇境が明瞭となる	良	石英小粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
B区	6	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	撚糸文	横方向ナデ	良	石英中粒、白色小粒多く粗い	—	—	—	—	早期撚糸文系(稲荷台)
B区	7	N6-91	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文(L)	横方向に丹念なナデ	良	白色中～小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(稲荷台)
B区	8	129-4	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/4にぶい橙	口縁部粘土紐巡らし、極めてゆるい突起つく る　胴部縦方向ナデ、口縁部横方向ナデ	板状工具で横方向に丹念なナデ	良	白色中～小粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
B区	9	134-28	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	口縁部に粘土紐巡らし、ゆるく肥厚させる胴部縦方向・口縁部横方向ナデ	横方向ナデ	良	石英中粒、白色小粒多	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
B区	10	134-30	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	胴部縦方向ナデ	縦方向に丹念なナデ	良	石英中粒少、白色小粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)

B区	11	-括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	縦方向ナデ	横方向ナデ	良	石英大～小粒、白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
B区	12	134-21	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	胴部縦方向ナデ、口縁部横方向ナデ	斜方向ナデ	良	白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
B区	13	V7-31	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	胴部縦方向・口縁部横方向ナデ	板状工具で縦方向に丹念なナデ	良	石英中粒・白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期か)
B区	14	136-096	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	口唇直下横ナデ	胴部斜方向ナデ後口縁部横方向ナデ	良	石英中粒少、白色中～小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
B区	15	142-33	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR4/4にぶい赤褐	胴部斜方向・口縁部横方向に丹念なナデ	斜方向ナデ	優	白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
B区	16	134-30	縄文土器	深鉢	破片	5YR6/6橙	撚糸文	斜方向ナデ	優	白色小粒多	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
B区	17	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文(L)	縦方向ナデ	優	小礫・石英小粒	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
B区	18	134-30	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	胴部縦方向ナデ後口縁下強く横方向ナデ、口縁若干外傾する	縦方向ナデ	良	白色中～小粒多く粗い	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
B区	19	包含層	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	胴部板状工具で斜方向ナデ、頸部やや外傾し横方向ナデ	板工具で横方向ナデ	良	角閃石・雲母片岩含み粗い	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期か)
B区	20	包含層	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	胴部縦方向ナデ後頸部強く横方向ナデ	横方向ナデ	優	角閃石、雲母片岩、白色中粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期か)
B区	21	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文（R）	ナデ	優	石英大～中粒・白色小粒	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
B区	22	134-30	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	単節縄文RL	斜方向に丹念なナデ	優	石英中粒、白色小粒多く粗い	－	－	－	－	撚糸文系か
B区	23	127-1	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	工具で縦方向ナデ	工具で縦方向に丹念なナデ	優	白色中～小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
B区	24	V7-40	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文(L)	斜方向ナデ	優	白色中～小粒	－	－	－	尖底	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
B区	25	134-20	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文	縦方向ナデ	良	白色小粒少	－	－	－	尖底	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
B区	26	包含層	縄文土器	深鉢	破片	10YR7/4にぶい黄橙	横方向ナデ	板工具で横方向ナデ	良	粘土質大粒多く粗い	－	－	－	－	早期無文土器(沈線文並行期か)
B区	27	W7-20	縄文土器	深鉢	破片	10YR6/4にぶい黄橙	口唇面取り　横方向ナデ	横方向ナデ	良	石英小粒、白色中～小粒多	－	－	－	－	早期無文土器(沈線文並行期か)
B区	28	138-11	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文（R）	工具で縦方向ナデ	良	石英大～中粒・白色小粒	－	－	－	尖底	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
B区	29	-括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	頸部下から条痕文、頸部無文	板状工具で横方向ナデ	良	石英小粒・白色小粒　繊維含む	－	－	－	－	早期条痕文系
B区	30	28-48	縄文土器	深鉢	破片	5YR6/6橙	板状工具で横方向ナデ後、口縁部に2条のキャタピラ文、口唇部は撚糸（R）による絡条体圧痕	板状工具で横方向ナデ	優	赤色中粒・石英小粒・白色小粒　繊維含む	－	－	－	－	早期条痕文系(子母口)
B区	31	125-9	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	単節縄文RL施文後浮線文貼付	工具で強く横方向ナデ	優	片岩大粒多	(21.3)	(24.2)	－	－	前期諸磯b
B区	32	134-30	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	頸部強く横方向ナデ	斜方向ナデ	優	赤色中粒少、白色小粒多	－	－	－	－	中期加曽利E か
C区	1	-括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	口縁若干膨らむ	横方向ナデ	良	石英大～小粒・砂粒多	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	2	-括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	口縁若干膨らむ　撚糸文（R）	横方向ナデ	良	長石大～小粒・石英中～小粒・砂粒多	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	3	-括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文	横方向ナデ	良	角閃石少、長石中粒・石英小粒・砂粒多	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	4	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/6赤褐	撚糸文	ナデ	優	石英小粒・白色小粒	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	5	-括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/4にぶい橙	縦方向ナデ	横方向ナデ	良	石英小粒・白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	6	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	縦方向に輪積痕ナデ消し程度	横方向ナデ	優	石英中粒少、白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	7	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	口縁膨らむ　撚糸文(L)　口縁直下横方向ナデ	横方向ナデ	優	石英小粒・白色小粒	－	－	－	－	早期撚糸文系(花輪台)
C区	8	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	横方向ナデ	横方向ナデ	優	石英中粒・白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	9	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	斜方向ナデ	斜方向ナデ	優	石英小粒・赤色中粒少、白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	10	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/6赤褐	ナデ、焼成後穿孔　撚糸文(R)	横方向ナデ	優	石英中粒・白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	11	-括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	縦方向ナデ、口唇部面取り	横方向ナデ	良	石英小粒・白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	12	-括	縄文土器	深鉢	破片	10YR6/4にぶい黄褐	縦方向ナデ	板状工具で斜方向ナデ	優	角閃石・石英小粒・白色小粒	－	－	－	－	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	13	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/6赤褐	撚糸文	ナデ	優	石英小粒少、白色小粒	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	14	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文	ナデ	優	石英小粒・白色小粒	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	15	-括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	撚糸文	横方向ナデ	優	石英中粒少、白色小粒	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	16	-括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	撚糸文(R)	横方向ナデ	優	長石中～小粒・石英中～小粒多	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	17	-括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文	ナデ	優	小礫少、長石・石英中～小粒、白色小粒	－	－	－	－	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)

C区	18	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	撚糸文(R)	横方向ナデ	優	石英小粒・白色小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	19	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/6赤褐	撚糸文	ナデ	優	石英小粒、白色小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	20	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文	ナデ	優	石英小粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	21	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文	ナデ	優	石英中～小粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	22	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	撚糸文	板状工具による横方向ナデ	優	石英小粒・赤色中粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	23	一括	縄文土器	深鉢	破片	10R4/6赤	撚糸文	ナデ	優	石英大～小粒・長石中粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	24	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	撚糸文	ナデ	優	長石・石英中粒、白色小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	25	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR5/4にぶい褐	撚糸文	ナデ	良	石英中粒、白色小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	26	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文	横方向ナデ	良	石英中粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	27	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文	横方向ナデ	優	石英中粒・赤色大粒・長石中粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	28	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	撚糸文	ナデ	優	石英小粒・赤色中粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	29	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文 (L)	板状工具による斜方向ナデ	優	石英小粒・白色中～小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	30	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文 (L)	板状工具による斜方向ナデ	良	角閃石・石英小粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	31	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR4/3褐	網目状撚糸文	ナデ	良	石英小粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(花輪台か)
C区	32	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	無節R	横方向ナデ	良	角閃石・石英中粒	—	—	—	—	撚糸文系か
C区	33	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	撚糸文 (L)	ナデ	良	石英微粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(花輪台か)
C区	34	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文 (L) 原体圧痕と回転施文	横方向ナデ	優	石英小粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(花輪台か)
C区	35	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	撚糸文	ナデ	優	石英小粒、シャモット・白色小粒多	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	36	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	縦方向ナデ	横方向ナデ	優	赤色大～中粒・白色小粒多	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	37	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文(R)	板状工具による縦方向ナデ	優	石英小粒・白色小粒少	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	38	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	縦方向ナデ	横方向擦痕	優	石英中粒・白色小粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	39	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR4/4にぶい赤褐	縦方向ナデ	ナデ	優	石英大粒・赤色大粒・白色中・小粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	40	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	ナデ	横方向ナデ	優	長石大～小粒・石英中～小粒・砂粒多	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	41	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	ナデ	横方向ナデ	優	角閃石微量・石英中～小粒・白色小粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	42	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	ナデ	横方向ナデ	優	石英中～小粒・白色小粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	43	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR5/6明赤褐	縦方向ナデ	斜方向ナデ	優	石英中粒・赤色中粒・白色小粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	44	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR4/6赤褐	横方向ナデ	縦方向ナデ	優	小礫・長石大粒・石英中粒・白色中～小粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	45	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	縦方向ナデ	縦方向ナデ	優	小礫少、長石大粒、石英中粒	—	—	—	—	早期無文土器(撚糸文並行期)
C区	46	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	撚糸文 (L)	板状工具による斜方向ナデ	優	石英・長石大～小粒・白色小粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	47	一括	縄文土器	深鉢	破片	2.5YR4/6赤褐	撚糸文	ナデ	優	石英小粒・長石中粒	—	—	—	—	早期撚糸文系(夏島～稲荷台)
C区	48	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	縦方向擦痕	板状工具による斜方向擦痕	優	石英小粒・白色小粒、繊維	—	—	—	—	早期条痕文系
C区	49	一括	縄文土器	深鉢	破片	5YR5/6明赤褐	縦方向擦痕	横方向擦痕	優	石英大～中粒・白色小粒、繊維	—	—	—	—	早期条痕文系
C区	50	一括	縄文土器	深鉢	破片	7.5YR6/6橙	縦方向擦痕	板状工具による縦方向擦痕	良	長石・石英小粒、繊維	—	—	—	—	早期撚糸文系

表3　墨書・線刻土器一覧　則:則天文字　　土:土師器　須:須恵器　　横ナデ:轆轤使用　横方向ナデ:轆轤使用せず　　黒:黒色処理（　）は復元値　単位:cm

遺構	挿図	No.	銘	字種	銘種	部位	備考	種	器種	位置	遺存	外面特徴	内面特徴	口径	最大径	高さ	底径
31a	39	58	𠂤	「天」則	墨書	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
31a	39	59		「天」則	墨書	見込み		土	杯	覆土上層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
31a	39	60	太		墨書	見込み		土	杯	覆土中	1/3	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(12.8)	(13.2)	4.0	6.9
31a	39	61	𠂤口	「天」則	墨書	見込み	2文字か	土	杯	覆土中	完形	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	13.8	13.8	2.6	7.0
31a	39	62	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近回転ヘラ削り、底部回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
31a	39	63	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.6)
31a	39	64	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
31a	39	65	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部回転ヘラ削り調整するが中央部に右回転糸切り痕残す	横ナデ	—	—	—	(6.0)
31a	39	66	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
31a	39	67	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
31a	39	68	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	体部横ナデ	横ナデ	—	—	—	—
31a	39	69	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
31a	39	70	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
31a	39	71	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	1/4以下	底部付近回転ヘラ削り、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
31a	39	72	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(6.2)
31a	39	73	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
31a	39	74	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
31a	39	75	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
31a	39	76	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	1/4以下	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
31a	39	77	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
31a	39	78	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土下層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
31a	39	79	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
31a	39	80	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土下層	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
31a	39	81	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
31a	39	82	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土上層	1/4以下	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	—
31a	39	83	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
31a	39	84	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
31a	39	85	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	床直上	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
31a	39	86	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒	—	—	—	(6.6)
31a	39	87	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.2)
31a	39	88	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
31a	39	89	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
31a	39	90	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.4)
31a	39	91	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.6)
31a	39	92	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り調整、底部右回転糸切無調整	横ナデ	—	—	—	(6.2)
31a	39	93	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.1)
31a	39	94	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.8)
31a	39	95	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.3)
31a	39	96	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	床直上	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
31a	39	97	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.8)
31a	39	98	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	6.6
31a	39	99	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4	底部付近～底部左方向手持ちヘラ削り調整、底部中央に回転糸切痕残す	横ナデ	—	—	—	(6.6)
31a	39	100	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	破片	底部付近回転ヘラ削り調整	横ナデ	(12.3)	(12.3)	(4.8)	(7.5)
31a	40	101	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	床直上	3/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	13.1	13.1	4.4	6.8
31a	40	102	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	完形	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	13.4	13.4	4.4	7.3
31a	40	103	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(13.0)	(13.0)	4.2	(7.0)
31a	40	104	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土上層	1/4	底部ロクロ右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(8.4)
31a	40	105	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/3	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(12.8)	(12.8)	4.2	5.7
31a	40	106	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	完形	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	12.8	12.8	4.4	7.4
31a	40	107	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	床直上	ほぼ完形	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	12.5	12.5	3.8	7.0
31a	40	108	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以上	体部横ナデ、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	(14.0)	(14.0)	3.7	(6.6)
31a	40	109	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	ほぼ完形	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	14.2	14.2	3.2	7.3
31a	40	110	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	皿	d貼床下	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
31a	40	111	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
31a	40	112	𠂤	「天」則	線刻	見込み		土	皿	床直上	1/3	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(13.0)	(13.0)	2.4	(6.6)

31a	40	113		「天」則	線刻	見込み		土	椀	覆土上層	1/4以下	底部右回転ヘラ削り調整後付高台、周辺ナデ	ヘラミガキ、黒	—	—	—	(7.0)
32	46	59	 か	「天」則	墨書	見込み		土	杯	覆土中	1/3	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(13.2)	(13.2)	4.7	(6.6)
32	47	60		「天」則	墨書	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
32	47	61		「天」則	墨書	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.8)
32	47	62	不明	記号か	墨書	見込み底部	灯明皿	土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.1)
32	47	63		「天」則	墨書	見込み		土	杯	覆土中	ほぼ完形	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	13.2	13.2	4.0	6.4
32	47	64		「天」則	線刻	見込み		土	杯	カマド内	ほぼ完形	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	13.0	13.0	4.5	7.0
32	47	65		「天」則	線刻	見込み	灯明皿	土	杯	覆土中	1/3	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(13.0)	(13.0)	4.7	6.4
32	47	66		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(13.4)	(13.4)	4.5	(6.4)
32	47	67		「天」則	線刻	見込み		土	杯	カマド内	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(13.0)	(13.0)	4.1	6.5
32	47	68	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
32	47	69	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
32	47	70		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
32	47	71	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.3)
32	47	72		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.8)
32	47	73	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
32	47	74		「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
32	47	75		「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.3)
32	47	76		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.8)
32	47	77	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
32	47	78	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
32	47	79	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
32	47	80	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	体部横ナデ	横ナデ	(13.8)	(13.8)	4.2	(7.5)
32	47	94	不明 	不明「天」則	墨書線刻	見込み		土	皿	覆土中	完形	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	14.3	14.3	3.1	6.8
32	47	95		「天」則	線刻	見込み	灯明皿	土	杯	カマド内	1/2以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(13.2)	(13.2)	3.0	(7.0)
32	47	96		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	3/4以上	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(13.0)	(13.0)	2.9	6.8
32	47	97	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿か	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.6)
32	47	98		「天」則	線刻	見込み		土	皿か	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
32	47	99	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
32	47	100		「天」則	線刻	見込み	一度書き損じる	土	皿	覆土中	1/2以上	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	13.0	13.0	2.7	6.6
32	47	101		「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	1/3	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(13.6)	(13.6)	3.1	6.2
32	47	102	 か	「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒	(12.6)	(12.6)	2.4	(6.1)
33	50	49	不明	記号か	墨書	見込み		土	杯	覆土中	1/4	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	7.1
33	51	50		「天」則	墨書	見込み外面		土	杯	覆土中	ほぼ完形	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	13.8	13.8	4.6	6.3
33	51	51		「天」則	墨書	見込み		土	杯	P4内	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.3)
33	51	52		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	3/4	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	13.0	13.0	4.9	6.2
33	51	53	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	P4内	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.6)
33	51	54	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	P4内	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
33	51	55	 か	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(13.0)	(13.0)	3.7	(6.2)
33	51	56	 か	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
33	51	57		「天」則	線刻	見込み		土	杯	P4内	1/4以下	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.9)
33	51	58	不明	「天」則か	線刻	見込み	未完刻	土	杯	覆土中	1/3	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(13.5)	(13.5)	4.1	5.9
33	51	59		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	3/4	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(13.3)	(13.3)	4.7	6.1
33	51	60	 か	「天」則	線刻	見込み		土	杯	床直上	破片	7.5YR6/6橙	横ナデ	—	—	—	(6.4)
33	51	61		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.2)
33	51	62	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部回転糸切り痕無調整	横ナデ	—	—	—	—
33	51	63		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整、中央部に糸切り痕残す	横ナデ	—	—	—	(7.0)
33	51	64	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	P4内	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.4)
33	51	65	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.9)
33	51	66		「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	1/4以下	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
33	51	70		「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(13.2)	(13.2)	2.3	8.0

34	54	4	不明	記号か	墨書	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
34	54	5	不明	記号か	墨書	外面		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
34	54	6	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	2/3	底部付近・底部手持ちヘラ削り	横ナデ	(13.1)	(13.1)	3.7	6.4
34	54	7	天	天の誤字か	線刻	見込み		土	杯	カマド脇床直	3/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(12.8)	(12.8)	4.1	6.5
34	54	8	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.8)
34	54	9	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
34	54	10	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラナデ	—	—	—	(6.6)
34	54	11	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部手持ちヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
34	54	12	不明	「天」則	線刻	外面		土	杯	覆土中	破片	体部横ナデ	横ナデ	—	—	—	—
34	54	13	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.4)
34	54	14	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
34	54	15	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
34	54	16	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
34	54	17	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
34	54	18	天か	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
34	54	20	天	「天」則	線刻	見込み		土	皿	カマド内	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整、中心部回転糸切痕残る	横ナデ	—	—	—	(6.4)
34	54	21	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿か	覆土中	破片	底部付近・底部外周回転ヘラ削り、中心部ロクロ右回転糸切痕残す	横ナデ	—	—	—	(6.2)
35	56	2	天か	「天」則	線刻	見込み		土	皿	A炉中	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	6.4
37	59	17	不明	天の誤字か	墨書	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.2)
37	59	18	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近回転ヘラ削り、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(6.2)
37	59	19	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
37	59	20	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(12.6)	(12.6)	4.0	(6.0)
37	59	21	天	「天」則	線刻	見込み		土	皿	A炉中	ほぼ完形	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	14.1	14.1	2.7	6.5
37	59	22	不明	「天」則	線刻	見込み	未完刻	土	杯	覆土中	ほぼ完形	底部付近～底部右方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	13.6	13.6	5.1	6.3
41	63	5	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒	—	—	—	(7.2)
42	64	4	不明	「天」則	線刻	見込み	天の未完刻か	土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.2)
42	64	5	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
42	64	6	不明	「天」則	線刻	見込み	天か天	土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
42	64	7	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	—
42	64	8	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
42	64	9	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
42	64	10	月		線刻	見込み	「天」誤字の可能性あり	土	杯	覆土中	1/3	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.6)
42	64	11	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
43	64	8	不明		墨書	外面		土	杯	覆土中	破片	横ナデ	横ナデ	—	—	—	—
43	64	9	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近から底部左方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
43	64	10	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/2以下	底部付近右方向手持ちヘラ削り、底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	(12.6)	(12.6)	4.3	(5.0)
43	64	11	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
43	64	12	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近から底部左方向ヘラ削り調整	横ナデ	(14.0)	(14.0)	4.0	(7.0)
43	64	13	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近麦方向手持ちヘラ削り、底部手持ちヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.6)
43	64	14	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近回転ヘラ削り、底部回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
43	64	15	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
43	64	20	天	「天」則	線刻	見込み	略字か未完刻	土	椀	覆土中	1/4以下	横ナデ、付高台	ヘラミガキ	—	—	—	(7.0)
45	66	32	不明		墨書	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
45	66	33	不明		墨書	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近及び底部左方向手持ちヘラ削り	横ナデ	—	—	—	(6.4)
45	66	34	天	「天」則	墨書	見込み	略字か未完刻	土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.6)
45	66	35	不明		墨書	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
45	66	36	天	「天」則	墨書	見込み		土	杯	覆土中	1/4以上	底部付近右回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り調整、中央部にロクロ右回転糸切痕残す	横ナデ	(16.0)	(16.0)	4.4	(7.7)
45	66	37	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(13.0)	(13.0)	4.2	(6.6)
45	66	38	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	66	39	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
45	66	40	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
45	66	41	天	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)

45	66	42		「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
45	66	44	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
45	66	45	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
45	66	46	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
45	66	47		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	66	48	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近及び底部手持ち右左方向ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
45	66	49	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
45	66	50	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	(11.8)	(11.8)	3.9	(6.2)
45	66	51	西か不明	「西」はママ 不明は「天」則か	線刻	見込み	43と接合	土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.2)
45	66	52	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	(13.0)	(13.0)	3.9	(6.2)
45	66	53	不明		線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(11.4)	(11.4)	3.4	(6.0)
45	66	54	不明		線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	体部横ナデ、底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.2)
45	66	55	不明	「天」則	線刻	外面		土	椀	覆土中	破片	横ナデ	ヘラミガキ、黒	—	—	—	—
45	66	56	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
45	66	57	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	66	58	 か	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部回転ヘラ削り調整か	横ナデ	—	—	—	(7.4)
45	66	59	不明		線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
45	66	60		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/2	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(12.4)	(12.4)	4.0	(6.6)
45	66	61	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	体部横ナデ、底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
45	66	62	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近及び底部左方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
45	66	63	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	66	64		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近一部ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
45	66	65	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	66	66	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	66	67	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
45	66	68		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.4)
45	66	69	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
45	66	70		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	66	71	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(5.4)
45	66	72	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.6)
45	66	73	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.9)
45	66	74	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.0)
45	66	75		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.6)
45	66	76		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
45	66	77		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/3	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(5.4)
45	66	78		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	66	79		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	66	80		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
45	66	81		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/3	底部右回転糸切痕無調整、体部横ナデ	横ナデ	—	—	—	(6.4)
45	66	82	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り調整、中央部に右回転糸切痕残す	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	67	83		「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(13.5)	(13.5)	4.4	(6.6)
45	67	84		「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	1/4以下	底部付近及び底部手持ち右左方向ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
45	67	85	不明		線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒	—	—	—	(7.0)
45	67	86	不明		線刻	見込み		土	皿	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	(14.0)	(14.0)	(3.2)	(6.0)
45	67	93	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	67	94	不明	「天」則か	線刻	見込み	未完刻	土	皿	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	67	95	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	杯か	覆土中	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
45	67	96		「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	67	97		「天」則	線刻	見込み		土	皿	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
45	67	98	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	体部下方右回転ヘラ削り	横ナデ	—	—	—	(7.3)
45	67	100	不明	「天」則か	線刻	見込み	未完刻	土	椀	覆土中	1/4以下	体部横ナデ、付高台	ヘラミガキ	—	—	—	(6.4)
45	67	112	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	杯	覆土中	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り	横ナデ	(12.6)	(12.6)	(2.6)	(5.1)
45	68	135	不明		墨書	見込み		土	杯	35号直上	破片	底部付近・底部縁辺回転ヘラ削り調整、中心部右回転糸切り痕残す	横ナデ	—	—	—	(7.0)
45	68	136		「天」則	線刻	見込み	未完刻か	土	杯	35号直上	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
45	68	137		「天」則	線刻	見込み	未完刻か	土	杯	35号直上	1/4	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(12.2)	(12.2)	3.7	(6.0)
45	68	138	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	35号直上	1/4以下	体部横ナデ、底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.4)

45	68	139		「天」則	線刻	見込み		土	杯	35号直上	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	68	140		「天」則	線刻	見込み		土	杯	35号直上	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	6.8
45	68	141	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	35号直上	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	68	142	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	杯	35号直上	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
45	68	143	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	皿	35号直上	1/4以下	体部横ナデ、底部右回転糸切り痕無調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
45	68	144	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	35号直上	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.4)
45	68	145		「天」則	線刻	見込み		土	皿か	35号直上	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.0)
45	68	146		「天」則	線刻	見込み		土	杯	35号直上	1/4以下	底部付近手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(14.4)	(14.4)	3.9	(8.2)
45	69	147		「天」則	線刻	見込み	灯明皿	土	杯	35号直上	1/3	体部横ナデ、底部一部回転ヘラ削り、中央部右回転糸切痕残る	横ナデ	(14.0)	(14.0)	3.5	(8.0)
45	69	148	不明	記号か	線刻	見込み		土	杯	35号直上	破片	体部横ナデ、底部回転ヘラ削り実施するが不完全で右回転糸切り痕見える	横ナデ	(13.0)	(13.0)	4.4	5.6
45	69	149	不明	記号か	線刻	見込み		土	杯	35号直上	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(14.0)	(14.0)	4.5	(7.3)
45	69	154	不明	「天」則か	線刻	見込み		土	皿	35号直上	1/4以下	体部横ナデ	横ナデ	(13.8)	(13.8)	3.1	(3.2)
45	69	155		「天」則	線刻	見込み		土	皿	35号直上	1/4	底部付近右回転ヘラ削り、底部一部ヘラ削り、中央部右回転糸切り痕無調整	横ナデ	—	—	—	5.5
45	69	159		「天」則	線刻	見込み		土	椀	35号直上	1/4以下	体部横ナデ、底部付高台、右回転糸切り痕無調整	ヘラミガキ、黒	—	—	—	(7,2)
68	97	2	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	覆土中	破片	底部付近～底部回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ	—	—	—	(5.0)
C区	100	36	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	一括	破片	底部右回転糸切り無調整	横ナデ	—	—	—	—
C区	100	39	不明	「天」則	線刻	見込み		土	椀	M10-37	1/4以下	底部付高台後ナデ	ヘラミガキ、黒	—	—	—	(7.4)
C区	100	44	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か椀	L9-08 3a？層	破片	底部右回転ヘラ削り調整	見込み横方向ヘラミガキ、黒	—	—	—	—
C区	100	45	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	L9-08 3a？層	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
C区	100	46	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	L9-08 3a？層	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
C区	100	47	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	M9-41-2層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.8)
C区	100	48		「天」則	線刻	見込み		土	杯	73a	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.1)
C区	100	49		「天」則	線刻	見込み		土	杯か	73a	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
C区	100	50	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	M10-13 4層	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ・黒	—	—	—	(7.3)
C区	100	51	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	73a	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
C区	100	52	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	M10-06 4a層一括	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(15.0)	(15.0)	4.3	(7.4)
C区	100	53		「天」則	線刻	見込み		土	杯	M10-06 4a層一括	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.3)
C区	100	54	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	73	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(8.1)
C区	100	55	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	\10	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.8)
C区	100	56	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿	73	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(4.8)
C区	100	57		「天」則	線刻	見込み		土	杯	\10	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
C区	100	58	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	\10	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
C区	100	59	不明		墨書	見込み		土	杯	古包層1	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.2)
C区	100	60		「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層1	1/3	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整、中央の窪みヘラ当たらず右回転糸切痕残る	横ナデ	(12.2)	(12.2)	4.8	(6.4)
C区	100	61	不明	「天」則	線刻	見込み	内面使用のため摩耗、底裏に煤付着	土	皿か杯	古包層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.4)
C区	100	62	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層1	破片	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	(5.8)
C区	100	63	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿か杯	古包層1	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
C区	100	64	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒	—	—	—	(6.0)
C区	100	65	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層1	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.4)
C区	100	66	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層1	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
C区	100	67	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層1	破片	底部回転糸切痕無調整	横ナデ	—	—	—	—
C区	100	68	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	古包層－4	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	—
C区	100	69		「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層－4	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
C区	100	70		「天」則	線刻	見込み		土	皿	古包層3	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.0)
C区	100	71	不明		墨書	見込み		土	杯	古包層3	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.6)
C区	100	72		「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層－6	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
C区	100	73	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層－4	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(6.0)
C区	101	74	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層－4・5	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	—	—	—	(7.4)
C区	101	75		「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層－5	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ、黒	—	—	—	(7.4)

C区	101	76	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層－4	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(7.0)
C区	101	77	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿	古包層	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	(12.8)	(12.8)	3.4	(6.0)
C区	101	78	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(8.8)
C区	101	79	不	「天」則	線刻	見込み		土	皿	古包層	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(5.0)
C区	101	80	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	81	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	101	82	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(7.0)
C区	101	83	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ	－	－	－	(7.0)
C区	101	84	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	101	85	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	4a層2	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	101	86	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層	1/4以下	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(5.0)
C区	101	87	不	「天」則	墨書	見込み		土	杯	4a層1	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	101	88	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層7	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	89	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層7	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	90	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層7	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	101	91	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層7	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	101	92	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	4a層1	1/4以下	底部付近左方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	(14.0)	(14.0)	(4.2)	(6.9)
C区	101	93	不明	「天」則	線刻	見込み	不か天	土	杯	4a層1	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	94	不	「天」則	墨書	見込み		土	杯	4a層2	1/3	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	(13.9)	(13.9)	4.4	6.2
C区	101	95	不	「天」則	墨書	見込み		土	杯	4a層1	1/4	底部付近右回転ヘラ削り調整するが底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	(10.9)	(10.9)	3.0	(5.7)
C区	101	96	不明	「天」則	線刻	見込み		土	皿	4a層2	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	97	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	4a層1	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	98	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	4a層1	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(8.1)
C区	101	99	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	－	1/4以下	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.2)
C区	101	100	不明	「天」則	線刻	見込み	不か不	土	杯	4a層1	1/4以下	底部横方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	101	不明	「天」則	線刻	見込み	不か不	土	杯	4a層2	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.3)
C区	101	102	不明		線刻	見込み		土	杯か	4a層2	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(5.9)
C区	101	103	不明	「天」則	線刻	見込み	不か不	土	杯	4a層1	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	6.0
C区	101	104	不明	「天」則	線刻	見込み	不か不	土	杯	4a層2	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整後底部ナデ調整	横ナデ	－	－	－	(8.0)
C区	101	105	不明	「天」則	線刻	見込み	不か不	土	杯	4a層1	破片	底部付近～底部外周右回転ヘラ削り調整、中央に右回転糸切痕残る	横ナデ	－	－	－	(9.0)
C区	101	106	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	4a層2	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(8.0)
C区	101	107	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯か	4a層1	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(8.2)
C区	101	108	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	－	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(7.9)
C区	101	109	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	4a層1	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	101	110	不	「天」則	線刻	見込み		土	皿	4a層1	1/4	底部右回転糸切痕無調整	横ナデ	(14.3)	(14.3)	3.1	5.5
C区	101	111	不	「天」則	線刻	見込み		土	皿	4a層2	1/4	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(5.9)
C区	101	112	不明	「天」則	線刻	見込み	不か天	土	杯	－	1/4以下	底部～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.2)
C区	101	113	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	東南東壁サブトレ一括	1/4	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.6)
C区	101	114	舎か		墨書	外面		土	杯	一括	破片	体部横ナデ	ヘラミガキ、黒	－	－	－	－
C区	101	115	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	破片	底部付近～底部外周ヘラ削り調整、底部中央回転糸切痕無調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	116	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	M10-46	1/4以下	底部付近右回転ヘラ削り、一部ハケメ入る底部ヘラ削り調整	横ナデ	(12.2)	(12.2)	3.6	(6.4)
C区	101	117	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.2)
C区	101	118	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	破片	底部付近～底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.6)
C区	101	119	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	120	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	破片	底部外周のみヘラ削り調整するが幅薄い底部回転糸切痕無調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	121	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	破片	底部のみ右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	101	122	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.2)
C区	101	123	不明	「天」則	線刻	見込み		土	椀	一括	破片	付高台横ナデ調整	ヘラミガキ、黒	－	－	－	(6.1)
C区	101	124	不明	「天」則か	線刻	見込み		須	杯	一括	1/4以下	底部ロクロ右回転糸切痕無調整	横ナデ	－	－	－	(8.0)
C区	102	125	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	破片	底部付近～底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	102	126	不	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	102	127	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	一括	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	102	128	不	「天」則	線刻	見込み		土	皿か	古包層－8	破片	底部付近右回転ヘラ削り、底部ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	102	129	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層－8	破片	体部横ナデ、底部回転糸切痕無調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	102	130	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層－8	1/4以下	底部付近及び底部右方向手持ちヘラ削り、底部中央回転糸切痕残す	横ナデ	－	－	－	(7.0)
C区	102	131	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	1トレ	破片	底部右回転ヘラ削り調整	ヘラミガキ	－	－	－	(6.6)
C区	102	132	不明	「天」則	線刻	見込み	不か不	土	椀	1トレ	1/4以下	底部右回転ヘラ削り、付高台	ヘラミガキ	－	－	－	(6.4)
C区	102	133	不明		線刻	見込み		土	杯か	1トレ	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)

C区	102	134	東	「天」則	線刻	見込み		土	皿	1トレ	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.6)
C区	102	135	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	1トレ	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	102	136		「天」則	線刻	見込み		土	杯か	1トレ	1/4以下	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	102	137	不明	「天」則	線刻	見込み		土	甑	2トレ－2	破片	底部付近横方向ヘラナデ、底部面取り	横方向ヘラナデ	－	－	－	－
C区	102	138	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	2トレ－2	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(7.0)
C区	102	139		「天」則	線刻	見込み		土	杯	2トレ－2	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.0)
C区	102	140		「天」則	線刻	見込み		土	杯	2トレ－2	破片	剥落不明	横ナデ	－	－	－	－
C区	102	141	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	2トレ－2	破片	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(6.8)
C区	102	142		「天」則	線刻	見込み		土	杯	1トレ	1/4	底部付近左方向手持ちヘラ削り、底部横方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	(10.7)	(10.7)	(3.7)	(6.6)
C区	102	143		「天」則	線刻	見込み		土	杯	2トレ－2	1/4以下	体部横ナデ、底部・底部付近右回転糸切痕無調整	横ナデ	－	－	－	(6.8)
C区	102	144		「天」則	墨書	見込み		土	杯	102トレ－1	1/4以下	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	(12.2)	(12.2)	4.2	(6.0)
C区	102	145		「天」則	墨書	見込み		土	杯	102トレ－1	1/4以下	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	－	－	－	(5.6)
C区	102	146	不明	「天」則	線刻	見込み	か	土	杯	102トレ－1	破片	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	－	－	－	(6.8)
C区	102	147	不明	「天」則	線刻	見込み	か	土	杯	2トレ－2	1/4以下	底部付近～底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	(7.0)
C区	102	148	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	102トレ－1	破片	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	－	－	－	(8.0)
C区	102	149		「天」則	線刻	見込み		土	杯	102トレ－1	1/4以下	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	(13.4)	(13.4)	3.6	(6.8)
C区	102	150	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	102トレ－1	破片	底部付近～底部回転ヘラ削り調整後付高台	横ナデ	－	－	－	(6.6)
C区	100	172	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	M10-45	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	100	265	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層1	破片	底部右回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	100	266	不明	「天」則	線刻	内面		土	杯	古包層1	破片	底部付近～底部左方向手持ちヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－
C区	100	267	不明	「天」則	線刻	見込み		土	杯	古包層1	破片	底部回転ヘラ削り調整	横ナデ	－	－	－	－

表4　石製品一覧

単位:cm（ ）は現状寸法　　単位:g

No.	挿図	掲載	遺構	状況	種別	石材	長径	短径	厚さ	重量(g)	色調	備考
1	7	1	C区	一括	石刃	凝灰岩	10.3	4.5	1.6	76.0	オリーブ灰	旧石器、Ⅸ層下部か
2	9	1	8	K5-14	有舌尖頭器	凝灰岩	3.6	1.8	0.5	2.1	5Y7/1灰白	表面摩滅、全面研磨か
3	9	2	8	一括	斧	砂岩	9.3	6.5	2.4	213.0	10Y5/1灰	打製、磨面と敲打面あり
4	14	8	10	床直上	斧	流紋岩	(8.4)	5.5	2.2	169.1	2.5Y5/2暗灰黄	一部磨る
5	19	11	16	覆土中	斧	砂岩	10.6	5.8	3.7	340.0	5Y6/2灰オリーブ	局部磨く
6	64	22	42	一括	斧	片岩系	7.2	3.8	2.0	73.9	5Y6/2灰オリーブ	打製、一部自然面残す
7	104	252	C区	1b2層	斧	砂岩	(5.8)	5.1	2.8	111.5	7.5YR6/6橙	打製、一部磨る
8	75	3	58	一括	鏃	黒曜石	1.3	1.2	0.3	0.4	5Y3/1オリーブ黒	
9	53	126	33	一括	鏃	デイサイト	1.8	1.5	0.4	0.8	2.5Y7/4浅黄	
10	－	－	148	一括	剥片	チャート	3.1	1.2	0.5	2.7	10Y5/1灰	写真のみ
11	－	－	134	一括	剥片	チャート	3.2	1.5	0.7	2.7	10Y5/1灰	写真のみ
12	－	－	A･B区	包層	剥片	チャート	2.3	2.0	0.7	3.2	5Y7/1灰白	写真のみ
13	－	－	A･B区	包層	剥片	チャート	2.1	1.8	0.4	1.9	5Y5/1灰	写真のみ
14	－	－	A･B区	包層	剥片	砂岩	3.5	3.0	0.5	6.3	5Y4/1灰	写真のみ
15	－	－	131c	一括	剥片	黒曜石	1.9	1.4	0.8	1.7	N1.5/黒	写真のみ
16	9	3	8	一括	剥片	黒曜石	3.9	4.0	1.6	17.4	N2/黒	二次加工施す
17	100	1	A区	一括	剥片	黒曜石	3.6	2.7	1.8	20.8	N1.5/黒	
18	－	－	8	一括	剥片	黒曜石	3.0	2.4	0.6	4.4	N1.5/黒	写真のみ
19	－	－	100	一括	剥片	黒曜石	1.0	0.8	0.2	0.1	N1.5/黒	写真のみ
20	100	8	B区	M10-19	叩石	砂岩	(9.1)	8.4	6.8	725.4	N3/灰	
21	44	13	31	一括	叩石	砂岩	10.5	6.9	4.1	372.0	7.5Y5/1灰	
22	77	1	110	一括	叩石	砂岩	8.5	6.4	4.4	322.0	2.5Y6/3にぶい黄	
23	28	2	25	一括	磨石	デイサイト	8.9	7.8	3.4	330.4	2.5Y7/3浅黄	
24	19	12	16	覆土中	磨石	流紋岩	5.1	5.0	4.0	130.4	7.5YR6/3にぶい褐	
25	104	253	C区	9トレ	磨石	デイサイト	(4.9)	(4.3)	(6.6)	172.3	7.5YR6/3にぶい褐	
26	9	4	8	一括	不明	砂岩	5.3	2.8	0.8	12.4	10YR6/4にぶい黄橙	
27	42	164	31a	一括	礫	緑泥片岩	18.2	(4.5)	2.2	166.5	2.5Y7/4にぶい黄褐	極めて脆い
28	100	9	B区	N10-56	礫	安山岩	(6.8)	(6.7)	(5.8)	360.5	2.5Y5/1黄灰	
29	26	5	23	覆土中	ビーズ	ガラス	0.4	0.4	0.2	0.1以下	スカイブルー	切除加工
30	76	2	62	一括	模造品	頁岩	(3.1)	(2.0)	0.3	2.6	N3/灰	
31	100	3	A区	一括	模造品	頁岩	(3.1)	(2.7)	4.0	4.2	7.5Y5/1灰	側面研磨
32	105	268	C区	Ⅱ期盛土	石帯（丸鞆）	黒色緻密質安山岩	4.3	2.8	0.7	16.2	7.5Y2/1黒	表面～側面よく研磨し光沢あり　裏面もよく研磨されるが光沢ない　U字状の穿孔3カ所
33	31	8	27	一括	砥石	凝灰岩	8.3	3.2	1.6	57.9	10YR8/2灰白	仕上砥 携帯用の穿孔か
34	76	3	62	一括	砥石	泥岩	(4.1)	3.6	0.7	20.3	10YR6/4にぶい黄橙	
35	44	12	31	一括	砥石	凝灰岩	4.8	(3.5)	3.4	49.6	2.5Y8/3淡黄	仕上砥
36	55	46	34	覆土中	砥石	凝灰岩	(5.2)	2.5	1.1	19.5	10YR5/2灰黄褐	仕上砥　側面石切痕
37	104	254	C区	101トレ	砥石	流紋岩	(2.9)	2.5	1.5	16.0	10YR5/2灰黄褐	仕上砥　側面石切痕
38	104	255	C区	3トレ	砥石	流紋岩	4.1	(3.3)	(2.7)	25.8	10YR7/3にぶい黄橙	仕上砥　側面石切痕

39	104	256	C区	2トレ	砥石	砂岩	(2.2)	(0.9)	(0.8)	2.9	10YR7/4にぶい黄橙	中砥　未使用
40	104	257	C区	一括	砥石	凝灰岩	(5.3)	2.7	1.5	29.1	2.5Y8/2灰白	仕上砥　側面石切痕
41	105	259	C区	3b層	砥石	凝灰岩	8.0	7.5	2.8	86.0	2.5Y8/3淡黄	仕上砥
42	69	164	45	一括	砥石	砂岩	(11.2)	(7.5)	(4.2)	360.0	5Y6/2灰オリーブ	中砥
43	104	258	C区	一括	砥石	流紋岩	(4.1)	(3.9)	(1.6)	19.2	2.5Y7/2灰黄	仕上砥
44	105	260	C区	2トレ	砥石	流紋岩	(5.8)	2.3	1.7	32.1	2.5Y7/3浅黄	仕上砥
45	63	8	41	一括	金床石か	安山岩	(14.6)	(10.2)	9.5	1660.0	2.5Y6/1黄灰	
46	105	261	C区	100トレ	金床石か	ホルンフェルス	(10.3)	(9.0)	(6.3)	634.0	2.5Y4/1黄灰	
47	96	4	103	一括	礫	安山岩	(15.0)	(8.3)	(7.7)	1175.0	2.5Y6/1黄灰	
48	90	35	79	一括	雙六駒	頁岩	2.0	2.0	0.5	4.4	N2/黒	
49	95	19	87	L8-08 1b層	鍋か	滑石	(5.3)	(1.6)	(0.9)	8.1	10YR4/1褐灰	高台か　平面形輪花状に刻み、外面のみ炭化物付着

表5　土製品一覧　　単位:cm　()は現状値　　単位:g

No.	挿図	掲載	遺構	状況	名称	長さ	幅	厚さ	重量(g)	磁着度	メタル度	備考
1	75	4	58	覆土中	羽口	(4.3)	(4.0)	1.6	28.3	2	(△)2	
2	100	10	B区	覆土中	羽口	(5.5)	(6.0)	2.2	80.3	—	—	
3	42	182	31a	覆土中	羽口	(5.5)	(5.2)	3.2	55.0	3	H(○)1	送風口に鉄分付着
4	43	1	31c	炉B内	羽口	(5.3)	(6.6)	2.8	97.1	4	H(○)1	濃緑色滓付 含鉄二カ所
5	42	183	31a	d貼床下	羽口	(8.7)	(6.3)	2.8	150.1	4	H(○)1	濃緑色滓付
6	42	184	31a	覆土中	羽口	(5.7)	(6.5)	3.1	92.7	3	(△)1	濃緑色滓付
7	—	—	31a	覆土中	羽口	(3.2)	(4.5)	2.3	34.0	2	(△)2	写真のみ
8	—	—	31	覆土中	羽口	(2.7)	(3.5)	(2.5)	27.8	3	H(○)2	写真のみ
9	70	196	45	覆土中	羽口	(6.0)	(7.6)	3.0	105.5	—	—	濃緑色滓付
10	53	121	33	袖部	羽口	(16.9)	7.4	2.5	980.0	—	—	
11	53	122	33	カマド内	羽口	(15.8)	7.5	2.7	790.0	—	—	
12	53	123	33	覆土中	羽口	16.1	7.8	2.5	935.0	—	—	
13	48	141	32	カマド内	羽口	14.5	9.3	3.0	990.0	—	—	
14	64	25	43	覆土中	羽口	(4.0)	(3.0)	(2.0)	19.0	—	—	
15	64	26	43	覆土中	羽口	(3.4)	(2.9)	2.9	19.4	1	H(○)2	
16	—	—	43	覆土中	羽口	(3.2)	(2.3)	(1.8)	14.5	4	H(○)2	写真のみ
17	—	—	43	覆土中	羽口	(2.9)	(2.6)	(1.2)	7.4	3	H(○)3	写真のみ
18	—	—	43	覆土中	羽口	(2.6)	(2.3)	(1.5)	8.3	3	H(○)3	写真のみ
19	52	112	33	カマド内	羽口	(5.9)	(6.7)	2.5	94.0	—	—	
20	52	113	33	覆土中	羽口	(5.2)	(6.2)	3.1	88.9	—	—	
21	52	114	33	覆土中	羽口	(4.8)	(6.4)	3.2	84.4	—	—	
22	52	115	33	覆土中	羽口	(4.1)	(4.5)	3.1	46.6	—	—	
23	52	116	33	床直上	羽口	(3.4)	(4.7)	2.1	24.4	—	—	
24	52	118	33	覆土中	羽口	(3.3)	(4.7)	(2.6)	25.2	—	—	
25	52	117	33	床直上	羽口	(4.5)	(3.5)	2.5	29.3	—	—	
26	52	119	33	覆土中	羽口	(3.9)	(3.2)	(2.2)	17.6	—	—	
27	53	124	33	覆土中	羽口	(17.0)	(8.5)	3.0	134.0	—	—	
28	52	120	33	覆土中	羽口	(7.5)	(5.0)	3.0	102.4	—	—	
29	—	—	33	覆土中	羽口	(1.7)	1.5	0.4	4.4	1	(△)3	写真のみ
30	—	—	33	覆土中	羽口	(2.7)	(2.9)	(1.8)	11.6	2	(△)2	写真のみ
31	—	—	33	覆土中	羽口	(3.4)	(2.8)	(1.2)	9.3	1	(△)2	写真のみ
32	—	—	33	覆土中	羽口	(2.8)	(2.2)	(1.3)	7.6	2	(△)3	写真のみ
33	—	—	33	覆土中	羽口	(3.0)	(2.5)	(2.7)	21.0	3	(△)2	写真のみ
34	48	142	32	覆土中	羽口	(4.1)	(5.6)	(2.6)	33.6	—	—	濃緑色滓付
35	48	143	32	覆土中	羽口	(5.9)	(5.5)	2.9	64.2	2	(△)1	濃緑色滓付
36	—	—	32	覆土中	羽口	(3.3)	(3.5)	(2.8)	22.8	2	(△)2	写真のみ
37	—	—	32	覆土中	羽口	(3.7)	(3.0)	(1.7)	21.8	3	(△)2	写真のみ
38	—	—	32	覆土中	羽口	(3.4)	(3.1)	(2.1)	22.5	2	(△)2	写真のみ
39	—	—	32	覆土中	羽口	(2.0)	(3.9)	(1.3)	13.1	3	(△)2	写真のみ
40	70	197	45	覆土中	羽口	(4.4)	(7.0)	2.8	93.1	4	(△)1	濃緑色滓付
41	70	198	45	覆土中	羽口	(3.6)	(3.9)	1.9	18.7	2	(△)2	
42	70	200	45	覆土中	羽口	(5.0)	(4.0)	5.0	85.9	—	—	濃緑色滓付
43	70	204	45	覆土中	羽口	(7.5)	(5.6)	3.7	96.1	—	—	
44	70	201	45	覆土中	羽口	(4.0)	(2.8)	3.3	22.3	—	—	
45	70	202	45	覆土中	羽口	(5.2)	(4.3)	2.2	34.8	—	—	
46	70	205	45	覆土中	羽口	(3.2)	(4.0)	1.9	20.0	—	—	
47	70	203	45	覆土中	羽口	(2.5)	(2.8)	(1.8)	10.3	—	—	
48	—	—	45	覆土中	羽口	(3.1)	(2.6)	(1.4)	12.5	3	(△)2	写真のみ
49	—	—	45	覆土中	羽口	(3.4)	(2.5)	(1.7)	12.4	3	(△)2	写真のみ
50	—	—	45	覆土中	羽口	(1.9)	(4.0)	(1.5)	11.3	3	(△)2	写真のみ
51	—	—	45	覆土中	羽口	(3.8)	(6.0)	(2.8)	63.1	4	(△)1	写真のみ
52	—	—	45	覆土中	羽口	(2.7)	(3.5)	(2.5)	31.0	3	(△)2	写真のみ
53	—	—	45	覆土中	羽口	(2.5)	(2.1)	(1.7)	11.6	3	(△)2	写真のみ
54	70	206	45	覆土中	羽口	(6.0)	(8.5)	2.8	92.6	—	—	
55	70	208	45	覆土中	羽口	(5.8)	(4.1)	2.5	45.4	—	—	
56	—	—	45	覆土中	羽口	(4.1)	(3.5)	(1.9)	28.5	4	(△)2	写真のみ
57	—	—	45	覆土中	羽口	(4.2)	(2.5)	(2.3)	23.8	4	H(○)2	写真のみ
58	55	48	34	覆土中	羽口	(4.8)	(2.9)	2.6	30.5	3	(△)2	

59	55	49	34	覆土中	羽口	(4.9)	(2.9)	2.4	33.9	―	―	
60	55	47	34	覆土中	羽口	(2.4)	(2.3)	(1.2)	5.3	―	―	濃緑色滓付
61	―	―	34	覆土中	羽口	(2.8)	(3.6)	(0.8)	7.2	2	(△)2	写真のみ
62	―	―	34	覆土中	羽口	(3.5)	(3.7)	(2.0)	20.0	2	H(○)2	写真のみ
63	―	―	34	覆土中	羽口	(3.6)	(2.8)	(1.8)	16.3	3	H(○)2	写真のみ
64	59	38	37	A炉中	羽口	(7.7)	(6.0)	2.3	78.0	3	H(○)1	濃緑色滓付
65	59	37	37	覆土中	羽口	(3.6)	(3.9)	1.9	16.9	―	―	濃緑色滓付
66	59	39	37	覆土中	羽口	(5.5)	(6.1)	(2.5)	60.7	―	―	
67	59	40	37	覆土中	羽口	(5.1)	(4.4)	2.4	35.4	―	―	
68	59	41	37	覆土中	羽口	(4.0)	(5.1)	2.3	32.6	―	―	
69	―	―	37	覆土中	羽口	(7.0)	(5.5)	(2.5)	77.0	3	(△)1	写真のみ
70	―	―	31	覆土中	羽口	(3.0)	(2.5)	(1.9)	14.6	3	(△)2	写真のみ
71	70	199	45	D炉	羽口	(9.3)	(6.4)	2.9	122.0	―	―	
72	70	207	45	覆土中	羽口	(4.2)	(7.8)	1.5	44.2	3	H(○)1	表面鉄分付着
73	―	―	45	覆土中	羽口	(2.7)	(2.6)	(1.8)	14.4	3	(△)2	写真のみ
74	―	―	45	D炉	羽口	(3.5)	(3.8)	(2.4)	30.0	―	―	写真のみ
75	―	―	45	覆土中	羽口	(3.4)	(3.5)	(1.7)	21.0	―	―	写真のみ
76	―	―	45	覆土中	羽口	(3.5)	(2.6)	(2.2)	17.9	2	(△)2	写真のみ
77	64	27	42	覆土中	羽口	(3.0)	(3.1)	1.6	10.3	3	H(○)2	濃緑色滓付
78	64	28	42	覆土中	羽口	(5.2)	(4.0)	(2.9)	35.0	―	―	
79	64	29	42	覆土中	羽口	(3.9)	(3.1)	2.3	26.0	―	―	
80	64	30	42	覆土中	羽口	(1.7)	(3.5)	(1.7)	7.9	―	―	
81	97	6	68	覆土中	羽口	(2.9)	(4.0)	(1.8)	10.0	―	―	濃緑色滓付
82	35	11	30	覆土中	羽口	(2.7)	(4.4)	2.7	14.9	―	―	
83	―	―	31	上層部 炉か	羽口	(8.6)	(5.7)	(2.7)	72.7	―	―	写真のみ　スサ入り
84	―	―	31東	上中層	羽口	(4.3)	(3.8)	(1.6)	26.2	2	H(○)2	写真のみ
85	104	224	4a層	覆土中	羽口	(3.0)	(4.2)	2.9	24.7	―	―	
86	104	225	4a層	覆土中	羽口	(5.0)	(4.6)	3.0	51.0	―	―	
87	104	226	4a層	覆土中	羽口	(3.6)	(2.7)	(2.6)	10.3	―	―	濃緑色滓付 含鉄二カ所
88	104	227	4a層	覆土中	羽口	(5.6)	(4.9)	2.3	51.0	2	H(○)2	濃緑色滓付
89	104	228	4a層	覆土中	羽口	(4.5)	(4.4)	(4.0)	50.5	3	(△)1	濃緑色滓付
90	―	―	4a層	覆土中	羽口	(2.8)	(2.7)	(1.5)	9.2	2	(△)2	写真のみ
91	―	―	4a層	覆土中	羽口	(2.2)	(2.3)	(1.6)	13.9	3	(△)2	写真のみ
92	―	―	4a層	覆土中	羽口	(3.7)	(3.0)	(2.2)	21.2	―	―	写真のみ
93	104	229	古包層	覆土中	羽口	(9.7)	(6.0)	4.2	173.3	―	―	
94	104	230	古包層	覆土中	羽口	(4.8)	(2.9)	2.5	25.0	―	―	
95	104	231	古包層	覆土中	羽口	(2.5)	(2.6)	2.0	7.3	―	―	
96	104	232	古包層	覆土中	羽口	(4.4)	(3.4)	(2.7)	29.0	―	―	
97	104	233	31c	覆土中	羽口	(4.2)	(2.8)	3.0	21.1	―	―	
98	104	248	2トレ	覆土中	羽口	(6.2)	(6.5)	4.1	113.8	―	―	
99	104	234	100トレ	覆土中	羽口	(8.8)	(3.0)	3.3	93.2	2	H(○)1	
100	104	235	100トレ	覆土中	羽口	(4.6)	(3.2)	2.8	31.7	1	(△)2	
101	104	236	100トレ	一括	羽口	(3.4)	(3.7)	2.8	27.5	3	(△)2	濃緑色滓付
102	104	237	100トレ	一括	羽口	(8.0)	(4.6)	3.2	95.7	2	(△)1	
103	104	238	100トレ	一括	羽口	(4.2)	(2.7)	2.9	22.8	1	(△)2	
104	104	239	100トレ	一括	羽口	(4.9)	(5.3)	2.2	49.1	2	(△)2	濃緑色滓付
105	104	240	100トレ	一括	羽口	(6.6)	(6.2)	3.3	108.2	3	(△)1	
106	104	241	100トレ	覆土中	羽口	(4.5)	(6.5)	2.4	68.9	3	(△)1	濃緑色滓付
107	104	265	100トレ	覆土中	羽口	(4.8)	(5.4)	(3.1)	60.7	4	(△)1	濃緑色滓付 含鉄一カ所
108	―	―	100トレ	覆土中	羽口	(5.3)	(3.0)	(2.3)	45.5	4	H(○)1	写真のみ
109	―	―	100トレ	覆土中	羽口	(3.3)	(3.5)	(2.5)	26.7	3	(△)2	写真のみ
110	―	―	100トレ	覆土中	羽口	(4.0)	(4.2)	2.0	46.6	3	(△)1	写真のみ
111	―	―	100トレ	覆土中	羽口	(3.4)	(4.0)	(1.9)	24.6	3	(△)2	写真のみ
112	―	―	100トレ	覆土中	羽口	(4.2)	(1.7)	(2.0)	21.3	1	(△)2	写真のみ
113	―	―	100トレ	一括	羽口	(3.1)	(3.2)	(1.1)	15.1	3	(△)2	写真のみ
114	―	―	100トレ	一括	羽口	(4.3)	(4.2)	(2.0)	36.2	1	(△)2	写真のみ
115	―	―	100トレ	覆土中	羽口	(4.7)	(2.3)	(2.0)	38.6	4	H(○)2	写真のみ
116	104	242	102トレ	覆土中	羽口	(6.6)	(6.3)	2.8	107.4	―	―	
117	104	243	―	覆土中	羽口	(7.8)	(4.9)	(2.9)	69.7	―	―	
118	104	244	―	覆土中	羽口	(10.7)	6.8	3.1	76.2	―	―	濃緑色滓付
119	104	266	―	覆土中	羽口	(3.3)	(3.2)	2.3	15.4	―	―	
120	55	50	34	遺構外	羽口	(5.0)	(6.5)	2.8	60.0	―	―	
121	104	246	一括	―	羽口	(5.2)	(6.0)	3.0	74.8	―	―	
122	104	223	一括	覆土中	羽口	(3.3)	(3.9)	(1.9)	17.1	2	(△)2	濃緑色滓付
123	104	247	一括	覆土中	羽口	(5.3)	(4.0)	(2.1)	36.9	3	(△)2	濃緑色滓付 送風口に鉄付着
124	―	―	一括	覆土中	羽口	(3.3)	(3.5)	(1.8)	29.9	2	(△)2	写真のみ
125	―	―	一括	覆土中	羽口	(2.8)	(2.0)	(1.3)	8.7	3	(△)3	写真のみ
126	―	―	一括	覆土中	羽口	(5.0)	(3.0)	(2.0)	26.1	3	(△)1	写真のみ
127	―	―	古包層	覆土中	羽口	(3.0)	(1.6)	(1.9)	10.9	2	H(○)2	写真のみ
128	―	―	古包層	覆土中	羽口	(3.0)	(3.3)	1.6	18.1	3	(△)2	写真のみ
129	―	―	古包層	覆土中	羽口	(3.0)	(2.0)	1.7	15.1	4	(△)2	写真のみ
130	―	―	33	覆土中	炉壁	(7.0)	(5.8)	(5.2)	116.0	2	(△)1	写真のみ
131	―	―	45	D炉	炉壁	(4.4)	(4.8)	(2.3)	35.0	―	―	写真のみ

132	97	7	68	覆土中	炉壁	(7.5)	(6.3)	2.5	79.4	3	H(○)1	濃緑色滓付 一部黒鉛化木炭の付着痕
133	104	245	一括	覆土中	鋳型	(4.0)	(3.4)	(2.2)	18.6	—	—	
134	75	1	60	覆土中	甕	(10.0)	(10.0)	1.1	160.0	—	—	表面・裏面・破面の一部を砥石に転用、仕上砥
135	59	42	37	A炉焼土	不明	(3.1)	(2.9)	0.3	2.4	—	—	
136	64	26	42	覆土中	不明	(3.0)	(2.8)	(2.8)	17.2	—	—	壁材か
137	—	—	31	覆土中	不明	(6.2)	(3.8)	(4.5)	104.8	—	—	写真のみ
138	—	—	31	覆土中	不明	(6.4)	(4.5)	(5.0)	145.4	—	—	写真のみ
139	32	5	28b	一括	不明	(15.1)	(11.5)	(10.8)	1215.0	—	—	イネ科植物圧痕あり
140	73	1	51	覆土中	不明	(4.1)	(3.7)	(3.2)	22.2	—	—	
141	—	—	中テ東南	覆土中	不明	(3.5)	(2.4)	(1.8)	16.2	3	(△)2	写真のみ
142	—	—	4b層	覆土中	不明	(3.7)	(4.0)	(0.8)	17.8	1	(△)2	写真のみ
143	100	2	A区	一括	粘土塊	(2.6)	(2.3)	(1.3)	8.3	—	—	壁材か
144	—	—	M10-37	覆土中	粘土塊	(2.6)	(3.0)	(2.8)	20.0	—	—	壁材か、写真のみ
145	53	125	33	覆土中	支脚	(12.6)	7.3	7.5	735.0	—	—	
146	48	144	32	カマド西	支脚	(4.7)	(5.8)	(5.1)	132.2	—	—	
147	48	145	32	覆土中	支脚	(5.0)	(3.5)	3.3	45.6	—	—	
148	48	146	32	覆土中	支脚	(3.5)	(5.1)	2.3	27.9	—	—	
149	56	3	35	A炉	支脚	13.2	7.7	8.5	655.0	—	—	
150	60	43	37	A炉袖	支脚	(5.8)	(7.0)	(6.0)	102.0	—	—	
151	60	44	37	覆土中	支脚	(6.2)	7.4	(6.5)	150.0	—	—	150と同一個体
152	60	45	37	A炉焼土	支脚	(19.8)	7.4	8.4	820.0	—	—	
153	104	249	古包層	覆土中	支脚	(5.7)	(4.6)	(3.8)	67.0	—	—	
154	76	4	62	覆土中	土錘	(4.3)	(2.8)	1.1	25.0	—	—	
155	75	2	59	覆土中	土錘	(2.5)	(1.5)	0.5	5.0	—	—	
156	42	185	31a	b床直上	土錘	(2.5)	(2.1)	0.8	3.4	—	—	
157	96	3	103	覆土中	土錘	5.4	2.0	0.5	13.4	—	—	
158	96	1	104	覆土中	土錘	(3.3)	1.5	0.4	5.2	—	—	
159	104	251	4a層	覆土中	土錘	4.4	2.4	0.9	20.9	—	—	
160	104	250	一括	覆土中	土錘	4.3	2.1	0.7	11.9	—	—	

表6　金属製品一覧　　単位:cm　　単位:g

No.	挿図	掲載	遺構	状況	名　称	材質	遺存度	長径	短径	厚さ	重量	磁着度	メタル度	大きさ	備　考
1	42	166	31a	床付近	座金具	金銅	完形	2.6	2.6	0.2	4.8	—	—	—	
2	42	165	31a	床直	座金具	金銅	完形	2.7	2.6	1.0	6.3	—	—	—	内面に繊維付着
3	69	165	45	覆土中	鉈尾	銅	完形	4.6	2.9	0.4	8.4	—	—	—	
4	42	167	31a	覆土中	鉸具	銅	2/3	3.6	2.0	0.6	4.6	—	—	—	
5	48	119	32	カマド周辺	焚鐘形製品	銅	不明	(7.1)	(6.2)	0.8	91.4	—	—	—	推定径18.4cm、飾り鋲付
6	55	34	34	一括	鏡	銅	破片	(6.4)	(1.5)	0.5	4.9	—	—	—	和鏡　推定径9.7cm
7	55	35	34	P2上場貼り付き	飾り金具	銅	不明	(2.3)	(2.8)	0.1	1.8	—	—	—	
8	43	187	31a	一括	飾り金具	銅	3/4	3.9	(3.8)	0.1	7.7	—	—	—	
9	104	220	C区	一括	飾り金具	銅	不明	(2.8)	(2.6)	0.5	7.3	—	—	—	
10	104	221	C区	一括	飾り金具	銅	不明	(2.6)	(2.2)	0.5	9.5	—	—	—	
11	104	222	C区	一括	不明製品	銅	破片	(2.3)	(2.3)	0.3	5.9	—	—	—	
12	69	166	45	一括	板状製品	銅	完形	3.4	0.5	0.2	2.5	—	—	—	
13	69	167	45	一括	板状製品	銅	不明	(1.7)	(1.5)	0.1	2.0	—	—	—	
14	55	36	34	P1	板状製品	銅	不明	(1.3)	(1.0)	0.1	0.4	—	—	—	ゆるく湾曲する
15	52	83	33	床直上	錠前	鉄	完形	8.0	3.0	1.2	25.7	—	—	—	
16	42	169	31a	一括	鏃	鉄	3/4	(3.7)	1.2	0.2	2.2	—	—	—	
17	42	170	31a	カマド袖下部	鏃	鉄	3/4	(16.1)	1.3	0.6	23.6	—	—	—	未製品か
18	48	120	32	一括	鏃	鉄	1/2	(9.7)	(0.4)	(0.4)	4.8	—	—	—	茎のみ　先端角錐状
19	48	121	32	一括	鏃	鉄	3/4	(8.0)	0.9	0.4	4.8	—	—	—	
20	52	84	33	P4内	鏃	鉄	2/3	(13.2)	(2.7)	0.9	35.4	—	—	—	
21	52	85	33	壁際	鏃	鉄	3/4	(9.1)	4.9	0.6	19.0	—	—	—	
22	52	86	33	P内	鏃	鉄	2/3	(9.7)	(3.2)	0.9	18.6	—	—	—	
23	69	169	45	一括	鏃	鉄	2/3	(7.0)	2.1	0.6	12.3	—	—	—	
24	69	170	45	一括	鏃	鉄	3/4	(10.9)	(2.1)	0.9	18.5	—	—	—	
25	69	168	45	一括	鏃	鉄	1/2	(2.5)	(3.3)	0.2	5.3	—	—	—	
26	69	171	45	一括	鏃か	鉄	2/3	(2.0)	(2.0)	(0.4)	16.8	—	—	—	先細りになるが棘はない
27	31	9	27	覆土中	鏃	鉄	ほぼ完形	(16.5)	0.9	0.7	17.2	—	—	—	
28	104	193	C区	M10-73	鏃	鉄	3/4	(8.3)	(3.6)	0.3	22.0	—	—	—	
29	52	87	33	床下	大刀足金物	鉄	ほぼ完形	(6.2)	1.9	2.4	28.8	—	—	—	薄板上に2条の隆起あり
30	55	37	34	一括	大刀責金具	鉄	ほぼ完形	4.2	2.4	2.2	13.5	—	—	—	小口に鉄板巻き付け玉縁状にする
31	42	168	31a	覆土中	刀子	鉄	茎の一部	(2.9)	(0.8)	0.4	3.9	—	—	—	

32	52	88	33	P4	刀子	鉄	3/4	(3.6)	0.9	0.5	5.4	—	—	—	刃中位から折れ曲がる
33	48	123	32	一括	刀子	鉄	切先のみ	(2.4)	(0.4)	(0.3)	1.6	—	—	—	
34	48	122	32	一括	刀子責金具	鉄	完形	2.1	1.4	0.8	2.4	—	—	—	
35	26	4	23	覆土中	刀子	鉄	1/3	(8.3)	(1.4)	0.3	11.9	—	—	—	刃部に木質鞘残欠付着
36	44	8	31	一括	刀子	鉄	1/4以下	(3.6)	(0.9)	(0.3)	1.9	—	—	—	
37	44	7	31	一括	刀子	鉄	1/3	(6.4)	1.0	0.4	6.1	—	—	—	茎に木質柄残欠付着
38	104	195	100トレ	一括	刀子	鉄	3/4以上	(7.5)	1.1	0.2	6.5	—	—	—	刃部ややぬるい
39	104	194	遺構外	一括	刀子	鉄	3/4	(22.3)	1.5	0.4	37.2	0	—	—	
40	64	27	43	一括	刀子か	鉄	破片	(2.7)	(0.7)	0.3	2.0	—	—	—	
41	69	172	45	一括	刀子か	鉄	破片	(2.2)	(0.6)	(0.3)	2.0	—	—	—	刀子茎か
42	104	196	C区	古包層	刀子状製品	鉄	ほぼ完形	(3.9)	0.9	0.2	2.2	—	—	—	刀子に似るが刃がない
43	32	6	28b	一括	刀子状製品	鉄	不明	(4.9)	1.3	0.2	4.4	5	(△)	2	
44	52	102	33	P4上層	曲刃鎌	鉄	ほぼ完形	16.0	3.2	0.3	85.9	—	—	—	端部折り曲げる
45	52	89	33	P4	穂摘鎌	鉄	3/4	(7.0)	1.8	0.2	8.3	—	—	—	目釘穴1カ所遺存
46	48	124	32	一括	穂摘鎌	鉄	3/4	(5.9)	2.1	0.2	4.3	—	—	—	
47	69	173	45	一括	穂摘鎌	鉄	3/4	(8.9)	2.3	0.2	13.7	—	—	—	目釘穴付近は刃が付かない
48	69	174	45	一括	穂摘鎌	鉄	完形	7.0	1.6	0.2	10.2	—	—	—	端部若干曲げる 刃がぬるい
49	104	197	C区	古包層	穂摘鎌か	鉄	不明	(4.6)	(1.2)	0.1	2.7	—	—	—	
50	59	31	37	一括	燧金	鉄	ほぼ完形	9.0	(3.6)	0.4	41.2	—	—	—	
51	52	90	33	一括	鋲	鉄	不明	(1.5)	1.2	1.2	4.1	3	H(○)	3	
52	104	198	2トレ	一括	鋲	鉄	不明	(2.0)	1.7	1.1	5.8	5	(△)	3	
53	42	171	31a	一括	釘	鉄	一部	(4.0)	(1.7)	(1.5)	1.3	—	—	—	
54	42	172	31a	P内	釘	鉄	1/2	(2.7)	0.8	0.5	2.9	—	—	—	
55	52	91	33	P4	釘	鉄	2/3	(4.6)	(0.4)	(0.4)	5.9	—	—	—	
56	52	93	33	P4下層	釘	鉄	ほぼ完形	(8.8)	1.2	0.9	11.2	—	—	—	
57	52	92	33	一括	釘	鉄	3/4	(5.2)	0.8	0.8	5.0	—	—	—	
58	52	94	33	一括	釘	鉄	3/4	(2.5)	0.6	0.5	1.1	—	—	—	
59	52	95	33	一括	釘	鉄	1/2	(2.4)	0.5	0.6	1.9	—	—	—	
60	52	96	33	一括	釘	鉄	1/3	(2.2)	(0.2)	(0.2)	0.6	—	—	—	
61	52	97	33	一括	釘	鉄	1/3	(2.2)	(0.3)	(0.3)	0.8	—	—	—	
62	52	98	33	一括	釘	鉄	3/4	(10.0)	(1.2)	(1.2)	21.3	—	—	—	5本束になる
63	52	99	33	一括	釘	鉄	ほぼ完形	(5.1)	1.4	0.5	5.7	—	—	—	
64	52	100	33	一括	釘	鉄	ほぼ完形	(2.9)	0.7	0.7	1.6	—	—	—	
65	52	101	33	カマド煙道	釘	鉄	1/2	(4.2)	0.5	0.5	4.8	—	—	—	
66	48	125	32	一括	釘	鉄	2/3	(2.2)	(2.3)	0.5	3.2	5	H(○)	3	
67	48	131	32	一括	釘	鉄	完形	4.2	1.7	1.7	10.4	—	—	—	先端部は偏平に close
68	48	126	32	一括	釘	鉄	2/3	(5.0)	1.6	1.3	9.1	—	—	—	飾り金具か
69	48	127	32	床直上	釘	鉄	2/3	(4.2)	(0.4)	(0.4)	3.2	—	—	—	
70	48	128	32	P5	釘	鉄	3/4	(5.8)	(0.5)	(0.5)	4.1	—	—	—	
71	48	129	32	一括	釘	鉄	ほぼ完形	(3.1)	0.8	0.3	1.0	—	—	—	
72	48	130	32	一括	釘	鉄	2/3	(3.4)	(0.5)	(0.4)	2.9	—	—	—	
73	69	175	45A	一括	釘	鉄	1/2	(1.5)	(0.6)	0.4	0.8	4	(△)	3	
74	69	176	45	一括	釘	鉄	1/3	(2.6)	(0.4)	(0.4)	1.6	—	—	—	
75	69	177	45	一括	釘	鉄	1/4	(1.7)	(0.3)	(0.3)	0.6	—	—	—	
76	69	180	45	一括	釘	鉄	2/3	(8.5)	(0.4)	(0.4)	8.7	—	—	—	
77	69	178	45	一括	釘	鉄	1/2	(2.7)	(0.5)	(0.5)	2.0	—	—	—	
78	69	179	45	一括	釘	鉄	ほぼ完形	(4.5)	(1.1)	(0.8)	6.0	—	—	—	
79	69	181	45	一括	釘	鉄	3/4	(3.4)	(0.3)	(0.4)	2.1	—	—	—	
80	69	182	45	一括	釘	鉄	1/2	(2.0)	(2.0)	(0.4)	1.9	—	—	—	
81	69	187	45	床下1	釘	鉄	3/4	(2.4)	(0.4)	(0.4)	2.2	—	—	—	
82	69	186	45	一括	釘	鉄	不明	(3.1)	(0.5)	(0.4)	3.4	—	—	—	周囲に木材付着
83	69	183	45	一括	釘	鉄	3/4	(2.2)	(0.2)	(0.5)	1.3	—	—	—	断面長方形隅丸方形に曲がる金具の可能性あり
84	69	185	45a	一括	釘	鉄	3/4	(3.8)	0.6	0.3	2.0	—	—	—	断面長方形
85	69	184	45a	一括	釘	鉄	3/4	(3.4)	(0.3)	(0.5)	1.6	—	—	—	別個体の釘付着
86	55	38	34	一括	釘	鉄	1/3	(1.4)	0.5	0.3	0.5	5	H(○)	3	
87	55	39	34	床直	釘	鉄	1/2	(2.9)	(0.4)	(0.4)	1.2	—	—	—	
88	100	11	B区	一括	釘	鉄	1/4以下	(0.9)	0.8	0.7	1.1	4	(△)	3	
89	44	9	31	カマド周辺	釘	鉄	1/2	(3.5)	(0.4)	(0.4)	1.3	—	—	—	
90	104	199	C区	100トレ	釘	鉄	3/4	(8.1)	(0.6)	(0.6)	10.0	—	—	—	
91	104	200	C区	100トレ	釘	鉄	2/3	(4.8)	(0.5)	(0.5)	3.4	—	—	—	
92	104	201	C区	100トレ	釘	鉄	1/4	(1.3)	(0.4)	(0.4)	0.9	3	(△)	3	
93	104	202	C区	古包層	釘	鉄	1/2	(2.8)	1.3	0.6	3.7	—	—	—	
94	104	203	C区	古包層	釘	鉄	2/3	(2.9)	(1.6)	(0.4)	2.1	—	—	—	
95	100	12	B区	一括	釘	鉄	1/2	(2.3)	0.4	0.4	0.6	—	—	—	
96	100	13	B区	一括	釘	鉄	ほぼ完形	(5.4)	0.9	0.7	5.1	—	—	—	

97	100	14	B区	一括	釘	鉄	1/3	(1.9)	(0.2)	(0.2)	0.5	—	—	—	
98	100	15	B区	一括	釘	鉄	1/2	(2.7)	(0.4)	(0.4)	1.8	—	—	—	
99	69	188	45	一括	釘か	鉄	3/4	(2.2)	(0.2)	(0.5)	6.4	—	—	—	断面円形に加工、先端部四角く扁平に尖る
100	104	204	C区	3a2層	刀子か	鉄	破片	(2.3)	0.9	0.3	2.2	—	—	—	中世Ⅲ期ピット内
101	44	5	31	5トレ	鏃か	鉄	不明	(4.7)	0.8	0.8	10.6	—	—	—	
102	64	28	43	一括	鏃	鉄	1/3	(3.3)	(0.6)	(0.3)	3.3	—	—	—	
103	64	29	43	一括	鏃	鉄	破片	(1.1)	(0.9)	(0.3)	0.4	—	—	—	
104	48	132	32	一括	鏃	鉄	完形	2.1	1.4	0.8	9.9	—	—	—	
105	48	133	32	一括	鏃	鉄	1/4以下	(2.3)	(1.6)	0.4	2.7	—	—	—	
106	48	134	32	カマド付近	鏃	鉄	ほぼ完形	(12.2)	2.3	0.6	21.1	—	—	—	
107	48	135	32	一括	鏃	鉄	3/4以上	(12.7)	(0.8)	0.7	31.3	—	—	—	
108	59	34	37	一括	鏃	鉄	1/3	(3.1)	0.8	0.8	7.2	—	—	—	
109	59	33	37	一括	鏃	鉄	1/3	(2.3)	(1.8)	(0.4)	2.0	—	—	—	
110	55	51	34	遺構外	紡輪	鉄	完形	4.1	4.1	0.2	8.9	—	—	—	
111	59	32	37	一括	紡輪	鉄	完形	4.5	4.5	0.3	23.2	—	—	—	
112	52	110	33	一括	脚か	鉄	不明	(5.3)	(3.4)	(1.8)	50.2	—	—	—	三角柱状を呈す鉄鍋の脚か　亀甲状の割れ口から、鋳造遺物の可能性あり
113	52	105	33	一括	鉤形製品	鉄	完形	5.7	3.4	0.8	9.8	—	—	—	刀子を転用したものと思われる
114	70	189	45	一括	鑿形製品	鉄	不明	(2.1)	1.8	1.1	14.3	4	H(○)	3	
115	61	3	38	P9	鑿形製品	鉄	不明	(4.8)	(0.9)	(0.6)	9.0	—	—	—	
116	44	10	31	カマド周辺	鑿形製品	鉄	完形	6.3	1.6	0.7	26.7	—	—	—	
117	42	173	31a	P内	鑿形製品	鉄	3/4	(6.3)	0.8	(0.4)	9.3	—	—	—	
118	52	103	33	P4下層	鑿形製品	鉄	完形	3.4	1.6	1.0	15.8	—	—	—	
119	64	30	43	一括	棒形製品	鉄	不明	(8.0)	0.4	0.3	6.2	—	—	—	
120	59	35	37	一括	棒形製品	鉄	不明	(2.9)	0.9	1.0	12.3	—	—	—	
121	59	36	37	P7内	棒形製品	鉄	不明	(3.3)	0.7	0.7	11.0	—	—	—	
122	62	3	40	遺構外	棒形製品	鉄	不明	(6.7)	0.9	0.9	20.5	—	—	—	
123	44	6	31	5トレンチ	棒形製品	鉄	不明	(6.2)	0.8	0.6	10.4	—	—	—	
124	104	205	C区	古包層	棒形製品	鉄	不明	(4.1)	0.7	0.7	7.6	—	—	—	
125	43	186	31a	f貼床下	短冊形製品	鉄	完形	6.5	2.5	1.0	104.5	—	—	—	板状の鉄が2枚重なる　分析実施(No.2)
126	42	179	31a	カマド内	板形製品	鉄	不明	(4.2)	(2.7)	0.6	24.6	5	H(○)	2	未製品か
127	44	2	31	5トレンチ	板形製品	鉄	不明	(1.4)	(1.3)	0.3	5.6	—	—	—	
128	48	136	32	一括	板形製品	鉄	不明	(1.6)	(0.9)	0.2	1.3	4	H(○)	3	
129	48	137	32	一括	板形製品	鉄	不明	(1.4)	(1.0)	0.2	1.0	4	H(○)	3	
130	48	138	32	カマド付近　床直	板形製品	鉄	1/2	(13.4)	5.7	0.6	102.0	—	—	—	苧引金か　分析実施(No.4)
131	104	206	C区	一括	板形製品	鉄	不明	(5.2)	(3.2)	0.5	18.5	—	—	—	湾曲する
132	52	106	33	一括	板形製品	鉄	不明	(1.8)	(1.2)	0.5	4.3	4	H(○)	3	未製品か
133	52	104	33	床下	板形製品	銅	小片	(3.2)	(0.4)	(0.1)	0.8	—	—	—	
134	55	40	34	一括	板形製品	鉄	不明	(2.3)	(1.7)	0.1	1.5	4	(△)	3	
135	55	41	34	一括	板形製品	鉄	ほぼ完形	(1.8)	(1.7)	0.3	10.0	3	(△)	3	
136	70	190	45	一括	板形製品	鉄	不明	(5.7)	3.0	0.7	51.8	—	—	—	先端部扁平に加工
137	64	25	42	一括	板形製品	鉄	破片	(2.6)	(2.0)	(1.7)	12.2	—	—	—	
138	104	207	2トレ	一括	板形製品	鉄	不明	(2.4)	(2.3)	0.9	23.9	5	H(○)	2	
139	84	77	73	斜面	板形製品	鉄	不明	(3.6)	(2.9)	0.7	8.8	5	(△)	2	
140	104	208	一括	一括	板形製品	鉄	不明	(2.8)	(2.4)	0.7	6.0	4	H(○)	2	
141	104	209	一括	一括	板形製品	鉄	不明	(1.8)	(1.7)	0.1	17.7	4	(△)	3	剥離片か
142	104	210	一括	一括	板形製品	鉄	不明	(1.8)	(1.7)	0.1	1.0	4	(△)	3	剥離片か
143	100	16	B区	一括	板形製品	鉄	不明	(3.4)	2.1	0.1	4.7	—	—	—	
144	104	211	6トレ	一括	円盤形製品	鉄	ほぼ完形	5.3	5.2	0.5	32.0	4	L(●)	1	
145	52	108	33	P4底面	U字形製品	鉄	ほぼ完形	(3.8)	3.4	6.8	16.7	—	—	—	片面端部にやや面的な加工
146	70	191	45	一括	U字形製品	鉄	ほぼ完形	3.6	2.8	0.7	14.9	—	—	—	端部先端の面は棒状部に対し垂直でなく斜めになっている
147	70	192	45	一括	U字形製品	鉄	完形	3.1	3.6	0.7	11.7	—	—	—	両端部は断面形がやや銅張りの方形端部面は棒状部に対し垂直に近い
148	70	193	45	一括	U字形製品	鉄	1/4	(1.7)	(1.4)	0.6	3.4	—	—	—	

149	55	42	34	一括	U字形製品	鉄	ほぼ完形	(3.3)	(3.0)	0.9	13.2	—	—	—	角柱棒を曲げ、両端をやや潰す
150	64	23	42b	周辺	環状製品	鉄	不明	(2.6)	(1.1)	0.7	5.7	—	—	—	
151	42	180	31a	f貼床下	環状製品	鉄	1/3	(4.5)	(2.0)	0.8	13.7	—	—	—	
152	55	43	34	一括	環状製品	鉄	1/4	(2.2)	(1.2)	0.5	3.2	—	—	—	
153	52	109	33	床直上	S字形製品	鉄	完形	5.3	3.3	1.8	58.6	—	—	—	角棒の中央を三角板状に叩き、両端は四角のままS字状に曲げている
154	44	3	31	5トレンチ	十字形製品	鉄	不明	(4.7)	(3.3)	0.7	17.0	—	—	—	
155	44	4	31	5トレンチ	十字形製品	鉄	不明	(5.2)	(2.8)	0.9	19.4	—	—	—	
156	42	174	31a	b貼床下	不明製品	鉄	完形	5.8	2.3	0.9	33.4	—	—	—	鑿状工具と思われるが不明
157	42	175	31a	f貼床下	不明製品	鉄	完形	8.0	0.9	0.3	10.7	—	—	—	鉈状だが明瞭な刃が無い
158	42	176	31a	A炉内	不明製品	鉄	完形	6.3	2.3	1.1	39.8	—	—	—	鑿状工具と思われるが不明
159	42	177	31a	一括	不明製品	鉄	一部	(4.0)	(1.7)	(1.5)	4.1	—	—	—	角棒の片方を巻き、もう片方は板状に叩き伸ばす
160	44	1	31	5トレンチ	不明製品	鉄	不明	(1.9)	(1.0)	(1.0)	8.1	—	—	—	角柱状の鉄製品と思われる
161	42	178	31a	P内	不明製品	鉄	不明	(4.9)	(2.2)	0.3	6.5	—	—	—	
162	42	181	31a	一括	不明製品	鉄	不明	(5.9)	(0.8)	(0.3)	5.9	—	—	—	刀子に似るが刃がない
163	52	107	33	一括	不明製品	鉄	不明	(4.2)	(1.8)	(0.9)	6.2	4	H(○)	2	
164	48	139	32	一括	不明製品	鉄	不明	(2.6)	(2.0)	0.3	4.4	3	(△)	3	
165	48	140	32	一括	不明製品	鉄	不明	(3.1)	(0.6)	(0.3)	2.6	—	—	—	
166	70	194	45	35号確認面	不明製品	鉄	不明	(3.3)	0.9	0.8	9.9	—	—	—	
167	70	195	45	一括	不明製品	鉄	完形	4.5	3.1	0.8	38.4	—	—	—	断面長方形の鉄棒の半分を台形状に叩き、曲げている
168	64	24	42	一括	不明製品	鉄	破片	(2.2)	1.3	0.8	13.6	—	—	—	断面台形で左側面を鰭状に叩き出す
169	44	11	31	カマド周辺	不明製品	鉄	ほぼ完形	(3.6)	1.9	0.7	10.7	—	—	—	未製品か
170	22	5	18a	b-c層間	漆皮膜	鉄か	不明	(4.3)	(2.6)	0.1	3.8	—	—	—	
171	22	4	18a	b-c層間	漆皮膜	鉄か	不明	(3.4)	(3.4)	0.1	2.8	—	—	—	170と同一個体か
172	104	212	C区	古包層	不明製品	鉄	不明	(3.6)	(1.3)	0.8	12.3	—	—	—	鉄棒を環状に曲げる
173	104	213	C区	古包層	不明製品	鉄	不明	(2.9)	(2.8)	0.5	7.3	—	—	—	
174	104	214	C区	3トレ	不明製品	鉄	不明	(3.3)	0.9	0.6	5.0	—	—	—	
175	104	215	C区	4トレ	不明製品	鉄	不明	(1.7)	(1.1)	0.4	1.8	—	—	—	
176	104	216	C区	100トレ	不明製品鍵か	鉄	ほぼ完形	4.7	1.2	1.2	22.8	—	—	—	板を折り曲げた上に別板を貼り付け管状にする
177	104	217	C区	100トレ	不明製品	鉄	不明	(4.3)	1.3	1.3	11.6	—	—	—	2本の角棒をねじり合わせている
178	104	218	C区	4a層	不明製品	鉄	不明	(5.2)	(1.4)	0.7	15.4	—	—	—	角棒を折り曲げる板状製品付着
179	104	219	C区	古包層	不明製品	鉄	完形	3.4	0.6	0.3	3.9	—	—	—	
180	84	84	73	一括	不明製品	鉄	不明	(9.0)	(1.0)	0.5	20.2	—	—	—	刀子の未製品か
181	82	11	73a	覆土中	不明	鉄	完形	3.2	1.2	0.1	3.2	—	—	—	中世面
182	82	12	73a	覆土中	鎹	鉄	2/3	(7.2)	(0.9)	0.8	12.7	—	—	—	中世面
183	82	13	73a	覆土中	鎹	鉄	1/2	(3.7)	(0.8)	0.8	3.9	—	—	—	中世面
184	82	14	73a	3d層一括	釘	鉄	3/4	(4.0)	(0.5)	0.5	3.3	—	—	—	中世面
185	82	17	73b	3層中	不明	鉄	不明	5.8	3.8	3.0	18.5	—	—	—	T字状の鉄板を丸めている
186	82	29	73c	3層2一括	釘	鉄	1/2	(2.8)	(0.5)	0.5	1.3	—	—	—	
187	82	50	73d	3a層	釘	鉄	1/2	(3.9)	(0.6)	0.6	4.6	—	—	—	
188	82	51	73d	3層一括	釘	鉄	1/2	(3.2)	0.8	0.6	3.2	—	—	—	
189	84	78	73	3a2層	鎹	鉄	ほぼ完形	(8.3)	0.7	0.9	17.9	—	—	—	中世Ⅲ期ピット内
190	84	79	73	一括	釘	鉄	完形	6.1	0.9	0.5	6.6	—	—	—	
191	84	80	73	一括	釘	鉄	ほぼ完形	(5.4)	(1.2)	0.6	4.8	—	—	—	
192	84	81	73	一括	釘	鉄	ほぼ完形	(4.0)	0.7	0.5	4.9	—	—	—	
193	84	82	73	一括	釘	鉄	2/3	(4.5)	0.7	0.6	5.6	—	—	—	
194	84	83	73	4下層	釘	鉄	2/3	(5.2)	(0.6)	(0.6)	3.9	—	—	—	
195	84	73	73	3a2層	環状製品	鉄	不明	3.6	3.5	0.7	16.0	—	—	—	中世Ⅲ期整地盛土層内
196	84	74	73	3a2層	環状製品	鉄	1/2	(2.2)	(1.0)	0.4	3.4	3	(△)	3	

197	84	75	73	3a4層	板状製品	鉄	不明	(2.1)	(1.5)	0.1	0.5	3	(△)	3
198	84	76	73	3a2層	板状製品	鉄	不明	(1.4)	(1.3)	0.1	0.3	3	H(○)	3
199	89	6	79	P9上層	鏃か	鉄	1/2	(7.0)	0.7	0.6	6.1	—	—	—
200	87	25	77b	P6一括	鏃	鉄	不明	(7.0)	1.6	0.4	2.9	—	—	—
201	87	24	77b	P6一括	鏃か	鉄	不明	(2.3)	(1.1)	0.2	2.4	—	—	—
202	87	23	77b	P6一括	釘か鏃	鉄	2/3	(2.6)	(0.4)	0.4	1.1	—	—	—
203	89	25	79	1b層	釘	鉄	完形	5.6	7.0	6.0	6.6	—	—	—
204	89	24	79	P13一括	釘	鉄	2/3	(7.4)	(0.6)	(0.6)	6.6	—	—	—
205	89	26	79	P25一括	釘	鉄	2/3	(4.2)	1.1	0.5	5.3	—	—	—
206	89	27	79	P25一括	釘	鉄	ほぼ完形	(3.9)	2.0	0.5	2.2	—	—	—
207	91	17	81	ピット外	釘	鉄	完形	4.6	0.7	0.5	5.4	—	—	—
208	91	18	81	1b層	釘	鉄	3/4	(5.0)	1.0	0.6	8.7	—	—	—
209	90	11	80	P9一括	不明	鉄	ほぼ完形	3.1	2.9	0.6	58.8	—	—	—

表7　製鉄関連遺物一覧

単位：cm　　単位：g　　磁着しなかった物に○

分析No.	挿図	掲載	縮尺	遺構	位　置	種　別	長径	短径	厚さ	重　量	磁着度	メタル度	大きさ	磁石選別
1	43	188	1/2	31a	床直上	鉄滓	4.0	3.0	1.6	19.6	2	(△)	2	○
3	52	111	1/2	33	52	鉄塊系遺物	14.1	8.8	7.0	1105.0	5	L(●)	1	—
5	35	12	1/2	30	A炉下層	含鉄椀形鍛冶滓	5.3	5.1	3.9	114.4	4	M(◎)	1	—
6	55	45	1/2	34	覆土中層	含鉄椀形鍛冶滓	11.1	7.7	5.3	343.0	4	H(○)	1	—
7	55	44	1/2	34	覆土中層	鉄滓	5.2	4.2	3.0	65.2	3	(△)	3	○
8	60	46	1/2	37	A炉	含鉄椀形鍛冶滓	9.2	8.2	3.9	252.5	—	—	—	—
9	60	47	1/2	37	D炉	椀形鍛冶滓	8.2	6.3	3.5	162.0	—	—	—	—
10	43	1	1/2	31d	D炉	含鉄椀形鍛冶滓	8.5	5.9	4.6	256.4	—	—	—	—
11	61	1	1/2	40	—	含鉄椀形鍛冶滓	4.1	3.1	2.8	30.0	5	L(●)	2	—
12	72	3	1/2	48	底面直上	含鉄鉄滓	6.2	4.3	4.0	106.1	—	—	—	—

第３章　片又木遺跡出土金銅製座金具の非破壊分析結果

国立歴史民俗博物館情報資料研究部　　永嶋正春

はじめに

標記遺跡の鍛冶工房跡と思われる遺構から出土した金銅製品2点について、非破壊範疇での調査を実施したので、ここにその調査結果を報告する。

調査は、肉眼・光学顕微鏡(デジタル顕微鏡)による詳細観察と、X線的手法による。後者の手法として今回実施したものは、X線透過検査とエネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析である。

金銅製品のうち1点は、中心に大きめの孔を有する四葉座形の金具であり(表6 №1、第42図166　以後、№1と標記する)、他の1点(表6 №2、第42図165　以後、№2と標記する)は、中心にやはり大きめの孔を持つフジツボ形をした金具である。

調査結果

№1(第42図166)　外面、裏面等の5カ所について実施した蛍光X線結果から、その素材について概ね次のように言うことができる。すなわち、金具本体は幾分かの銀とヒ素とを含む銅からなり、外表面には水銀アマルガム法による鍍金が施されている。鍍金の見あたらない裏面の測定データーでは、比較的強い銀のピークが確認できることから、仮にこの素材を純金銅質と捉えたとしても相当程度に銀を含んでいるものと考えてよい。なお、鉛やアンチモンのピークは、確認し難いほど微小なものである。形態および素材的特徴からみると、本製品は銅板を鍛造加工して作り出したものと判断できる。

X線透過像や微視的観察結果からは、それなりに傷みが進行しているものと推測されるが、要所の加工痕跡等は留めている。地金の全層にわたって錆化が進行している状況にまでは至っておらず、今後保存に配慮することで活用の道が開ける資料である。

№2(第42図165)　外面、下端面等の3カ所と、本金具から脱離した小木炭片について蛍光X線分析を実施した。金具Aに比して含まれる銀の量は幾分少ないように思われるが、基本的には金具Aと同質な素材からなるものとみてよかろう。すなわち、本体は若干量の銀、ヒ素を含む純銅であり、この銅板を鍛造加工することで製品形態を作り出した上で、その外面に金鍍金を施したものである。傷み方の程度も№1と同様である。

この資料で特記すべきことは、内面に、ある種の繊維が付着残存していることである。現状ではごくわずかな量が点在しているにすぎないが、銅で保護されたため新鮮な状況を留めており、しかもそれらの繊維には規則的な捩れが残っていることから考えると、本金具が遺棄された時点では、金具の内面に密接する形で布状のものが存在していた可能性が高いことになる。これが単なる偶然的存在なのか、あるいは本金具の使用用途に関係したものなのかについては、現時点での判断は困難であるが、今後も注意を払うべき点ではあろう。なおこの繊維の種類を特定するために微量の試料採取を試みたのであるが、残存量があまりにも少ないため現時点では同定できていない。

おわりに

片又木遺跡出土金銅製座金具を分析調査し、上述のような結果を得た。それぞれ単独での出土であるため、具体的な使用状態の復元、所属時期の検討等は課題として残されたままである。今後、類品等の確認を含め再検討していくことになろう。

第４章　金属器及び製鉄関連遺物出土遺構ついて

（1）概　要

ここでは、金属器及び製鉄関連遺物（以下関連遺物）が出土した遺構について扱う。特にC区、E区で検出された平安時代の遺構については、その出土量の大半を占めるものであり、これを中心に片又木遺跡の金属器のあり方を見ていきたい。出土した関連遺物は、総量64,094.8ｇを量る（図１）。これらの出土地点は概ねC区、E区、調査区の中心に位置する谷頭部が中心となっており、出土量を見るとC区から集中して出土していることが分かる（図２）。また、時期については古墳時代（前期・後期）、平安時代、中世に認められ、平安時代Ⅰとした８世紀末から９世紀始めには製鉄関連遺構が現れ、平安時代Ⅱとした9世紀半ばに場所を谷の北側であるＣ区に変えて操業している様子がうかがえる。

（2）整理方法

関連遺物は以下の方法で分類した。①特殊金属探知器（KDS METAL CHECKER MR-50）により、メタル度を、無し(△)・H(●)・M(○)・L(◎)で計測し、金属反応の有り無しで、鉄塊系・含鉄鉄滓と鉄滓に分類した。②肉眼観察では、形状、破面の有無により、最終分類とした。③分類ごとに大きさを2.5cmを基本として三段階に分けた（長径を採用し、大きいものから1→2→3）。④微細な遺物以外はリング状の磁石により磁着度を計測後、個別にカードに記録し遺物と同封した。また、微細な遺物については土壌ごと取り上げているため、①1mm、2mmメッシュの篩いを使用して水洗し、この際1mmメッシュを抜けてしまう遺物については磁石により採集、計量している。②水洗による遺物を肉眼観察により粒状滓、鍛造剥片、鉄滓に分類した。この際1mm以下のものはその他鉄滓として計量値のみ記録した。用語は基本的に国立歴史民俗博物館研究報告掲載のものを使用している。

（3）関連遺構

30号遺構（Ｅ区）竪穴式住居跡遺構覆土中より関連遺物が出土している。鉄滓の大きさが揃っていることから、小割にした椀型滓の破片であると考えられるため、小割作業をした作業場である可能性が考えられる。

31号遺構（Ｃ区）炉を持つカマド付竪穴式住居跡で、関連遺物の出土量は同種の遺構中突出して多い。炉Ｂ・Ｃの焼土及び炉体のサンプルを精査したところ極微量の鍛造剥片・粒状滓が検出された。また、建て替え最古段階の周溝より出土した短冊状鉄製品は、鍛打の後放置されている可能性もあり、これらは遺構内での精錬鍛冶以降の作業を示すものとみられる。

32号遺構（Ｃ区）関連遺物の組成は31号遺構に近似するが、炉の痕跡はない。ただし、カマド焚き口付近より線刻土器（杯）に敷かれた状態で鋳造鉄片が出土しており、鉄の加工工程を行った遺構である可能性を示すものとみられる。

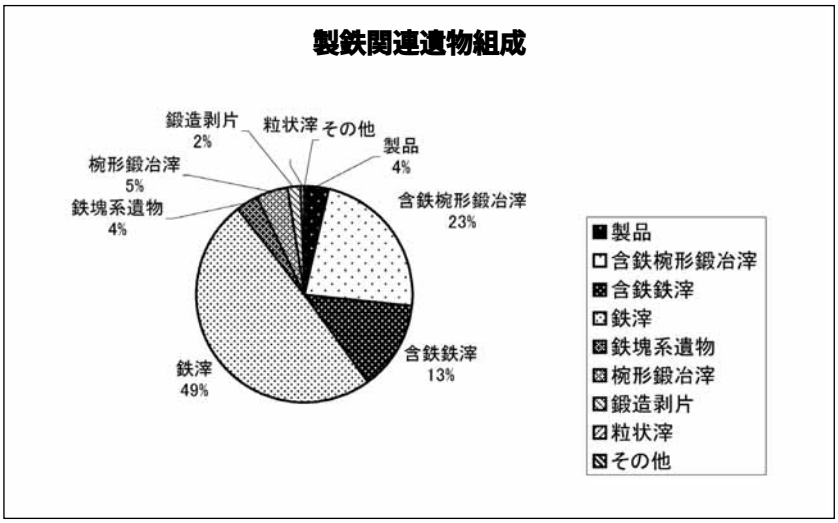
33号遺構（Ｃ区）関連遺物の出土量において32号遺構に近似する。組成については炉跡と考えられる被熱ヶ所が床面に認められるものの鍛造剥片・粒状滓は遺存しない。組成は31・32号遺構と大きく異なり、鉄塊系遺物の分析結果は鋳鉄を示す。ただし、鋳鉄を溶解する際に派生する白色滓や、道具類の出土が本遺跡には認められない状況から、本遺構が鋳造を行った施設であるとは考えがたい。また、遺構南側に位置する土坑（グラフでは33pit4）は鉄製品の出土が多く、関連遺物の組成・出土量

内訳

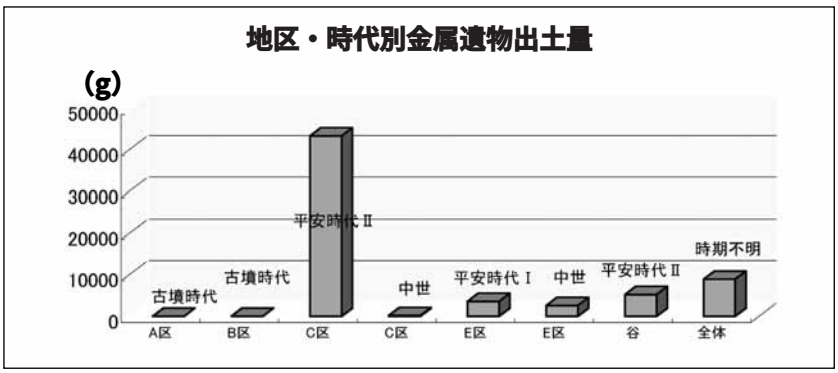
名　称	重量(g)
製品	2297.3
含鉄椀形鍛冶滓	14752.5
含鉄鉄滓	8534.4
鉄滓	31663.4
鉄塊系遺物	2266.9
椀形鍛冶滓	3024.2
鍛造剥片	1241.1
粒状滓	237.8
その他	77.2
計	64094.8

内訳

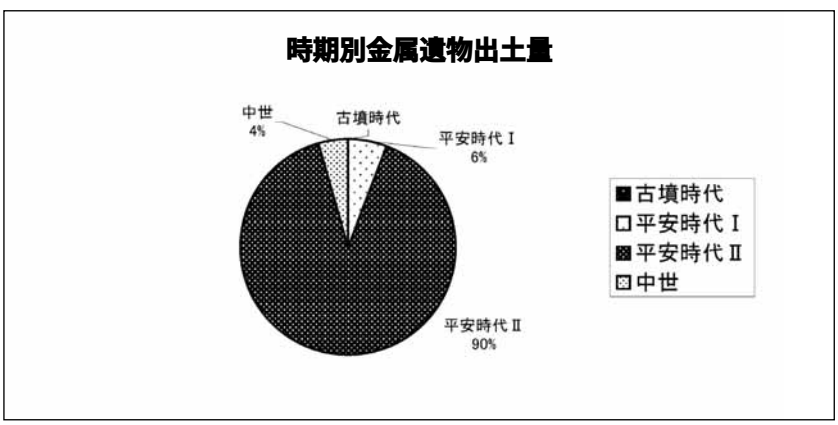
名　称	重量(g)
製品	2297.3
含鉄椀形鍛冶滓	14752.5
含鉄鉄滓	8534.4
鉄滓	7741
鉄滓(小)	23922.4
鉄塊系遺物	2266.9
椀形鍛冶滓	3024.2
含鉄鉄滓	59.2
再結合滓	2.1
鍛造剥片1	860.9
鍛造剥片2	380.2
粒状滓1	50.6
粒状滓2	187.2
炉壁	12.2
錆片	3.7
計	64094.8



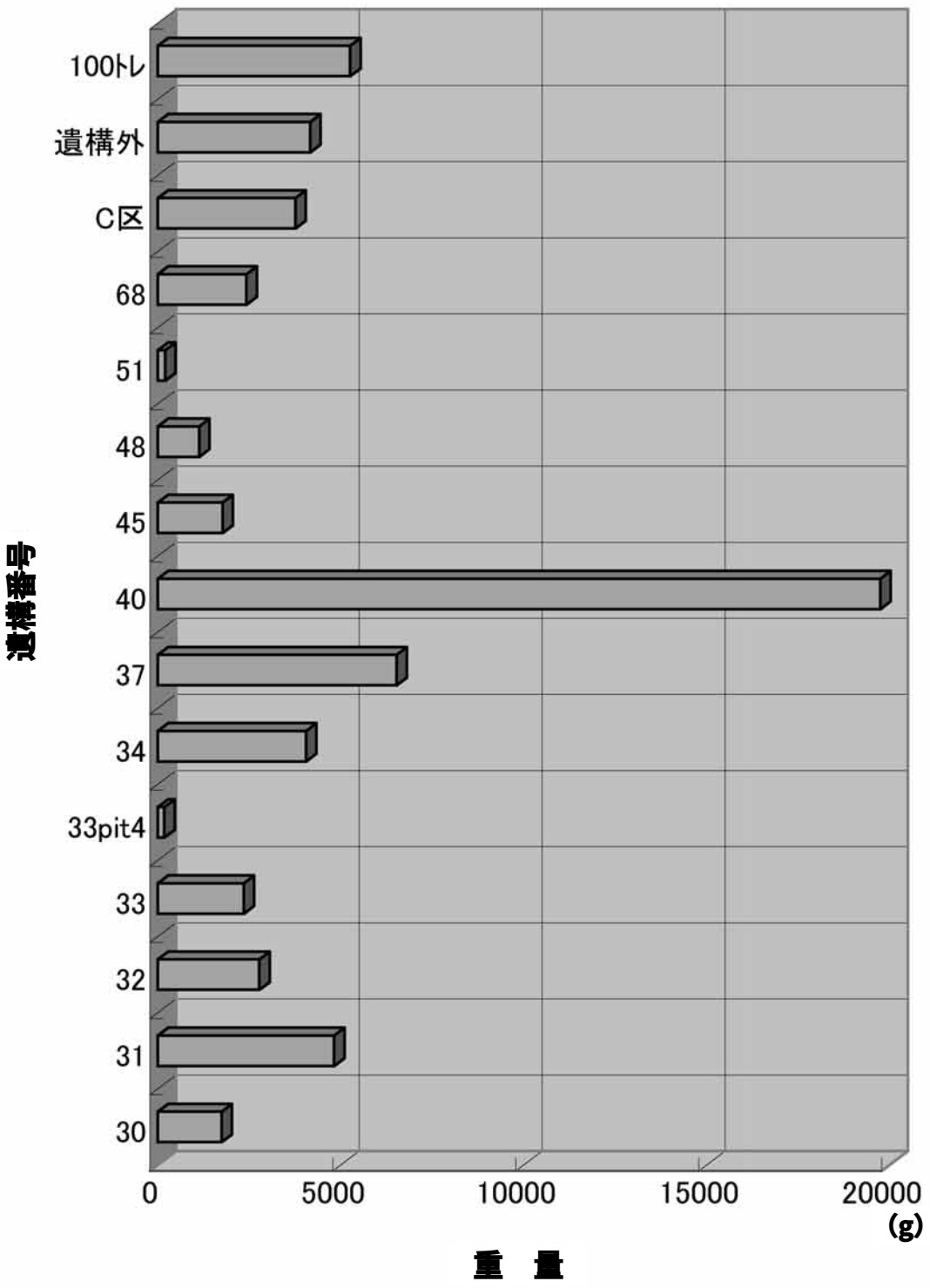
時期	地区	重量
	A区	17.2
	B区	18.5
	C区	43368.5
	C区	217.5
	E区	3625.4
	E区	2617.8
	谷	5259.4
	全体	8970.5
合計		64094.8



時期	重量
古墳時代	35.7
平安時代Ⅰ	3625.4
平安時代Ⅱ	57598.4
中世	2835.3
計	64094.8



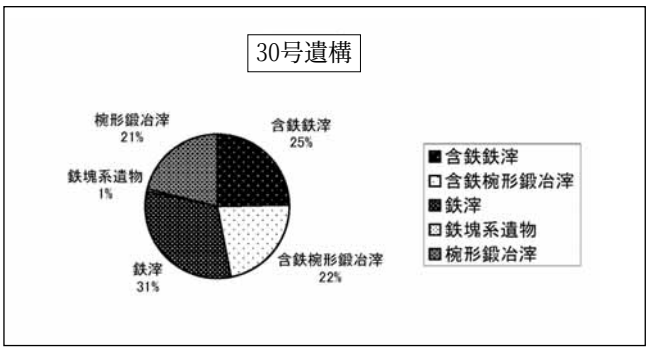
遺構別製鉄関連遺物出土量



遺構別製鉄関連遺物組成

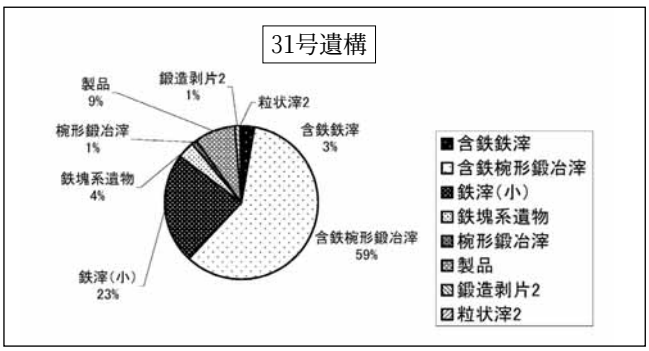
〈30号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
031-B	30	含鉄鉄滓	430.3
031-B	30	含鉄椀形鍛冶滓	390.5
031-B	30	鉄滓	544.7
031-B	30	鉄塊系遺物	12.4
031-B	30	椀形鍛冶滓	365.8
		合計	1,743.7



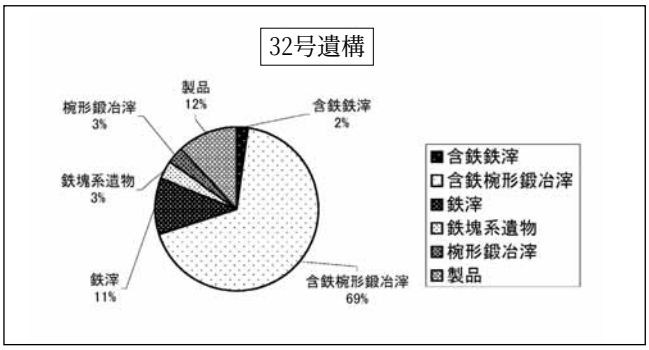
〈31号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
215	31	含鉄鉄滓	140.3
002	31	含鉄椀形鍛冶滓	2,849.1
包含層16	31	鉄滓(小)	1,128.6
215	31	鉄塊系遺物	171.8
215	31	椀形鍛冶滓	44.0
(全体)	31	製品	422.2
包含層16	31	鍛造剥片2	55.0
包含層16	31	粒状滓2	10.1
		合計	4,821.1



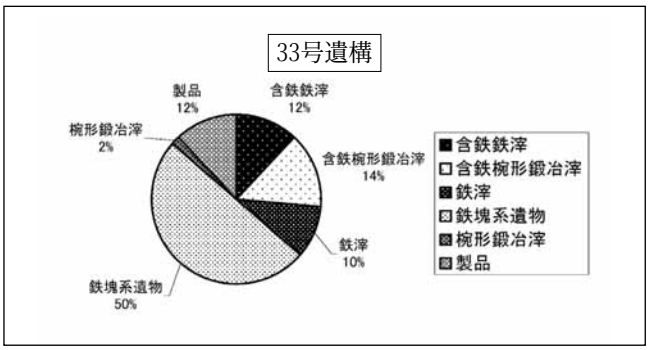
〈32号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
012	32	含鉄鉄滓	63.7
012	32	含鉄椀形鍛冶滓	1,881.7
012	32	鉄滓	310.3
012	32	鉄塊系遺物	93.6
012	32	椀形鍛冶滓	94.8
(全体)	32	製品	333.2
		合計	2,777.3



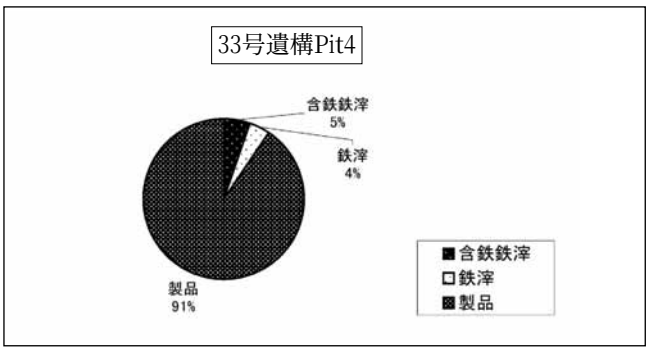
〈33号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
011	33	含鉄鉄滓	280.4
011	33	含鉄椀形鍛冶滓	338.4
011	33	鉄滓	235.7
011	33	鉄塊系遺物	1,176.0
011	33	椀形鍛冶滓	35.5
(全体)	33	製品	283.7
		合計	2,349.7



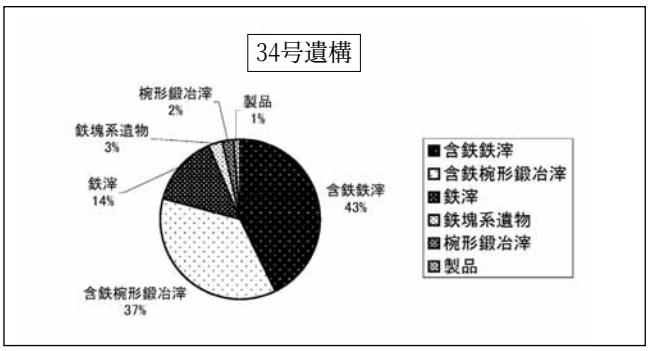
〈33号遺構pit4〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
011pit4	33pit4	含鉄鉄滓	9.6
011pit4	33pit4	鉄滓	7.5
(全体)	33pit4	製品	162.5
		合計	179.6



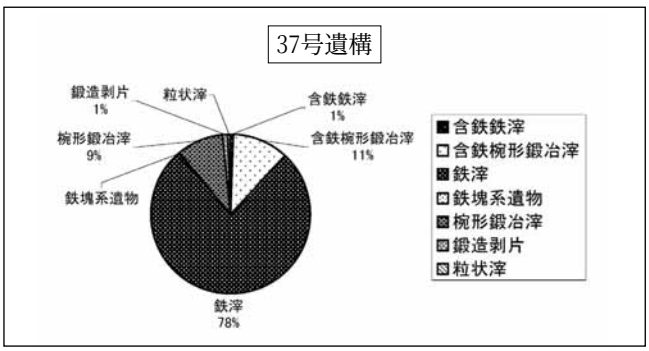
〈34号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
019	**34**	含鉄鉄滓	1,732.4
019	**34**	含鉄椀形鍛冶滓	1,479.4
019	**34**	鉄滓	584.2
019	**34**	鉄塊系遺物	104.2
019	**34**	椀形鍛冶滓	92.8
(全体)	**34**	製品	59.1
		合計	4,052.1



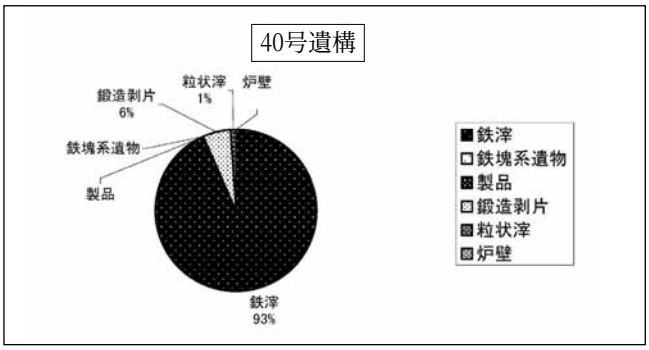
〈37号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
022	**37**	含鉄鉄滓	40.8
022	**37**	含鉄椀形鍛冶滓	731.6
022	**37**	鉄滓	5,012.2
022	**37**	鉄塊系遺物	11.3
022	**37**	椀形鍛冶滓	617.2
包含層16	**37**	鍛造剥片	83.7
包含層16	**37**	粒状滓	30.0
		合計	6,526.8



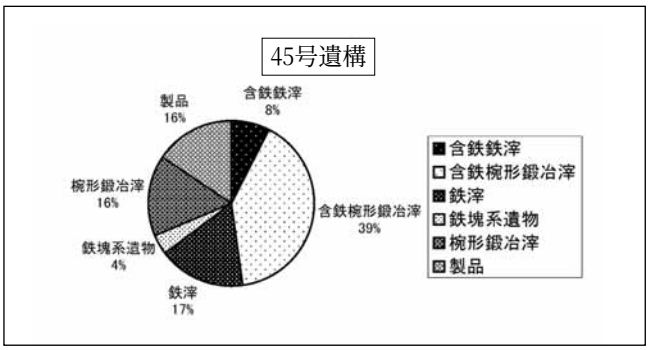
〈40号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
026	**40**	鉄滓	18,419.2
023	**40**	鉄塊系遺物	3.0
(全体)	**40**	製品	20.5
包含層16	**40**	鍛造剥片	1,096.1
包含層16	**40**	粒状滓	196.6
023	**40**	炉壁	12.2
		合計	19,747.9



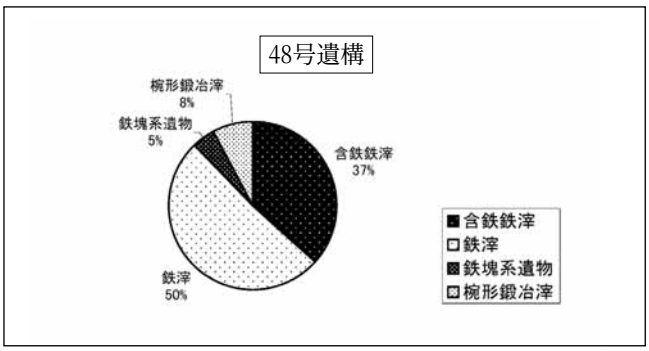
〈45号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
014	**45**	含鉄鉄滓	135.1
014	**45**	含鉄椀形鍛冶滓	710.1
014	**45**	鉄滓	299.1
014	**45**	鉄塊系遺物	70.0
014	**45**	椀形鍛冶滓	279.0
(全体)	**45**	製品	276.7
		合計	1,770.0



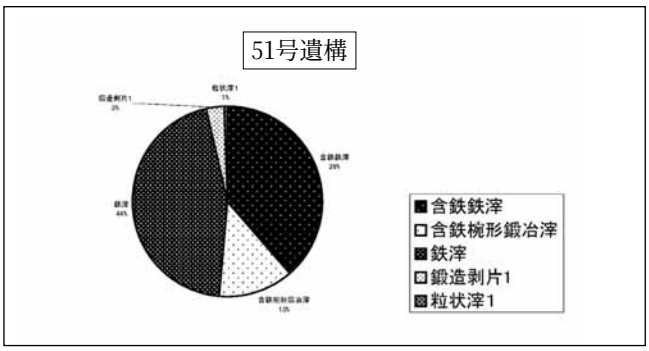
〈48号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
033	**48**	含鉄鉄滓	413.2
033	**48**	鉄滓	577.7
033	**48**	鉄塊系遺物	51.4
033	**48**	椀形鍛冶滓	86.3
		合計	1,128.6



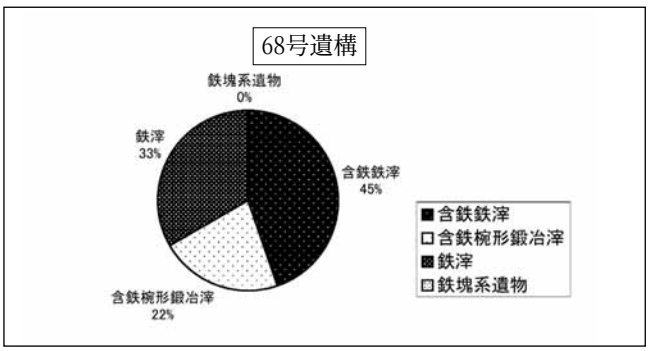
〈51号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
039	51	含鉄鉄滓	77.6
039	51	含鉄椀形鍛冶滓	26.1
039	51	鉄滓	90.7
包含層16	51	鍛造剥片1	6.0
包含層16	51	粒状滓1	1.1
		合計	201.5



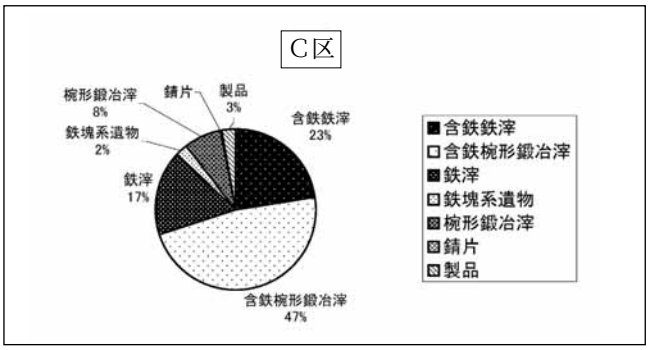
〈68号遺構〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
030	68	含鉄鉄滓	1,083.1
030	68	含鉄椀形鍛冶滓	531.2
030	68	鉄滓	802.4
030	68	鉄塊系遺物	9.3
		合計	2,426.0



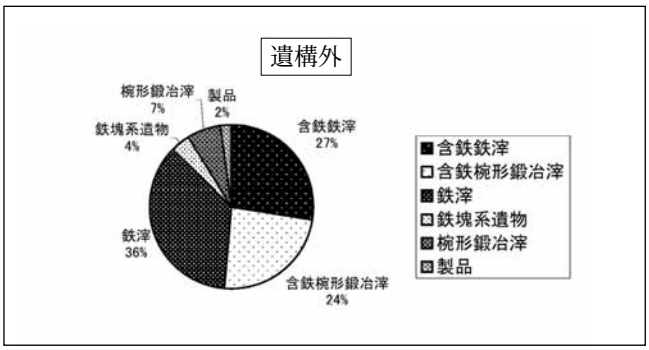
〈C区〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
3a-2(層)	C区	含鉄鉄滓	849.3
3b-1(層)	C区	含鉄椀形鍛冶滓	1,784.9
古代旧表土	C区	鉄滓	636.5
4a層	C区	鉄塊系遺物	90.7
古代旧表土	C区	椀形鍛冶滓	288.4
古代旧表土	C区	鍛片	3.7
(全体)	C区	製品	108.6
		合計	3,762.1



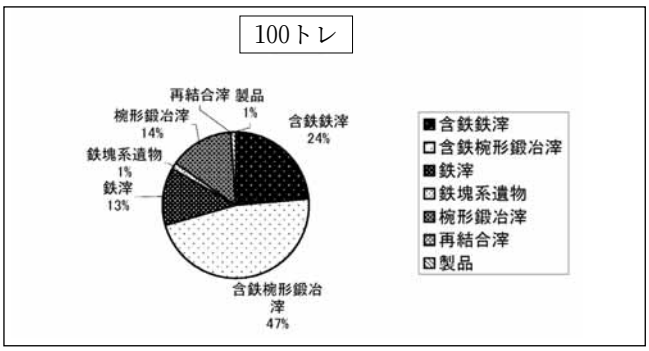
〈その他〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
(全体)	その他	含鉄鉄滓	1,143.7
(全体)	その他	含鉄椀形鍛冶滓	996.7
(全体)	その他	鉄滓	1,490.4
(全体)	その他	鉄塊系遺物	167.7
(全体)	その他	椀形鍛冶滓	276.6
(全体)	その他	製品	93.0
		合計	4,168.1



〈100トレンチ〉

遺構番号	掲載番号	名　称	重　量
100トレ	100トレ	含鉄鉄滓	1,240.5
100トレ	100トレ	含鉄椀形鍛冶滓	2,471.5
100トレ	100トレ	鉄滓	666.8
100トレ	100トレ	鉄塊系遺物	76.6
100トレ	100トレ	椀形鍛冶滓	746.7
100トレ	100トレ	再結合滓	2.1
(全体)	100トレ	製品	55.2
		合計	5,259.4



も33号遺構とは異なることは、時間的・性格的差違とみられる。

34号遺構（C区）関連遺物の出土量は多いが、炉跡は認められない。遺構立地が斜面下端であるため、覆土中の遺物は上方からの流れ込みも考えられるが、35号遺構との間には関連遺物の堆積は顕著でない。製品が極端に少なく、含鉄滓が80%を占め、遺構の性格を示すものと思われる。

35号遺構（C区）炉跡は認められるが、235ｇと少ない。炉内サンプルからは関連遺物は検出されなかった。B炉中央より線刻土器が出土している。

37号遺構（E区）A炉中央より線刻土器が出土している。炉は4基検出された。関連遺物はB・D炉に集中し、A・C炉では希薄である。D炉は柱穴に切られることから、位置関係から見ると、A炉が最も新しくなる。B・D炉内出土鉄滓の分析結果は製鉄工程の中・後期を示すが、鍛造剥片は肉眼観察では金属色を示し、形状は平坦且つ小型である。

40号遺構（C区）関連遺物は炉周辺と、斜面下方にある土坑に集中する。炉周辺の派生物を土坑内に掃き寄せ様な状況が想定される。組成は37号遺構に似ており、同様の工程が考えられる。

48号遺構（E区）関連遺物は肉眼観察では、30号遺構のものと同様である。分析では炉内滓という結果で共通することから、遺構は30号遺構に関連する施設と考えられ、鉄滓の大きさが揃っていることから、小割作業が行われた可能性がある。

51号遺構（E区）炉内サンプルより鍛造剥片・粒状滓を極少量検出した。鍛造剥片は金属色、形状は平坦且つ小型であることから、製鉄工程の後期を示すものと考えられる。

（3）まとめにかえて

今回の調査区からは鉄器及び製鉄関連遺物（以下関連遺物）、通常鉄滓と呼ぶ遺物が少なからず出土した。このことは周辺の発掘調査からある程度予想されていた事である。調査結果から、台地上周辺に位置する同期の集落の鉄器の供給源であることは間違いないと思われる。しかしながら、遺構が製鉄工程の内、何処までの作業を担っていたのかは、分析に資した短冊状鉄製品をどの用に評価するかによって変わってくる問題と考える。又、線刻土器の出土が、炉、カマドに伴うことも、本遺跡での製鉄工程の中で注意すべき問題である。

No.	掲載遺構番号	調査時遺構番号	遺構種	新旧関係(右側が新・○が当該遺構)	炉の有無	備考	調査区	分析資料
1	24	030	溝跡	28a→28b→○			E	○
2	29	038	竪穴住居跡	—			E	
3	30	031	竪穴住居跡	—			E	○
4	31	002	竪穴住居跡	○→32→33	炉A～D有り	焼土をサンプリング	C	○
5	32	012	竪穴住居跡	31→○→33	-		C	○
6	33	011	竪穴住居跡	31→32→○	火床面有り	焼土をサンプリング	C	○
7	34	019	竪穴住居跡	44→○	-		C	○
8	35	015	半場＋掘立柱建物跡	40→?○→45	炉有り	焼土をサンプリング	C	
9	37	022	半場＋掘立柱建物跡	ー	炉A～D有り	焼土をサンプリング	C	○
10	36	042	半場＋掘立柱建物跡	ー			E	
11	38	152	掘立柱建物跡	ー			B	
12	40	023	炉跡	○→?35	炉有り	焼土をサンプリング	C	○
13	42	027	土坑	ー			C	
14	45	014	土器溜まり	35→○･31･32？			C	
15	48	033	小竪穴遺構	—			E	
16	51	039	炉跡	—	炉有り	焼土をサンプリング	E	
17	44	028	炉跡	—		焼土をサンプリング	C	
20	52	040	炉跡	○→34	炉有り		E	
21	28a	037b	竪穴住居跡	○→28b→24		焼土をサンプリング	E	
22	28b	037a	竪穴住居跡	28a→○→24		焼土をサンプリング	E	

製鉄関連遺物出土遺構概要

第５章　小　結

１　縄文時代

早期に陥し穴状土坑が5基構築された。A区を中心とする分布で、8号遺構(遺物包含層)から田戸下層式土器を中心に検出されたため、撚糸文系から沈線文系土器型式期の遺構群と推定する。降って条痕文系土器型式期になるとB区に炉穴が構築される。これ以降の縄文時代遺構は認められず、遺物も散布しない。

２　弥生時代後期後半～古墳時代前期

弥生時代後期後半にはB区に3軒の竪穴建物が構築されるが、うち2軒(10・11号遺構)は遺物相が類似する。これらの構成する居住域は後期後半期のある段階で移動し、方形周溝墓の築造が始まる。遺物を比較すると、本遺跡の方形周溝墓は出現当初において、竪穴建物2軒(10・11号遺構)と連続する可能性がある。

方形周溝墓は弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけてB区全体に展開するが、弥生時代終末期を中心とし、東海以西風の非在地的な土器が多いことが特徴である。各遺構の新旧関係を推測し、以下に記すが、確実に遺構に伴う遺物が少なく、築造時期は必ずしも明かでないことを断っておく。

まず出現期の遺構であるが、尾根筋上の狭い平坦面において、他の周溝墓の制約を受けない条件を鑑みると、規模の面でも16・17号遺構が該当するものと思われる。遺物相はほぼ同様であるが、初めに16号遺構が築造され、その軸上を北に進む形で17号遺構を築造、続いて21号遺構を築造したと見るのが自然であろう。21号遺構は断面観察において17号遺構に切られているように見えたが、黒色土中の分層であり、この点は必ずしも確実とは言えないため、位置関係を重視する。なお、22号遺構以下が21号東西軸上に、18号遺構以下が17号東西軸上に、それぞれ展開したものと推測する。

21号遺構は発掘調査時の断面観察で17号遺構に先行すると判断したが、16号遺構と時期的な差はさほどないものと推測する。23号遺構は22号遺構より新しいので、西に向かって22・23・24号遺構の順に展開したものと思われる。なお、24号遺構は周溝墓群の東西列から若干北にそれるので、19号遺構に規制された(新しい)可能性がある。遺物も弥生終末期の最終段階的な様相を見せている。

18号・20号遺構は、合体して17号遺構の南北幅に合うよう規制されていることから、17号遺構より後出であることは確実なうえ、互いに同時期の築造計画に基づく遺構と判断した。18号遺構は西側に拡張周溝(18号b)を持ち、さらに19号遺構の築造に連なるものと思われる。ただし19号遺構は18号遺構の軸上に乗りながらも、位置が若干南にずれており、23・24号遺構のプランを避けている（新しい）可能性がある。仮にこの場合は、18号遺構と少々時期差が開くことになるが、詳細の確認はできなかった。一方、20号遺構の西側軸上にも、18号と同時期の周溝墓が展開した可能性があろう。

単独で存在する25号遺構は、出土遺物から弥生時代終末期の終わり頃と思われ、26号遺構aと24号遺構に並行する可能性が高い。

方形周溝墓新旧関係表

弥生後期(後半)	弥　生　終　末　期		古墳前期初頭
（居住域移動）16号　17号	21号	22号　23号	24号
		26号a	26号b
	18号a	18号b　19号	
	20号		
	25号		

26号遺構aの遺物は土師器的だが、24号遺構の壺(№1)より体部調整が丁寧で古相を呈するので、23号と24号の中間時期の築造であろうか。ただし南側

周溝・周構内土壙(26号b)は、五領式の遺物を伴う最新段階と言える。

一方、弥生時代終末期の居住域はE区に展開し、竪穴建物3軒からなる。時期的にB区方形周溝墓群と並行するが、これを直接墓域とする集団か否かは不明である。D・E区台地の付け根に、この居住域に対応する別の墓域が存在した可能性が強い。ちなみにE区居住域が東海的な土器を持つのに対し、B区墓域は庄内式並行期の近畿風の土器が多いことも対照的で、興味深い。

3　古墳時代中期～後期

先に述べた墓域は五領式期までで、しばらく空白期を迎えるが、5世紀中葉になると竪穴建物がA区に2軒のみ構築される(12・27号)。台地北辺に立地し、集落の居住域として展開するか不明だが、この時期唯一の遺構である。墓域も調査区内には検出されなかった。この時期の遺構は過去の調査例(14)でも認められず、少なくともこの台地上において分布は極めて薄いものと推測される。

4　奈良～平安時代

鬼高式期以降の空白期を経た8世紀頃、E区に墓域が展開する。46号遺構(方形周溝状遺構)・47号遺構(土壙)からなり、8世紀中葉から後葉の遺物が出土していることから、廃絶後、比較的間を持たず竪穴建物が構築されたと思われる。

この竪穴建物(28～30号遺構)は4軒で、8世紀末から9世紀初頭頃の遺物が出土している。9世紀代のC区工房跡より古く、炉のような生産的な遺構を確実に伴うわけではないので、単に小規模な集落居住域と捉えておく。しかしE区は鉄滓類の出土が多く、小鍛冶の操業エリアであった可能性が強い。この鉄滓類を産出した遺構群はどれにあたるのか。時期的な問題となるが、36・39号遺構(掘立柱建物)が、28～30号遺構(竪穴建物)より新しいように見受けられたこと、30号遺構上層で確認された炉は当然36・39号と同期の可能性が濃厚であること、などを鑑みると、これらが後のC区工房跡と同時期に、谷を取り巻く工房群の一環として機能した可能性が強くなる。ただし、やや古いと見た28～30号遺構(竪穴建物跡)覆土にも一定量の鉄滓類が混入し、床下レベルでの検出も認められたので、E区における生産活動の開始時期は、C区のそれより遡る可能性がある。本格的な操業はC区と同時期に捉えるにせよ、竪穴建物跡が完全埋没する以前に生産活動が開始されたことは確かであろう。

一方、小鍛冶業の中心地区であるC区工房は、竪穴建物・掘立柱建物・小鍛冶炉などが遺構群を形成し、9世紀前葉から中葉にかけて展開した。まず、それぞれの新旧関係についてふれてみたい。

竪穴建物は31号遺構fから33号遺構に至るまで順次建て替えされている。31号遺構は各期炉を伴い、小鍛冶に関連した作業場と思われる。34号遺構は出土遺物から、32号に並行するものと思われる。

35号遺構(掘立柱建物跡)は、31～33号遺構の遺物廃棄場とされる45号遺構より古いと思われるので、31～33号いずれかに先行する可能性が高い。ただし遺物は31～35号と変わらないので、これらより完全に先行することはないと思われる。36号は出土遺物から同期と捉えた。39号遺構は、36号遺構と

奈良～平安期遺構群新旧表

	8C 末 ～ 9C 初頭	前葉 ～ 中葉
B区	38号(掘立柱建物)	
C区工房跡	31号(竪穴建物)f e d c b a	32号 33号
	34号(竪穴建物)	
	35号(掘立柱建物)	
	37号鍛冶炉B D A	
	43 ・ 44 ・ 42号(鍛冶炉か)	41号(鍛冶炉か)
E区	28号(竪穴建物)a b 29号(竪穴建物) 30号(竪穴建物)	36 ・ 39号(掘立柱建物) 30号A炉

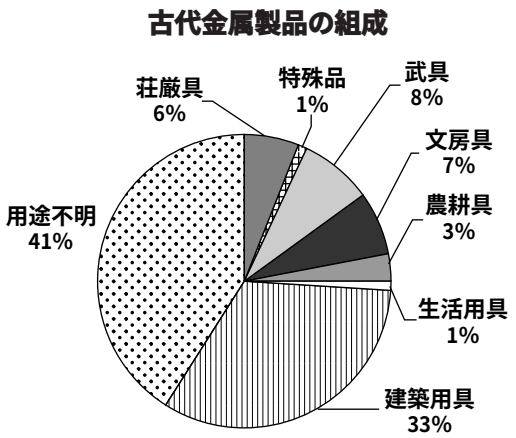
主軸方位が共通するため、ほぼ同時期の建物と思われる。上記32号遺構の新規構築を併せ考えると、段階的に操業体制の拡大を追うことも可能性であろう。

41～44号遺構は小鍛冶炉群で、それぞれが連綿と造り替えられたものと思われ、一定期間の安定した操業が想定される。31～33号遺構の機能と有機的な関連を容易に推測できる。41号遺構(小鍛冶炉か)は、出土遺物から33号と同期か、やや新しい可能性がある。遺構群の新旧関係をまとめると、表のようになる。

次に、遺物についてである。C区からは、多量の墨書・線刻土器をはじめ、多くの鉄製品、特殊遺物などが出土している。これらはすべて工房に関わる遺物と思われる。

墨書・線刻土器は342点を数えるが、うち340点がC区出土であり、操業に関わる各遺構から出土している。総量の93%が「天」銘土器で、則天文字の流れをくむことは明白だが、教科書的なものではなく、記号化されているようだ。これ以外の字種は希有であるため、工房で操業していた集団の標識記号として書いたものかもしれない。なお、圧倒的に線刻が多く、墨書銘は30点のみで、全体の9%にすぎない。

金属製品は豊富で、総数179点(中世遺物30点を除く)中、荘厳具(帯金具・辻金具・飾り金具)10点、特殊品(鍵)2点、武具(鏃・大刀)15点、文房具 (刀子)13点、農耕具(鎌)6点、生活用具(燧金・紡輪)2点、建築用材(釘・鎹類)59点、計107点以外はすべて用途不明で、全体の41%にのぼる。これらは未製品の可能性がある。特に31号遺構a(竪穴建物跡)出土の短冊形鉄製品(第43図186、分析№2)は、金属学的調査で鍛造の方法と鍛錬途中の可能性が明確となっており(第6章参照)、遺跡の性質を考える上で良好な資料になり得るであろう。



特殊遺物は、銙帯、金銅製座金具が挙げられる。石帯を除くすべてが銅製品である。本遺跡では銅製品の鋳造痕跡を見出していないので、これらはC区工房製品ではなく、完成品を搬入した可能性が強い。ただし座金具2点(第42図№165・166)は鍛造品なので、本遺跡で加工された可能性がある。この詳細については第3章を参照されたい。

銙帯は銅製鉸具(第42図№167)・銅製鉈尾(第69図№165)・石製丸鞆(黒色、第105図№268)の3点が挙げられる。これらはそれぞれ大きさが異なり、明らかに同一の帯に装着されたものではない。しかし官衙遺跡以外の場合、帯としてではなく、銙具そのもが扱われていたと指摘されているので(15)、本遺跡の3点も帯を伴わない威信財的なセットとして所有された可能性があろう。この所有者については、工人集団そのものか、これを統括する官人、ないしは在地有力者か、解釈によって遺跡の性質を左右する問題であるが、現状では不明である。それぞれ31号遺構a(竪穴建物跡)、45号遺構(遺物溜まり、31～33号の遺物廃棄跡か)・中世Ⅱ期確認面(32号竪穴建物跡上層、88号遺構b覆土)からの出土で、確実に遺構に伴うのは鉸具(31号a)のみである。石帯は9世紀に広く普及したものと思われ、C区工房跡の発生期と矛盾がない。しかし工房操業期後半から末期のある段階、45号遺構形成期には所有価値が

なくなり、破棄された可能性を指摘できる。本遺跡の石帯は黒色で、大同2年(807)の「雑石腰帯」禁断令(16)には抵触しないタイプと思われる。この禁断は、雑石石帯の豊富な色調が、五位以上に許された玉類との識別に混乱をきたすために出されたものと解釈されているが、雑石石帯の需要は抑えられず、やがて解禁に至っている(17)。推測の域を出ないが、本遺跡の鋳具廃棄の背景として、見かけが高級な雑石石帯への嗜好・普及があるのだろうか。とにかく概略として、①小鍛冶を中心にした操業体制が、②9世紀前葉から中葉にかけての時期に、③谷を囲んだ広域な範囲で展開されたこと、④鋳具などの威信財的な特殊遺物を見出せるが、操業期後半から末期に破棄された可能性があること、などが確認できたものと思う。

5　平安時代末期～鎌倉時代中期

C区・D区に整地地業を行い、掘立柱建物群が展開する。遺構群は谷を取り巻く形で開析部に向いており、まさに開発地再奥の文化空間を構成するものであった。なお、E区にも同期と見られる土坑(109号遺構)が検出されており、尾根筋上にも関連遺構が散在していたと思われる。109号は8世紀の方形周溝状遺構とした46号遺構の付属施設のようにも見えるうえ、室町期の溝状遺構(68・69号遺構)が遺構の周溝に規制されていることから、中世前期の方形区画墓である可能性がある。この場合、C区・D区建物群の展開する谷と、開発地である立野川沖積地を見下ろす景勝地に墓域を持つことになり、興味深いが、現時点で中世遺構と断定することはできず、可能性に止めざるを得ない。

C区は大規模な切り土・盛土整地で平坦面を造成し(73号遺構)、その上に掘立柱建物群が展開する。盛土整地はⅠ～Ⅲ期の地業層・文化面が確認された。以下、C区を中心に概要を述べてみたい。

(1)遺構の時期的問題について

a　各地業層

Ⅰ期は文化面が積極的に評価できる状況でないため、Ⅱ期盛土とほとんど時間差はないものと捉えた。盛土層(3b)直下の41号遺構から、Ⅰ期地業開始時に混入したと思われる渥美産甕・伊勢型鍋(第63図6・7)が出土している。これらの生産時期は必ずしも明かではないが、甕の口縁形状が常滑3型式(18)に類似するので、12世紀末葉に地業面が形成されたものと考える。

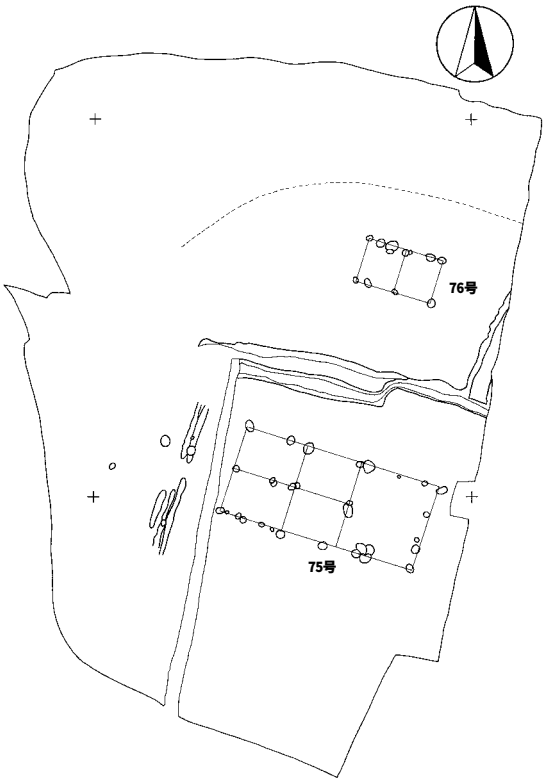
Ⅱ期文化面は75～77号遺構(掘立柱建物跡)に並行するものと思われる。上限はⅠ期から75号遺構期(下記)の間で、12世紀末から13世紀初頭にかけての時期であろう。

Ⅲ期は整地規模が最も広く整った時期で、地業層中に複数の文化面を持つが、詳細は不明である。本地区出土遺物群の最新グループとして6a型式の常滑片口鉢Ⅰ類が認められるので、文化面の機能期は13世紀前葉から13世紀後葉にかけてと思われる。

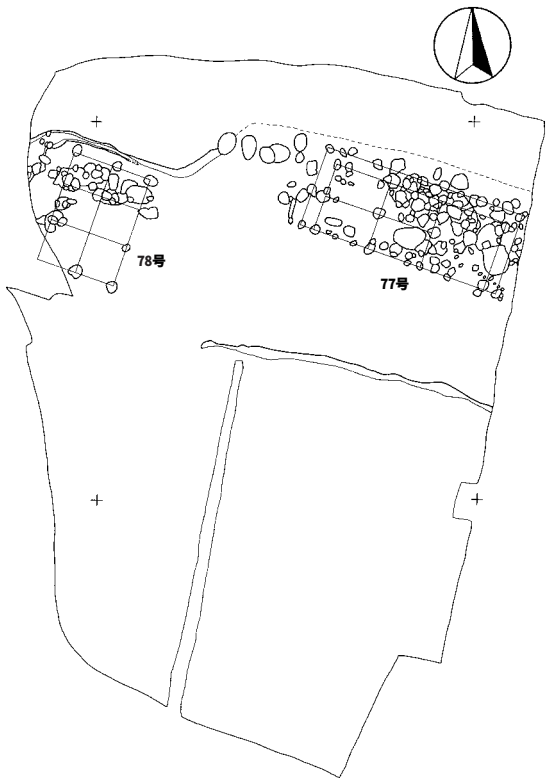
b　各建物群

75号(掘立柱建物)の出土遺物は、①新しい遺物が一切混じらず、同一期として矛盾がないこと、②他の建物に比べ遺物量が少なく(実測可能遺物6点)、それ以前の文化面の存在(前段階の遺物混入)を評価しがたいこと、③切り土整地の進行途上位置に立地すること、の4点から、今回確認できた中世最古の建物跡と判断した。地業Ⅱ期に該当する。76号遺構は梁行柱の軸線を75号と共有するので、同時期と捉えられる。

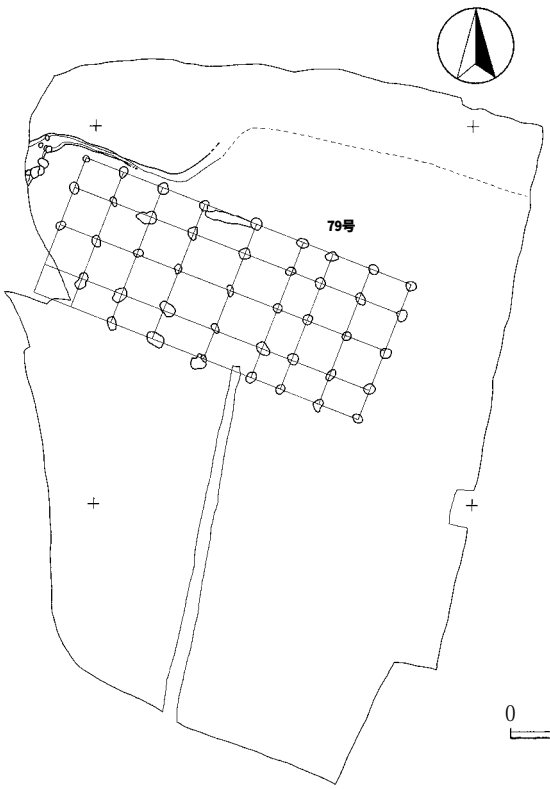
77号遺構は、75号の梁行軸線に乗ること、建物形態が酷似すること、遺構配列は整然としながら柱間間隔が若干縮小すること、などから、75号の建て替えと考えている。また、78～81号遺構と主軸方



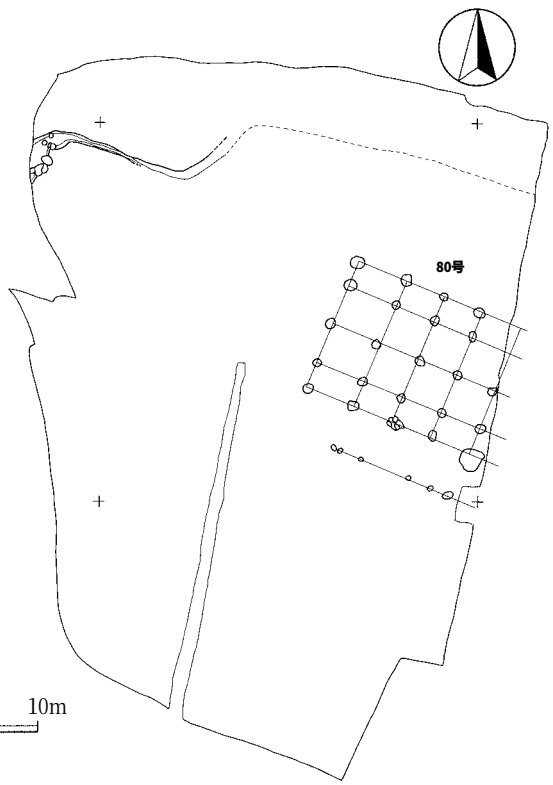
II期



II～III期－1

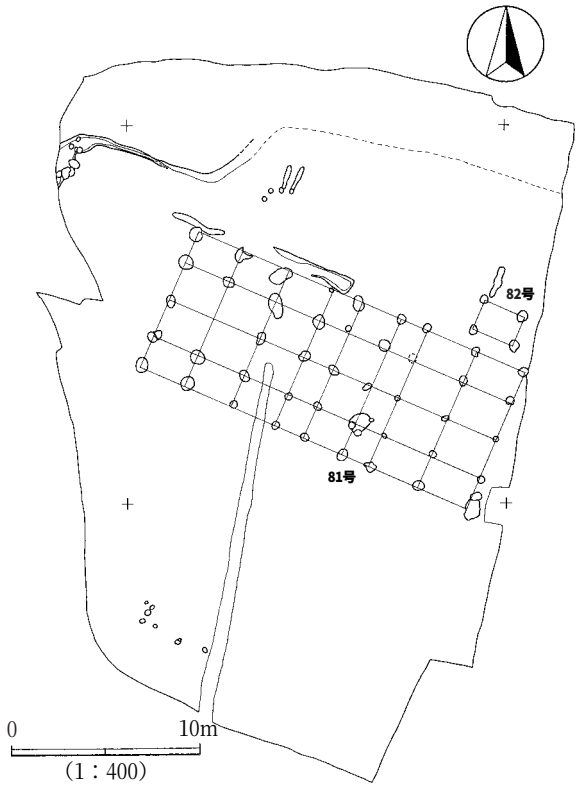


III期－2



III期－3

0　10m
（1：400）



III期－4（終末期）

位が異なるため、出現期は78号遺構より古い可能性がある。

78号遺構は遺物に77号と類似する一群があるので(1・5・6)、建物は77号と併存するものと考えられる。

79号遺構はプラン確認で78号を切っているよう観察されたうえ、桁行軸線が78号遺構に乗るので、これを建て替えつつ規模を拡大したものと推測した。仮に77号建物が存続した場合、本遺構と非常に近接し、通行もままならない状況になるので、この段階では77号建物も消失していたものと思われる。推測になるが、77・78号建物の老朽化に伴い、両建物を合体した規模の建物1棟に建て替えた。この際、まだ遺存していた78号建物の梁行を延長する形で79号建物プランを縄打ちし、78号建物の解体後、79号建物を建造したと思われる。なお、C区ピット11 出土の常滑産片口鉢Ⅰ類(第80図№14)は、口縁下部のナデ締めが顕著でなく、5型式でも古手と思われる。位置的に81号のプランにも重なるが、81号をⅢ期最終期(常滑6a型式期)と捉えた場合、むしろこの遺物は79号遺構に帰属する可能性があろう。従って79号は、常滑4～5型式期と捉えておく。

80号遺構は桁行の軸線が79号に近似するので、79号の建て替えと捉えている。

以上の新旧関係をまとめたものが右の表である。

中世前期建物群新旧表

C区	治承・寿永の内乱	鎌　倉　時　代		
	12 C 末	13C初	中	後
	(常滑編年)			
	3以降		5	6a
	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期－1 －2 －3 －4	
	75号下層ピット群	75号		
		76号	77号	82号
			78号	79号 80号 81号
D区			104号	

なお、新旧関係が記述通りとすれば、建物が単独の80号遺構期は、調査区西側が空き地になる。仮に78号と73号整地c面を「建物増築のため追加造成・建築した」と捉える場合、貴重な台地整形面を無駄にしていることにもなり、不都合と捉える向きもあろう。この点を踏まえ、78号が同軸建物と併存した可能性を重視した場合においては、次のパターンも有力となる。

①75・76号→77号→78・80号→79号→81号(78・80号を同期とし、79号と80号の順位を逆転)

②75・76号→77号→78・81号→79号→80号(78・81号を同期とし、79・80号と81号の順位を逆転)

しかし筆者としては、小規模建物1棟から2棟へ、さらに大規模建物1棟への移築状況を想定する表記のパターンを有力視するものである。

c　各地業期と建物群の関係

Ⅰ期＝75号遺構下層ピット群　Ⅰ期地業面でプラン確認できたピットから建物復元はできなかった。ただし調査区外に該当期の建物跡が存在する可能性がある。

Ⅱ期＝75～77号遺構　75号遺構はⅡ期地業面でプラン確認している。なお、76・77号遺構は、切り土整地面最奥部(73号b面)のため地業層が存在せず、プラン確認による地業期把握はできなかった。しかし建て替え関係から、これらもⅡ期に該当するものと捉えた。

Ⅲ期＝77～82号遺構　これら遺構群はすべてⅢ期地業面でプラン確認している。Ⅲ期がさらに細分可能であったことは先述のとおりだが、発掘調査時にそれぞれのプラン確認は行えなかった。

(2)出土遺物について

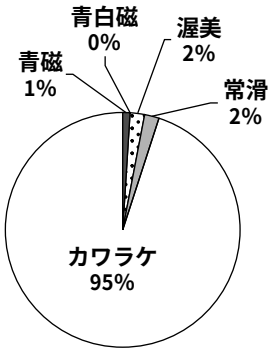
a　出土遺物の定量について

C区中世整地区内において、青磁13点(すべて碗、Ⅰ-1類3点・Ⅰ-2類6点・Ⅰ-4類1点・Ⅰ-5類3点)[19]139.1ｇ、青白磁3点(合子1点、皿Ⅳ類1点、Ⅷ類1点)14.3ｇ、渥美産陶器28点(壺4点・甕18点・鉢6点)1776.7ｇ、常滑産陶器20点(三筋文壺1点・甕7点・片口鉢Ⅰ類10点《5型式2点・6a型式6点》・Ⅱ類2点《7型式1点》)1,016.0ｇ、カワラケ1,247点(口縁部数325点)11,398.0ｇが出土した。総点数1,311点、カワラケ以外の遺物は64点である。整地面に対する調査対象面積は788㎡で、総点数は1㎡当たり1.66点、カワラケを除くと0.08点に激減する。なお、伊勢型鍋が地業直前の表土層から3点(52.2ｇ)出土しているが、整地前に消費された可能性の強い遺物なので、対象外にしている。

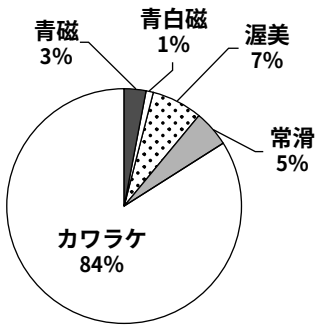
特徴として、①カワラケが圧倒的に多いこと。②瀬戸・美濃系製品は皆無であること。③輸入磁器は16点中13点が12世紀で、13世紀のいわゆる蓮弁文碗(Ⅰ-5類)は3点にすぎないこと。④常滑産陶器は5～6a型式が中心であること(本遺跡出土の渥美産陶器は、常滑2～3型式並行期が中心と思われ、常滑産陶器より古い傾向がある)。⑤カワラケを除く陶磁器類はわずか64点で、約1世紀にわたる遺跡存続期間と建物規模の割には極めて少ないこと。⑥煮炊具は皆無で、地業下層に認められた伊勢型鍋が引き続き使用された形跡もないこと。などが指摘できる。

①カワラケの量については、土師器の疑いがあるものを除き計量したので、実際の点数はさらに増えると思われる。地業層中から出土した個体は小片が多く、同一個体も多いと思われるため、カワラケのみ口縁数を当てたグラフ(組成2)も載せてみた。調査区からカワラケの一括廃棄遺構は検出されておらず、直接的に饗宴使用を裏付けることはできないが、膨大な出土量から見ても日常供膳具とは異なる「ハレ」のための消費を認めて良いと思う。

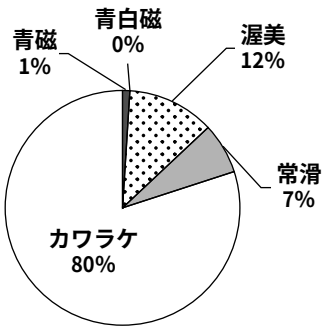
C区中世陶磁器類組成1
（総点数1,311点）



C区中世陶磁器類組成2
（カワラケのみ口縁部数計量：総数389点）



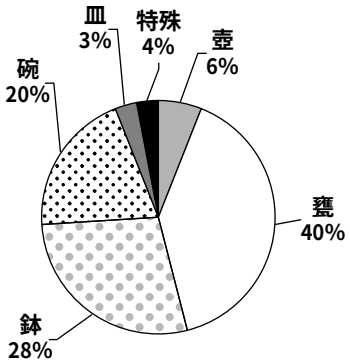
C区中世陶磁器類組成3
（重量：総量14,344.1g）

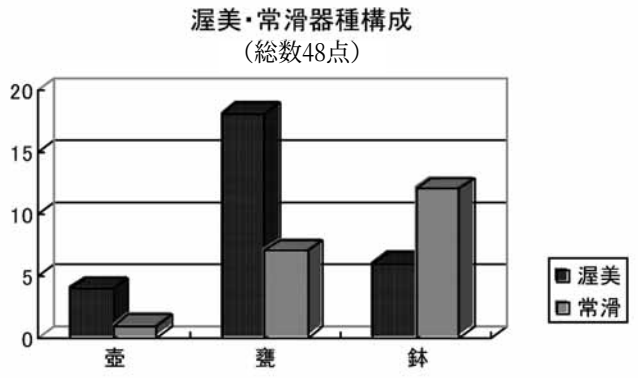


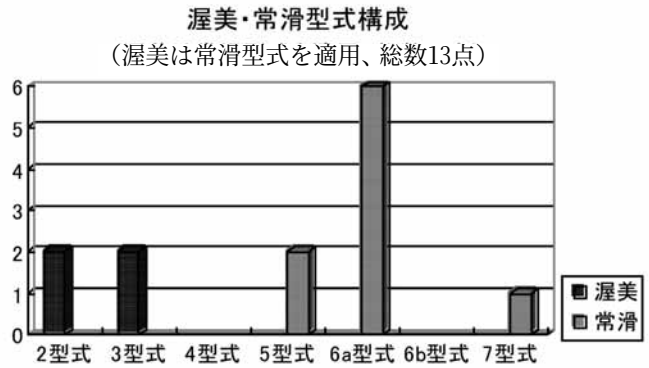
②瀬戸・美濃系製品が出土しないことは、これらが日常雑器として普及し始める以前に建物群が廃絶したことを示し、終焉期を常滑6a型式期に捉えることと矛盾がない。特殊品としては常滑三筋文壺があるが、鎌倉的な瀬戸・美濃系の壺・瓶類は認められなかった。

カワラケを除く陶磁器類の器種組成

（総数64点※特殊は合子1点・三筋文壺1点）







③輸入磁器は16点出土したが、龍泉・同安窯系の劃花文碗が主体で、青白磁を含めても12世紀の範疇に収まるものである。これに対し13世紀の蓮弁文碗(Ⅰ-5類)は3点のみで、輸入磁器全体の19%にすぎない。遺跡自体は13世紀中・後葉が最盛期なので、単に蓮弁文系が搬入されなかったと見るには抵抗が残る。県内の調査事例を見ると、室町・戦国期の遺跡からも蓮弁文系は比較的目にするが、劃花文系は稀になる傾向があるので、前者は伝世、後者は廃棄、との見方が妥当ではないか。推測になるが、13世紀に“鎌倉的”蓮弁文系青磁に対する嗜好性が高まり、劃花文系青磁と交代され、後者は所有価値がなくなり廃棄された、と考えられないだろうか。ただし、地方における蓮弁文系青磁の普及年代は必ずしも明確でなく、遺跡廃絶期(常滑6b型式期)以降に一般化した可能性もある。

④渥美・常滑産陶器は、12世紀該当遺物が8点(常滑2～3型式期)、13世紀が9点(5型式期以降)で、量的には両世紀が均衡する。嗜好性の高い磁器類と異なり、日用品として通常の消費形態を示すものであろう。明確に型式分類の可能な個体は少ないが、12世紀は渥美製品に占められている(型式構成グラフ)。建物群発生期(Ⅰ・Ⅱ期)に一括搬入された渥美製品(搬入段階ですでに伝世)が消耗し、Ⅲ期中葉以降に常滑製品に替えられたものと捉えられる。これは定量比較において、耐久性の強い甕は渥美製品が圧倒的に多いのに対し、より消耗する鉢は常滑製品が多いことからも頷ける(器種構成グラフ)。裏返せば、甕が渥美から常滑製品に完全交代する前に遺跡終焉期を迎えた可能性が高い。

⑤カワラケ以外の遺物量は64点(1㎡当たり0.08点)と少ないが、瀬戸・美濃系製品の普及しない時期であり、東国においては一般的な定量と判断する。

b　各遺構における遺物組成の変化について

75号遺構はⅢ期地業層にパックされていたため、出土遺物群が基本的に伴うものと見ている。しか

しその他の遺構については遺物の混ざり込みが想定されるので、必ずしも正確な定量でないことを断っておく。カワラケについては、75号出土遺物を手捏土器の模倣と見て、その退化が進行する過程を想定し、各遺構に伴う可能性が高い個体を摘出・集計した。しかし遺物群の中には、手捏模倣と系譜を異にするロクロ土師器系のカワラケも共伴するものと思われるが、これらの分類は整理作業の枠内では諦めざるを得ず、本稿の集計には反映させていない。

なお80・81号遺構については、伴う遺物の同定が困難なため、対象にしていない。また、考察の都合上、本文中に図示した実測可能遺物のみを計量の対象にしたことを明記しておく。遺構ごとの定量判断基準は以下に述べる通りである。

75号遺構：伴う遺物群(75号№1～6)の他に、C区№1・2(C区ピット1・2)の陶磁器2点を加え、計8点とした。この2点が出土したピットは位置的に近く、本遺構からの流出と思われる。今回捕捉できなかったⅠ期建物に伴う可能性もあるが、組成変化の概略を追う上で、問題はないであろう。

77号遺構：遺構aの青磁碗(1・2)、遺構bの渥美産甕(8)や青磁碗(10)は、75号遺構出土遺物と時期的に開きのないものであり、遺構に伴うものと判断した。カワラケについては11が手捏模倣意識強く、丸底なので、75号出土遺物6とセットになるスタイルと思われる。従って77号建物創建期の遺物である可能性が高いと言えよう。この視点で見ると、遺構a出土遺物3～6・12は明らかに平底であるが、底部外周から立ち上がり部を強くナデ調整することで丸底を意識している。このタイプは78号遺構出土遺物群にまとまって見られるので、78号と並立した本遺構建物後半期に帰属する可能性があろう。また、本遺構に近い79号ピット5出土カワラケ(4)も同様の形態なので加えた。従って共伴遺物は、遺構a(1～6)、遺構b(8・10・11)、75号(4)、の計10点と捉えた。

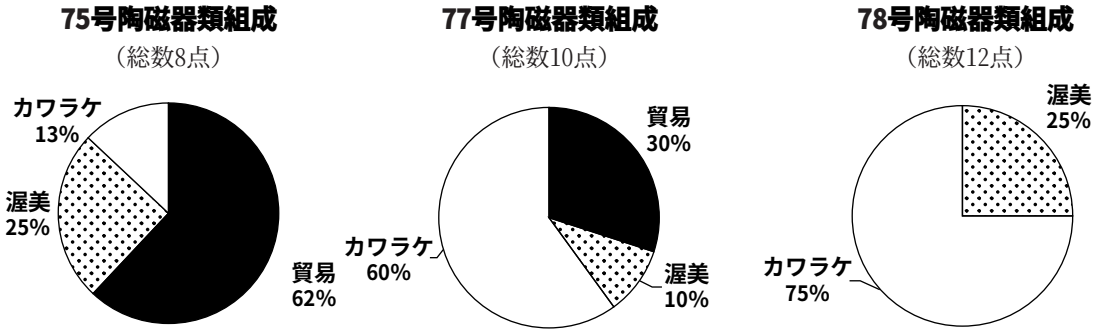
78号遺構：上記のとおり、カワラケに底部から外面立ち上がり部をナデ調整する個体(遺構a№1・5・6、遺構b№10)が認められ、遺構に伴うものと判断する。また、87号遺構(区画溝)は本遺構に伴うので、底部付近の調整が共通する2点も加えた(87号№5・9)。73号c面出土カワラケ(21)、79号ピット12・M9-22出土カワラケ(10・33)も位置的に矛盾がないうえ、同様の調整を示すので、加えている。陶磁器類は伝世の可能性も加味し、渥美壺・鉢(遺構a№8、87号№1・2)を加え、合計12点とした。ただし、取り上げたカワラケとセット関係の大型カワラケが加わる可能性は高く、カワラケの点数はもう少し伸びるものと思われる。

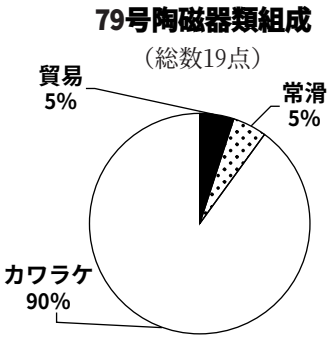
79号遺構：78号bのピット1は本遺構に伴う可能性がある。これに伴うカワラケ(78号b№1～5・8)は、外面の立ち上がりを一応なだらかにおさえているが、もはや丸底を意識しているとは言い難い形状で、78号で述べたタイプの退化型の可能性がある。同様のカワラケを見ると、73号c(18・19・22)、C区ピット(8)、78号a(7)、78号b(9・11・12・21・22)、79号(2・3・5・11～13・30)、計17点が共伴する可能性があろう。これに青白磁皿(79号№21)と、本文で述べたC区ピット(14)の常滑鉢を加え、19点とした。

以上の結果をグラフ化してみた。あくまでも組成変化の傾向を示すに止まるが、新しい建物に移行するに従い、①遺物量の増加、②カワラケの増加、③陶磁器の減少、の３点を明示している。

①遺物量の段階的な増加は、即ちカワラケの増加によるもので、遺構規模の拡大に比例するものであろう。

②カワラケの量については、75・77号のグラフ間に大きな差異がある。ただし77号は地業期Ⅱ・Ⅲにまたがる建物と思われ、グラフの組成率は建物終末期(Ⅲ期初期)の様相を示すものである。Ⅱ期の





75号出土カワラケに類似する例は遺構b(11)の小皿のみであり、Ⅱ期該当期のカワラケ出土率は相当の減少が見込まれる。77号のⅡ期における組成率は75号に近似するものと言える。つまりカワラケ消費量の劇的な変化は、Ⅱ期からⅢ期への転換期に認められることになる。Ⅲ期は地業レベルから見ても最大の画期であり、Ⅲ期地業が、遺跡の性質上何らかの変化に裏打ちされ、実施されたことを裏付けよう。この変化はカワラケの消費を促す＝饗宴などハレ的な場へ変換するもので、鎌倉幕府の動向と関連するのかもしれない。なお、カワラケの消費率は、最初の大型建物79号に至り、さらなる増加を示しており、遺跡の終焉まで同様の消費形態が発展したものと考えられよう。

③陶磁器の減少は、先に述べたとおり、Ⅲ期においてⅠ期からⅡ期の遺物が引き続き使用されながら、ある段階での蓮弁文系青磁への交代・伝世を示すのではないか。もちろん交代自体が進まない(搬入されない)状況を示す可能性もある。

(3) D区について

D区はC区に比べ整地・建物の柱掘形ともに脆弱だが、104号建物の建坪は比較的大きく、梁行2間の身舎に広縁を廻らした可能性が高いことなど、C区79～81号建物と類似する点がある。梁行幅は79・81号とほぼ合致するので、C区Ⅲ期並行期と捉えた。

建物の建て替え痕跡はなく、一世代以内の遺構群と捉えられる。出土陶磁器類も微量で、渥美産甕1点、カワラケ4点のみである。もっとも、生活廃材は谷底に投棄していたのかもしれないが、条件はC区も同じであり、両区間の遺物量の差とは無関係であろう。

C区・D区における遺構構築の地業規模・遺物出土量の差は、利用者の階層的相異を示す可能性があるが、D区104号建物をC区79号建物並行期と捉えた場合、C区で廃止した土間付き建物の機能を代行する可能性も指摘できる。D区の陶磁器類総量はわずか5点であり、組成について考察することはできないが、少なくともC区に見るようなカワラケのハレ的消費は認められない。従って、Ⅲ期後半期の日常的生活の場として捉えるのが妥当であろう。

(4) 中世遺構群の性格

本遺跡は地業・建物規模から、在地における領主階級の生活遺跡であることは疑いないであろう。具体的には寺院と地頭領主が挙げられるが、これを比定するのは困難である。開発地最奥の谷を取り

巻くように展開し、古墳群(マウンドを有する方形周溝墓群)を背負う聖域的立地から、前者の可能性が高いのではないかと推定している。

本遺跡と同時期に斜面を切り土し、大規模掘立柱建物を持つ例として、東京都八王子市多摩ニュータウン№692遺跡、埼玉県本庄市大久保山遺跡浅見山Ⅰ地区、福井県吉田郡永平寺町諏訪間興行寺遺跡が挙げられる。

多摩ニュータウン№692遺跡は、カワラケが多いこと、国産陶器の壺・瓶類が一定量認められること、建物の構造・規模、の3点を根拠に、『吾妻鏡』に見える「蓮生寺」関連施設に比定されている(20)。

大久保山遺跡は、独立丘陵を取り巻く斜面地に展開した居館群であるが、中世寺院推定地区の浅見山Ⅰ地区においては、他の居館地区に比べカワラケの出土量が飛躍的に多いという(21)。

諏訪間興行寺遺跡は12世紀末から16世紀の遺跡で、未整理のため詳細は不明であるが、基本的に寺院遺跡と捉えられている。第Ⅰ期が類例となり、出土遺物はカワラケが大半を占めるが、輸入陶磁器も一定量出土している。城館や寺院として積極的に位置づける根拠に乏しいと報告されている(22)。

これらの例と本遺跡を比較すると、①斜面を造成し、大型掘立柱建物を建てること、②カワラケの多量消費、の点で類似するが、③他の遺跡で一定量出土している特殊遺物(輸入磁器類、国産陶器の壺・瓶類など)はほとんど出土していない、点で異なる。

まず共通点①についてであるが、大型建物を平地に建てず、敢えて山地・丘陵地に削平面を創出する必要性を考慮すると、通常の館とは違った側面から捉えざるを得ないであろう。すなわち、純然たる開発活動の要地とはいささか異なる、山地・開発地の最奥・景勝地・水源地など、聖域的立地の選択に規制されての現象と思われる。この点からすれば、本遺跡は寺社関連と自然に位置づけられる。

次に共通点②であるが、荒川正夫は、13世紀中葉以前の地方において、カワラケの大量消費が館ではなく寺院遺跡において認められることに着目している。結果、この時期までは、「人と人」の契約を重視した在地武士が主従関係を確認する手段として饗宴の場を利用する必要性はなく、むしろ「人と神仏あるいは先祖」との契約を重用視した寺院においてカワラケの大量消費がなされたのではないか、と推論している(21)。この推論が的を得ているとすれば、本遺跡C区は寺院に関連するハレ的な場、ということになる。

最後に相違点③であるが、本遺跡の場合、整地面自体の調査対象面積が少ないことと、整地面内に廃棄遺物が投入され、それらが良好に保存されるような一定規模の溝や土坑などが無かったこと、さらには特殊遺物の所有意義が失われる前に遺跡終焉を迎えた(破棄されず搬出された)こと、などが原因に指摘できる。本遺跡は地業・遺構の規模からして、嗜好性の高い特殊品が搬入されなかったとは考えられないうえ、滑石製品や雙六駒など、都市的な遺物も認められるため、陶磁器類の特殊品の有無のみから遺跡の性格に触れることは困難である。

これらの点からすると、現時点では寺院関連の遺跡と捉えるのが妥当と思われる。なお、C区はⅡ期まではカワラケの大量消費が認められず(グラフ参照)、Ⅲ期からハレ的な場に転換したものと思われる。これに対し、D区はⅢ期後半期の日常的生活の場として捉えるのが妥当であろう。ただしⅢ期においては、谷を取り巻く広範地域に同様の遺構群が展開したものと思われ、D区のみをもって生活遺構の様相を代表するものとは言い難い。C区に対しても同様で、今後、谷を廻る隣接地区の調査が行われれば、遺跡の性質の核心に触れる遺構(例えば仏堂など)が検出される可能性は高いであろう。

(5)　中世前期遺構群の流れ―まとめに代えて―

まず、12世紀末葉期(治承・寿永の内乱期)に大規模整地を実施し、土間を持つ掘立柱建物が構築された。次第に整地規模を拡大しながら、13世紀初頭には、建物数が調査区内において2棟に増加した。新しく加わった1棟は土間を持たず、それ以降隆盛した総柱建物の初見となった。カワラケの大量消費はこの時期から始まるものと思われ、建物も主殿的性格を持つものと推測される。13世紀中葉になると、建物は巨大な1棟に集約され、カワラケの消費量もピークを迎える。遺跡の最盛期は常滑6a型式期と思われるが、それ以降の遺構・地業は認められないため、衰退期を迎えることなく、13世紀後葉段階に突然終息した可能性が高い。常滑7型式以降の遺物も微量出土しているが、文化面に伴うものではない。これは瀬戸・美濃産の日用品が全く見出されないことからも肯定されよう。この終息は平和的に迎えられたものと思われ、巨大な地業・遺構規模を誇りながら、瀬戸・美濃系の壺・瓶類や13世紀の輸入磁器類が出土しないことの裏付けにもなろう。すなわち次の移転地に搬出された可能性が生じるからである。

なお、遺跡終焉期の文献史料に応永期「年未詳馬野郡惣勘文」(9)があり、文永12年(1275)に本遺跡から海岸平野に及ぶ馬野郡一帯の得分権侵害があったこと、事態の収拾後、幕府が改めて得分を安堵した対象者は鎌倉覚園寺と思われること、「不入続郷云椎津知行」に対する2解釈が提示できることなど、すでに第1章で触れたとおりである。前者の解釈(正応期以降の不入続郷の領主＝地頭領主椎津氏)に立つと、上級領主の覚園寺に対し、地下は椎津氏の差配と捉えられる。ただし椎津氏は上総守護職足利氏(23)の被官と思われ、守護権力の一端として文永12年の「不審」、ないしは正応期の安堵(関東下知状が存在したか)に対する下地遵行・打渡行為に関わった可能性を指摘できる。つまり単なる地頭領主を超えた立場を評価する余地があるが、推測の域を出るものではない。とにかく在地における巨大遺跡の消滅と、足利氏の伝統的被官として知られる椎津氏の進出、という捉え方が可能ということである。ただし後者の解釈(「椎津」を氏名でなく「不入続郷」に並ぶ地名と見る)に立つ場合、椎津氏の関与は白紙化せねばならない。いずれにせよ覚園寺の影響が強かったであろうことは動かないと見ている。

とにかくC・D区中世遺構群は、在地領主層が台頭する12世紀末に創設され、「文永十二年」に近い時期、終焉を迎えたことはたしかであろう。遺跡を寺院、寺院以外の領主館いずれに捉えるかの問題もあるが、上総氏や上総千葉氏といった在国司系の伝統的豪族領主層が衰退し、新しく入部した足利氏や有力寺院が領主的基盤を再編する過程に消滅した、中世房総史の根幹に関わる遺跡と言えよう。

6　室町時代

鎌倉中期以降の明瞭な遺構は存在しない。C区中世建物群が廃絶した後は、遺跡全体が山林・畑地に姿を変えたものと思われる。ただし、E区で常滑9型式の遺物が若干量出土しているので、68～72号遺構(溝)が15世紀前葉から中葉にかけて機能した可能性がある。69号遺構は尾根筋の頂上を縫うように走る大規模区画溝で、村落境界などを示した可能性がある。もしそうだとすれば、戦国期という時代の変換点にさしかかるこの時期、村落の成長を裏付ける資料として興味深いが、現在の地筆に継承されておらず、近世に至るまでに村落形態上のさらなる改変が想定されようか。

7　おわりに

以上、今回の調査に関わるまとめを簡単に述べた。全般に特筆すべき事項が多かったが、紙幅の都

合上、簡略にせざるを得なかった。平にご容赦願いたい。ことに中世前期の遺構群については稀に見る調査事例と認識している。本来着手する予定であったカワラケの分類・編年については、別の機会に発表することにしたい。

本稿が今後、房総の考古学的研究に些かでも寄与することができれば幸いである。

注　釈

(1) 寺島　博1984『片又木遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書　第3集

(2) 小鷹神社境内の石碑銘による(石碑は近年の造立)。

(3) 道沿いの大國主神社は、源頼朝が挙兵後、本地を通過したおり奉斎したと伝える(千葉県神社名鑑刊行委員会1987『千葉県神社名鑑』千葉県神社庁発行)。また、この地で旗竿を切り替えたので、村の農民に「切替」姓を与えた、と伝える(市原郡教育会1985『千葉県市原郡誌』佐藤今朝夫発行)。

(4) 大谷弘幸1994「西上総地域の古道跡」―いわゆる鎌倉街道を中心として―(『千葉県文化財センター研究連絡誌』41　財団法人千葉県文化財センター編　所収)で述べられている「立野・姉崎ルート」と「下新田・立野ルート」の分岐点付近に接続する。

(5) 薬王寺は新義真言宗智山派に属する小規模の寺で、一旦失った本堂を天保12年に再建しているが(『市原郡誌』)、それ以外の寺歴は不明である。

(6) 大室　晃1979「市原市の指定文化財」『市原市史』(別巻)　市原市教育委員会編　市原市発行　所収

(7) 写真は市原市教育委員会所蔵。

(8) 建武2年(1335)10月23日「三浦高継寄進状」『鶴岡八幡宮文書』(市原市教育委員会1980『市原市史資料集』(中世編)　市原市発行　367　以下、「市史」と省略)に「上総国馬野郡椎津郷」と見える。

(9) 年未詳(応永期)「馬野郡総勘文」『覚園寺文書』(「市史」497)

(10) 高村　隆1986「室町期の市原の荘園と村落」『市原市史』(中巻)第二章第三節　市原市教育委員会編

(11) 年未詳「馬野郡郡本富益両郷公田数覚書」『覚園寺文書』(「市史」496)

(12) 田中新史1985「古墳時代終末期の地域色」―東国の地下式系土壙墓を中心として―『古代探叢』Ⅱ　滝口　宏編　早稲田大学出版部

(13) 近藤　豊1975『古建築の細部意匠』大河出版　鎌倉時代以前を平安後期に括り、柱幅：見付比を1:5～1:5.5の範疇としている。

(14) 小橋健司2000『市原市片又木遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書　第70集

(15) 大野康男1993「律令国家と地方官衙」『房総考古学ライブラリー7　歴史時代(1)』第三章　(財)千葉県文化財センター編

(16)『日本後紀』弘仁元年(810)9月条の記載による。

(17) 平尾政幸2001「平安京の石製鋳具とその生産」『京都市埋蔵文化財研究所　研究紀要　第7号』(財)京都市埋蔵文化財研究所編

(18) 中野晴久1994「生産地における編年について」『中世常滑焼をおって』資料集　日本福祉大学知多半島総合研究所主催所収　なお、常滑製品の記述は、中野編年に従っている。

(19) 森田　勉1981「鎌倉出土の中国陶磁器に関して」『貿易陶磁研究』№1所収　日本貿易陶磁研究会　本報告における輸入磁器の分類は、すべて森田分類に従っている。

(20) 斉藤　進1988『多摩ニュータウン遺跡』昭和61年度(第2分冊)　東京都埋蔵文化財センター調査報告書　第9集

(21) 荒川正夫1998『大久保山Ⅵ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告6　早稲田大学本庄校地文化財調査室編

(22) 冨山正明2002「諏訪間興行寺遺跡」『中世北陸の城館と寺院』第15回北陸中世考古学研究会資料集

(23) 佐藤進一は、鎌倉後期から足利氏が上総守護職を世襲したと指摘している(佐藤進一　1971『増訂鎌倉幕府守護制度の研究』東京大学出版会)。

(24) 豊田秀治他　2000　『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書５　－市原市中伊沢遺跡・百目木遺跡・下椎木遺跡・志保知遺跡・ヤジ山遺跡・細山(1)(2)遺跡－』　財団法人千葉県文化財センター

第６章　片又木遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査

川鉄テクノリサーチ株式会社
分析・評価事業部
埋蔵文化財調査研究室

１　はじめに

遺跡出土の製鉄関連遺物に対し、化学成分分析を含む自然科学的観点での金属学的調査を実施した。主に鉄滓の製鉄原料の推定、製鉄工程上の位置づけ、観察上の特記事項などを中心に調査した。

２　調査項目および試験・観察方法

⑴調査項目：片又木遺跡の調査資料の記号、出土遺構・注記および調査項目を表1に示す。

⑵調査方法

（ⅰ）重量計測、外観観察および金属探知調査：資料重量の計量は電子天秤を使用し、少数点2位以下で四捨五入した。各種試験用試料を採取する前に、資料の外観を㎜単位まであるスケールを写し込みで撮影した。資料の出土位置や資料の種別等は提供された資料に準拠した。

着磁力調査は直径30㎜のリング状フェライト磁石を使用し、官能検査により「強・稍強・中・稍弱・弱」の5ランクで、個別調査結果を表示した。遺物内の残存金属の有無を金属探知機(ＭＣ：metal checker)を用いて調査した。

（ⅱ）化学成分分析：化学成分分析は鉄鋼に関するＪＩＳ分析法に準じて行っている。

・全鉄(T.Fe)：三塩化チタン還元－二クロム酸カリウム滴定法。

・金属鉄(M.Fe)：臭素メタノール分解－EDTA滴定法。・酸化第一鉄(FeO)：二クロム酸カリウム滴定法。

・酸化第二鉄(Fe2O3)：計算。・化合水(C.W.)：カールフィッシャー法。・炭素(C)：燃焼－赤外線吸収法。

・ライム(CaO), 酸化マグネシウム(MgO), 酸化マンガン(MnO), 酸化ナトリウム(Na2O), イオウ(S), 珪素(Si),マンガン(Mn), リン(P), 銅(Cu), ニッケル(Ni), クロム(Cr), アルミニウム(Al), バナジウム(V),チタン(Ti)：ICP発光分光分析法。

・シリカ(SiO2), アルミナ(Al2O3), 酸化カルシウム(CaO), 酸化マグネシウム(MgO), 酸化チタン(TiO2), 酸化リン(P2O5,), 酸化カリウム(K2O)：ガラスビード蛍光X線分析法。

但しCaO, MgO, MnOは含有量に応じてICP分析法　または　ガラスビード蛍光Ｘ線分析法を選択。

・カルシウム(Ca), マグネシウム(Mg),　酸化ナトリウム(Na2O)：原子吸光法。

・灰分, 揮発分：重量法。・リン(P)：吸光光度法。・イオウ(S)：燃焼－中和滴定法。

・鉄滓成分

鉄滓中成分は、18成分(全鉄T.Fe、金属鉄M.Fe、酸化第一鉄FeO、酸化第二鉄Fe2O3、シリカSiO2、アルミナAl2O3、ライムCaO、マグネシアMgO、酸化ナトリウムNa2O、酸化カリウムK2O、酸化チタンTiO2、酸化マンガンMnO、酸化リンP2O5、化合水C.W.、炭素C、ヴァナジウムV、銅Cu、コバルトCo)を化学分析している。

（ⅲ）顕微鏡組織写真：資料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨(鏡面仕上げ)

する。金属鉄はナイタール(5%硝酸アルコール液)で腐食後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織(縦断面L方向、横断面C方向)を拡大して写真撮影し、溶融状況や金属組織および介在物(不純物、非金属鉱物)の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則として100倍および400倍で撮影を行う。必要に応じて実体顕微鏡(5倍～20倍)による観察をした。

（ⅳ）X線回折測定：試料を粉砕して板状に成形し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれに固有な反射(回折)された特性X線が検出されることを利用して、試料中の未知の化合物を観察・同定することができる。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

測定装置　理学電気株式会社製　ロータフレックス(RU-300型)
測定条件

①	使用X線	Cu-Kα(波長＝1.54178Å)
②	Kβ線の除去	グラファイト単結晶モノクロメーター
③	管電圧・管電流	55kV・250mA
④	スキャニング・スピード	4.0°/min
⑤	サンプリング・インターバル	0.020°
⑥	D.S.スリット	1°
⑦	R.S.スリット	0.15mm
⑧	S.S.スリット	1°
⑨	検出器	シンチレーション・カウンター

測定装置　理学電気株式会社製　(RF-250EGS2型)
測定条件

①	管電圧・管電流	110-170kV・5mA
②	露出時間	0.3～0.7min
③	焦点･フィルム間距離	800mm

（ⅴ）X線透過観察：X線感光フィルム上に、対象資料を置いてX線を照射して、資料の透過(陰影)量を観察する。測定条件は資料の密度・重量により変化するので、数枚の写真を撮影して、最適の陰影像を観察している。

（ⅵ）ＳEM-ＥＤXによる観察

真空中で試料面の直径2μm程度の範囲に電子線を照射すると試料面から二次電子、反射電子、特性X線などが発生する。ＳＥＭ(走査型電子顕微鏡：Scanning Electron Microprobe Analysis)によって、二次電子または反射電子の発生程度を写真として撮影できる。さらにＥＤX(エネルギー分散型X線分析：Energy Dispersive X-ray spectroscopy)によって、試料に電子線を照射した際に放出される特性X線のエネルギーを検出し、試料表面層の元素分析を行うことができる。この両者を組込んだ装置がSEM/EDXで、X線マイクロアナライザー付き走査型電子顕微鏡と称する。

SEM-EDX装置の仕様；検出器：KEVEX社製Quantum、電界放射型走査電子顕微鏡：日立製S-4100、標準電子線加速電圧：15kV、標準蛍光X線積算時間：100秒間、元素マッピング分析(最大指定元素数：8、マッピング分析所要時間：約30分)。

3　調査結果および考察

分析調査結果を図表にまとめて208頁～209頁に示す。表1に調査資料と調査項目をまとめた。表中の○印が調査実施項目を示す。表2は鉄滓の化学成分分析結果、表3は鉄塊系遺物の化学成分分析結果ならびに表4は鉄滓資料のX線回折鉱物・顕微鏡組織をそれぞれ示す。

これまでの鉄滓の化学分析結果(約600点)を製造工程に分類・作図し、今回の分析結果を図示することによって、製造工程(砂鉄系製錬と鍛冶精錬、砂鉄製錬と鉱石製錬)の位置づけと製鉄の始発原料を検討できる。すなわち、図1は出土鉄滓類の全鉄量と酸化チタン量の分布図、図2は製錬滓と鍛冶滓の分類図、図3は砂鉄系鍛冶滓と鉱石系製錬滓の分類図をそれぞれ示す。

資料の外観写真・切断後の外観写真を図版37・38、X線透過写真を図版38、顕微鏡組織写真を図版

38～40、ＳＥM-EDX観察結果を207頁、Ｘ線回折チャートを209頁に示す。

化学成分分析、顕微鏡観察およびＸ線回折(鉱物名と鉱物組成式)の結果等を考慮し、考察する。各資料について、タイトル：資料番号、資料種別(括弧内は推定された製造工程)、着磁力、MC(金属探知機判別)を一行で示す。そして各資料の調査項目、すなわち外観観察(外観と表示)、Ｘ線透過観察(Ｘ線透過と表示)、顕微鏡組織観察(顕微鏡組織と表示、5～20倍のマクロ組織を含む)、Ｘ線回折測定(Ｘ線回折と表示)、化学成分分析(化学成分と表示)およびＳＥM-EDX観察(ＳＥMと表示)の調査結果を考察する。各資料の最も確からしい推定結果を最後にまとめる。以下、資料番号順に述べる。

資料No.1　含鉄椀形鍛冶滓(炉内滓)、着磁：稍弱、ＭＣ：無

外観（図版37）：総重量は19.6ｇ、長さ40.0㎜×幅29.8㎜×厚さ15.8㎜。小粒でばらばらになった資料が多く、この中で大きいものを試料にした。肉薄偏平な資料。全体に茶褐色の水酸化鉄と土に覆われ、上部に細かい割れが見られる。乾燥によるものか。下部の端に光沢のある黒色部分が確認できる。分析試料は汚染部を外すとわずかに残る感じである。

顕微鏡組織（図版40）：溶融したガラス質(非晶質)鉄滓の中に多角形状のウルボスピネルと繭玉状のウスタイトが観察される。写真全体に白く霞がかかった様子であり、X線回折で確認されるが、錆化鉄(ゲーサイト)が存在するものと推察される。したがって、顕微鏡組織から金属鉄が生成している鉄滓と推察される。

化学成分（表2）：全鉄(T. Fe) 39.8% に対して、酸化第一鉄(ウスタイト:FeO)は27%、酸化第二鉄(ヘマタイト:Fe_2O_3)は27%で、Fe_2O_3とFeOの比率は、50：50で、シリカ(Silica: SiO_2)9%で、平衡状態図(13頁の参考：鉄滓の平衡状態図を参照)のマグネタイトの領域に近いと見られるが、化合水が3.4%と高く、金属鉄は一部錆化し、水酸化鉄やオキシ水酸化鉄(主にゲーサイト)が存在していると推察され、製鉄工程での鉄滓中の酸素比率の推定は難しい。

滓中成分の指標となる造滓成分 (SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+Na_2O+K_2O) は20.3% である。砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタン(Titanium dioxide:TiO_2)が20%で、バナジウム (Vanadium:V) を0.46%含有する。鉱石に含有される成分の一つである銅 (Copper:Cu) は0.003%と少ない。したがって、高酸化チタン含有の砂鉄を始発原料とした可能性が高い。

本資料の製造工程の位置づけとして（図1～２）、図1は、全鉄(T. Fe)と酸化チタン(TiO_2)の関係を示す。図2には、T. Fe(%)と造滓成分 (SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+Na_2O+K_2O)(%)の関係を示す。本資料は、図1では、砂鉄系製錬滓グループの領域にある。図2では、砂鉄系製錬滓グループの(高酸化チタン含有砂鉄系)に属している。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、化学成分では全鉄量が低く酸化チタンが高い鉄滓で、製鉄工程初期の製錬滓成分を示し、顕微鏡組織ではウスタイトやゲーサイトが観察され、製鉄工程の中期･後期の組織を示している。すなわち、本資料は、高酸化チタン含有の砂鉄を始発原料とした可能性が高く、金属鉄が生成する段階まで反応が進行していると推察される。しかも、製錬滓か鍛冶滓の判別が難しいが、炉内に放置された状態で金属鉄と鉄滓が混在し、その後金属鉄の一部は錆化している資料と推察される。

資料No.2　短冊形鉄製品(亜共析鋼)、着磁：強、ＭＣ：強

外観（図版37・切断後の写真：図版40）総重量は104.5ｇ、長さ69.8㎜×幅31.5㎜×厚さ21.0㎜。短

冊形で全体に茶褐色の水酸化鉄に覆われ、瘤を形成している。重ね合わせ鍛造をした痕跡があり層状をなしている。残存金属は全体にあり、MC反応も強く重量感がある。植物繊維や錆瘤の剥がれた痕も観察される。角は比較的形状を残し、錆化している割に割れが少ない。水酸化鉄の付着が少なく、厚みが均一な部分は黒色で緻密な様相を示している。

Ｘ線透過（図版38）：透過写真から測定された寸法は、長さ64×幅21×厚さ11㎜で、外観寸法と比較して、長さ方向に約6㎜の差、肉厚で3㎜の錆化鉄層がある。幅方向に約10㎜の差、肉厚で5㎜の錆化鉄層があると観察される。割れや亀裂は観察されなかった。

顕微鏡組織：資料を約45°に切断し、ナイタールでエッチングして、写真撮影し、観察した(写真は未掲載)。白色はフェライト、黒色はパーライトおよび亀裂模様の介在物(鉄滓)が観察される。写真全体に、介在物(亀裂模様)とパーライト組織(黒い煙模様)があり、炭素濃度が不均質の鋼と推察される。

写真No.2-C(図版40)には、ほぼ全領域にフェライト組織が観察され、その粒界に微量(約5%)のパーライト組織(α-FeとFe$_3$Cの層状組織)が観察される。すなわち、低炭素鋼(C<0.1%)と推察される。一部に、大きな介在物(鉄滓：幅10～50μm×長さ1㎜)が観察される。したがって、本資料は、高温に保持された後、ゆっくり冷却されているが、熱処理後は鍛造加工を受けていない組織を示している。

写真No.2-D(図版40)には、針状フェライトと一部の領域にパーライトが観察される。パーライトは炭素を約0.8%含むので、部分的に炭材と接触して、浸炭がやや進んだと見られる。

したがって、顕微鏡組織観察から、本資料は極低炭素の鉄材と高炭素の鉄材(パーライト：約0.8%C)が併せて鍛造加工され、次に高温で熱処理・浸炭を受けて、ゆっくり冷却され、その後経年により表面は一部錆化が進んでいる鉄材と推察される。

ＳＥＭ：鉄中介在物のSEM像と成分の半定量分析結果を207頁に示す。SEM像には、介在物が鉄(フェライト)中を流れている模様が観察される。すなわち、本資料は、鍛錬鍛冶加工の処理を受けて、さらに高温で熱処理(焼戻処理)を受け、結晶粒の加工流れ模様は観察されないので、ゆっくり冷却されたと推察される。

写真下部は、介在物の結晶状態を示す。中心の大結晶粒(多角形状：7～10μm)、周辺の小結晶粒(多角形状：2～5μ)と結晶粒界から構成されている。

大結晶粒のＥＤＸ分析結果(半定量値)を207頁中段に示す。主にウスタイトと微量の酸化チタン・シリカ･マグネシア等を含む。小結晶粒のＥＤＸ分析結果を207頁下段に示す。主にファイヤライトに、ライム・アルミナ等を含む。小結晶粒と粒界の検出成分と半定量値は類似していた。

したがって、介在物の大結晶粒は、製鉄工程の始発原料である酸化チタンを含む砂鉄源から混入した鉄滓、小結晶粒と結晶粒界は、砂鉄、木炭およぶ耐火物等から混入した介在物(鉄滓、付着滓)と推察される。

化学成分（表3）：平均的には、炭素Cは0.19%と低い。他成分(0.23%)は介在物中の金属酸化物と推察される。

以上の結果を総合すると、この資料は、①極低炭素鋼～亜共析鋼(0.15%C)の不均質鋼で、②熱処理(加熱)後に徐冷された金属組織(フェライトとパーライト)が観察された。

資料No.2-2

外観：（図版37・Ｘ線写真：図版38）。総重量は108.2ｇ、長さ69.8㎜×幅31.5㎜×厚さ21.0㎜。短冊

形で全体に茶褐色の水酸化鉄に覆われ、瘤を形成している。重ね合わせ鍛造をした痕跡があり層状をなしている。残存金属は全体にあり、MC反応も強く重量感がある。植物繊維や錆瘤の剥がれた痕も観察される。角は比較的形状を残し、錆化している割に割れが少ない。水酸化鉄の付着が少なく、厚みが均一な部分は黒色で緻密な様相を示している。

顕微鏡組織：マクロ組織（5倍）写真（図版38）：資料の長さ（Ｌ方向）に切断し、ナイタールでエッチングして、写真撮影した。白色は低炭素鋼（α鉄のフェライト）と黒色は高炭素鋼（亜共析鋼、共析鋼、過共析鋼）を示し、写真の上部に亀裂模様の錆進行層が観察される。

写真全体にメタルフロー（流れ模様：全体の厚さ約0.6～0.8㎝、全長約6.3㎝）が観察されるが、これは白色と黒色の薄い板が層状に合計15～16枚重なっている模様を示す。

写真の下端は、タガネ（鏨）等で切断され、塑性変形をしていると推察される。白色のフェライトが軟らかいので伸びている様子である。写真の上端は、錆進行による腐食面が虫食い様子を示していると推察され、反対方向に力が加えられて切断されたとも見える。

ミクロ組織写真（図版38）：写真2-2-①は、マクロ写真の白色領域の拡大写真で、フェライト（Ferrite：α-Fe）組織の極低炭素鋼（軟鉄）が観察される。その結晶粒度は、約25～50μmである。その粒界に微量（約5%）のパーライト組織（α-FeとFe_3Cの層状組織）が観察される。すなわち、写真の視野範囲は、低炭素鋼（軟鉄）と推察される。

写真2-2-②は、微細な縞模様のパーライト組織で、一部に白色のフェライト組織が観察される。したがって、写真の視野範囲は、亜共析鋼（C<0.8%）と推察される。

写真2-2-③は、微細な縞模様のパーライト組織で、写真2-2-②の組織よりも共析鋼（C=0.8%）に近い組成と推察される。写真の視野範囲は、共析鋼（C=0.8%）、と推察される。

写真2-2-④は、針状のセメンタイトと縞状のパーライトが観察される。したがって、写真の視野範囲は、過共析鋼（C>0.8%）、と推察される。

パーライトは炭素を約0.8%含むので、部分的に炭材と接触して、浸炭がやや進んだと見られる。

したがって、顕微鏡組織観察から、本資料は極低炭素の軟鉄と高炭素の過共析鋼の板材が7～8枚（合計15～16枚）を交互に重ね、併せて鍛造加工し、次に高温で熱処理され、冷却され、その後経年により表面は一部錆化が進んでいる鉄材と推察される。

資料No.3　鉄塊系遺物(鋳鉄と鉄滓の混在)、着磁：強、ＭＣ：強

外観：（図版37・切断後の写真：図版40）総重量は1105.0ｇ、長さ142.5㎜×幅82.4㎜×厚さ65.0㎜。重量感のある鉄滓で、全体が水酸化鉄と土砂に覆われている。凹凸が激しく、先端に突き出た錆は割れが入っている。土に覆われた部分は気泡が多く、その下に黒色発泡粗鬆な滓が観察される。錆瘤後の空洞や植物繊維痕も見える。水気の多いところに遺存された資料であろう。切断後の写真には、周辺部に鉄滓、内部に金属鉄が加工を受けない状態で観察される。金属鉄には多数の気孔がある。

X線透過（図版38）：外観写真と同様に中間部に空洞(または割れ)が観察される。

顕微鏡組織：鉄滓(図版40 3-A)、写真の前面に僅かな量の針状イルメナイトと菱形～四角形状に孔のあいたウルボスピネルが観察され、中間面に丸みのある錆化鉄が観察される。写真の背面には、崩れた短冊模様のファイヤライトがほぼ全面に観察される。すなわち、ファイヤライトが主な組織である。したがって、始発原料には砂鉄が使用されたと推察される。

金属鉄（図版40 3-B)、黒い繊維状の片状黒鉛、縞模様のパーライト・多角形の平坦模様のフェライトが高温からの冷却過程で析出している。組織の成分は、亜共晶(2.1%<C<4.3)の鋳鉄と推察。

資料No.4　板状鉄片(鋳鉄片)、着磁：強、ＭＣ：有

外観（図版37）：総重量は102.0ｇ、長さ133.7㎜×幅54.3㎜×厚さ19.9㎜。薄板状の偏平資料片で、1/3のところで折損し2つになっている。片側は薄くなっており、鈍い刃が着いているような感じである。全体に割れが多く、黒色に錆化した部分に特に接着剤でつけた光沢のある接合跡が多く観察できる。網目状に割れが走り、原形を崩している鋳物片であろう。両面合わせて2つの錆瘤の欠損した痕がある。片面中央に木炭片を噛み込んでいる。

顕微鏡組織（図版40）：鉄炭素共晶合金(レーデブライトLedeburite、4.3%C)組織を示している。一部は錆化し、オキシ水酸化鉄(ゲーサイト)が覆っている。

X線透過（図版38）：に示す。網目状に大小の割れが観察される。外観観察と同様である。

以上の結果を総合すると、本資料は、①レーデブライト組織(4.3%C)で、②鋳鉄片と推定される。

資料No.5　含鉄椀形鍛冶滓(炉内滓)、着磁：稍強、ＭＣ：弱

外観（図版37）：総重量は114.4ｇ、長さ55.9㎜×幅51.2㎜×厚さ35.8㎜。全体に茶褐色の水酸化鉄と土に覆われた半球状資料である。底部は丸く盛り上がり、細かな気泡が多い。上部は比較的平坦で凹部に土や木炭片を含む。この部分に弱いMC反応がある。

顕微鏡組織（図版39）：写真の前面に、繭玉状のウスタイトと多角形状に孔のあるウルボスピネルが観察される。写真の背面に、崩れた短冊状のファイヤライトが観察される。写真全体に白く霞がかかった様子であり、X線回折で確認されるが、錆化鉄(ゲーサイト)が存在するものと推察される。すなわち、金属鉄が生成する段階まで反応は進んでいる鉄滓と推察される。

化学成分（表2）：全鉄41% に対して、酸化第一鉄は36%、酸化第二鉄は18%で、Fe_2O_3とFeOの比率は、33：67で、シリカ15%で、平衡状態図のマグネタイトの領域に近いと見られる。しかし、化合水が2%と高く、金属鉄は一部錆化し、オキシ水酸化鉄(ゲーサイト)が存在していると推察され、製鉄工程での鉄滓中の酸素比率の推定は難しい。

滓中成分の指標となる造滓成分は26% である。砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが16%で、バナジウムを0.25%含有する。鉱石に含有される成分の一つである銅は0.002%と少ない。

本資料の製造工程の位置づけとして（図1～2)、図1では、砂鉄系製錬滓グループの領域にある。図2では、砂鉄系製錬滓のグループに属し、高酸化チタン含有の砂鉄を始発原料とした可能性が高い。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、化学成分では全鉄量が低く酸化チタンが高い鉄滓で、製鉄工程初期の製錬滓成分を示し、顕微鏡組織ではウスタイトやゲーサイトが観察され、製鉄工程の中期･後期の組織を示している。すなわち、本資料は、高酸化チタン含有の砂鉄を始発原料とした可能性が高く、金属鉄が生成する段階まで反応が進行していると推察される。しかも、炉内に放置された状態で金属鉄と鉄滓が混在し、その後金属鉄の一部は錆化していると推察される。

資料No.6　含鉄椀形鍛冶滓(精錬鍛冶滓)、着磁：稍弱、ＭＣ：無

外観（図版37）：総重量は343.0ｇ、長さ110.3㎜×幅78.8㎜×厚さ49.6㎜。全体に茶褐色の水酸化鉄と土に覆われ、細かな気泡も多い。粟疱槍のようなぶつぶつの突起がある。一部木炭片や植物繊維痕も確認できる。下部は空孔が多い資料で、水酸化鉄が著しく生成されている。欠けている部分からは、

黒色に濡れた感じの部分が見える。正常な内部から試料を採取した。

顕微鏡組織（図版39）：写真の前面に、繭玉状のウスタイト、写真の中間面に多角形状のマグネタイトが観察される。写真の背面に、崩れた短冊状のファイヤライトが観察される。したがって、金属鉄が生成する段階まで反応は進んでいた鉄滓と推察される。

Ｘ線回折（表4・回折チャート208頁）マグネタイト、ファイヤライト、ウルボスピネル、ウスタイトとオキシ水酸化鉄が同定された。顕微鏡組織とほぼ一致している。

化学成分（表2）：全鉄49% に対して、酸化第一鉄は54%、酸化第二鉄は10%で、Fe_2O_3とFeOの比率は、16：84で、シリカ19%で、平衡状態図のウスタイトの領域に近いと見られる。しかし、化合水が2%と高く、金属鉄の一部は錆化し、オキシ水酸化鉄(ゲーサイト)が存在していると推察され、製鉄工程での鉄滓中の酸素比率の推定は難しい。

滓中成分の指標となる造滓成分は30% である。砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが3.8%で、バナジウムを0.17%含有する。鉱石に含有される成分の一つである銅は0.001%と少ない。

したがって、酸化チタン含有の砂鉄を始発原料とした可能性が高い。本資料の製造工程の位置づけとして（図1～3)、図1では、砂鉄系製錬滓グループと精錬鍛冶滓の両領域にある。図2では、砂鉄系鍛冶滓と鉱石系製錬滓グループに属している。図3では、砂鉄系精錬鍛冶滓の領域にある。

化学成分分析、顕微鏡観察とX線回折の結果を考慮すると、化学成分では製鉄工程の中期の精錬鍛冶滓を示し、顕微鏡組織では、製鉄工程の中期･後期のウスタイトやゲーサイトを示している。すなわち、本資料は、酸化チタン含有の砂鉄を始発原料とした可能性が高く、炉内での反応は金属鉄が生成する段階まで反応が進行し、その後一部は錆化している資料と推察される。

以上の結果を総合すると、この資料は、①精錬鍛冶滓(含鉄椀形鍛冶滓)で、②鉄源には酸化チタン含有の砂鉄を使用した可能性が高い、と推定される。

資料No.7　含鉄鉄滓(精錬鍛冶滓)、着磁：中、ＭＣ：有

外観（図版37・切断後の写真：図版40）：総重量は65.2ｇ、長さ51.2㎜×幅36.8㎜×厚さ26.6㎜。全体に茶褐色の水酸化鉄と土に厚く覆われ、硬く緻密な土が盛り上がり凹凸をなしている。錆化鉄塊状である。土瘤の間の黒く錆化した部分に弱くMC反応がある。気泡が多く、木炭片も確認できる。

顕微鏡組織（図版39）：写真の前面に、繭玉状のウスタイトと写真の背面に、崩れた短冊状のファイヤライトが観察される。金属鉄が生成し、錆化したオキシ水酸化鉄が観察される。

化学成分（表2）：全鉄56% に対して、Fe_2O_3とFeOの比率は61：39、シリカ11%で、平衡状態図のマグネタイトの領域に近いと見られる。化合水が3.5%と高く、金属鉄は一部錆化し、オキシ水酸化鉄(ゲーサイト)が存在していると推察され、製鉄工程の鉄滓中酸素比率の推定は難しい。

滓中成分の指標となる造滓成分は15 % である。砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが1.6%で、バナジウムを0.05%含有する。鉱石に含有される成分の一つである銅は0.008%と少ない。

本資料の製造工程の位置づけとして（図1～3)、図1では、精錬鍛冶滓の領域にある。図2では、砂鉄系鍛冶滓と鉱石系製錬滓グループに属している。図3では、砂鉄系精錬鍛冶滓の領域にある。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、精錬鍛冶滓の成分(製鉄工程の後期)を示し、顕微鏡組織では、ウスタイト(製鉄工程の中期･後期)を示している。すなわち、本資料は、炉内での反応は金属鉄が生成する段階まで反応が進行し、その後一部は錆化している資料と推察される。

以上の結果を総合すると、この資料は、①精錬鍛冶滓(含鉄鍛冶滓)で、②鉄源には酸化チタン含有の砂鉄を使用した可能性が高い、と推定される。

資料No.8　含鉄椀形鍛冶滓(精錬鍛冶滓)、着磁：稍弱、ＭＣ：有

外観（図版37）：総重量は252.5ｇ、長さ91.0㎜×幅72.9㎜×厚さ34.5㎜。黒色発泡粗鬆な滓で大きな空孔がある。底部は浅い椀形を呈し、約3㎜厚の黒色の炉床材が付着している。破面や表皮が欠落した部分からは黒色発泡した様相が観察される。側面から上面にかけての凹凸部に木炭繊維根が見える。上面の中央部分にMC反応がある。炉床材は外して試料を採取した。

顕微鏡組織（図版39）：写真の前面に、繭玉状のウスタイトと写真の背面に、崩れた短冊状のファイヤライトが観察される。僅かに多角形状に孔のあるウルボスピネルが観察される。

Ｘ線回折（表4・回折チャート208頁）：ウスタイト、マグネタイト、ファイヤライト、ウルボスピネルとオキシ水酸化鉄が同定された。顕微鏡組織とほぼ一致している。

化学成分（表2）：全鉄51% に対して、Fe2O3とFeOの比率20：80で、シリカ17%で、平衡状態図のウスタイトの領域に近いと見られる。化合水が1.1%で、金属鉄は一部錆化し、オキシ水酸化鉄(ゲーサイト)が存在していると推察される。

滓中成分の指標となる造滓成分は27 % である。砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが3%で、バナジウムを0.1%含有する。鉱石に含有される成分の一つである銅は0.002%と少ない。

本資料の製造工程の位置づけとして（図1～3)、図1では、精錬鍛冶滓と製錬滓の両領域にある。図2では、砂鉄系鍛冶滓と鉱石系製錬滓グループに属す。図3では、砂鉄系精錬鍛冶滓の領域にある。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、精錬鍛冶滓の成分(製鉄工程の後期)を示し、顕微鏡組織では、ウスタイト(製鉄工程の中期･後期)を示している。すなわち、本資料は、炉内での反応は金属鉄が生成する段階まで進行し、その後金属鉄の一部は錆化していると推察される。

以上の結果を総合すると、この資料は、①精錬鍛冶滓(含鉄椀形鍛冶滓)で、②鉄源には酸化チタン含有の砂鉄を使用した可能性が高い、と推定される。

資料No.9　含鉄椀形滓(精錬鍛冶滓)、着磁：弱、ＭＣ：無

外観（図版37）：総重量は162.0ｇ、長さ75.0㎜×幅59.2㎜×厚さ31.5㎜。1/2片になったような形状をしているが、割欠面はない。低部はやや平坦な感じの浅い椀形で、半分から側面にかけて黒色発泡な滓の姿を見せている。橙色の水酸化鉄に覆われた部分には木炭繊維痕がある。

Ｘ線回折（表4・回折チャート208頁）：マグネタイト、ファイヤライト、ウルボスピネル、ウスタイトとオキシ水酸化鉄(ゲーサイト)が同定された。

顕微鏡組織（図版39）：写真の前面に、繭玉状・樹枝状のウスタイトと多角形状で孔のあるウルボスピネルが観察される。写真の背面に、崩れた短冊状のファイヤライトが観察される。したがって、金属鉄が生成する段階まで反応は進んでいる鉄滓と推察される。

化学成分（表2）：全鉄43% に対して、Fe_2O_3とFeOの比率15：85で、シリカ22%で、平衡状態図のウスタイトとファイヤライトの境界領域に近いと見られる。化合水が0.9%で、金属鉄の一部は錆化し、オキシ水酸化鉄(ゲーサイト)が存在していると推察される。

滓中成分の指標となる造滓成分は37% である。砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが4.5%で、バナジウムを0.1%含有する。鉱石に含有される成分の一つである銅は0.003%と少ない。

本資料の製造工程の位置づけとして（図1～3)、図1では、砂鉄系製錬滓の領域にある。図2では、砂鉄系鍛冶滓と鉱石系製錬滓グループに属している。図3では、砂鉄系精錬鍛冶滓の領域にある。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、化学成分は全鉄量が低く酸化チタンがやや高い鉄滓で、製鉄工程の初期～中期を示し、顕微鏡組織では、ウルボスピネル・ウスタイト・ゲーサイトが観察され、製鉄工程の中期･後期を示している。すなわち、本資料は、炉内反応では金属鉄が生成する段階まで進行し、その後金属鉄の一部は錆化していると推察される。したがって、本資料の調査結果では、製錬滓と精錬鍛冶滓の判別が難しいが、顕微鏡組織を重視することにした。

以上の結果を総合すると、この資料は、①精錬鍛冶滓(含鉄椀形滓)で、②鉄源には酸化チタン含有の砂鉄を使用した可能性が高い、と推定される。

資料No.10　含鉄椀形鍛冶滓(精錬鍛冶滓)、着磁：稍弱、ＭＣ：有

外観（図版38）：総重量は256.4ｇ、長さ84.0㎜×幅50.5㎜×厚さ54.4㎜。上面は中央に表面の滑らかな部分があり、破面は黒色発泡の様相を示す。黒色に錆化した部分にMC反応がある。この付近には小さな割れも見られ、水酸化鉄のやや大きな瘤が出来ている。2種類の滓が乗っている。下部から試料を採取した。底部は凹凸が激しく、ごつごつした感じで発泡している。割欠面は2つある。

顕微鏡組織（図版39）：写真の前面に、繭玉状のウスタイトと写真の背面に、崩れた短冊状のファイヤライトが観察される。僅かに金属鉄が観察される。

化学成分（表２）：全鉄53% に対して、Fe_2O_3とFeOの比率21：79で、シリカ15%で、平衡状態図のウスタイトの領域に近いと見られる。化合水が0.9%で、金属鉄は一部錆化し、オキシ水酸化鉄(ゲーサイト)が存在していると推察される。

滓中成分の指標となる造滓成分は25% である。砂鉄原料に含まれていたと考えられる酸化チタンが3%で、バナジウムを0.1%含有する。鉱石に含有される成分の一つである銅は0.002%と少ない。

本資料の製造工程の位置づけとして、図1では、精錬鍛冶滓と製錬滓の両領域にある。図2では、砂鉄系鍛冶滓と鉱石系製錬滓グループに属している。図3では、砂鉄系精錬鍛冶滓の領域にある。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、化学成分では精錬鍛冶滓(製鉄工程の後期)を示し、顕微鏡組織ではウスタイト(製鉄工程の中期･後期)を示している。すなわち、本資料は、炉内での反応は金属鉄が生成する段階まで進行し、その後金属鉄の一部は錆化していると推察される。

資料No.11　含鉄椀形鍛冶滓(過共析鋼と鉄滓の混在)、着磁：稍強、ＭＣ：有

外観(図版38)：総重量は30.0ｇ、長さ40.0㎜×幅34.0㎜×厚さ24.7㎜。土瘤や砂礫が突き出て三角形をした資料。錆化瘤が付き、錆の先端に割れが入っている。含鉄滓か鉄塊片であろう。黒色部は緻密で、MC反応がある。凹部に砂礫が詰まっている。

顕微鏡組織（図版39）：写真№.11-Aは、鉄滓の顕微鏡組織を示す。多角形状で孔のあるウルボスピネルやウスタイトが観察され、写真全体に霞がかかった様子であり、X線回折で確認できるが、錆化鉄(ゲーサイト)が存在するものと推察される。すなわち、反応は金属鉄が生成する段階まで進行して、その後に錆化した組織が観察される。

写真No.11-Bは、金属鉄の顕微鏡組織を示す。白色針状のセメンタイト(面積率は5%程度)と縞模様のパーライト(面積率は95%程度)が観察される。したがって、組織は、過共析鋼(0.8%<C<2.1%で、約1%C)と推察される。

資料No.12　含鉄鉄滓(炉内滓)、着磁：中、ＭＣ：有

外観（図版38）：切断後の外観写真を図版40に示す。総重量は106.1ｇ、長さ60.2㎜×幅45.5㎜×厚さ34.6㎜。全体が水酸化鉄と土に覆われ、片側は特に厚く、水酸化鉄瘤で黄色になっている。反対側は大きく割れが入り、割目は緻密で黒色に錆化している。この部分にＭＣ反応がある。錆化進行中の鉄塊が入っているのであろう。上面は中央で盛り上がり、底面は比較的平坦である。

X線透過（図版38）：外観観察と同様で、金属鉄と鉄滓の区別は観察されない。

顕微鏡組織（図版39）：写真の前面に、多角形状のマグネタイトとウルボスピネルが観察され、僅かに金属鉄(約20μm微粒子が鉄滓中に分散している)が観察される。

化学成分（表2）：全鉄44% に対して、Fe_2O_3とFeOの比率32：68で、シリカ9%で、平衡状態図のウスタイトとマグネタイトの境界領域に近いと見られる。しかし、化合水が1.6%で、金属鉄は一部錆化し、オキシ水酸化鉄(ゲーサイト)が存在していると推察される。

滓中成分の指標となる造滓成分は20% で、砂鉄原料に含まれていたと思われる酸化チタンが18.5%と高く、バナジウムを0.002%含有する。鉱石に含有される成分の一つである銅は0.002%と少ない。

本資料の製造工程の位置づけとして、図1～3に示した。図1では、製錬滓の領域にある。図2では、砂鉄系鍛冶滓と鉱石系製錬滓グループに属している。図3には示していないが、製錬滓に近い酸化チタン含有量で、精錬鍛冶滓の範囲からも外れる。

化学成分分析と顕微鏡観察の結果を考慮すると、化学成分は全鉄量が低く酸化チタンがやや高い鉄滓で、製鉄工程の初期～中期を示し、顕微鏡組織では、ウルボスピネル・ゲーサイトが観察され、製鉄工程の中期･後期を示している。すなわち、本資料は、炉内反応では金属鉄が生成する段階まで進行し、その後金属鉄の一部は錆化していると推察される。

４　まとめ

⑴資料No.1、No.5とNo.12は、化学成分では全鉄(T.Fe)が約40%と低く、酸化チタン(TiO_2)が約20%と高い鉄滓で、製鉄工程の初期・中期を示す。顕微鏡組織ではウルボスピネルが主な組織で、製鉄工程の中期･後期を示す。本資料では、製錬滓と精錬鍛冶滓の判別が難しいが、出土状況と顕微鏡組織を重視すれば、炉内滓(炉内に放置された状態で金属鉄と鉄滓が混在する)と推定される。

⑵資料No.2は、短冊形鉄製品で、金属組織は、フェライト(極低炭素鋼)とパーライト(亜共析鋼)からなる不均質組織の鋼(炭素含有量0.15%C)である。

⑷資料No.4は、金属組織はレーデブライト(炭素含有量4.3%C)で、板状鋳鉄片と推定される。

⑸資料No.2-2は、短冊形鉄製品で、下端は鏨等で切断したと見られるメタル変形模様が観察され、上端および周辺は腐食が進行している。薄い鉄板を交互に合計15～16枚を重ね合わせた鉄材（平均厚は約0.5㎜）と見られる。金属組織は、フェライト、パーライト、セメンタイトが観察され、極低炭素鋼（軟鉄0.1%Ｃ）から亜共析鋼（<0.8%C)、共析鋼（0.8%C）と過共析鋼（>0.8%C）が層状に観察された。折り返し鍛錬加工は1回か２回であったため、層状組織が維持されている、と推察される。

⑹資料No.3とNo.11は、鉄塊系遺物で、金属鉄と鉄滓が混在している。資料No.3の金属組織は亜共晶(2.1%<C<4.3)鋳鉄で、鉄滓は高酸化チタンのイルメナイト、ウルボスピネル組織が観察された。資料No.11の金属組織は過共析鋼(1%C)で、鉄滓はウルボスピネルと錆化鉄(ゲーサイト)である。

⑺資料No.6～No.10は、含鉄椀形鍛冶滓で、化学成分および顕微鏡組織の結果から酸化チタン含有の

砂鉄を始発原料とした可能性が高く、炉内での反応は金属鉄が生成する段階まで進行し、製鉄工程の中期･後期で発生した鉄滓と推定される。

5　参考

(1)鉄滓の顕微鏡組織について

鉄滓を構成する化合物結晶には、一般的に表のような鉱物組織がある。酸化鉄(Fe_2O_3、Fe_3O_4、FeO)、二酸化ケイ素(シリカ: SiO_2)、アルミナ(Al_2O_3)および酸化チタン(TiO_2)を組み合せた化合物(固溶体)が多く、これらは鉱物結晶は含有量にも依存するが、X線回折により検出され確認できる。鉄滓中の低融点化合物がガラス相(非晶質)を形成することがあり、X線回折では検出されない。

鉱物組織名(和)	鉱物名(英)	化学式	偏光顕微鏡観察状況
ヘマタイト	Hematite	α-Fe_2O_3	赤褐色～赤紫色
マーゲマイト	Maghemite	γ-Fe_2O_3	赤紫色～黒紫色
マグネタイト	Magnetite	Fe_3O_4	白青色、四角または多角盤状
ウスタイト	Wustite	FeO	灰白色、繭玉状または樹枝状
ファイヤライト	Fayalite	2FeO･SiO_2	薄い青灰色、短冊状の長い結晶
ウルボスピネル	Ulvospinel	2FeO･TiO_2	白色、四角～角形板状結晶
イルメナイト	Ilmenite	FeO･TiO_2	白色、針状･棒状の長い結晶
プシュードブルッカイト	Pseudobrookite	FeO･2TiO_2	白色、針状の結晶
ハーシナイト	Hercynite	FeO･Al_2O_3	ウスタイト中に析出、ごま粒状。
ゲーサイト	Goethite	α-FeOOH	白～黄色、リング状が多い。

表A1　　鉄滓の顕微鏡鉱物組織とその観察状況

(2)鉄さびの経年過程

(鉄さび層内の電気科学的酸化還元サイクル)

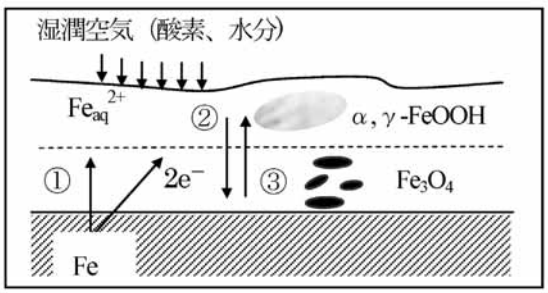
γ-FeOOH還元反応（$_2$FeOOH=Fe_2O_3・H_2O）

①$Fe \rightarrow Fe^{2+}2e^-$

②Fe^{2+}8γ-FeOOH$+2e^- \rightarrow 3Fe_3O_4+4H_2O$

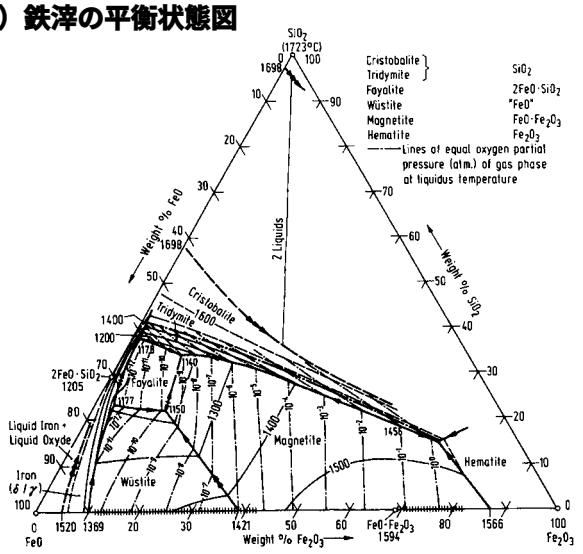
Fe_3O_4再酸化反応

③$3Fe_3O_4+3/4O_2+9/2H_2O \rightarrow 9$(α, β)FeOOH



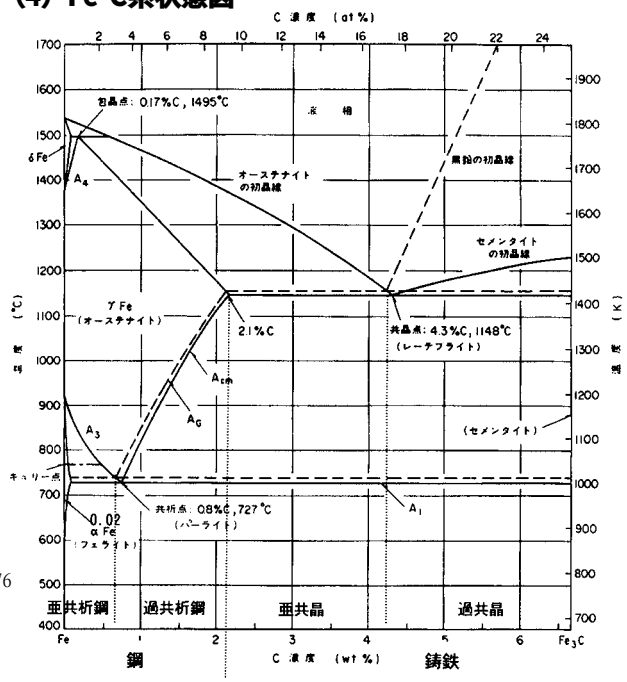
水と接触した金属鉄は水酸化鉄(Fe(OH)$_2$)またはよりアルカリ性水溶液ではオキシ水酸化鉄FeOOH(化学式Fe_2O_3･H_2O)(α-FeOOH、β-FeOOH、γ-FeOOH)として(③式)、沈殿する可能性がある。鉄水酸化物の水への溶解度、空気中酸素との反応によって、それらの安定性が異なる。安定なゲーサイト(Goethite:α-FeOOH)が遺物中に残存し、観察されることが多く、化合水を数%含む。オキシ水酸化鉄(γ-FeOOH：レピドクロサイト: lepidocrocite)が還元される(①②式)とマグネタイト(magnetite:Fe_3O_4)になる。X線回折では、ゲーサイトとマグネタイトが共存して検出(回折)される。また、ゲーサイト(α-FeOOH)は約200℃で脱水して、ヘマタイト(hematite:赤鉄鉱α-Fe_2O_3)になる。上の図・式に、鉄さびの経年過程を示す。

(3) 鉄滓の平衡状態図



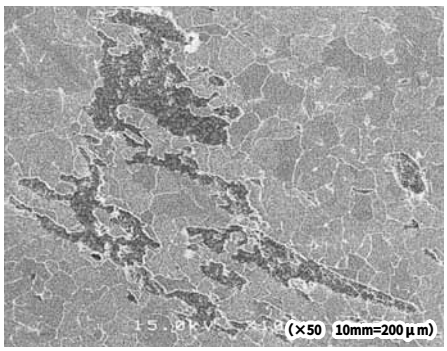
FeO-Fe_2O_3-SiO_2系状態図（By Osborn and Muan）:Slag Atlas［ドイツ鉄鋼協会］(1981)［Verlag Stahleisen］Dusseldor, Fig. 106, p.76

(4) Fe-C系状態図

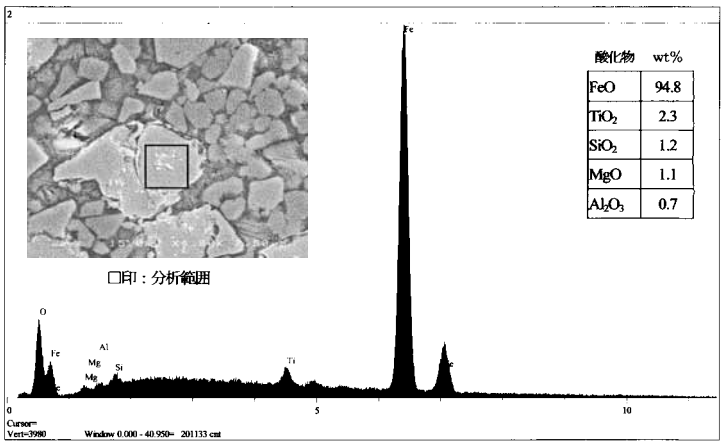


6 図表・写真

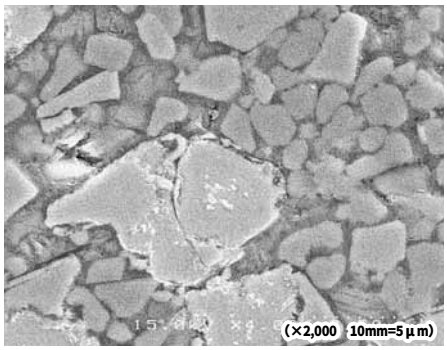
・FE-SEM写真



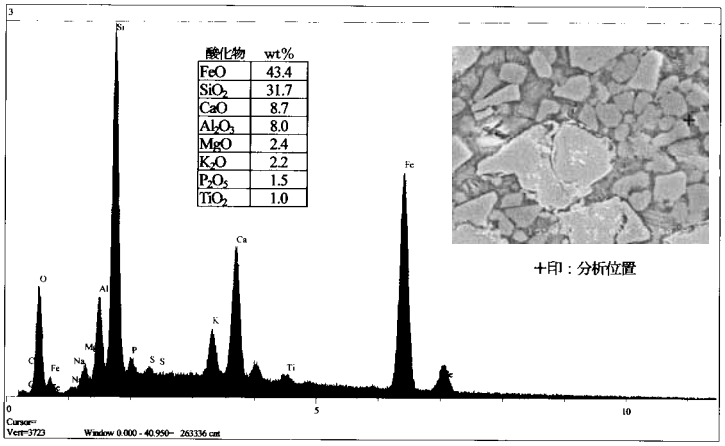
資料No.2 鉄中介在物の分布状態



資料No.2 介在物の大結晶のED×分析結果（分析範囲と半定量値）



資料No.2 介在物の拡大写真



資料No.2 介在物の小結晶・粒界のED×分析結果（分析位置と半定量値）

資料No.	出土区域・遺構名記号	資料種別	重量g	着磁力	MC反応	外観学的	化学成分	組織学的	X線回折	X線透過	SEM-EDX
1	セ345　002　295	含鉄椀形鍛冶滓	19.6	稍弱	無	○	○	○			
2	セ345　002　261	短冊状鉄製品	104.5	強	強	○	○	○		○	○
3	セ345　011　52	鉄塊系遺物	1105.0	強	強	○	○	○		○	
4	セ345　012　37	板状鉄片	102.0	強	有	○		○		○	
5	セ345　031-B　19	含鉄椀形鍛冶滓	114.4	稍強	弱	○	○	○			
6	セ345　019　25	含鉄椀形鍛冶滓	343.0	稍弱	無	○	○	○	○		
7	セ345　019　23	含鉄鉄滓	65.2	中	有	○	○	○			
8	セ332　216(022A ﾙﾘ)　1	含鉄椀形鍛冶滓	252.5	稍弱	有	○	○	○	○		
9	セ345　022-D ｶｸ　11	含鉄椀形鍛冶滓	162.0	弱	無	○	○	○	○		
10	セ345　022-D ｶｸ　一括	含鉄椀形鍛冶滓	256.4	稍弱	有	○	○	○			
11	セ345　023　6-42	含鉄椀形鍛冶滓	30.0	稍強	有	○		○			
12	セ345　033　2	含鉄鉄滓	106.1	中	有	○	○	○		○	

註(1) 資料の、記号・資料種別は当センター記載資料による。
(2) ○は、観察・測定調査の実施項目を示す。
(3) MC反応は、メタルチェッカー（金属探知機）による残存金属の有無を示す。

表1　調査資料と調査項目

資料No.	T. Fe	M. Fe	FeO	Fe_2O_3	SiO_2	Al_2O_3	CaO	MgO	比率(%)	
									Fe_2O_3	FeO
1	39.8	0.39	26.9	26.50	9.11	4.21	1.80	4.81	49.6	50.4
5	40.8	0.55	35.9	17.8	15.0	3.76	1.01	5.89	33.1	66.9
6	49.4	0.19	54.2	10.1	19.3	5.49	2.18	1.57	15.7	84.3
7	56.0	0.20	29.9	46.6	10.7	2.35	0.96	0.74	60.9	39.1
8	51.4	0.17	53.5	13.8	17.0	4.51	2.91	1.27	20.5	79.5
9	42.8	0.33	47.2	8.2	22.2	5.95	4.72	2.09	14.8	85.2
10	53.0	0.83	54.1	14.5	15.2	3.78	3.14	2.02	21.1	78.9
12	44.6	5.17	35.6	16.8	8.88	3.95	3.25	3.55	32.1	67.9

資料No.	Na_2O	K_2O	TiO_2	MnO	P_2O_5	C.W.	Co	C	V	Cu	造滓成分
1	0.10	0.29	19.7	0.59	0.248	3.44	0.031	0.44	0.46	0.003	20.3
5	0.02	0.26	16.0	0.72	0.187	2.05	0.024	0.09	0.25	0.002	25.9
6	0.22	0.73	3.84	0.15	0.335	0.86	0.010	0.03	0.17	0.001	29.5
7	0.04	0.34	1.57	0.09	0.233	3.51	0.015	0.71	0.05	0.008	15.1
8	0.26	0.89	2.87	0.12	0.237	1.15	0.012	0.02	0.10	0.002	26.8
9	0.42	1.46	4.56	0.19	0.353	0.87	0.020	0.03	0.12	0.003	36.8
10	0.22	0.78	3.11	0.15	0.288	0.89	0.016	0.08	0.12	0.002	25.1
12	0.10	0.49	18.5	0.59	0.171	1.62	0.034	0.07	0.23	0.002	20.2

C.W.=化合水、造滓成分= SiO_2+ Al_2O_3+ CaO+ MgO+ Na_2O+ K_2O

表2　出土鉄滓の化学成分分析結果

資料No.	C	Si	Mn	P	S	Cu	Ni	Cr	Al	V	Ti
2	0.19	0.069	0.004	0.036	0.002	0.020	0.023	0.001	0.029	0.006	0.040
3	2.84	0.004	0.001	0.076	0.020	0.016	0.021	0.001	0.001	0.005	0.001

表3　出土鉄塊系遺物の化学成分分析結果

資料No.	資料の種別	X線回折鉱物（顕微鏡組織）	製造工程の分類	出土遺構記号
1	含鉄椀形鍛冶滓	(U, W, Go)	炉内滓(20%TiO_2)	セ345　002　295
2	短冊状鉄製品	(α Fe, Fe-p)	極低炭素鋼～亜共析鋼の不均質鋼（0.15%C）	セ345　002　261
3	鉄塊系遺物	(F, U, I) (Fe-p, Fe-gr, α Fe)	鉄滓（高酸化チタン含有）と炉内鉄(亜共晶2.8%C)	セ345　011　52
4	板状鉄片	(Fe_{γ})	錬鉄（共晶4.3%C）	セ345　012　37
5	含鉄椀形鍛冶滓	(W, F, U)	炉内滓(16%TiO_2)	セ345　031-B　19
6	含鉄椀形鍛冶滓	M, F, U, W, Go	精錬鍛冶滓	セ345　019　25
7	含鉄鉄滓	(W, F)	精錬鍛冶滓	セ345　019　23
8	含鉄椀形鍛冶滓	W, M, F, U, Go	精錬鍛冶滓	セ332　216(022A ﾙﾘ)1
9	含鉄椀形鍛冶滓	M, F, U, W, Go	精錬鍛冶滓	セ345 022-D ｶｸ　11
10	含鉄椀形鍛冶滓	(W, F)	精錬鍛冶滓	セ345　022-D ｶｸ　一括
11	含鉄椀形鍛冶滓	(Go, U, M) (Fe-p、Fe-c)	鉄滓含錆化鉄 鉄塊系（過共析鋼 1%C）	セ345　023　6-42
12	含鉄鉄滓	(U, M, α Fe)	炉内滓(18%TiO_2)	セ345　033　2

組織記号：F（ファイヤライト）、W（ウスタイト）、M（マグネタイト）、U（ウルボスピネル）、I（イルメナイト）、Go（ゲーサイト）、α Fe（フェライト）、Fe-c（セメンタイト）、Fe-p（パーライト）、Fe_{γ}（レーデブライト）、Fe-gr（片状黒鉛）

表4　鉄滓資料のX線回折鉱物・顕微鏡組織と製造工程の分類

・鉄滓の製鉄行程上の分類

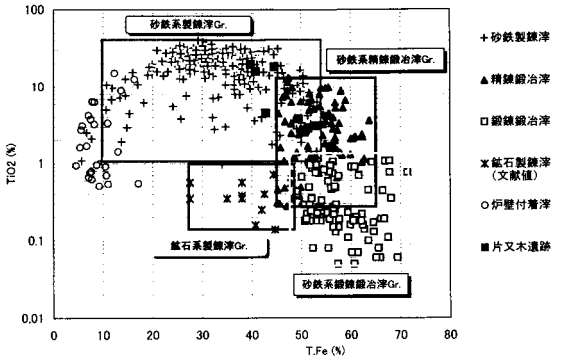


図1　出土鉄滓類の全鉄量（T.Fe）と酸化チタン（TiO2）量の分布図

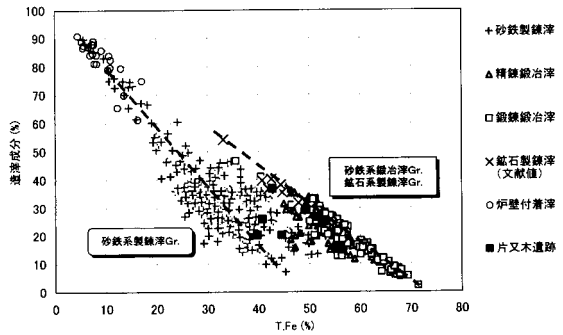


図2　製錬滓類と鍛冶滓の分類

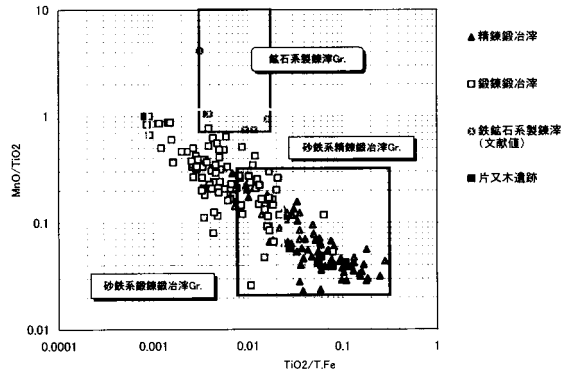


図3　砂鉄系鍛冶滓と鉱石系製錬滓の類

X線回折チャート
(財)市原市文化財センター　御中

整理番号：02-G-007865
2003年 1月16日
川鉄テクノリサーチ株式会社
分析・評価事業部
千葉事務所
所長　福山　文二郎

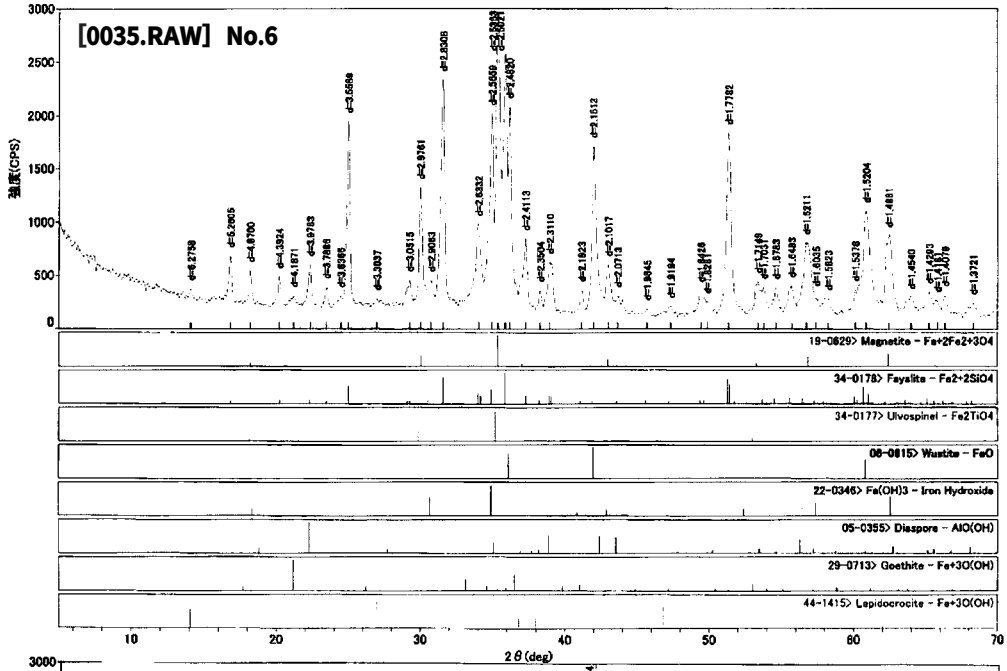
試験報告書

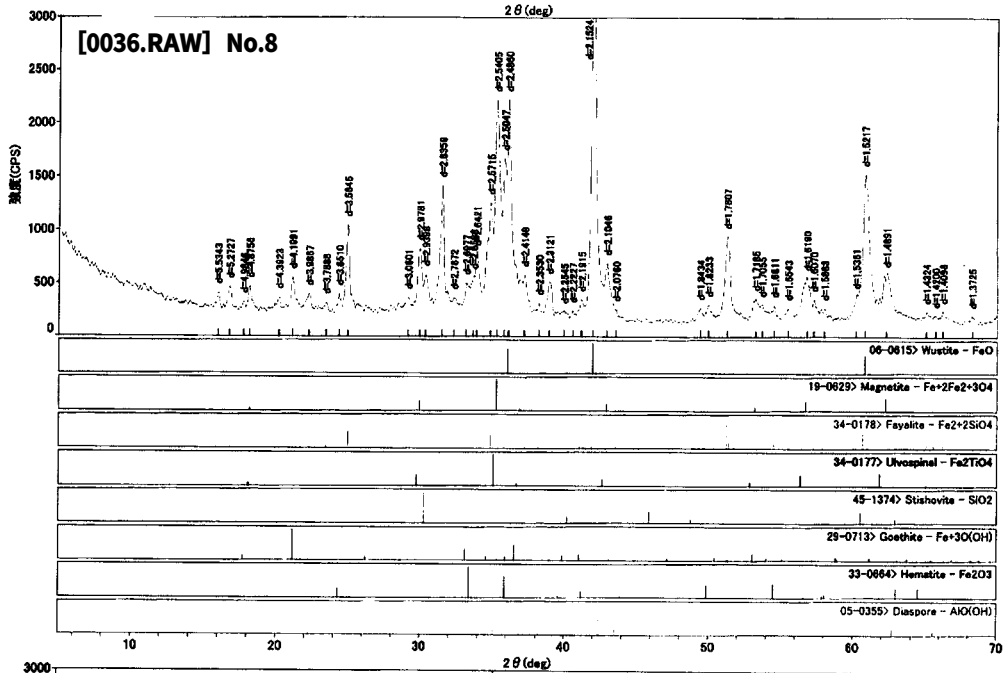
〒260－0835
千葉市中央区川崎町1番地
TEL　043－262－2188
FAX　043-262-2199
担当　松崎　香緒

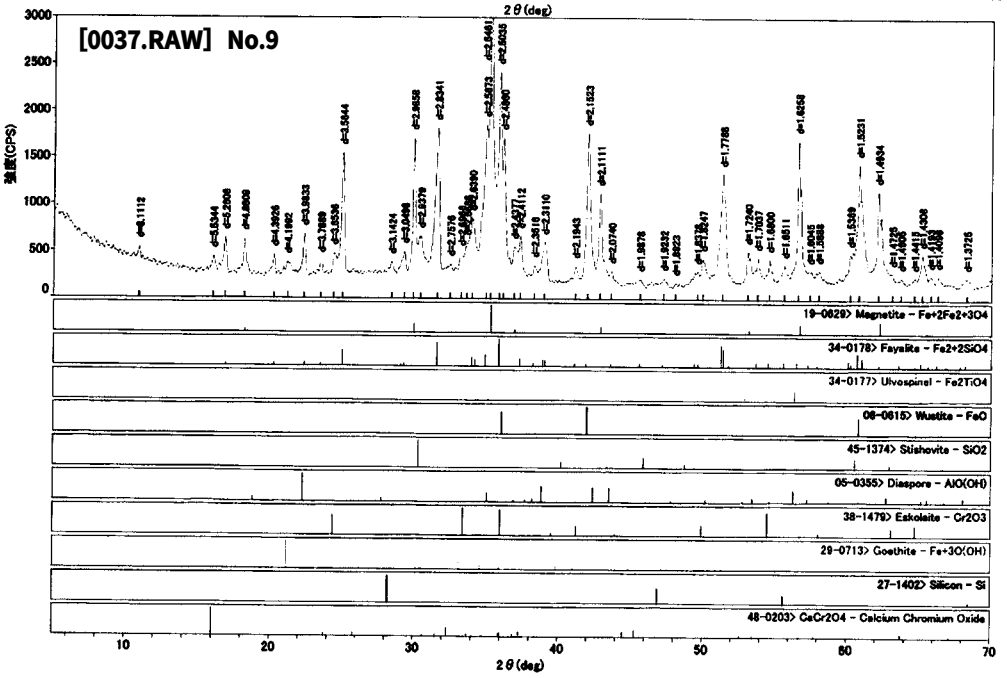
1 件名　X線回折による鉄滓の定性分析
2 試料記号　No.6・No.8・No.9
3 測定装置　理学電機株式会社製ロータフレックス(RU-300)
4 測定条件

①使用X線	CU-Kα(波長＝1.54178Å)
②Kβ線の除去	グラファイト単結晶モノクロメーター
③管電圧・管電流	55KV・250mA
④スキャニング・スピード	4.0°/min.
⑤サンプリング・インターバル	0.020°
⑥D.S.スリット	1°
⑦R.S.スリット	0.15mm
⑧S.S.スリット	1°
⑨検出器	シンチレーション・カウンター

5 測定結果　同定された物質はチャートに記入しましたのでご参照下さい。


[0035.RAW] No.6
強度(CPS)
19-0629> Magnetite - Fe+2Fe2+3O4
34-0178> Fayalite - Fe2+2SiO4
34-0177> Ulvospinel - Fe2TiO4
06-0615> Wustite - FeO
22-0346> Fe(OH)3 - Iron Hydroxide
05-0355> Diaspore - AlO(OH)
29-0713> Goethite - Fe+3O(OH)
44-1415> Lepidocrocite - Fe+3O(OH)
2θ (deg)

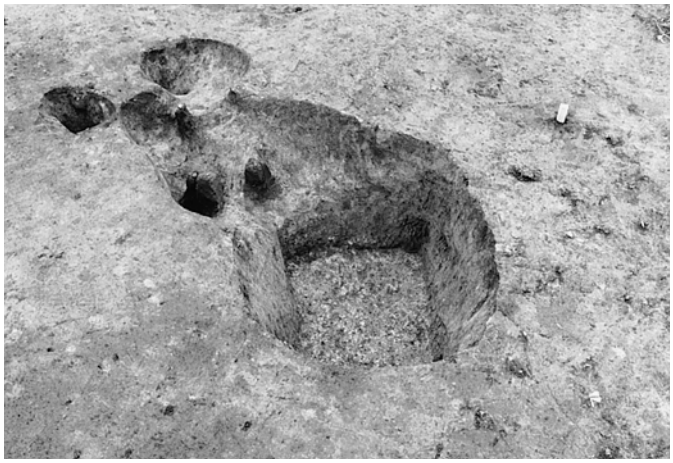

[0036.RAW] No.8
強度(CPS)
06-0615> Wustite - FeO
19-0629> Magnetite - Fe+2Fe2+3O4
34-0178> Fayalite - Fe2+2SiO4
34-0177> Ulvospinel - Fe2TiO4
45-1374> Stishovite - SiO2
29-0713> Goethite - Fe+3O(OH)
33-0664> Hematite - Fe2O3
05-0355> Diaspore - AlO(OH)
2θ (deg)


[0037.RAW] No.9
強度(CPS)
19-0629> Magnetite - Fe+2Fe2+3O4
34-0178> Fayalite - Fe2+2SiO4
34-0177> Ulvospinel - Fe2TiO4
06-0615> Wustite - FeO
45-1374> Stishovite - SiO2
05-0355> Diaspore - AlO(OH)
38-1479> Eskolaite - Cr2O3
29-0713> Goethite - Fe+3O(OH)
27-1402> Silicon - Si
48-0203> CaCr2O4 - Calcium Chromium Oxide
2θ (deg)



C区中世遺構群検出状況

図版2



1号遺構、完掘状況　東から



2号遺構、完掘状況　東から



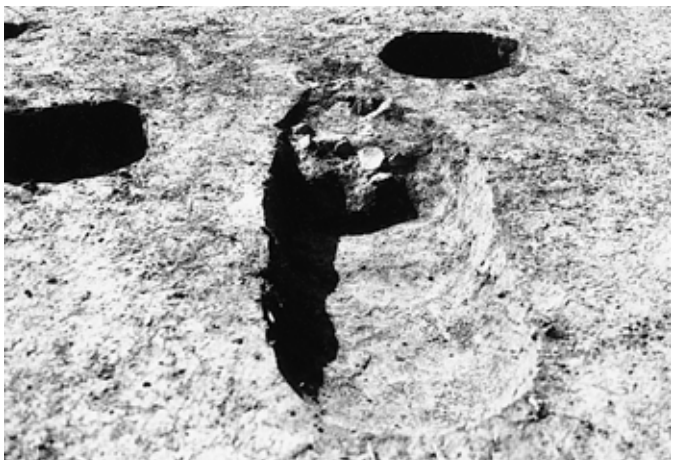
4号遺構、完掘状況　東から



5号遺構、完掘状況　南西から



6号遺構、完掘状況　北東から



7号遺構、遺物出土状況



7号遺構、完掘状況　東から



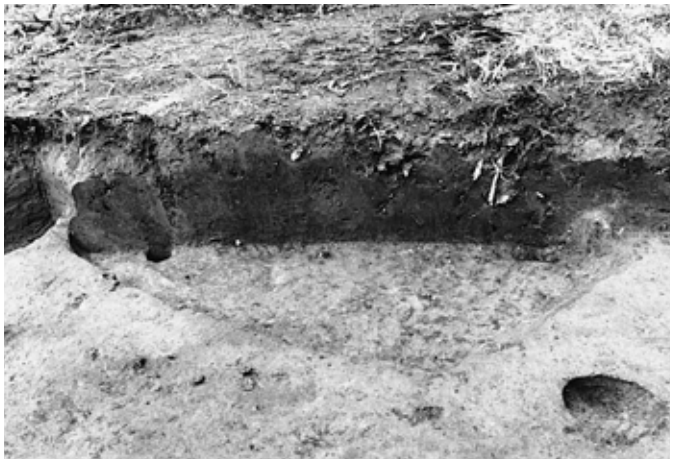
9号遺構、完掘状況　東から



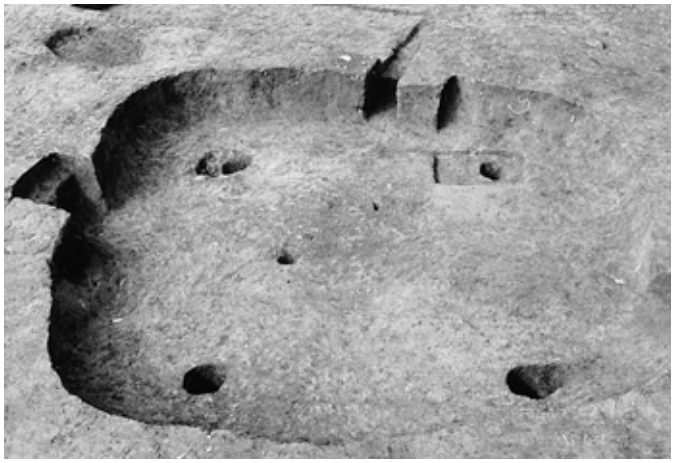
11号遺構セクションベルト　北西から



11号遺構ピット５貝層　南西から



12号遺構覆土　北東から



13号遺構、完掘状況　南東から



13号遺構、遺物出土状況　南から



13号遺構、遺物出土状況

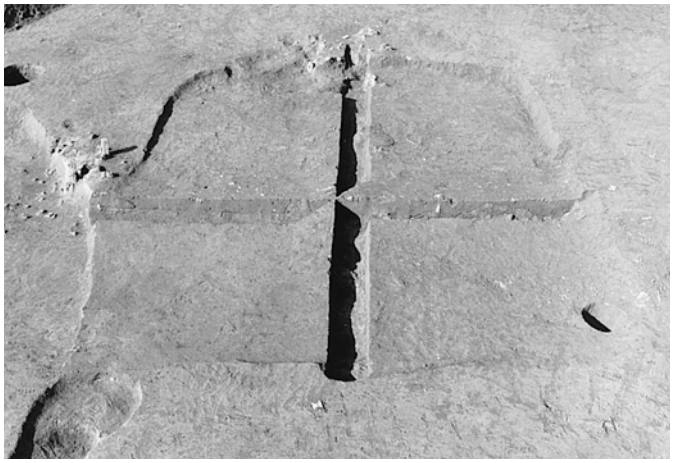


13号遺構、遺物出土状況



13号遺構、遺物出土状況

図版4



14号遺構、セクションベルト　西から



14号遺構、掘形検出状況　西から



15号遺構、遺物出土状況　南から



B区方形周溝墓群　北から



16号遺構、完掘状況　東から



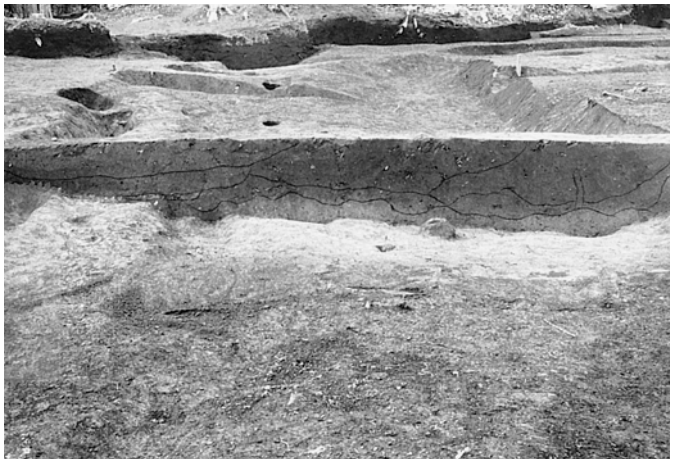
16号遺構、遺物出土状況



17号遺構、完掘状況　北から



17号遺構、完掘状況　南東から



17号遺構、南側周溝セクションベルト



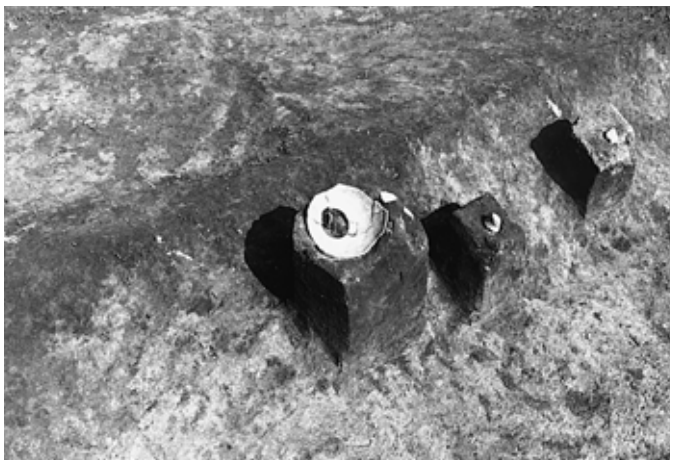
18号b・19号遺構　東から



21号遺構b、遺物出土状況　北東から



21号遺構、完掘状況　南から



22号遺構、遺物出土状況　北から



22号遺構、完掘状況　南東から

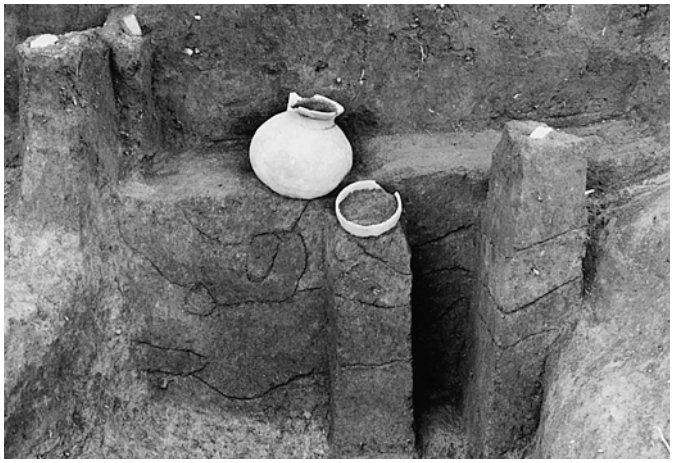


23号遺構、完掘状況　東から



24号遺構、完掘状況　西から

図版6



24号遺構、遺物出土状況　東から



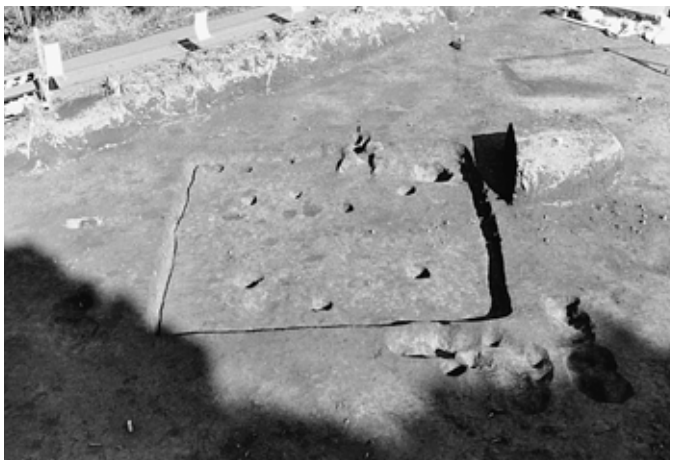
26号遺構b、周溝内土壙断面



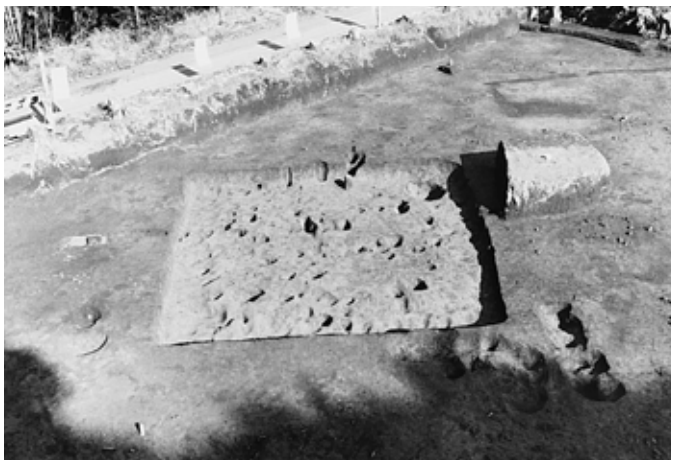
26号遺構b、周溝内土壙完掘状況　西から



26号遺構b、周溝内土壙遺物出土状況　西から



27号遺構、床検出状況　南から



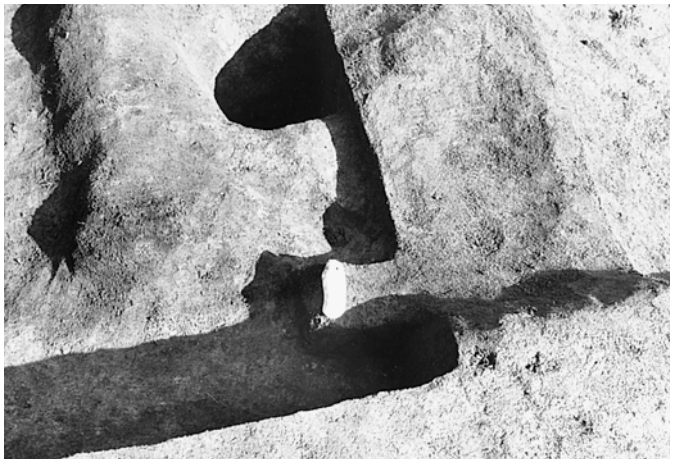
27号遺構、掘形検出状況　南から



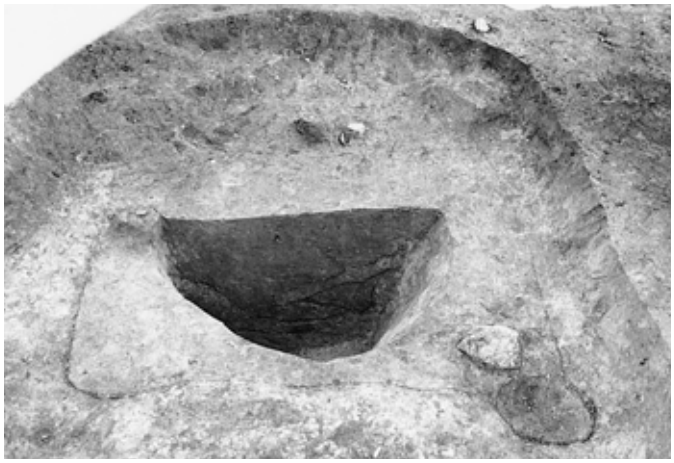
27号遺構、カマド検出状況　南から



27号遺構　カマド



27号遺構、砥石出土状況



27号遺構、ピット６断面　南から



E区全景　南から



E区全景　南から



28号遺構、床検出状況　南から



28号遺構b、カマド



29号遺構、床検出状況　南から



28号遺構、カマド

図版８



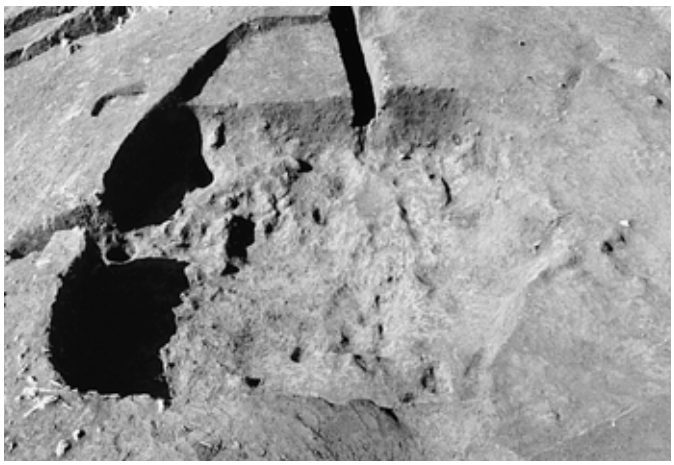
29号遺構、掘形検出状況　南から



30号遺構、カマド



30号遺構、床検出状況　東から



30号遺構、掘方検出状況　東から



31～33号遺構　南東から



31号遺構c、B炉検出状況　東から



31号遺構c、B炉　東から



31号遺構、カマド袖部遺物出土状況



31号遺構、カマド



31号遺構、カマド遺物出土状況



32号遺構、遺物出土状況　南から



32号遺構、遺物No.96出土状況



32号遺構、カマド



32号遺構、カマド遺物出土状況



32号遺構カマド内、遺物出土状況



33号遺構、遺物出土状況　南から

図版10



33号遺構、床検出状況　南より



33号遺構、北東コーナー付近、遺物出土状況



33号遺構カマド内、遺物No.28・59出土状況



33号遺構カマド東側、遺物出土状況



33号遺構床下、遺物No.32・124出土状況



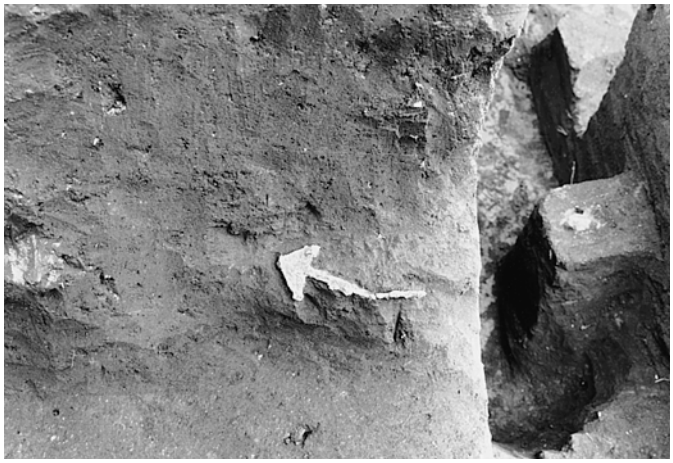
33号遺構ピット１、遺物No.22出土状況



33号遺構ピット４、遺物出土状況



33号遺構カマド西側床、錠前出土状況



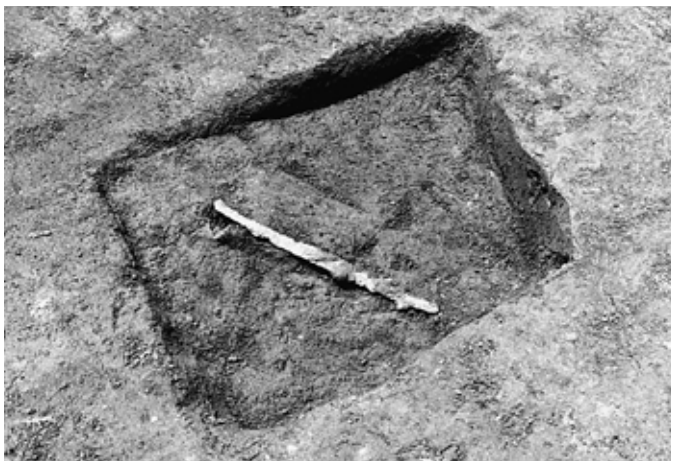
33号遺構東壁際、鏃出土状況



33号遺構ピット４、鏃出土状況



33号遺構北東コーナー付近床下、足金物出土状況



C区一括No.194刀子出土状況　34号遺構外



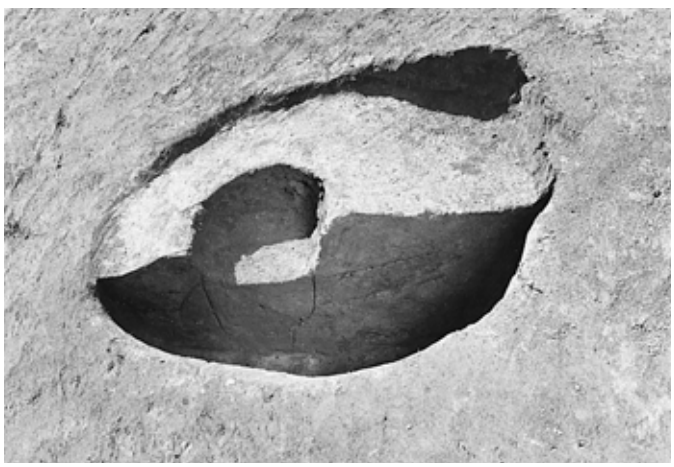
35号遺構　東から



35号遺構　西から

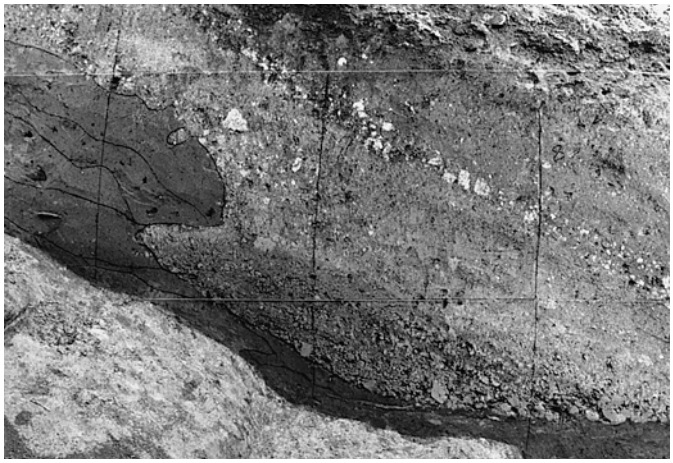


35号遺構ピット４断面　南東から



35号遺構ピット５断面　東から

図版12



37号遺構、覆土堆積状況　北西から



37号遺構、A炉検出状況　西から



37号遺構　西から



37号遺構、D炉検出状況　西から



38号遺構　西から



40号遺構、ピット１検出状況　南から



41号遺構、プラン確認状況　南西から



41号遺構、完掘状況　南西から



43号遺構、遺物出土状況　南西から



44号遺構、完掘状況　南から



45号遺構、遺物出土状況　東から



E区全景　西から



47号遺構、セクションベルト　北から



47号遺構、完掘状況　北から



48号遺構、遺物出土状況　北西から



48号遺構、完掘状況　北西から

図版14



50号遺構、焼土範囲　南から



53号遺構、覆土堆積状況　北西から



54号遺構、遺物出土状況　南東から



55・56号遺構　西から



62号遺構、路床硬化面検出状況　西から



62号遺構、完掘状況　西から



46・68・69号遺構　北西から



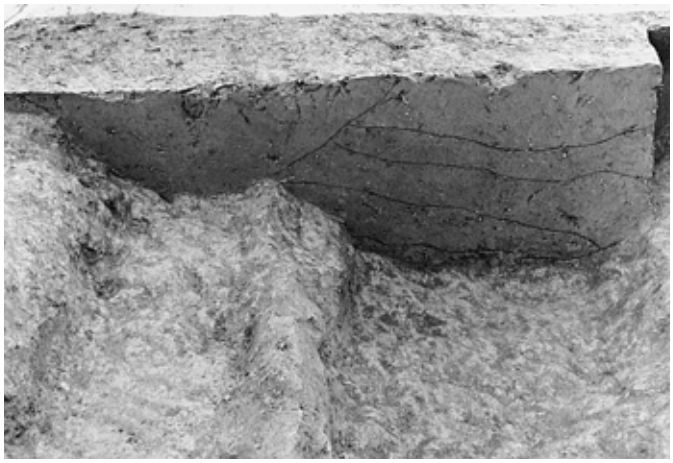
68号遺構　南東から



68号遺構ピット１、遺物出土状況　北西から



68号遺構セクションベルトF



109号遺構セクションベルトC



109号遺構、完掘状況　南東から



88号遺構　南から



88号遺構、石帯出土状況　南東から



110号遺構、プラン確認状況　南東から



110号遺構、完掘状況　南から

図版16



C区中世遺構群



78号遺構周辺　北東から



78～81号遺構　北西から



87号遺構、カワラケ出土状況



78号遺構ピット10、柱痕跡　南西から



73号遺構c面、カワラケ出土状況（73号cNo.24他）



73号遺構地業層、セクションB南端



73号遺構地業層（C区東壁、37号南）



103号遺構（D区中世テラス）調査前風景



D区中世遺構群　北から



D区　東から



109号遺構　東から



D区中世遺構群　西から



36号遺構　西から

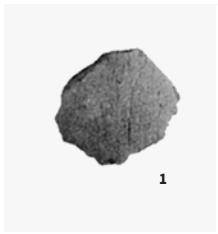


108号遺構、カワラケ出土状況



104号遺構、ピット12　東から

図版18



5号遺構

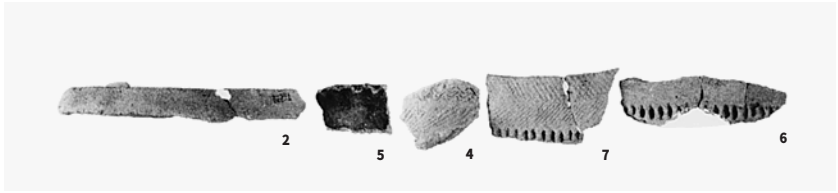


9号遺構

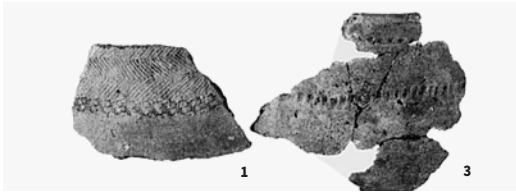




10号遺構



10号遺構

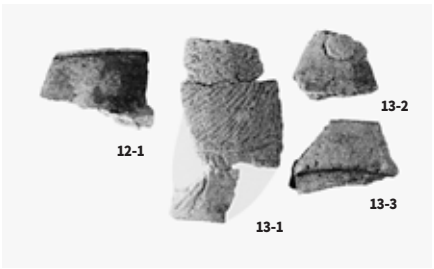


11号遺構





11号遺構





12・13号遺構

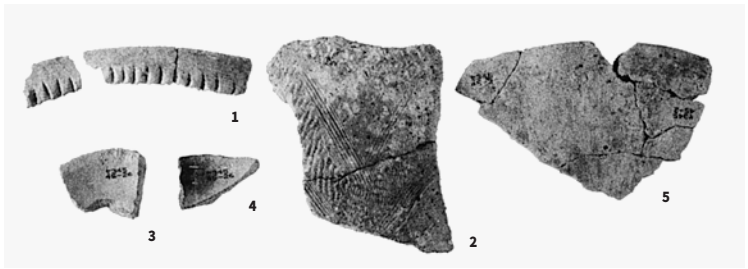


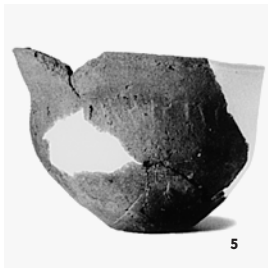




13号遺構

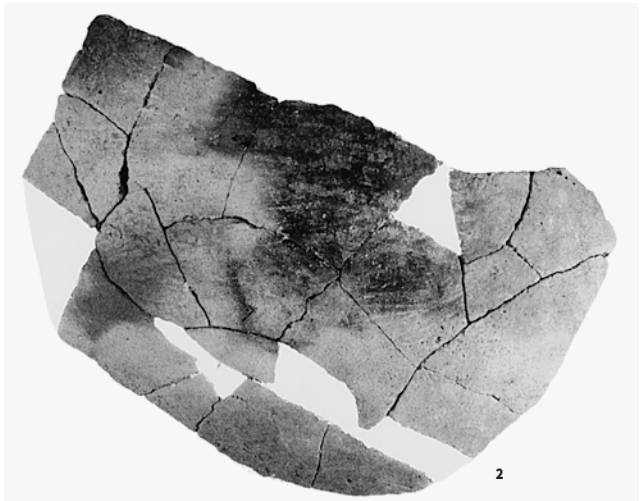


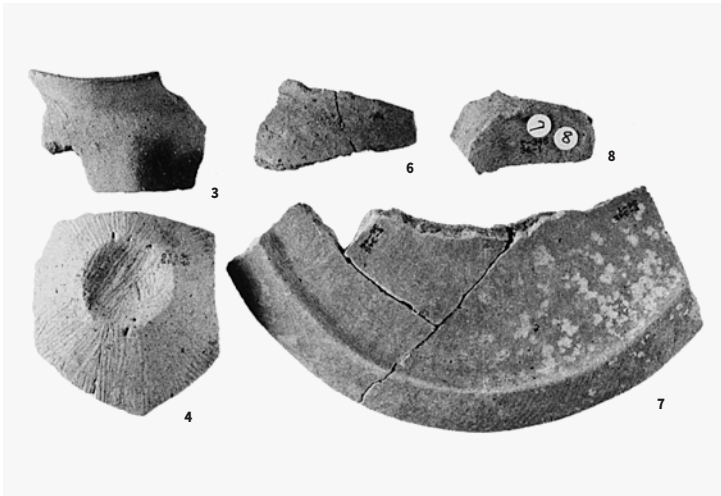




14号遺構

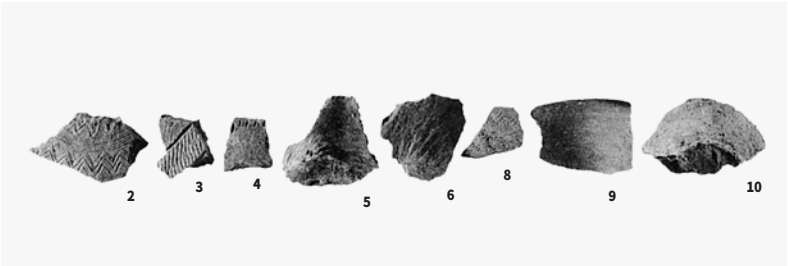
15号遺構





15号遺構





16号遺構



17号遺構



16号遺構



17号遺構



24号遺構

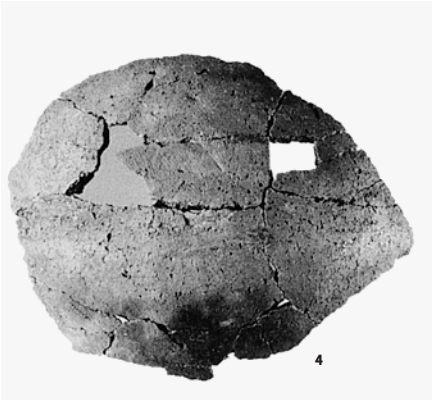


17号遺構





21号遺構b



19号遺構



24号遺構



26号遺構a



26号遺構b

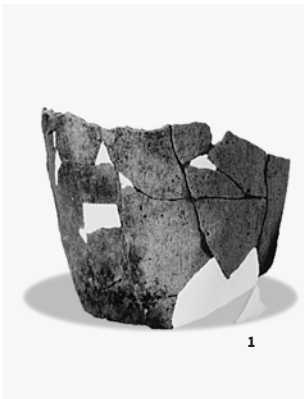


27号遺構





27号遺構



28号遺構a



29号遺構







29号遺構

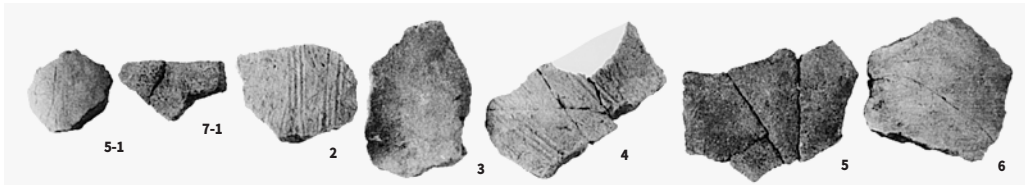




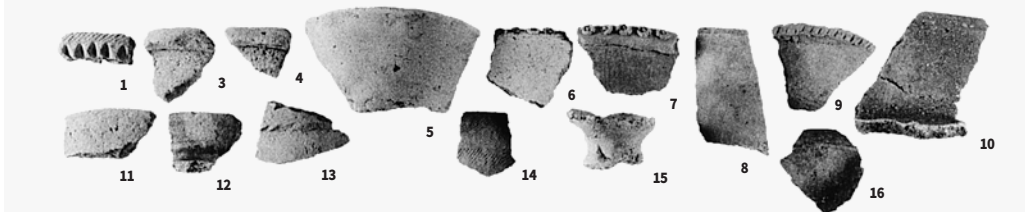


30号遺構

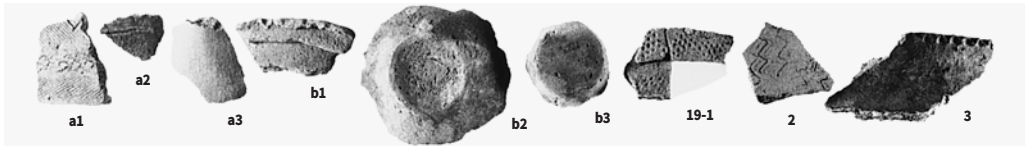
図版20



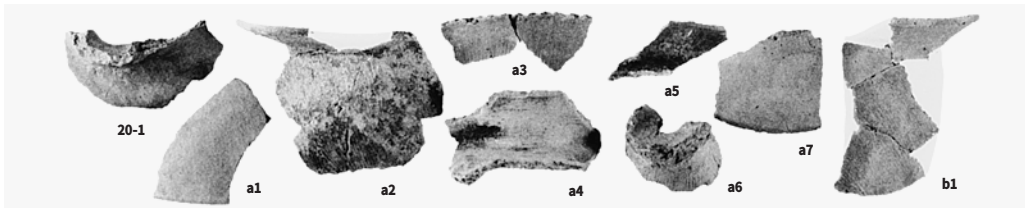
5・7号遺構



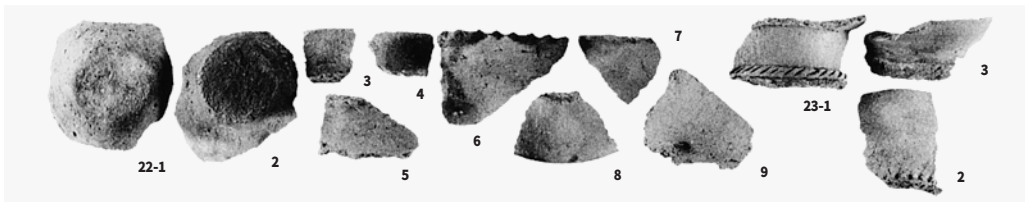
17号遺構



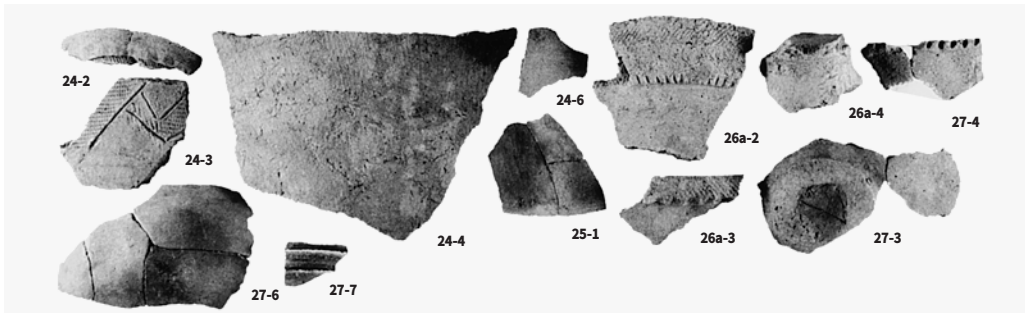
18号遺構a・b・19号遺構



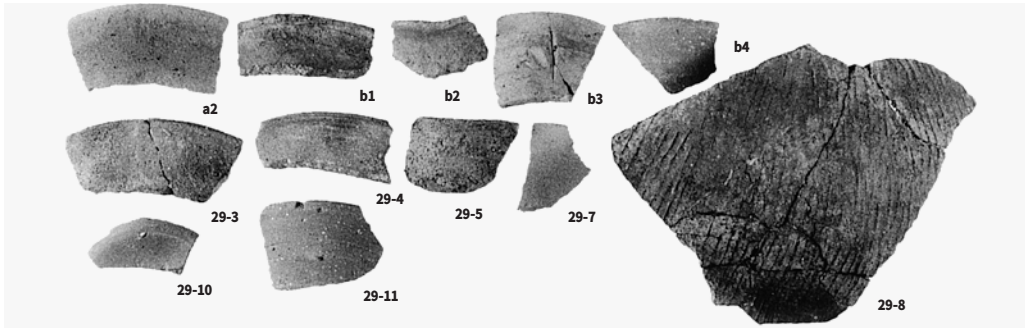
20・21号遺構a・b



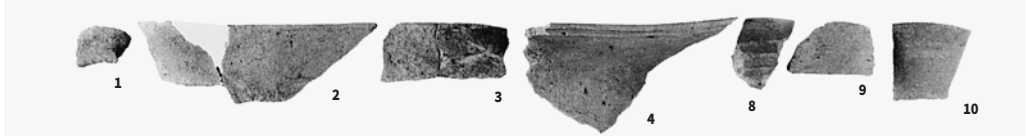
22・23号遺構



24・25・26a・27号遺構



28号遺構a・b・29号遺構



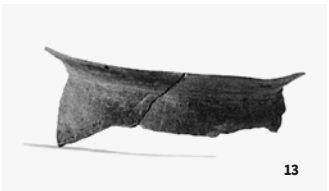
30号遺構









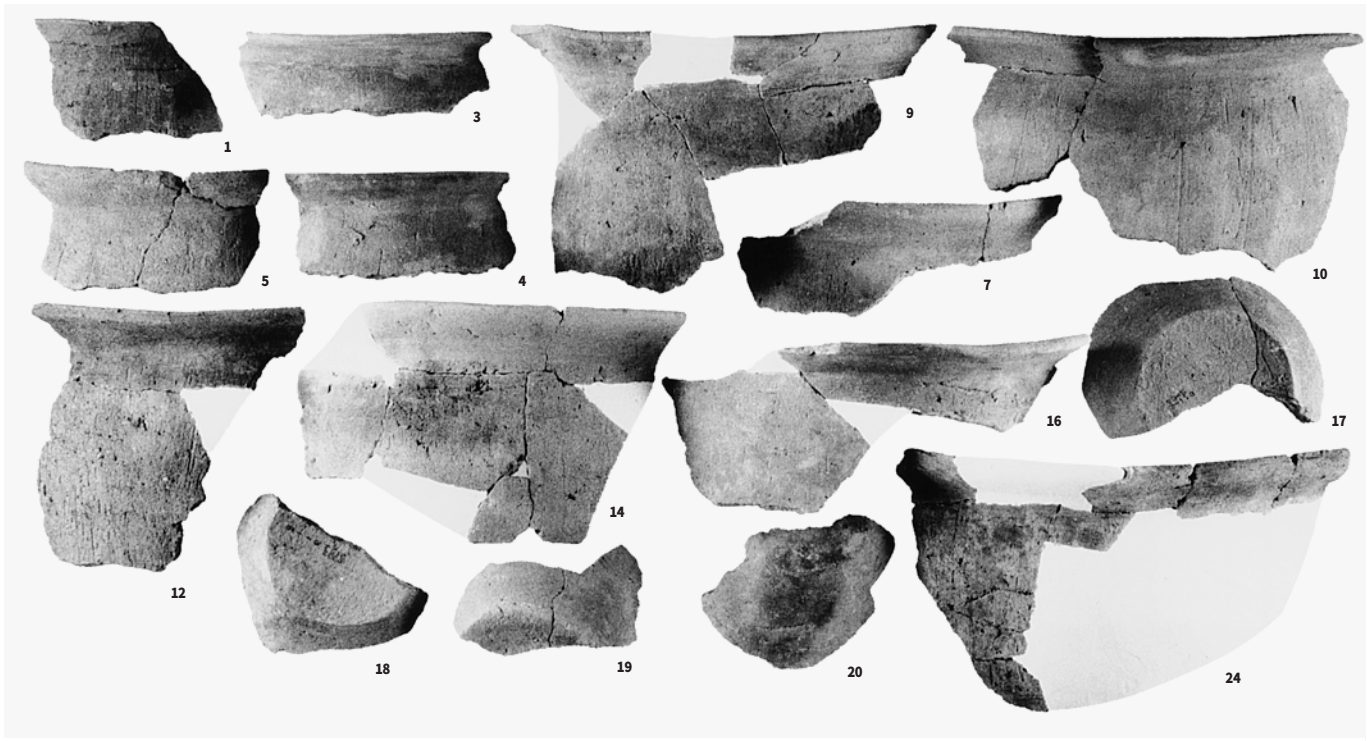


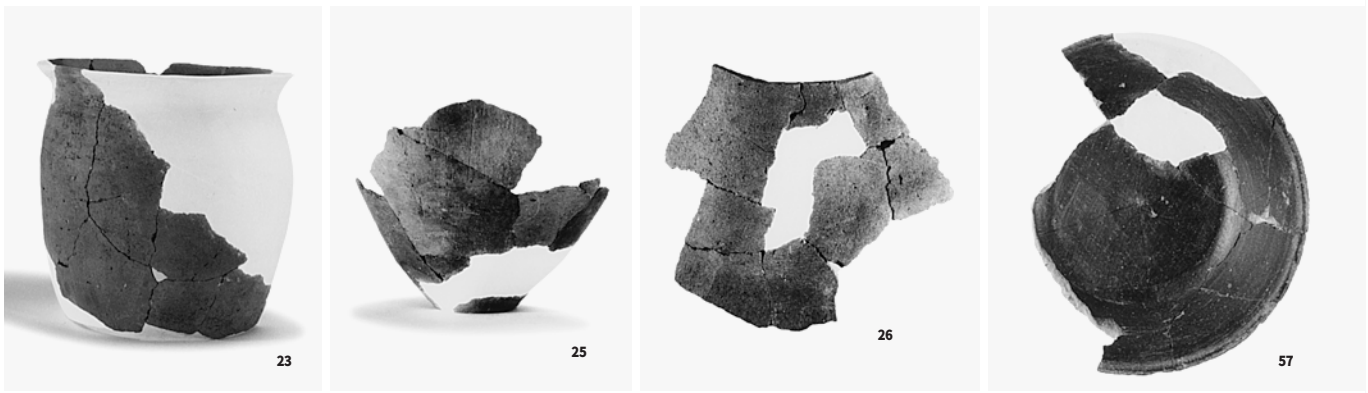


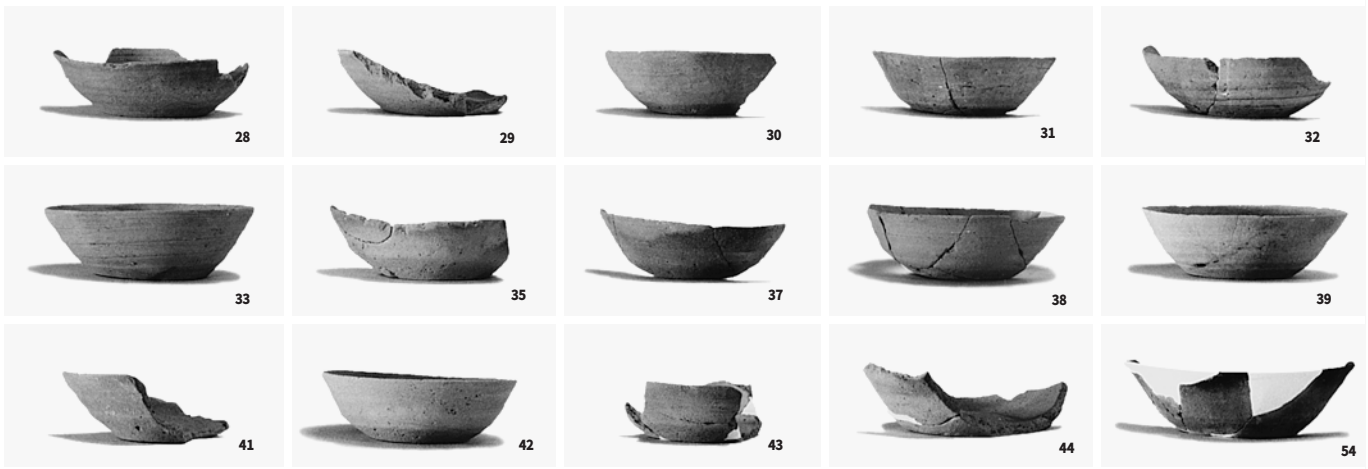


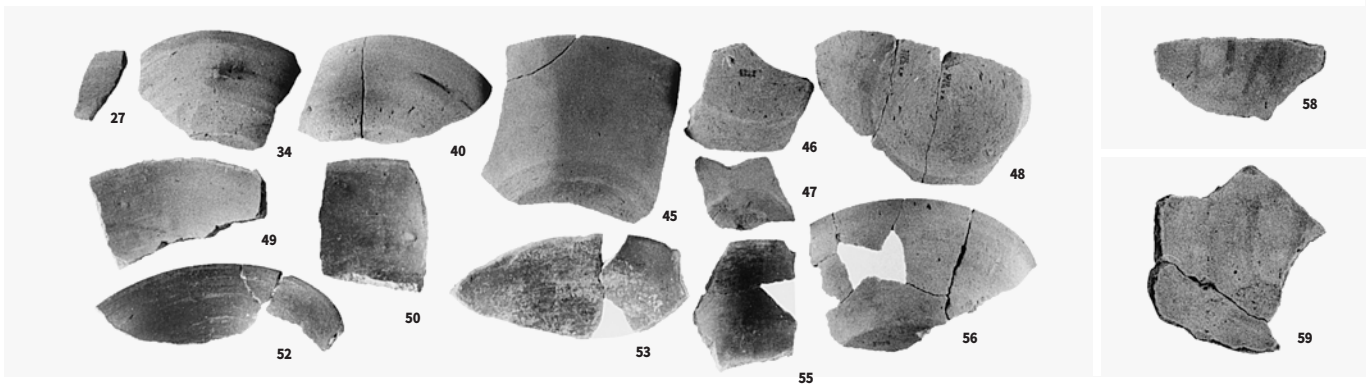


31号遺構a


1
3
9
5
4
7
10
12
14
16
17
18
19
20
24

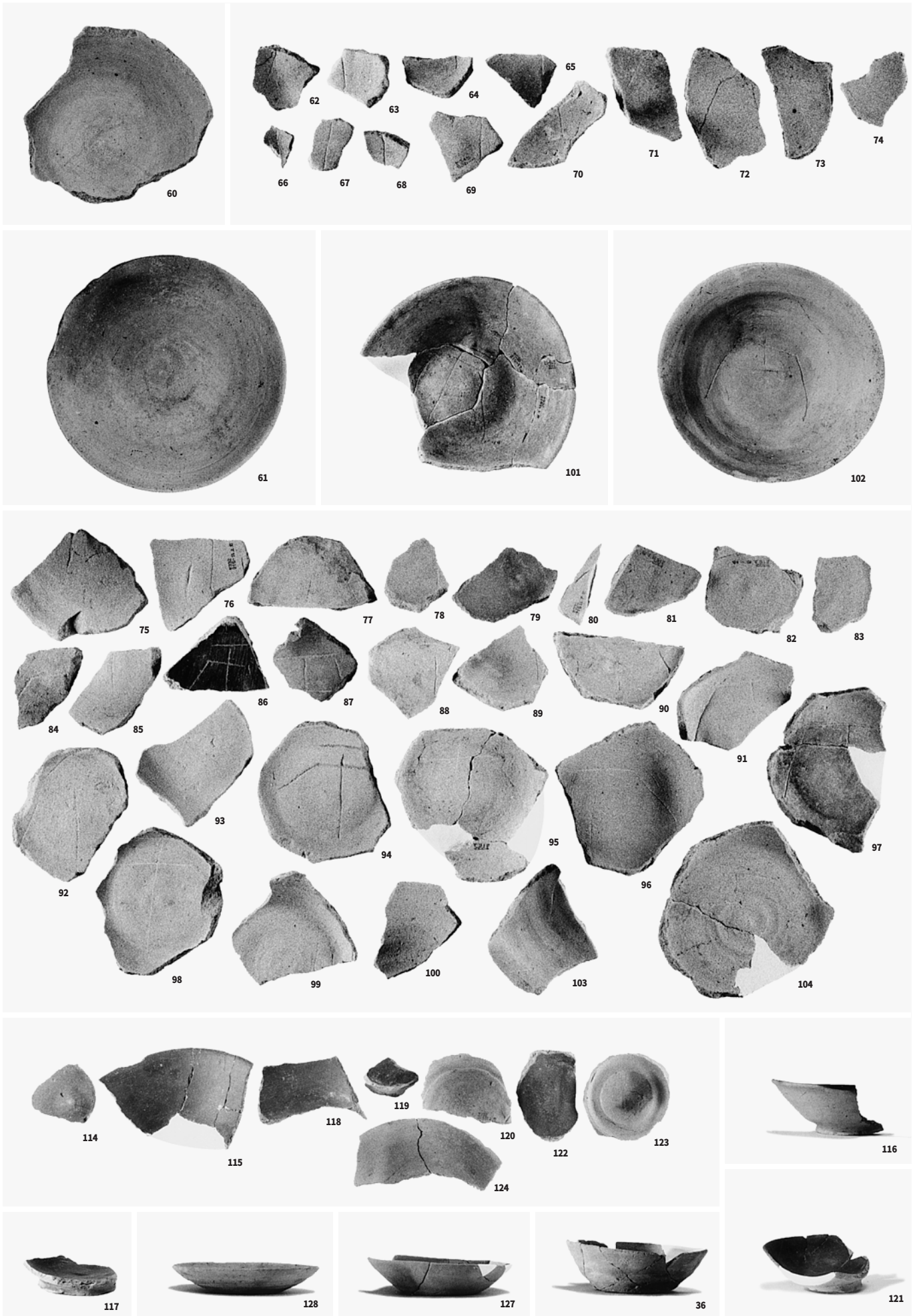

23
25
26
57


28
29
30
31
32
33
35
37
38
39
41
42
43
44
54

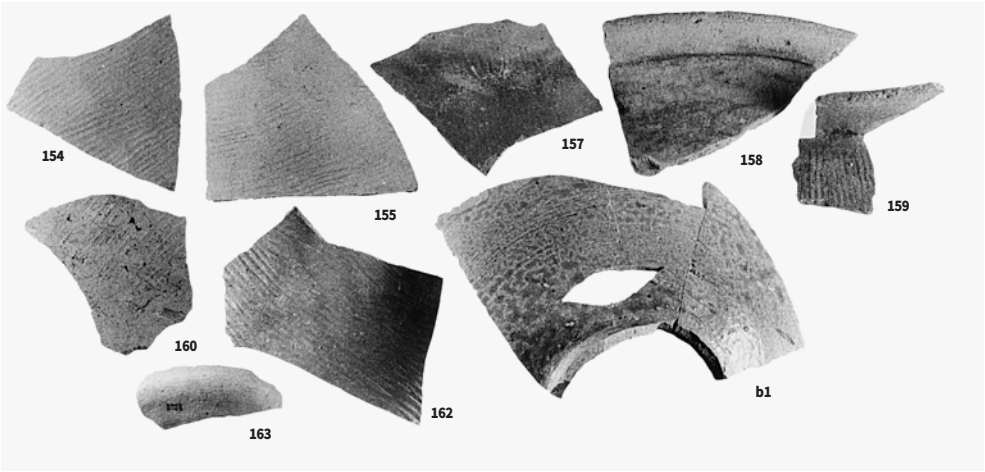

27
34
40
45
46
48
47
49
50
52
53
55
56
58
59

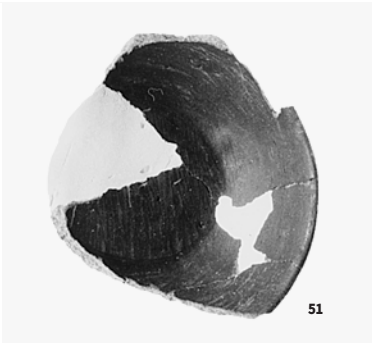
31号遺構a

図版22


60
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
61
101
102
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
103
104
114
115
118
119
120
122
123
124
116
117
128
127
36
121

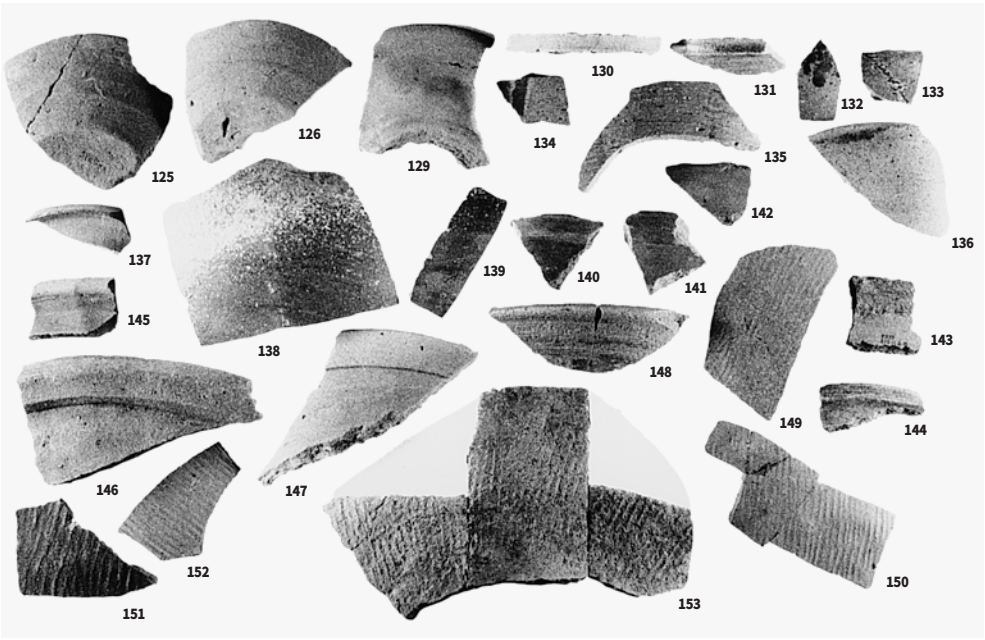
31号遺構a



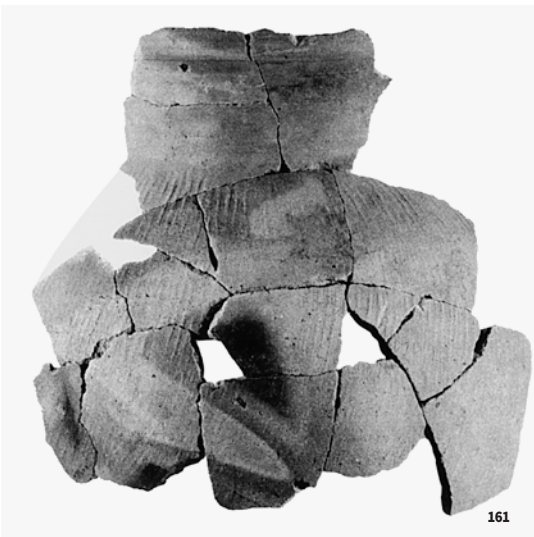




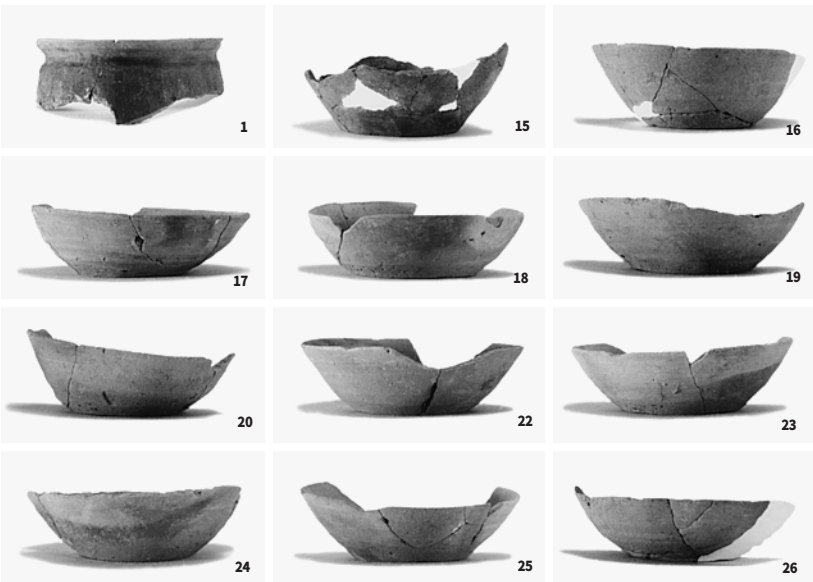
31号遺構a・b







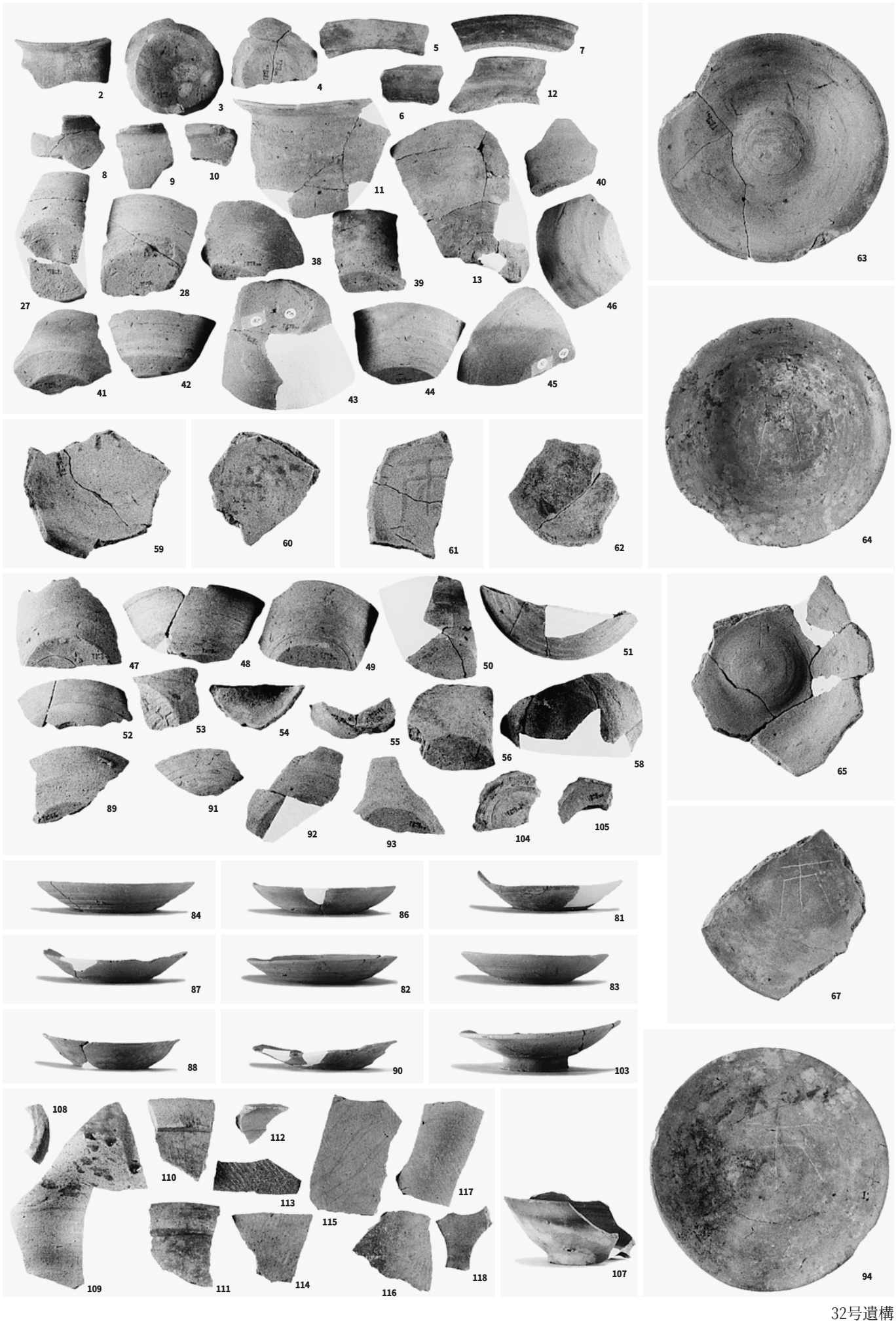
31号遺構a



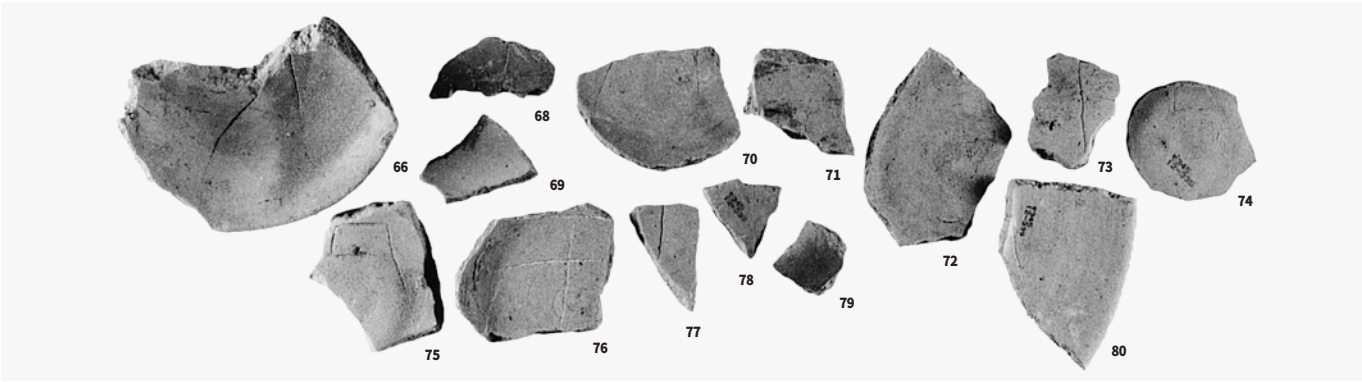


32号遺構

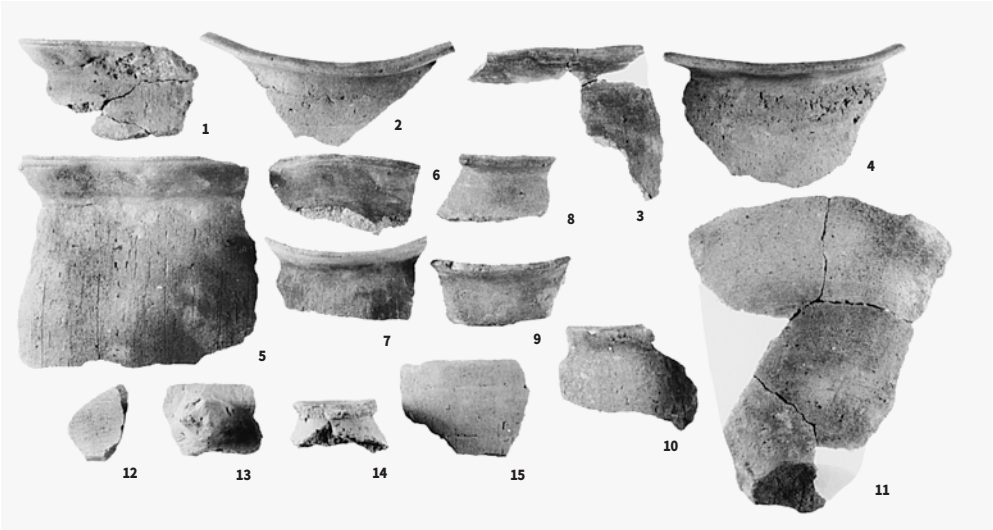
図版24

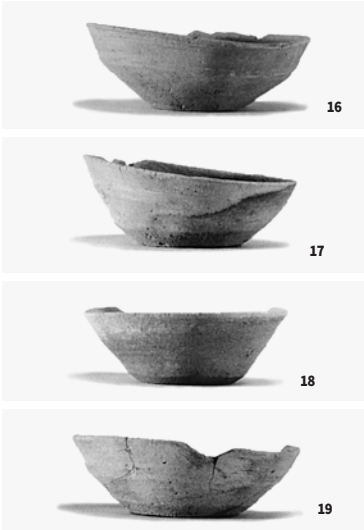

2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
27
28
38
39
40
41
42
43
44
45
46
59
60
61
62
63
64
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
58
65
89
91
92
93
104
105
67
84
86
81
87
82
83
88
90
103
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
107
94

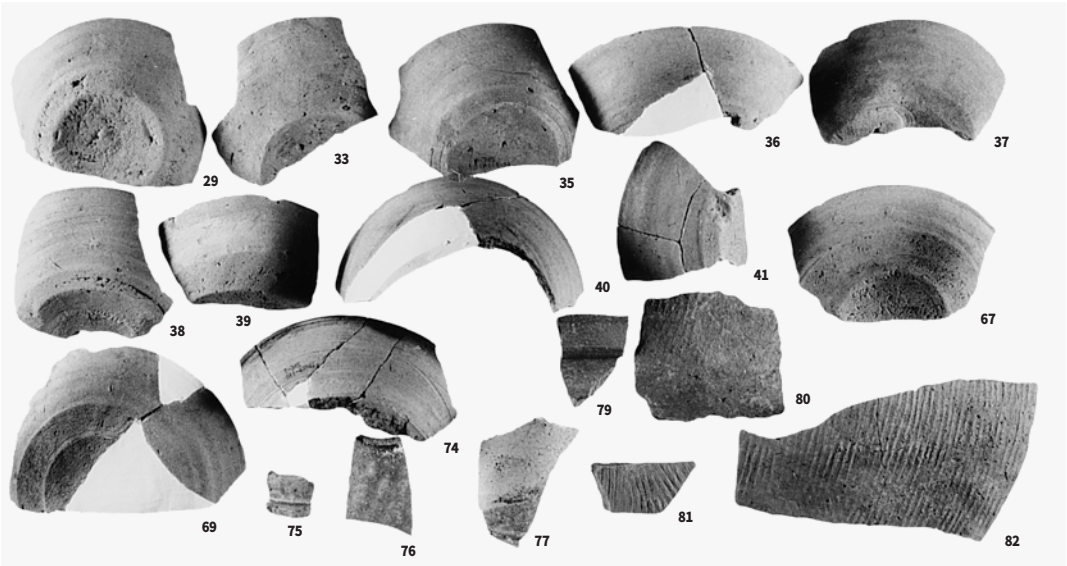
32号遺構


66
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80

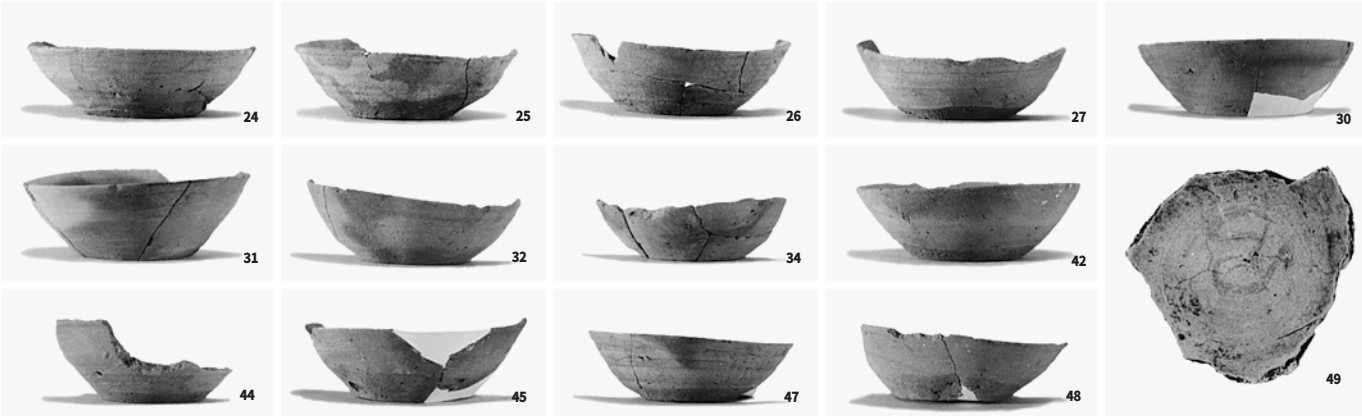
32号遺構


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15


16
17
18
19

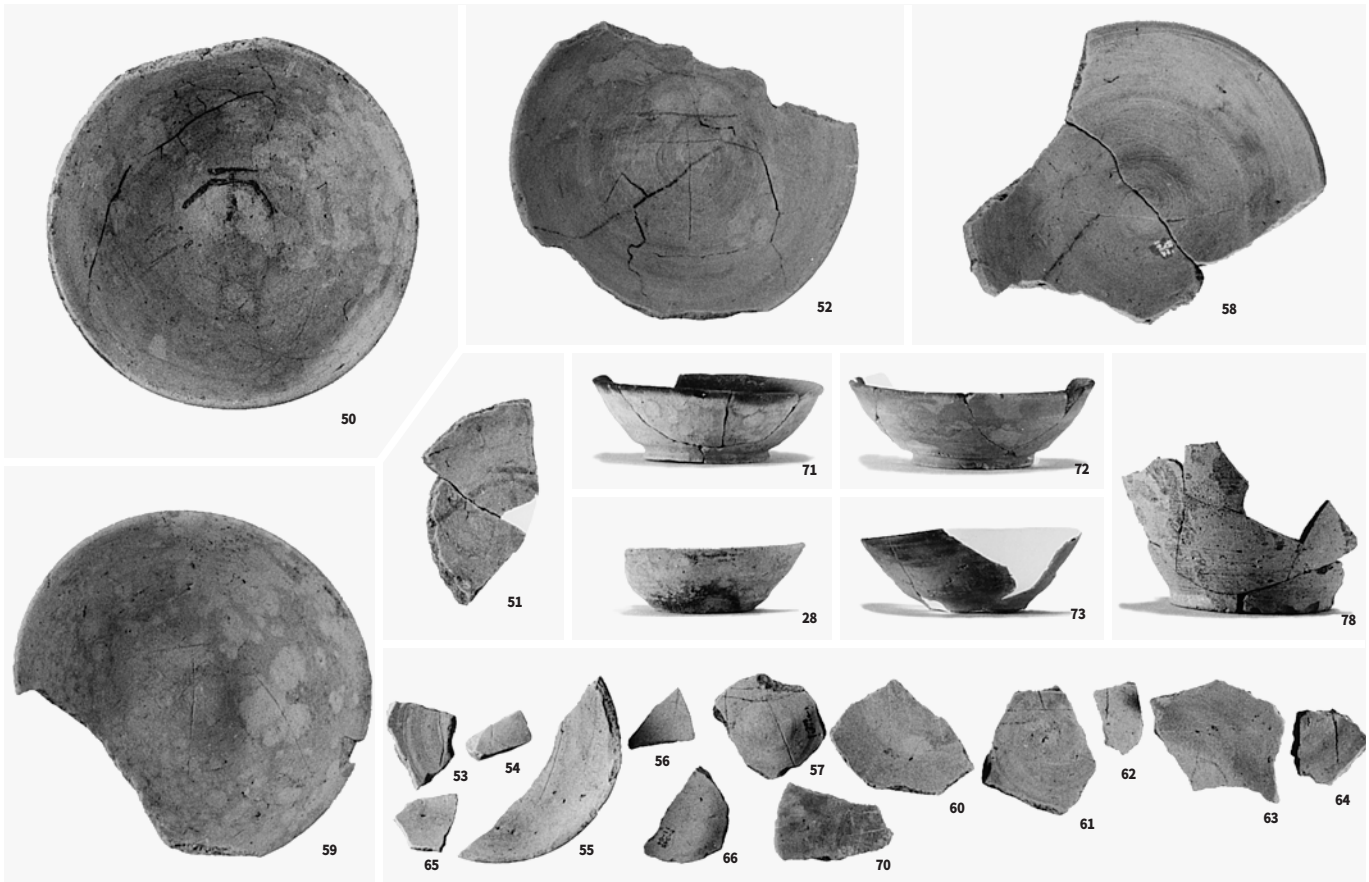

29
33
35
36
37
38
39
40
41
67
69
74
75
76
77
79
80
81
82


20
21
22
23

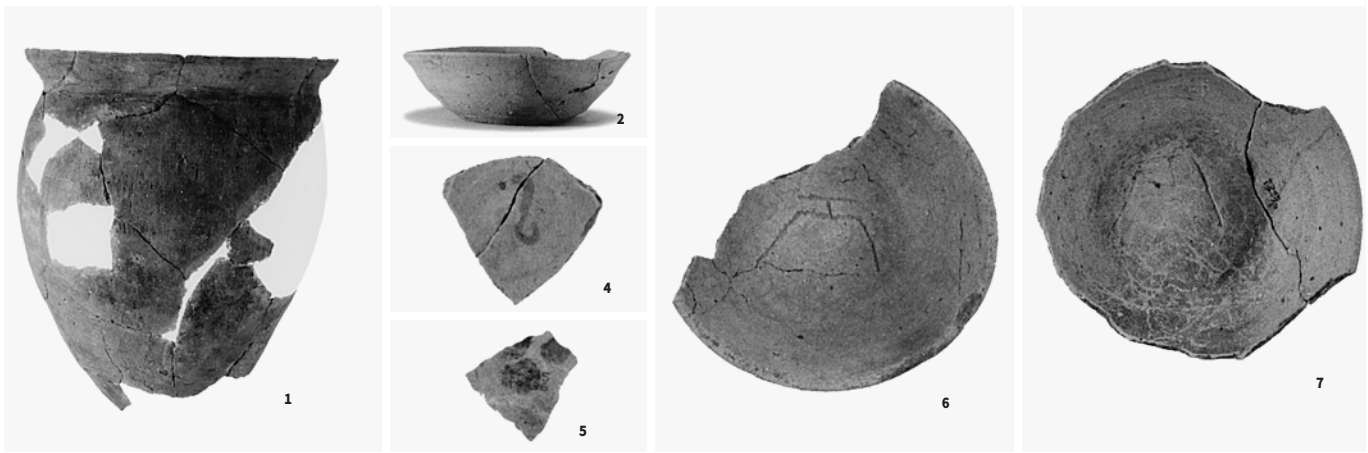

24
25
26
27
30
31
32
34
42
44
45
47
48
49

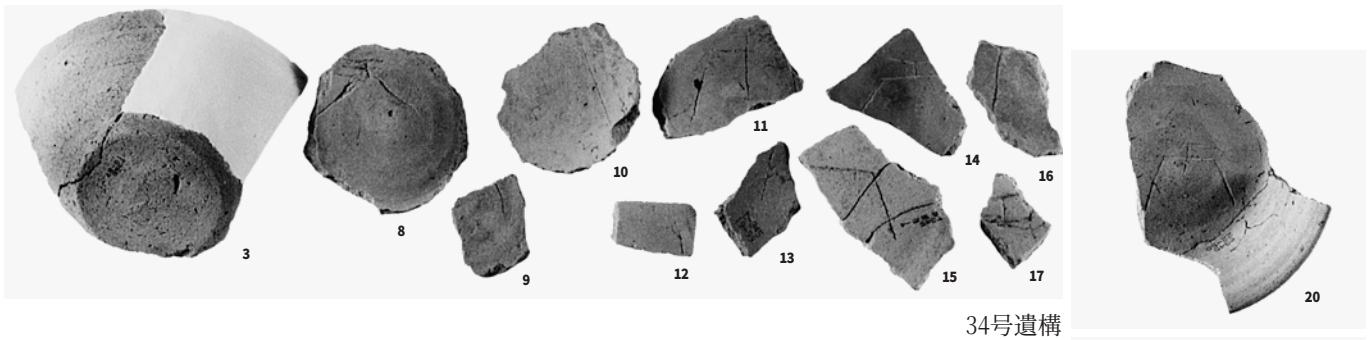
33号遺構

図版26

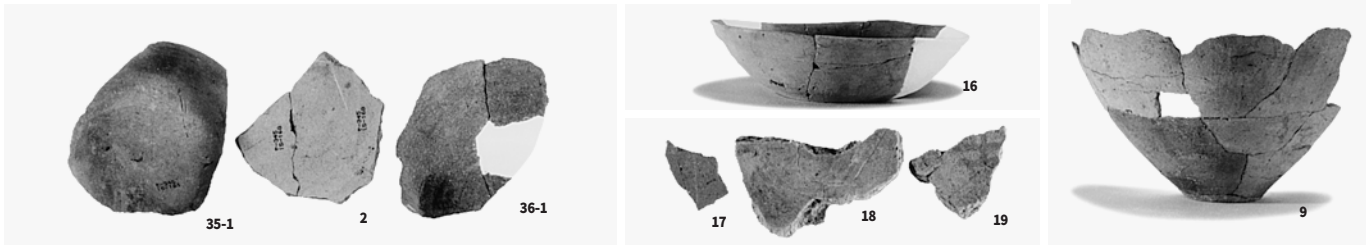


33号遺構



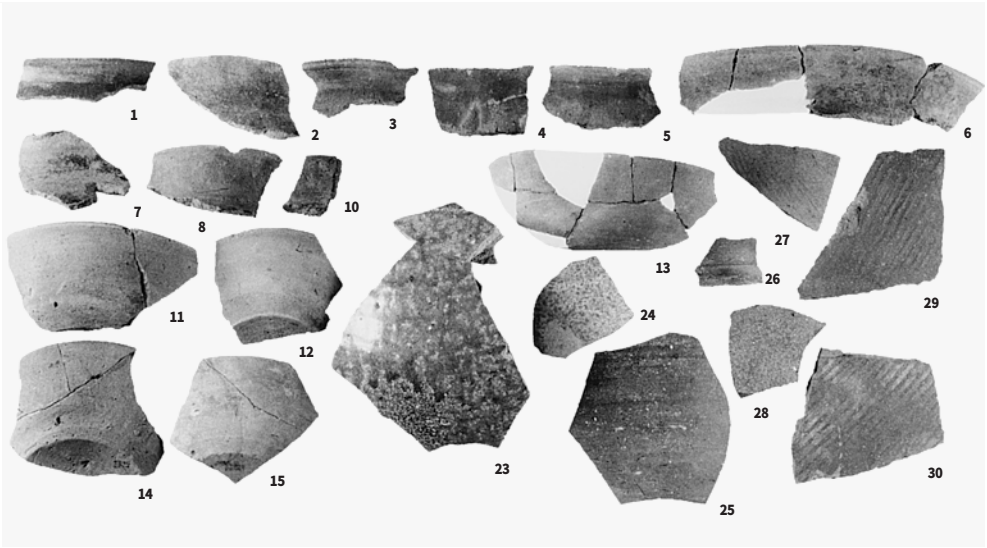


34号遺構



35・36号遺構　　37号遺構

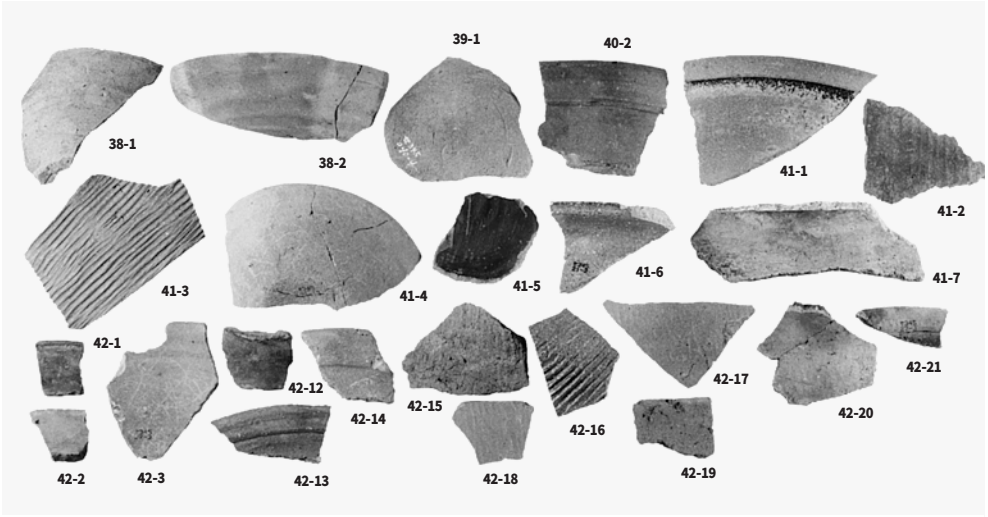


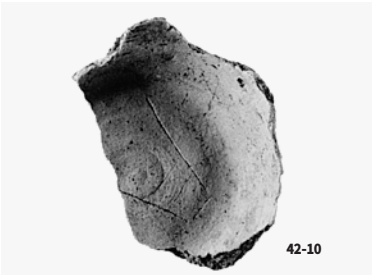


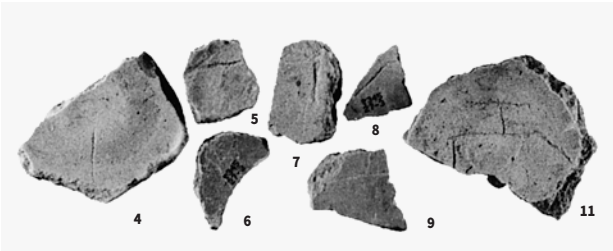
37号遺構



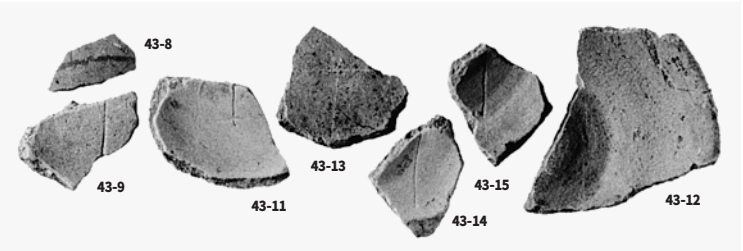
37号遺構



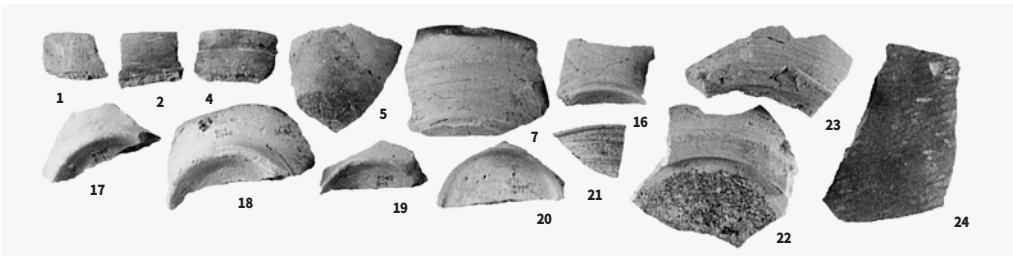




42号遺構



38・39・40・41・42号遺構



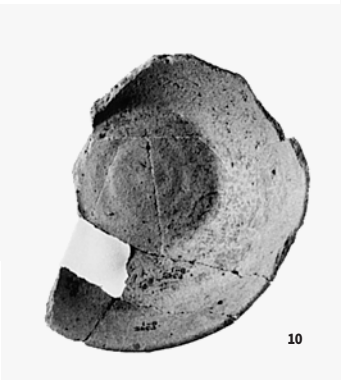
43号遺構





43号遺構





43号遺構



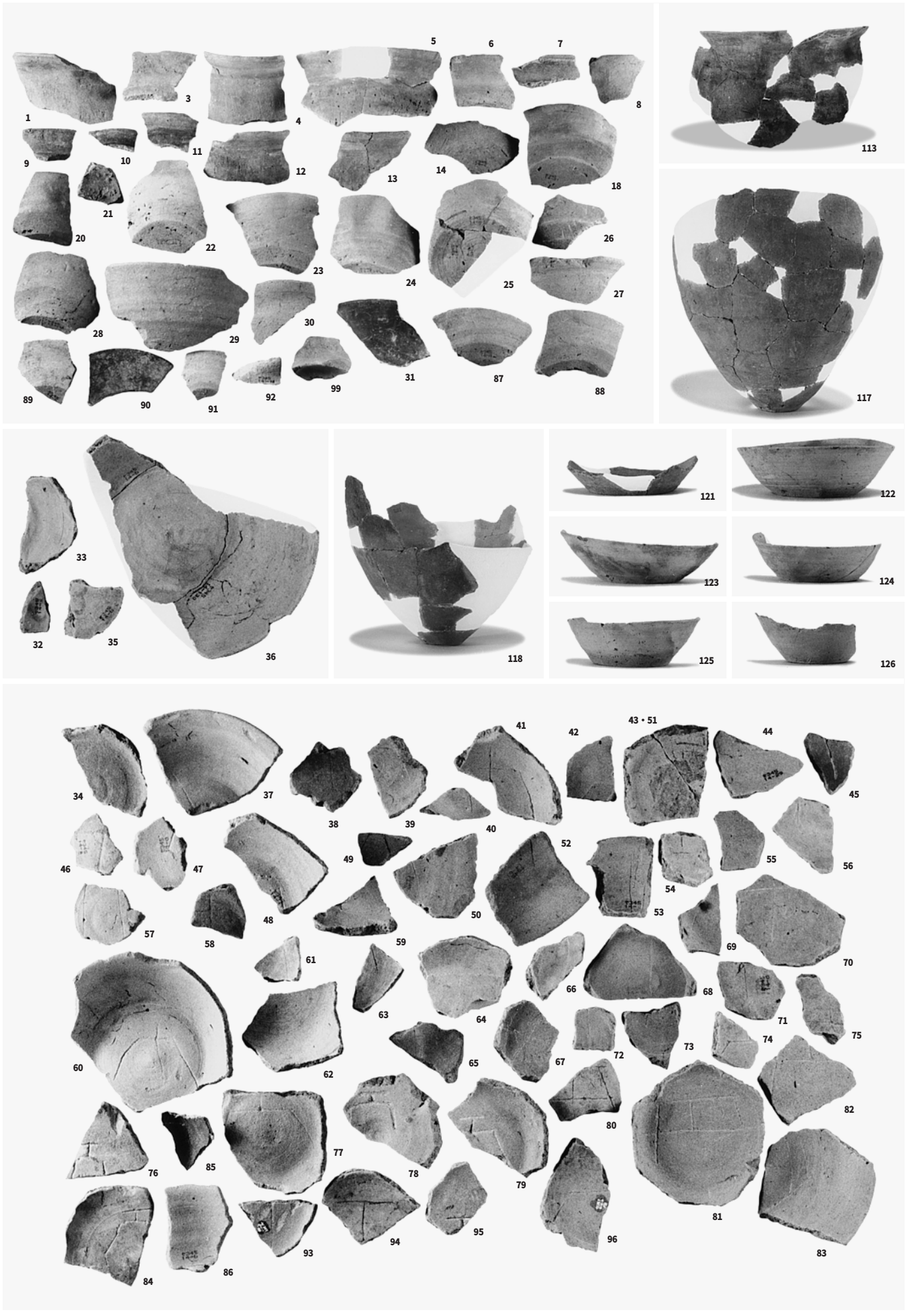




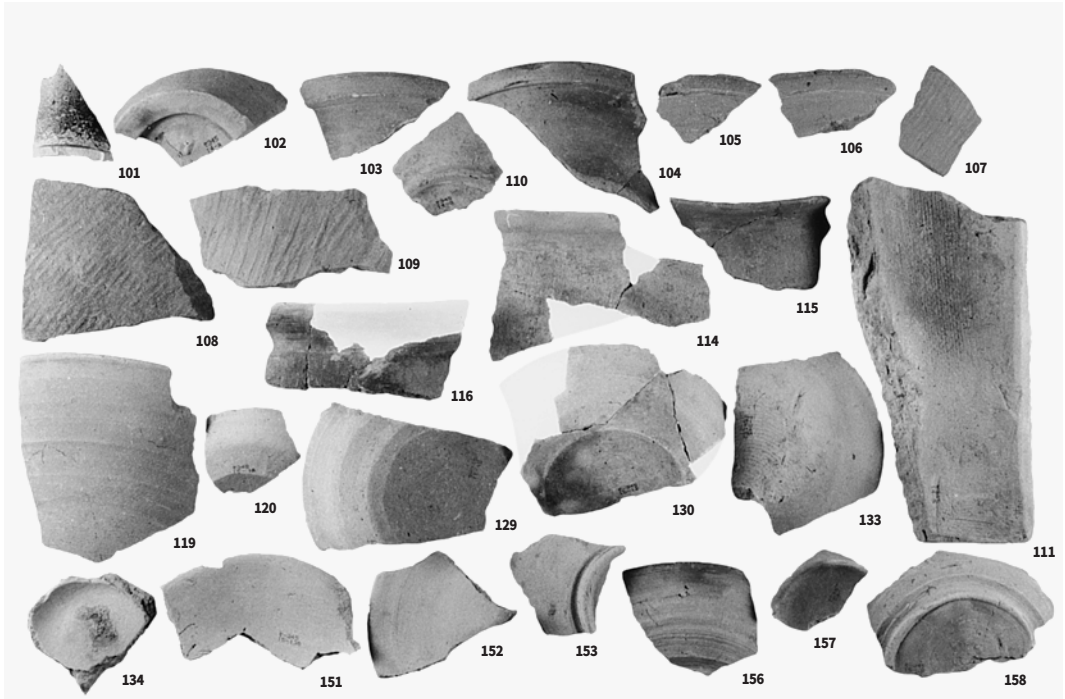


45号遺構

図版28



45号遺構

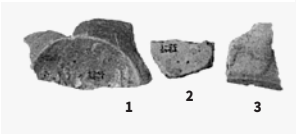




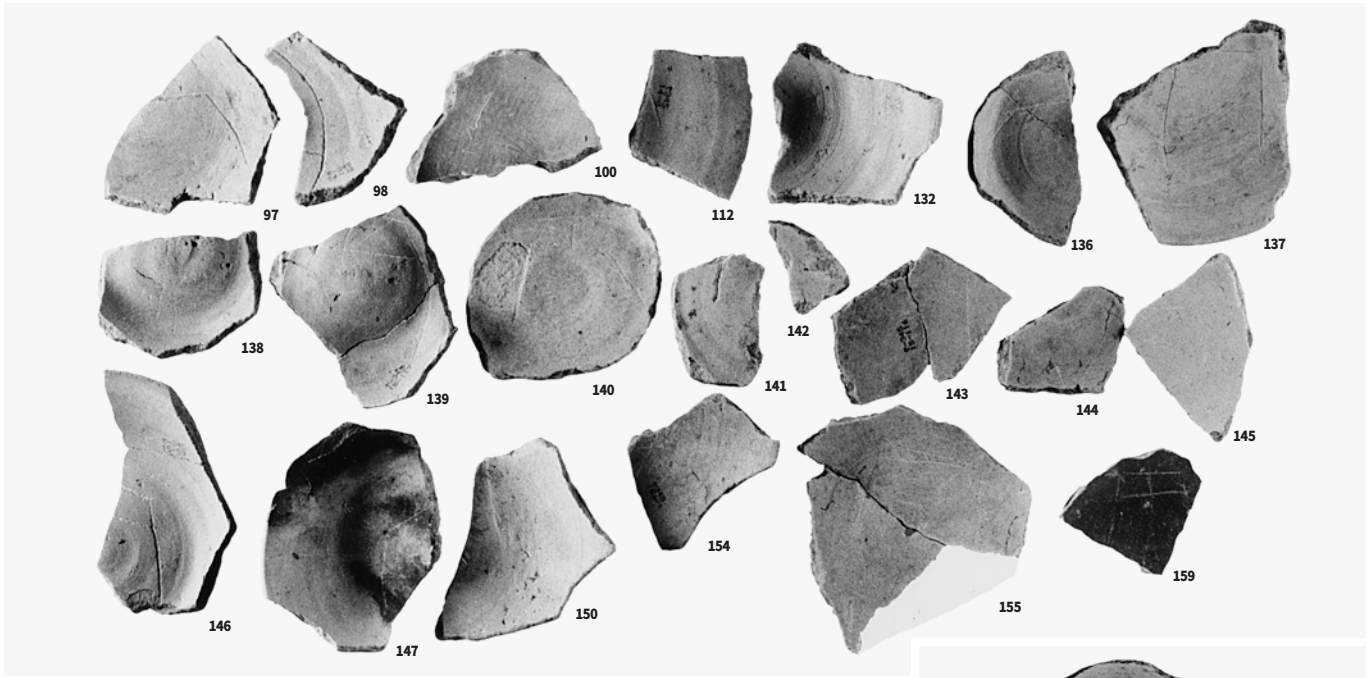


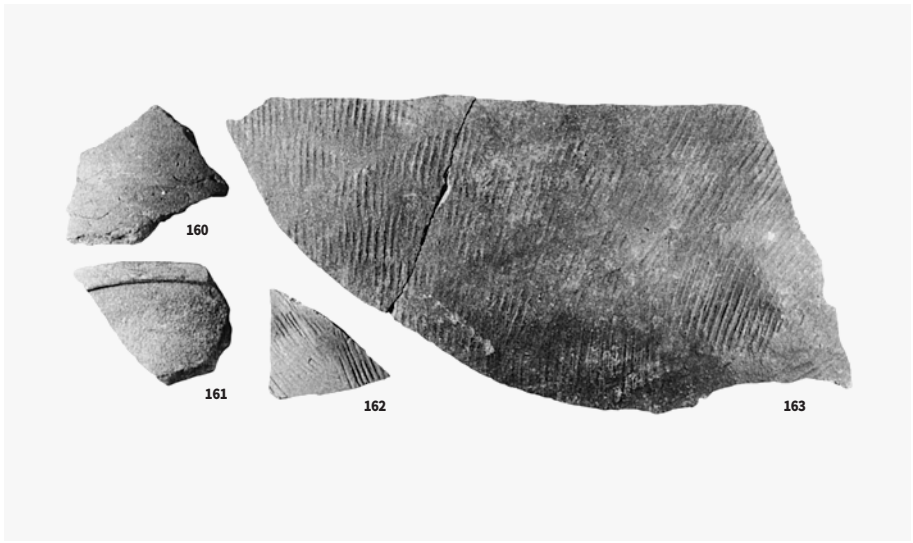


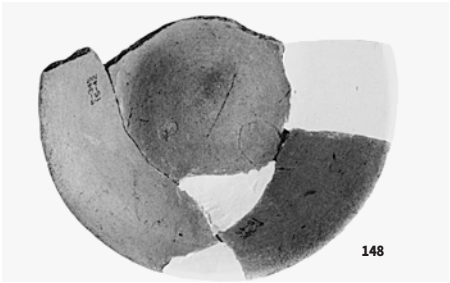
45号遺構

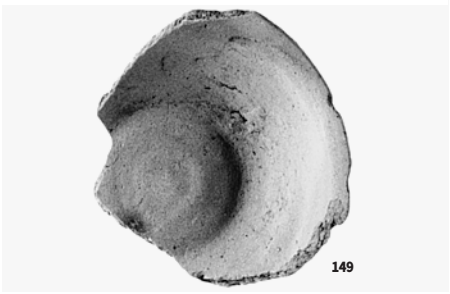


47号遺構



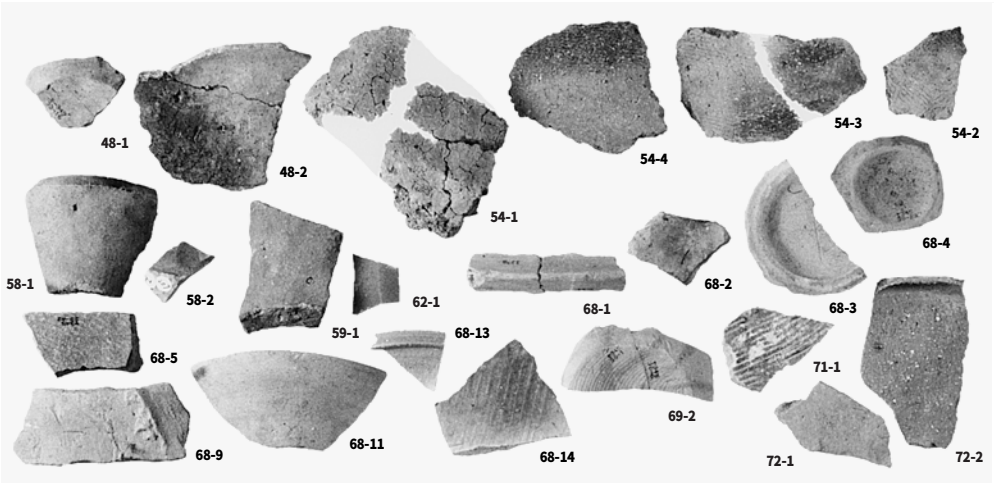






45号遺構

図版30

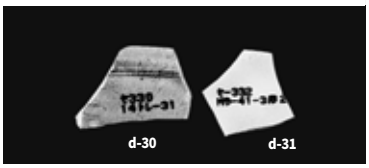


48・54・58・59・62・68～70・71・72号遺構



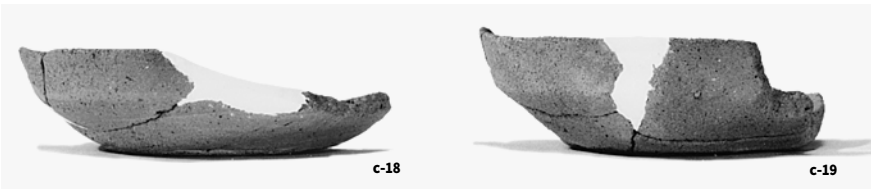


68号遺構

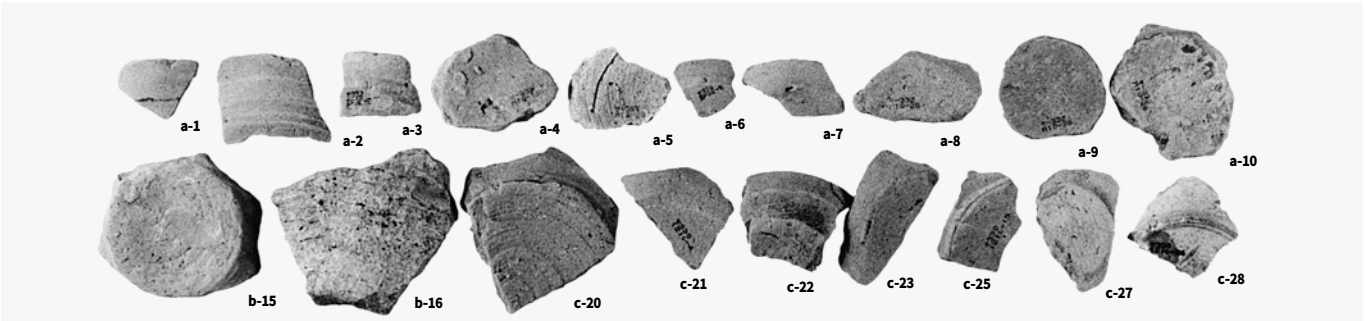


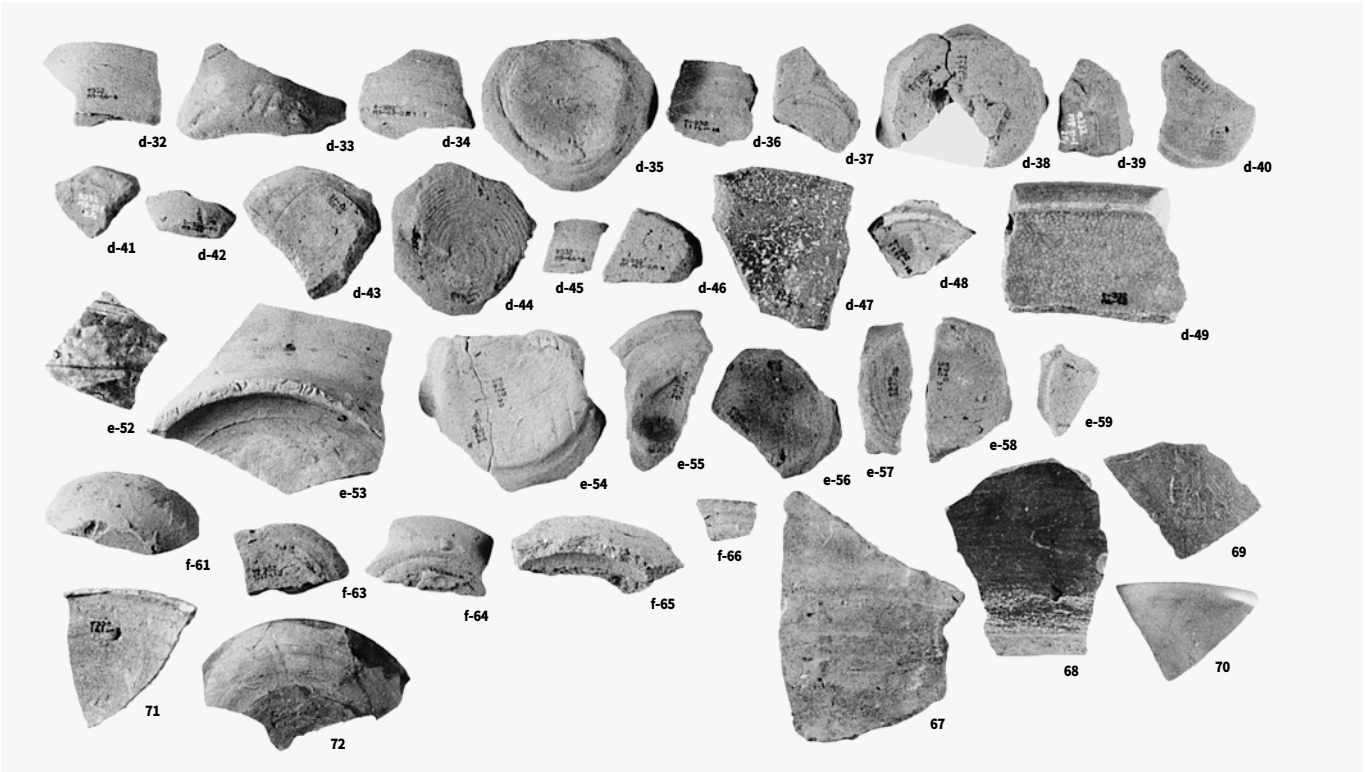


68号遺構

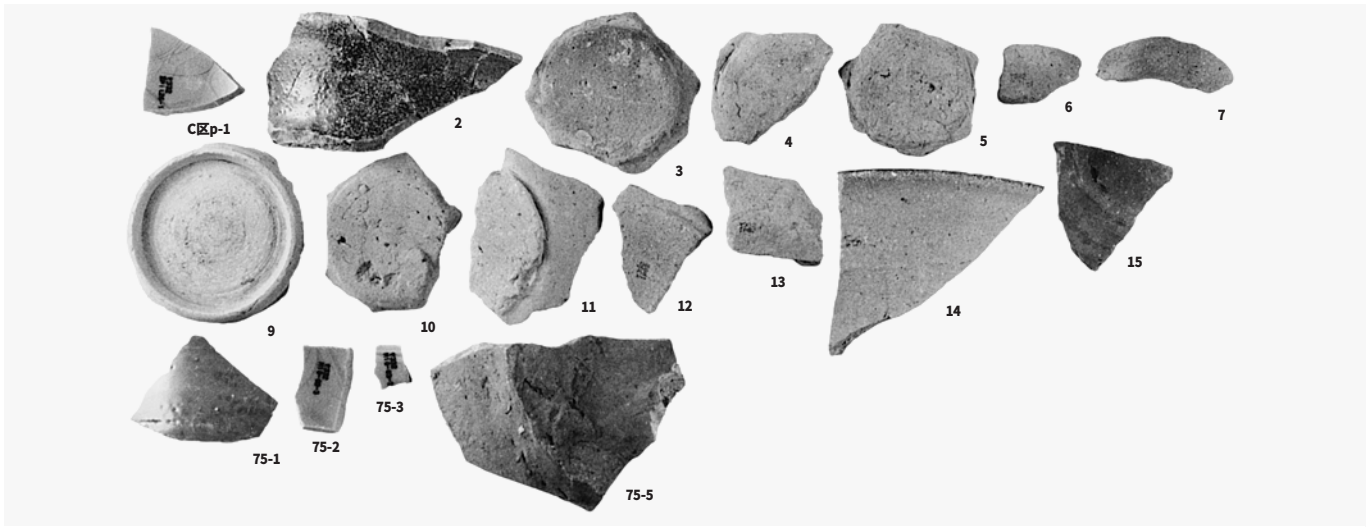




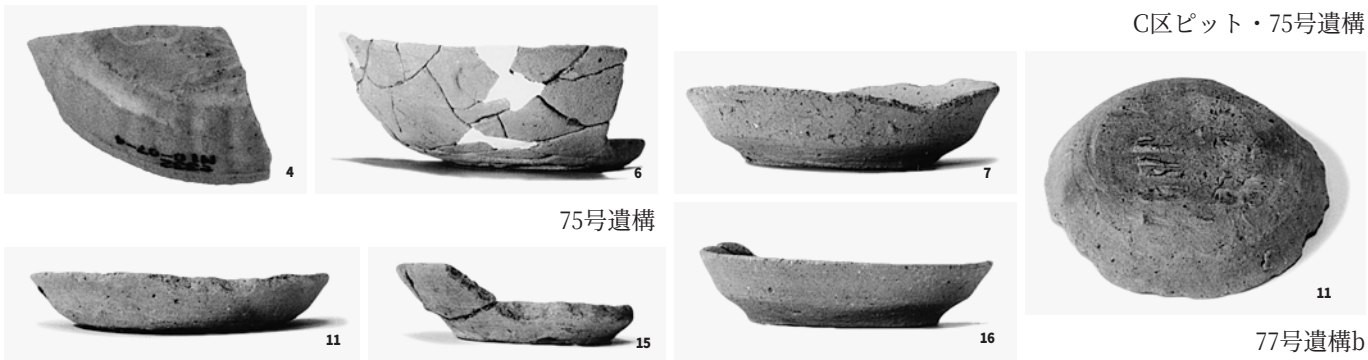




73号遺構a～f

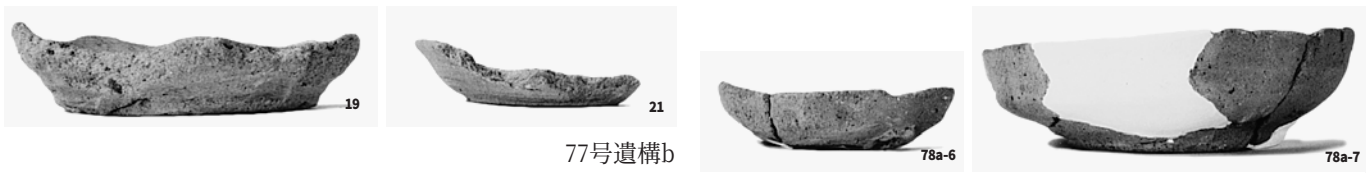


C区ピット・75号遺構

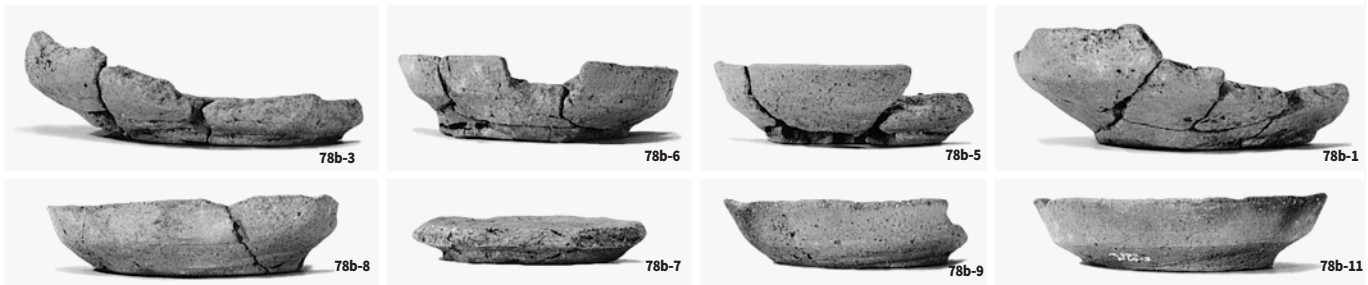


75号遺構

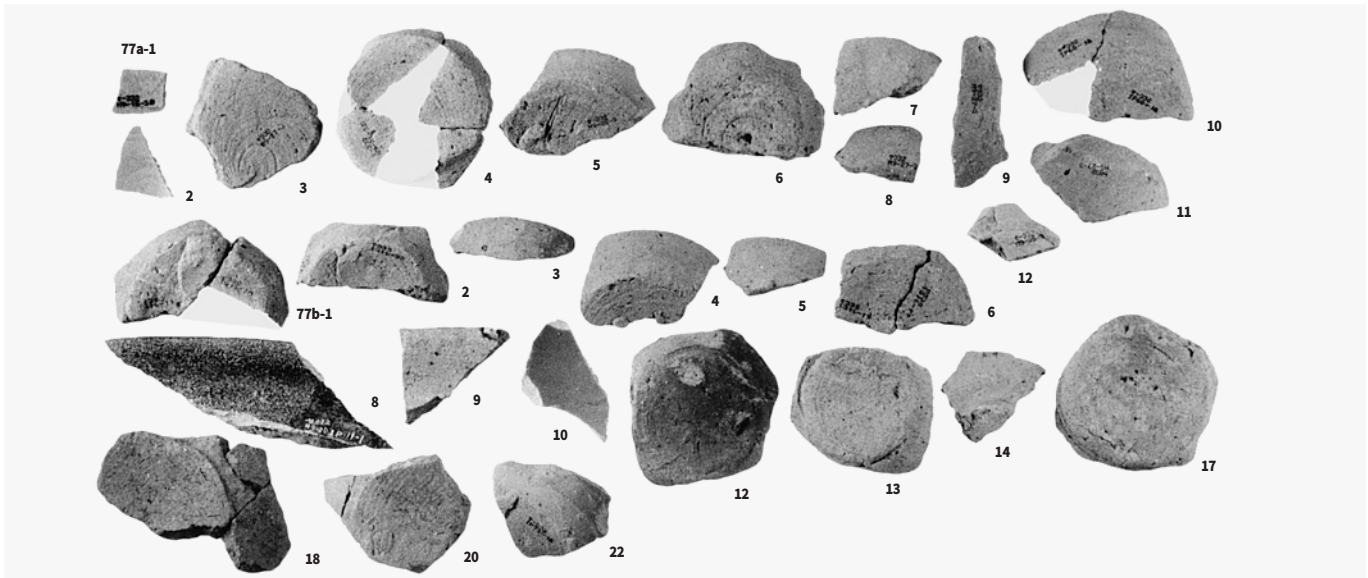
77号遺構b



77号遺構b

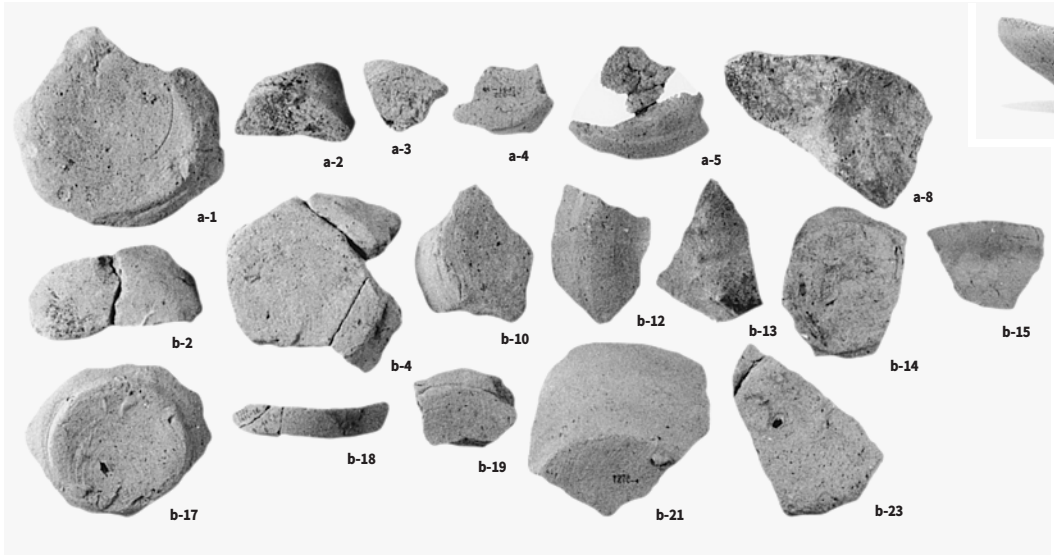


78号遺構a・b



77号遺構a・b

図版32（土器類・石製品）※石製品は表４No.を表示



78号遺構a・b







78号遺構b



79号遺構

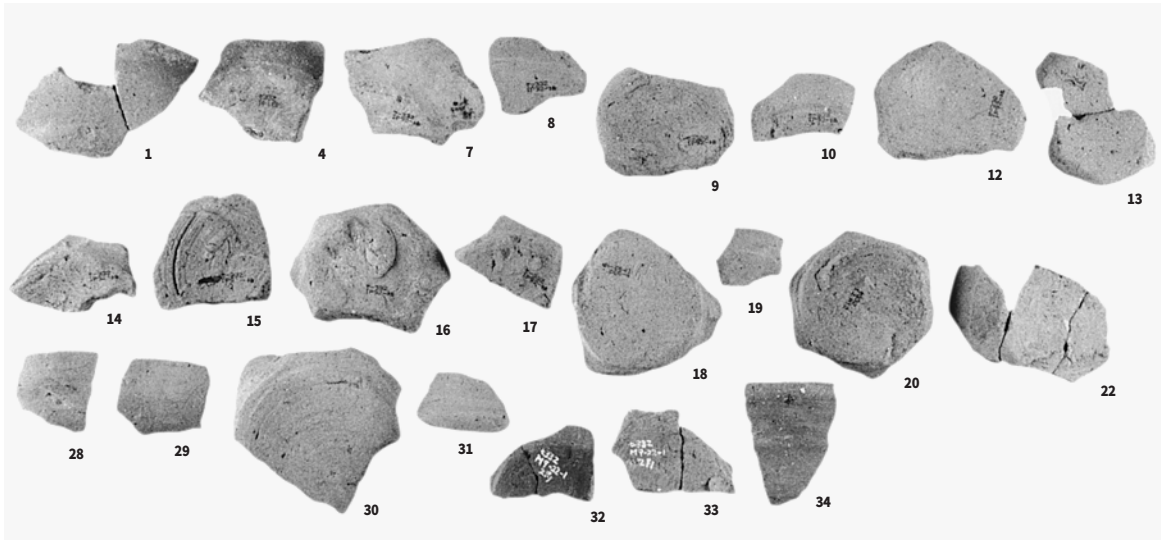




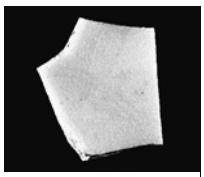


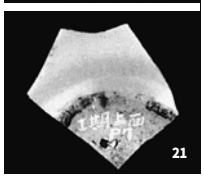


80号遺構

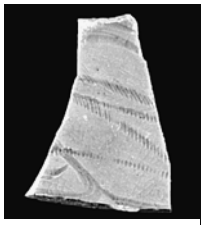


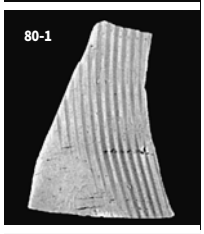
79号遺構

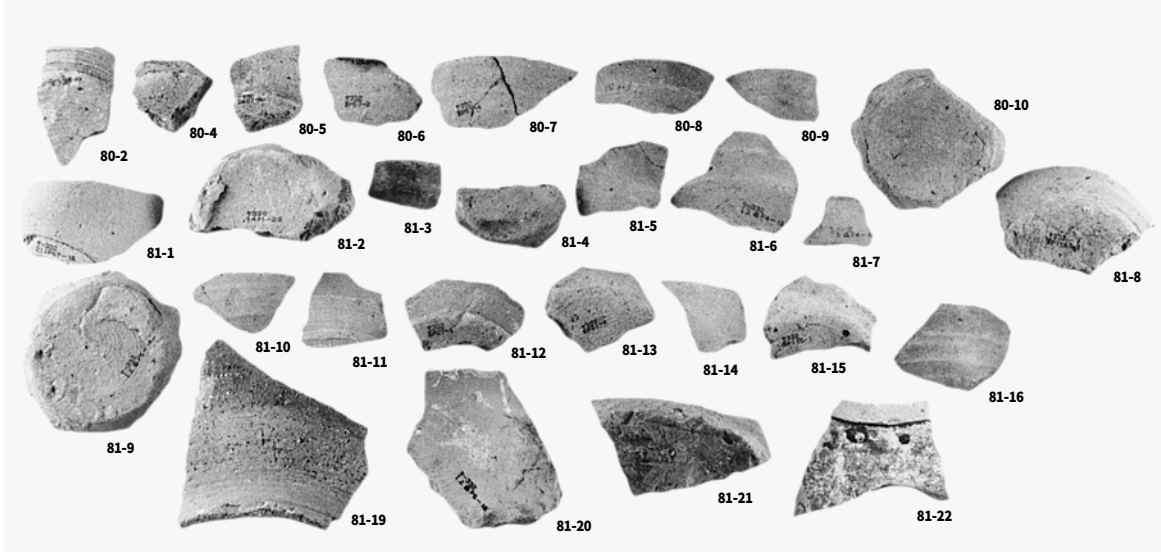




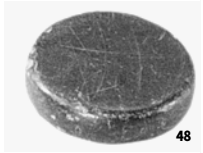
79号遺構







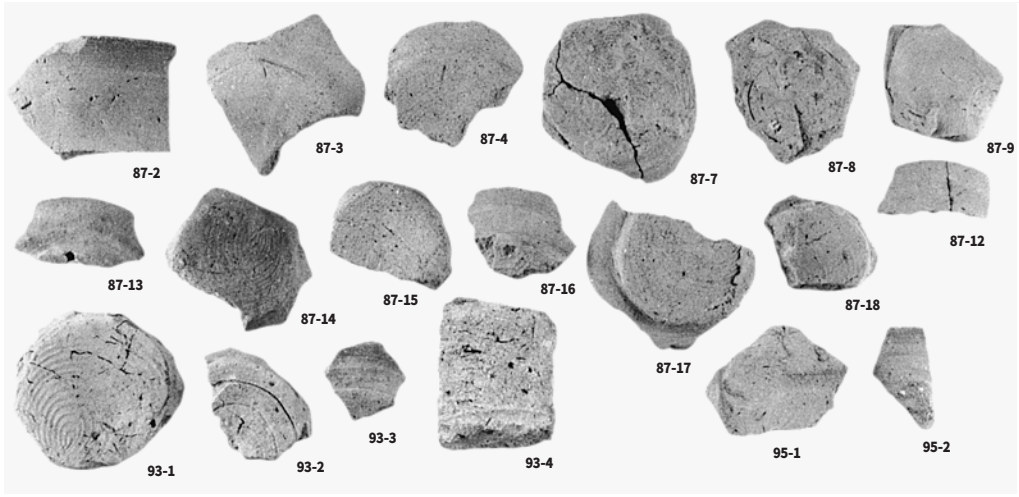
80・81号遺構



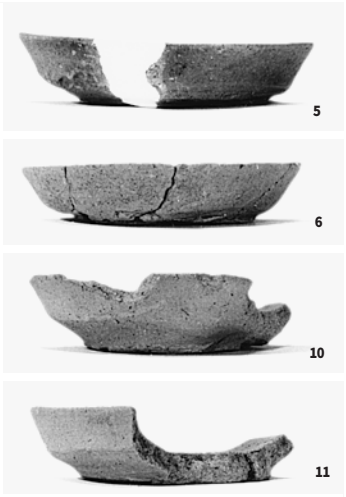
79・80号遺構



87号遺構



87・93・95号遺構



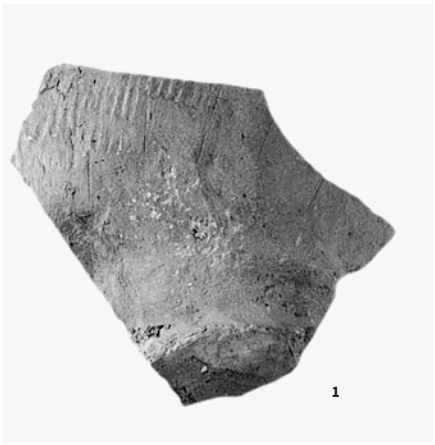
87号遺構



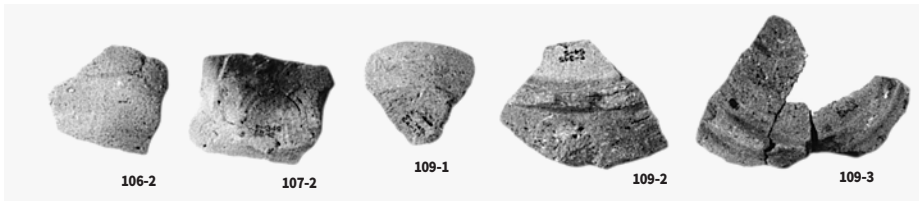
87号遺構



104号遺構



104号遺構



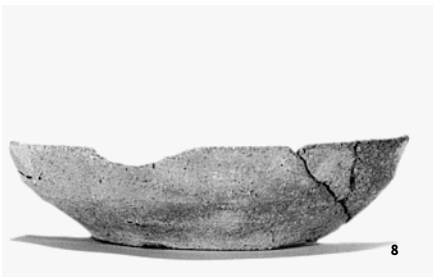


106～109号遺構

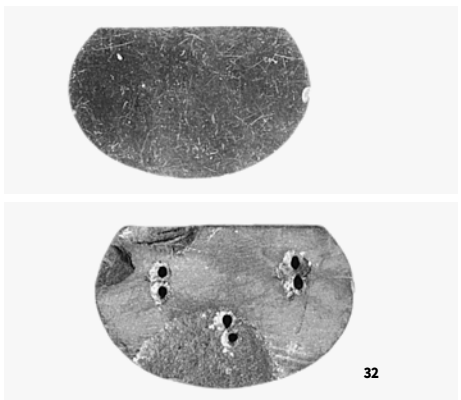


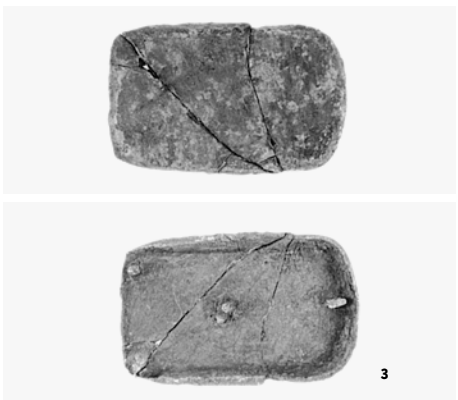


C-E区一括出土遺物（寄贈品）



C区ピット





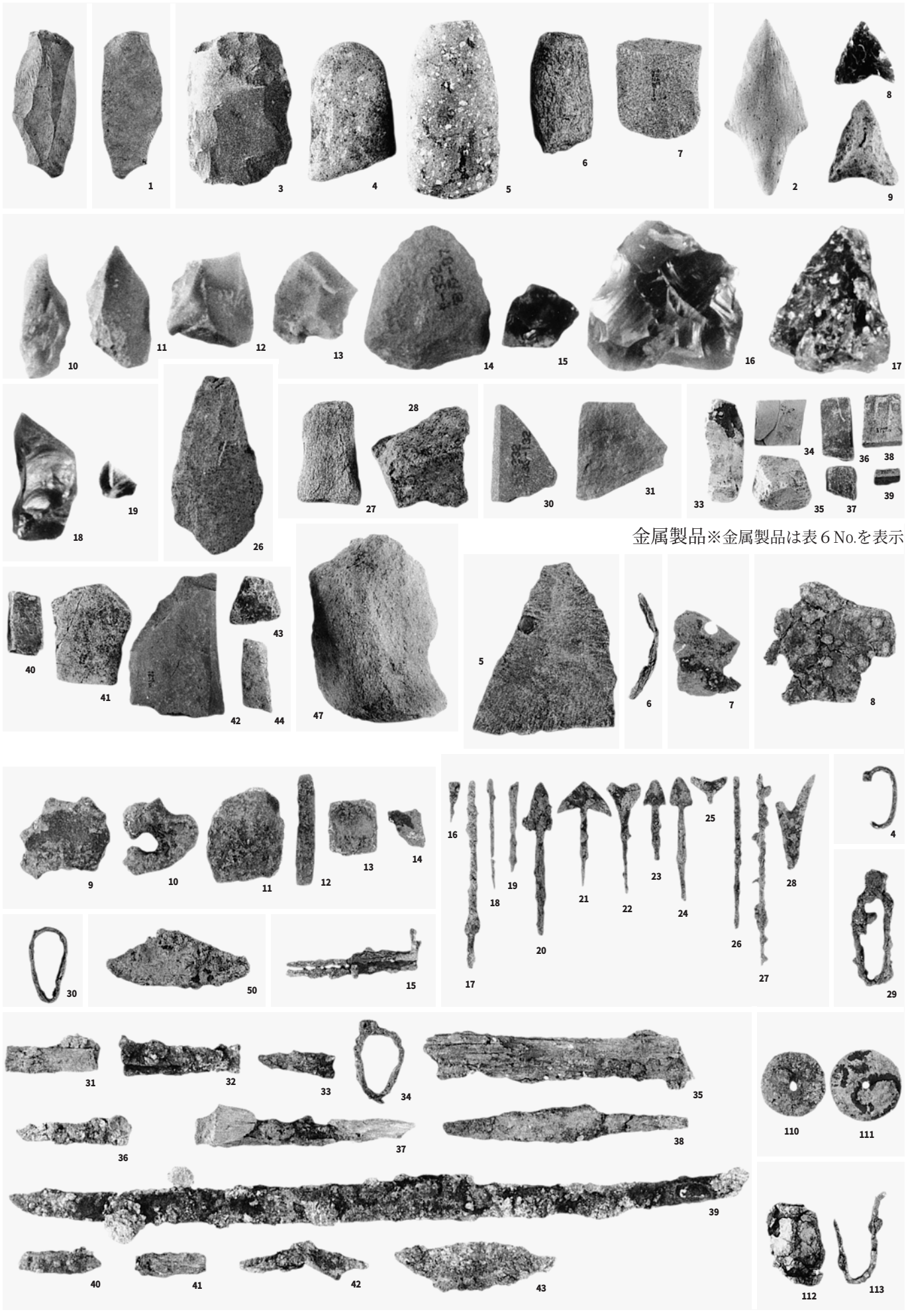
C-E区一括出土遺物

45号遺構



31号遺構a

図版34

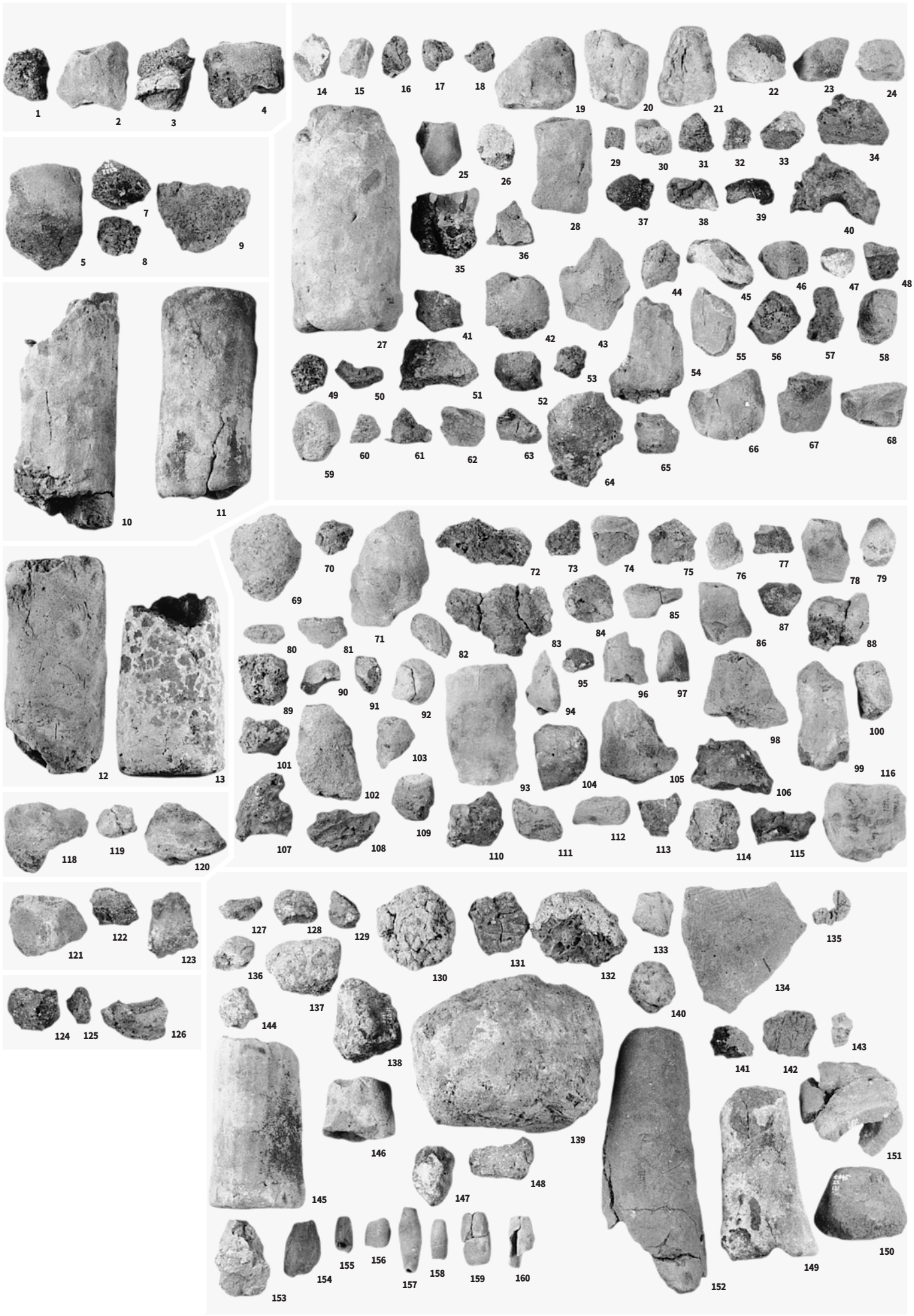


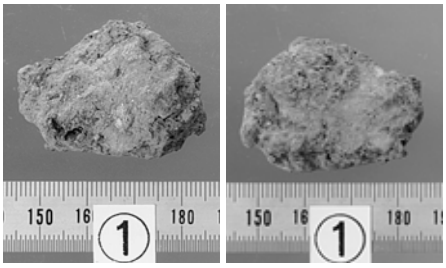
金属製品※金属製品は表６No.を表示



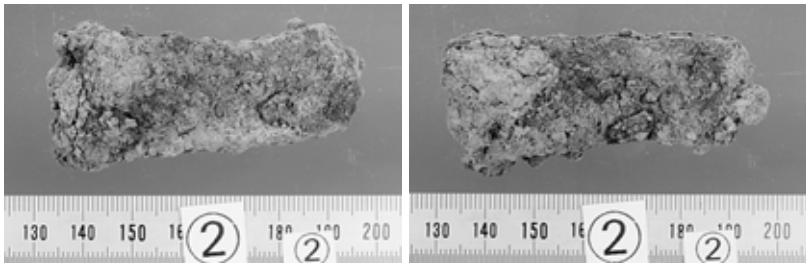
金属製品※表４No.を表示

図版36（土製品）※土製品は表５No.を表示

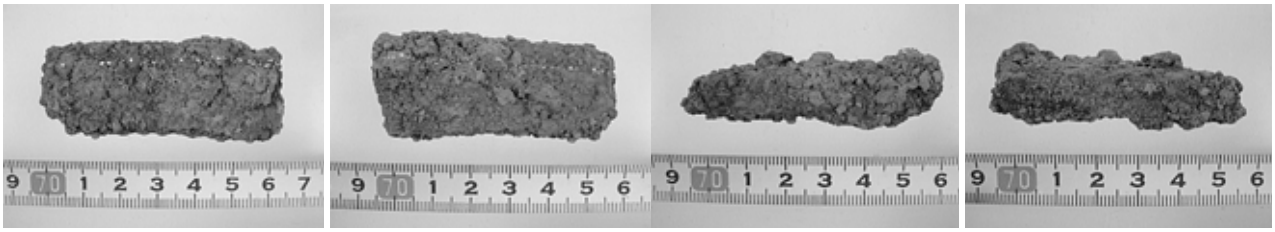




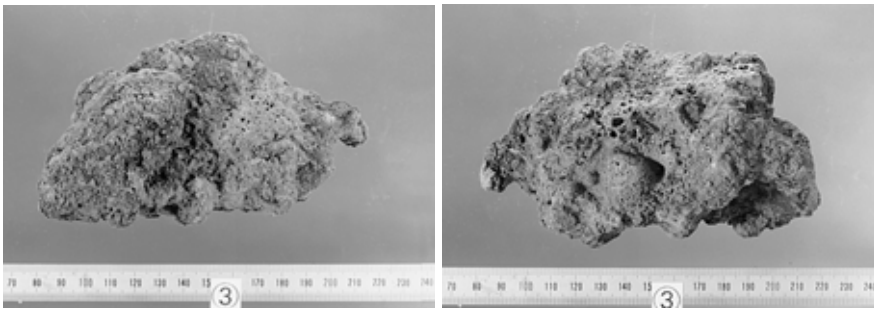
資料No.１　含鉄椀形鍛冶滓の外観写真



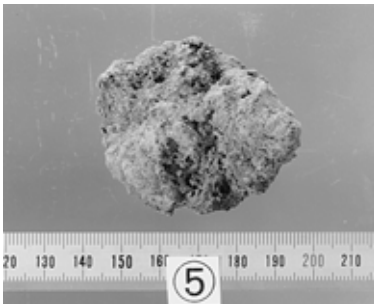
資料No.２　短冊形鉄製品の外観写真



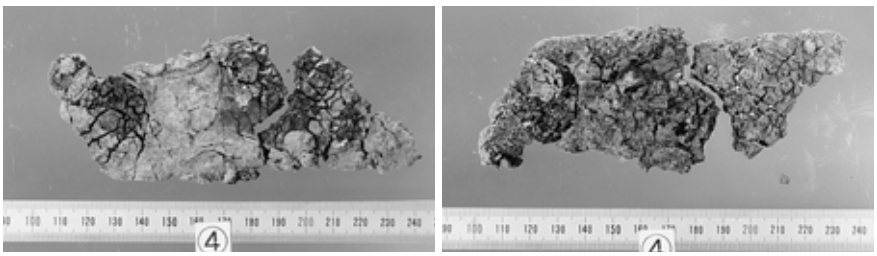
資料No.２-２　短冊形鉄製品の外観写真（上・下面）　資料No.２-２　短冊形鉄製品の外観写真（左・右側面）



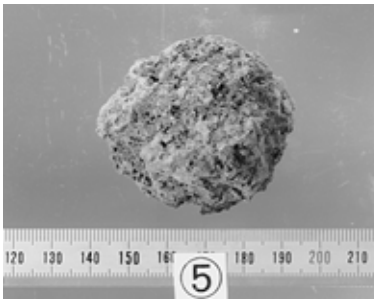
資料No.３　鉄塊系遺物の外観写真

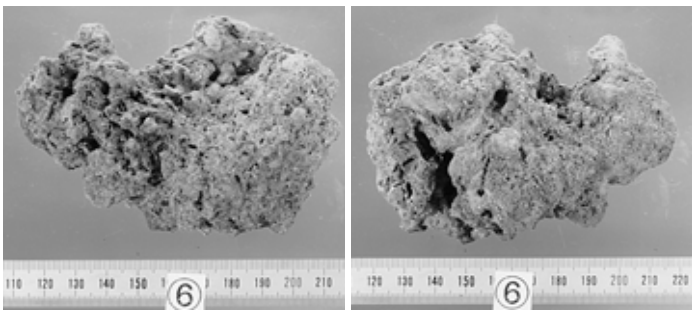


資料No.５　含鉄椀形鍛冶滓の外観写真

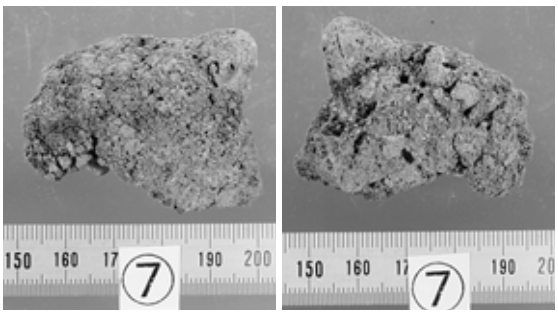


資料No.４　板状鉄片の外観写真

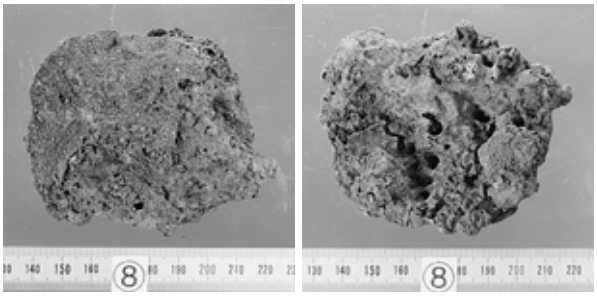




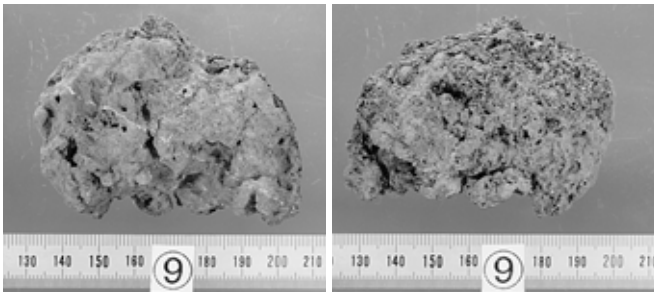
資料No.６　含鉄椀形鍛冶滓の外観写真



資料No.７　含鉄鉄滓の外観写真

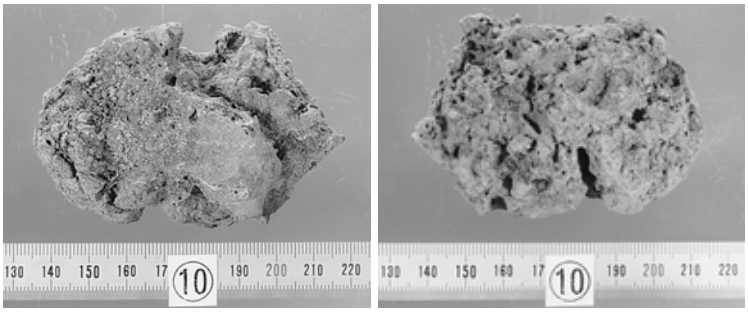


資料No.８　含鉄椀形鍛冶滓の外観写真

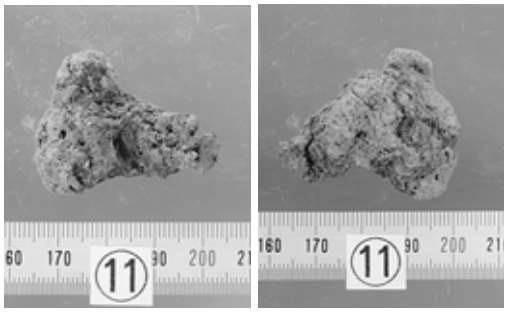


資料No.９　含鉄椀形鍛冶滓の外観写真

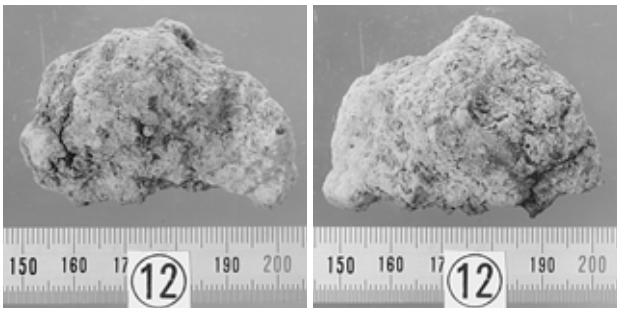
図版38



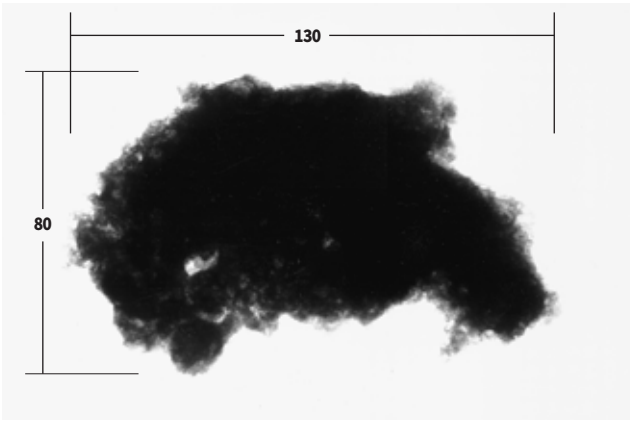
資料No.10　含鉄椀形鍛冶滓の外観写真



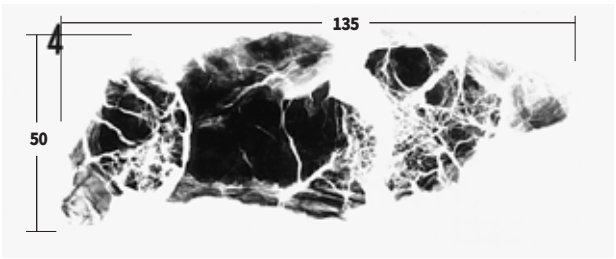
資料No.11　含鉄椀形鍛冶滓の外観写真



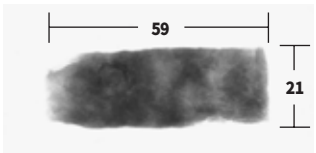
資料No.12　含鉄椀形鍛冶滓の外観写真

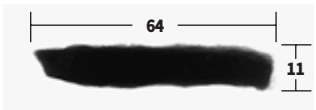


資料No. 3　X線透過写真

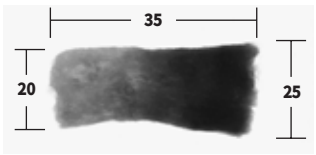


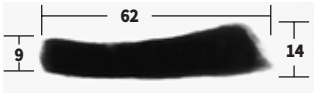
資料No. 4　X線透過写真



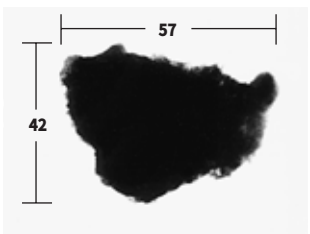


資料No. 2　X線透過写真

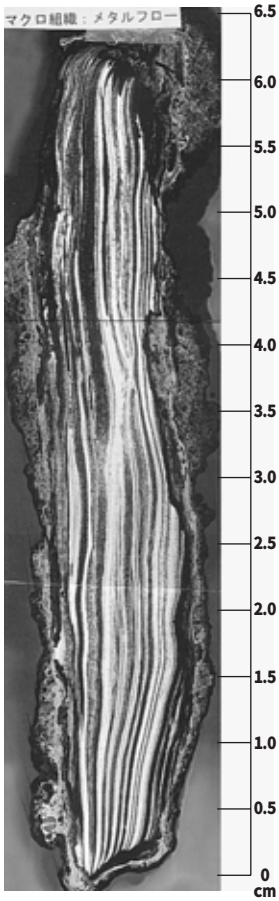




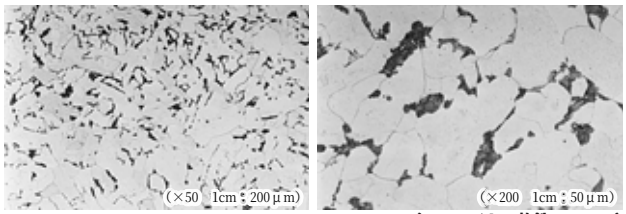
資料No. 2 - 2　X線透過写真



資料No.12　X線透過写真

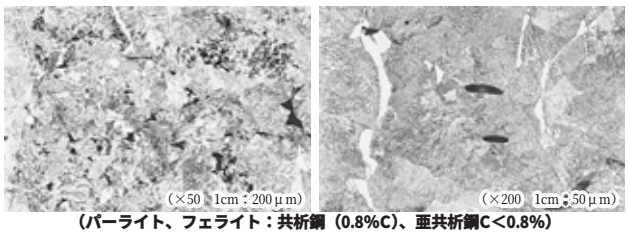


資料No. 2 - 2
短冊形鉄製品のマクロ組織写真



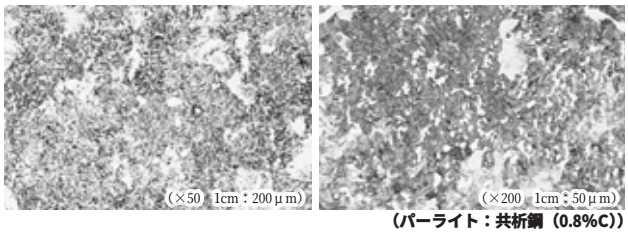
(フェライト：軟鉄C～0.1%)

資料No. 2 - 2 -①　短冊形鉄製品のミクロ繊維写真



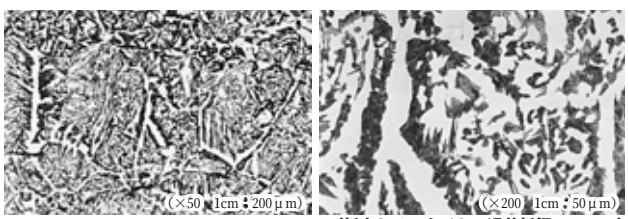
(パーライト、フェライト：共析鋼（0.8%C）、亜共析鋼C<0.8%)

資料No. 2 - 2 -②　短冊形鉄製品のミクロ繊維写真



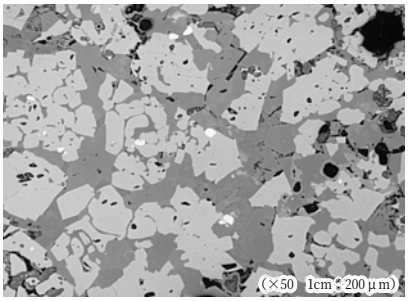
(パーライト：共析鋼（0.8%C))

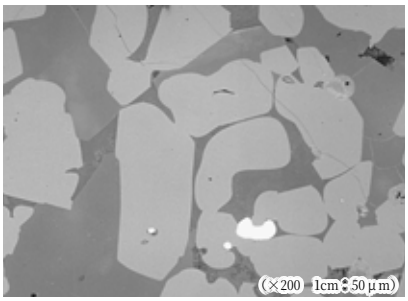
資料No. 2 - 2 -③　短冊形鉄製品のミクロ繊維写真



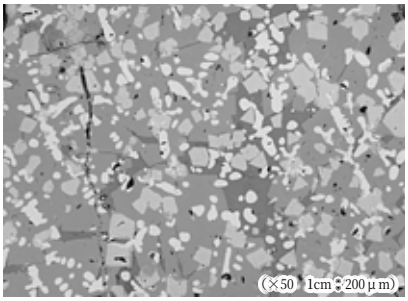
(析出セメンタイト：過共析鋼C>0.8%)

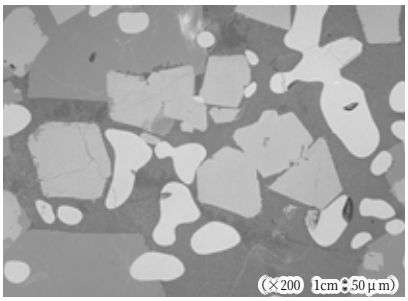
資料No. 2 - 2 -④　短冊形鉄製品のミクロ繊維写真



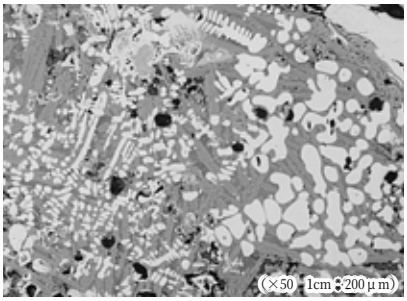


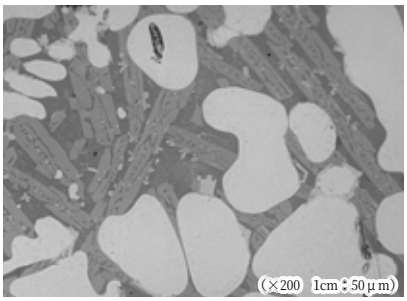
資料No. 5　含鉄椀形鍛冶滓のミクロ組織写真



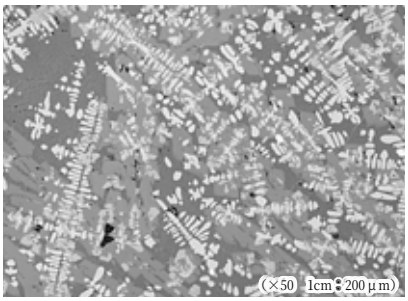


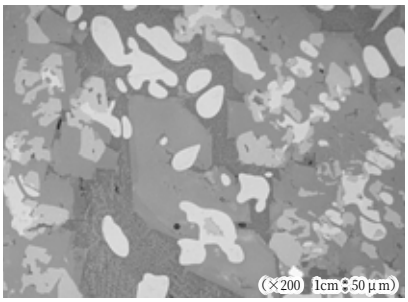
資料No. 6　含鉄椀形鍛冶滓のミクロ組織写真



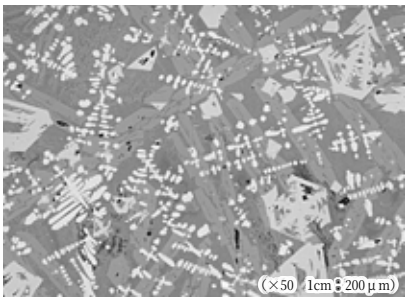


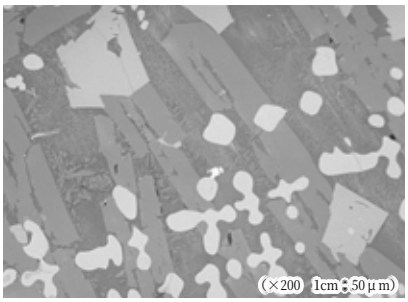
資料No. 7　含鉄鉄滓のミクロ組織写真



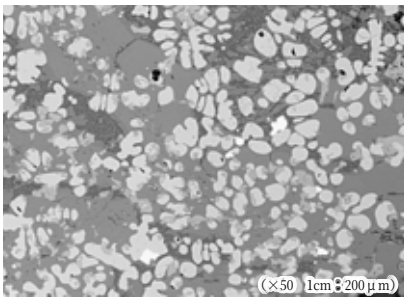


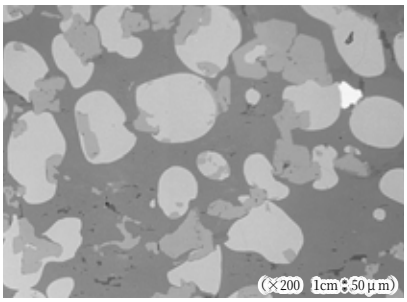
資料No. 8　含鉄椀形鍛冶滓のミクロ組織写真



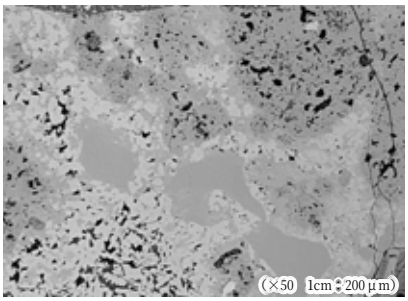


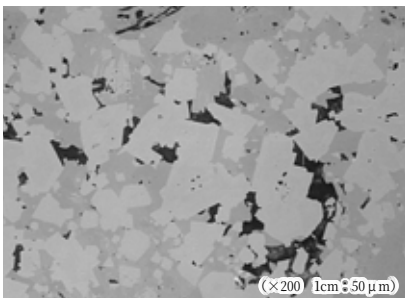
資料No. 9　含鉄椀形鍛冶滓のミクロ組織写真



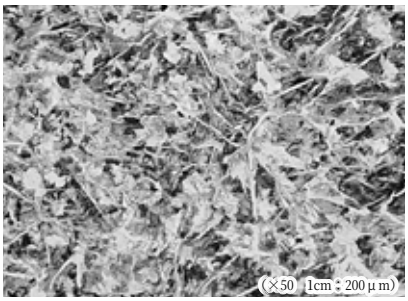


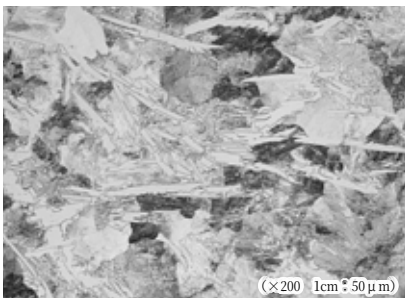
資料No.10　含鉄椀形鍛冶滓のミクロ組織写真



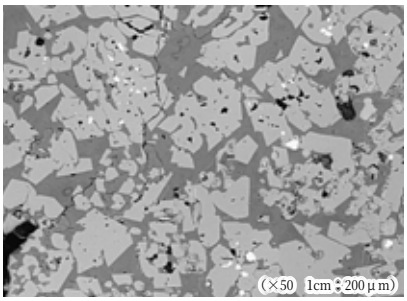


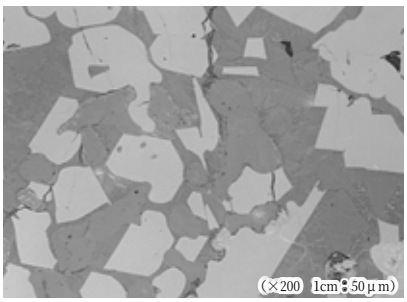
資料No.11-A　含鉄椀形鍛冶滓のミクロ組織写真





資料No.11-B　含鉄椀形鍛冶滓のミクロ組織写真





資料No.12　含鉄鉄滓のミクロ組織写真

図版40



資料No. 2　短冊形鉄製品切断面写真



資料No. 3　鉄塊系遺物切断面写真





資料No. 7　含鉄鉄滓切断面写真

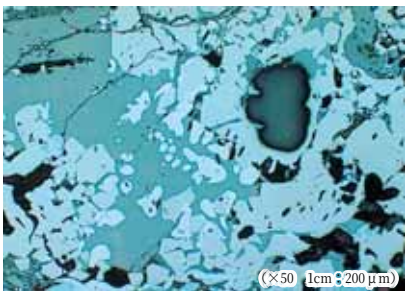


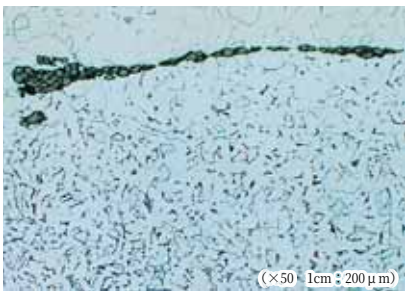
資料No.11　含鉄椀形鍛冶滓切断面写真

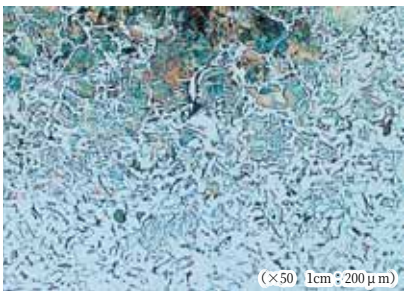


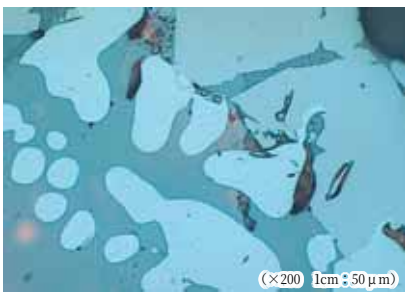


資料No.12　含鉄鉄滓切断面写真

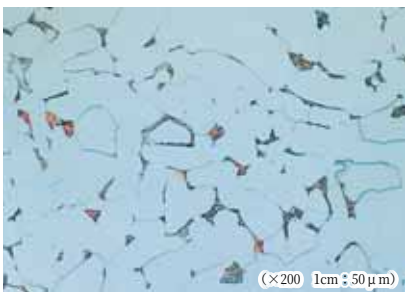




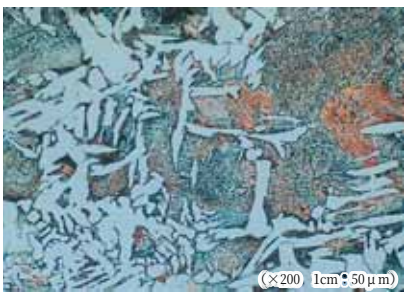




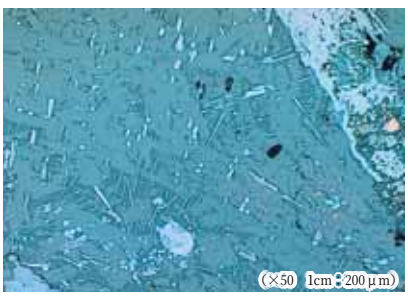
資料No. 1　含鉄椀形鍛冶滓のミクロ組織写真

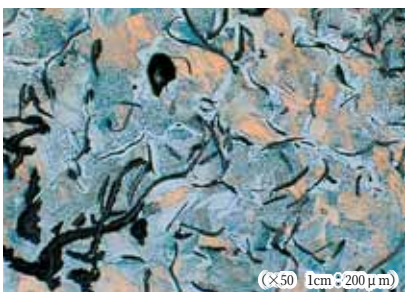


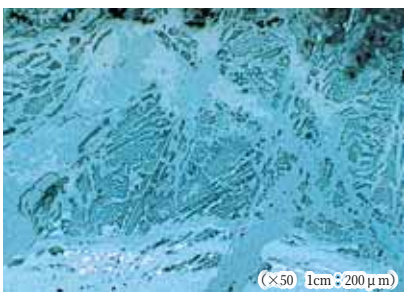
資料No. 2 -C　短冊形鉄製品のミクロ組織写真

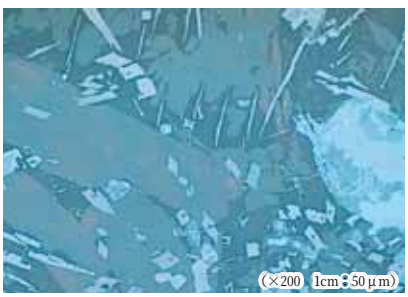


資料No. 2 -D　短冊形鉄製品のミクロ組織写真

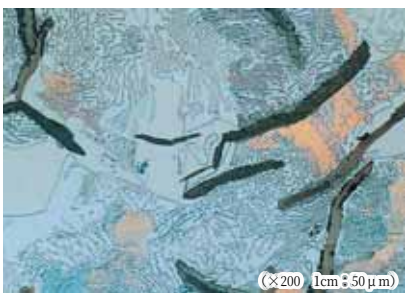




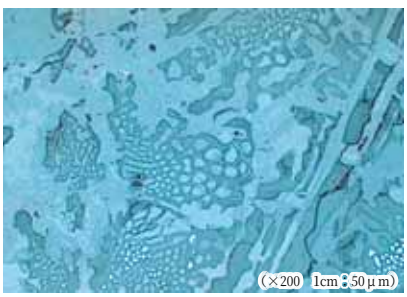




資料No. 3 -A　鉄塊系遺物（滓部）のミクロ組織写真



資料No. 3 -B　鉄塊系遺物（金属部）のミクロ組織写真



資料No. 4　板状鉄片のミクロ組織写真

報 告 書 抄 録

ふりがな	いちはらしかたまたぎいせき
書名	市原市片又木遺跡Ⅲ
副書名	
差次	
シリーズ名	財団法人　市原市文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第87集
編集者名	櫻井敦史
編集機関	財団法人　市原市文化財センター
所在地	〒290-0011　千葉県市原市能満1489番地　TEL 0436(41)7300
発行年月日	2004年3月19日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
片又木遺跡（かたまたぎ）	千葉県市原市不入斗地先（ちばけんいちはらしいりやまずちさき）	12219	セ330 セ332 セ345	35 °27 '12 "	140 °03 '59 "	2000.11.01 ～ 2001.03.23 2001.07.08 ～ 2001.12.27	7,420m²	市道110号線建設に伴う埋蔵文化財調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
片又木遺跡	包蔵地 墓域・工房・居館(寺院か)	縄文時代早期 弥生時代後期 ～ 古墳時代前期 奈良時代 ～ 平安時代前期 平安時代末期 ～ 鎌倉時代後期	縄文早期　土坑６基 〃　炉穴１基 弥生後期～終末期 竪穴６軒 方形周溝墓13基 古墳中期～後期 竪穴２軒 古墳終末期　土壙１基 方形周溝状遺構１基 奈良・平安　竪穴９軒 掘立５棟 平安末～鎌倉後期 掘立９棟	縄文土器 弥生土器 土師器 ロクロ土師器 カワラケ 中世陶磁器 金属製品 鋲帯など 石製品 石帯・雙六駒など 製鉄関連遺物 鉄滓類	弥生終末期～古墳前期の墓域、奈良・平安期の小鍛冶工房跡、平安末期～鎌倉後期の大規模掘立柱建物群が検出された。古代工房跡からは鋲帯が出土。中世建物群はカワラケが多い。寺院関連施設か。

財団法人　市原市文化財センター調査報告書　第87集

市原市片又木遺跡Ⅲ

2004年3月12日　印刷
2004年3月19日　発行
編　集　　財団法人　市原市文化財センター

発　行　　市原市
財団法人　市原市文化財センター
千葉県市原市能満1489番地　TEL 0436(41)7300

印　刷　　株式会社　弘　文　社